

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

明治四十三年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

明治四十三年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

「実践倫理講話筆記」の発行について

1. 表題は「実践倫理講話筆記」であるが、内容は本学創立者成瀬仁蔵が全学生あるいは卒業生に向けておこなった講話を収録したものである。当館所蔵のこの筆記録は、概ね年度ごとにまとめて綴じられている。

所蔵年度

明治38年度から大正6年度までのものがある。但し、明治38年度の綴りの初めには、明治37年度3月の三講話と一緒に綴じられている。

原稿

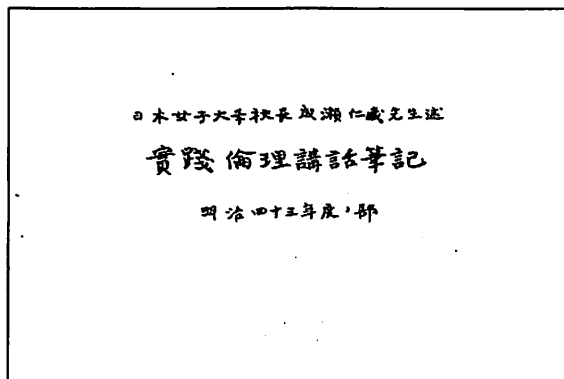
原稿は横書きで、特定の和紙にカーボン紙を使用して複写されている。

年度によっては複数部残されているが、それらを照合すると一部分欠けて綴じられているものも見られる。

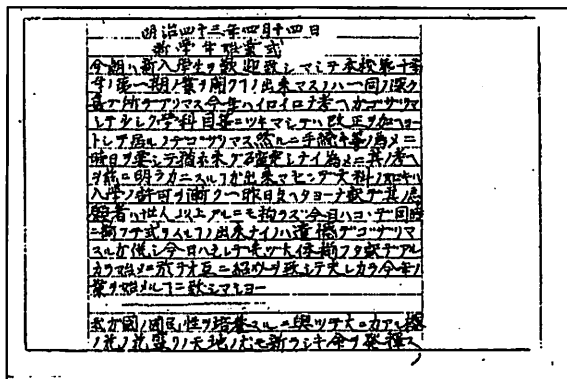
筆記状態

片仮名書き(一部平仮名書き)、句読点がない。

2. 今回の印刷は明治43年度のものである。
3. 初期のものはすでに「成瀬記念館」に発表してきているが、それらを含めて今回と同様の体裁で順次発行する予定である。



中表紙



本文

目次

明治四十三年四月十四日 新学年始業式	5	明治四十三年十月八日 第一学年にて	96
明治四十三年四月十六日 新入学生歓迎会に於て	8	明治四十三年十月十二日 第二、三学年にて	98
明治四十三年四月二十日 創立第九回記念式	10	明治四十三年十月十九日 第二、三学年にて	101
明治四十三年四月二十日 創立第九回記念式に於て	11	明治四十三年十月二十二日 第一学年にて	104
明治四十三年四月二十三日 第一学年実践倫理に於て	12	明治四十三年十月二十六日 第二、三年にて	107
明治四十三年四月二十七日 四十三年度計画発表会にて	12	明治四十三年十一月二日 二、三学年に於て	110
明治四十三年四月二十八日 晩香寮記念式に於て	14	明治四十三年十一月三日 天長節祝賀式	112
明治四十三年四月三十日 第一学年に於て	15	明治四十三年十一月五日 第一学年にて	115
明治四十三年五月十一日 二、三学年実践倫理	18	明治四十三年十一月九日 大学部及予科全体	117
明治四十三年五月十四日 第一学年に於て	21	明治四十三年十一月十三日 桜楓会例会にて	120
明治四十三年五月十七日 第二、三学年にて	24	明治四十三年十一月十六日 大学部全体	121
明治四十三年五月二十一日 春期運動会批評会後にて	26	明治四十三年十一月三十日 大学部全体	125
明治四十三年五月二十五日 第二、三学年に於て	26	明治四十三年十二月六日 三井男爵一行歓迎会	128
明治四十三年六月一日 大学部二、三年に於て	29	明治四十三年十二月七日 第二、三学年にて	130
明治四十三年六月五日 第一学年にて	32	明治四十三年十二月十四日 大学部まとめ会にて	135
明治四十三年六月八日 第二、三学年に於て	34	明治四十三年十二月十八日 大学部二年及一年、予科まとめ会にて	136
明治四十三年六月十一日 第一学年に於て	37	明治四十三年十二月二十四日 文学部一年まとめ会にて	139
明治四十三年六月十二日 桜楓会例会にて	38	明治四十三年十二月十八日 桜楓会例会にて	139
明治四十三年六月十五日 第二、三学年にて	39	明治四十三年十二月十七日 豊明寮第七回記念会にて	140
明治四十三年六月十五日 森村評議員 金婚式祝賀会に於て	42	明治四十三年十二月二十一日 大学部全体	143
明治四十三年六月十八日 第一学年に於て	44	明治四十三年十二月二十四日 終業式にて	146
明治四十三年六月二十二日 第二、三学年にて	46	明治四十四年一月一日 新年祝賀式にて	148
明治四十三年六月二十五日 桜楓会正会員会にて	50	明治四十四年一月九日 始業式に於て	149
明治四十三年六月二十八日 第二学年にて	52	明治四十四年一月十一日 大学部全体	151
明治四十三年六月二十九日 大学部全体の為に	53	明治四十四年一月二十五日 第二、三学年にて	153
明治四十三年七月二日 大学部全体の為に	59	明治四十四年二月一日 大学部全体	155
明治四十三年七月五日 大学部全体の為に	64	明治四十四年二月八日 大学部全体	156
明治四十三年七月六日 大学部全体の為に	68	明治四十四年二月十一日 紀元節祝賀式の御話	158
明治四十三年七月九日 終業式にて	74	明治四十四年二月十五日 大学部全体	161
明治四十三年七月九日 一学期終業式	74	明治四十四年二月二十日 第七回父母招待会にての御話	163
明治四十三年七月十日 三年生の為に	76	明治四十四年二月二十二日 大学部全体の為の御話	164
明治四十三年七月三十一日 夏期講習修了式	78	明治四十四年三月一日 大学部全体 本校自治制度に就きて生徒よりの答へ	168
明治四十三年九月十二日 第二学期始業式	79	明治四十四年三月一日 大学部全体の為に	169
明治四十三年九月十四日 渋澤、森村両評議員慰勞会席上に於て	82	明治四十四年三月三日 村井評議員歓迎会に於ての御話	171
明治四十三年九月十七日 第一学年にて	84	明治四十四年三月四日 正会員会にて	172
明治四十三年九月二十一日 二、三学年にて	86	明治四十四年三月八日 大学部全体 会につきて	173
明治四十三年九月二十三日 故難田教諭三周年の記念会にて	88	明治四十四年三月十五日 大学部全体の為に	174
明治四十三年九月二十五日 桜楓館創立第六回記念式にて	88	明治四十四年三月十七日 寮舎改革につきて	175
明治四十三年九月二十八日 第三学年にて	90	明治四十四年三月十九日 譲り渡しの会にて	176
明治四十三年十月一日 第一学年にて	92	明治四十四年三月二十二日 大学部全体の為に	177
明治四十三年十月五日 二、三学年にて	94	明治四十四年三月二十五日 終業式並びに修業証書授与式	181
		明治四十四年三月二十六日 大学部全体の為に	184

凡 例

1. 印刷に際し、筆記原稿の体裁を保持しつつ、以下の点に留意して一部手を加え統一を図った。
2. 表記に関しては、片仮名書きの原文筆記を平仮名表記とし、明らかな誤字・脱字を改めると共に、文字を統一した。
3. 漢字は原則として常用漢字を用いた。
4. あて字については原文通りとした。
5. 文意を明確にするため、句読点を付した。
6. 欄外に書かれた註を一部見出しとした。
7. 筆記原稿の不明確な部分は原稿通りとした。
但し英文については、前後の文脈に基づき加筆訂正した箇所がある。

[中表紙]
新学年始業式の御話
明治四十三年四月十四日

明治四十三年四月十四日
新学年始業式

今朝は新入学生を歓迎致しまして、本校第十学年の第一期の業を開くことの出来たのは一同の深く喜ぶ所であります。今年はいろいろな考へがござりまして、少しく学科目等につきましては改正を加へよとして居るのでござります。然るに手続き等のために時日を要して猶ほ未だ確定しないために、其の考へを茲に明らかにすることが出来ませんで、文科の如きは入学の許可を漸く一昨日与へたよ一な訳で、其の志願者は三十人以上あるにも拘らず、今日はこゝで同時に揃へて式をすることの出来ないのは遺憾でござりますが、併し今日は之れで先づ大体揃へた訳であるから、始めに於てお互に紹介を致して夫れから今年の業を始めることに致しましよ。

我が国の国民性を培養するに与つて大に力ある桜の花の花盛りの、天地の最も新らしき命を發揮する時機におきまして、西から東から北から南から、我國の各地方から斯くの如く態々勉学の為に御上京になることの出来た事は非常に喜び、又私は此の景況を見て今昔の感に堪へるのであります。

[爛漫たる桜花]

一昨年は丁度今頃大雪が降りまして、將に満開せんとする花をいため、昨年は丁度今頃に非常な嵐が吹いて、折角咲かけた花の萼を吹きさらはれたと云ふことがあり、今年はどうも満足に花を咲かせたいと思ふて居りましたが、花に嵐、月にむら雲と云ふ訳で、此の天地のことは満足には出来ないものと見えまして、雨が降り、寒い時間が続いて花の咲く頃に障りが多うござりました。けれども猶ほ花は是に堪へて、今日は殊に此の講堂の前の桜の如きは雲の如く、雪の如く咲き満ちて、昨年来養ひ来た所の其の力を發揮致しましたと云ふことは、実に愉快に堪へるのであります。

私は毎年此の桜を見る毎に我國の婦人を思はざるを得ない。我國婦人は実に立派なる潜伏力、潜勢力を備へて居りながら、昔から其の力を展ばすことの出来ないよ一に、いろいろなる圧迫、いろいろなる障害に逢ふて、未だ其の力を顯すことの出来ないよと云ふことを嘆かざる年はないのである。然るに段々世の進むにつれて我が国婦人も其の障害、其の困難に勝つて、年々歳々幾分づつ進歩を見、発達を遂げよとして居ることは実に喜びに堪へるのである。

[二十年前と今日]

私が今から二十年前、新潟に新潟女学校を起しました時、此の時分、新潟迄地方から出かけるよと云ふことは容易なことではない。親達は殆んど我が娘を嫁入りせしむると同じ様な考へを持って居つたのであります。さて愈々入学となると、多くの供を連れ、箆笥、長持をも持って非常なる決心を以て来られたのであります。けれども其の頃、女子が郷里を離れ

て新潟まで遊学すると云ふことは実に突飛なこと、又郷党の人の譏りを招いたのである。

それで容易なことでは出来んから、大抵の親は子供の志を抑へつけて、其の目的を遂げさせることをしなかつたのであります。其の中に非常なる惨酷なることがある。是れは長岡に起つたことでありますが、夫れは三人姉妹のよ一にして居つた娘さんがありました。此の娘達はど一しても進んだ教育を受けねばならんと感ずる所あつて、親に願ふたけれども許されぬ。そして二年かゝつたけれども一人は私の立てゝ居る新潟女学校に、一人は尋常師範に入りたく頻りに嘆願した。けれども、ど一しても内で許されぬ。そこで、も一生きて居るまいと云ふ決心をしたのである。其の三人の一人の兄さんは帝国大学に居つたから、兄さんの帰りを待つても一度両親に相談して貰つたならば、或は叶へらるゝであらうかと、只管兄の帰りを待つて願つたのである。けれども夫れも許されなかつたのです。そこで今度は冒險的に親の許しを経ずして入学願ひを出した処が、其の入学の許しが親達の手が届いたので、両親は吃驚して固く其の不心得を誡めました。そ一すると二階に上つて、と一と一自殺を遂げたのである。

第二の娘は死にはしなかつたが、其の後、監禁同様の目にあはされてしまったのです。そ一云ふよ一なことがあつて後、三人の中一人だけは漸う其の志を遂げて教育を受けたと云ふことがあります。之れは二十年前の事実であります。今日ではそ一云ふ反対なことの多かつた新潟県からも段々女子教育の賛成者が現れて、今日では其の娘達を東京まで出すよ一な有様となりました。又今日あなた方は便利であるからと云つて束髪に結つて袴を着けて靴を履いて居らるゝけれども、今から二十年前、十五年前には頭を束髪にし、靴を履くよ一な者があれば、物笑ひでありました。

我々は形は後にすると云ふ考へで、束髪や靴を奨励した覚えはござりません。又昔は内輪に小股にあるかねばならぬと言つて居つたが、今日ではそ一云ふことは却つて見苦しくなりました。又今日はあなた方、姿勢、姿勢と言つて居られるが、十五年も前は女が人前で背中を真直にするよ一なことがあれば大変でありました。又女が本を読む、学問をすると云ふことは禁物で、仮令嗜みとしては居つても、人前で言ふとか聞くとかすべきものではなかつたのです。二十年前は我國に於ては、中等教育程度の学校すらも猶ほ不必要であるとせられた。況んや女子高等教育と云ふよ一なことは夢にも思はれなかつたのです。然るに今日は女子教育の反動が起つて居るにも拘らず、多数のあなた方が笈を負ひ、遥々東京へお集まりになると云ふことは、実に今昔の感に堪へるのであります。

私は十七、八の時分から此の女子教育と云ふことにはばかり頭を使つて今日迄参りましたから、其の変遷がありありと目に見えるよ一であります。過去の事から考へて見ますと、今日は我國の女子教育も非常に進歩したと云ふことを感ぜざるを得ないのである。けれども輿論は随分保守に傾いて居ります。そ一して殊に一昨年来起りました女子教育の反動は、第一、經濟の關係。次に伴ふ原因は、我國に起りました保守

の傾向である。こゝ云ふものが折角盛んにならうとした女子教育の気運を妨げて来たと言ふことは事実であります。故に皆さんが入学なさる迄には、いろいろな困難又は障害もあつたであらうとお察し致します。

あなた方は充分調べて御入学なさつたと思ふけれども、いろいろ迷ふと言ふこともあろ一かと思ふ。夫れで入学した当時は凡て事が珍らしく、目につくものであるから、始めに於て迷ひ易いよ一な、又幾らか疑問となりそ一なこともどもに就いて申したい。皆さんは、いろいろ此の学校に対する批評やら噂などをお聞きになつたことと思ひますが、よく気をおつけになつたならば、果して此の学校は如何なる校風を持つて居るか、此の学校の命は如何なるものであるかと云ふことがおわかりになつて、新しい感化を受けることが出来るであら一と思ふのであります。私思ふに、あなた方が此の学校においてになるについての反対は、女子が家庭を離れて東京と云ふはでやかな華美な処に行くならば、華美の風に染まつて、墮落するかも知れぬと云ふこともあつたでしよ一。又先年来文部省でとられた教育の方針も、なるべく男女学生を東京に遊学させないよ一に、其の地方で教育するがよろしいと云ふことであります。

私思ふに、自分を忘れて東京に出かけると云ふことはよいことではない。けれども此の女子大学でとる様な方針の学校、又そ一云ふ完備した寄宿舎もある処に入学することを申しくないことかの一に取るならば、非常な間違ひである。是に就いては、文部大臣も親しく此の学校にも来て御覧になり、又視学官なども度々およこしになつて此の学校の実際を見られて、ど一か斯う学校の教育が盛んになるよ一にしたいと云ふことを或る局長も言はれたのであります。又、斯う云ふ教育は必要であると思ふて居るが、政府の方ではまだど一も其処迄手がとどかないから、充分やつて貰ひたいと云ふお話しもありました。

然るに世間で何故反対が多いかと云ふと、之れは、我が国に始めて女子の高等教育府を開き、又私立で、始めからいろいろの事に着手したと云ふよ一なことも珍らしいからであります。そして此の学校が華美であると云ふ噂もあるそ一ですが、各府県学校長、地方官等も態々立ち寄つて観察して御覧になつて、風説と実際と大變違ふことに驚いて居られたのであります。夫れであなた方がよく気を付けて本校の実際を御覧になるならば、ほんど一の事を見るのが決して六かしいことではない。けれども世間ではど一言ふかと云ふと、第一に此の頃の風説では東京は華美である。東京と云ふ処の学校の風は墮落して居ると云ふことである。果して東京は全国の都市に比べて華美であろ一か。東京の学校の学風は皆墮落して居るであろ一か。是れは全体を見ない独断的判断である。成る程、東京の市中を見れば、馬車自動車を駆つて居る人もあるけれども、若し東京と云ふ都会で自動車に乗る人もないと云ふよ一なことでは、此の日本がど一して世界で並び立つて行かると云ふことは問題である。よくないことも沢山ある。けれども東京にあるもの、すること悉くがわるいとは言はれない。夫れは当然のことであります。第一、我が天皇、

皇后両陛下の御膝下である。其の他、学者でも政治家でも実業家でも、世界の大勢に通じたやうな識者、最も研究に成功して居るよ一な学者、凡て第一流の人物は悉く此処に集まつて居る。夫れと同時に、いろいろな弊風のあるものも居るのが東京市である。夫れで最も恐る可きものも東京にあるのであるが、又善いことも沢山あるのです。夫れであるから、只東京がわるいとばかり思ふならば、之れは偏見である。殊に此の女子大学の寄宿舎については、あなた方が此の中に入って勉強なさることは誠に結構なことです。我々が創立以来一番力を尽して居るのは、そ一云ふ辺にあるのです。其処で女子教育について多数の年月の間、疑問となつて居つたよ一なことも、段々此の大学に於て解決せらるゝ処の材料を持つよ一になつたのである。本校の卒業生、即ち桜楓会員は 1019 名程ある。その中で死亡したものが 10 人位で、現存者が 1009 人、高等女学校も 700 人余りの卒業生を出して居ると思ふのである。其の中には随分玉石混淆である。我々が女子大学創立の事を絶叫すると同時に多年、各地方で待つて居つた者の入学したのが、凡そ 1000 人位あつた。其の 1000 人の中には無論、出来損ひもあるのである。又不充分と思ふて心配する者もあるのです。けれども夫れは前からの経験がよくなかつたため、此の一、二の例を以て女子教育の罪であるとは言はれない。今日では、そ一云ふ一、二の例外を以て女子教育を否認することは出来ないのである。然るに此の頃になつては、父兄から段々感謝の意を表せらるゝことが度々あります。私は面会の折、又は手紙を以てそ一云ふことを度々聞きますが、之れに由つても此の校の教育を受けたものがど一云ふ婦人となつて居るかと言ふことがわかる。夫れは卒業生に由つて証明せらるゝのである。然るに此の学校に対して華美であるとか、贅沢であるとか、噂を立てるのは其の実際を見ない者の想像であります。

然るに実際はど一かと言ふと、なりを構ふと云ふやうな気分は發生せられなかつたのである。此の学校へ入学して居らるゝ方は主に中流以上の方であつて、東京でも西園寺侯爵の令嬢も先年迄、此の学校に入学して居られた。其の他、三井、森村、大倉と云ふよ一な家のお嬢さん達もあれば、地方の方にしても、あなた方は其の地の第一流の家に生れられた方が多い。けれども一見して目立つよ一な人はないのであります。然るに地方の学校はど一かと言ふと、多くは水呑み百姓の娘が多い。そ一云ふ田舎の学校と此の学校とを比較するならば、身分不相当に質素にして居つても、田舎の学校の人々よりは何処やら立派に見えるに相違ない。夫れを一定しよ一とするならば、木綿にしなければならぬ。色はど一したればよいと云ふことになる。外国でもそ一云ふことがあつて、或る女子大学では皆一様ながうんを着て居りますが、併しそ一云ふ風にした方がよいかど一かは問題であります。且つ御婦人は質素にしなければならぬと云つても、多少そ一云ふことの趣味がなくてはならぬ。之れからあなた方は主婦となり、お母さんとなつて子供の着物を調へ、一家の衣服を供給しなければならぬお方である。

然るにそ一云ふ趣味は全く教育せられて居ない。我が着て

居る衣服については全然選択の知識を欠いて居ると云ふよ一であったならば、到底常識のないものとなるであらう。又其の時は虚栄心もないけれども、大に束縛せられた後では又気儘、勝手な贅沢をしないとも限らない。故に本校では、やはり生徒自身で適当なる風をすると云ふことの出来るよ一に教育しなければならぬと云ふ考へである。夫れで皆さんは身分よりも寧ろ不相当に質素にして居らるゝ。けれどもちゃんとこ一揃ふて見ると、何やら奇麗に見えるかも知れない。先年府下の女学校に就いて、そ一云ふことを調べた人の話を聞きますに、府下では殆んど此の女子大学が一番質素であると云ふことです。夫れから卒業式と云ふよ一な時の服装にしても昨年は紋付にしよ一と云ふので、皆が揃ふて礼服を着たものだから、色合や何かで大層立派に見えましたが、第七回生は之れに感ずる処があったものと見えて、今年は全く紋付を着ることをやめて、少し着かへるけれども、縞ですると云ふことになりまして、大層質素な卒業式が行はれたのであります。

そこで実際は此の校の校風は成る可く質素であるけれども、趣味は持つて居るのである。あなた方は桜のよ一に奇麗で今が盛りである。年寄になると顔色がわるくなったり、皺が寄ったりするから、少しはあたりを奇麗に飾ると云ふことの必要があるかも知れない。けれどもあなた方若い人は、そ一云ふ心遣ひはいらないであらう。之れは、私は西洋の風が宜しいと思ふ。西洋では娘さんは地味にし、お婆さんになると随分派手にする風がある。けれども娘さんは地味にして居って、夫れが却つて奥床しいよ一に見えるのです。

又今日、我が国に必要な校風は質素儉約である。私思ふに、今度お入りになった方も、地方では一、二と言はるゝお方が多からうと思ひますが、ど一か、そ一云ふよ一にありたいと思ひます。

[実地応用]

も一一つ此の学校で始めから養ひ来つた校風は、学校で教はつたことを成る可く実地に應用することでありませう。

つまり生産的品性を養ふよ一に皆さんが注意して居る故に、恐らく此の学校に入って経済の大切なことを知らない者はないと思ふ。之れは一例であります。大坂の中野と云ふ人の親から、こ一云ふ感謝の礼状を送られたことがありますから、一寸読んでお聞かせ致しましよ一。

手紙を省く

も一一つは、此の学校には立派な家庭の方が多し。宅には召使の四、五十人も居る家の方でも、此の学校に入つては釋かけて掃除もすれば、御飯たきもするのである。去年卒業なされた三井のお嬢さんも紐育に今居らるゝが、女中一人おかないと云ふことである。又西園寺侯爵の令嬢の如きも、毛利公爵御母堂の言はるゝに、新子は一人で子供を抱いて来る。何時迄も書生のよ一で困ると云ふお話であります。本校は今日、社会の華美、遊惰な風を改めると云ふ考へであるから、今此処にこ一並んで居って、あの方は金持ちのお子さんであると云ふよ一に見える人はない。却つて地方から出たの方が立派にして居らるゝ位です。そして一、二つ、此の学校に来る

と、一種言ふことの出来ない、よい感じに打たるゝと云ふことである。之れは独り生徒のみならず、今英国の大使になつて居らるゝ加藤高明君の如きも、あなたの学校に行くとか何やらど一もよい気持ちが出来て何時迄も居りたい、と言はれます。又地方の知事達も時々此の学校に来られるのです。其の他此の学校の関係者も、あなたの学校へ行くと、何とも言はれぬよい感じがすると云ふ話を度々聞きますのは、第一に本校創立の歴史が然らしむるのみならず、教授、教員、其の他此の学校の訓育に尽して居らるゝ方々の感化に由ること、之れは今私が申す迄もなく、全く本校々風の生命をなして居るのであります。ど一かあなた方が早く此の学校の真相がおわかりになり、其の探るべき処を探り、受くべき処を受けて、ど一か折角お立てになつた処の志を遂げて、立派なる婦人とおなりなさることを私は切に希望するのであります。其の他の事は追々とおわかりになることと思ひますが、私は此の春に、殊に我が国の人心を感化するに力のある桜の花の満開の時に當つて、あなた方をお迎へすることを喜ぶと同時に、私は一つの悲しみを抑へることが出来ません。我々は此の桜の時に若し風がなかつたならば、雨がなかつたならば、嘸愉快なことであらうと思ふ。我々の喜び楽しむ時に於て、又何かの悲しみを感ずると云ふことは已むを得ないことであります。[我が国に尊ぶものは雪中の梅なり]

昔から、此の我が国に尊ぶものは雪中の梅である。此の間私は大雪の日、汽車に乗つて、此の梅と満山の雪と両つながら白きを競ふて居る有様を見て、実に之れは他の国に見ること能はざる我が国の特色であると思ひました。

又桜の天真爛漫たる其の咲き乱れて居る処、之れが我が国の特色、我が国民性の精髓である。即ち花の嵐、月の群雲、或は雪中の梅、寒中の花と云ふことは、実に一つの特色であつて、物盛んなる時に一種の悲みを存すると云ふことは、人生欠く可らざるものであると云ふことを考へねばならぬ。若し之れを忘るゝならば、成功の暁に失敗を來すのであります。

今年も此の最も盛んなる希望に満ちて、百数十名の卒業生を出し、又夫れ以上の入学生を迎へて、丁度新学期を開く時に當りまして、茲に大なる悲報を受けました。夫れは此の女子大学の創立当初から最も多大の同情を以て賛成の意を表せられたる本校の発起人で、今日の評議員となり、是れ迄の宮内大臣であられた岩倉公爵の薨去になつたことであるのです。

公爵は、私も丁度病氣になつてたふれた其の前にお目にかゝりました。其の時に、いろいろ我が国家の爲に、將た女子教育の将来に就いて意見を吐露致しました。夫れをおきゝになつた公爵は、いろいろ將に腹案をお立てになつて大に為す処あらんとして、俄に薨去せられました。お年は六十でござりますけれども、仕事から言へば、是れから事業に着手しよ一と云ふ刹那に斃れてしまはれたのであります。私は公爵の御計画、殊に本校との關係を思ふて、此のお喜びを申す可き始業式に於て、覆ふ可からざる愁色を帯びて居るのであります。

も一一つ悲むべきことは、本校家政学部第二年生、殊に体

育係として勉められた小沢すゞ子の没せられたことであります。小沢すゞ子は最早体育のことに就いて、今年の体育、来学年の計画と云ふ様なことも企画して居られましたが、不幸にして病魔の犯す処となり、最早や回復の見込みなき時に至って、只だ其の望みを以て安らかに眠られたのである。病氣は治ったのでありますが、余病を發して夭死せられたのは誠に惜む可きことであります。

斯くの如く逝ける人は再び帰ることが出来ません。併ししながら、其の志、其の人の意志は我々の中にあるのです。此の学校の命の中には其の人もある。故に我々はどーしても一致団結して、そー云ふ人々の意志を此の世に実現しなければならぬ。

どーか、不幸にして此の嵐に逢ふて、中途にして斃れたお方の此の決心を今年の三年の校風に入れて、熱心に着実に發揮することが出来たならば、小沢すゞ子も誠に惜む可きであるが、自分の志は満足して瞑することが出来るであらうと思ひます。

茲に私は新学年の始め、始業式を挙ぐる時に當つて、故岩倉公爵の薨去を思ひ、小沢すゞ子の夭折を惜む余りに一言、我々の深い悲しみを表して、此の喜ばしい時に喜びと悲しみを以て、益々一致協力して此の期の業を初められんことを切望致します。

[中表紙]

新入学生歓迎会に於ける御話
明治四十三年四月十六日

明治四十三年四月十六日
新入学生歓迎会に於て

今日は実践倫理の丁度一年の時間でございますが、此の時間を大学部の新入学生歓迎会に用ひたいと云ふ御相談がございましたので、之は適當の事と考へましたから、そー致しました。

我國では昔から、婦人の人生観について長く伝説となつて伝はつて居た。又そー云ふ伝説主義が長く我が国の家庭及び社会の風をなして居りまして、我が国の婦人と生れた人は殆んど其の考へに支配せられないものはない、束縛せられなかったものはなかったと言つてもよかる。今日は教育が段々進んで参りまして、そー云ふ伝説や古い習慣、風俗に繋がれると云ふ事なく女子も、やはり只今歓迎の辞にあつた様に立派な尊い人である。女子もやっぱり人間であると云ふ考へも出来、そー云ふ精神も出来て来たけれども、そー云ふ考へは甚だ幼稚であると思ふ。其の詞は、我が国では女徳と云ふ事がある。其の女徳には第一、三従と云ふことがある。此の幼にしては親に従ひ、嫁しては夫に従ひ、老いては子に従ふ。即ち、柔順と云ふことは誠によいことであるけれども、夫れをとり違へるならば、誠につまらぬものとなるのである。

女子の人生観は、人間が女と生れたならば其の苦樂は他人によると云ふことがある。生涯満足な楽しい運命が得られるか、又は苦しい、悲しい生涯を送るのであるか。つまりどー云ふ夫に嫁するかと云ふことになる。其の夫を選ぶと云ふ自由もなく、多くは親の考へに由つて左右せらるゝ闘ひの様な有様に由つて行はれて居るのである。そこで女子の人生観は全く人によつて居り、其の夫によつて苦樂がわかるのである。女子の運命と云ふものは金持ちに生るゝならば幸であるが、貧乏人に生るゝならば不幸である。

[婦人の生涯]

親が長生きをすれば誠に幸福であるが、親に先だたるならば、実に慘憺たるものである。夫が善い人であるならばよいが、悪い人であつたならば大変であると云ふ風に、婦人の生涯は全く此の変化多い千変万化する境遇に由つて變るのである。他人の考へに由つて支配せらるゝのである。斯くの如く誠に頼み難い、誠に哀れなる有様にならねばならぬと云ふ觀念が、我が國婦人を支配したのである。此の考へは独り口に稱へて居るばかりではなく、之が不知不識の間に女子の状態となり、社会の風俗となつて、やはり今日多數の婦人が之に支配せられて居ることは、遺憾ながら私は未だ事實であると思ふ。

[習俗]

無論此の考へ、此の如き習俗と云ふものは、独り女子ばかりではなかつたのである。未だ世の開けない暗黒の時代には、多數の男子もそーであつたのである。併し人間が我が幸福を他人に願ふて居る間は永久變らない、安心立命を得る処の幸福は得られないと云ふことは、今から二、三千年前 Greek に其の曙光が顯れて、爾來二千年ばかり發達を経て、夫れから宗教も道德も凡ての人生観が一變したのであります。

[幸福を他に求むる時]

若しも私共が幸福を他に求め、我々の運命が四圍の境遇に由るものであつたならば、到底志を立てるとか、最も尊い意志、永久の意志を見出だし、真に我々が人間の生活を見出だす、真に我が生命の恵みを味ふ、真に人間の心の底にある望みを遂ぐることは出来ないであります。如何となれば、積尊も Christ も、之に由つては得られなかつたのです。我々の境遇は千變万化してやまないのである。生れたと思へば死ぬると云ふことがあり、桜が咲いたかと思へば直ぐ散ると云ふことがある。お互に因むと云ふ關係が出来たかと思へば、間もなく相別れねばならぬ。漸くにして青年に達したかと思へば、又漸く我が子供が成人したかと思へば、忽ち白髮の老人となつて此の世を去らねばならぬのです。

[之れでよいと安心の出来るものはありません]

何一つ、之でよいと安心することの出来るものはありません。我がたよりとする夫も死ぬることがあり、我が命よりも大切にしたい子供も死ぬると云ふことがあるのみならず、今自分は如何なる困難にも戦ふ、何事か成らざらんと云ふて勇氣を鼓舞して居るにも拘らず、立どころに病を得て、我が力と頼む処の健康を奪はれる。我々の身体もいつんどきこはれるかも知れぬ。斯くの如く變るもの、此の如く動いて居る、

斯くの如く急激なる変化を来すものによつて居たならば、到底我々は満足することは出来ないのです。そこで釈尊も人間を救ふと云ふことは、到底人間の要求する金銭や衣食や快樂等を以て満足させることは出来ないと悟られました。此に於て宗教と云ふものが起り、西洋には Christ 教と云ふものが出来た。此の教育によつて、此の Christ 教、此の神、此の他力によつて、自分の要求を満足しようとしたのである。然るに世は止まらないのである。之れ迄の動かないと思ふた真理が又動き出した。之で決して誤らないと思ふた宗教が又根底から動揺して参りまして、今日では数千年伝はつた古い宗教、教会の儀式、聖書、他力の神、外部にある神様によつて安心立命することは出来なくなりました。仏教も、そである。お寺、和尚様、念仏によつて、ほんとの満足は出来ないのである。

[真に生命とすることの出来る根本を見出だす様になった]

然らば人間と云ふものは全く絶望の淵に沈んだか、人間の信仰は幻像であったか、間違ひであったかと云ふと、決してそではない。ど一云ふ宇宙に変化があつても、ど一云ふ革命があつても、ど一云ふ政治を行ひましても、真に人間が満足することの出来る、真に生命とすることの出来る処の根本を見出だす様になったのである。之は何処に於て求めるのであるか。是迄の神を天に求め、地の底に求め、教会に求め、儀式に求め、人間の持へた書物に求め、他力によつて、境遇によつて求めた考へは、其の本拠を誤つて居た。我々の苦樂は何に由るのであるか。我々の中に由る。親でもない。金でもない。物質でもない。物質の真髓である我々の内にある。神聖なる無限の力ある自分の内なる力に由るのである。苦樂は己によると云ふことである。

[潜在力]

我々の宗教は、我々の真に神と崇め導ぶ処のものは、我々の内にある。我々の意志の力、学問の力、信仰の力は我々の中にある。無限に潜在して居るのである。此の内にある力を見出だし、此の内にある力をたよとし、歩一歩向上するものは、茲に永久不易なる力がある。実力の源がある。此処を尋ねずして只人による、書物による、只暗記的学問をすると云ふことによつて、力は得らるゝものでない。私は真にあなた方に内なる我れを見出ださせ、其の力によつて立たせたいのである。

[自治]

此の教育は前に歓迎の辭にも仰やつた様に、自分の力は、自分の幸福は何によつて得らるゝか。自覚自動、即ち自分で考へる、自分ですると云ふことの他にはないのであります。

そこで此の学校では自動的にするとか、自奮自習とか言ふのである。先づあなた方がすべきことは自分で働く、自分で考へると云ふこと。第二に、学問の始まりは自治である。我々人間の中には一つの尊い、無限に発達する不思議な尊い力がある。其の力を以て、自ら治めねばならぬ。

[自治自制]

第三に大切なのは、自治自制である。我々は只人に使はれ、只に拘束せられて漸う全きを得るのではなく、自分の思慮、

自分の判断によつて自らの行ひを謹む、校風を育てる、規律を正しくすると云ふことは、我れが我が身体を支配する所以であつて、之が出来て始めて此の尊い人間に与へられた、ほんとの真性を發揮することが出来るのである。夫れで始めから直ぐ様規則に従はせると云ふことを努めず、学校できめた仕事を課すると云ふことはせず、今日の歓迎会と云ふことも、全くあなた方学生の方から考へを立てゝなされたのである。

[大きな我]

又あなた方も校風を考へ、主義方針を考へ、自分はど一なるべきであるか、ど一云ふことを始むべきであるかと云ふことを、いろいろ考へる余地が与へてござります。併し自分ですると云ふことは、孤立すると云ふことではない。我が儘勝手をするると云ふことではない。人の為にする、家庭の為にすると云ふ大きな我れを見出だしたならば、夫れは我が神である。之を見出だされたならば、人と自分との関係が見出だされて来る。人と共にすることが出来る処の大きな我れに進むのであります。真に其の関係、其の目的がおわかりになつて、喜んで人と共にすることが出来るならば、私共の校風の本となる。人と共にする、ほんとの大きい我れと云ふものが見出だされて、人間たる生活が出来るよ一になるのである。

併し始めから、そ一云ふ境涯に達することは六かしいが、段々おわかりになつて、あなた方の志を全うすることが出来ると思ふ。之は中々わかりにくいので、中途にして迷ふ人もあり、疲れる者もあるかも知れない。けれどもあなた方が此校迄おいでになつたことは知力を支配し、感情を支配する処の根本の力、意志の力が出来たことを証明するに足ると思ふ。其の根本の力を養ふには、心を練る、知識を磨くことが大切であると同時に、やつぱり趣味を養ふ、美育と云ふことも必要である。之が、此の学校を世間の人の誤解する処である。其の実は此校の中には一種大なる力があつて、全体の精神に動いて行くと云ふことが大評判になつたのであるけれども、つまり其処には運動にも趣味を加へると云ふことである。文芸会と云ふことも弊害を起さないのである。此の趣味、調和を現す処の美育、之がなくは真の教育は出来ぬ。

[精神的生命の發揮]

丁度、光りと熱とがなければ万物が育たない様に、ど一しても人間相思ふと云ふ暖かみと云ふものがなければ、大きい人間とはなれないのです。故にあなた方は先づ成るべく円満に、成るべく着実に、そして成るべく深遠に、お互の中にある力を發揮すると云ふことにお勉めなさることが必要である。今年はどうか、あなた方がほんとの銘々の内なる力を見出だして、所謂精神的生命が充分に發揮する様に致したいと云ふことを望んで、且つ殊にあなた方新にお入りになつた方に、早く本校の校風がわかり、早く学生生活が経験せらるゝことを希望致すのであります。

[中表紙]
第九回記念式の御託
明治四十三年四月二十日

明治四十三年四月二十日
創立第九回記念式

本校創立第九回の記念式を行ふに当りまして、一同業を休んで過去の事実を喚び起し、将来の希望を養ふことを得るのは最も幸福なことでありませぬ。殊に今日は此の女子大学の一番最初の発起人である廣岡御夫人、及び此の大学を設立する時に衆論のやかましい時に當って大に力を与へられた時の外務大臣大隈伯爵、及び始めて創立委員会を開いて此の学校を設立することを定めて、大阪の人々を集め女子の高等教育についての会を開きました時に、多大の同情を以て態々出席をして賛成演説をされた時の宮内大臣土方伯爵、又此の大学の一番土台となって地の利を与へられた三井三郎助君御夫婦、殊に教育界に於て多大の同情を寄せられた只今の高等師範学校校長嘉納治五郎先生、女子高等師範学校校長中川謙二郎先生の両君が丁度揃って此の記念会に御出席下さったことは、我々一同の非常に喜ぶ処であります。

此の学校を起すについて一番むつかしかったことは、輿論の喚起である。丁度明治五、六年頃から盛んになりかけた女子教育は一大反動を受けて、一時非常に沈衰を來したのである。独り大学の不必要を称ふるのみならず、中等教育、即ち高等女学校を各府県に置くことすらも一般は反対で、其の程度の学校も実に微々たるものであったのです。其の時に、茲に女子の高等教育を始めるなどと云ふことについては殆んど賛成する者もなく、其の事業に一臂の力を借す有力なる人を得ることは甚だ困難なることであります。尤も、此に御列席の諸君は立所ろに御賛成下さったのでありますが、其の他多くは百度参りをしたのです。一度や二度ではそれを賛成する者は殆んど無かったのであります。然るに発起人諸君のお助けに由って追々賛成者も出来、しまひには賛助員となって何か力を致さんとせられたる方々が700人。夫れから創立委員となって補助を与へられたのが100人。其の中から選ばれて二十三人の評議員が出来ました。斯くの如く多数の賛助者です。即ち私が直接度々賛成を願ふて助力を乞ふたお方は、此の如く多くあるのである。然るに時機が段々せまって来て、未だ準備も不完全な中に開校式を挙げなければならぬ運びになったのである。

それで過去十年は創業の時であつて内外複雑なる事業を持ち、殆んど余力がなかつたために此の創立に同情を表せられて賛助を与へられた方々に充分其の成り行きを報告することが出来ず、心ならずも自分は此の多くの諸君に甚だ濟まないと思ひながら今日に至った次第であります。然るに寛大なる多くの賛助員は此の学校を益々お助け下さると云ふことは、大に感謝しなければならぬと思ふて、窃に來らんとする十年期迄には委しく報告書を作つて、出来るだけ多くの賛助者の御出席を願ひまして、補助を与へられた其の功勞に報ゆる

ことは出来ませんが、誠意だけを表はしたいと考へて居ります。

併し只だ報告ばかりではありません。十年間の女子教育の結果を表はし、即ち過去の努力の実を結び、我々は幾分か諸君の同情に報いなければならぬのであります。本校は今年第七回生迄に1019名の卒業生を出し、高等女学校には700名ばかりの普通教育を了したる者を出し、千幾百の学生を現に有するのである。そして其の結果は只だ人数にあらずして、其の学生の力、其の品性、其の確信、其の実行、其の働き等に表はれなければならぬ。其の実を供へて、來らんとする十年期の祭壇に上ぼすのは卒業生、在学生の責任であります。

願はくば此の記念日に於て、明年の十年期に如何なる実、如何なる報告を差し出すであらうかと云ふことに就いては、茲に深くあなた方のお考へを要し、其の決心を望むのであります。

一方には本校の土台となる可き、永久に維持して行く身体を保存するに欠く可からざる基金の充實を計り、大に教育の改善進歩を促すことと、我々が過去九年間生命として育て來ました校風を充實致しまして、只今母校が遭遇して居る困難に戦ひ、其の反動に勝たなければならぬ。夫れには教職員、並びに創立以來お助けになつた創立委員並びに評議員の責任である。又諸君がお考へ下さるであらうと云ふことは、私は信じて疑はないのである。

願はくば、今日御列席の評議員並びに創立委員、本校の教職員を始め、生徒全体及び卒業生が、ど一か一致協同して、私共は此の大責任を分担して此の難関を切り抜きたいものであると云ふことを、私は深く望まざるを得ないのであります。

今いろいろ陳述したことは、どの点も必要なことであらうと思ふ。又之れを全うすると云ふことは中々困難なことであらうと思ふ。其の中で私共の最も困難とすることは、難関と思ふものは今日我が社会に起つて居る、度々起らんとする其の頭を挫かれた処の、第二の一大反動に遭遇して居ることである。此の反動に打ち勝ち、勢を回復することは容易なことではありませんが、之れに勝つと云ふことは、大にしては我が国の運命に関する程の重要な問題であると感ぜざるを得ないのであります。我國の女子教育、明治の婦人の進歩の跡を考へれば、幾度か高潮に達せんとし、幾度か烈しき反動に遭ひ、或は浮び、或は沈みして今日に至つたものであることは、私は自分一身の経験を覚えて居る様に、はっきりと我が脳中に表はれるのであります。

即ち此の女子大学を企つる前には、我が明治の女子教育界に一大反動を受けた時機でありました。大阪に梅花女学校を創立致しました時に、始めは五百人計りあつたのが、反動の後には百人内外と云ふ少数になりました。平野教諭に聞きまして、フェリス女学校などでも生徒が二十四人になつて了つて、先生の数よりも生徒の数の方が少なかつたと云ふことであります。

文部省は高等女学校を普及せんとしましたが、一県に一つの女学校を置く事すらも不可能でありました。然るに潮流は後に戻りまして、有力なる学者、政治家、実業家等の賛助を

得て女子教育を導く助けを得て、又盛んになって参りました。十年前には僅かに十数であったのが、今日では百数十となって、殆んど十倍以上に昇り、学生の数も夫れにつれて増加して居るのであります。且つ女子の高等教育、其の他の専門教育も、此の十年間に発達して来たのであります。然るに此の三年前から経済の困難、輿論の反対、人心の萎縮等から原因して、此の女子教育に反動を起したのであります。之れは中等程度の教育には余り影響しなかつたのでありますが、高等教育には非常に打撃を蒙つたのであります。然るに今年家政学部には90人、文学部に30人、英文学部に15人、普通予科に60人、百余人の高等女学校で合計三百三十人程の人が、全国から笈を負ふて此の学府にお集まりになったことは、私は此に尚ほ深い根底のあることを知つたのである。又此の女子大学の根底は案外に深く、700の賛助員、評議員、創立委員、1019人の卒業生、千幾百の現在学生は如何に反対があり、如何に誤解があるとも、真に此の学校を知つて力を注いで下さるので、之れだけの生徒が集まると云ふことであるのです。

それ故に、少しく今日の反動を受くとも此の女子教育には、やはり一つの根底があると云ふことは考へらるゝのであります。

第二に、此の反動は恐る可きものではあるが一時的のものであつて、此の女子教育を人工で抑へることの出来ないこと云ふことは、最早や之れは世界の大勢であるのです。我が國は武備ばかりでは維持することは出来ないのである。又経済界の困難を切り抜けて真に商業場裏に立つて行くのにも、只だ物質的文明ばかりではいけないのである。も一つ深い根底がこゝにあるのである。之れを得なければ世界と共に宇内の大勢を支配することは出来ない。我が國家は成立することは出来ぬのである。其の國民を作る母、其の國民を作る家庭を司どる主婦となる女子に、充分其の根底を作らなければならないのであります。

[女子教育の将来]

我々は将来の日本を思ふては、一日も女子教育を忽せにすることは出来ないのです。一時の反動に恐るゝ時ではありません。

之れに打ち勝つて進まなければならないのである。

第三に、此の日本は天から一つの天職を与へられて居る。東洋に於て職責を全うする國民性。平たく言へば、天祐を受けて居る。広義に於て、宇宙の活動力を信ずるのであります。

二、三日前に大隈伯爵をお訪ね致しました処が、丁度其の日は今度伯爵が國民読本を御編みになつた披露の爲めに、各府県知事及び文部大臣、宮内大臣をお招きになつて居りました。私は夫れを知らずに参つたのでありますが、伯爵は其処に御出席の御歌所長、高崎正風男の肩に手を置いて、私は我が國民を教育する父である。此の成瀬は國民を教育する母である。女子教育も男子教育と並び進めねばならぬと云ふことを申されました。

其の國民読本の中に、御製が今の日本の天職に就いての条に上げてあるのを拝読しても、其の事を確めることが出来るのであります。

[御製]

さためにし その始めより あしはらの
國の榮えは 神ぞまもらむ

我が國の歴史を考へるならば、此の國民は一大天職を与へられて居る。其の危急の場合には世界を驚かす所の偉力を有することは、自ら信ずることが出来る。

我々は我國の女子教育の将来を思ひ、我々の微力を願みれば誠に心配に堪へないが、私は、やっぱり之れに Providence と云ふ様なものがあつて、之れを助けられるのであると云ふことを信ずるのであります。将来に於て私共の今遭遇して居る困難に打ち勝つには、一致協同して進むの外はないのであります。

願はくば、皆さんの一致協同に由りまして我々の負ふて居る一大責任を全うせんと、私は此の記念日におきまして感動に堪へるのであります。

今日は幸に、前からいろいろ御力をお尽し下さつた諸君が御出席下さいましたから、其の御感話を願ひたいと思ふのであります。

明治四十三年四月二十日
創立第九回記念式に於て

今日、本校の創立第九回記念式を行ふに當りまして、大隈伯爵閣下、並びに嘉納、中川両先生から御懇切な御話を承ることの出来ましたのは、本校一同の深く感謝する処であります。又其の御注意を受けました点に就いては、深く銘々が反省する処でありませよ。其の詞の上については矛盾する処がある様に考へる処があるかも知れないが、之を全体から推して真意のある処を考へるならば、つまり真理は一つに帰するので、誠に我々が日頃から熱心に達しよと勉めて居る処が見出ださるゝであらうと思ふ。併し乍ら我々は誠に微力なるものであつて、容易に其の実を挙ぐることが出来ませんから、いろいろ経験のあり、又其の教育を年来、實際にお導きになつて居らるゝお方から御注意戴き、且つ御指導下さることは誠に一同の爲に有益なことであると考へまして、私も深く喜んで居るのであります。殊に創立の際は私も屢々此の両先生、その他御出席になつて居る方々の処へも出て御邪魔を致し、自身の意見を申したり、又は女子教育に対するお説を聞きまして誠に感謝に堪へるのであります。今大隈伯爵、又両先生からも仰つた様に、女子高等教育は誠に必要である。けれども此の女子高等教育、未だ幼稚なる女子教育に対する考へを育てゝ行くこと云ふことは誠に六かしい。然るに諸君が此の女子高等教育の必要を認めて、今後益々助力し様と云ふ親切なお話を伺ひまして、我々は誠に意を強うすることが出来ると思つて喜びに堪へないのであります。

今終りに唱歌を歌ひまして、化学館の前に一同揃つて、第九回記念樹を植たいと存じます。

[中表紙]

第一学年実践倫理に於ける御話
明治四十三年四月二十三日

明治四十三年四月二十三日
第一学年実践倫理に於て

今年から少し学部について変更をするのでありますが、いろいろ手続き上の都合から未だ公にすることが出来ませんが、其の事は追って発表することと致しませう。

是迄文学部は初めに国文学部として開始しまして、第一回生の時は家政学部よりも多数であった。即ち大学を開いた時は国文学部に志願した者が最大多数でありました。夫れから時勢の変遷にも遭ふて国文学部を望むものが少なくなったのみならず、国文学部と云ふものは一般の文学思想の影響を蒙り、又其の時代の弊風にも幾らか感染すると云ふ虞れもあったのです。又其の国文学部の文学書と云ふものは、主に我が国の古文学、即ち源氏物語、徒然草とか云ふものに主なる力を費したのである。そ一云ふ文学の学び方が丁度今日の時代の要求に応じかねると云ふ様なことも随分見出だされまして、夫れから段々研究して、今度は之を文学部と云ふものに改めた。即ち人文史と云ふものを中心として、成る可く現代の思想、時代の精神に接触して生きたものとする為に組織を変更し、教育法をもちかへたのであるけれども、之も未だ時代の要求には応じて居るかも知れないが、我が国の社会、殊に女子教育には一歩進んで居る為か、改正後も段々学生の数は減つて来ました。併し此の大学の力が充分であるならば、社会よりも一歩進んで行くべきである。けれども夫れと同時に経済の困難が起つて、理想は其処にあつても之を実行するにいろいろ困難がありますので、今度之を教育学部第四部と致します。教育学部の第一部が物理、数学。第二部が動植物。第三部は発表する時に申しませう。文学部は第四部として開くこととなりました。

[女子教育発展の暁には]

女子教育が発展し、我が国の社会が進んだ暁には、又今の文学部をも開始することがありませう。けれども今日の処では斯う云ふ様にすることが最も適当であらうと考へます。猶其の他の事は後日、明らかに致しませう。

そ一云ふ変更の為にいろいろな準備が後れて、文学部は漸く二十一日に開始したのであります。今日は大体お揃ひになつたのであるが、そ一云ふ都合から途中で志をかへたお方もあり、未だ国から出て来ることの遅れて居るお方もあります。

今日は此の一年の全体の組として、文学部は初めて此に揃ふ訳であります。夫れで先づ初めに、文学部のお方は一寸起立して御覧なさい。

今日は扱ないことがありまして、三時から出かへなければなりません、丁度初めてのことでありますから、大抵一時間で今日の申すことを切り上げたいと思ひます。

先づ一番初めにあなた方にとって一番大事なことは、今日あなた方のお入りになつた処の新境遇、即ち学校をよく知る

こと。其の關係と其の生命とを知ること。夫れと同時に自らをよく知ると云ふことであります。之が、境遇の変わりました時に之迄わからなかつたことがわかる様になり、是迄なかつた新關係が出来て来る。斯う云ふ時に於て、一番自分を反省すると云ふことが出来る。夫れで、斯う云ふ時に自分の新境遇を知ると云ふことが大切である。又私の方から申しませう、之から業を始めよ一、今年の事にとりかゝらうと云ふ時に、あなた方の是迄の境遇、只今のあなた方の心、精神、即ち傾きと云ふ様なことがわかることが大切である。之は毎年あることである。過去のあなたの境遇、現時のあなたの心を、最もよく人にわかる様に紹介するとでも言ひませうか。自分を発表する、之を自動とも言ひます。其の自分を外に向つて目的に向つて現して行く、自分を動かして行く、働かして行くことと云ふことが大切である。夫れで私はあなた方の入学なさつた時に於て、出来るだけよくおわかりになる様にお尋ねを致します。そして卒業なさる時には、三年間にあなた方はどれだけお進みになつたか、どれだけの人物におなりになつたか、ど一云ふ風に學問をおまとめになつたかと云ふことを知る為に、私はあなたの帳簿を見るのである。そ一して皆さんはど一云ふ決心をなさつたか、又将来ど一云ふ方針がお立ちになつたのであるか、即ちあなたの前途の事についてお話をする為に面会をするのであります。夫れで今日は例に由つて私からお尋ねを致しますから、其の意味をとり違へない様に、此の一週間に書きになつてお出しになる様に致したい。

- (1) 本大学に入学せる志、及び其の原因
- (2) 本校に入学する迄の我が境遇(家庭、前校、及び親友、其の他の關係者、又郷里の有様、宗教又は主義、確信等)
- (3) 本大学入学後の経験、又は感想
- (4) 現在有する問題(本校の主義又は会等につきて、自動的修養上の困難等)

[中表紙]

計画発表会に於ける御話
明治四十三年四月二十七日

明治四十三年四月二十七日
四十三年度計画発表会にて

大体は至極適当な事と思ひます。殊に、実に複雑な關係に就いて各係が出来ただけの調べをし、熱心にお考へになり又全体の人心を調和して、此に皆さんが応用の出来る処の今年の目的及び其の方法を立て、皆によくわかる様にお書きになつたのは私の喜ぶ所であります。併し細かしい処に就いて皆さんに尋ねもし、又私から御注意致したい事もあります、時間も遅くなりましたから、之は後日申す事と致しませう。且つ、大体についても一言私は始めに於て申しておきたいのであるが、之も時間がない為に申す暇がありませんから、新に入学なさつた方の為に只一言だけ申しませう。

夫れは係が非常に複雑である。そして是迄の学校に少しもないことであるから、真相がわかりにくいかと思ひます。そこで私思ふに、あなた方は斯う云ふ計画を立て、各自が其の一部分を担当して、自分の勉強外に斯う云ふ仕事をする事は我々の為にど一云ふ利益があるであらうか、又学校全体の為に斯う云ふことが如何に必要であらうかと云ふことがわかりにくいかも知れぬ。之がよくわかる様には、三年生及びその他の関係の方からお聞きになるが宜しい。そ一すると段々とおわかりになることであらうと思ひますが、只私は、夫れに一言だけお答へをしておきたいと思ふのである。

[今迄の我国人の学問は]

之迄我国で学問をすると云ふことは、成るべく広く新知識を貯へると云ふことであった。夫れからも一つの方面は、成るべく学校に於て学んだことを家庭の中に於て、又は外に出ましてから夫れが間にあふ様に、実用になる様に婦人に必要な技芸を練習すると云ふことでありました。そこで女学校ではなる可く裁縫の様なものを沢山おくことを奨励し、高等女学校に対立して家政学校と云ふ様なものを設けてもよいことになって居る。夫れには裁縫を一週の中に十八時間も入れるのである。そ一すると若し之が六日とつものならば、毎日三時間裁縫を学ぶと云ふことになる。夫れで今日の学問は出来るだけ本を讀む、物を覚えておくことと云ふことの見えるけれども、之は皮相の観である。又之は欧米あたりでは行はれて居る手工教育の奨励の様に見える。けれども之は非常な違ひである。之は私が説き明かしをする必要はあるまいと思ふ。

此の今、我が教育社会に現れて居る傾きです。今日我が国の人心を靡かして居る此の空気と云ふものは、是れ迄我々が常に感じて居ります処の我が国の教育の弊と言ふべきもので、学問が真に学生の生命を發揮する、我々の必要と認めて居る実を結ぶ、我國の婦人に欠く可らざる品性を養ふと云ふ目的に叶はない処の、形式的、注入的学問に流れて居る。殊に此の頃は余計に其の方に傾いて来たと思ふ。之は只私の感じではない。過日来、個々の学生の経験、実力、頭を觀察して、其の有様を目撃致した様に思ふ。我々が如何に苦心しても、其の結果を収めることが六かしい。又あなた方も働いただけの実を結んで自分が之だけ学んだ、自分で之だけ開いた、自分で之だけ出来たと云ふ満足を得る処に行きかねると云ふことは、私はやはり今日の教育の仕方が誤って居る。夫れが為に、学生も未だ真に有効なる学問の生活を經驗する、今あなた方のお立てになった通りの希望を遂げかねる、其の願ひを叶へる事が出来にくいと云ふことになるのです。之は詞を以て説き明かしをしても、学理を耳に聞いてもわからない。然らば、ど一したらよいか。之を大分今年のあなた方の中には、少しく見出した処があるかも知らんと考へます。つまり人間が行ふべき道を尽すことは、過日来私があなた方にわかつて貰ひたいと思ふた学生生活を自分で生活する、ほんといに銘々が行ふと云ふことである。然るに今日迄の学問をすると云ふことは制度から来る弊もあり、方法の間違ひもあり、いろいろの原因から来て居るけれども、多くは学問が知ると云

ふこと、覚えると云ふことである。此の覚える為、知る為に勉強して行かねばならぬと云ふこともあるけれども、私共の言ふ試験学問、試験を通過して社会に立つに必要な職業の資格を得る為に其の教授を受けると云ふことも大切でありましょ一。

[深い興味を持つ]

併し乍ら、私共が興味を持つ、学問をする、物を覚えると共に、深い興味を持って自分の力とすると云ふ深い感情もなければならぬ。之れなくしては、ほんといの事は出来ないであります。独り其の様に物を感じるのみではなく、自分で考へ、又は自分で学んだ事に就いて之に批評を加へ、いろいろ学んだ知識を纏め、我が能力で之に判断を下す。自分で構成する処の自分で見出し、自分で組み立てた処の考へを味ふ。其の思考の経験を毎日、自分の生涯の一部として貯へて行くことと云ふこともなければならぬ。

猶、夫れだけではいかないので、此の前少し言ひかけておきました瞑想、宗教で言へば祈りをする、行をする、或は禅をすると申すのです。然るに今日の学生で斯くの如き自分の力を用ひて、自分で其の学生生活をほんといに営んで行くものがあるかと云ふと、多くの学生は之は必要であると思つては居るが、今日の学生生活で斯くの如き学問をすることは出来ないと云ふのであります。

此の間も私は数学の試験に落第をした学生を見ましたが、此の学生は少し数学の力が弱いので学校以外の先生に助力して貰つて居るのです。斯う云ふ例は沢山あります。夫れで私は、ど一して其の弱い力を回復するかと尋ねたら、答へはないのです。そこで私は自分の経験を話しました。私が始めて洋算を学ぶ時には砂の上に稽古をしましたが、其の後は本を買つて来て独りで練習致しました。私は数学が好きだからいろいろ致しましたけれども、決して先生に頼らないと云ふ決心を致しました。夫れは原理を見出すのは大変骨が折れた。けれども一つのことを考へ始めたら、三日でも四日でも其の道理のわかる迄考へたのです。

[数学につきて]

私の主義は、たとへあなた方の数学が三年の間に比例迄よりしか行かれなくても、夫れで宜しい。其の原理がわかれば、後は一人で進まれるのである。けれども今日の学生は斯う云ふ興味を以て深く考へる暇がないのである。

[英語につきて]

夫れから英語であります。此の頃私は一つの事を見出しました。私が外国へ行く前、或る方は五年程英語を勉強した後、東京へ出て Mission school に入つて、外国人について五年計勉強し、其の後も猶續けて殆んど二十年間勉強したけれども、ほんといの英語はわからないのである。つまり今日は自分で骨を折らずに、自分で味ははずに、自分で解釈をせず、何か早く道がありはすまいかと思つて居る。つまり注入で進まうとして居る。けれども昔から人に頼つて居る人で成功した例がない。ど一しても学生が自分で考へ、自分ですると云ふ態度が出来なければだめです。私共、小供の頃、和蘭語を学ぶ機会があつた。そして数学をするにも何をする

にも、自分ですると云ふ考へをきめた。そして英語を学ぶには訳読と云ふことは少しもしないと決心して、非常な困難を忍んで勉強しましたが、之は今日非常に自分の力となったのです。学問は決して人に頼らない、自分ですると云ふことが必要である。どんなえらい先生についた所で、自分でしないで進む筈はない。私共はも一五十であるけれども、之から学問を始めるつもりであります。

[速成法につきて]

世の中に速成法と云ふことがある。けれども三年や四年で出来ると云ふ、そんな速成法のあるものではない。私の知って居る人の中でも、相場に手を出した人で成功した例はない。ど一もあの相場と云ふことをすると、人柄がからっと変って、真面目に物をする考へがなくなり、所謂一攫千金の利を得よ一とする様になる。

[毎日の生活]

そこで私の望む所は、ど一か、あなた方が自分で学生の生活をするると云ふことであります。あなた方が凡ての事を自分で経験して、自分の力とするのである。其の学生の生活をさせる。自分で行ふて学んだことは、之を毎日の事に応用する。此の教育に欠く可らざるものは、毎日の生活である。其の生活をするには斯う云ふ機関がある。共同の働きを要するのである。故に始めには、おわかりなすりにくいでしょうが、段々、其の実際からお考へになれば、斯う云ふ必要があつて斯くの如き機関が備はつて居る、又皆さんが銘々責任を分担して、ほんど一の生活をするると云ふことの必要がおわかりになるのでしょ一。

[自治機関と自治的教育との関係]

併し此の自治機関と本校の自治的教育と云ふものとはど一云ふ関係のあるものであるか、ど一云ふ必要から起つたものであるかと云ふことは、只詞で申してもわかるものではない。あなた方がほんど一に其の生活をなさつて初めてわかるであら一と思ひます。そこで私は段々にわかることであり、又今年の二年、三年の方は大分夫れ等の経験もなされたことでありますから、今日の急務は団体となつて行つて行くと云ふことです。そして之からど一云ふ風にして行くと云ふことについて、先づ今日は、之だけにあなた方が組み立てるにも骨が折れたのであるが、今年も一層の進歩をして、眞の学生生活が出来様になりたいと云ふことを希望致します。

[中表紙]

晩香寮記念式に於ける御話

明治四十三年四月二十八日

明治四十三年四月二十八日

晩香寮記念式に於て

晩香寮第三回記念式を開きまするに当りまして、波澤男爵が御多忙の御身にも拘はらず、御夫人と御一緒においで下さ

ったことは、誠に一同の喜びとする処でござります。男爵は是迄卒業式、記念式には必ずおいでになつて、いろいろ有益なる御注意も戴くのでありますが、今年は丁度御留守であつて、此の頃御帰京になつたのであります。そして今度初めて寮へ入つたものもあるのであるから、おいでを願ふて何か一言お話を願ふことは、誠に有益なことであら一と存じます。

今晚は晩香寮の記念式と言へば未だ満三年になつたのみで、余り古い歴史は経て居りませぬが、併し学校の記念式を催しました様に、此の女子教育の興るについて、やはり将来について男爵はど一云ふ関係で御尽し下さるのか、新入生もあることであるから、一言述べて男爵を御紹介致しましょ一。

此の女子大学を我が国に成り立たせることが、今から十六、七年前に如何に六かしかつたかと云ふことは、誰れも想像のつくことである。私が外国から帰りましたのが今から約十七年前である。其の以前から、ど一か只今ある如き女子の高等教育を開きたいと云ふ希望を持って居つた。併し乍ら容易に着手することが出来ぬのみならず、殆んどそ一云ふ望みを人に話しするのみですらも、躊躇しなければならなかつたのです。

[最初に於ける同情者]

第一に私が此の企てを計つて見たのが、当時大阪府知事であられた内海男爵でありました。其の先輩が私の此の計画について言はるゝに、夫れは不可能であると言はれた。此の知事は私の郷里の人で、極幼少の頃から知つて居つて、同情を持たれて最初から出来るだけの力をかすと云ふことは充分承知して居らるゝにも拘はらず、逆も夫れは出来ることではないと云ふ考へであつた。其の次に大和の土倉庄三郎君にお話をし、其の次に計つたのが、此処にお出でになる廣岡御夫人でありました。そ一していろいろ議論もありましたが、兎も角も大坂に此の二人と内海男爵と三人の同情者を得たのです。けれどもそ一云ふ事業が此の三人の力ばかりで出来るものではないから、広く天下に発表して、出来ないでも之は始めて見ると云ふ覚悟を持って居つたのです。

[東京に於ける同情者]

さて愈々計画をきめるには東京に出て、我が国に於て私が其の当時第一の識者と信ずるのみならず、天下が認めて居りました政治家と言ふならば、必ず伊藤公爵、山縣公爵、並びに大隈伯爵であつた。夫れから我が国でも、こ一云ふ事業に喜んで力をかさるゝのは、三井、三菱、大坂の住友であると聞いて居りました。夫れから実業家の泰斗と言はるゝお方は、此においでになる波澤男爵を始めとして、三井さん、森村さん、其の外にはなかつたのです。私は若し此の計画が当時の政治家たる伊藤公爵、実業家の泰斗、波澤男爵がわかつて下さることがあり、且つ賛成して下さるならば誠に幸であると考へて、先づ自分は之を伊藤公爵に断つて、其の上で自分の進退をきめる覚悟を持って居りました。然るに伊藤公爵は、私の予想外の賛成を表せられまして、愈々此の事業に着手する時は一臂の力を貸そ一と云ふことを約束されました。其の次は早稲田の大隈伯を訪ふて、其の御賛成を得、大隈伯の御紹介に由つて次に波澤男爵にお目にかゝることが出来た。処

が男爵は大体に於て御賛成であるが、計画についてはいろいろ御異存がありました。第一、地位は大坂におくことは出来ぬ。大坂は商業の地であつて、女子大学をおくべき所でないと思ふ御考へを始めとして、大体については賛成を表する。出来るだけの力を貸そ一、とのお話でありました。此の時私は、若しも此の男爵が此の事がほんとにわかつて下さつて、之をほんとに一に國家の爲に助けると云ふ御考へがあつて御助力下さるならば、出来ぬことはないと思へました。併し男爵は御注意の深いお方であつて、中々之が直ちに出来るものと云ふ御認定は六かしかつた。独り男爵が御賛成下さるのみならず、微力ながら応分の助けはしよ一と言仰つたことは、決して只其の時の御感じではなかつたのです。何となれば男爵は人を捨てない御方である。人と共に事業をして、困難な時に挫折するお方ではない。必ず一貫する主義を以て、中傷などによつて言をかへるお方ではないと信ずるのであります。此の困難なる仕事は此處迄進むことの出来ましたのは、我が國に於て実業界の泰斗たる渋澤男爵が最初から御助力下さつたことが与つて力があるのである。夫れから大阪では今申しました内海、土倉、廣岡御夫人、斯う云ふ方々を始めとして、東京では伊藤公、山縣公、大隈伯、ときの三大政治家が産みの苦勞をとつて下さつた。又、三井、三菱、森村と云ふ様な有力なお方が此の地の利を与へられたのです。

[東京説と大坂説]

独り外部から賛成の表さるゝ計りではなく、つまり男爵は東京説である。大坂では廣岡御夫人を除くの外は悉く大阪説で、殆んど其の爲に議が破れるかと思ふ位であつた。其の時に今の韓國の銀行の総理をして居らるゝ市原盛弘君が私に、こ一言はれたことがある。今女子の大学を興すと云ふことは六かしいことである。若し夫れが出来れば、内閣総理大臣の仕事よりも困難な事である、と言はれた。其の間の發起人、創立委員の説を纏めるのも中々困難な事でありました。如何となれば、廣岡夫人、渋澤男爵も非常なる力を添へられたのであるが、之は決して雷同的ではない。銘々、主義がある、確信がある為に、時々議論の烈しくなることがある。夫れで私共は、渋澤男爵はお忙しいのに度々お邪魔に行つたのであるが、中々議論が纏まらない。けれども男爵は苟くも道理のあることとお認めになれば、立どころには是れ迄の主張を譲つて段々と親しく、此の教育のことをおわかり戴くよ一になつて今日に至つたのであります。私は其の当時、今より十五年前に、若しも此の發起人の中に有力なる二、三人のお方がよくおわかりになつて、真に之を國家の爲に我々が尽さんければならぬと思つて下さつたならば、成らざることはないと思ふたけれども、此の女子教育と云ふものは非常な問題である。けれども之を真にわかる、真に其の必要を認め、日本の要求を察して、今日の時代の精神のわかると云ふお方は実に少ないと思ふ。之は実に我が國の多くの先輩諸君がわからないのみならず、我々が職者と仰いで居る人々の中にも容易にわかる問題ではない。然るに私は、此の九年の記念式を挙ぐるに當りまして、本校の十年祭の用意を之から致さんければならぬと云ふ時に當りまして、非常に喜ぶことがあります。

我が國の女子教育は今、反動時代である。我が國の經濟界の恐慌時代である。今後の發展については、我々は心配せざるを得ないのである。又我々は案外、自分の立てました方針が非常に実を結ばずして行きなやんで居る。一大障壁に突き當つて居る。故に只今の処は表面から見れば誠に困難な時である。然るに私は此の頃、大に学ぶ處が出来たと云ふ様に思ふのである。私自身も今日に於て女子教育の方針が大分明らかになり、又始めて学ぶ處があつたかと思はれます。處が今度男爵がお歸りになつていろいろ御話のござりました中に、今後の日本の教育について男爵は真におわかり下さつたと云ふことを喜ぶのであります。且つ男爵は今後の事について非常に深い同情を以て御考へ下されて、今度の募金などについても出来るだけ力を尽さうと云ふことを仰やつて戴いたのは、非常に喜ばしく感ずるのであります。私が男爵に始めて御交際を願ひましてから十五年になりますが、今日、教育家でも六かしいとせらるゝ問題をよくおわかり下さつたのみならず、廣岡御夫人も前からよくおわかり下さつたが、此の節は猶よくおわかりになつたら一と思ふ。且つ始めから共に事をして居ります麻生學監及び塘幹事、之も會計の事で長い間非常に苦心してくれられたのであります。斯くの如く皆さんがいろいろ御研究になることがあつて、初めて此に方針が立つたのではあるまいかと思ふ。女子大学が創立せられ、千幾百の卒業生を出しましたる今日、漸く方針が立つた。我々はいろいろ研究して、将来に対する調和が出来て始めて今後の發展を見ることが出来るであらうと思ふ。私は此の十年期と云ふものゝ過去を思ひ出すのではない。我々が経験を積みました處の事業を確立して、是から皆さんと成就したいと思ふ時機である。此の時におきまして、我が國に於て斯くの如き同志の協同者を得ましたことは深く喜ぶ處であります。其の大事なる時機におきまして、今晚、晩香寮記念式を挙げらるゝ時に當つて男爵から、いろいろ有益なる教へを与へて下さつたことは私の深く感謝し、又一同の深く喜ぶ處であらうと思ひます。一言私の感じを申して、皆さんと共に感謝の意を表します。

[中表紙]

第一学年に於ける御話
明治四十三年四月三十日

明治四十三年四月三十日
第一学年に於て

第一回の問題について、丁度私のきめました時刻に皆揃へて答案をお出しになつたことは私の喜ぶ所であります。此の時間迄に、せめては入校後の問題と今日の決心だけでも目を通したいと思ひましたが、何分沢山であるのと、時のない為に夫れもよう致しませんでした。あなた方の問ひに対しては次にお答へすることに致したい。

あなた方の答案によりますと、私の問いも間違はずに其の意をおとりなさった様である。夫れで過日話を始めかけて、時間の来ました為に中途でおいてあったこともありますから、之をも一つ申しておきたい。其の中で一番世間の人がやかましく言って居って、且つ女子高等教育の反対の理由の一つとして居ることである。夫れは此の間私が少し説明を致しかけておきました。夫れは此の間隈伯も言はれた所の、個人と社会と云ふことである。今日、文明国と言はれて居る欧米諸国の単位は個人であつて、男も女も同じ単位である。そこで是れから我が国の婦人も教育して男も女も同じことに、婦人でも人間であると云ふ自覚を与へると、婦人開放と云ふ様なこと、又は Suffrage、即ち女も国民であると云ふ義務を有するものならば、国民たる権利をも享受すべきものであると云ふ様な要求をして、其の結果、家庭を持つ人の妻として子供を育て、家を齊へると云ふ様な考へが薄くなりはしないかと云ふ考へもあります。

極端な個人主義が間違つて居る様に、個人を認めない、殊に婦人の人間たることを認めない、極端な家庭主義、言ひかへて見れば、極端な社会主義も間違つて居るのである。又人間には必ず其の両方面を備へて居ると云ふことも、余り議論を要しないのであります。今私は此の学校に入つて居るあなた方の中に、そ一云ふ偏した考へを持って居る者があるとは思はない。けれども事実の解釈を誤つて、真相を見誤ることがあるかも知れぬ。殊にあなた方の父兄、あなた方の尊敬する人物、信仰する人の口から出る詞であると、其の真意を誤ると云ふことがあります。又今日の世間でやかましく言って居る議論、又幾らか夫れがほんとの事の様思はれ易い点に就いて申しましょ。

此の前に、此の学校には多大の同情を持って居らるゝ森村市左衛門君が名古屋から帰られると、非常な挫骨神經に罹られたので、二十日の記念日には誠に残念であるが、逆も出られないからと云ふ手紙が参りましたが、其の朝になって見ると、ど一もすまないと云ふ熱心から、あの御老人が態々此校迄来られたのは、実に熱心であると思ひます。

皆さんは、ど一云ふことが此校の校風をなして居るか、此校の学生がど一して人の為に働く、世の為に尽すと云ふ熱心があるかと云ふと、此堂で六かしい哲学を説いたり、団体心の必要を説くからではない。そ一云ふ行ひをする人間があるから、そ一云ふ模範を示す処の立派な人格があるからと云ふことが、此校の校風となつて居るのであります。夫れから私は昨日、此の間から関西を回つて来られた波瀾男爵を訪問致しました。男爵は誠にお忙しい方であるが、熱心に立ち話でも話をきめて下さる。之が本校の相談役としてお頼みする所以であります。

[西洋人の質問に答ふるに女子教育を以てす]

夫れからも一つ困難なことは、斯う云ふ熱心なお方でも女子の高等教育の必要を認めて下さることは大層六かしかったのです。けれども欧米を漫遊して来られて、余程考へが進まれたのである。其の旅行中の御話に或る西洋人が、自分は資産もある事故、何か日本の一番よいことに力を加へたいの

であるが、何が急務であるか、と尋ねたそ一です。所が男爵は之に答へて、我が目下の急務は女子教育である。故に私であつたなら、其の力を此に注ぐのである、と話したと言はれました。

私は実に感心するのです。あゝ云ふ年よりのお方が非常なる興味を持って猶今後、女子教育に尽さうと言はるゝ熱心を見て、私は深く喜びました。斯う云ふ年よりが若い者も及ばぬ程の元気を出して、国の必要と認めれば斯く迄熱心に尽さるゝのは深く喜びとするのであります。殊に今は女子教育の反動の時代であるのみならず、男子の教育でも少しひき下げてよいと云ふ時に當つて、斯くの如き多忙なる実業家、さきの短い年よりが此の女子教育の為に斯く迄熱心に尽さるゝのは、実に感謝する外はありません。そして第七回卒業生を出だす時に當つて、森村君の口から一言の注意を与へられた。森村翁は其の卒業の日に於て、あなた方卒業生の決心、卒業生の態度と云ふものが如何に此後の女子教育に影響するかを考へて勉めて貰ひたいと言はれました。之をとり違へらるゝならば、嘉納高等師範学校長のお話も或は此の女子高等教育の反対であるかの様にとれんこともない。併し之は其の前に私が病氣をして居ると云ふことを聞いて、嘉納さんは心配をして直ぐ様私の病床を尋ねてくれられて、いろいろ話されたことがあります。そして森村翁は此の学校の卒業生で未だ嫁がない者などであると、人はよく言はない。婚期が後れた為に、あれは高等教育を受けた為に婿選びをすると言はれて居る。困つたものであると云ふことを森村さんが言はれた。其の話のことである。併しそ一云ふ者があるかど一か、私の娘から親類の者を始め其他の人々を見て下され、と言はれたそ一です。そ一云ふ風にとればよいことであるが、併し此校で教育をする理想が高くなつて常識がなくなるとか、家持ちが拙くなるとか思ふならば、大きな間違ひであります。

寧ろ理想と云ふことは、快樂とか金とか地位とか着物とか云ふ現実的な欲望に勝つて、高尚なる目的を全うする、我が生れた責任に忠実なることであります。併し私は、此の学校の人がよい衣服を着たいとか、指環が欲しいとか言ふ人はない。そ一云ふ様な事は本校の主義とは違ふのである。若し婚期の後れた者があるとするならば、夫れは思慮を以て軽々しく結婚しないのである。品性だけ高くなり、立派な理想を持って居る婦人は、却つて世間から羨まれる様な縁談が多いのである。けれども彼等は趣味を異にし、主義を異にし、自分の為にも親の為にも家の為にもならぬ様な結婚はしないのであります。

直ぐいつて離縁になる。直ぐいつて波瀾の起ることを知りつゝ結婚をしないのである。之と反対なる者は、本校の精神に化することの出来なかつた者である。嘉納高等師範学校長の言はれたことも、森村翁のお話も決して此校にそ一云ふ者があると云ふことではない。併し是をよく考へないと反対の方にもとれると云ふ様な間違ひもあるかど一かと考へらるゝから、一言申しておくのであります。そしてあなた方が御覧の通り、本校の関係者が段々と熱心になる、年々同情を深くして力を加へらるゝのは何故であるか。大阪に居らるゝ私の友人、

之は三十二年前からの親友で、も一白髪の老人であります。此の方が娘御を此の学校へ入学させ様とせられた処が、親戚一同反対で誰れも此の学校へよこすことを喜ばない。けれども其の御老人が言はるゝには、私はお前方が何と言っても、女子大学へ度々行って実際を見て来て居るからよく知って居る。校長も三十二年からの親友であるから、ど一云ふ主義でやって居るか云ふこともよくわかつて居るから、少しも疑ふ所はないと言って、断然お嬢さんを伴って上京して入学させられたのである。所が其のお嬢さんは初めて親の側を離れたから Homesick を起して、と一と一帰られた。夫れで私はあなた方の中にもそ一云ふ Homesick を感じて居るものがあります。せんかと思つて、実は聞いて見たのであります。さて私はあなた方に一番初めから見て貰ひたいことは、此の学校の土台である。此の学校の生命は何処から発生して居るか云ふことです。之がわかれば私は、ど一云ふ疑ひがあつても必ずとけると思ふのであります。然るにあなた方の答案に由れば、私の見ただけでは誠に満足するのです。

そして数に於ては少し減つた様であるけれども、女子教育の大勢から言へば、やはり進んで居ると云ふことを喜ぶのであります。あなた方は新に入学なさつた計りであるから、凡ての物事が新しくして何やら落ちつかない様である。夫れで新入学生の注意を集めると云ふことは中々困難であるが、あなた方は大分教育を受けて、物のわかる顔となつて居るのです。夫れだけ意志の力と云ふものが養はれて来たのであるから、折角立てた志を曲げるとか、困難に出合ふて中途から挫折すると云ふ人は余程少なくなつたのである。けれども之を外国の大学に比べると、未だ未だ遅れて居ると思ふ。私がアメリカで一緒に研究した同窓生のことを考へて見ると、そ一云ふものは三年の間に二人か三人位のものであります。途中にて迷ふとか、弱るとか、志を変へると云ふ者は誠に少ないのであります。夫れに比べると日本では未だ中々多い。けれども私は、ど一か皆さんが卒業なさる迄一人も迷ふとか、弱ることなく揃つて進みたいと考へます。

人間の世と云ふものは、此の間も申した様に誠に変わり易いもので、俄に親に先きだたるゝとか、家産が傾くと云ふ様な心配もある。其の心配の中から此の長い手紙を起す人もあります。

そ一云ふのが沢山ござります。あなた方はこ一云ふ人に対しても同情がある筈である。折角あなた方は幸にも志の通り入学をなさつたのであるから、ど一しても此の志はありながら其の望みを達し得ない人々に代つて、充分立派なる人物とならねばならぬ。

其の卒業生の結果によつて、我が国の女子教育も段々と高まる事が出来る。又多くの不仕合せなる婦人を救ふことも出来るのであります。夫れでど一か私は、あなた方が本校の土台となつて居る校風には深い根があると云ふことをお考へになり、又今世の中にど一云ふ反対がある一とも、亦一身上の困難が起らうとも、動かぬ所の信仰としっかりした決心とを以て、熱心なる修養と効力ある研究とを續けて、着々歩を進めて貰ひたいのであります。

[個人と云ふこと]

夫れから此の間私が、皆さんの要求して居る処の実力、渴望して居る処の信仰、精神的生命と云ふ様な根本の生命は何処にあるか、又悲惨なる境遇に陥つても狼狽しない様な命は何処にあるかと云ふと、銘々の内にある。我が内に其の本があると云ふことを、少し申しかけました。夫れを段々おしつめて行くと、個人と云ふことになる。此の個人と云ふ様なこと、或は自分、自奮自修と云ふ様な御経験が未だ出来て居ないかと考へて、少し申しかけたのであります。其の深い意味がおわかりになつたであらうか。ど一であらう。

[身体我及び動物我]

此の個人、或は自分、我れと云ふ意味がわからねばならぬ。先づ我れ、自分と云ふ時に一番わかり易い、又誰れでも人間と云ふ名のついて居る者誰れにでも備はつて居るものと云へば、身体我と言ふ。身体我とは即ち我れの事であるが、元は動物にもあるから動物我とも言ふのであります。

此の身体我と云ふものは、之を或は習慣と言つても宜しい。も一ちゃんと固定して居る、定まつたものと言つてもよい。故に歴史から言ふと、一番古く出来たものである。故に一番低い階級にあるものです。夫れから後に発達したのものがある。夫れは何と言ふのでしよ一か。

1. 身体我 Animal-self
2. 本能我 Instinctive-self (習慣的)
3. 感情我 Emotional-self (一時的、感情的)
4. 知的我 Intellectual-self (合理的)
5. 精神我 Spiritual-self

[精神我]

そこで此間私が、人間の活動は欲望と本能とで動いて居るものが多いと申しましたが、身体我の生活しか出来ぬ、人面獣心であると言はるゝのは、此の精神我に達した人でありませぬ。婦人はど一も感情的である。貝原先生は、女の五病と云ふことを称へられました。

[自知、自動、自と云ふこと]

夫れで先づ、あなた方に大切なことは自知 (Self-knowledge) と云ふことで、其の次は自動と云ふことです。ど一しても働かんければならぬ、行はんければならぬ。故にあなた方の大切なことには、ど一しても自と云ふことがつくのである。自覚と云ふ自分で自分の価値を知ることである。併し此の自知と云ふことはど一して出来るかと云ふと、やはり人を知らねばならぬ。故に第一必要なことは、我れと人との関係、我れと社会との関係を知らねばならぬ。即ち英語で言ふ Personal relation である。人と我れとの関係がついて来れば、之を自知と言ふ。然らば此の自知と云ふものはど一して出来るかと云ふと、我々は物を知ると云ふことが出来る。そ一すると物を弁へ、物を考へてすることが出来る。茲になると知的我に迄進んだのであります。

[精神的自我]

夫れからも一歩進むと、精神的自我である。我々の人格

は其の精神我が発現したものである。此の精神我のわかるものは……

して見ると、あなた方は知的我、この迄の経験はあるが、精神我と云ふものは未だ味って居ないのである。

然るに今日、根本の力を養ふと云へば、どーしても此処迄達せねばならぬ。そーしないと、も一つ大きな我となれぬ。も一つ大きな世界を見ることが出来ないのです。其の以下のものは一習慣となつて居るが、今度は其の以上に進まうと云ふ考へが起つて、人類が手を挙げて来た。けれども宗教も形式になつて了つて、未だ手が届かないのであるが、之がどーしてもあなた方の新しく経験しなければならぬ点であります。

[一番高尚なるものを称して精神、又は意志、或は神と言ふ]

そこで此の一番上の階段に昇つた人が、無論人間と云ふものは昇つた筈であるが、人間と云ふものの中にもいろいろ階段があるのである。其の一番高尚なるものを精神と言ひ、意志と言ひ、或は神と云ふ様な詞を使ふのであります。茲に於て、宗教の問題が起つて来るのである。茲に於て、人間の努力番閥が必要となり、或は犠牲とか克己とか云ふことが起るのであります。

[我々の神は内に在り]

人間と云ふものは、先づ宇内の進化の頂上に迄進んで居るけれども、未だとまりはないのである。之は哲学者や宗教家の中にもいろいろ議論があつて、之を私が今僅かの時間に脱くことは出来ないけれども、今極少数の人間が精神我に進んで来た。其の一方には只快楽、只物質上の樂みを喜んで居る者もある。人間の進歩と云ふものは誠に遅々たるものである。又一方から見れば宇宙の傾向、人間の本性と云ふものは益々上へ昇つて行かう、進んで行かうと云ふ處に在つて、又其處にまで達しなければ、ほんとの安心、根本の力は得られないのである。之はあなた方の余り経験なさらないことでありましょー。宇宙の意志、本体と云ふものは何であるかかと云ふことが、段々あなた方に尋ねられる。其處へ行かうと云ふのであります。其處へ行かうと云ふことは一遍には行けないから、段々お尋ねになることを希望するのである。私は今日あなた方に、我々の神は内に在ると云ふ態度を以てお進みになることを申しておくのであります。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十三年五月十一日

明治四十三年五月十一日

二、三学年実践倫理

過日来、病氣は全快致しましたが、猶ほ回復時機に幾分か無理をしたこともありまして、少し抄々しくない為めに大分欠席を致しました。猶ほ且つ處をかへた方がよかろーと思ひ

まして二、三日鎌倉の方にも行って見ましたが、病氣は治りましたけれども未だ疲労して居りますから、思ひ切つて物をするには宜しくありませんから、今日は成る可く椅子に腰を掛けて居りまして、声を使ふことも成る可く少なく致したいと考へます。

[ブラバスキー]

此の頃、ブラバスキーと云ふ人のことに就いて後日あなた方に御紹介しなければならぬ。

此の人は誠に珍らしい人であつて、仏教を研究する為めに西藏に入り、独り其の奥儀を了解したのみではなく、自ら其の行を勤めて驚く可き一種の精神力を発揮した人であります。同時に此の人は學者であつて、RussiaのPrinceの系統をひいて居る處のブラバスキーと云ふ知事に嫁いだ方である。此の人はSanskritを研究して英語に訳したことを考へても、其の博學であつたことがわかります。仏教を修むるには、どーしてもSanskritから始めねばならぬ。夫れは支那語に訳したものと、日本語に訳したものとあつて、夫れから入るより外はありません。其中に、こー云ふ詞がある。

He who would hear the voice of Nada and comprehend it, he has to learn the nature of Dharma.

此の中でNadaとDharmaとがSanskritである。Nadaと云ふのは無声の声を聞くことと云ふよーなことであつて、Dharmaとは真劍と云ふよーな態度、精神一到、即ち我々の感覺、或は知覚の届くことの出来ない世界、即ち我々の内の一つの目的に集中することを言ふのであります。

其の意味は仏教を信仰なさる人には、よくわかると思ふ。併し私は、此の詞は余程よく我々の修養の道を明らかにしたものであると注意して読みましたから、よく覚えて居ります。併しながらChrist教にも儒教にも、そー云ふ意味の詞はいろいろあります。

Christは、汝等天氣を見て明日は雨が降ると云ふことを知ることが出来るけれども、時のしるしを見ることは出来ぬ、と言はれました。

孔子も、心不在焉、視而不見、聽而不聞、食而不知其味。夫れを意識すれば、我々は聞かずに聞くことが出来、見ずして見ることが出来、食はずして其の味を知ることが出来ると云ふことになる。そこで私は少し皆さんに問ひを發して見たいと言へば、禪宗か何かのよーに聞こえるかも知れませんが、私の態度は先きでは明らかなりますでしよー。

あなた方は不言の言、無声の声を聞いたであろーか。其の兆候の見えかけたと言ふことの出来るお方は……

之れを此の頃の通俗に使つて居る詞で申すならば、時代の精神、或は世界の大勢とか、又は時勢の傾向とか云ふ様な詞があるのです。併し之れを浅い意味に使つて、其の時の輿論とか一時の流行とか云ふ意味に使つてことがあります。けれども私の申す意味はも少し大きい。現代の大勢を支配して居る處の宇宙の精神と云ふよーなものを意味することもあります。之れを私は、以前一つの仮説のよーにして居りました。果して我々は無声の声を聞くことが出来るかどーか。時代の精神に接觸することが出来るかどーかと云ふ考へを抱いたの

は、今から十七、八年前でありました。そ—して、之れは誠である、事実であると云ふことを自分は証明することが出来るのであります。今日の宇宙の傾向を察知することが出来るのである。之れは幾万年の此の世界の歴史の事実、其の記録に由つて、私共は之れを真理として証明することが出来る。又今日は事実を土台として、自分の経験を本として之れを確めることも出来る。此の世界も其の時の現象又は兆候、或は傾きと云ふものは、今日では世界的になつて来まして、其の交通も電信、電話、又は汽船、汽車と云ふよ—な、いろいろの機関に由つて相反響することが出来る様になつて居る。けれども今私の申て居る無声の声と云ふのは、夫れ以上の深い意味がある。人間の五官、或は空気の Ether の媒に由らずして、も—少し深い処との交通が出来る。其の震動に触れることが出来ると言ふことが出来るのです。之れは、近くは十七年来の私の経験を以ても申すことが出来るのです。然らば其の無声の声、其の Vibration は何であるかと云ふことが、又問題となつて来るのであります。

併し乍ら先づ、今日の世界の傾きと云ふものは、ど—云ふよ—に流れて居るであろ—かと云ふことを感ずる者があるならば、ど—云ふよ—に考へておいでになるであろ—か。一す聞いて見たいのであります。

今日はどうかと云ふと、大に其処が変ろ—として居る。否、まう夫れが變りかけて来て居る。そ—して其の人間と云ふものは、ど—しても機械的では満足することが出来ぬ。是非夫れ以上に進まうと云ふ要求がある。近くは皆さんの経験を聞きますが、

物質的満足、身体の欲を満たすだけで満足することが出来るでしよ—か……なし

夫れだけではいかぬ。猶其の以上を要求して居る者は……
……多数

そ—であろ—と思ふ。併し之れも独断的になつてはいけな
いから、いろいろ私が研究致しました処の偉人の経験について御紹介して見たいと思ひます。

其の外いろいろ私は計画して居ることがござりますが、其の中の—つに英語の勉強法もあるのです。

Materialism and Idealism

Dr. H Churchill King says:

Ever more significant is the collapse of materialism. This beginning of the end of materialism among scientific workers themselves may perhaps be said to date from Tyndall's address upon Scientific Materialism in 1868, powerfully seconded by Du Bois Reymond in 1872 and in 1880. The problem is now so much more clearly seen, even from the scientific side, than it was twenty years ago, that probably no defender of philosophical materialism could be found to-day among scientists of the first rank. With these changes may be mentioned, also, the striking development of the science of religion in the last forty years, and of modern sociology, which can hardly be said

to be older than the early writings of Herbert Spencer. The philosophical world is utterly different from that of the Reformation.

The Dematerialisation of matter.

(Delected from Hereward Carrington)

Ever since Lavoisier formulated his law of the indestructibility of matter, which seemed as permanent as the heavens themselves, and which has been held without exception for more than one hundred years, no one had dared question it without involving the ridicule and contempt of scientists the world over. And yet, the new physics asserts that matter is not only destructible, but can be dissociated. In the physical laboratory, we are told, matter can be resolved back into energy, of which it is the manifestation, merely. It is no longer matter, but energy. And science now seriously talks of the materialisation and the dematerialisation of matter! Let me quote from Dr. Gustave Le Bon's Evolution of Matter, one of the latest and most original of these works, in part:

Matter can vanish without return……

Force and matter are two different forms of one and the same thing. Matter represents a stable form of intra-atomic energy; heat, light, electricity, etc., represent unstable forms of it. By the dissociation of atoms, that is to say the dematerialisation of matter, the stable form of energy termed matter is simply changed into those unstable forms known by the name of electricity, light, heat, etc.……

The atoms of all substances can disappear without return by being transformed into energy.

Hereward Carrington says M. Le Bon was led to believe that there is a world between that of matter and that of pure force,— a world of "imponderable matter"

(This reminds us of Andrew Jackson Davis!) And the whole of Book IV. is devoted to "The Dematerialisation of Matter!"

Our spiritual nature, Prof. Rudolf Eucken says in his book "The problem of human life" as follows:

The activities of our life ultimately determine our nature. If our powers are wholly concentrated on outward things and there is an ever-diminishing interest in the inner life, the soul inevitably suffers. Inflated with success, we yet find ourselves empty and poor. We have become the mere tools and instruments of an impersonal civilisation which first uses and then forsakes us, the victims of a power as pitiless as it is inhuman, which rides rough-shod over nations and individuals alike,

ruthless of life or death, knowing neither plan nor reason, void of all love or care for man.

A movement of this nature, the disintegrating influences of which affect so closely the feeling and the convictions of the individual, cannot subsist long without reaction. In matters such as these, the problem is no sooner felt than the reaction begins. Men cannot for long deny their spiritual nature and suppress all concern for its welfare. Their inner life holds its own against all pressure from without; it persists in relating all events to itself and summoning them for judgment before its own tribunal. Even opposition serves but to remind the Subject of the fundamental and inalienable rights of its own inwardness and freedom.

哲学とか科学とか云ふものはさておきまして、あなた方の心底求めてやまないものは、今の無声の声を聞く、も一つ真理を味わいたい、言ひ換ふれば、精神的生活を味はうて、ほんとの人生を発揮したいと云ふことにあろうと思ひます。

夫れでつまり、此の前からあなた方の渴望してやまん処の要求があると云ふことをきゝまして、大体ど一云ふ処にあると云ふことはわかるのです。夫れで、ど一か今年は私共の希望する処に達したいと思ふのです。そこで皆さんがどの道をとってか、必ず其処迄達したいと云ふことを思ふのであります。

其の不言の声を聞くとか云ふ処に行きまして始めて、之れを大悟徹底とか云ふ詞がありますが、そこに始めて光明が見出だされるのである。其の時始めて今の Dharma と云ふ詞がわかり、其の様な経験に入るのである。之れは仏教の詞であるが、其の他の Christ 教にも仏教にも、そ一云ふ詞が見出だされるのであります。

其処に行くには、ど一云ふ道を辿ればよかろうか。其の門に入るには只一条の道がある。それを真直に行くと、其の終点に於てのみ此の無声の声を聞くことが出来ると書いてあります。

之れは二千五百年も昔に教へられた詞であります。只今之れを一寸言つてもわかるものではなく、其処にど一云ふ哲学が考へられてあると云ふことも、追ひ追ひわかるのであります。私が之れを何故引いたかと云ふと、之れは哲学としては大層意味が広い。そしても一つ私が此の頃見出したよ一に思ふのは、此の仮説と云ふものが決して今迄少しもなかったのではないが、始めて自分が見出したかのよ一に思つて居りましたが、此頃科学とか哲学とかが段々発達して参りまして、も一層明らかに解釈することが出来るよ一になりました。そ一して私共のよ一な小供の時から迷信などを信ずることの出来ない者にも信ぜらるゝ様になり、今日の新しい科学とか哲学とか云ふものも、やはり仏教などの流れから出て居るものが多いのです。夫れで私は、将来の宗教と云ふものは斯う云ふ風にならねばならぬと云ふことを十七年来深く研究して仮説を立てゝ居りましたが、昨年 Bolton と云ふ人の説

にも大層感ずる処があつたのであります。いろいろな Movement を見まして、自分は十七年間そ一云ふ説のあることは知らずして、やはり自分の考へはそ一云ふものに触れて居つたのであるかと云ふことを思つたのである。

今日は広く統一することが出来る。そ一して仏教も Christ 教も儒教も、亦我国古来の宗教も其の根本とする処は一つである。故に私は確に之れを統一することが出来ると信ずるのです。夫れでつまり私は、之れからの人生は精神的に傾かんければならぬと云ふことを信ずると同時に、只機械的のものではないと云ふことを信ずる所から、其の精神的団結を作るために、必ず此に於ての信仰者が一致する点に於て、ほんとの結合をすることが出来ると思ふ。そして又其の活動が段々と実際に行はるゝよ一になつたと云ふことを、私は事實に於て信ずることが出来ます。

第一は、も少し其の真理が明らかになつて、皆さんが確信するよ一に導いて行かねばならぬと思ひますが、夫れをするには、あなた方銘々が充分に研究して進まるゝことが必要である。従来は非常に物質的に傾いて居りましたが、終に物質的の議論を破つて、今日の精神界を建設するに与つて力あるものは、東洋に於ては今のブラバスキーの研究した処の仏教、其の他独乙の哲学者が研究を積んだ結果、其の考へが今日、独乙の有力なる唯心論を築く土台となつたのである。

又、Spinoza の Pantheism など大切である。夫れで Spinoza の Pantheism から研究して、Leibnitz の Monadology などをも研究して見なければならぬ。夫れで段々其処へ行くにつきて、成る可く皆さんでお調べになるよ一にと思ひましたが、翻訳書の無いのには困ります。

併し少くとも、Spinoza の Pantheism と Leibnitz の Monadology、此の二つ位は出来るだけ調べておいでになつて、其の報告を聞いて進むよ一に致したいと考へます。

夫れから、夫れだけでは其の道の終点に達することが六かしい。猶日夜、真理を求めて進んで行くと同時に、我々の渴望して居る処の真理を行ふと云ふこと、即ち此の精神的生活をを行うと云ふことが大切である。故に之れを宗教では Prayer、或は神に求めると云ふ、又仏教では行と云ふことが大切である。印度に於きましては今日でも難行苦行して、十年も手を挙げて居るとか、或は断食して全く此の身体を僵化して了つて始めて其処に行かれると思つて居る人もあります。其の難行をして道に達した人もなきにしもあらずであるが、只難行苦行することばかりで達せらるゝと考へるならば、之は間違ひであります。

つまり、我々が内に之れを経験し、内に之れを味ふて實際に其の生活をしなければ、其の道に入ることは出来ないのである。併し我々が其処に進んで行くには、そ一云ふ力を養ふには私共が平生履むべき道を履んで行かねばならぬ、行ふべき務めを行つて行かねばならぬと云ふことを、終りに於て只一言申したいと云ふことが、私の今日の主眼である。夫れは King 博士の言はれた Best を尽せと云ふことと、Star 教授の精神的活動と云ふこと。私は斯う云ふ忠告をして下さつたことを非常に喜ぶのであります。

此の学校へ三度来られて一番気に入ったことは、お茶と薙刀の稽古を見たことであると言われたそーな。我が国の茶道は今では或は形式だけを学ぶ者があるかも知れぬ。けれども日本の茶道と云ふものは、只西洋の珈琲を飲むよーなものではない。私共の小さい時、父親から与へられた刀を腰にさして遊んだ時の心持は実に壮快である。あなた方のお料理をすることも、編み物をする 것도精神的にしなければならぬ。何故、其の刀をさして壮快を感ずるのであるか。夫れには、一種の精神が籠って居るからであります。

正宗の刀が何故に尊いか。夫れには非常なる精神が入って居るからであります。故に常に正宗が刀をうつ時と同じ精神を以て、心をこめて力を入れて立派なる精神に感じ、よい主義を信じてするならば、やはり其処に精神があるのである。労働神聖とは之れを言ふのです。

夫れから整理係が教場をきれいになさる。農芸係が此の校内を成る可く美しく、天然を以て飾らるゝことも必要である。旧約書に山羊の如く、鳩の如くおとなしい動物が群を為して、夫れを小さい子供が導いて居ると云ふことが書いてあり、聖書には天国が此の世界に来ると云ふよーなことが書いてある。之れは只一片の譬喩的のお話ではない。之れは必ず此の世界に Golden age、或は天国と云ふよーな国の来ないことはない。[New England]

私は長く New England に住居したことがあります。此処の動物は日本のとは大層違ふ。少しも鞭を挙ぐるよーなことではない。只声を以て命令すればよいと云ふ風でありますのみならず、其処の State に於ては遣ちたるを拾はずと云ふ風で、私共は子供の時から漢学で習ふて居つたが、ほんとにそー云ふ風をなして居るのであります。

四圍の自然を変へたものは何かと云ふと、人間である。夫れはどーして出来たかと云ふと、其処の人は道を歩く時に草一本生へれば必ず抜いて行く、屑一つあれば必ず夫れを拾って行くと云ふよーにして、又之れはよい種である、育つ可きものであると思へば、必ず家に持っかへつて植えるそーである。私は、そーなつてこそ始めて不整頓はなくなると思ふのであります。

どーか、此の春は猶ほ新しい学生もある時でありますから、最もよく精神的発表を以て全校を導き、益々御進みになることを希望するのであります。夫れから我々かも一層精神的になる、私共の心がも一層深い処に育つて進むと云ふことは即ち、真に私のない、競争心とか名誉心とか云ふ汚れたことのない、真心から真に同胞を思ふ、心から何か人のために尽すと云ふことであります。此の頃あなた方のおきゝになつた青森の大火は非常なるものであつて、未だに数千人の同胞が路頭に迷ふて居ると云ふことであるから、斯う云ふ時には何とかした方がよいではないかと思ふ。夫れも義理とか名誉とかの爲めにするならば甚だ宜しくないから、多少は論じない。只真心を以て貧民の爲めに尽すと云ふ真心があるならば、之れを行ひに現した方がよいと思ひます。

かう云ふときに、何かした方がよいと思ふお方は……

夫れでは早速委員を設けて、一年の方へも伝へてもらひま

しよー。

私共は何事をするにも精神的にせねばならぬ。其の精神的生活を始めて精神界に入ることが出来るのである。故にどーか真理を探求すると同時に、精神的な生活と云ふものを今日から始めて行くと云ふことを希望致します。

[中表紙]

第一学年に於ける御話
明治四十三年五月十四日

明治四十三年五月十四日
第一学年に於て

今日は運動会で、此の時間を用ふることは六かしいであらうと考へましたが、天氣の都合で実践倫理を説くこととなりましたから、今日私は、あなた方の態度を確定したい。之は自動的修養にも大切であるし、且つ私の健康の上にも必要であると考へます。私が未だ疲れて居りますので充分声を使ふことが出来ませんから、成るべくあなた方が注意をなさせて、お働きになる様に。そして問答の様にしたいと考へます。

私の留守中に、キング博士並に Chicago 大学のスター博士が話をしたそーであります。其の英語は皆わかると云ふ訳にはゆきませんが、通弁があつたから大体はわかつたであらうと思ひます。

始めに、キング博士のお話の大体おわかりになつた方は……
……… 其の精神はどー云ふ点にあつたか、一寸答へる出来る方は………

・ 一口に申せば、善は最善の敵であると云ふことになり

ます。

次に、スター博士の話の意味のわかつたお方は………
夫れはどー云ふ風におとりになつたか、意味の言へるお方は………

[知識教育]

皆さんは此の学校にお入りになつて、是迄余り考へなかつた又充分経験しなかつた、も一つ広い方面をお聞きになり又目撃なさり、且、大隈伯、渋澤男爵、森村市左衛門氏、其の他そー云ふ様な経歴のある人に接する機会を得て、其のお方の考へ、並びにそー云ふお方の態度などについて、いろいろ感ずるところがあつたに違ひない。又外国の人も段々此校へ来て話をせられて、そー云ふ新しい空気に触れて、何かの反応があなた方に起るべきであると私は予期して居るのである。此の前も少し、そー云ふ様な事について試みたのでありますが、あなた方は今日迄自分の受けて来た経歴、及び今日の日本の教育の傾きを考へて見るならば、之を先づ知育知識の教育と言ふのである。成るべく多く知る、成るべく覚える

と云ふことです。

[実用的教育]

夫れから、も一つの傾向は機械的教育、或は実用教育

と云ふことになる。実用教育と言へばもっとよい意味もあるが、つまりいろいろな技芸を覚えて、人間を機械とするに必要な教育をするのである。自分と云ふ人格の為でなくして、或る方便、或る機械となる方便の教育、之が世間で言ふ実用的教育のことになるのであります。

[意志教育]

第三は意志の教育、人格の為の教育である。之について必要なことを、キング博士もスター博士も言ふたのではないかと考へます。且つ此の学校へお入りになって、他の学校と少し変つて居る。只本を読むだけではない。行はねばならぬ。只自分の為ばかりではなく、何かを人に尽して行かねばならぬ。又、只物を覚えて居るばかりではない。何かをしなければならぬ。つまり、是迄の学校教育に余り経験のないことを味ふたことと思ふ。そこで私は少し、あなた方に聞いて見たい。我が国の今日の教育と云ふものは、今申した三つの中の何れに傾いて居るとお考へですか。

- ・ 先づ我が国の大体の教育は博識にする、知識の教育に偏して居ると思ふ者は……
- ・ 第二の機械的教育に傾いて居ると思ふものは……
- ・ 人格の為の教育であると思ふものは……

[女徳の第一は柔順]

是迄の教育は、婦人の徳。之は誠に我が国の美風であるから、之をこはしてはならぬと云ふことを此の間も申したから、皆さん誤解はないと思ひますが、此の女徳の第一は柔順である。

[婦人三従の教へ]

然るに婦人に高等の教育をあたへるのは、婦人も人である。不思議な力がある、と云ふ自覚を与へるから、其の結果不柔順になる。そこで女子教育は知らしむ可らず、依らしむべしと云ふ考へがある。そして婦人は三従と言つて、幼にしては親に従ひ、嫁しては夫に従ひ、老いては子に従ふと云ふ風に、何時も人にたよつてばかり来たのであります。

[運命の開拓]

そこで我が意志を養ひ、我が人格を発揮すると云ふことではなく、唯だ人による、始終何かの方便として教育せられて来たのである。故に之れが教育であり、こ一云ふのが我が國婦人の運命であると皆考へて居つたのである。併し私は、是迄幾千年間人類が経験を積んで見まして、仮令女子と云へども他人に依頼すると云ふ考へでは、到底満足することは出来ぬ。ど一しても我が意志を以て、我が運命を開拓することが出来る様にならねば、眞の満足を得ることは出来ぬ。又ほんとの女徳を養ふことも出来ぬと云ふことを、此の間少し申しかけておきましたが、あなた方は其の態度をお養ひになることが出来たでありますよ一が、も一つお母ねをします。私が此の間から申しかけたことには哲学上の深い考へもあり、宗教の關係も其の中にあるのですが、そ一云ふ深い事をお母ねするのではない。其の中で意志と云ふことだけでもわかつた方は……

[宗教につきて]

宗教と云ふことでも、教会に入って儀式を行つて居ること

と思つて居る人もある一。又そ一云ふことではなく、信仰を持って立つことと解して居る人もある一。Christ 教でも仏教でも又は我が国の神道でも孰れの宗教でも宜しいが、自分は一つの宗教上の信仰に生きて居ると言はるゝお方は……

[各自の修養につきて]

又宗教と云ふものには依らないが、自分の修養と云ふものは、一つの主義を以て充分自覚しよ一と云ふ処に迄、精神的に行つて居ると云ふ、其の意味に於て信念を持って居る人は……

大体わかりました。夫れに由つて私の申す意志と云ふことも、多分おわかりになるであらう一。そ一して態度のきまつて居ることは、私の喜ぶ所であります。併しも一つお母ねすることは、其の態度、其の信仰が時々刻々の実行の上に現れて居るかど一かと云ふことであります。之は只修養する、実践倫理の時間、又は其の実践倫理の研究会と云ふ様な時間に於てのみ修養をするのではなく、仮令家に於て煮炊きをする時でも、針を持って縫ひ物をする時にも、其の他課業に出る時にも、筆を持って字を書く時にも、お友達とお話をする時にも、始終其の態度が我々の行ひの上に現れなければならぬ。之を少し具体的に問答して見たいと思ひますが……

[意志の肝要]

其の学問を使い、其の自分の技能を支配して行く時にも、やはり自分の意志を以て意志の支配を受けて行くことが肝要である。此の意志の教育と云ふことは、我々の内にある偉大なる力の本となる。凡て我々の主眼は其処におかねばならぬと云ふ考へを以て、常に此の意志の教育を目的として、人格発現を本として、始終此の意志の鍛錬と云ふことに勉めて居ると云ふことに、お答への出来る人は……

[人格教育の目的を達せしむるには如何なる道を選ぶべきか]

夫れでは私は是れ迄、只物を知ると云ふ教育に欠けて居つた処を補ふて、人格教育と云ふことをして行くには、ど一云ふことが大切であらう一か。其の目的を達するには、どの道をとつたらよからう一か。其処に行く道は、ど一云ふ仕方をしなければならぬか。或はど一云ふ態度をとらねばならぬか。今あなた方の一番大切だと思つて居ることを言つて御覽なさい。

- ・ 常に我が身を反省してまことを追求すべきこと。

其処に行くのに、ど一も甚だ大かしいことがある。今、自分が行きなやんで居るとか、何か困難を感じて居るお方は……

- ・ 感情に支配され易きこと。

今、感情に支配せらるゝと云ふことが出ましたが、感情と言へば誠に広いことで、其の中には苦みもあれば、恐れもある。嫉みもあれば、虚栄もある。之は仏教の方で言へば、其の宗教の御本尊も、人間の総ての苦みは、社会の総ての罪惡の本は皆人間の煩惱であるから、救ふと云ふのは之を退治て克たせるのである、と言はれました。之はChrist も釈尊も同じことである。そこで我々の心の中に苦みがあるならば、未だそ一云ふものに克ち得ないと云ふ証拠であります。然らば皆さんに聞きますが、我々はそ一云ふ欲に克ち得らるゝものでありましょ一か。如何でしよ一。其の欲が自分を虜にする。

そ一云ふものに苦むと云ふことはない。夫れよりも尊い意志が充分あなたを支配して居ると云ふだけに、意志の働きの出来て居る人は……

未だ意志の弱いと感ずる者は……全体

[克己心]

夫れであるから、口に言ふことは易い。本に読むことは楽であるけれども、夫れを人格に現す、ほんといに実践修行すると云ふことは六かしいのである。そこで此の意志を養ふために、昔から克己と云ふこと、己に克つと云ふことを言ひますが、之が極端になって禁欲主義になると、も一間違ひであります。けれども克己と云ふことは必要である。此の克己と禁欲との区別わかっている方は……

[意志並に克己]

此の間、自分と云ふことを言ひましたね。一番低い自我は何でしたか。そ一、身体的自我。夫れから精神的自我迄の間に、本能我、感情我、知的我と云ふよ一なものがある。そ一すると、我々にはそれだけの傾きがある。酒飲みは酒の欲に従って健康を害するのみならず、其の為に職務を怠り、乱暴をする。其の酒の欲を制するのは何であるか。意志である。其のつ一つ一つの欲に克つて、意志を以て支配する。之を克己と言ふのであります。

昔の詞に、一難を経る毎に一倍し来る、と言ふことがあります。我々の勇気は困難を通過する毎に、勇気が倍して来るのであります。夫れを親が姑息の愛を以て育てる時には、物事は出来ぬ。他家に嫁しても家がよく治まらない。何となれば、我が儉であるのみならず、依頼心があって始終親や夫に要求するから、我が身を忘れて家の為に、親の為に、夫の為に、子の為に尽すことは出来ぬ。お釈迦さんでも王の太子と生れ、金殿玉楼に住んで栄華を事として居られたなら、一切衆生を救ふことは出来なかつたのである。然るに世の叫びに応じて我が生れて来た天職を果さんが為に、我が生れた栄華を捨て、王位を捨て、自ら難行苦行の功を積まれたればこそ、斯くの如く大きな人格が現れたのである。其の他 Christ にしても Socrates にしても孔子にしても、皆いろいろな困難にあふて居られる。そ一云ふ様に、意志を以て制御して行くのが克己であります。皆さんもいろいろな困難がある一。けれども夫れに打ち勝つて道理に従ふ、意志の支配に由って生活すると云ふ態度にならねば、到底意志の教育は出来ぬ。夫ればかりではない。やはり満足と云ふこともなければならぬけれども、意志を以て制して行くと言ふ生活も出来ねばならぬ。ど一でありませよ一か。皆さん、我々はそ一云ふ生活も始めて居りますと言はるゝ人は……

始めのうちは困難もありませよ一。けれども夫れが出来る様にならねばならぬ。

[体育に就きて]

夫れから皆さん、体育と云ふことにもお尽しになって居らませよ一が、此校の運動は唯だ体操をすると云ふばかりではなく、体育に由って健康の増進を計ると共に、意志の働きを発揮する様にならねばならぬ。

[意志と筋肉]

夫れをするに、先づ私共の一番気をつけねばならぬことは、此の身体である。我々の身体は全く意志の支配に由るものである。そこで或る人は、Will……即ち我々の身体を建築するものは意志である、と言つて居ります。夫れで私共は運動についても、やはり之を精神的にしなればならぬ。今は宗教の中でも少し形式になったものもあるけれども、たとへば仏教では行をすると云ふことがあって、印度あたりでは、或る行者は十年間手を挙げて居ると云ふことがあります。禪宗には座禅をすると云ふことがあります。我が国の神道には、筋肉を制して深呼吸をすると云ふこともあるのです。宗教には大分、身体の教育をすることがある。之等は、本は意志の働きを筋肉の上に発表すると云ふことにあるので、意志と云ふものは必ず筋肉の上に現れるのである。故に我々が筋肉を支配すると云ふことも、やはり此の意志に関係があるので。故に昔から、此の意志に注意する人は身体の姿勢に注意するのであるから、ちゃんとわかるのであります。

[精神的活動]

夫れからも一つは、我が国の武士道は何であるかと云ふと、やはり意志教育です。其の使ふ処の剣でも、武士の魂と言ふて居る。意志を鍛練すると云ふことは、あの剣を拵へるに、火の中に入れて打ち鍛ふと云ふことから出来て居る。故に只遊び事ではない。真剣になる処に、意志の鍛練があるのである。故に明日運動会をするにも、総てを精神的にすることが大切であります。之が出来なければ、何にもならぬ。夫れで運動をするにも、今話を聞いておいでになる時でも精神的であると云ふこと、そこに人間の尊い処があるので。一寸尋ねて見ますが、

・朝起きた時、又は寝る前に深呼吸をしておいでになるお方は…… 稍多教

・夫れと同時に、声の練習をして居る人は……

[声の練習]

私共の声と云ふものも、亦よく其の人を表すものである。然るに我が国では、此の声と云ふものが練習せられて居らぬ。故に音楽が発達しないのであります。之は語学をする人にも音楽をする人にも誠に大切なことです。故に声を適宜に使ひ、充分に其の意志を発表すると云ふことを結びつけねばなりません。私はやはり、そ一云ふ様な身体の運動に意志の教育と云ふことを成るべく入れて行かねばならぬ。願はくは、あなた方は毎日深呼吸をすると同時に身体をちゃんと整へて、声の練習をなさると云ふことも誠に大切であると思ひます。

終りに一言御注意しておきたいことは、今は氣候の変わり目であるから、脚気の気味のある人は起る時節である。夫れから此の頃、壺扶斯が流行して居るから、斯う云ふ時に食物や住居について注意することが大切であります。私が之れを言ふのは、意志の教育と云ふのは、毎日筋肉の上にも之を行はねばならぬと云ふことを申すのであります。殊に団体の意志を作ると云ふとき、運動会の様な場合から実行しなればならぬ。ど一か之を実行する総ての事を精神的にすると云ふことを、実行して戴きたいと考へます。

[中表紙]
第二、三学年にての御話
明治四十三年五月十七日

明治四十三年五月十七日
第二、三学年にて

[Pantheism]

Pantheism とは如何なるものか、大体のわかった人は……
是は何国の詞ですか。
Greece の詞ですね。

[Deism]

此の Pan と云ふことはど一云ふ意味でしよーか。
Pan=All、Theism 有神論 = God である。
是れによく似た詞で Deism と云ふのがある。之れは有神論
で、之れに冠詞をつけて自然有神論と言ふことがあります。

[Monotheism, Polytheism, Atheism]

其の次に、Monotheism = 一神教
Polytheism = 多神教
Atheism = 無神教

と云ふよーなものがある、神についての説が先づ、ざっと
之れ位あるのです。

[Theism]

そこで Pantheism と云ふことは大体ど一云ふ説であるか、
言つて御覧なさい。

Theism と云ふのは十六世紀に一番盛んに起りました神学
説、即ち Christ 教の有神論であつて、無限の神が無より此の
宇宙を作つたのである。我々人間の靈も此の世界も亦天体も、
神の創造したものである。神は創造者 Creator であり、我々
は Creature である。

神は、此の世界を限りなき力と恩恵と誠とを以て支配する
ものであると云ふのであります。之れが Theism である。故に
神は奇跡を行ひ、黙示を与へることが出来る。旧約全書、新
約全書の如き Bible は神の黙示として信ずるのである。

[Deism]

夫れから Deism は有神論としては Theism と同じことである
が、併し黙示だの奇跡などを与へるよーなことをしたり、又
神が此の人間をこしらへたりしない。神は Natural law 即ち
宇内にある処の永久不朽の自然律を以て支配するものである。
故に Deism は神の奇跡及び黙示を信じないのです。つまり此
の Theism も Deism も等しく世界と神は別である。即ち Nature
の外に神がある。恰も一國の国王が民を統治する如く、又は
運転手が船を扱ふ如く神は此の無限の間にあつて、自然以外
に又は人間以外にあつて、之れを恵み、或は之れを導き、又
は之れを支配するものである。一言に言へば、まーそんなも
のであるが、之れは十七世紀頃から段々に盛んに起つた神学
であります。

[Monotheism, 三位一体]

Monotheism は即ち、一神教である。つまり Trinity を信ず
るのである。神には、父と子と聖靈との三方面があるけれど

も、其の本は一であるとするのである。

[Unitarian]

Unitarian の如きは三位一体を信じない。Christ の如きも
神ではない。唯一つのものである、と言つて居る。けれども
Theism や Deism の如く、矢張其の一身が凡ての原因である、
支配者であると云ふのは一致して居るのである。先づ神は一
つであると云ふ考へであります。

[Polytheism]

Polytheism は多神教で、我が国の神道の如きものは夫れで
あつて、偉い人も神になれば、動物も神となることが出来る
のである。所謂、やほよろづの神であります。

Atheism は、此の宇宙は物質である。機械的の運動に由つ
て出来たもので、決して神聖原理と云ふよーなものがあるの
ではないと。之れが所謂、無神論である。夫れから之れを一
つの力としたならば、ど一云ふものであるかと云ふならば、
Pantheism は即ち Divine principle、神、精神と云ふ考への
一番頂上に上つたもので、Atheism は其の一番下の方である。

必ず Pantheism 或は汎神論と云ふことをおきよーになると、
之れは偶像教ではあるまいか。此の宇宙のものは皆神である。
そんならば之れを神と思ふて尊敬し、或は神と思ふて平伏す
るのも敢て差支へはない。夫れで万有神教と云へば偶像と同
じく考へられる。そーすると、無神論と近くなりはせぬかと
思ふ人はありませんか。

夫れは大変違ふ。汎神論は決して物を拝む宗旨ではない。
偶像教ではない。Pantheism と偶像教とは正反対である。寧
ろ今日は極端に行き過ぎて居るかと思はるゝ程、精神的傾向
に神と云ふ考へを強く、最も極端に Emphasize して居る汎神
論は、凡て神と言ふのです。併し乍ら、決して此の Pantheism
は宇内に多様に現れて居る個々の物、或は個々の力が神であ
るとは言はないのです。之れについて、あなた方のも少し近
い自我について考へて御覧なさい。James 教授の言つたよー
に、My の字のつくものは皆、我であると言つて居る。然らば
私の手は、之れが私であると言へますしよーか。

Spinoza の詞を借りて言へば、My extension and my thought、
我が心と我が身体、其の全体を指して我れと言ふのである。
我が手、我が足の如き、一部分を言ふものではないのである。

斯くの如く宇内の広がり、物質的方面と精神的方面と悉く
其の中に入って居る。否、其の全体の関係から生活して居る
処の Life、之れを Spinoza は盤と言ふ。夫れであるから、
Pantheism と云ふものが決して偶像教でもなければ汎神教で
もないのです。神は無限なる全体である。夫れであるから偶
像教でもなく、多神教でもなければ又無神論でもなく、
Monotheism、一神教でもない。こゝに重要な区別がある。夫
れは Theism 或は Deism は、神と万有との関係は External で
ある。万有以外にあるのです。けれども Pantheism はそーで
ない。神は万有を離れ、或は人間を離れて存在するものでは
なく、神は内在的である。殊に我々の意識の中、我々の
Essence は神の Essence である。故に神を離れて神靈はなく、
凡ての存在の中に神がある。Immanence of god 内在的神と云
ふ。之れが Theism や Deism と異なる重要な点であります。然る

に此の Pantheism と云ふものは近代の神学、哲学に不意に生れたものではなく、遠く Greece にも印度にも Egypt にも現れた処の古い哲学である。殊に印度には今から四千五百年昔に書かれたダビダと云ふ經典の中に、此の Pantheism の思想が胚胎して居るのである。

Greece の Eleatic、其の思想をついで居る Stoicism と云ふ哲学も斯う云ふ思想が本となって居る。故に最近の思想と言ふべきものではないけれども、近代の汎神教の土台をなしたものは之れであつて、其の代表者と見る可きは Spinoza である。

そこで Pantheism の大体がわかつたであらうと思ふけれども、Spinoza から今日迄、如何に其の Pantheism の思想が発達したかを考へ、其の関係を明らかにすることが必要である。

そこで、此の問題を出した所以である。

今日と雖も尚ほ欧米に於ては、宗教の儀式、伝説が勢力を持って居るのでありますが、彼れの出た頃には殊に之れが盛んであつて、此に烈しい反対が起つたのは当然の事でありませう。

長い間、此の Pantheism は異端唯物論と云ふよ一に攻撃、迫害を蒙り、多くの無邪気な人の頭に非常な偏見となつて、汎神論と云ふ名を聞くだけでも面白くない感じを起すこととなつて居ります。そこで大体わかつた人は

- ・先づ我が神は Pantheism に近いと思ふ者は……
- ・Deism と思ふ者は……
- ・Monotheism と思ふものは……
- ・Polytheism と思ふものは……
- ・Atheism と思ふものは……

そこで先づ、近世哲学 Renaissance から後、思想界にど一云ふ大きな潮流が、凡そ三百年間流れて来て居るであらうか。代表的思想は、ど一云ふよ一なものがありましたか。

[中世哲学]

中世紀の哲学は殆んど演繹的であつた。思弁的で非常なる束縛、停滞となり、習俗的となつたと云ふ訳である。

之れに反対して、其の反動として起つた研究法は何でありませうか。

・実証的哲学

其の人は誰れでありませうか。

観察に重きをおき、事実に土台をおいて確實、正確に研究する。即ち帰納的にすることを始めたのは誰れでしよ一か。

帰納的にしたのは Bacon である。客観的に経験的に確實なる知識を得なければならぬ。之れを Materialism, Realism と云ふのである。

[Hobbs]

あなた方、Hobbs も読んだであらう。Hobbs の個人主義は物質論から胚胎して居るのである。

Realism を圧倒して物質論の勢力が甚だしかつたのであるが、Materialism が起つて発達を來したのである。つまり近世の進歩と云ふものは此の経験派の勝利の結果と言ってもよいのである。つまり Bacon は此の派の代表者であります。夫れに反対して、決して侮る可からざる Idealism を発達せしめ

た人は誰れでありませうか。Spinoza が此の Pantheism に至るよ一になつたのは、一番誰れの感化が多かつたのでしよ一か。Bacon の物質論に対して Descartes が之れに劣らない Idealism を主張した。其の本はど一云ふ処にありますか。

Descartes は物、心と云ふことを説いたから寧ろ二元論であるにも拘らず、Spinoza の流れの本であると申すのは、ど一云ふ訳でありませうか。

Bacon は、我、之れを見るがよい。之れを触るがよい。之れを量るがよい。之れを見る事が出来る故に存在す、と言ふのであるが、Descartes は、我れ思ふ故に我れ在り、と言ふ。此の我れ思ふ、即ち意識すると云ふこと、之が實在の根本であります。客観とか宇宙とか云ふことも、其の本はやはり Consciousness であります。今日は Consciousness の研究も Subconsciousness と云ふ処に進みましたが、物質も内面を研究することになつて居るのであります。

又一方は精神上の活動と Matter とが兩潮流となつて今日迄ずっと思想の大潮流となつて、18 世紀、19 世紀に至る迄、Science と宗教と云ふものが非常に矛盾、衝突したのであります。

Spinoza の如きも此の兩方面を統一したのである。其の Spinoza の汎神論が段々発達して物質論と唯心論との二つの潮流を合せて、茲にも一層大きな大潮流を作らんとして居るのである。其の潮流は寧ろ此の Pantheism である。

Pantheism は今日の学説ともなつて居れば、又宗教的活動にも現はれて居るが、併し此の Pantheism と云ふのは宗派的、一時的、人種的の宗教にはあらずして、つまり此の思想は永久的、世界的、統一の傾向であるのです。之れが段々発達して行きまして、世界人類の平和を來す一大勢力となるであらうと思ふ。

そ一云ふよ一な關係からして、先づ Spinoza を研究することが大切になりました。先づ此の近代の代表者をあぐれば Spinoza であるから、先づ之れから研究を始めることが大切であると思ふのです。今成る可く単刀直入に自分達の信仰を作る階段に到達したいと思ふのです。けれども私が非常に恐るゝのは、そ一するとして獨断的になり、或はいろいろ誤解を生じ易いから、少し道理の方から説きたいと考へます。それで科学的、哲学的に進まなければならぬと思ふのである。併し我國の御婦人は理性の働きを以て總ての矛盾を去り、ほんとの調和を結ぶと云ふ働きが鈍いのであります。故に少しくむづかしくても、私はあなた方が深く研究なさることを希望する。そして日頃から、そ一云ふことをお考へになる習慣を作りたいと思ふのである。

そこで、先づ少しお読みになつた Spinoza に入ります。Spinoza の汎神論、即ち心霊と物質とを一つに調和すると云ふ思想の骨子とも言ふべきものは、ど一云ふ点にありますか。

先づ Spinoza の説を読んで、ど一云ふ処をおとりになつたかを私は聞いて見たいのでありますが、断片的に覚えて行くことはやさしくても、読んで行く中には必ず問題が起る。夫れを解決し、統一をつけて又考へが広まって行くことと云ふことが大切である。夫れで私は、も一一遍あなたが自分の頭に、

非常に要求して居る処の Postulate を以て研究なすることが必要である。そーしないと研究が生きて来ないのであります。之れが出来たならば、今後自動的にお進みになる上に大層有益であると思ふ。

Spinoza の骨子になる思想は、大体三つにすることが出来ます。

- (1) Substance 宇宙の実体は何であるか
- (2) Attribute 性
- (3) Mode 様

性に由つて物、心の関係をつけることが出来、様に由つて世界の潮流に合する。之れを、Spinoza の Extension が現はるゝかと云ふことを論ずるので、此の三要点がわかつたならば Spinoza の説がわかり易いのであります。

神の性は完全であり、永久であり、無欠である。其の神の性が波動となつて現れたものが様であるから、其の様は一時的である。故に神の様ではないと云ふことになる。

人間は猶ほ完全と云ふ処に行かない。然らば我々の思想と云ふものは、も一層進まなければならぬ。私共には始終、信仰がある。併し乍ら是れだけで止まるものではなく、毎日毎日動いて完全に進まねばならぬ。其の Postulate が動いたならば夫れが我々の信仰であり、力であり、夫れが人間の尊い処である。故に骨が折れるであろ一けれども、其の興味が出るよ一にならねばならぬ。

誰れかの詞に、我々の読む一番善い書物は何かと云ふと、自分をして最も深く考へさせる本である。そして簡易なる読み物は一番我々をして学に困難ならしむるものである、と言つて居ります。夫れで私は、深く考へる六かしい本を読むと云ふことが誠に愉快である。夫れが楽しみであると云ふよ一になつて、骨は折れるけれども、遂に自分の満足をするよ一な結論をつけると云ふことが出来ねばならぬ。夫れが道である。我々の行く処は天国であるけれども、其処に達するには窄き門より入れと云ふことがあります。

[中表紙]

春期運動会批評会後にて
明治四十三年五月二十一日

明治四十三年五月二十一日
春期運動会批評会後にて

今、塩井、松浦両教授から段々有益な御批評がありまして、孰れもあなた方の参考とすべきことを尽されましたから、此の上余り私が御注意をする必要はあるまいと思ひます。其の上に、今日は時間が遅くなりましたから、小さい人達は成るべく早くお帰りになるがよいと考へます。只一言、今誰れかの仰やつた詞の中で、聞き様によってはど一かと思ふ点について申しませよ。夫れは先日の運動会につきまして、小運動会、準備運動会と言ふ様なことがありますが、之はど一

でありませよ。秋が大であれば、春は小。秋は客が沢山あるからほんとして、春はお客が少ないから準備であると云ふ様にも聞こえはしないでしょ一か。夫れに、あまり小と云ふことはあるまい。小と言へば、そ一大切でないと言ふ様に聞こえ易いのである。故に私は、小とか大とか準備とか言ふのは好ましくない。却つて之は春期運動会、秋季運動会と言ふ様にした方がよくはないかと思ふ。聞く人によってはど一かと云ふ様なことはよして、適当な詞をお使ひになることが必要でありませよ。

[運動会に由つて得たるもの、健康、意志の人]

そしても一言、私はあなた方の健康がど一かであろ一かと云ふことを考へる。運動会に由つて、あなた方の健康は確に増進せられたでありませよ。夫れから日頃言つて居る意志の力、人と共にすると云ふ精神が出来たであろ一と思ひます。殊に之れから夏になつて物が腐敗し易くなる。其の上に、今年には塞扶斯なども中々流行して居る様であるから、そ一云ふものに克つと云ふことが必要である。

[微菌につきて]

第三に注意すべきことは、微菌であります。之れから段々暑くなつて、そ一云ふ菌が発生し易くなると云ふこともあるが、夫れを運ぶ人足とも言ふべきものは何であろ一か。今日の医学者の研究によれば、之から出て来る蠅、又は夜ぶんぶんやつて来る蚊、夫れから蚤などである。此の頃細菌で研究した報告には、一匹の蠅に十万の微菌が居ると云ふことです。そこでチブスの様な腸胃を犯す病気の微菌は、蠅に由つて Milk の罐などにくつつかつたのである。そしてマラリヤ熱とかペストと云ふ様なものは、蚊から来ると云ふことです。夫れで此の蚊とか蚤とか云ふものを防ぐ為、夜具とか寝衣の様なものは成るべく度々洗ふ、且つ消毒によく注意して、台所の悪水などは始終よく流して了つて、微菌などを持ち歩く所の悪虫を成るべく我々の生活する近辺におかない様に絶やすと云ふことが、衛生係、体育係の責任であります。又之から脚気などの起り易い季節となりましたから、殊によく食物に注意して、早くから予防をすること。且つ、そ一云ふ伝染病等の来る仲媒となるものを成るべく防ぐと云ふことが大切であります。之れが学校から始めて、凡ての家庭に行はるゝ様にならねばならぬ。殊に之れから段々氣候が暑くなる時であるから、総てのことを清潔にすることによく御注意下さる様に、私は一言御注意しておくのであります。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十三年五月二十五日

明治四十三年五月二十五日
第二、三学年に於て

Spinoza の Monism を Pantheism であると称へる人と、氏の

説は Pan-materialism であると解して居る人々とある。尚ほ其の以上明らかにする為に、之れを Ideal pantheism であるとする人もあります。あなた方はこの三つの中で Spinoza の説は孰れに最も近いとお考へになるのですか。此外に尚ほ Constrictive idealism と云ふのがありますが、之れは Ideal materialism に近いものである。

Spinoza は、やはり Materialism であると曲解することの出来るよな部分がある。又 Spinoza の説は誠に有情な処がある。無味乾燥なものではない。神を尊崇する所などは有神論にも劣らぬ所がある。故に或る哲学者は彼れのことを God intoxicated man (神に酔ふた人) と言ったこともあり、彼の説を Ideal pantheism であると取る学者もあるのです。

併し之れはよく考へないと却って其の真意でないよな、自分勝手に彼の説を拵へて行くと言ふよなことになるのである。さて、此の間一寸申しておきました、Spinoza の Substance について先づ始めに聞いて見ましょー。

(1) Substance (神の本体)

あなた方は此の Substance と云ふことをお調べになって、どー云ふ風にお解しになったのですか。又夫れについて、どー云ふ考へを得られたのでありますか。

- | | |
|---------------------|---------------|
| ・ 自存 Self-existence | 自因 Self-cause |
| 自由 Freedom | 永劫 Eternity |
| 唯一 Unity | 完全 Complete |
| 無限 Infinite | |

夫れでは此の Substance については余り説き明かしを要しなと思ひますが、Spinoza の此の考へが銘々の確信を強くし、社会の風俗を改むるのみならず、近世哲学に非常に貢献した処は何でありましょーか。

人生問題で一番大切なものであり、そーして其の信仰に由って我々の永久の運命にも拘はるものは何でありましょーか。

- ・ 宇宙の本体は何であるかと云ふことであります。

[本体を知ることの必要]

そーですね。宇宙の本体、或は平たく言へば、神は何であるか。其の神と我々とはどー云ふ関係のあるものであるかと云ふことがわからねば、我々の運命と云ふものも定まらない。又ほんとの人生の意義を全うすることも出来ないであります。そこでつまり自分と云ふものをほんとの一に解決しよーと思ふならば、どーしても本体と云ふものを明らかにして行かなければならぬ。必然的要求である。故に昔から如何なる変遷を経ても此の考へを根本から抜くことは出来ぬ。従って之れは誠に大切なことであります。然るに若し之れが間違ふ時は人間の信仰を破壊し、活動を停止し、非常なる不幸に陥るゝことも出来れば、大なる幸福を与へることも出来るのであります。

そこで人間が淋しく感じたり、つまらなくなったりするのは、やはり学問が上滑りをしてほんとの処に行かれないからである。

故に Science でも Art でも、其の他あらゆるものが何故に非常に努力奮闘するかと云ふと、やはり其処に達したいからであります。

Theism の云ふ処は Personal God の陥る処の神 Immanence of God と云ふことに帰するのである。夫れが一番六かしい問題であります。

此の Personal God は God of race 或は God of lecarity であり、或は God of period である。Immanence of God は果して神でありましょーか。之れは即ち、Christ 教で言ふエホバの神は其の当時の猶太の神であると同時に、又家族を保護する神である。夫れであるから其の神は帝王のよな、親のよな、又は聖人のよな、非常なる学者のよな、又人間の意識のよなものであるとする信仰であったのであるが、彼の Spinoza が出て其の衝突を打破したのであります。

Spinoza は、神は Intellect、考へるとか知識とかではない。又 Will、物を意志する様なものではない、と言つて居る。何となれば、我々人間の知識と云ふものは我々五官、感覚から出来るものである。即ち我々の中に単純から複雑に成長発達するものである。我々の概念は我々の知覚から抽象したものである。我々の直覚は時と場所とに限られるものである。然るに無限の神、即ち神学者の言ふ処の神は、知らざる処なきものである。其の全知全能の神に向つて、人間の知覚し働いて居る処の性を帰することは出来ぬ。若し神を斯くの如きものとするならば、やはり神を偶像化するのである。

次に考へること、人間の物を考へる、思考すると云ふことは、自と他、即ち主観と客観との争ひから起るものである。然るに神は主観、客観と云ふよな、即ち神に対する処の自我以外に対象と云ふものはないのである。故に神は全知全能で、出来ないと言ふものはない。故に其の仕方を考へる、即ち人間の考へると云ふよなことが、神の生活ではない。我々の直覚は時間と場所とに限られる。けれども無限の神は其の時に一時に場所と時間との制限を超えて、過去、現在、未来凡てを一目に由つて観ることの出来るものである。故に神の直観と人間の直観とは違ふのである。又我々の意志の本は我々の衝動の集つた処の欲望である。其の欲望を統一した合理的意志である。即ち互に動機の衝突した処に起る必要、不足、制限に克つ処が Will である。けれども神には、そー云ふ欠乏、不足はない。完全無欠である。故に我々の知識に由つて、神は斯くの如きものであると考へることは出来ないのである。

[道徳的品性]

又人間の道徳、品性と云ふものは Self-control 又は節度、勇氣。此の勇氣と云ひ、自制と云ひ、節度と云ふものは我々の中に在る処の恐怖心、及び欲望心から出て居るものである。又我々の品性は公平、慈悲と云ふよなことである。此の公平とか慈悲とか云ふものはどー云ふものかと云ふと、我々の個々の欲望を犠牲にする、即ち克己と云ふよなことから出来るものである。之れが即ち、人間の徳とか義務とか云ふものである。然るに神に斯くの如き部分的欲望又は恐怖心と云ふものがあるかと云ふことは考へられない。然らば神に人間の義務とか徳とか云ふものを帰することは出来ない。若し神をして斯くの如き性情にしよーと思ふならば、神が人間とならねばならぬ。

[Theism と Pantheism]

然るに、此の人間性を神に帰することは神を偶像にするのであると主張した Kant が、神に限った性をつけると云ふことは又少し人間くさいのであるけれども、Pantheism と Theism とを比較するならば Pantheism は遥かに優れて居って、Theism の方には偶像的の分子が多い。然るに神は斯くの如く、今迄人間の宗教に伝はり来って人間と同じよーに見る。之れはどーしても人間が自分の経験に比べ、人間の知識を推理して神を見た考へであるから、余程人間の如きものとなって甚だ小さい部分的のものとなって、そして其の不完全なる考へから迷信的のものとなって神の実現を妨げたことも沢山あるが、ほんとの神はそー云ふものではなくて無限なものであり、単一なものであると云ふ説である。も少し之れをよく考へ、よく研究するならば、も少し大きく、も少し積極的のものとなって、も少し人間の力をのばすことが出来るのであります。未だ之れでは説明が足りませんけれども、Spinoza の Attributes 即ち神の属性の処で委しく説明するならば、了解することが出来るであります。

(2) Attributes (神の属性)

Spinoza の説に由れば、神の属性は二つあると云ふことであるが、夫れわかちお方は……

Infinite attribute 無限性は、即ち神の Essence=終局の本質である。其の無限性には二つあって、一は Extension 広がり、一は Thought 意志である。之れを広く言へば、歴史と万有。近く言へば、我々の身体と心とである。夫れから Spinoza は此の本性の各無限性は Relative infinite 相対的無限、Absolute infinite 絶対的無限であると分けて居る。Descartes は二元論であるが、Spinoza は Parallelism 即ち平行説である。今日唯物論はも一行はれないけれども、此の平行説は中々盛んに称へられて居ります。即ち宇宙を拵へる本源は一つの物に両面があるのである。故に Extension のある処には必ず Thought があり、Thought のある処には必ず Extension がある。詞を換へて言へば、身体のある処には必ず心があり、心のある処には必ず身体がある。物質のある所には必ず精神があり、精神のある所には必ず物質があると云ふ説で、之れを Spinoza は Relative infinite と云ふことに由って説明したのであります。

然らば、此の Absolute infinite とは何を云ったのでしょーか。わかちお方は……

此の神の本性は絶対的に無限であつて、絶対的に完全であり、絶対的に制限がないのである。そこで之れに由って本体の両方面を統一して之れ迄の矛盾を除き、是れで以て一元論を立てたのであります。Spinoza の一元論について不審のある者は……

無論、人間の経験は有限であり、神の実相は無限である。故に此の有限であり部分的であるものが、無限であり完全であるものを Comprehend することは六かしいのである。故に私は Spinoza の考への中に誠に尤もな処もあるけれども、此の本性を全く二つのものとするのは出来ぬと思ふ。夫れは人間の知識を以て知り得ざる処のものが無数あるに違ひない。

けれども之れは人間の経験し得ざる処であつて、我々は今日知り得るだけを知るのであつて、茲に人間の進歩、向上の余地があるのです。故に之れは人間の知識を纏めた処の神の本性と云はねばならぬ。其の意味で神の本性は二つあると云はれぬこともないのであります。

さて Spinoza の哲学を云ふと共に、彼れの実行、修養の方面をも同時に研究して行くことが必要であります。夫れで Spinoza の倫理的修養の跡を尋ぬるために、先づ Spinoza の詞を一ヶ条だけ申しましょー。

Spinoza recognizes no other absolute good for man than knowledge and the intellectual love of God as the beginning and the end of life and the energy all that is.

神を知ると云ふこと、即ち此の本体の知識に必ず伴ふて来る処の理知の愛、つまり神を知ると云ふことと神を愛すると云ふことより以上に人間の絶対的善はない。換言すれば、人生は神を知り、神と合致すると云ふことにある。即ち之れが、此の凡てある物の生命と勢力との始めであり、終りである。

Every other so called good may be good at one time, but at another good for one man but bad for others.

其の外の善と名づけて居るものは一時善いかも知れぬが、他の場合には悪となることがあり、一部の人によくても亦他の一部の人には善くないこともあるのである。

This alone is self-complete, self-communicable and diminished by the participator of others.

是れ丈けが自分で仕上げる事が出来、自分で交通することが出来、又、人と分つて少しも減ることのないものである。此の他のものは自分によいと人にわるくなつたり、又人に妨げられたり、傷つけられたりすることがある。けれども之れだけは天下何物も妨ぐることなく、又何人も嫉む、或は傷つけることはしないのである。

Spinoza の伝を読み、又 Spinoza の修養法を觀察して参りまして、何処に彼れの生命があり、どーして宇宙の光りに接触することが出来たかと云ふと、此にある。我々の今非常に要求して、どーしても行かうとして居る処は此処である。私共が何故、神を知ろー、本体を研究しよーとするか。ほんとの一に之れを知るならば、どーしても愛せずには居られない。此に至つて始めてほんとの一の精神の力を發揮することが出来るので、之れを我々はしよーと云ふのであるから骨が折れる。けれども之れは誰れでも求められ、誰れでも逢ふことの出来る道であります。故に私共の目指して居る処のほんとの一の修養を積まうと云ふ為には、此の道より他はない。此の修養法は Spinoza でも、ほんとの一 Christ 教でも、ほんとの一仏教でも必ず一致する処であつて、真の満足安立の宝庫はも一こゝにしかないのである。

私共がどーしても其処に行かんければ、真の人生を味ひ、人間必然の性を全うすると云ふことは出来ないであります。故に未だ充分了解は出来ないであろーけれども、あなた方が微かにでも其処に達しよーと云ふ態度を以てお進みになることを希望致します。

次は Mood と Leibnitz を調べなくてはならぬ。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十三年六月一日

明治四十三年六月一日
大学部二、三年に於て

此の週間も引き続いて六つかしいと云ふ困難に戦ひ、障害を退けて出来るだけ調べもし考もして、熱心なる研究的態度を続けたと云ふことが出来たか、或は試みたが中途にして挫折したと云ふ方と二つの傾向があるかと思ふ。つまり私はあなた方の傾向をよく知ることが必要である。そーしないと折角骨を折つても空を打つことになりますから。

- ・熱心に研究を続けることが出来たと思ふ人は……少数
- ・出来なかったものは……

此の前に、第三の様、英語で言ふ Mood、其の Spinoza の意味のわかったお方は……

明らかにならぬお方は……

是れに就いて何か問題のある方は手を挙げて御覧なさい。

そーすると今研究しよーと思ふて、又皆さんに夫れだけの要求があると思ふて此の問題を取りました。然るに此の問題は六かしようて齒が立たぬと云ふことである。之れはどー云ふ訳でしょーか。あなた方は無能力で、そー云ふことはわからないでしょーか。或は、あなた方は未だそー云ふ深い問題は考へられないでしょーか。或は、あなた方の要求はそー云ふ高尚な処迄は進まないであろーか。然らばあなた方の要求は、果して何であろーか。毎日何をして居るのであるか。其の真相を知る為めに、私は皆さんの反省を促すのであります。

・力がない為めに、そー云ふ高尚なことには齒が立たぬと思ふ者は……

・然らばそー云ふ精神、深い修養、生涯の目的とか、我が責任、国民としての義務、そー云ふことは一向我々には興味が無い。目前のことを考へるより他に興味はない。物質的の趣味の外は、そー云ふ根本の問題を研究するよーな興味は薄らいで了うて居ると云ふことでありましょーか。若しそー云ふことならば、私はもー一度力の入れ所を改めてかゝらねばならぬ。そー思ふ者は手を挙げて表して貰ひたい。

そーでもない。然らば三年間哲学も学んで来た。科学の頭も出来て居る。向上心もある。又我が国女子の魁とならなければならぬ。そー云ふ責任のあることも知って居らるゝ。そーであるのに、仮令本がないにしても、そー云ふ深い思想は考へられないと云ふ程幼稚なものとは考へられない。

我々は此の長い間苦心をして、どーしても我が国土に発生し得なかつた種を漸うにして培養し来た途中、あなた方に至つて殆んど根絶しよーと云ふことは考へられない。然らば、何故斯く迄に元気を失ふたかと云ふことをどーかして見出したい。夫れを反省することも出来ない程に魂の鈍つた者があろーとは思はれない。あなた方は精神とか修養とか云ふことは真面目に考へられなくなったか、ちやかすよーになったか。現実、肉欲、利益、虚栄、斯う云ふ刺激を与へるよーな文学

などを楽しんで、所謂世間の俗人と同じよーに其趣味も要求も変つたのであろーか。我が国の母、国家に対する我々の責任とか云ふよーなことは一向つまらない。出てからどー云ふ職業につくか、卒業生はどー云ふ処に嫁いで居るか、誰れは月給を幾ら取つて居るかと云ふよーなことにしか興味がなくなつて、全く俗化して了うたのであるか。昔はそー云ふよーなことを言はれるとじつとしては居られなかつた。も少し着実に深刻に無邪気であつた。然るに今日は、そー云ふことは一向感じない。是れ迄の学風から言へば、時として利己的な我が儘な人間も勢を得るのであるけれども、組全体はどーかして夫れを改めさせよーとして苦心したものである。校風である。即ち校風の良心が未だ其処に生きて働いて居つたのであるが、之れはどーであろーか。あなた方は今年にお上りになつて哲学の深い問題にとりかゝつて居るが、夫れにも拘らず、一向元気がない。深い問題を真面目に研究することが出来ないのはどーも不真面目になつた、興味が物質的に下落したとお考へになるのでしょーか。あなた方の実際の所を言つて御覧なさい。

・飢え渴く如き、熱心の足らざること。

無論、大したことではあるまい。私は此の間迄、あなた方を信じて居りました。あなた方に於て校風が後戻りではない、完成するであろーと思つて居つた。けれども、もー一つ熱心が足りないと思ふことであろーと思ふ。夫れから無論、あなた方に過日来説きました問題を充分に解釈が出来よーとも思はぬ。併し私は、あなた方には根本の処に進まうと云ふ要求があり、夫れだけの熱心があるであろーと考へて居りました。昨夜以来、私はあなた方の傾向を考へて、どーしても六かしければ問題をかへよーとも考へました。けれども亦、たとへ六かしくても極少数でもよーから、此の校風にそー云ふ根本の根を下ろしたいものであると考へました。

夫れで、どーしてもこゝに Concentration が大切である。どーでありましょーか。あなた方の中には Christian の方もあれば仏教信者の方もありましょーが、其の祖師の方は皆、そー云ふ境涯を終られたのである。故に今日でも仏教の業を修むる者は坐禅を組むとか、断食をするとか云ふことがある。独り仏教信者でなくても、我々が深く物を考へる時には二日も三日も寝食を忘れて、其の解決のつく迄考へることがある。断食と云ふことは、そー云ふ時に起る人間の経験である。仏教で業、Christ 教の祈りをする時には、必ずそー云ふことが伴つて起るのであります。

私共の言ふ精神は禁欲主義ではないが、真に人間の深い経験につれて真理を本とした処に立つて行かなければならぬ。それで一つ奮闘努力して、どーしても目的を達しなければやまぬと云ふ決心をしなければならぬ。

Spinoza が本体を、

(1) Substance (本性) (2) Attribute (神の無限性)、夫れを二つにして、Extension 広がり と Thought 思想 と二つに致しました。

第三を Mood、final cause。個々の Being は本性から変化したよーであると云ふことを考へて居ります。其の意味をど

一おとりになつたでしょーか。此の Spinoza が無限の神に対して性を附すると云ふことは困難であると云ふ説も既に性の処で起りましたが、夫れと同じよーに、個々の実体は神の変状であると云ふことは受け取れないと云ふよーな毎ねもありました。

個々の現象は皆、神の現れであると云ふ考へがある。然るに此に人殺しがあるとすれば、此の人殺しと云ふ悪も亦神から来て居るとすれば、其の神はやはり悪の原因でもある。故に神は愛なりと云ふ考へとも矛盾して了って、悪とか醜とか云ふことも人間には責任がなくなつて来る。何となれば、我々自身が原因でないから。併し事實は、そでないことがある。夫れは我々にはどーしても自動的な処があつて、我が行為は我れ自身責任を負ふべき義務がある。も一一つは、原因、結果は必ずしも神から来るのではなくて、個々の事物から起ることがある。故に Final cause 終局の原因は神であるが、個々の現象の原因は個々の現象から来ると云ふことは疑問であると云ふことは、尤もな考へであります。

個々の現象は悉く此の Substance と名付くる本体の変状であると云ふことの意味はわかりましたか。

例へば我々の言ふ動靜、之れを物質界に於る変化と言ひます。これは神の Attribute の Extension 其の拡がりの変状、即ち Modification of extension of the substance と云ふこと。其の Extension の無限様の、無数の有限の継続を物体と言ふ。此の動、即ち無限様、即ち神の変状有限の物体は無限であり、無数である。そこで科学で確定することの出来る事實は、此の宇宙は動である。万有は震動である。此の震動は永遠無窮である。此の動の流れが物質である。個体となつた地殻の如き、或は我々の住んで居る煉瓦の建物の如き、少しも動く物ではない様であるけれども、其の一番近いものは Molecule と言ふが、其の Molecule を始めとして Ether と云ふものなどは始終動いて居る。夫れから奥に行く程動いて居る。故に個形体程、其の動が少ないのである。故に其の動は只流れて居るのみではなく、必ず渦になっているいろいろ複雑なる Cycle である。之れを指して個体と言ふのである。其の波動の本の力は何であるかと云ふと、之れが即ち神である。つまり此の現象と云ふものは、其の動の力と云ふものは何かと云ふと、其の実体は神であると云ふのです。

夫れから其の物質の外に、精神界、意識界と云ふものがある。其の感情とか理性とか云ふ意識の世界がある。

之れは Thought の四圍の無限様の有限の継続である。つまり、此の無限様が有限の環線となつたものが即ち我々の人格である。そこで万有の個々の形体並びに意識は、其の大原因は神、即ち本体であると云ふのである。併し乍ら、我々が感ずる、我々が思ふ、我々が意識するとか、物が落ちるとか、物が変わるとか云ふ個々の現象の原因は、個々の物にある。例へば、こゝに水素と酸素とあれば、酸素は水素の Environment であり、水素は酸素の Environment であつて、お互に引きあふ。こゝ云ふ風に、お互の原因はお互である。地球上の総ての物の原因は太陽であるよーに、我々の感じたり思ふたりすることの原因は必ず個々であり、又個々の内にあるのである。

我々が人を殺すとか、人に親切をするとか云ふことは個々の Activity であり、個々の自由である。然らば人間が自動的であり、自由であるならば、何故に神があるか。之れは深い問題である。

之れを説き明かすに Spinoza は、此の全体の変状したものが、つまり個々の現象であると云ふ風に、一元に土台を置いて其の中に多くの差異を認めたのである。スピノザは不幸にして四十五、六才で早く死にました。けれども私思ふに、彼れの目的は The unity in difference 差異に於ける一致、無数に於ける単一と云ふことになる。故に Spinoza はやはり、特殊と云ふことを認めて居る。詞はやゝ弱い処もあるけれども、深く考へれば確に之れを認めらるゝのであります。

[Monad]

然るに之れに反対して起つたのは、Leibnitz の Monad 原子論である。Monad は単一である。其の独立して居る個体が組み立てられて、完全なる宇宙を成して居るとする。然るに其の個体は神に由つて創造せられたものであるとする。Spinoza は、個体は神に創造せられたのではなく変状であるとする。其の原子論も今日に於ては大に発達をして来たのであります。[Spinoza と Leibnitz]

Spinoza は万有を一元論とし、個々の現象は其の変状の波動であるとしました。けれども Leibnitz は多元論を本として創造説を称へた。つまり之れは個人主義であつて此の両説は一見正反対の様であるけれども、深く考へるならば、孰れも確にあることである。我々が哲学に於て此の両説を考へて、大きい統一を求めんければならぬ。

Spinoza の Pantheism の方は非宗派的の哲学的で、世界的宗教の様に発達する傾きがある。

Leibnitz は Catholic 派のよーな宗教的で、且つ旧教と新教とを調和、統一しよーと云ふ傾きがある。

Spinoza の神は非人格的であるけれども、Leibnitz の神は人格的に神になり易いのである。之れは私の余程説かんければならぬ処である。宇宙の活動である処の実体は Personal God であるよーな処もある。又其のよーな実証をも挙げる事が出来るのであります。Leibnitz の Monadology から段々発達して参りますと、人間の心に要求する、Christ 教信者の要求して居る処の人格的神があると云ふ信仰も出来得るのである。此の間私が申したことに由ると、祈りのよーなことも無用視するよーにきこえるかも知れない。けれども未だそ一速断するものではありません。之れ等のことを説き明かすには非常に多くの時間を要するから、之れは他日又申すことに致します。

次には、其の説き明かしと、近世の Pantheism と Constructive idealism などに就いて申さねばならぬが、併し哲学の方ばかり申すならば、實際の修養の方面が後れると云ふ嫌ひがあるから、終りに少し修養に関係する方面を一言申しておきたいと思ふのです。

私共は Christ 教を信ずる又は仏教を信ずると申しても、只其の教義を解釈するのでは、ほんといに其の奥義を解することは出来ぬのみならず、我々人生にとって何の価値をも生じ

ない。私共が Christ 教を信ずると言へば、やはり其の根本の Christ を知る、Christ の人格を知ると云ふこと、Christ の感化を受ける、Christ の生命を授かる、つまり我々が Christ の宗教的経験、Christ の真理を味はなければならぬ。Christ の如くなる、Christ の如き人格を養ふ、Christ の如き立派なる精神を発揮する、Christ の如き立派なる力、己に克ち、世に勝ち、疲れたる者を息ませ得る処の Christ の如き力を養はなければ何にもならぬ。つまり Christ の如くならねばならぬ。又なり得るのである。Christ は、我を見る者は神を見たのである。我は神の子なり、と言はれた。我々も等しく神の子である。疲れたものはおいでなさい。私が力を回復して上げよと仰せられた。其の力を得なければ何にもならぬのであります。

又仏教を信ずるのもそ一である。Spinoza の経験と釈尊の経験とは余程合致した処がある。そこで仏教信者から言へば、其の本尊さんが行ふことが行へる、其の安心立命することが出来る、其の世の中を救ふた処の力が出来ると云ふことでなければならぬ。

斯くの如く我々が哲学を研究するにも、Spinoza の哲学を研究するにも、必ず夫れから得なければならぬものがある。即ち Spinoza を学ぶと云ふのは Spinoza の生活を自分で為し得る、Spinoza の安心及び Spinoza の幸福を私共も其の行ひ、其の修養に由って出来ると云ふことでなければならぬ。宗教を起した人、哲学を組み立てた人は只知識のみではたない。無論、知識に由って真理を研究するのであるが、やはり其の人格を信じ、其の行ひにならねばならぬ。生きた人の感化を蒙る迄に至らんければ無益であります。夫れで Spinoza が斯くの如き偉大なる仕事を成就したのも、やはり彼れの精神であり、彼れの人格であり、彼れの行為である。又 Leibnitz が近代の哲学に非常なる貢献をし、宗教の発達に感化を及ぼしたのも、其の一番の本はやはり其の人の人格と云はうか、其の人の行ひと云はうか、其の生命にあるのです。故に此の間も申したよ一に、Intellectual love of God に迄、達することが必要であります。

Leibnitz の主義は、Everything hold the best in the possible.

即ち、可能的世界に於ける最善の為であると云ふ説である。これを見ても、Leibnitz が行ひの人であったと云ふことがわかる。Spinoza は一見すれば Hegel の如く主知説の様に見える。けれども彼れは寧ろ主行説である。彼の Intellect と云ふのは、つまり生命と云ふことであり、行為と云ふことである。そこで Intellect と Will とは一つのものであると云ふことになって居ります。夫れであるから、Spinoza の生涯の目的、又彼れの説のつづまる処は実践的である。彼れの所謂罪惡は余程問題になる点であります。彼れの目的は自分の中にある罪から救ひ出して、真の自由を得させたいと云ふことです。此に至っては Christ 教も仏教も將た Spinoza、Leibnitz の哲学も同じことである。釈尊は人間の総ての罪惡の本は煩惱である。情欲である。故に之から人間を救ふと云ふことであるが、其の情欲の本は何であるかと云ふと、Spinoza も

Christ 教も仏教も一つであつて、愚痴、迷信、過誤、之れが即ち人間の情欲、病氣、失敗の本であつて、凡ての人間の不幸は皆之から起るのである。Spinoza の悟りの目的は其の罪惡から人間を救ふと云ふことである。ほんとの心の自由を得て、永久不朽の信仰を確立すると云ふことであります。そして之れを只学説として称ふるばかりではなく、ほんとの美しき経験となつて居る。其処を我々が学ばなければならぬ。確に我々が Spinoza に学んで行けば、夫れを確取することが出来ると思ふのであります。

[知の三階 第一]

さて、Spinoza の知と云ふことには三つの階段があつて、第一を Sensual experience 感知（感覚から来る処の知識）。

混雑したる觀念、迷ふて居る説、情的の想像。彼れは只愚説であり、伝説であり、不明瞭な觀察であると言つて居る。つまり感知と云ふのは快樂を食ひ、世の富貴、利達を欲する、所謂俗人の考へて、其の中には沢山な誤りがあり、矛盾があるのです。

[第二 Reason]

第二に Reason、理知と言ふ。之れが即ち、哲学或は科学から拵へる処の総合的知識である。此の知識に由つて全体を知ることが出来、普遍的な法則を見ることが出来る。此の理性に由つて律して行つて、始めて誤りなき判断、行為が出来るのであります。

第三は Highest knowledge、靈知と言ふ。之れは宇宙の实体を知り、物の本体、万有の真髓を知る処の、即ち宇宙の究極的神聖原理を感知する。即ち靈知である。之れに由つて始めて自分と本体、即ち神とが合致するのである。之れが彼の所謂 Intellectual love of God で、之れは只だ五感に由つて得らるゝものではない。其の感知を統一し、其の哲学からも一つ高い処の Postulate、即ち信仰を築いて、も一段高い処に行つて始めて私共は神を見ることが出来る。Christ 教の方では之れを聖靈と言ひ、仏教では靈知と言ふ。つまり此の間申した、無声の声を聞くことが出来るよ一にならねばならぬ。其処に達して始めてほんとの限りなき命が得られ、真に我々が満足することの出来る処の深い生命を味はふことが出来るよ一になるのです。

私共が真に此の経験を味はなければならぬ。其の靈知が得られ、靈眼が開けなければ、ど一しても私共が其の靈体を見ること、其の靈体に合致することは出来ぬ。之れは誰れでも出来る。ど一して出来るかと言へば、やはり修養である。之れが得られて始めて満足が出来、病氣をも治すことが出来るのであります。

私共はど一しても、骨を折つて Highest knowledge 迄進まねばならぬ。其処へ行くには、ど一しても Leibnitz の Monadology も必要である。Christ 教から言ふも、又仏教からでも科学からでも、又文学の立場からでもよいのであります。つまりどの道を行くにしても、其処に達するのが我々の目的でなければなりません。

[中表紙]
第一学年に於ける御話
明治四十三年六月五日

明治四十三年六月五日
第一学年にて

[疑問につきて 本校の実際と世評との異なる点は如何]

・ 疑問につきて

(1) 此の学校の実際と世評との異なること

先年、文部省の某課長も白根君が此の学校を見て来られて、ど一も評判とは違つて質素であると話されたと言ふて居られた。其の後、小松原文相、松村普通学務局長も来られ、又視学官も二、三日此校に来て、大層評判と実際とが違ふと云ふことである。そ一すると余程世間では此の学校を華美なもの、或は生意気な学校と思つて居る様であるが、ど一云ふ訳で此の学校でして居ることと反対のことを世間では言ひ触らして居るのであるかと云ふことが、皆さんの疑問となるのは当然の事であります。本校の校風は決して華美ではない。又生意気でもない。けれどもそ一云ふ噂の起るのは、偶々ときの校風に同化しない、夫れに一致する行ひが出来ないと云ふ者がある。そ一云ふものは到底此の中に居ることは出来ずして直ぐ出るから、此校の感化を受けないものと言つても差支へない。殊に第一回生は今から十年前、始めて女子高等教育の門戸を開かれたので、長い間地方で待つて居つた人々が来ましたから、随分年もとつて居るし、玉石混淆を免れなかつた。けれども卒業する迄には略ぼ精選することが出来たのです。あなた方の疑問は、何故の実際と世評と違つて来るかと云ふことが疑問であるけれども、違ふのが実はほん一とである。処があなた方は自分の生れた郷里に又文部省で規定せられた通りに、無事に其の業を卒へられたから平穩でありましょ一。けれども少しでも進歩しよ一とすると、そ一はいかぬ。

[社会より受くる困難]

昨日も或る女学校長の話に、夫れは、其の学校で靴を用ふることを自由にした所が校長は、戊申詔勅に背いて学校に華美なことをさせる。又夫れを許すならば女生徒各々が靴を買つて下さいと両親に頼む様になつていけないと言つて、非常に攻撃せられたと云ふことです。之は私共から考へると何でもないのであるけれども、中々世間はやかましいものである。今文部省から示されてある実科と云ふ様なものを授けて、毎週十八時間も裁縫をさせると云ふ様にすれば非常に人気はよくなるのであると言つて居られました。けれども夫れと少しでも違つたことをするならば、一步踏み出だして進めよ一、改めよ一とするならば、いろいろ自分の中には互に衝突が起る。世間にも心を汲みとるものはない。之れは何時でも我々が改善を試みよ一と云ふ時に、必ず受けんければならぬ試みである。経験である。夫れよりも猶恐るべきものは、人間の競争心、嫉妬心であります。之は私が三十年間女子教育に従事して来た処の個人の経験及び女子教育事業の経験から言つても、よくわかることであるけれども、あなた方には珍らし

いことである。今から二十余年前、私が女子教育視察の爲め海外にいて居つた時、叔父から来た手紙にはど一云ふことが書いてあるかと云ふと、其の叔父は私の家から他家に出た者であるが、成瀬家は他人から養子を貰つて、おまへは廢嫡しなければならぬと云ふことである。つまり私のすることは大不賛成である。あなた方の答案の中に、山口県は英雄の出身地で校長も其の御一人であると云ふことが書いてありますが、今では此の大学と云ふものを見て、山口でも何とか私の事を言つて居るかも知れぬ。けれども私を知つてではない。私が死ぬる迄に女子大学を立つことが出来なかつたならば、彼奴はやましであつた、つまらぬ者であつたと言はれるかも知れぬ。女子教育と云ふことは、今日此の学校に非常に賛成して居る人でもいろいろ反対をしたものである。私共宗教教育と云ふ様なことを深く考へて居る人達の間にも、随分の反対はあつた。国の人は猶更である。けれども同時代の人、同業者及び世の失敗者と云ふものは、斯う云ふ事業の成り立つことを見ると、甚だ快くないのである。一番攻撃の多かつたのは此の学校が愈々創立すると云ふ発表をした時である。何か国の爲に、人道の爲に新しいことをしよ一と云ふ時には免れないことである。又自分が夫れに乗つ取らうと云ふ野心家がある。未だ悪い風説を立てる位は軽いことで、甚しきは暗殺をする。外国の天子様とか宰相の中には、暗殺せられたと歴史にのつて居るのは極少数で、誰れが殺したか未だにわからないものが沢山ある。あなた方は自分に経験しないからよくわからないけれども、中々想ひ至らぬことが沢山あります。夫れから又少し其の事業が成り立つて世間の有力な人が少し力を入れよ一とすると、側からいろいろ中傷がおこつて忽ち冷えて来る。けれども此方は夫れに構はず、誠意誠心を貫くと云ふことが大切である。そ一すると二年、三年立つ中には、わるく言はれたこともそ一ではないと云ふこともわかるから、其のわるく言はるゝことが却つて此方の力となるのです。

[孔子の詞]

孔子様も、不患人之不知己、患己不知人也、と仰せられ、

[佐久間象山の詞]

佐久間象山は、人の己を褒むる、己に於て何をか加へん。若し誉を得て怠らば、却つて害あり。人の己を毀る、我に於て何をか恐れん。若し毀りに由つて自ら強うせば、却つて益あり、と言はれました。之は実に大切なことである。我々は世間から何と言はれよ一とも、自ら正しと信ずる処をとつて、飽く迄も一貫しなければならぬ。

・ 精神修養の根本は何か。

・ 宗教は何を信ずればよきか。

此の二つの問ひは、次にお答へ申しましょ一。

[衣服につきて]

今一つは、

・ 着物のことであります。

此れは華美であると云ふ評判があるが、實際はそ一でないから安心して居ると云ふことがある。此の前、第二高等女学校長が二、三人の女教員に命じて、府下の各女学校の生徒の衣服について調べさせた処が、此の学校の生徒が一番質素で

あつたと云ふことです。一寸見渡した処でも、あなたの方の中、誰れがど一云ふ処の娘さんであると云ふことはわからないと思ふ。宅には五十人からの召し使ひをおいてある処のお嬢さんでも、木綿を着て働いて居られる。故に私は、寧ろ身分不相当に質素であると思ふ。之を筒袖或は木綿に限るとしたらば、ど一であるか。婦人はど一しても趣味を養ひ、華美にならぬと云ふ克己心を養ふことが必要である。今日一寸見ると、色の配合も整つて居るとか、よく洗濯をして髪から何からちゃんとして居ると云ふことは、誰れの目にも快く感ぜられる。又之れを田舎の学校に比べると、必ず違ふかも知れぬ。故に華美であると云ふ人があるかも知れぬが、実際はそ一云ふ事であるかと思ふ。つまり分を知つて、適宜にして行くと云ふことが大切であります。

[寮舎の食物の粗末なること]

・寮舎の食物が粗末なること

世間の諺に、少し食べて或は粗末なものを食べて後悔するものはあまりないけれども、多く食べて或はよい物を用ひて後悔する人は沢山あると云ふことがあります。私思ふに、此校の寮舎の食物がそ一わるくて健康を保つに足らぬと云ふことはなかる一と思ひます。身体の弱い方には少し足らぬと云ふことがあるかも知れぬ。夫れは銘々、必要も違ふから、そ一云ふ方は又夫れ夫れ補ひ方もあるのであるから、夫れをなさればよい。

[方言の訛りは如何にしてなほすべきか]

・方言の訛りをなほすには如何にすべきか。

余り耳立つもよくないから段々と直さねばならぬが、又余り東京詞などを覚え過ぎると、国へ帰つた時などに又批評せらるゝ種となるから気をつけねばならぬ。併し、わかりきつた間違ひとか、或は学校詞とか云ふものは直さねばならぬ。学校詞と云ふ様なものがありますか。あるなら言つて御覧なさい。

ほんとうに、あの、一的、す一す一、ふんふん

癖があるなら、皆さんお互に直して上げるとよいでしょう。兎に角、詞は出来るだけよくすることとして、詞の序に字を書くことも、成るべく正確にきれいに書いた方がよいのです。

・学科の統一を如何にすべきか

・宗教問題

と云ふことは、皆一つに掃することです。つまり今度皆さんが一番重きをおいてお尋ねになつたことは此の点であつて、私は斯う云ふ問ひの出たことを喜びますが、之を説き明かするには大分時間を要しますから、次に申すことと致しましよ。

[学制改革案につきて]

・学制改革案につきて

高等女学校を単に実科として小学に加へることが出来る。つまり実業科と云ふ様なものにして、そ一云ふ独立したものとすることも出来れば、之れを小学に附属させてもよいと云ふことである。男子の為には高等学校とか大学とかの不足を感じて増設を計つて居るのに、女子の方は益々職業的教育をして幾らか程度を低くしよと云ふ傾きのあるのは、果し

て其の当を得たものであるか。ど一であるか。自分は疑問として居ると云ふ意味の母ねである一と思ひますが、之について少しでも考へのある人……

あなた方、今日の日本の教育について、ど一云ふ点が欠けて居るとお思ひですか。

・人格教育が足りないと思ひます。

[今日の輿論]

今度の文部省の案によると、裁縫を一週十八時間課すると云ふことである。夫れは学校へいった者はど一も裁縫が充分でない。仕立屋へやつたものと小学校を卒業したものと較べると、ど一しても仕立屋へいった者が上手である。故に裁縫をしっかりと仕込まねばならぬと云ふことが今日の輿論である。果して此の輿論は正しいものであるか。ど一お考へですか。

・裁縫ばかり出来ても仕方がありませんから、そ一云ふ事は其の専門の人にさせてもよいと思ひます。

之は女子が他に優れたことがあつても、一番裁縫に多くの時間をかけさせよと云ふ考へであるが、裁縫さへよく出来れば家も治まり、身体も強くなり、女徳も之ればかりで進むと云ふ訳のものであるか。ど一です。

・自分で自分の裁縫、洗濯一切をして居る人は

・あなたのお母さんが家族の衣服の洗ひ張り、裁縫皆して居らるゝ方は……1/3

勤勉と云ふことは男にも女にも必要なことで、裁縫と云ふ様なことは確に勤勉の一つである。そして又手工と云ふことが教育上非常に価値のあることです。けれども裁縫と云ふものが最上の手工であるとは言はれない。労働と云ふことは広い意味で言へば、畑を作ることも、お菓子をこしらへることも、造花をすることも、其の他専門の学問を教へるのも、書物を著すことも皆其の一つであるから、決して裁縫ばかりが労働であると限らぬ。経済と云ふ方から言つても、例へば音楽にすぐれた人があつて、其の人が音楽をすれば村の人も喜ぶし報酬も多いと云ふ人があつても、夫れをのぼさずにやめておいて裁縫ばかりするがよいことであるか。西洋でも裁縫は分業になつていて、Waistを作ることのみが婦人の仕事であつた。然るに金持ちがどんどん資本を出して機械を使ふて沢山拵へることになつた。そ一すると婦人の職業を奪ふことになるので、之は今、西洋で大問題となつて居ります。我が国では未だそ一云ふことはないけれども、裁縫にすぐれて居れば夫れで婦人の能事終れりと云ふ様な考へがある。皆さんはど一お考へですか。夫れ程迄に裁縫が大切であるか。

教育と云ふものは、万人皆達人とすると云ふことではない。故に裁縫とか茶の湯とか料理とか云ふことは一つの要素として教育に加へて行かねばならぬと思ふ人は……全体

・裁縫は他の学科よりも非常に興味を持つてしたもの……なし

・裁縫は他の学科よりも少し興味が無いと思ふものは……多数

夫れが伝説的教育である。昔から裁縫は大事な物。女の道はお針と云ふことになつて居るから、其の声を聞いて、之を奨励しなければ教育の道が違つて居るかと思つて当局者は、

之を奨励して居る。之を伝説的と言ふ。故に、決して之が最も教育に大切であると云ふ道理があつてのことではない。夫れよりも我が国、今日の家庭が治まらない。婦人は一旦嫁げば退歩して下。斯う云ふ有様で果して我が国の将来はよいものであろうかど一かと云ふことは、大問題である。

之を研究して、今後の女子教育の方針を定めなければならぬ。私はそ一云ふ教育をわるいとは言はぬけれども、私は今日の女子教育がそ一云ふ傾きになつたからと云つて、皆そ一なつて了ひはすまいと思ふ。之がど一影響して如何なる結果が起るかと云ふことは、其の結果を見なければならぬ。何故今日の家庭が治まらないか、何故にもつと婦人が進歩しないかと云ふことについては、私は別に原因があるとと思ふ。之はあなた方のお出しになつた宗教とか精神修養とか云ふことになりませんが、之は次に申しましょ。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十三年六月八日

明治四十三年六月八日
第二、三学年に於て

私が、なぜ同時に Spinoza と Leibnitz との哲学をお調べになるよ一に出したのであるか、其の意味のわかつた人は……
・両方に共通せる点のあること。

一見、其の境遇を異にするよ一に其の説は違ふよ一で、又深く研究すると其の両方面を研究しなければならぬと云ふことと、近代思想の起源をなして居ると云ふことからして、此の両氏を選んだのであります。

ど一云ふ点に違ひがあり、一致があるか。夫れを見出だした処があるならば言つて貰ひましょ。

Spinoza	Leibnitz
本体 God 静	本体 Monad 動
一元 Unity	多元
	No window

Monad の全くの特色は自動的のものである。其の発達は自己の中より起る。即ち Spinoza は神の外に自因なしと言つて居りますが、Leibnitz の Monad は No window と云つて、他のものを入れる窓はない。全く自動的に活動するものである。又其の発達は自分の中から起るものである。そ一して Self-nature と云ふことは両方にあるけれども、Leibnitz は自分の原因は全く自分にあると云ふ。けれども夫れだけでは説明が出来にくいから、彼れは先天的大調和と云ふことを称へる。そ一して其の先天的大調和は、やはり神に由つて行はるゝものであるとするけれども、余程個人主義に傾く処があります。其の欠を補ふ為に Monadology を称へたのである。此の Monadology は Leibnitz 一人で始めたのではない。其の前も

あるけれども、今日の Monadology とするに力のあつたことは、やはり彼れに帰するの外はありませぬ。

Spinoza の系統は猶太人で、Amsterdam に生れたのである。彼は境遇に於ても彼れの生れつきに於ても其の生涯は非常に貧しく、身体も強くなく、其の種族の猶太人には迫害を受け、Christ 教徒からは擯斥を受けて、其の死にがけの間際迄、多くの災難を蒙つて居ります。即ち、彼れの生涯は困難と奮闘した。併し、そ一云ふ困難の中に最も満足の出来る、最も高い幸福を味うた人である。つまり一言に言へば、彼れは貧困に処するの道を知つて居つた人である。

[Leibnitz]

之れに反して Leibnitz は先づ幸運児とも言ふべき程幸福な人であります。其の生涯は殆んど成功に満ち、榮譽を以て飾られ、学位、位階共に賞賛を以て満たされて居る。彼れは有力なる外交官として、宮中顧問官として、凡ての点に於て大成功をした人である。故に彼れは Spinoza が貧困に処する道を知つて居つたことに対して、富貴に進むの道を知つた人であると、斯う対照しても宜しい。

即ち Spinoza は其の性格において、彼れの哲学上の思想に於て仏教的な処が沢山ある。

Leibnitz は彼れの学説に於ても、彼れの趣味に於ても Christ 教的であり、西洋の文明的な処がある。此の相互に違ふ学説を持ち、相互に違ふ境遇に居つたものが、しかも人種の異なるにも拘らず、お互に同情する処があつたと云ふよ一なることを考へると、此の両人の哲学と云ふものが、今日の世界の宗教の上に如何なる影響を与へたかと云ふことを考へることが出来る。

之れにつきましても、Leibnitz を本として且つ Spinoza の Monism の方面を失はぬよ一にして、私共の信仰を築かうとして居る。其の地盤として本体と云ふことをもう少し研究をしようとして居ります。此の前私は人格的神と云ふことを否定するのは速断であると云ふことを申し、又 Spinoza と Leibnitz の違ふ処を残しておきました。けれども之れを申すならば、今日の二時間を使つても猶時間が足りないであらうと考へますから、今日は Spinoza と Leibnitz をもう少し比較研究すること、及び皆さんがどれだけお調べになつたかを知る為めに、少しくお尋ね致しました。之れからは、前の修養の方面の続きにうつります。

1. 感知 2. 理知 3. 靈知

Spinoza の学説、経験の本として考へると、斯うなるのである。之を皆さんの経験に照らしてお考へになつたであらうと考へます。大体に於ては此の三つのわかつたお方は……

此の前、感知は Illusion 幻想、或は誤謬であつて、斯くの如きものがあると感ずるのは只 Appearance である。故に宇宙の実体は只我々が感知を以て見ることは出来るよ一なものではあるまいと云ふことが今日の問題であります、と云ふことを申しました。

そこで其の感知を以て人生を判断するならば、大なる誤りを来すのである。そして無知無能となり、社会の進歩に伴はないのであります。故に人間が根本に人生の目的を探さうと

思ふならば、靈知を以て靈眼を開かねばならぬ。靈知の耳を以て Soundless sound を聞くよ一にならねばならぬと云ふ。之れは只 Spinoza が抽象的、形式的組み立てをしたのではない。彼れの経験、彼れの研究、彼れの修養に由って積み上げられた処の真理である。そこで私共の今一番知らねばならぬことは、其の靈知とは如何なるものかと云ふことであります。

彼れは、

From this third of knowledge springs the highest possible satisfaction of the mind. The highest virtue is to know God and to be moved only by the passions for God.

吾人は第三の知識、即ち此の靈知に由って、最も高尚なる可能性を満足せしむる処の泉を掘り出すことを得る。畢竟、人間の眞の満足は斯くの如く湧き出づるものである。そ一して人間の最高の徳は神を知ることであって、只此の神を愛すると云ふ熱情を以て進むことが人間の一番高く進みたる徳である。

之れが、前に申しました Spinoza の三大道徳原理である。其の一を、前に一寸皆さんに紹介しておきました。

第二は、

Thus virtue which enable men to know his place and relation to God or the universe of which he is a part, is not only one the highest of form of virtue but essence and source of all virtues.

此の第二の命令が我々人間に天職と云ふ自覚を与へるのである。即ち宇宙に於ける吾人の位置、神に対する吾人の関係、全体の一部である自分の関係を知らしむる処の力、即ち徳は、其の徳の中の一番高い一つと云ふ計りではなく、凡ての徳の源であると云ふことです。

Spinoza の第二の大切な原理は、我れと宇宙の関係。即ち我が全体に於ける位置を明瞭に悟ることである。之れも其の内容を研究しないと、あなた方に明らかにならないであろうと考へますが、之れは又他日、申すことがありましょー。

第三、

Neither moral duty nor political organization has any validity or justification in the long run, except as the serve to foster develop free, intelligence of man.

此の道徳的本務又は政治的關係も結局は、此の人間の中にある自由、英知を養ひ、且つ発達するにあらざれば、其の確實及び正当たる所以を保つこと能はず。所謂、道徳、人と人との関係、人と社会、人と国家との關係が確實たり正当たる所以がなくなつて来ると云ふのであるから、人間の人間たる所以を全うすることが出来なくなる。そこで Spinoza は次の詞を喜んで唱へて居ります。

They are a part of the real world, therefore if they say, I love God and hate brother, the individual is little self-complete world within the longer universe but only a part of a whole.

私は神を愛するが、若しも人を憎むならば偽りである。神を愛する人が人を嫌ふと云ふよ一なことの出来るものでない。個人は大なる宇宙の中にある小宇宙である。夫れはよく結合

し、完成した処の小宇宙である。併し其の小宇宙は全体の一部である。そして其の個人には各々差異がある。其の差異が全体の中にある処の確定した処の大調和である。其の他には何もないのである。そこでつまり此の意味は、我々個人は宇宙の中に一部をなして、全体と共に生存して居ると云ふことになる。此に於て平等論となるのであります。

宇宙は組織的である。其の宇宙にある処の統一は、必然的關係の統一である。夫れであるから、一個体は多少、必ず其の物、夫れ自身の目的であることを要求する権利がある。又他の物として説明する処の主義を主張することが出来る。夫れで我々個人は全体の為めでもあるけれども、亦個人自身の目的でもあると云ふことになります。

故に Spinoza の説を推論して行けば、我々個人にも亦一個体にも普遍的な処があり、共通な処がある。そこで石でも木でも、我々人間でも、神でも少しも違ひはないと云ふよ一に解する人もある。けれども之れは皮相の観である。深く研究して行くならば、其の間には価値又は度の差異があるのである。

彼れの説に由れば、其の終りなきつながり、何時迄も続く処の鎖のよ一なものではない。結合した処の環である。夫れが即ち個体である。其れが宇宙の全体の中に生活、活動して居るのが即ち個人である。

・あなたが此の前、矛盾としてお出しになった問題、即ち神が万有万事の原理であるならば、何故に人間社会に悪事があるか。何処か此の宇宙の外に全知全能の神と云ふものがあるならば、ど一して悪、困難、苦痛、死と云ふものがあるか。之れは必然に来るもので、制御す可からざるものであるか。神が凡ての原因であるならば、何故斯くの如きものを与へたのであるかと云ふことになります。故に、其の大体を一寸申し見ましょー。

[人間行為の動機]

人間の行為を支配する動機に二つある。

・人間を支配する動機の一つは、自我完成。自分の幸福を追求し、自分の欲望を満足すると云ふことになる。彼れは、此の自我保存と云ふこと、又は自我覚醒と云ふことを軽んじては居らぬ。之れは人間道徳の根本であるから、決して之れを軽んずるものではありません。

・第二は、神を追求する、神を慕ひ、愛する。そ一して、一番高い完全なる高尚なる生活を欲望すると云ふこと。之れは二つであるけれども、一つである。此の二大原因が人間の行為を支配するのである。

・自我完成、自我確立と云ふことが我々の起りである。神を知り、神を愛すると云ふことは其の終りである。併し乍ら、神を知ると云ふことは、只真理の一部を知らしむるものであって、其の全体ではない。併し此の事は自我完成の土台であり、本であり、始まりであると云ふことも言ひ得るのみならず、前の詞の前提が真理であるならば、是も亦真理である。そ一して自我完成と云ふことは、人間にとっては一番高尚な幸福であると云ふことも事実である。

・つまり此のよ一に両方面に分けるのではなく、同じ生活、

同じ努力の両方面である。そして一方を育てることは、他を育てることになるのであります。此の二つの努力、二つの活動、二つの傾向は一つのものである。

・神について少しの知識ある人は、自分について少しの知識ある人であり、又他のものとの関係を少し知った人である。そ—して又、ほんとの常住の幸福を見出だすこと能はざる人である。

・其の様に己を知ると云ふことは、神を知ると云ふことである。神を知ると云ふことは、必然的に己の最も頂上なる性を知ると云ふことと同じである。故にどれにでも欠点があるならば、どれにでも同じ欠点があるのである。一を欠いで居るならば、必ず他を欠いで居るのである。

・神から与へられた力、即ち人間の心にある神を求むる処の感情、欲望、渴望と云ふものは、人間のほんとの満足である。然るに此の世の中に悪がある、害悪がある、邪曲がある。之は其の悪事の本と其の治療法とを知らない人間の盲目に帰するのである。つまり其の事、及び真理に盲目である。故に彼れ等は其の誘惑を防ぐに盲目となつて了う。否、此の悪と云ふことの判断についても盲目である。つまり彼れ等は誘惑を防ぐに無能な者である。第一の目的は此の一時的のこと、又一時的衝動の現象と其の本である人間の力と云ふものとの区別を立てないからである。そ—して其の動機の何処にあるかを見出ださず、只結果に由つて褒めたり罰したりして、善悪も積極的、最終的實在のよ—に思ふて居るからである。故に其の区別を立てねばならぬ。

善は積極であるが、悪は消極的である。善は全体的であり、悪は部分的、一時的である。夫れで彼れの説は、誤りは真の知識の欠乏である。故に誤謬的結論は幻像であり、不實在である。之れもよく説かねばわかりにくいのであるが、彼れの説を纏めたことを申しておきます。

【第一】

・人間の罪悪と云ふもの、或は人間の行ひの悪と云ふ過ちは消極であり、不實在である。夫れについて神は決して原因ではない。如何となれば、不實在のものに原因のある筈はない。故に凡ての物の原因である神が其の原因である筈はない。

【第二】

・併し乍ら、我々の悪をする、行ひが又わるくなると云ふ可能性は神に由つて来て居る。又神の中にあるのである。

【第三】

・我々が若し悪をするならば、必ず其の悪を責むる者があり、又夫れを改めよと誡める者がある。其の誡めに由つて改心せぬならば、必ず夫れを罰する者がある。即ち我々の良心と云ふものがある。之れは即ち我々の内に神のある所以である。

【第四】

・善悪の区別と云ふことは充分に神聖なもので、神から来たものである。仮令其の實、人間の思想と意志とに由つて夫れが保持せられ、存在せらるゝとしても、其の本はやはり神から来たものである。如何となれば、之れは最も神聖なる形式である。其の形式に由つて神が自分を顕したもので、靈知に關係ある。我々の思想と意志とは最も神聖なものである。

夫れで悪と云ふものが善と云ふものに変化することは出来ない。無が有に変化することは出来ない。不實在が實在に変化することは出来ない。けれども人間の凡ての悪い行ひは、其の品質に於て変へらるゝものである。適当なる配列に於ておき直したならば、又其の欠点を取り去つたならば、も—悪と云ふことはなくなって、徳となるのである。

仮令ば悪と云ふものは、我々の身体に不具なる部分がある様なもの。又は我々の書く文章に間違ひがあるならば、夫れは文字のおき方が間違つたのである。之れと同じよ—なものである。夫れで誤謬とか悪事とか云ふことは今言ふ通り、並べ方の正当を欠いたので、其の中に何かの欠陥があるのである。併し私の言ふ意味は、石や何かのよ—に全く死んだものが判断するよ—なものではない。只夫れは部分を知つて全局を知つたのではなく、不適当であり、積極に対して消極である。之れが悪事である。

【結論】

そこで終りの結論に於て、こ—云ふ尋ねをして居ります。

・悪をする人に向つて、悪しき行ひに向つて我々は不平を懐き、忿怒し、刑罰をする権利を与へられてあるか？

其の返答は、

・あなたは、そ—云ふ権利を持たない人に対して怒るとか、罰するとか云ふ権利はない。あなたが自分の善い事、我が徳に対して誇ることの出来ると云ふ権利よりも、人の欠点を攻め、怒る権利は薄弱なものである。

我々は完全に対して、自らの不完全なる処も考へて誇ると云ふ権利があるか。ないならば、同じく人を怒るとか罰するとか云ふ権利もないのである。然らばど—云ふ権利を与へられて居るかと云ふと、おまへの持つて居る権利は只だ之れである。只だあなたは、あなたの与へられた力を磨く。教育に由つてもっとよい教育を受けて、もっとよい道徳的修養を積んで行くと云ふ方法に由つて、人に愛せしめ、人に選ばしめ、もっとよい生活の手本となるより他に権利はない。つまりよい行ひをして、よい手本を示して、よい感化を与ふるの他はない。若しも人を罰する権利があるならば、最もよい目的を實現することの程度に於て、又其の仕方にてせねばならぬ。

其の結論

(1) 何故、他の人を責め、或は怒る権利がないか。

おまへが人を責め又は怒ると云ふことに於て、何もよい結果がない。

(2) 其の人を責むることに由つて、其の原因を除くことが出来ないからである。

(3) 怒ると云ふことは、おまへの其の悪の原因を見出だす処の目を眩ますのである。其の人が過ちをしたと云ふことは、只だ其の人だけではない。他に原因がある。實は其の人の生活して居る四圍の境遇、即ち社会である。若し他の境遇、よい感化を受くる処に生活せしめたならば、そ—云ふ誘惑を受け、そ—云ふ悪事を行ふことはなかつたであらう。

(4) 人の害悪を除いて改善すると云ふことは、只だ其の悪事の原因を見出だして退治すると云ふことである。斯くせずに或は怒り、或は恨むと云ふことであるならば、却つて其の力

を鈍らせ、其の目を眠らせ、其の結果をそこなふと云ふことになる。

是れについて、名高いBrowningがSpinozaの此の意見を立派に言ひ表はして居ります。

In my own heart, love had not being made wise, to trace loves faint beginning.

To know even hates is but a mask of loves, to see a good in evil and hope in ill success;

To he proud of their half reasons, faint aspiring, dim struggles for truth, their poorest for veracious, their prudence and fear, care sand doubts.

我が自身の心に、未だ愛の光りで人の心にある愛の幽かなる芽の萌しを尋ね出だす程に聡明でない。若し我々にほんといに愛の目が明いたならば、ほんといの人心を見る目が明くであらう。

然るに未だ我れ我れは夫れ程に聡明でない。つまり憎しみと云ふことすらも愛の仮面であることを知らない。悪の中に善を見、失敗の中に希望を見る程、心が明らかにならない。

其の人の半理屈から来る傲慢、薄弱なる向上心、真理を追求する心の不熱心、最も気の毒なる彼れ等の疑惑を同情する程に深くない。

我々は真に己を顧みて、人を寛大に扱ふと云ふ態度が充分であらうか。又我々は半理屈から来る処の野心、傲慢。我々は自重と傲慢と間違へることがある。我々は、ほんといの目的と我が野心の区別を紛らすことがある。

Spinozaの如く、我が深い処の暗きを照らすに此の靈知を以てし、我れに対する私心を排して、ほんといの真理を追求して行きつゝあるか。以て非なる罣謬に陥ることはなかるか。之れをよく考へて見なければならぬ。之れが宗教を信じて、迷信に陥らぬ処である。

私共はSpinozaの説のある処を考へて、先づ第一に自分を明白にし、私心を去って第一に神を愛し、全体に仕へ、全体に捧げる。其の爲めには、我れはないと云ふ態度を以て修養を積み重ねばならぬ。其の態度を以てしなければ、ほんといに靈眼を開いて進むと云ふことは出来ないであらうと考へます。

[中表紙]

第一学年に於ける御話
明治四十三年六月十一日

明治四十三年六月十一日
第一学年に於て

[根本的の修養法は如何にすべきか]

此の問の問題で残って居りますが、精神修養の根本、孰れの宗教を信じてよきか、及び学問の統一であります。此の三つは其の問ひの実質に於て一致する処が多いのみならず、其の方法も似よって居る処が多いから、一つにして申します。

此の問ひを出した人は殆んど全体とも言つてよい程大多数であり、あなた方は修養をするに、其の本からほんとの事をして行きたい。根本の生命を見出したい。根本の生活が出来る様にするには、ど一すればよいか、又ど一云ふ宗教を信ずればよいかと云ふ尋ねの様である。故に何処が丁度あなたの問ひの程度であらうか、あなた方の経験はど一云ふ処迄味はうて来られたかと云ふことを知る為に、少し問ひを出して聞いて見たいと思ひます。

我々の品性、人格、つまり皆さんの心に懐いて居る理想の人格、思ふことを成し遂げることの出来る様な力を得たいと云ふことが、あなた方の今後三年間、充分集中して見よと思ふ処の問題である様です。今あなた方は普通教育を卒へて、学問、知識共に出来るだけ増加したい。そ一して、いろいろの力が組み合ふて出来る処の品格を充分立派に築き上げて見たいと云ふ希望の様である。一体我々の本体と云ふものは、立派な家であらうか。纏うて居る着物であらうか。或は金さへあればどんな事でも出来るから、金が我れであらうか。猶太とか支那とかの人の様に、金さへ出来れば夫れでよいと言はれよ一か。又博學になって、今日の世界に処するに必要な知識の蔵に出来るだけ知識、学問を積み込んで、知的生活を遂げたいと云ふことであらうか。斯う云ふ人は知識、学問と云ふものが一番高いものである。斯う云ふ風に、人に由つて志の立て方は違ふのである。けれども人間と生れた以上何か目的を持って居ないものはない。然らば皆さんの目的は何であらうか。何が一番欲しいのですか。

- ・精神我
- ・至誠
- ・克己心 (自制力)
- ・公共心
- ・品性
- ・実力
- ・信仰 (安心立命)
- ・人格
- ・愛 (犠牲)
- ・実行

是等は皆詞が違つて居りますが、其の実質は皆違つて居るのではない。併し其処へ達するには、ど一云ふ修養の仕方をとればよいか。即ち根本的の修養法は如何にすればよいであらうか。

そこを見出だしたいと云ふことが、実に我々の希望して居る処であると云ふ方は………大多数

[学問と修養との一致の困難]

修養と云ふことは我々の生涯の問題であつて、先づ此校に居る間の目的としては、普通世間で言ふ処の学力、即ち三年の間に学問なり技術なりを仮令形式でもよい、注入的学問でもよい、何かを一つしっかりと覚えておく。出来るだけ博識になつて置かうと云ふことであらうか。無論根本のことをおろそかにするのではないが、そ一云ふことを目的とすると、朝早くから起きて晩遅く寝る迄一生懸命にやつても、是れ日も足らずである。故に真に人間を作るとか、真に根本の精神を養ふとか云ふことがお留守になつて来る。こゝが、あなた方が学問と修養とが一致しないと云ふ訳である。私共は之を熱心が足りないとか、精神が乏しいとか言ふ。けれども実は今日の学生は気の毒である。学問の制度がわるい為に、只むやみに知識を頭の中へ積み込んでおかうと云ふことになる。之がほんといの人物の出来ない所以でありますけれども、や

はり世間で言ふ実力を養ふには斯う云ふこともせねばならぬ。

そ一云ふ仕方をしよ一と思ふ人は、手を挙げて御覽。

こゝが問題である。大多数は根本の道をとらうと云ふことで、後の方に手を挙げた方はお一人である。之はあとでよく御相談をして見ましょ一。

[学問と云ふことにつきて]

私の言ふことは、学問と云ふものは只其の知識の蔵に物を積み込むと云ふ様なものではない。或は学問と云ふものは、煉瓦を段々積み上げて家を建てる様にしよ一と思ふならば大間違ひである。つまり人間を知識の蔵の様なものと思得るならば、大間違ひです。

我々の人格、我々の知識と云ふものは外からつけ加へるとか、他人の手から貰ひうけらるゝものではない。之が昔から教育に於ても、宗教に於ても、政治に於ても間違へられて居った訳であります。之を見出だす迄は、ほんといの力は得られないのです。之を Inner life と云ふ。此の学校では校風を重んずる。校風とは何であらうか。Inner life of the university である。中に潜在して居る処の生命を見出ださせ、夫れから段々と芽を出させると云ふことです。之は外から注ぎ込んで出来るものではない。我々の内から見出だして行かねばならぬ。つまり今日の教育の間違ひは外から受けよ一と、外に依頼する。之が発達の出来ない本である。夫れから宗教にしても、私は仏教を信ずる、Christ 教をも信ずると仰やるならば夫れは誠に結構であるけれども、今迄の宗教の誤りは神を外に求めて居ったのである。我々の信仰は Inner divine principle でなければならぬ。

之が試験学問、注入的教育の圧制的学問に由って皆破壊せらるゝ。之は誠に気の毒なことである。世の教育者は、もつと裁縫をさせねばならぬ、もつと手芸を仕込まねばならぬと言ふ。けれども夫れは間違ひであります。殊に我が国の婦人にはヒステリーが多い。そ一して一家が治まらない。従って子孫の教育も出来ないのは何故であらうか。之は、婦人が神聖なる人間となる処の働きをすることを許さず、其の芽が発生することを許さぬ所から起る。私は第十回生たるあなた方に、今日から根本のことを研究して、永久発達することの出来る教育法を見出だして其の高潮に達して貰ひたいと考へて居る時に當って、斯う云ふ問題の出たのは誠に喜ぶ処である。そ一して皆さん、真面目に根本の事をして行かうと云ふ考へで居らるゝから誠によいことであるが、併し夫れだけではいけない。其の方法は如何にして行くべきであらうか。其処を見出だす様に修養なさることを希望致します。

[中表紙]

桜楓会例会に於ける御話
明治四十三年六月十二日

明治四十三年六月十二日

桜楓会例会にて

[新しき経験]

私は昨日以来、我が心に逆も詞で言ひ表すことの出来ない深い感じを懐いて居るのです。之は感じと言ひましょ一か、何と言ひましょ一か。無論自分の初めての感じであるが、此の頃の一つの新しい経験であると思つて居ります。寧ろ今日、私は感謝を懐き、希望を懐いて居ります。夫れは、私と同じ経験をし、同じ感じを起して居る少数の人がありましょ一から、其の人々にはわかるであらうと思ふ。今柴田さんも、生れ様として生れかねて居ると云ふ様な話もありましたが、夫れは何であるか。自分の生命にし、自分の経験にし、自分に味はうて、も一何も証明はいらない。も一之よりはなない。Descartes の言つた様に、我れ思ふ故に我れ在り、と云ふ様に証明を俟たない処の、到底言ひ表すことの出来ぬ経験であつて、之は昔から人類が求めてやまないものである。只夫れが空望でなくして、高い経験を自ら味はうて確になつて居る様な処がある。我々にも夫れがあつて、幽かながらも、きれきれながらも其の古い経験を持つて居るのです。併し、も一一つ心許ない処は、一部にはそ一云ふ経験があるけれども、又一方から見れば之が一時的のものではあるまいかと云ふ考へ、此が其のも一一つ不充分に感ずる処である。之が、も一一つ全体を動かす処の大きな力となるのが出来なかつた、も一一つ確信とすることが出来なかつたであらうと考へて、私は昨日の朝から深き Meditation をして居る。之は言ふ可からざる天の音楽である。之は無声の音楽である。けれども其の耳に聞こゆるものよりも猶深い音楽である。其の感じが昨朝起りましたが、昨晩は森村翁の金婚式でありましたから、私も出席しました。

[森村翁の金婚式に臨みて]

然るに其の祝宴は誠に質素なものである。森村さんの挨拶にも、ほん親族と腹心の友達だけおいでをねがうたと云ふことであるが、其処へいって見ると心から譲りあふて居る。実に無私であると云ふことを感ずるのである。私も黙して居つたが、何か一言言へと云ふことで、一寸挨拶を致しました。其の後で立つた人は誠に遅い人でありましたが、余り深き感じに打たれて涙に咽んで居らるゝ。つまり至誠と言はうか、無私であつて、人を批評すると云ふことは少しもない。天の音楽である。私は斯くの如き、物質=商売と云ふことを目的とした社会で、生きた生命があると云ふことを感じました。

[本校に於ける無声の声とは如何]

そして今朝此処へ参りまして、成る程、詞も少し聞こえぬ処もあるが、やっぱり一種の音楽である。実に美しい、何とも言へぬ空気が通ふて居る。確に此に我々の言ふて居る処のものが空ではない。あるのである。然るに、音楽でも一寸妨

げられるとくるふ様に、少し出来かけたかと思ふと調子をかへられることがある。木の様なものでも鉢に移されたり、人工を以ていためられる所がある。之が我々の矛盾であり、苦痛である。そこで是迄幾度か発達を妨げられ、將に高調に達しよ一とする時に妨げられたことが度々ある。けれども幽かながらも其の芽はある。之が即ち、神が我々と共に内に働いて居らるゝ処である。那一云ふ原理があると云ふことを、私は確に信ずることが出来る。幽かながらも其の無声の声を聞くことが出来る。又幽かながらも其の音楽を奏し得るものが、此の中にはあるのである。故に此の真面目なる精神的の傾向は、あなた方の間に復興して来たのである。其の交通が出来ると云ふことを私は深く感謝するのである。ど一か、私は此の発生して来たものを妨げない様に、ど一か充分育てたいと思ふ。余り不自然な考へや狭い心を以て妨げない様に、私共は自然に帰らねばならぬ。其のKeyに障って音楽を妨げると云ふのはど一云ふことであるかと云ふことを考へねばならぬ。自ら耳を蔽ひ、目を隠し、自ら火を消すと云ふことは甚だ宜しくない。昨夜も森村さんが、私程欠点の多い者はない、と言って居らるゝが、併し、私のない人であると云ふことは誰れも感ずるであらう。多くの社員に仕へて居らるゝ。金を拵へても、自分の子孫に遺さうと云ふ様な考へは少しもない。自分を忘れて了つて居らるゝ。Christ も、学者とか道徳家とか云ふ人を頃の裔よと罵られて、博奕を打ったり、つまらない商売をする婦人などに対して、おまへ達は天国に入ることの出来るものである。我れは罪人の友なり、と言って居らるゝ。少しでも名誉心や生意気があれば此の震動をとめて了うのであるが、今日私は、あなた方が真面目であると云ふことを深く喜ぶのであります。

兎も角も、私と云ふことは部分的である。低い感情であるから、之がSpinozaの言ふillusionとなるのである。

そして積極的方面としては、私共が深いMeditationをして無声の声を聞くのである。之は誰れが導くとか、發揮するか云ふものではない。口に言ひ表すことの出来ないものである。併しながら、夫れよりも一層確なものである。之は私共の書齋で只一人で経験の出来ることであるのみならず、多くの人と一所になって、一種の神聖なる音楽を奏し、尚深い震動に触れることの出来る様に修養しなければならぬ。

[音楽を妨げるもの]

那一云ふ時に私を出す、我慢を出す。其の私、其の我慢は其の音楽を妨げるのである。故に我々が自分の考へを出すとか自分の意見を發表するか云ふものではない。我々は那一云ふ音楽が始まれば、じつとして聞いて居らねばならぬ。どなたがど一云ふ發表をして居っても、其の真理のある処に深き注意を払って聞くことが大切である。

其の音楽に合ふ処の声を出す、又夫れを育てゝ行くと云ふ考へでなければならぬ。那一でない、折角起つた音楽をくるはして了うと云ふことになる。けれども私は、あなた方は中に生きた経験を味ひつゝある、那一云ふ考へが興りかけて居ると思ふから、我々は一層深いMeditateをして、夫れが一つのBodyとして顕るゝならば大きな力となるであらうと

信ずる。那一云ふ様なConvictionを得まして、私は今日深く感じて居るのである。ど一か私の言外の意を汲んで、出来るだけ深く集中なさることを希望するのであります。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十三年六月十五日

明治四十三年六月十五日
第二、三学年にて

初めに、殊に二年全体にお尋ねして見よ一と思ふことがあります。あなた方が一年の時は随分元気のよい組であり、考へも段々と深く進むことの出来る頭であると云ふ様に思ふて居りました。夫れから態度も真面目で、昨年は殊に六かしい問題に入ったけれども、一年としては感心な程に集中したと思ひましたが、此の頃哲学の深い問題に入ってから少し集中しにくいと云ふ様なことを言って居ると云ふことを聞きましたが、夫は事実でありませうか。

成る程、哲学と云ふ事は学問の中で最も六かしいもので、学問も最も進んだ程度の者に於て考ふべきことであり、又最も興味をもつべきことであらうと思ふ。けれども極謙遜な態度で之を研究するならば元氣も出て来ると信ずることが出来るが、併し前に私は三年生に少し心配をして聞いて見たことがあるが、併し二年生の中にも、那一云ふ声を何れの部分で発するか知りませんが、那一云ふ意味を持って那一云ふ気を作るならば、是れは余程注意すべきことであらうと考へる。又、哲学と云ふものについて偏見を働いて居るものもあると思ふ。那一云ふ偏見に導かれて、六かしいけれども研究を遂げよ一と云ふ考へを挫かれたとか、趣味が少し下落して只現実の事しか考へられないと云ふ様になって居るならば、甚だ憂ふべきことである。故に二た通りあると思ひますが、即ち謙遜な態度で云ふことであらうか。又怠りを生じたであらうか。夫れを尋ねて見たいのである。

・哲学と云ふことは六かしくて歯が立たないと思ふものは……なし

[哲学と生活]

夫れでは私は、哲学と生活と云ふことについて一言説き明しをすることが大切であらうかと思ひます。

今年で尋ねて見れば、那一云ふ心配はない様である。又此の前三年生にも尋ねて、那一云ふ心配はないよ一である。之は私も安心するのであります。併し此の哲学と云ふ詞が聞きなれないので、ど一も他人視する様な偏見が我々の頭に残つて居るのではないかと思ふ。哲学とは非常に広遠な思想であり、又非常に複雑な学問であり、又非常にこみ入つた問題の解釈である。故に之を咀嚼すると云ふことは容易なる力では出来ないと思ふ様な考へが一番先きに入つて来る。夫れから宗教を信ずる人は従來の信仰を挫かれる。自分の安心立命

の根拠をつかれると云ふ様な恐れがありはしまいか。又文学をする人は、そ一云ふ理屈を考へ、そ一云ふ原理を考究すると云ふことは我々の自由の思想、自由の生活を束縛されると云ふよな嫌ひがありはしないか。実践躬行に努めて居る者は、哲学などをする足許が地につかぬ。足下は見えぬと云ふ様な甚だ実際に疎いものと考へ、寧ろ人生は現実にあるから、そ一云ふ様な空な事はまあ考へぬがよいではないかと云ふ説をなす者がある。之は此の前にも少し説いたが、似て非なるものであり、殊に浅薄なものである。此の中で斯くの如き浅薄な考へに動かされる者はないと考へるけれども、未だ之迄根本な問題に入ることが少なかった為に、又六かしいので困つて居る時に、丁度其の弱点を助けられる様な説を聞くと尤であると考へて、引き込まるゝ恐れがないでもない。そこで一言、哲学と我々人生の総ての日常生活との関係について、お考へになっておくことが必要ではないかと思ふ。之を委しく言へば、一時間や二時間では足りない。夫れで止むを得ず、大体を見る為には少し独断的の様に聞こゆるかも知れないが、極要点をつまんで御話し致しましょ。

私自分の信ずる所、及び今日世の識者の同意する処の哲学の立脚地を見るならば、若しも宗教にして哲学の基を有せんければ、之は迷信となるのである。文学にして哲学の根拠がなかつたならば冥想となり、Confused dream 一昏乱したる夢となる。科学にして哲学の基礎を有せんければ、やはり Fragmentary knowledge 只断片的知識となる他はない。我々の修身、倫理にして哲学の頭を欠いて居るならば、哲学の顔を用ひん処の倫理であるならば、習俗的、停滞的にあらざれば、狂奔的、矛盾的に陥るのである。然るに、其の全体の関係を看破し能はずして、哲学は人生に不必要なものである。我々の科学に文学に或は信仰には不必要なものであると云ふのは、甚だ浅薄なことである。

自らの懈怠心より困難に戦ふ、六かしいことに忍ぶと云ふ力のない、安きを好む、遊惰に流るる処の意志薄弱と云ふことを示すのである。然らざれば頭の浅薄を現すのである。哲学を好まない、哲学の頭のない者程浅薄なものはない。哲学に反抗するものは輕佻浮薄である。真理の追究心のない人である。如何となれば、我々の生活にして、又我々の思想、感情にして万一凡ての根底となるべき処の原理或は法則を欠いて居るならば、凡て行為は狂暴となり、思想は乱雑を免れないのである。文学は自然を学ぶ。独り文学のみならず人生は自然を学ぶのである。即ち人生は自然を学び、味はなければならぬと云ふは御尤である。併し外界、即ち万有は何によつて活動して居るか。万有とは如何なるものであるか。宇宙の原理、法則とは如何なるものであるか。科学は其の現象を観察して其の現象の法則を研究するものである。文学は人生の内外の経験、即ち精神界の現象、並に自然の現象を観察して、やはり其の中にある所の Order 秩序、調和統一を見出だし、其の原理に従ふて其の支配を受けて生活すべきものであるに違ひはないのである。此の主義、秩序、調和を欠いて居る、即ち此の哲学、思想を欠いて居る処の生活ほど無意味、危険、不愉快なるものはない。然るに此の哲学と云ふものは何か空

な事を考へて居り、或は個々別々の事を考へて居る。即ち Freethinker 勝手気儘なる事を考へて居るかのよ一に思ふのは誤りである。

人智の経験したる限り、即ち宇宙的に其の調和統一を求めて最も我々人類の考ふべきことを考へるのが、即ち哲学である。其人間と人間との間、觀念と觀念との間にある矛盾、衝突を最もよく調和統一して、最も永久的に出来るだけ長く深い一致を求むるのが哲学であります。之は最も其哲学の頂上においてある処の目的であります。哲学と云ふ意味及び哲学的的訓練と云ふものは、只そ一云ふ学問の学問、知識の知識、真理の真理と云ふよな最も広い意味で言ふばかりではない。つまり過日来申した、我々の思考とか冥想とか云ふものゝ哲学的修養である。故にもしも我々が品性を改良しよと思ふならば、校風を改良しよと思ふならば、社会国家の改善を計らうと欲するならば、先づ我々が先きに得んければならぬ力は、哲学と云ふ思考に土台をおかんければ不可能である。到底今数分間で其価値を論及することは、むづかしい事である。兎も角も、哲学と云ふものが自分の実践躬行或は宗教の信仰を得る為めに縁の遠いことであると思つて居るならば、甚だ之は間違ひである。只私は此の頃の考へが哲学によらんければならぬ。哲学の頭を用ひることは六かしいと云ふことを耳にしたのであるから一言、あなた方の根本の力を養ふ為めに、且つ根本的原理を建設する為めに、ど一してもあなた方はも——つ深く此の哲学を研究するの必要があることを、一言御注意しておかんければならぬと思つて申したのであります。猶之でわからん御方があるならば、私の所に御出でになる事を希望致します。

[Leibnitz Monadology]

今日からは、即ち Leibnitz に入ります。其の Monadology 或は彼の建設したる処の学説は個人的唯心論と申してもよろしいのである。彼は 1646 年に生れて、1716 年に世を去りました。故に彼れの哲学は 18 世紀の曙光に於て生れた所の思想である。此の欧羅巴の、即ち世界文明の十八世紀の当初に於て生れた所の思想の傾きは如何なるものであつたかと申すならば、第一に The spirit of emancipation 自由を得る、解放を成就すると云ふ精神、夫れから Rationalism 合理主義の勢力を占めて居った時代であります。此の合理主義と個人主義との二大潮流を合して茲に近代の大思潮の始祖となしたものは、即ち此の Leibnitz である。

[十八世紀当初各国国民性]

当時の思潮の關係の大体、及び各国に於ける処の国民性の大要が会得せられないと、如何にして Leibnitz の如き人格が現れ、Monadology の如き学説が発生したかと云ふ原因がわからぬのである。先づ當時の世界文明を指導したのは英、仏、独である。即ち此の世界の文明の三大 Types を代表して居る処の仏國の国民性、英國の国民性、独乙の国民性と云ふものです。之れは其当時からかくの如き特色を持つて居った。猶今日と云へども、其の系統をひいて居ると云ふことは明らかな事実であらう。

先づ此の三国民性を言ふならば、英國人の頭は正確

Accuracy と云ふことを特色として居る。仏国人は Clearness 極明白なることが長所である。之れに対して独乙の国民は Profundity 非常に深遠なる、根本的な遼大なる所がある。其結果として仏国からは数学家を産出し、英国からは Practical gentleman 実践躬行的紳士を出し、独乙からは思弁的思索家 Speculative thinker、即ち哲學家を出して居る。

[其の主義]

此の国民性が其の国家の政治にも宗教、文学にも教育にも、斯くの如き傾向、特色をつけて来ると云ふは自然の勢であるが、之を総合して、其傾きを一つの主義として Ism と云ふ名をつけるならば、仏国は懷疑派の本元である。つまり正確、数学的頭脳は Cooled になり、其の楽しみは肉欲的になる。大きな幸福は味はうことを得ずして、只華美とか快樂とか感覚的の一時的生活をなし、大きな宇宙とか自己に対しては懐はないのである。

英国は実利主義の本元で、之れに対して独乙は理想派の本元となって居る。斯くの如き思潮の昏乱の間に、かくの如き欧州の傾向の間に此の Leibnitz は独逸に生まれて、当時の世界的大思潮の刺激を受け、其当時の最も広い処の精神的境遇の間に人となって、彼れは斯道に於て非常なる天才を現して、遂に近代哲学の父と呼ばれ、独逸文化の開始者と崇めらるる様な雄大なる勢力を得たのである。故に彼れは過去の凡ての世界の思潮を集めたものを哲学とするならば、哲学の流れを一と纏めに結びつけて、今後近代思想の上に発展せんとする処の道ぞなへをした人である。之はもう少し後に言ひますが、近代の文化及び哲学、宗教の創業者であると申してもよい程の大関係を持って居る。新旧の間に立った処の彼れは非常なる創業者であり、新発展を促した勢力家であると言はねばならぬ。先づ其の始まりとも言ふべきものは一言で言へば、此に流れて居る第一の大潮流は Descartes から Spinoza に伝はり来まして発達した処の Pantheism 及び Idealism 等が一方に流れて居る。殊に独乙の國境から流れて居る大思潮である。之に反して流れて居る Bacon 及びロックから来て居る個人主義、及び感情主義。此の英、仏及び独から流れて居る大思潮を集めて一大思潮を開始したものが、此 Leibnitz である。

故に Leibnitz の経歴を調べると、彼れは何時も一方に偏しない公平無私な態度を以て、必ず其の学説の各の特徴を促へることに留意し、其の長所を失はざることにも勉め、其困難を除き、其矛盾を調和せんことに焦心して居った人である。故に彼れは一方に於ては Idealist 唯心論者であり、又一方に於ては Individualist 個人主義者である。彼れが唯心論を称する時は Bacon 及びロックに反対して Descartes に一致し、又個人主義を称するときは Spinoza よりも寧ろロックと咫尺して居るのである。彼れが初めて極端なる個人主義に陥った時には Spinoza を研究して其感化により自分の極端なる処を改めて居るのである。又彼れが Spinoza の宇宙主義に心酔せんとした時には、ロックの哲学に由って之を改善したのである。

[何故に Leibnitz は Monadology を建設せしか]

然るに彼は如何なる必要からして斯くの如き Monadology

を建設するに至ったかと云ふと、当時ロックに由って称へられた所のエンピリシズム、此の経験が如何に二元論に由って附色されて、其の一番傾きを持って居る所の英、仏に如何なる影響を及ぼしたかと云ふと、英国に於ては Sensationalism 快樂主義、感情主義に陥り、仏国にては之れが唯物論に沈んだのである。故に彼れの此の個人主義と Idealism との此の両方面を調和統一して、英、仏に勢力を得た処の此の二元論に改善を与へなければならぬと云ふ様なる必要からして、其の研究の結果、茲に彼れの Monadology を建設するに至ったのである。

即ち其眼目は思考と物質、Thought と Matter とを調和し、主観と客観との両方面の調和を計ったのである。即ち彼れの見出したる処の彼れの立てたる仮説の Monad と云ふものは、二つの方面を持って居る。

其の一方は Individuality 個人性を持って居り、一方は Universality of extension 即ち存在は宇宙的である。夫れで Monad は根本の實在即ち原子であるが、此の原子は一方には自動的の個性があり、其の中には同時に宇宙を包括して居るものである。

これは一見すれば、或は少しく牽強附会の説のよーにとれるかも知れぬ。又 Leibnitz の説には充分統一しない処もないのではないが、之れは其の後殆ど二世紀も過ぎた今日の光りを以て批評するから其欠点を見出すことが出来るのである。けれども Leibnitz の学説には深い根を持って居るものである故に、今日の最も発達したる哲学説と発達したるのである。如何となれば、今日我々が最も認識論で満足するものは Pragmatism である。此の Pragmatism も Spinoza の流れを汲んで居る。Dewey、Wundt の如き哲學家も、此の Idealism と Realism とを調和して宇宙主意説である。Leibnitz が Materialism よりも寧ろ唯心論或は主行論となって居るのは、確かに其処に Leibnitz の根拠があると言はれる。又倫理学説の自我實現説の本元の Greek、夫れから英国に発達して居る個人論などは皆此の Leibnitz から来て居ると言はれる。殊に倫理説の完成説、即ち人間の終局の目的は完成、若しくは改善にあると云ふ主義、其の完全主義も Leibnitz の倫理の標準である。夫れから英国に行はれて居ります所の Utility 即ち功利主義或は進化的功利主義、こゝ云ふ倫理学説、之等は皆其の流れから来て居る。又科学から言へば、Darwin の進化説の、人の始めは極低いものから進化して出来たものであると云ふことは、やはり Leibnitz の立てた処の仮説である。斯くの如く彼れは、科学、哲学、倫理、道徳に於て大なる調和者であったのみならず、人類の一番大なる宗教を統一して世界的宗教としたのであります。

Plato、Aristotle、Scholastic 等の近世哲学を調和し、神学と合理主義とを相近づけ、Protestant と Catholic とを仲直りさせよーとしたのである。此の Leibnitz の思想は今日非常にキリスト教に影響して居る。しかのみならず、仏教及び其の他の宗教にも影響を及ぼしたのである。今日、何の思想によって東西がつながって来たかと云へば、此の Monadology である。

又今日、科学が心理学に重きをおいて来た。社会学は勿論の事、又 Subconsciousness と云ふことは、Leibnitz によつて唱導されたのである。今日物質によつて破壊せられ、段々情欲的に墮落せんとする世界をして、茲に非常なる天国を示し、茲に非常なる高尚なる生命を与へて人類を向上せしめ、Inspiration を与へたものは、やはり此の Leibnitz から源を發したものであると言ふことが出来る。

[Monadology とは如何]

猶、此の Monadology が世界に斯くの如き勢力を顯す様になつた順序、及び彼れの説が俗世界にわかり易き様に、肉をつけ血を通はせた処のウルフと云ふ人の働きやら前後の研究をしなければならぬが、時を省くために省きまして、先づ此の Leibnitz の Monadology と云ふ学説は如何なるものであるかと云ふことを申しましょ。先づ第一に、是れ迄の Spinoza の学説は Extension と云ふ Attribute があつた。Bacon やロックの学説はつまり、宇宙は Motion である。其の運動は只力である。其 Essence は Matter、一番の原子は Atom である。此の Atom と云ふものは物質である。然るに此の力は Leibnitz に従へば、宇宙の本なる力は非物質的であると断言した。併しながら、之は實在である。夫れから其の Immaterial force、實在は決して之を二つに分けることは出来ぬ。併し乍ら活動的なものである。此の Monad は Without part、部分のない物である。併し乍ら之は All in elusive、凡ての物を包含して居るものである。

斯くの如き Monad は手で触れることの出来ぬもの、又目で見ることの出来ないものである。併し乍ら凡ての物の土台であり、真隨である。此の原子の力を我々は Monad と名づける。此の原子が宇宙を組み立てゝ居るのである。其の世界は凡てをさすので、精神界、現象界、あらゆる世界を組み立てゝ居るものは非物質的な Monad である。此の目に見ること、手に触るゝことの出来ない、分つ可からざる原子の数は無数である。之は Atom に比すべきものであるが、併しながら死物ではなく、活動せんとする所の本能である。其各 Monad は相互に同じ物ではない、又同じ事を繰り返して居るものではない。其の精神に於て、其の活動に於て千差万別である。其の Monad には二つの特殊性がある。

其の一を Exclusive、即ち独占的の特殊性である。之は決して己の中に他の勢力を入れないのである。

他の特性は Inclusive、よく自分の中に凡ての物を含蓄する所の性である。

そこで此の間も申した様に、Leibnitz は此の Monad に No window と云つた。何物をも入れない、又如何なる場合にも自ら出ないものである。又誰れも決して創造する力はないものである。又全能の神である。神の他に之を滅すものも生ずるものもなく、絶対的に自治、自定、自動なるものであると申しました。

[中表紙]

森村評議員金婚式祝賀会に於ける御話

明治四十三年六月十五日

明治四十三年六月十五日

森村評議員金婚式祝賀会に於て

一昨年は森村さんの古稀のお祝ひがあり、今年は御夫婦御壯健に、又御一族並びに豊明会員諸君もお揃ひになりまして、此の頃芽出度金婚式をお挙げになりましたことを洩れ聞きまして、何かお祝ひの意を表したいと考へました。併し之は、随分縁故の深い兄弟のよに御交際を願ふて居るにも拘らず余り御案内を受けないで居りましたが、何か心からお喜びを申したいと存じまして、教職員、幼稚園、小学校一同、何とかしてはど一かと云ふ相談もござりました。けれども御案内を受けずにおしかけてお喜びに行くのも如何はしく、少し待った方が宜しかる一。其の内何かよい機会があるかも知れぬ、と申して居りました。

[至誠に対する感]

私も森村さんの御主義は親しく御交際致して存じて居りますが、そ一云ふお喜びなどについてはど一云ふ御主義でいらつしやるかと云ふことは、漸く一昨年のお祝ひの時によつて承知致しましたが、古希のお祝ひにも私に御案内がないのであります。

けれども他から承りながら黙して居るのも心にすまない様な感じが致しましたから、私は飛び入りに其のお祝ひに出ましたが、森村さんは勿論の事、御家族、御親戚及び極お親しい方々ばかりのお席であつて、私は其の処へ入りまして其の場に満ちて居る処の一種の空気、皆さんの間に溢るゝ至誠に打たれ、且つ其の御模様を見まして、森村さんの日頃のお志の現れて居ることを深く感じたのであります。之が私の古希のお祝ひとか誕生のお祝ひに列した始めでありましたが、今年は表面から御案内がありました。之は多分、先年私が飛び入りに出たものですから、洩らすのも何であるからと云ふ様な訳でお招き下さつたことと考へます。今年のお金婚式にも御親戚、並びに御親戚同様に御交際になつて居る処の親友だけを招いて会しておいでになる処であつて、誠に其の間の美しい御精神が一種の氣を作つて居る様に感じます。

[御来会を願ひたる理由]

本校にも、学校としては御案内がなかつたのである。併し皆がど一かしてお喜びの意を表したいと云ふ考へを持って居りました処が、豊明会の諸君も東西からお会しになつて居る丁度よいおりであるから、此の際ど一か皆さんで久しぶり学校を御覽戴きたいと願ひました処、森村さんは固より皆さんも喜んでお出で下さつて、御多忙の中から斯くお揃ひで此の会にお会し下さつたことは我々の深く光榮とし、且つ喜びに堪へぬ処であります。森村さんは非常に御交際がお広いのにも拘らず極御親類だけでお祝ひなさつておいでになるにも拘らず、斯くお揃ひでおいでを願つたのは、只一同がお喜びを申したいと云ふだけではない。猶其他にも意味があるので

あります。夫れは過日、准会員の会の時にも私は一寸其の意を洩しましたが、我々は今より十七年前から非常に切望して居った処の望みを持ちまして、之が現れて此の学校の創立にもなり、又豊明館と云ふものが設立せられた原因であります。夫れから九年間、我々が日夜苦心して止まぬ処のものであります。夫れは此の学校の生命となって居り、我々が生命を捧げて居る処の、我々が衷心捧持して居る処のもので、何と名をつけることも出来ぬものである。又、名をつければ却って我々の本意を誤解せらるゝことを恐るゝのであります。然るに我々が豊明会と深い縁故が出来まして以来、豊明会の主義とせらるゝ処と我々の主義とする処とが、根底が相通じて居ることは数年前にわかつたのでありますけれども、我々が実際に撃した様に喜ばしく感じましたのは、過日の金婚式でありました。私共も深き感にうたれましたが、矢野君の如きは、ほとんど詞をお出しになることが出来ないほどの感動を以て満たされて居られたのである。喜ばしいと云つても殆んど其の感じを言ひ表はすことの出来ない程、我々の心の中を動かす処の一種言ふべからざる処の精神がある。

【豊明会員の魂、即ち生命】

此処にお出でになる豊明会の或る方々も、我々の間には只我々の至誠と云ふばかりではなく、此の中に一種言ふべからざる魂が居ると云ふことを仰ってお出でになったのである。私は其の空気、其の精神に感じまして、其の翌朝、准会員の会に列して其の深き感じを洩しましたが、私が話を致す其の前に、も一准会員の中には一種の感動が通つて居つたのであります。私は豊明会の会員の間に、及び女子大学の校風の中に一種の生命ある宗教とも言ふことが出来るであらう、生命ある処の団体から出来て居る処の一種の精神が、我々を導いて居ると云ふことを信ずることが出来る。之が、私の今日お出でを願ふた一つの動機であります。ど一か此の豊明会に出来て居る、三十年間お養ひになつた古い歴史ある成長、発達致しました処の空気を益々広く動かして、多くの之に触れる処の機会をあたへると云ふことは、我々の今求めて居る処の生命を養ふ上に大切なことであらうかと云ふことを、私は深く感じたのであります。

【社会、国家には精神的實在の存在するものなり】

斯う云ふお話をすると、其の御経験のない方は或は迷信の様にお感じになるかも知れぬ。私共も一時迷信的宗教に熱中した時代もあります。又、科学、哲学に導かれて他の極端に走せた時代もございます。併し今日はそ一云ふ眼りから醒めて、年齢から言つても真面目にそ一云ふ問題を考へることが出来、真面目なる信仰をもつことの出来る階段に達しまして、社会とか国家とか云ふものは単に物質から組み立てられたものではなくして、其の土台に永久の価値をつけ、永久の生命を与へる処の精神的實在が確に存在するものであると云ふことを、私は近頃に至つて深く確信することが出来るのである。

【精神的生命の原因は何か】

其の意味から深く感じて居り又考へて、此の頃我々の心を動かす処の一種の感化力と云ふものは何か其の経験の来るべき命がある、我々の精神的生命には原因がある、即ち昔から

人間をだんだんと向上させて行く処の神聖原理とも言ふべき一種の力があると云ふことを信ずることが出来るのであります。之は決して我々が肉眼を以て見、我々の限りある処の小さい脳力を以てことごとく解釈し得ないものであつて、昔は之を神と名づけて居り、或は之を仏陀と名づけて居り、宗教と名づけて居つたのであります。其の中には迷信的の分子があつたが、今日は真面目に真理を追求し、真面目に生命を求むるものは必ず味はうことの出来る処の實在である、一種の氣であると云ふことを信ずるのであります。森村さんも、私は何も知らない者である。役に立たぬものであるけれども、豊明会は皆がやってくれる。併し此の中には一種の人を動かして居るものがある、と仰やる。こゝである。この自分を忘れて世の為、人の為に捧げて居らるゝ処に生命がある。此の間も森村さんは馬車を駆つて頻りに訪問して居らるゝ。其れは何かと云ふと、世を憂へて落魄して居る処の志士を慰めておいでになるのです。そ一云ふ事の為に態々駕を枉げて居らるゝ。自分ではない。殆ど人の為、世の為、衷心同情して居ると云ふ生活をしてお出でになる。森村さんは自分の上に親と学び、神と崇める様な者の為に捧げて居らるゝ。

【豊明会の団体の生命】

宴会は過日も申した様に皆お互に譲りあつて、名誉とか席とか云ふことを離れて無邪気に会しておいでになる。実に豊明会の方々には皆が銘々を忘れて居る。此に団体の生命がある。之が豊明会の世界に雄飛せらるゝ所以であります。殊に森村さんは古稀のお祝ひの時にも御舎弟の豊さん、御子息の明六さんの盤をお祭りになつて、豊さんの為めには、お前は私の弟であるが、私よりはあなたはえらい。森村組の斯うなつたのもあなた方の働きである。あなた方が動かしたのである、と云ふ詞を述べられたと云ふことを聞いて居ります。之は、迷信ではない。私も同じ様に感ずることが出来るのであります。私は過日、金婚式のお祝ひに列しまして、お母さんの教育なさつた明六君も、森村さんの御世話をなさつた豊さんも、嗚、皆さんと共に喜びであらうと存じました。此の両君の意志は豊明会員の御協力によりまして、主に此の豊明館の中に祭り込められてある。我々の日頃精神修養を奨励して居る処の此の堂の中に、礎となつて満ちて居らるゝのである。其の学校におきまして、其の講堂におきまして此の明六さんのお母さん、其の豊さんのお兄さんをお迎へ致してお喜び致すのは、我々一同のみならず必ず此の明六さん、豊さん両君の盤も、共に喜びしてお迎へになることであらうと云ふ信仰を私は持つて居るのであります。我々は今日益々此の信仰を強うし、又ど一かして豊明会の御感化を受けたいものであると考へます。つまり今日皆さんのおいでを願つた訳は、一は学校の為と、一は此の御夫婦の為に、此の豊明館におきまして此の式を挙げたいと云ふことが我々の希望でございました。

特に生徒の方で今晚の祝意を表する為に、一寸文芸のよ一なものでもお目にかけたいと云ふ考へでございましたが、何分にも昨日の夕方に今日のことを聞き、何をしたらよかろ一かと云ふことで漸う案を立て、之れから一つ實際にして見よ一かと云ふ処で、も一時間になつたと云ふ訳であります。併

し精神は其処にござりますので、ど一か我々の精神のある処をお汲み下さるならば幸甚にござります。実は麻生学監も何か感じを述べる筈にござりますし、森村さんからも豊明会の諸君からも是非一言御話を願ひたいと存じますが、始めに豊明会の方から御話を願ひ、次に森村さんにお願ひ致し、猶あとで時間がござりますならば、学監からもお話を願ひたいと存じます。

[中表紙]

第一学年に於ける御話
明治四十三年六月十八日

明治四十三年六月十八日
第一学年に於て

此の間、問題を出しておきましたが、其の根本的修養法を見出だす為に何か一つ経験をなされた方は……

夫れでは今、あなた方の最も勉めて居ることは何でありますか。

- (1) 日課を積極的態度にて勉むること。
- (2) 反省すること。
- (3) 全体の知識を統一す。

も一少し皆さんが自分の考へを言ふて見ると、内容がわかります。けれども中々容易に言へないから大体は察しますけれども、よくわかりかねる処があります。我が国の婦人は、自分の考へを詞に表す、自分の信じて居る信仰或は説を人にわかる様に言ひ表すと云ふことを余り徳としない。巧言令色鮮矣仁で、殊に女子が物を言ふのは牝鶏の展すると云ふ訳で、不吉である。夫れから詞の本体は何であるかと云へば、考へ、即ち考へると云ふことで、思想である処が之を頭と言ふて居る。物をよく考へる人を頭の人と言ひ、物をよくする人を手の人と言ふて居る。手の方は誠に着実な人であつて、頭の方は常識に乏しい、或は實際に疎いものであると云ふ様に言はれて居るのであります。夫れで余り容易に口を開かぬ、又容易に自分の説は言はないと云ふ習慣がある。夫れからど一も手でするより、目で目撃するより、境遇にすぐ反響するより何か深く自分に問題を持って居って、猶深く言へば、目的を立て居て之を成し遂げる、或は一つの問題を持って居って夫れを深く研究して何か見出ださうと勉めて居ると云ふ人もある。何か茲に輝くものを出せば誰れにも見える。何か此処で音を発するならば誰れの耳にも聞こえる。夫れと同じよ一に、斯く動けと言へば直ぐそ一することは出来るけれども、命令する人がなければ、或は何か防御するものがなければ、例へば此堂に会してじつとして話を聞いて居るならば、身体も落ちついて居る。手も静まって居る。足もついて居る。四圍は誠に静肅になつて居ると云ふ時には、深い考へが内に満ちて居ると云ふ如きものであるか、ど一であるか。我々の中に何か満ちて居ると云ふことが非常に勢力を占めて居る

と云ふ風でありましょ一か、ど一でしょ一。

此の間私は内と外と云ふことを申しました。外からの刺激がある時にも、夫れを少しも入れぬ様拒んで居る時もある。又中に於て誠に充実して居る処の實質が満ちて居るであろうか、或は空虚であろうか。夫れが問題である。充実して居ると云ふならば、何が入つて居るであろうか。思想、信仰、生きた知識、或は観念である。何かそ一云ふものがあるならば、必ず詞に出て来るのであります。今私が問題を出すのは、あなたの頭の中を叩いて、ど一云ふ音がするかを知りたいのです。

・自分の頭は多くの実、多くの宝を以て、太平洋の水の洋々たるが如く充ちて居る。誠に頭に重りがあると思ふものは……なし

空虚であると思ふ者は………稍多

宜しい。あなた方は、自分で自分を考へて見て區別をつけることの出来るのは宜しいのである。空虚と云つても、何もないことはない。つまり程度の問題である。頭の中が一杯満ちて居ないと云ふことであります。

あなた方は頭は空虚で、寧ろ我々は手の人であると思ふものは………なし

そ一も言へないのですね。夫れでは今日の我が国の弊となつて居る、あなた方の頭の皮にもつていって、つまり今日の細胞学で言ふと、我々の脳の中で一番働いて居る部分は灰白質であるけれども、今私の申すのは其の意味ではない。之は昏へであるが、あなたの頭のぐりには金箔をつけて居るけれども、中はうつろである。今日の学生は沢山の事を学ばねばならぬ。故に余り広過ぎて纏まらない。甚だ浅薄である様に見えるのである。そ一して其の以上に、何博士と云ふ様な学位を貰ふ、或は卒業證書を貰ふ為に学問をすると云ふ仕方が多い。そ一云ふ風に、あなた方も金箔を塗りに来たであろうか。貧乏人が商売をすると、間口ばかり大きくて少しも奥行きのない店を建てる。夫れと同じ様に、余り奥行きはなくてもよい。注入的でもよい。出来るだけ多く物を覚えておくと云ふ風にするがよいであろうか。又此頃流行るのは実地と云ふことである。音楽なり、料理なり、裁縫なり、出来るだけ間に合ふ様に覚えておく。夫れから成るべく芸を身につけておくことである。今あなた方は中が充実して居ないと云ふ。然らば何処に働いて居るかと言ふと、是れから世に出た時、人の目を惹く様に金箔を塗ると云ふ具合に、成るべく広く学問をする、何かの芸能を身につけておくことが大切である。其の為に学問をする。之が未だ我々の現状であると思ふ人は手を挙げて御覧なさい………稍多

夫れがわかるのが、とり処である。今日の学問は成るべく多くのものを覚えよ一とする結果、我々の頭が浅薄になると云ふ事になると思ふ。

[吾人の生命とは如何]

そこで此の間の問題に入りますが………

つまり我々の生命とするものは奥深く潜んで居るものである。故に我々の力を養ふと云ふことは、内に充実することである。實質をとると云ふことである。其処の區別が、今日は皆さん

にわかったと思ふ。夫れだから、あなた方は浅薄なことをして居ってはならぬ。ほんとの価値ある人格を発揮しなければならぬと云ふことに気がついて居る。然らばど一云ふ風にすべきであらうか。何が妨げをして居るであらうかと云ふことを考へて見ねばならぬ。

是迄此の学校では、いろいろ力を尽して見た。一年、二年で力を入れる。三年になると高潮に達すると云ふ程になって卒業する。けれども社会に出ると未だど一も力が弱い。困難に負け易い。之は何故に、進まうと云ふ道にある処の障害を除くことが出来ないであらうか。或る人が言ふに、此の学校ではあまり広遠な学説を聞く。故に理想が高くなって、足が地につかぬと云ふ。是れが間違ひである。も少し世俗的な学問をしておのがよい。言ひ換へれば、もっと常識を養ふがよい。其の日、其の日の出来事をして行かると様に、常識を養ふと云ふことが必要であると云ふ。之が実科の奨励せらるゝ所以である。果して、そ一であらうか。又此校の人は余りこせこせしない。余り自分の事を言はない。忠義であるけれども、未だ知らないことが沢山ある。夫れで、も一少し物が読める様に世間の人が一生涯懸命にし、あなた方は第十回生である。其の十回に結ぶべき高等教育の実であるあなた方は、如何にすべきであらうか。I weight man not his title. 私共が人を計るのは、其の実質である。決して学位ではない。あなた方の実質である。故に我々は如何なるものも之を圧迫することの出来ない力を貯へねばならぬ。

[実質は如何にして貯ふべきか]

然らば如何にすればよいか。も少し銘々の専門の知識を注ぎ込んで置くべきであらうか。又は、裁縫なり料理なりを一生涯懸命にすべきであらうか。何が足りないであらう。欠点は何処にあるであらうか。あなた方は、も一二年と二学期間ある故に、も少し根本を養ふと云ふ態度に今日改めたならば、私は必ず出来ると思ふ。其の根本は何処にあるであらうか。又世間で言ふ様にすべきであらうか。略ぼ斯う云ふ方面であると云ふことに気がついて居る人は……少数

- ・意志を強固にすること
- ・自信力
- ・活ける信仰、燃ゆる理想

之は其の三つが違ふ様であるけれども、一つである。之を或る人は意志と名づける。或る人は自治、自信、自任と云ふ様な詞を以て表す。又活ける信仰、燃ゆる理想と言っても同じことである。其処までは皆さんわかつて居る。夫れは、ど一すれば得らるゝものであらうか。或る人はもっと実地の働き即ち活動せねばならぬと言ふ。又或る人はもっと広遠な理想を作らねばならぬと言ふ。我々は孰れを取るべきであらうか。又世間の流行に動かされて、斯う云ふ欠点を持って居ると思ふ者は……

- ・実践躬行に欠けて居るから、も少し実地について判断を養ふがよいと思ふ人は……
- ・宗教の信仰がたりない。之が欠点であると思ふ者は……
夫れなら何であらうか。あなた方、自分で言つて御覽……
 - ・勇気の足らざること。
 - ・丁度自分の思ふことが行へないこと。

[自分を捨てる]

幸福説、快樂説と云ふものがある。幸福を得よ一、快樂を得よ一として、只夫ればかりを追求しても得らるゝものではない。信仰も其の通りで、只信仰を得よ一と思ふ計りで、得らるゝものではありません。ど一すればよいでしょ一か。

- ・自分を捨てること。

そ一である。私を苦めるものは私である。今私の敵と思ふものは皆私の内にある。此の私、私情を捨てることが出来たならば、狭い考へ、偏見、感情によつて支配せらるゝことを脱したならば、意志の自由を得て嘸、愉快であらう。之はわかかつて居つても、其の私は中々捨てられない。ど一すれば私を捨てることが出来るであらうか。

- ・己に克つこと。

そ一です。ど一したならば己に克つことが出来るでしょ一か。

- ・人と云ふものは何の為に生れたものであるかと云ふことを、先づ考へて何事をも行ふべきこと。

そ一である。ど一すれば目が見えて物が見える様になるであらうか。

- ・昔からのよい人について、とるべき点をとること。

ど一したら、とるべき点を取ることが出来ますか。

- ・反省すること。
- ・自由意志を強固にすること。

人の善い意志をとることが大切であるけれども、夫れが何故にとれないのであらうか。私がある。何故に其の私をとることが出来ないでしょ一か。

- ・知情意を円満に発達させて、犠牲の精神を養ふこと。
- ・高尚なる不満足。
- ・永久の我れに活きると云ふこと。
- ・努力すること。

皆さんがいろいろ考へて答へて下さつたことは、兎も角も私は満足するのであります。ど一か一つ、私はあなた方がほんとの一に其処を見出だして貰ひたい。之は私が此の頃見出したことでもなく、又今日之れを始めて申すのでもないけれども、私は之をあなた方に新にしたいと云ふことが、今日此の問題をあなた方に出した訳であります。

[実践躬行につきて]

先き程、努力しなければならぬと云ふ考へがありました。今日は実践躬行と云ふことを盛んに唱へる人がある。又、二宮尊徳先生のよ一にならねばならぬと言ふ。夫れから宗教で言へば、迷信でも何でも構はぬ。何か一つの信仰を持たせよ一と云ふのである。併し只信ずると云ふ。成る程、信ずると云ふことは必要であるけれども、**鱧の頭も信心から**で、只信ぜよと言はれても、夫れだけで出来るものではない。夫れでは何が欠けて居るか一言で言ふならば、私は普通使ふて居る詞を使ひますけれども、之は非常に深い意味で申すのである。

つまりあなた方の仰やつた、頭の中が空虚である。頭がないのである。頭がわるいのである。つまり私は我が国の教育の欠点、我が国の御婦人の発達しないわけは、頭がわるいからであると思ふ。今の人の言ふことと丁度反対である。手や足はあるけれども、頭がない。高尚なる理想を懐いても足が

地につかないと言ふけれども、私は違ふ。高尚なる頭が虚である。立派な理想が立って居ない。之が今日の人を浅薄にし、間口があつても奥行きのない人間を拵へると云ふことになる。其の本は何であるかと云ふと、私は今日の教育は頭を作ることが出来て居ない。思考力がない。瞑想するとか、黙思するとか、所謂思想界が暗黒である。之が今日の教育の欠けて居る処、婦人の発展し得ない原因をなして居ると思ふ。是れ迄は健全なる精神は健全なる肉体に舍ると云ふ。之は半面真理である。今日迄の实在主義は平行説であつた。身体のある処には心があり、心のある処には身体があると云ふ。此の平行説には一元論と二元論とある。一方が動けば一方が相応ずると云ふ説もあれば、お互がお互の原因であると云ふ説もありました。けれども今日では学問が段々進んで、只現象学ばかりではなく実体学が盛んになって、只現象ではない、実体があると云ふことになった。之は心理学上から証明し得ることで、我々の内面である、我々の内にあると云ふことになりました。之迄は科学から言つても、目撃し得るものでなければ証明とならなかつたが、今日は処々深くなって来ました。是迄の科学は自然科学を研究して、其の Natural law を見出すことであつたが、今日は最も深い精神界に入って、其の又奥の最も深い原因である、最も普遍的な实在を研究することとなりました。其の最も深い本体は我々の精神であつて、万有は寧ろ現象に過ぎない。我々の身体にしても我々の手足、脳髓、神経系統は何であるか。我々の自己とは何であるか。我々の内面的生命である潜在意識である。此の意識、此の精神が凝集したものが我々の身体である。即ち我々の習慣が我々の身体である。故に、寧ろ此の我々の身体を造るものは我々の精神である。我々の身体を造る建築師は我々の精神である。我々の習慣の凝つたものが我々で、其の習慣の集まつたものが行為である。其の行為とは何であるか。其の活動は何であるか。之は Appearance である。只現れである。其の行ひの真髓は何であるか。我々の考へである。我々の思考である。然るに、只品性は活動で出来る、実践躬行で出来ると言ふ人は本を忘れて居る。本がなくして実の出来る筈はない。此の本を養はずして、我々の立派なる品性を建設することは出来ぬ。立派なる思想を組織することは出来ぬ。永久不朽の生命に生きることの出来るものではない。そこで今日の説によれば、寧ろ我々の真髓は我々の内的活動、内的生命である。之は即ち我々の思想界、或は精神界である。之が只我々の Sensation 感情よりも猶確なものであります。

我々の生涯、我々の永久の生命は何であるか。此の目に見える処の此の外界を支配し、此の身体を建設することの出来る処の内の生命である。心の世界であるのです。

然るに今日の教育は此に目をつけて居ない。只形に現るゝこと、其の他の記号に表れて居ることを覚えさせよ一として、頭の中に満足があると云ふことを思はない。之が根本の修養の出来ない一大原因である。

[思考力につきて]

そこで先づ私は、思考力と云ふことから始めるのです。此の思考力と云ふことは誰れにも分るけれども、其の次の

Meditation になると六かしい。此の間三年には申しました Spinoza の説によれば、三階段がある。

- (1) 感知 (之れは動物にもある)
- (2) 理知 (統覚とも言つて、最も普遍的なことを考へ得るもの)
- (3) 靈知 (有限なるものと無限なるものとの一致合体)

斯うなつて来まして、所謂 Meditation 瞑想、又はも一つ夫れ以上に此の Astral light と云ふ様な字を使つて居る。つまり我々の人格を大きくする。大きな、力ある人間となつてはど一云ふことか。我々の考へを大きくする、思考力を拡張する、我々の頭を深くすると云ふ処にある。然るに今日の人は、理想が高くなれば実行が出来ぬと云ふのは大なる間違ひであります。

私は此の十回生から、是迄も氣をつけたが殊にあなた方から、修養も学問も根本の処からする、Meditation が出来る様になる、精神的生活が出来る様になると云ふことを勉めて貰ひたいと思ふ。つまり我々の光りと云つても、我々の力と云つても、我々の人格と云つても、やっぱり我々の思考力である。然るに、只我々の目の前に見ゆる処の現象、苦楽を以て尊いものゝ様に思ふ傾きがあるから、私は第十回生は根本から、して行く必要があると思ひまして、之を申すのであります。

[中表紙]

第二、三学年にての御話

明治四十三年六月二十二日

明治四十三年六月二十二日

第二、三学年にて

晝中休暇前が今日を数へて三度になりましたので、少し無理ではあるけれども、今日はど一しても Leibnitz をすまして、此の次には是非、先づ此の間から始めました処の考へを一と纏めにしなければ、即ち大きい結論をつけておかねばならぬ。そ一して其の次に、始めて応用の方を申さねばならぬと思ひます。故に之れは無理ではあるけれども、そ一云ふ訳で時がありませんから、皆さんでよく心を働かしてもらひたい。其の外に猶ほ、も一日使はねばならぬ計画がある。夫れもきまり次第、申すことに致しましよ。

夫れで今日は緒言を省いて出来るだけ先きに進みたいと思ひますが、併し分かつて居らぬ所があるならば、此の先き進んで行く上に障害となりますから質問なさることを望みます。

此の前に、哲学の価値について一言申しておきました。夫れで、凡そ此の頃起つて居る矛盾が調和されたかと思ふが、併し緒論に於て障害があるならば、申しておかねばならぬ。

・先づ始めに、宗教と哲学とに於て調和が出来なくて困る人は……なし

・今日の信仰において哲学と調和することが出来ると言ひ得

る人は……少数

・道徳と文学とが調和しない。甚だ衝突して困ると思ふ人は……なし

・先づ此の二つが調和し得たと言はるゝ人は……少数

・科学と哲学との調和が出来ぬために猶ほ苦しむ人は……なし

・今日の処、先づ調和が出来たと言ひ得る人は……少数

19世紀は、科学と宗教との最も衝突した時代である。又道徳と宗教、及び科学と哲学とが相矛盾し、殊に科学は哲学を無視し、哲学は科学に反抗すると云ふ気味もあつたのである。然るに、其の極端な潮流が段々進むに従つて、近来に於て一つの大障害に遭ふて、科学が最早や是れ迄の方法を以て進むことが出来ないと云ふ窮極に陥つた時に、其の兩者を調和統一せしむるのみならず、茲に新科学を建設せんとする様な勢を与へたものは何でありませよか。知つて居るものは……

又宗教と科学とが互に衝突、反抗して、非常に矛盾の困難に遭遇して互に相妨げをすると云ふよ一な有様であつた所が、近来に於て宗教と科学とが互に調和するのみならず、互に相助けることが出来る。宗教も是れ迄の偏見を去つて、將に新宗教が開けんとする門戸に入つて来た。又科学も、も一層深い処の新実在に入るよ一な道が開けて来た。其の他文学、美術、政治、教育上に、非常なる影響を与へたことは一々申す迄ありません。

兎も角も行き悩んで居つた処に、新しい道を開くよ一な傾きになって来たと言ふのは、如何なるものゝ働きに由つて出来たものであるか。そ一云ふよ一に、近来の凡ての学問の新しい關係について少し考へて見ると云ふことが、あなた方にとって必要ではあるまいか。殊に文学部あたりでは、そ一云ふ問題を取つて研究することが必要ではあるまいかと思ふ。之れは、秋に於て再びそ一云ふ問題をきくことがあるから、夏の間によく研究しておゝきになることを望みます。

第一 Monadology

此の間の題はLeibnitzのMonadologyで、其のMonadの性質を説き明かしておきました。

此の前に、Monadには二つの特殊の性質を持つて居るものであると云ふことを申しました。其の一つは独占的或は単独的、英語でExclusive。他の一つを含蓄的、All inclusiveである。各Monadは自治、自定の単独的のものである。けれども亦一方には他の總てのMonadを反射し、代表する力を有するものである。前にも申したよ一に、Monadologyについて未だ不十分な処があると云ふことは、今日では我々も見出だすことが出来るのでありますけれども、亦そ一云ふ批評をするつもりでもなければ、又必ず此のMonadologyを以て我々の信仰を築かうと云ふのでもない。けれども今日の我々の信仰の起りは此処から来て居ると云ふことを知らんとして研究しなければならぬ。如何となれば、今日の自分と云ふものが過去から起因して居るよ一に、今日の時代の精神を拵へて居るものは決して一朝にして出来たものではなく、誠に深い原因

から出来て居る。故に我々が余程過去に溯つて其の大きい關係に於て考へんければ、斯う云ふ大きい問題をまとめることは出来ぬ。そ一しなければ後に於て、わかりにくいのであります。

此の前にも一寸申したよ一に、物質の方では其の原子をAtomと言ふ。此のAtom説は精神を物質化したのである。此の極端な誤りを正さんがためにLeibnitzは万有の原子をMonadと云ふものであると云ふことにした。此のMonadologyが物質を精神化したものである。之が非常な是れ迄の説と趣きを異にして居る要点である。夫れで凡ての實在は、たとへ下等のものであつても、只運動、活動がある計りではない。必ず其の中に生命があり、又燃包的觀念がある。或は潜在觀念がある。故に宇宙には、命なきものは決して存在するものではない。殆んど唯物論の勢力で此の宇宙は死界とならうとしたのであるが、Leibnitzは之れを精神化したのであります。

彼れの説に従へば、万物悉く活きたもので、又其の真髓はPerception知覚である。物を知る力がある。只だ下等なる物質と高等なる精神との差があり、其の力が不明瞭なると明瞭なると、其の明瞭、不明瞭の無限の殆んど無数の差別があるのに過ぎないのである。

そこで、實在の間にある動静、又は活動と云ひ、反動と云ひ、善と云ひ、悪と云ひ、動植物、人間と云ふ階段、之れはMonadの卑き階段から高き階段に進む過程に過ぎないのであります。其の知覚と云ふのは、各Monadが宇宙全体を反射する所の事實を云ふのである。各Monadは之れを小宇宙と名付ける。夫れでLeibnitzは、The many in the one多数が単一の中に籠つて居る、と言つて居る。そして此の各個人は過去、将来を持ち運んで進みつゝあるものであると。故に之れをMirrorと言ふ。Monadは宇内を反射する鏡、即ちMirrorである。其の鏡に映る、或は其の中に凡て全体を反射する。之れが即ち各Monadの中にある処のPerception知覚と言ふのである。夫れから、知覚の進んだものをApperception統覚と言ふのである。此の統覚が知覚と異なる処は、只だ高き意識的知識がある。即ち思考力があるのである。Perceptionは卑い処のSubconsciousness feelingである。潜在意識である。そこで一番下等なるMonadから出来た塊、其の外、石、も少し進んだ植物等の、今迄死界と思つて居た処のものも命があるのである。併し之れは眠つて居る鈍いもので、Subconsciousnessである。Consciousnessに達することの出来ない階段にあるものを物質と言ふのである。夫れよりも一層高く昇つたものが動物である。動物は感情と記憶力とを有するが、理性はないのである。

猶ほ其の以上に上つたものが人間である。人間は自意識、即ちSpinozaの所謂、理知を付与せられたものであります。けれども其の以上に尚ほ高尚なる實在が存在して居ると云ふことも、我々は推論し得るのであるけれども、之れは今日は申さないのである。

兎も角も最高等なる、完全なる、絶対なるMonad。之れが全く明鏡であり、其の活動は純潔なものである。之れが即ちLeibnitzの神であります。

神は最高等なる、完全無欠なる Monad である。此の Monad は自立的であり、又自動的であると云ふことは申したのである。其の実体は今よりも高い知覚に進まうとして努力、奮闘する、活動的なものである。各 Monad の中に向上しよと云ふ活動力があると云ふ考へが、即ち今日の自我実現説、又は パウルゼン の Teleological energy である。之れもやはり、此の Leibnitz の Monadology から胚胎して来て居ると云ふことがわかるのであります。

彼れが本に残しておいた学説は不十分な点が多い。けれども将来夫れが宗教の上にも道徳の上にも、亦政治の上にも非常なる影響を与へて、遂に今日の世界的宗教の傾きとなって働いて居る。其の本を起こして居る、其の淵源となる思想を残して居ると云ふことを、私共が認めねばならぬ。そして、今後私共の建設しよとする材料となるものが含んで居るから、成る可く自分の親しい材料としてとっておくのが必要であります。

Monad は其の性の如く、一方には非常に孤獨的なものである。けれども亦一方には含蓄的なもので、種々の體と一緒に成りて種々の世界を建設しよとして居ると云ふ処に大切な意味がある。そこで我々が日常つまらないもの、些々たるものと思ふ、即ち一滴の水、一葉の影、最も下等な動物である処の一微菌でも、Leibnitz の Monadology に従へば、之れは複雑なる小世界である。此の世界は創造せられて居るものと云ふことになります。古い学説に由れば宇宙は昔、無より有が創造せられたものと考へた。けれども今日は此の創造と云ふことは時々刻々に行はれて居る。無より有を作るにあらずして、実在が変りつゝあるのである。発展しつゝあるのである。故に如何に些末なる物質でも、創造しつゝある世界である。故に如何程微細なものでも其の中には無数の生物があり、活動があり、又絶えず創造を試みんとする処のものであって、恰も一小世界が多くの生物を以て満たされ、其の海や川の中に無数の魚や虫が生存して居るが如く、生きて居る小世界であると云ふ考へであります。

之れも今は、誠に想像に過ぎないよな思想である。けれども之れが発達して、今日は立派なる Organism に由つて組織されて居ると云ふ宇宙有機體説の源をなして居るのです。そこで一見 Chaos であり、又は非常に不整頓、不秩序で誠に混沌たる状態、又は死灰となつて静止して居るよな部分にも、其の実在に於ては決して死んだもの、又は無教育なる、無果なる豊穡ならざる土地と云ふものは、一つとして見出すことは出来ぬ。そこには必ず生命があり、活動が行はれて居るのである。宇宙は悉く創造である。宇宙は常に生に向つて活動して居るものであると云ふ意味になるのであります。

夫れで此の前に、唯物論が破れて將に唯心論に傾かんとし居ると申しました。之れは Monadology が段々勢力を得た処の結果であると申してもよいのであります。

さて Monadology と Greece の Atom と比較して考へて見るとも、亦大切でありませよ。

Atom	Monad
(1) 凡ての Atom は悉く同じ性質のものであること。	(1) 二つの Monad が相同じと云ふことはなく、無数の Monad が悉く特殊のものである。
(2) Atom は分つことが出来る。	(2) 之れを破すことも滅することも亦分つことも出来ぬ。Monad は永久、其の個性を破すことは出来ぬ。只発達するのみである。
(3) Atom は死物であつて、只だ凝集であり、又は化学的親和である。	(3) Monad は生きて居る処の Spiritual being である。即ち生きて居る処の個人、又は其の個人の団結である。
(4) Atom 説は宇宙の実は物質である。Extension である。必ず空間を填充する処の拡がりであるとする。	(4) 其の真髓は物質でない。即ち此の拡がりを持たぬもの。つまり無形なる精神であつて、此の拡がりには只だ我が精神がそ一感ずる処の一種の幻像に過ぎない。
(5) Atom は決して知覚なきものである。他を反射する処の知覚なきものである。	(5) Monad は知覚あるものであり、宇宙を自分の中に反射する力あるものである。

此の考へから、此の宇宙は精神化せられたのである。

Monadology の第二の困難なる点

夫れは Monad は個々別々に自存して居るもので、他から干渉を受けないものであり、又他のものを制御しないものである。個々別々に自由意志を以て、自分の中にある法則を他に向つて反射するものであると云ふ。然らば斯くの如く個々別々なるものが相互に関係し、一つとなつて、秩序あり調和ある此の宇宙を組織して居るのは誠に大かしい問題となるのです。之れが Monadology の困難な点である。丁度 Spinoza の Monism が、個性を認むる、良心を説き明かすに困難であるよ一に困難である。

第二 予定調和 = Pre-established harmony

其の困難について説き明かしました処の彼の考へは、予定調和と云ふことである。

[Leibnitz, Spinoza の出発点の差]

夫れはど一かかと云ふと、宇宙の中には一つの大きな調和がある。之れは我々が實際感ずる処の実在である。Leibnitz は個人と云ふことに非常に重きをおいた。之れが Spinoza と違ふ処で、Spinoza は Unity、全体と云ふ処から出発した。けれども Leibnitz は個人と云ふことから出立したのであります。そこで Pre-established とは何であるか。之は即ち God である。凡ての Monad が調和統一されて居るのは神の定めであつて、之れは Monad の出来る前からちゃんときまつて居ることであると云ふ。之れを説き明かすに Leibnitz は、音楽を奏する一隊、之れは大きいのは 300 人から組み立てる。喇叭を吹いたり、太鼓をたゝいたり、銘々別々に独立して自分の

楽譜に由って自分の音を出して居るが、併し其の結果はちゃんと一つの音楽を奏することになるのである。我々Monadは銘々区々の事をして居ても、全体の律は必ず調和すべきものである。

斯くの如く彼れは、個人と云ふことから出立するけれども、亦其のUnityは一つのものとなつて居ると云ふことは決しておろそかにしてはならない。只学説に少し窮する処があるとは言ふけれども、帰着する処は斯うであると云ふことを申すのである。MonadがExclusiveであると云ふよなことが、やはりKantの人格的唯心論Personal idealismの基をなして居る。此のPersonal idealismの思想が如何に今日の思想を組み立てるに影響して居るか。又個人を発見した、人間の人格の価値を見出だすと云ふことの一番の淵源は、やはりLeibnitzのMonadologyに基因して居ると言はねばならぬ。

Darwinの進化論に由って見るも実に千差万別であるが、其の千差万別は銘々の進歩の程度の進化の差から来ると云ふことは、今日の進化の程度と云ふ考への本をなして居るのである。そこでLeibnitzは其の程度を分けて、

- (1) Soul (2) Spirit

の二つとして居る。彼れの説に由れば、Soulは何にでもある。けれどもSpiritは人間にしかないものである。

Soulは宇宙のかたちをうつしたに過ぎない。けれどもSpiritは神の意識的観念、即ち神を知り、神に習ふ処の力を与へられて居る。物は只だ宇宙の反射であるけれども、精神は意識的反射である。又其の観念を実現しよとする力である。之れが即ちSpinozaの言つた処のHighest knowledgeと同じことで、即ち盤知である。無限、即ち神を知ることの出来る処の力であると云ふ。

第三 認識学

其の次がLeibnitzの認識学であります。認識学とは我々の知識はど一して出来るか、知識の本は何であるか、神を知る、宇宙の実体を知るとは如何なるものであるか。ど一云ふ処の真理に由って夫れを実行して居ればよいかと云ふことが、問題であります。

彼れの認識学は、彼れの死にましてから50年後に世に公にせられたものである。其の主なるものはRockの経験説とDescartesの観念説との調和を計つたものである。故に第一、Rockの経験説を研究致しまして、彼れの、我々の知識は外から来る、精神は其の印象を受け取るに過ぎぬ、と云ふことを攻撃したのであります。Rockは我々の精神は空虚なもので、恰も白紙の如きものである。其の空虚なものに段々知識が出来るのは、外界の経験の印象に由るのであると申します。

Leibnitzは之れに反対して、決して人間の知識はそ一云ふものではなく、確に人間と云ふものはMindの中に之れから知識を得る処の原理が内在して居るのである。其の上に潜在観念があつて、知識の本がある。若しも其の原理がなく、潜在意識がないものならば、如何に外から印象しても吾人の知識は出来能はぬものである。又一方にはDescartesの内在観念説に反対して、成る程、潜在観念はあるけれども、人間は始

めから認識し得るものではない。其の本は甚だ不完全な、又きれぎれな朦朧としたものである。之れが段々経験に由つて目を醒まして、此の暗いものが明るくなり、朦朧たるものが鮮明になり、きれきれなものが組織せられて来るのである。

彼れはRockとDescartesとの調和したよな学説を立てたのであります。故に我々の知力的生活は、朦朧たる観念知識より明晰なる知覚に進む処の過程である。そこでMonad即ち我々のSoulは、此の知覚の独立した究竟の淵源である。我々の経験は只だ其の原理原因の発達した処の発表であり、其の発達の通る可き溝に過ぎないのである。故にやはり重きを潜在意識、先天的原理において居るのである。

そこで彼れは知識を二つに分けて、

- (1) Reason 必然的真理
(2) Experience 偶然的真理

と分けて居る。其のReasonとは理性から来るもので、数学、形而上学、道徳、倫理、こ一云ふものである。

第二のExperienceは感覚から来るものであると言つて居ります。

認識学の根底を二つに分けて、第一を、The law of contradiction 矛盾律とする。矛盾より来る誤り、偽りと称するものを見出だして、又正しきもの、偽りでないものをも、之れに由つて見出だすことが出来る。

第二、The law of sufficient reason. 之れは充分な真理である。之れがKantの先天的知識、及び後天的知識、及びCategoryの先駆をなして居るのである。

第四 Leibnitzの罪惡論

次にはLeibnitzの罪惡についての考へ。之れは丁度SpinozaのThe evilと云ふことを研究致しましたと同じく、Leibnitzの罪惡、及び道徳、修身の標準となるものは、やはりMonadから来て居る。

其の第一はMetaphysical optimism形而上学的楽天主義で、Leibnitzは、宇宙の本体である神は万事の原因であり、道理である。即ち神は其の力に於て、知恵に於て、善に於て、絶対的完全なものである。そこで此の世界にある処の惡、及び苦み、病氣、死と云ふよなもの、又は我々人間銘々の中にある処の罪惡、過失と云ふよなものは、彼れの考へた楽天主義と非常に矛盾するよ一でありますけれども、夫れは只だ現れであつて、人間の罪惡、苦痛と云ふものは総体から考へ、又一番終局から考へれば、決してわるいものではない。もしも此の世界から悪いことと苦痛とを取り除いて了うたならば、彼れの所謂The best possible world最もよい可能的世界は来ないと云ふ。此の人のよく使ふ詞はThe best, Supreme, Perfectionである。此の世界は決して出来上つたものではない。段々出来つゝある。又段々完全に進みつゝある処の可能的のものである。若し此の世界に罪惡又は苦痛がなかつたならば、其の状態から上に進むとか発達するとか云ふことはないのである。つまり今日の世界は苦痛があり罪惡があるから、之れに勝たうとして反抗が起り、活動を生ずるのである。故に凡ての惡は善の原因になることがある。恰も少しの苦味が

おいしい御馳走の味を増すよ一なものである。故に Leibnitz は此の世界の悪の原因について深く研究を進めたのである。其の研究の結果によりますれば、悪の原因は、人間社会の罪悪の原因は各自の制限と云ふことにある。

此の制限は即ち我々の無知に由る。我々のど一しても満足の出來ぬのは、我々の目にも耳にも限りがある。然るに我々の生存して居る境遇は無限なるものである。誤りがある、誤解があると云ふのはつまり全体が見えぬと云ふ処から起るので、我々の知識の限りがある、無知であると云ふのが原因である。そこで彼れは悪は欠乏であり、不完全であり、制限であると云って居ります。

[罪惡の種類]

其の罪惡の種類を三つに分けて、形而上学的欠損、身体上の欠損、道徳的罪惡、即ち意志の制限であるとする。併し此の悪と云ふものは、決して積極的のものでもなく、進歩的のものでもない。つまり Spinoza の言ふ消極的のものである。

つまり人間の苦痛を除かんとするならば、幸福を増進しよう一と欲するならば、其の制限を取るのである。益々学問をし、益々努力奮闘して、益々我々の生活する境遇を開拓するならば我々の幸福を増し、罪惡を減ずる訳であると言つて居ります。

又彼れは例へを引いて、悪は名画に於ける影の如きものであり、名月に群靈の如きものであり、音楽の調子のはづれたよ一なものであると言つて居ります。故に人間の努力に由つて、其の結局は自ら自らを高めることと云ふ結果になるものである。若しも此の世界に悪がなく、いろいろなる矛盾、いろいろなる種類の中に大なる調和がなかつたならば、我々は The best possible world と云ふことは出来ないと申して居ります。

第五 意志の自由と道徳

Freedom and morality と云ふことがあります、時が参りましたから委しく申す暇がありませんけれども、つまり彼は楽天主義の人である。

Everything the best in the best と云ふのは、此の間、King 博士が Best things と云ふことについて演説せられたが、此の Best things 或は完全主義と云ふことは、皆 Leibnitz から出たものと私は考へる。

Monadology と云ふものが、今日の進歩に、殊に宗教、心理学、文学、科学と云ふよ一なものに非常な発達を与へたものと思ひ得るのであります。殊に私共が考へねばならぬことは、一時、物質化した処の世界が、此の Monadology に由つて再び靈化して來たと云ふことであります。彼れが稱へた処の考へについて深く考へておくことが、私共の將來の爲めに非常なる影響のあることと考へまして、Spinoza と Leibnitz の大体を私は先日来申したのであります。

[中表紙]

桜楓会正会員会に於ける御話

明治四十三年六月二十五日

明治四十三年六月二十五日

桜楓会正会員会にて

今日は皆さん、お忙しい処を繰り合せて斯く多数御出席になり、其の上皆さんの御健康なお顔にお目にかゝるのは私の最も喜ぶ所であります。実は母校の創立以来満九年余りになり、明年は十年期になります。昨年にも少し遅れて七月中頃であったかと思ふ。我々は過去九年間の経験を省みて、其の結果を考へて見なければならぬ。結果と云へばあなた方卒業生の他はないから、私もなるべく皆さんと一緒に研究して見たい。そ一して今後十年間の方針を立てねばならぬと考へました。夫れから各級の相談会やらいろいろあつて、其の様子は今皆さんから発表なさつた通りであります。私も此の女子大学を愈々設立すると云ふ時には二十年間研究もし、経験もして、広く世界の女子教育をも参照して着手致したのであります。さて今日では我々の立てた方針は間違つて居ないか、又其の實行した方法が誤つては居ないか、凡ての方面に渡つて、全体から推して今後十年の方針を決めねばならぬ。之は私が獨断的にきめることは好まない。私は教授、評議員等にも相談致しますが、殊に重きをおいて居るのは、あなた方卒業生である。あなた方の卒業後、経験なさつたこと、お感じなさつたことは將來私の考へをきめるに最も有力なる参考となるのであります。之を一々聞くと時がとれますから、いろいろ問題を出しますから簡短に答へて貰ひたい。

[問題 第一、母校の基礎は如何]

第一、私は、今日では母校の基礎となるものが先づ形づくられてはあるまいかと思ふ。今日重要な位地に居る者も何時死ぬかも知れない。けれども、そ一云ふ者が一、二人死んだ処で皆がよくやつて行けば、そ一云ふことで動くことはあるまい。そ一云ふことでど一かと思はるゝ様な心配があるならば、大に考へて見なければならぬ。そこで校風と云ふものに非常な關係がある。又我が国では官民と云ふ様な困難もある。あなた方は迄七回生迄の學生が非常に熱心におなりなされて、自分の物としてお尽しなされたことが此の校風を作る上に大なる一要素となつたと云ふことは、誰れも疑はぬ所があります。猶其の上に形体を以て、精神を以て、此の創立に尽した人々の精神と云ふものがある。然るに世間では、此の大学は金持や権力ある人の助けによつて出來た。故に、そ一云ふ人の頭によつて教育が左右せられて居ると言ふて居るものがある。又大多数は、そ一かと思つて居るのであります。併し此の大学の起りから考へて見るならば、今日一般にある処の世俗的なものによつて出來たものではない。まあ、一番力を尽された方は森村さんであるが、今日迄に二十何万円と云ふ金を入れて、日夜此の學校の爲に尽して居らるゝ。之は只金ではない。けれども夫れだけ金を入れて居るから此の大学は森村のものであるかと云ふと、決してそ一ではない。此

の間も言つて居られた。此の女子大学と關係してから、段々健康になつた。人間らしいものとなつたと云ふ意味の話をしておいでになる。我々にでも、恩をきせると云ふ様な色を表されたことは少しもない。先生、先生と言つて崇めて居らるゝ。私共は實に氣の毒に思ふ。夫れで斯う云ふ人々が此の学校に力を尽さるゝことは、自分の名誉にしよ一とか、権力をふやす為にしよ一とは決して思ふて居られぬのである。又之を土台として何か一と儲けしよ一と云ふ様な、そ一云ふ考へは毛頭ないのである。只之が少し六かしかったのは、之を大阪におくか、東京におくかと云ふこと。其の次に少し六かしかったのは、合併問題であつた。各主義を以て主張せらるゝから容易に纏まらなかつたのであります。けれども或る友人は私に向つて、若しも斯う云ふ人々の意見を統一することが出来るならば、如何なる内閣をも組織することが出来ると宣言した位である。此の写真でもわかる様に、政治家、実業家、役人、軍人、總ての方面から力を合せ、各々主義を持って居らるゝけれども、決してわかる処がない。夫れはど一かと云ふと、此の大学は一人の物でない。成瀬の大学を拵へるのもなければ、麻生の大学を立つるのでもなく、誰れの物にしたのではない。金から言ひましても、之を拵へる始めには、一寸十三万円あつた。今日では、ざつと六十余万円ある。故に九年間に一寸、五十万円出来た訳であるけれども、此の金と云ふものを一文一厘たりとも勝手にすることは誰れも出来ない。又誰れか一人、之を足台にして何か成功しよ一、幸福を得よ一とする者もない。我々の拵ぐる処は、誰れの為にしたのでもない。或は、之が何政党、何宗派のものでもない。今後の大学の土台となるものは斯くの如き無私なもの、永久のものでなければならぬ。社会を感化し得る処の永久發達する処のものでなければならぬ。故に外國の大学、福澤先生の慶應義塾、新嶋先生の同志社なども参照して、我々の一人や二人が死ぬるとか、そ一云ふことで動くよ一なものではならぬと云ふことを始めから考へたのである。

そこで桜楓会と云ふものは母校の一番根となり、土台となり、一番永久のものでなければならぬと思ふて居る。夫れで評議員達が多くの金を入れ、力を入れ、日夜心を尽して居らるゝにも拘らず、少し心配になるのは大分風が強いからど一である、充分之に抵抗し得るかど一かと云ふことであるが、猶之を育てゝ行けばよいである一と云ふ考へである。私は此の精神が教育、國家と云ふことの上に段々広がって行きよるから、之で土台が薄弱であるとは思はれない。未だ未だ力の足りない処、實の拳がらない事はいろいろあるけれども、其の根となるものは大分しっかりして来た。此の上に築けばよかる一かと思ひますが、土台に於ては我々の十年間とり来た方針は間違つて居ないと思ふ者は……

[第二、母校従来の教育方針は如何]

第二、次に、我々のとり来た教育の方針。之を説き明かすには時がかゝりますから今更委しくは申しませんが、皆さん多分御承知のことであると思ふ。婦人の教育はど一しても自動的でなければならぬ。之が、我が國に今迄行はれなかつたことである。けれども之を自分からする様にしよ一。そ

一して生活と伴はねばならぬから、先づ寮舎制度と云ふものを作り、其の他実業部、購買会、編集部と云ふよ一なものをおいたのも其の訳である。伊藤公爵の言はれた様に、我が國發展の障害となるものを除いて、漸う憲法を布いたのである。未だ運用は出来ないが、兎も角、我が國を憲法國とする迄には至らしめたのであると云ふこと。夫れと同じ様に我々は、之を University として日英博覧會に出したのであるけれども、程度から言へば College 位なものである。故に我々は十年期には、之を University に迄高めよ一と思つた。けれども高めてはならぬ、低くしなければならぬかの様な有様となつて、今日の程度ですらも世間は賛成しない位である。そ一云ふ訳で世間の考へは未だ中々低い。けれども、我々がとり来た処の方針は間違つて居ないと云ふことが、確信の出来る人は……

[第三、桜楓会の Design 如何]

第三、其の次は、桜楓会の目的を立つるに桜楓樹と云ふものを書いて、此の Design に従つて今日迄行ふて来たのであるが、我が國には未だこ一云ふものはなかつたのであります。然るに、此処迄実行してお進みになつたのは、あなた方の力である。世間の人は未だ其の効能を認めないけれども、あなた方は出来るだけの事を始めておいでなされたのであるが、未だ足らぬ処がある。夫れで益々之を發展する為に大学拡張を企て、猶婦人を有機体とする為に副業を起さねばならぬ。そ一して我々は宗教に代るべきものを校内だけでも、是非起さねばならぬと考へた。併し長い間痩せ馬に鞭うつ様にして来たから、未だ力が足らぬ。まあ、そ一進め進めの鞭うたれても続かないと云ふ様な塩梅で少し疲れた気味であるけれども、兎も角も我々が立てた方針は誤りである一か、ど一である一。今私は卒業生、桜楓会の為に主義を立てゝある。之は誤りなきものであるかど一か。我々婦人の使命は此処にある、我々の生命は其処にあると言ふことが出来るかど一か。いや、そ一ではない。も少し世俗的にならねばならぬとお考へでしよ一か。ど一です。之はやっぱり一貫せねばならぬと考へるお方は……

[第四、母校の生命の如何]

第四、次には、私は女子教育と云ふものは十七からして来たのであるから、あなた方は皆自分の娘のよ一に思ひますが、あなた方は何時の間にやら大きくなつて、中には私よりもえらい人が出来て居る。けれども親と云ふものは何時迄も、よいか知らん、やり損ひはせぬか、と心配するものである。私共の全力を尽して育てたいと思ふものは其の生命である。私共が、芽生へが出来た、芽生へが出来たと云ふのは、其の生命である。今、牛小舎へ行くと、子を産んだ計りであるから牝牛はひどい勢を示してやつて来る。之は子供を害せられはしないかと云ふ心配からである。凡て子供の未だひ弱い時に起る親の心配である。其の様に、私がやつきになり過ぎることがあるけれども、若し會員が、も一、そ一やつきにならなくてもよい。先生はもつと大事なことをして下さい、と云ふことであるが、又あなた方は何時の間にやら大きくなつて居るから、私達で充分してお目にかけると云ふことが出来るで

あるか。私はど一しても婦人の教育は婦人でやらねばならぬ。今後の土台は桜楓会でなさねばならぬと思ふて居る。寮舎の組織やら文芸会、運動会などに至る迄、なるべく自動的にさせ様と思ふて居るけれども、私が余り压制するかの様に、私は此の為に大分世間から攻撃せられて居る。けれども大分生命は出来て来た。私共がやるから、そ一御心配なさるには及ばぬと考へる人は……

今日聞いたことでありますが、文部省の方では此校の卒業生の事を非常に委しく調べてある。卒業生の中で幾人嫁いで居るか。ど一云ふ家庭を作つて居るか。其の家庭はよく治まって居るかど一かと云ふことを一々調べてあり、中には○をつけてある人がある。夫れは離婚になった人で、ど一云ふ原因からそ一なったかと云ふこと迄、精査してあるそ一です。

此の間も卒業生が来て言はるゝのに、あなた方がよい動機ですることも、世間では受け入れぬと云ふ困難もある。そこで困難を大別すると、

1. 経済的困難 2. 精神上の困難 3. も一一つは境遇を開くことの困難、つまり圧迫せらるゝのである。我が国の婦人と云ふものは誠に気の毒である。桜楓会員は之をど一したらよかる一かと云ふことである。西洋では、そ一ではない。主義の為に、神の為に身を捧げて居る。其の他に権利と云ふものがあるから、政治運動、移住運動迄もするのである。けれども我が国ではそ一ではない。私思ふに、婦人の方に夫れだけの徳が出来、夫れだけの力が出来て、お自ら男子の頭が下る様になって始めて婦人の地位が進むのである。ど一して女が男に勝つことが出来るかと云ふに、精神である。其の精神は犠牲の精神である。夫れだけの徳を養ひ、夫れだけの精神が出来て始めて世に勝つことが出来るのであると云ふ方針をとつたのであります。今後の婦人の学ぶ処は徳である。精神にある。之は我々を今後保護して行く処の唯一の武器であると云ふ主義をとつたのである。併し之はまだろしかつたのである。もっと女権拡張でも絶叫するがよいお考へでしよ一か。又はそ一ではない。今迄の主義、方針をやはり持つて居ると考へる人は……

[第五、女子教育の主義となるべきものは如何]

第五、次には、総ての本となる宗教でありますも、之も今迄度々やりかけて見ましたが、今度はも一時機であると思へますから、次の水曜日に大結論をつけよ一と思つて居る。そ一して、最後の水曜日には其の応用の方を説かうと思ひますから、あなた方も成るべく都合をつけておいでになつた方が宜しかろ一と思ひます。

私は、女子教育にも我々は宗派的ではないが、精神修養の結局は宗教的に迄進むことが出来ると云ふことを公言して居る。此の仮定は、私は十七の時から立てゝ居るのである。あなた方も、やはりそ一云ふ主義を以て進むべきものであるとお考への方は……

夫れでは今迄立てた方針については、皆さん一貫して行かうと云ふ考へを保つておいでになることを喜びますが、猶其の方法については水曜日をすまして、次に正会員会を開きになる頃には相談の上、委しく申すことと致しましよ一。

今朝報告を聞きますれば、第三回、第七回生も修養会を始め居るそ一である。其の外、寮舎にも内寮、豊明寮、山の寮舎と云ふ様に銘々組を作つて、会をしていらつしやると云ふことですが、こ一云ふことは是非個人から個人に伝はり、小さい組から大きく広まると云ふことが必要であるから、あなた方もそ一云ふ風になさつてはど一でありませよ一か。

終りにも一一つ申しておきますのは、明年四月の記念日迄に母校の基金三十万円を作らねばならぬ。今、十四万円位あるので、あと十六万円を作らねばならぬ。其の為に及び母校の教育主義を紹介する為に、私は外へ向つて大分出かけねばならぬから、内のことはあなた方で一一つ引き受けると云ふ決心をなさつて、充分お考へを願ひたいのであります。

[中表紙]

第二学年にて

明治四十三年六月二十八日

明治四十三年六月二十八日

第二学年にて

皆さんからお述べになつた様に、第九回生は本校が丁度十年と云ふ小世紀を終りまして、之から此の十年の経験に由つて今後十年の世紀を開始する時に當つて居る。本校は誠に困難な中から創立せられ、中頃非常に隆盛を極めました。之は即ち女子教育が勃興した訳であるけれども、其の後、経済難といろいろな反動にあふて、今日は独り女子教育のみならず、男子の商業教育の如きも其の影響を蒙つて居ると云ふ時である。之は昨年あたりが最もひどくて、今では少し持ち直つたかと云ふ気味であるが、そ一云ふ困難な頂上にあなた方は教育を受けておいでになり、夫れで之を挽回して行かう、丁度九回生の時から、も一一つ発展して行かうと云ふ時である。そ一云ふ重い責任を負つて居る上に、数から言つても、あなた方の組は誠に少数であります。

[責任]

併し人間は其の重い責任を引き受けて困難な位地に立つと云ふことは、一方から言へば大層自分の為になります。そ一云ふ時に力が発展するもので、近くは我が国の維新の際の如き、真に国家の為に生命を賭して尽すと云ふ時に於て、立派な、大きな人物が輩出したのである。尤も、大きい様な惜むべき人はそ一云ふ時に斃れたのであるが、今日国家の重きをなして居らるゝ方々は皆此の時に起つた人であります。

[九回生の責任]

今あなた方此校に残るお方も、國に帰るお方も第九回生の責任は重大なものである。其の使命、其の為すべき仕事を明らかにせねばならぬと云ふ考へを以て、充分之について確信を得る様にしよ一、又組の一致團結をもつとよくしよ一、銘々夫れに叶ふ様な人格を養はねばならぬと云ふことを深く考へて、深く決心して居らるゝのは誠に喜ばしいことで、ど一か

皆さん、其の目的を全うなさを希望致します。然るに今、銘々ではいろいろ深く考へて居り、又自分としては充分勉めて居るけれども、組として、又九回生としては充分の調和が出来かねて居ると云ふ様なお話がありました。夫れはど一云ふ原因があつて六かしいのであろ一か。今言ふ様に小さい組であるから、一致団結する、お互に知りあふと云ふこともさ程六かしくはあるまいと思ふ。そこであなた方が真に級の為にも、寮の為にも、人の為にも尽すならば、ど一しても出来ん筈はない。家政部などにしても前には二百人もある時もあったが、今は之だけの小さい数であるから、お互に知りあふと云ふことも出来にくいことではないのである。夫れでど一しても此の九回生の目的を全うすること、及び自分がそ一云ふ時機に於て充分発展すると云ふことが必要であります。願はくは、夏迄は誠に日数も少ないけれども、充分よく皆さんの意見を練つて、気合を一つにして皆さんが余程其れを感じて、散る迄に充分組を固めること。及び暫く別れて居つても何か一つの目的を以て一つの力となり、秋には之を一つの勢にすると云ふ様にありたいと思ひます。之に就いては一同が充分お感じになつて居る様であり、時間もありませんから別に申しませんが、大抵皆さん夫れに気づいておいでになるから、さ程心配ではあるまいと思ひます。

[質問につきて]

夫れから皆さんの方から質問が出て居りますが、宗教上の神と哲学上の神との違ひについて、又其の関係及び価値について知りたいと云ふ尋ねがある。

[神につきて]

哲学の方では無限とか本体とか云ふ様なことを言ひ、宗教では人格的の神を念ずる様なことがある。其の間の一致が出来ぬとか、又一致が出来ぬ為に銘々の信仰上にさしひゞきがあると云ふ様な風であろ一か。ど一云ふことでありますか…… 又、Leibnitz の認識論について、わかりかねる処があると云ふこと、之は此の間からいろいろ説き明かしましたが、其の中、ど一云ふ点がわかりにくいかと云ふことを仰やらないと、能うわからないのです。

[罪、善につきて]

次には、罪と善との関係。及び罪惡は消極的なものであると云ふことはわかつたが、Leibnitz が罪惡は善の原因となるものであると言つたことについて、も——つ説き明かして欲しいと云ふこと。此の、罪は善の原因となるものであると云ふことは昔からある考へであり、聖書などにもあります。勉めて向上しよ一、進歩しよ一、奮闘する者の為には、凡ての誤りも罪惡も悉く力となると云ふことがあります。そ一して Leibnitz は楽天的である。其の反対の悲観、即ち惡を思ひ、惡を觀すると云ふことは甚だ宜しくない。世間では、只叱つて惡を責めることが一番よい方法であると思つて居る人もある。けれども之は大變な誤りであります。成るだけ善について考へ、善を觀すると云ふ風にすれば、一時の誤りとか云ふものも却つて善の原因となることが多い。例へば世界が斯う云ふ風に進んだ原因はやはり軍である。故に軍と云ふものが世界を進め、矛盾を調和するものである。又火事と云ふ様な

ことも人の嫌ふ恐ろしいことであるが、やけぶとりと云ふこともあります。

[古の格言に曰く]

又、古い格言にも、一難を経る毎に一倍し来る、と云ふことがある。女子教育でも斯う云ふ風に反動が来て、いろいろ困難を感じるのはいやなことではない。却つて之が為に、大なる人物を此の中から出すことが出来るのであります。失敗はいやなものである。けれども銘々は此の失敗に由つて、大に學ぶことが出来る。将来の成功を期することが出来るのであります。つまり Leibnitz の謂ふ様に、失敗は誤りで此の罪と云ふものが却つて其の人の目を明け、其の人の人格を妨げることがある。之が Leibnitz の、罪は善の原因であると言つた所以であります。此の失敗、蹉跌と云ふものに由つて銘々が反省して、大に悟る所があるならば、総ての人がよい方に向ふ処の階段になると云ふよ一な説明をつけ得らるゝことが沢山ある。つまり楽天的であると云ふことがよい。我々は Leibnitz の言つた処、又行つた処には確にとるべきものがある、學ぶべき処があると云ふ態度でお進みになることが必要であります。例へば、人殺しと云ふ様なことはよいことではない。昔は人を殺した者は復讐的に必ず殺して了と云ふことであつたが、今はそ一ではない。其の事實を精査、酌量して、宥すべきは宥し、将来を善に導くと云ふことが今日の警察なり、監獄なりの本義となつて居るのであります。猶、明日は大きな結論をつける筈になつて居りますから、皆さん、よくお考へになつて、其の態度をお作りになることを希望致します。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十三年六月二十九日

明治四十三年六月二十九日

大学部全体の為めに

今日は第一回卒業生より第十回生に至る迄、悉くではないが皆心持ちを同じくし、精神を集中致しまして我々が過去九年間研究した問題に、茲に一段落をつくる時機に到達したことは、衷心私の喜びとする所であります。殊に十回生のみならず普通予科、英文予科に至る迄、之れを聞くと云ふ態度をお作りになり、且つ其の生活を要求して止まないといふ熱心を以て会せられたことは感謝するの外ありません。私共は此の問題について九年間、奮闘を続けたのである。其の間一日も其の叫びはやめなかつたのである。一刻も其の研究を怠らなかつたのである。併し乍ら、今日此の結論をつけるに當つては材料が不充分である。

又私の用意もあなた方の用意も足りない部分があるので、併しながら、も一其の結論をつくべき時機となつたのである。故に不充分ながらも其処に向つて歩を進め、目的地に到達し

たいのである。そこで其の足らぬ処は追ひ追ひと充実することと致しまして、今日は私共充分の決心をして、是非、其の目的地に達して見たいと思ふのである。そこであなた方も一つ本気になって、其の根本に接触することが必要である。今私は本論に入る前に順序は違ひますが、後に於て言ふならば是れ又順序を異にしますから、始めに申します。

実は、此の結論は第七回卒業生に述べる考へでありました。然るに、私の病気の為めにたふれましたのと、且つ其の時に一方は修養と云ふことであり、一方は実力即ち根本の力を養成すると云ふ計画がありましたので、私は是非、此の二つを調和、統一して、此の大学の総ての生活にも一つ調子をつけたいと云ふ考へを持って居たのであります。然るに此の三月、私が病気でたふれましたのと、其の又たふれた惰力の為めに幾分か速力を挫かれたと云ふ訳で、今日に遷延致したのであります。

此の実力養成の根本、其の門に入る、其の戸をあける鍵とも言ふべき、今後あなた方の進歩発展の上に食物ともなると思ふ語学の力を養ふと云ふことが、私の考へにあつたのである。之れは私自身には具さに経験したことであるが、只だ口に言ふて居つては役に立たぬから、卒業生の中の極少数でもよい。僅に数人でもよい。此に本気になって居る人があるならば、自分には実行して見たが未だ之れを他に応用して見た経験がないのである。故に、先づ之れを桜楓会にやってみてはど一かと云ふことを専任教授に計つて見た処が、此の考へがよいと思ふならば之れを全校に施した方がよかると云ふことになりました。夫れで私も愈々着手しよと決心しましたが、其の会をして二日目に私が病気でたふれた。之れは其の前から少し声を使ひ過ぎて胸を痛めたと云ふこともある。其の上肺炎になるかも知れぬと云つて、私の医者は青山博士を呼ぶことを勧めました。

そこで私思ふに、之れは昔、肋膜炎を痛めたことがある。今度肺炎になると、も一五十の坂も越えて居るし、再び起つことは出来ぬかも知れぬ。若しそ一なれば、も一此処に立つてあなた方に自分の考へを叫ぶことも六かしかる一。然らば、今度はど一云ふ仕方を以てするかと云へば、書くより他はない。今度は一つ筆を以て日頃の考へを雑誌に頼して見やう。のみならず、自分の此の意見を行ふて見たいものであると考へて、回復期に於て数日、自分で筆を取つたのであります。実は自分が外国に居る時には一々自ら筆を取り、又 Support の為めに小冊子を著したり、演説の材料を作つたり致しました。然るに此方へ帰つてからは忙しいから、私が考へを言ふて皆誰れかに書かしたのである。夫れで凡そ十七年間、殆んど自分で筆をとつたことはなかつたのです。

併し今度の考へは多くの人に計ると行はれないから、皆自分の Pen で書きました。之れは、私が一つの商品として売る為めにしたのでもない。又天下の学生の為めに書いたのでもない。之れは、終りに英語で言ふ Dedicate すると云ふことを書いたのである。之れは桜楓会に差上げる。あなた方の為めに著したと云ふことです。此の原稿は始め 50 頁で 140 円計りの費用で出来る筈であつたが、72 頁になつたので 260 円計り

になりました。之れは私の空論ではない。実は十八の時から女学校の五つ組を担当し、其の上二時間づつは自分の糊口を稼ぐ為めに働きを取つた。其の忙しい中で、英語を独学しました。科学をするにも物理を教ふるにも、悉く原書を用ひることとしたのです。斯くの如くして自分でやってみました。

私思ふに、あなた方は勞して効のない仕方をして居らるゝと思ふ。此の間も或る人が言はるゝのに、私は三十年英語をして居るが、未だ役に立たない、と言つて居らるゝ。私は、ど一も勞して効のないやり方をして居ると思ふ。そ一言ふと或人は、夫れはあなたのような意志の強い人なら出来るけれども、私共には出来ぬ、と言ひます。けれども私が之れを Present するに當つて、そ一云ふ考へも必要であると認めて、之れを実行して見る人があるならば、仮令一人であっても、決して遺憾には思はぬのです。

[Life の内容]

其の仕方について、先づ章の始めに、Editorial (社説) と云ふことがある。私の主義は、何事も英語で考へる。訳読はしないと云ふ主義である。私は之れを纏めるに、英語で考へ、英語で書き、決して日本文には作らなかつたのである。名は Life と言ふ。そ一して其の次に、Spiritual food (精神の糧) Educational of the will (意志教育) と云ふことが説いてあります。つまり、修養と英語と云ふことを一緒にすることが大切である。其の次に、Art and literature と云ふ見出し。之れは、我が国で英語をするに一番欠けて居ることは何であるかと云ふと、Vocal training である。皆さんは Longfellow や Wordsworth や、いろんな人の詩を沢山学んで居る。そ一云ふものに譜をつけて、こ一云ふ修養会の時などに歌ふと云ふことも必要である。或は次の会あたりからしてみてもど一でしよ一か。

次には、
Science (科学)

其の次が、
Social department (社会部)
Home department (家庭部)
The educational department (教育部)
Youth's companion (青年の友)
Biography (伝記)
Correspondence (通信)

と云ふよ一なことがあり、おしまひに、
The march of events in the world (世界の出来事)

と云ふことを書いてあります。
そして一番終りに表がある。之れで一寸、世界の有様がわかるのです。之れは、成る可くあなた方にわかり易い詞が使ふてあるから、内の人にはそ一六かしいことはないかも知れぬ。却つて外の人に六かしいかと思ひます。之れは上げるとよいけれども、今申したよ一な訳で費用も大分かゝつて居りますから、そ一する訳にもいかない。実費は一冊二十六銭ですが、之れを実業部に出しますから、実業部で大方二銭位の口銭をとつて、二十八銭位にお売りになるでしよ一。

[結論]

本論

今日私がつける結論と云ふ問題は、私が America のアンドーヴァーに居った時、即ち今日から凡そ十七年前と思ひます。其の頃、自分は女子教育の研究に行つて居つたが、其の又、根本となる可き宗教問題について、ど一しても解決せねばならぬと考へ、多くの Struggle に由つて之れに解決をつけて、一つの仮説を立てたのである。其の研究を続けんがために、女子教育と云ふ目的を抛つてでもしよ一かと考へましたが、ど一しても之れは抛つことが出来ぬ。そこで此の宗教と云ふことは女子教育と密接な関係あるものである。否、此の問題は将来の我が国女子に由つて発展すべきものであると云ふことを考へました。夫れから後も、其の十七年前の仮説を段々と研究して進んで来たのであります。故に此の学校の開校の日から、此の考へは閃いて居つたであらうと思ふ。又今日此の中に働いて居る処の精神は、必ず夫れに由つて導かれたものであると云ふことを、卒業生は感ずるのでありますよ。

[科学と社会学]

併し夫れだけの変革を私の身に來したものは科学である。殊に私がアンドーヴァーで研究した社会学である。其の以前は私は熱烈なる Christ 教信者であり、其の考へも形而上学的であり、神学的哲学であつた。其の考へを破したものは科学と社会学であつた。

併し其の古い思想と新解釈とは充分調和、統一して、一つの信仰となることが出来ました。私思ふに、今後の宗教、今後の信仰と云ふものは、只此 Dogmatic の耶蘇教だけでは出来ない。又其の他の宗派でも出来ないと考へた。夫れで先づ科学から入り、哲学に入り、Kant の Altruism 及び Otherism と云ふよな処で生命を養ふて居つた。夫れから Categorical 即ち推理的に進みましたけれども、之れだけでは其の Life を乾かして丁うです。之れを補ふに James の Pragmatism、此の Pragmatism の認識論に由つて他の方面を開かんとし、又 James のメリオリズム、夫れから Spinoza あたりから系統を引いて居るアドラーの運動、そして、いつぞや此の講堂で話をしたシエルドン博士達の Ethical movement、其の他の Movement を始めとして何処からでもよい、私共は何時でも其の一番深い根に到着すると云ふことを勉めて来たのである。即ち、我々は外面的生活から証明の緒を開いて来て、実は内面的のもの、我々の内にあるものを証明する為めに、Subconsciousness を研究し、其の次に宇宙の本体と云ふことの研究に入りましたが、未だ之れは、ほんとの靈界の現象を証明するものではなかつた。夫れから愈々内面的の研究に入つて、猶ほ其の潮流の本に溯つて Spinoza、Leibnitz などに入りました。其の形而上学と云ふものは中世紀のとは違ふのである。そ一云ふ風にして今日迄九年間、科学からも、社会学からも、認識学からも、形而上学からも、論理学からも、宗教上からも、人類的に過去に跨つた傾向を考へ、猶ほ将来を察して私共が結論をつけよ一と云ふのである。之れは果して宇宙の本体は何であるか。凡ての宗教の真髓は何であるか。ほんとの我々が追求して居る、ほんとの Essence は何で

あるか。之れを Realize したいと思ひました。又夫れが Realize されて、我々と宇宙との関係は何であるか。之れがわかると人生の価値、我々のほんとの満足、ほんとの生命と云ふものは何であるか。之が我々の知らんとする処のもので、我々のほんとの幸福、運命を定むる所のものであり、之れが我々の熱望して居る処の要求であります。

私は是迄あなた方と共に研究を続けて参りましたが、今日の科学、今日の社会学、今日の比較宗教学、凡てをまとめた結論は何であるか。之れを現したいのである。さて之れを頭す為めには、実は未だ材料が足りない。けれども急いで單刀直入に其処に向つて進んで行きたいのである。時間を省く為めに、今日私は図解を以て参りました。之れを申すならば、凡その大体があなた方に捕へられるかと考へます。

私共は昨年、Subconsciousness について大体研究を致しました。夫れに引き続き、Reality は意志であると云ふことを少し始めかけた。夫れから今度は哲学的に入つて Spinoza の Pantheism と云ふことを説いて、次に Leibnitz の Monadology を研究しました。其の目的は科学的に証明して來た処の事実を以て、此の宇宙の万有の Reality は何であるかと云ふことを究めんが為でありました。

先づ私は此に断定を下したい。宇宙の本体、又我々人生の本体は何であるかと言ふならば、いろいろ人が詞を使ふて居るが、先づ其の中の詞を以て言へば、宇宙の Reality は Spirit と言ふ。之れはつまり Idealism と Materialism と戦ふた結果として Spirit であると言ふ。之れは私の独断ではない。之れは今日最も科学的に研究した人の先頭として立つて居る人も認める処である。

靈とでも精神とでも訳してよろしい。併し之れに冠詞をつけて、Infinite spirit 又は Infinite spiritual life としてもよい。之れを無限の精神的生命と言ふ。此の Spirit は宇宙万有に内在する処のものである。之れが即ち宗教に言ふ神である。故に God is spirit. とも Spirit is God. とも言ふことが出来るのです。其の神は宇内に充満するもので、在さざる所なきものである。昔は人間が祈りに由つて呼び寄ることが出来るものと考へて居りましたが、今日はそ一ではない。恰も我々が空氣中に生存して、口にも耳にも腹にも夫れが満ちて居るよ一に、又魚が水の中に遊泳して居ると同じことである。

[宇内の実体は Spirit なり]

斯くの如く我々の周囲、宇内、悉く Spirit である。宇内の実体は悉く Spirit である。

此の Spirit は即ち生命である。活動である。創造である。進行である。進んで行く処のものである。段々上に向上する処の進化である。其の動は恰も此の万有が、物質の世界が、其の自然の法則に由つて支配せられて居るが如く、此の精神的世界は其の中に生存する。

人間、生物は悉く其の Spiritual law、或は Spiritual order に由つて支配せられて動いて居り、進行して居り、止まる処なきもので、一時一刻と雖、如何なる処でも静止することなきもの。之れを Life と言ふ。其の Spirit は Unifying law

である。我々人生の目的は統一しよ一、調和しよ一、Organizeしよ一と云ふ処にある。つまり之れがRealityであり、Spiritは宇内のUnified lawである。

[宇宙の精神的波動]

其のUnity、そのOrganism、其の進行、其の動はど一云ふ法則、ど一云ふ原理に支配せられつゝあるかと云ふと、先づ其の一はCycleと言ふ。即ち循環である。永久的に震動して居る処の動は循環的に進行しつゝある。即ち此の宇宙の精神的波動は一つを中心を作って段々進行しつゝあるものであると云ふことが、所謂、精神的波動はEternal cycle無限の止まることなきCycleの連関に由つて現れて行くものである。先づ、天文学と物理学と化学、生物学と云ふよ一な科学に由つて証明されたものである。

[科学的知識]

我々は、此の科学に由つて得た処の知識に二つある。其の一つはPerception知覚に由つて得た処のもので、今一つは内面的の知識。所謂、精神の知識はSpinozaの靈知と名付けたもので、つまり科学の知識は、我々の必然的推理を下して到達したものが我々の知識である。之れが我々の信仰する処の真理である。其の結論は、やはり此の宇内は永遠の動である。そ一して其の動はCycleである。循環である。恰も此の間のハリー彗星が70年目に一と回りしたよ一に、循環して居るのである。此の中のOrganizationはCycleである。否、我々のLifeもやっぱりCycleであると言ふことが出来るのです。

これは科学から到達した処の宇宙の本体です。科学から云ふと、宇宙はForceである。其の活動の、のろくなつたのが物体である。静と云ふものは悪の様に消極的のもので、実在ではない。人間も生れると段々壮年になるが、終りには老人となって衰へて死んで了う。世の文明も原人時代から段々盛んになって、又退化して行く。天体を並べて見ると、一番始め盛なものは太陽であるが、之れが段々さめて行く。丁度のもにさめたのが我々の地球である。夫れが又段々冷えて行くと月のよ一になり、又段々希薄になって彗星のよ一なものになるかも知れぬ。

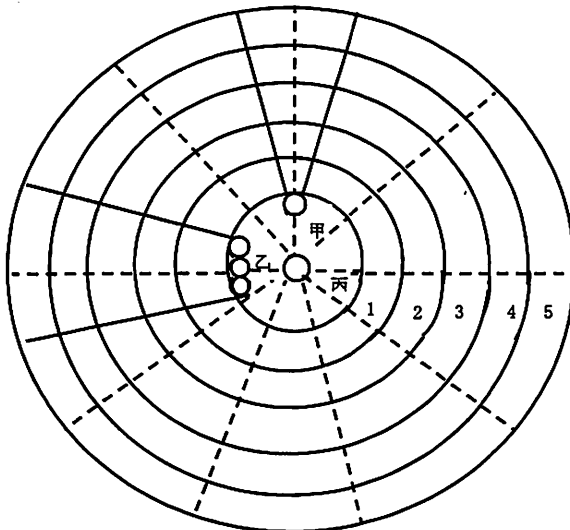
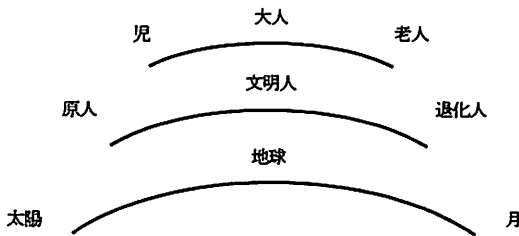
夫れの次は、我々自我、個人とRealityとの関係を示した図である。つまり三種の人間がある。甲の人は自我中心である。此の人は世界でも何でも自分を中心として見る。利の為め、私の利益と云ふことより外ない。乙の人はも一団体をなして居るから、夫れだけ広いものとなり、更に進んで丙となれば最も拡大せられた自我となって居るのであります。

此の個人的自我の人は総てのことが自我的であるから、地球、天体にも関係はあるけれども、此の人の区域は是れだけに限られて居る。故に無知であります。無知であるから誤りをするのである。

乙の人は少しく拡張せられたる自我であるから、少くとも利害を共にすると云ふ団体をなして居る。

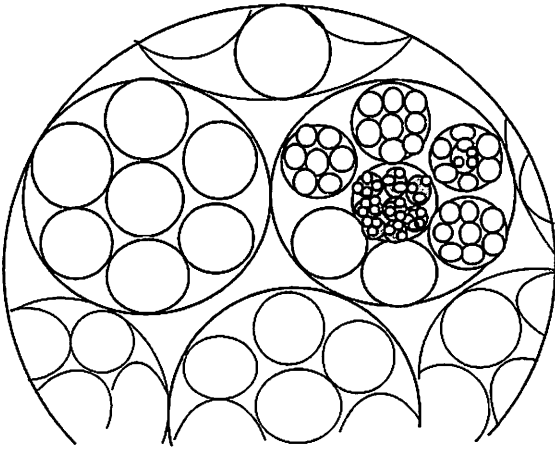
丙の人は全体で宇宙と云ふ最も広い境界である。つまり自我と宇宙とが一つになって居る人である。之れがCycleとなるのである。

つまり之れは科学、天文学、生物学などから証明したものである。



- (甲) 個人我 (自己中心)
- (乙) 団体我 (拡大せる状態)
- (丙) 全体我 (自己と全体と合体せる状態)

- (1) 人の環
- (2) 生物の環
- (3) 地球の環
- (4) 天体の環
- (5) 宇宙の環



此の次にも少し深く進んだ統一が、Realityは内面的統一、即ち英語で言ふ Inner unity、即ち Spiritual organism 精神的有機体であると云ふ考へである。此の考への起りを先づ近代哲学から言へば、SpinozaのPantheism、其の起りは科学に於て研究するCosmology宇宙学、即ち統一に到達すると云ふことである。

これが即ち精神の骨髄である。

此の必要に迫られて、SpinozaのPantheism或はLeibnitzのMonadologyと云ふよ一なものが生れたのである。即ち其の骨子となる可き思想は、存在はUnified spiritual life統一せられたる精神的な生活である。而して此の目に見える処の、つまり五官に触れる処の物体は此の精神的な生命の進化である。所謂精神が精神的活動の習慣に由つてなつたもの、これが即ち物質である。そこで此の世界の本体は物質にあらずして靈である。其処に於て世界の精神、或は時代の精神と云ふ詞が生れて来たのである。

此の世界は決して死んで居る処の機械的な物質ではない。生きて居る処の精神である。恰も我々の個人は沢山の細胞のOrganismに由つて出来て居る。脳髓に由つて現れて居る如くに、宇宙の本体は其の靈体の精神のOrganismである。Leibnitzの言ふMonadのOrganizeされたものである。そこで世界は宇宙の一つの細胞である、一分子である。此の世界と世界の集まったものを小宇宙と言ふ。つまり世界は我々の生活して居る地球、及び其の世界から出来たものである。

我々が宇宙を見ると、天の河、所謂星雲と云ふものは一番広い方向の流れである。其の星雲と我々の地球、太陽との間に幾つあるかも知れぬ。私は此の一つの〇を宇宙とする。其の宇宙が又集まって、大きな宇宙を拵へて居る。夫れが又集まって、更に大きなものを作つて居るのであります。其の中に行き渡つて居るのが神であります。Leibnitzの言に由れば、我々は一つのMonadである。一番高い宇宙を明瞭に知覚して居るものが神のMonadであると云ふよ一に考へてもよい。つまり宇宙は、精神的Organismとなつて限りなく動いて居る、其の間に關係を持ったものである。つまり無限である。そして相互に關係を持って居ると云ふことを示しますために、

之れを描いて見たのである。

Leibnitzは天の国、天の国家と云ふよ一な考へがあつたが、今日の社会学などで科学的に推理して行くと大きな精神的關係である。そこでInner spiritual organismであると言ふことが出来ます。

此に始めて皆さんに紹介する新しい仮説があるのである。之れを紹介するには大分道ぞなへを先きしておかなければならぬ。けれども単刀直入に申すから、大分皆さんに考へて戴きたい。之れ迄科学で研究する一番の本はForceであつた。夫れにはEtherを要するのである。我々の地球は他のものと連關して存在するもので、万一此の世界が太陽と絶縁したならば立どころに絶滅するのである。此の世から熱、光り等を取り去つたならば忽ち死界となつて了うのである。

[月]

恰も月のよ一になるのである。又死界と思ふて居るお月さんも何でもない。只、兎が餅を搗く位に考へて居るけれども、やはり此の世界をとりまいて居る処の太洋、世界の五分の四を占めて居る潮流の満干と云ふことは誰れがして居るかと言ふと、月がして居るのである。

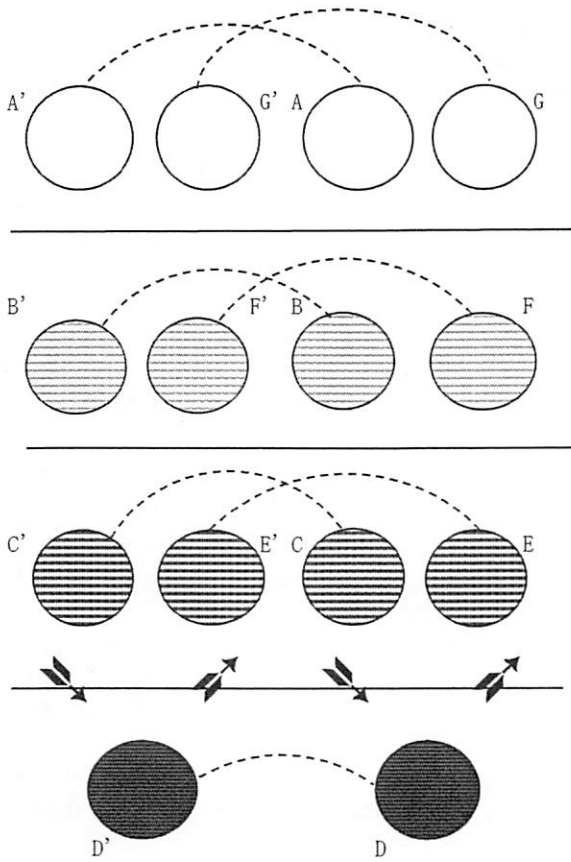
故に我々は月の世界とも離る可からざる關係を持つて居るのである。斯くの如く、我々がやはり此の宇宙の天体と非常に密接なる關係をして生存して居る。其の本は力、光線、熱、音、電気又は磁石の力等である。

我々は猶ほ、夫れよりも一層微妙なる力、Etherよりも猶向ふに越えて行つた本体を説き明かすに必要なる仮説、私は之れを他の人の使ふた詞を用ひて申すのであるが、今迄はOuter lifeであつたが、是れからはInner life。其のSpiritual lifeのEssenceは何であるかと云ふと、之れをAstral lightと言ふ。Astralと云う詞は天と云ふよ一な、所謂人間以上の世界である。此のAstral lightの出来る原素はLeibnitzの言ふMonadである。

天はすつくりMonadの海である。此のMonadは精神界の凡ての活動に必要な実体である。今日は心理学の研究に由つて、千里も先きにあるものを見ることが出来る。之れを天眼、又は靈眼と言ふ。此の靈眼に由つて、今日我々が使ふて居る媒を使はずして全く隔たつて居る靈と靈とが交通することが出来る。つまり此に我々の社会の中に、所謂靈界の中にはEtherよりも猶一層進んだ処の靈体があると云ふ仮説が一つ。夫れから、も一つの仮説はLeibnitzから言つても、亦科学から言つても、此の宇宙は一つの靈体である。

此のRealityの間には無数の階段があると云ふ考へをもつとよく説き明かさなければならぬけれども、兎も角も図を以て示しましよ。

今日迄の人間の頭で研究の出来る処の歴史、幾千万年、或は幾百万年續いて居るのです。其の歴史、人間が研究の出来る処の其の歴史的研究、此の物質的研究、夫れから人類の文学、美術、科学、哲学に残つて居る処の凡ての経験、之れを材料として其の間のUnityを求めると斯うなる。



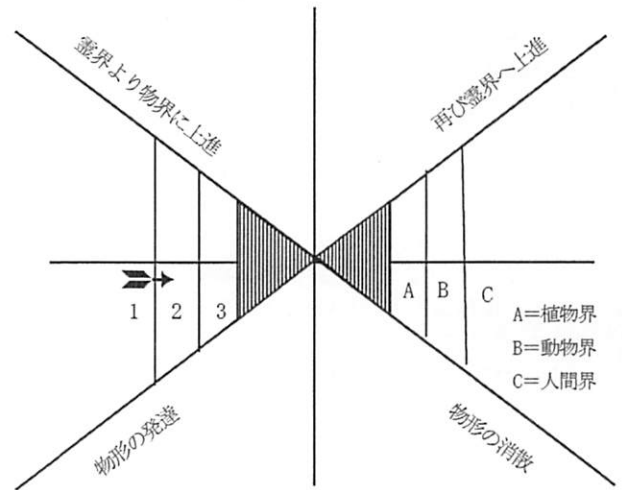
これが丁度七つある。これが進化の七階段を示したのであります。此の七つと云ふのは、哲学から研究した処の推理した処のものである。

黒いのは一番物質的になった状態を現したので、即ち我々の今の生活をさしたるのである。一番濃くなった処の状態を云ったのである。併し之れは何処から来たかと云ふと、最上の階段から来たので、之れが此処迄来るには幾万年かゝったかも知れぬ。之れが又最上のものとなるには幾万年を要するかも知れぬ。そこで我々の今日の人格と云ふものは何千年かゝって来たものかも知れぬ。そ一して我々の生と云ふものは、決して死すと云ふことはない。宇宙には死と云ふことはないのである。只之れは Appearance である。そ一して決して同じことを繰り返してはしない。変り変りして行きよるのである。つまり、此処では一番 Illusion が多いのであるが、段々進む程明るくなるので、此処は一番神に近づく状態を示したのである。

此のよ一に始終循環して、夫れが中心を拵へて沢山の関係をつけて、其の循環が渦巻きのよ一になるのである。つまり最下の処は精神的の処が鈍いのである。然るに此の上に行くと、全く Astral light、Ether より猶薄い処の、併し猶夫れよりも活動の遅いものとなる。天体と我々とは非常に深い関係のあるよ一に、この細胞と細胞とは密接して居る。此の筋と筋とは其の関係を云ふたものである。

そこで我々凡ては、此の Astral light を呼吸して居ります。故に Reality に於ては、秘密 Private と云ふことは其の真意に於てはない訳である。如何となれば、我々の Spirit は心から心、人格から人格に直接関係を持つことが出来るのである。之れは説き明かしを要するが、つまり Subconsciousness の時にも大分考へたことがある。又時代の精神、或は無声の声と云ふことも考へられる。昔は予言と云ふこともあった。斯う云ふことは多くの精神界の事実を研究して、精神の空気、我々の社会をなして居る処の空気、我々の思想をなして居る処の関係、其の精神的生命の原理を研究して、其の原理を我々の日常生活に応用する為めに、之れを最もよく説き明かす為めに、茲に Astral light と云ふ仮説を用ひることが便利であり、又之れを研究すると云ふことは出来ぬことではあるまいと思ふ。

之れを図解して見ますと、此に黒くなって居ります。之れは前に言つた世界を云ふのである。真中は鉱物界。之れが最も物質的な処である。A が植物界、C が人間界となつて居る。つまり之れは霊界より物質界に循環する有様を示し、之れは物質界より霊界へ上るのを示したのである。之れを、つまり物体の消散と云ふのである



そこで人間が今日迄になつたのは、段々進化の法則によつて我々の低いものから精神的我となり、そ一して又段々上つて行つて、猶完全なるものとなるのである。そこで我々地球も、ずっと後には冷えた世界になる。猶ほ冷えた時には他のものと衝突して、月の如きものとなるであろうと云ふ考へを持って居るが、世界の運命は是から何千万年の後には月の如くなると云ふならば、我々が折角骨を折つて作つた処の社会、或は宗教、或は事業と云ふものは誠につまらない、全く水泡に帰するのであると考へるかも知れない。併しそ一云ふことを以て怠るのは、我々の内が許さない。処が此の世界の中の Spirit と云ふものは変るのである。我々の身体も其の中は変るのである。又、空中飛行機や無線電信のよ一なものが出来たなら便利であると思つて居つたが、今日では、も一そ一云ふことは珍らしくなくなつたのである。之からは、も一金

星の中へ一つ旅行をしようと思ふよ一なことになるであらう。夫れで此の世界が冷えて了ふと思ふ時には、又人智が進んで、他の發明をすると云ふよ一なことになるであらうし、或は、も一つ進んで希薄なる世界となるかも知れぬ。故に、そ一云ふ心配はいらないのであります。

[宇宙は Spirit なり]

猶此の研究から段々進んで、我々の生命の運命、ほんとの価値と進化とを研究して進むことが出来るのである。

私は、大体此の宇宙は Spirit であると云ふ断定をつけたのであります。猶ほ私は、之れを学理的に説明して、我々の運命及び其の価値と云ふことを説いて、神とは如何なるものであるかと云ふことを申したいと思へましたが、時が参りましたから、今日は之れでおくことと致します。

[中表紙]

大学部全体の為に
明治四十三年七月二日

明治四十三年七月二日
大学部全体の為に

私が今日全体に申したいと思ふて居ります一番大事な事は、あなた方の学問をなさる態度であります。実は、ど一云ふ原因によって我々は、も一つ満足な結果を学問上に得ることが出来ないか。英文科の御方も、文学部のお方も満足に力をつけることが困難であると言ふておいでになる。そ一して英文学部、文学部のみならず、家政科、教育部に於ても、そ一云ふことを全体が感じておいでになる。猶其の上、桜楓会員正会員の方でも、も一つ満足なる力を養ふことが出来ぬと言つて居らるゝ。独り女子の高等教育にそ一云ふ感じが起つたのみではなくして、男子の高等教育に於ても、國民が今日の教育に由つて満足が得られないと云ふことは、昨年以來の現象に由つてわかる。著しく入学志願者を失ふたと云ふことである。今日の教育を以て、学生の満足を得ることが出来ないのである。殊に我が國、刻下の急務と認めて居る商業教育、工業教育と云ふ様な最も実用的な教育に於ても、猶且つ、そ一である。之は、ど一云ふ原因でありませうか。学問が夫れだけの効果を現すことが出来ない。学生がど一して満足なる力を得ることが出来ないであらうかと云ふことになる。夫れで私共は昨年今頃から気がついて、卒業生の長い間の經驗を聞いて見たり、又其の結果を調査して、何が果して其の原因であるか、其の原因に向つて力を尽して見なければならぬ、又改良を加へなければならぬと云ふ必要を感じて居るのである。

[学問の根本的改革を要すべき時代]

そこで我々は其の根本の原因は何にあるかと云ふことを研究して見なければならぬ。つまり、学問の根本的改革を要すべき時代ではないかと思ふ。私は實に、今日は根本的改革の

時であらうと考へます。そこで此の間問題を与へておきまして、今日は出来るだけ多くの考へをも聞きたいと思へて通知を致しました。之は只英語と云ふことではない。凡ての学問の根本としたいと思ふ。故に家政部、教育部にも通じて大切なことであるが、特に英文学部、文学部の方々には最も大切なことであると思へるから、殊更に私は英文学部、文学部の出席を調べたのであります。然るに大層欠席者が多い。之にはいろいろ事情もありませう。始め三時からと云ふことでしたが、二時に改めた通知の遅かつたこと、及び明日の音楽会の準備と云ふこともありませう。

[最も深く注意すべきことは学生の態度、正確なる判断を誤らぬこと]

私は、此の問題について一番大切なこととして深く注意して居るのは、あなた方学生の態度であります。其の次に大切なことは正確な判断を誤らぬ、物の軽重を失しなと云ふことで、そ一云ふ時に其の人の人格は現れる。其の人の価値はわかるのであります。

之は今日一朝にして言ひ出したことではなく、昨年以來深く考へた根本問題であります。あなた方は非常に忙しい事が多いと云ふことは、決して察しないではない。殊に私共は子供の時から忙しい生活を續けて来て居るから、夫れ位のことには察しがつかんではない。併しこ一云ふ時に於て、何に最も力を尽すべきであらうか。そ一云ふことを軽々に見逃がすべきではあるまいと思ふ。之は、皆さん御自身の反省を促しておくのであります。

明日は音楽会をなさると云ふことである。之は至極よいことである。けれども、若し之が為にあなた方の折角は迄作つた氣風を俗化するならば、私は之を中止する。も一つ私の耳に何処からか鼓の音が聞こえて居つた。私共が注意しなかつたならば、あなた方は此の講堂で三味も弾くかも知れぬ。芸者、俳優のまねもする、踊りもすると云ふ様になるかも知れぬ。併し初めから、文芸とかをするには一つの主義を持つて居る。故に此校でするものは如何なる調子でなくてはならないか、ど一云ふ響きを学生に与へねばならぬか。根本問題は抛つても我々は只楽しむ、只喜ぶ、斯く趣味は下落してもよいと云ふことであるか。若しそ一云ふ考へであるならば、決して之をすることはならぬ。英文科はど一でありませうか。殆んど勢を碎かれて挽回せらるゝことは六かしいと云ふ有様である。文学部はど一であるか。是れ亦力を失ふて教ふ可らざるものとなつて、之が度々学部の改革を試みた所以であります。あなた方はそ一云ふ根本問題は一向痛痒を感じないが、只今日の自分の耳を喜ばし、目を楽しませたならば、之が人生であらうか。只試験と云ふことに頭を束縛せられて、夫れで甘んじてよいであらうか。之は誰れの責任であらうか。私は、此の問題は第一に英文学部に問はねばならぬ。あなた方は真先きに出なければならぬ。時刻も後れず真先きに此の堂に来て、皆を Entertain する。文学部を如何に導かねばならぬか、此の決心をなさることを私は期待して居つたのである。之は永く研究せねばならぬ。私は軽々に看過することは出来ぬ。万一軌道を逸する様なことがあるならば、私共は之を看

過することは出来ません。明日の音楽会に就いては委しく Program をお作りになって、報告なさることを望みます。我々は始めから斯う云ふことについては一つ主義、方針を以て、ほんとうに健全なる趣味を養ひ、世のそ一云ふ方面をも導かうとして居るのである。故にあなた方のなさることは此の学校の方針、主義に叶ふ様になければならぬ。之をさして或る人は束縛と言ふかも知れぬ。けれども夫れは似て非なる言を弄するものである。故に正確なる判断を下さなければならぬ。之迄に骨を折っても其処に其の心が起らなければ、私が声を漉らして叫んでも一向だめであります。西洋の詞にも、

One man can lead a horse to a river, but ten cannot make it drink.

一人が馬を川迄つれて行くことは出来るかも知れぬ。けれども仮令二十人かゝつても其の馬に水を飲ませることは出来ぬと云ふことです。私がどんなに力を入れても、あなた方の方に飲まう、しよ一と云ふ心がなければ、一步も先きに進むことは出来ぬ。何事も功を奏することは出来ないであります。私が幾ら心を引き上げよ一としても、如何ともすることは出来ないのである。ど一して此の空気を作らうか、ど一したならば此の態度を改めさせることが出来るか。之が私の今日、時のないにも拘らず、最も心配に耐へない処であります。

今日は此の問題について、最後の結論をつけよ一として居る。ど一にか結論をつけねばならぬ。実は大分あなた方の態度も出来ましたから、そ一時を要することもなく、大抵予定の時に終へることが出来る。又そ一私が反省を促さないでも動かすことが出来ると思ふて居りましたが、図らず斯う云ふことが現れましたので、進むことが出来ません。併し之は何とか始末をつけなければならぬ。私共は如何に時間がとれましても、骨が折れましても何とかせねばならぬ。其の問題について本気にお考へになる方は、心を一つにして研究をして見たいと思ひます。私はあなた方を強いて進めよ一と云ふのではない。只進んだ処が何の役にも立たない。私はあなた方を指導することが出来るけれども、水を飲ませることは出来ぬ。故にど一か打ち明けて、お互が心から心の中を現して、相助けて之を研究するのである。独り三年以下の学生ばかりではない。此の中においでになる正会員の方も、先生のお方も同じく学生である。お互に学ぶのである。そ一云ふ考へを以てお互に打ち明けて、打ちつけて互に助け合ふ、互によい反響を致したいものであると云ふことを、私は希望するのであります。あなた方は是迄係と云ふものをおいて各自責任を分担し、寮の為、級の為、学校の為によくお働きになつたのであるけれども、中頃、ど一も学校の為め、団体の為め、係の責任、そ一云ふことに力をとられることがある。之が勉強の出来ぬ訳である。も一、そ一云ふことは止めよ一かと云ふ迄に個人的になつたことがある。出来るだけ本を読む余り日常生活、責任と云ふことに尽す、之が力の出来ぬ理由であると云つて出来るだけ本を読んで居るけれども、いけない。幾度か頭をぶつつける。今度は根本から開けて来るかと待ち望んで居ると、又つまづいて来る。夫れは何故であるか。我々をして、行きなやませるものは何であるか。何が其の

原因であるか。其の原因から見出だしてかゝらねば、一步も進むことは出来ないのである。何が私共を苦める原因であるか。今日は、正会員のお方も先生のお方も皆に伺ふのであるが、銘々何かの答へをしなければならぬ。

[質問に対して]

・さ程に心配して貰はないでも、行きなやんで居らない。仮令其の進歩は遅々たるものであるにもせよ、我々は行きなやんで居らないと言はるゝお方は……なし

・行きなやんで居る。ほんとうの力がつかないと考へて居るお方は……全体

殆んど全体の一である。

[実力の方面]

然らば何が行きなやませるのであるか。今日は主に実力と云ふ方面から尋ねますが、何が物足りない感じを起させるのであるか、其の原因を言はるゝお方は……

[理想の構成]

(1) 理想をはつきり構成されないと云ふこと。

之は、も一思想が統一せられない、思考力が足らぬ、も一深くいへば、信仰、此の間言つた瞑想が足らないと云ふことになる。即ち頭脳の不完全な処に歸するのである。

[不熱心]

(2) 不熱心。

[ナポレオンの前には Alps なし]

Napoleon の前には Alps なし。我々は何故行き難むか。不熱心である我々が若し熱心であるならば、Alps はないのである。又、英文科の方は忙しい。私は之を察するのである。又、身体の疲れた人もある。私は此の間から氣遣ふて居る、同情があるのである。けれども身体は弱くても、時はなくても、決心があるならば Alps なしである。決心あるものに、出来んと云ふことはない。之は境遇もわるいが、我々もわるい。勉強する興味が足らない、熱心が足らないと云ふことになりましてしよ一。

[靈知の欠乏]

(3) 靈知の欠乏。

やはり信仰が足りないと云ふことになる。

[責任心の欠乏]

(4) 責任心の欠乏。

此処迄は、あなた方が其の原因を自分の内にお求めになつた。之は学生として尤もなことでありますが、自分の外にも未だ原因があるでしよ一。

(5) 世界と交通する処の語学の Facility を欠いて居ること。

夫れも確に一つの原因でしよ一。其の他に猶、あなた方がそんなに世俗的の事に流れて、根本的のことをしよ一と思ふてもそ一なれない処の原因が他にありはしないでしよ一か。之を平たく言へば、

(6) 我々の力を展ばすことの出来ぬのは、社会の学制制度、其の他、伝説的に余儀なく強ひられる様な境遇にも原因があること。

あなた方の行きなやむと云ふことは、あなた方の生活をして居る空気のわるいことや、又制度がいろいろな方面から束

縛を加へて居ることが沢山ある。

又今、英語と云ふことがありますが、何故、英語の力が展びないか。只暗記的、注入的になって、ほんとの力とならない。あなた方で云へば、成る程此処で云ふ様になればよいに違ひないけれども、先生が、歴史はおまへ達二十枚暗記して来なければならぬ。又、詩は Longfellow の此処から此処までどーしてもやって来なければならぬと言はるゝ。ほんとの力と云ふものは、そんなことで出来るものではない。けれども仕方なく字引きと首引きをする。又先生になる人は検定試験を受けねばならぬ。其の為には暗記の学問にして博識にならねばならぬ。夫れが出来ねば学校に居られない。又親が承知しないと云ふことになるのです。

又、文学部の方では、三年目には文部省立ち合ひの試験をせねばならぬ。其の為に、どんどん暗記的の試験をせられる。之は誠に気の毒なことである。然らば、其の不可なることを認めて居るからは此の大学で改めて下さいと言はれても、今日の制度がそーであるから私もかへることが出来ない。どーしてもそーしなければ、あなた方の関門が通られなくなる。夫れが出来ねばあなた方、此の学校に居られなくなると云ふ有様です。殊に驚くべきは男子の方で、今年の試験を受けたもの 9000 人の中、7000 人は入学が出来ない。甚しきに至つては、或る人の如きは今年で十一年目であるが、未だに落第して居ると云ふことです。斯くの如き試験制度の束縛を受けて居るから、如何とも出来ない。こー云ふよーなのが、外から受けて居る処の一つの障害物である。之はたった一つの例であるが、こー云ふ様な困難があなた方の学問をする上に沢山ある。斯くの如き、伝説的教育制度に由つて束縛を感じると云ふことが事実であるか、どーであるか。

- ・夫れが事実であると言はるゝ人は………稍多数。
- ・外からの刺激はあまり感じないと云ふ人は………少数
- ・夫れでは、内の障害、頭が発達しないと云ふことが大原因であると考へるお方は………大多数
- ・努力が足りないと思ふ人は………大多数
- ・靈知の欠乏、信仰の出来ないと言ふことが力の出来ぬ原因であると思ふ者は………半数
- ・責任を感じることの薄いこと………少数

外の原因と内の原因との間にありまして、之をも一つ養ふて行くに必要な鍵とも云ふべき語学の力の足りないことが原因であると思ふ者は………少数

未だ何処へも手をお挙げにならなかつた方は一寸手をあげて御覧なさい。

然らば今学校の制度を改めまして、即ち余り多過ぎる学科目を減少して、学生の力に相当するものに組みかへて、夫れから卒業試験、又其の資格を与へる試験の仕方をも改める。従つて英語の教授法なども少し有効な方法に改めることが出来たならば、あなた方の力を得るに最も便利なことと言ふ迄もない。然るに此の学校では、そー云ふことを改めると云ふことが最も特色である。然るに創立以来十年にもなりますが、私共の意見を行ふことが未だ困難である。夫れで私共は其の進歩が如何に遅々として居つても、之を内に求める。あ

なた方の仰やつた様に、あなた方内の仕方を改めると云ふ事を主張するのである。之は誠に出来難い事の様であるが、不可能の事ではないのです。

そこで今日は、問題が英語学の研究法である。英語学を Master する処の Art である。故に、之を本として他の学問にも応用することが出来るが、今日は主に英語の方から申すのであります。

[頭脳の不完全なる為]

先づ第一にあなた方の仰やつた、頭脳の不完全なる為に思考法を改めねばならぬと云ふことが大原因である。そこで私共が英語をする上に、思考法の完全と云ふことを期して行かねばならぬ。処が思考法と云ふは一般の事であるが、之が又、英語の上に非常に大切なことです。今日あなた方の勉強の仕方は Sentence ではない。Language ではない。Word 一語一句と云ふことに重きをおき過ぎて居ると云ふことである。つまり語が断片的に切断せられて、生命あり力ある処の Language、或は Sentence、或は Essay と云ふ様なものになり得ない。又、為し得ないと云ふ処に非常に困難がある。あなた方に一寸尋ねを出しますが、時のない為に余り沢山聞くことが出来ないから、其の中の鍵となる様な語を引くがよからう。

・ Context と云ふ字の意味のわかつて居る人は………

此の字は習ふたことのある字であるけれども、意味がはっきりわかつて居ないと云ふ人は………

之は Grammar を学ぶに誠に大切な詞である。之は Con と云ふ字に Text と云ふことの添はつたものです。Grammar の中で、又あなた方の字引きを引いて字義の穿鑿をなさる時に、Context と云ふことの意味、又こー云ふことに気がつかないのは大変不利益なことです。

Context とは前後の関係と云ふよーな事である。此の頃、普通予科から出た尋ねは甚だ要領を得て居るのです。之を今から三ヶ月前、入学当時の質問に比ぶれば非常なる進歩であります。演説とか或は一冊の書物と云ふものが、其の個々の詞に由つてわかるものではない。例へば此の間私が結論として、実在の真髓は Spirit であると言つた。誠に簡短な詞であるが、字引きで引いた Spirit と云ふものに由つて其の意味のわかるものではない。又 Astral light と云ふこと。之を或る人は字引きをひいて星の光りと訳したそーであるが、決して只星の光りと云ふことではない。之は James や Spinoza や Leibnitz、未だ其の前から段々説いて参りました、其の深く長い続きある意味をこめての詞であるから、只そー訳してもほんとの意味は出ないのです。英語を読む時に、訳して此の詞を切つて了う。そんなことでわかるものではない。凡て一つの詞と云ふものは、其の前後の関係に由つて種々の意味を生ずるのである。

[哲学的頭脳の欠乏]


そこであなた方の困難な訳は一言で言へば、哲学的頭脳が欠けて居る。全体を統一する、複雑の中に統一をつけると云ふことが欠けて居る。之が、其の英語を自分の中にほんとの Assimilate することの出来ない所以である。又、個人と社会との関係もそーである。

[社会と個人との関係]

個人と云ふものは、どーしても我々の関係して居る社会に
関係して見なければわからぬ。社会と云ふものが One book
であるならば、個人は One page 或は One sentence である。
之が人に由って、誠に簡短に話してもちゃんと其の要領のと
れる人があり、又どんなに委しく話してもわからぬ人がある。
夫れは頭のわるい処から起るのであります。

此の間、私が Editorial の中に言った、何故日本語に訳し
て読むのが不利益であるか。Life の論説を読んだお方は……

夫れでは Acme と云ふ詞を知って居る人は

The very acme of life is for epic party. と云ふ様な
Sentence があるとすると、生命の頂上と斯う覚えておいて、
明日教場で答へる。夫れも日が経つとまるっきり忘れて了う。
又、沢山の詞をそー々覚えられものでもないから、何と
か此に工夫をしなければならぬ。故に、Acme と云ふから悪味
と連想し、又頂上であるから  と云ふ様にして覚える

仕方もある。之が一つの覚えかたである。又之は Pope と云ふ
人の言った詞であるから、Pope の他の詞、或は之と同じ様な
意味の格言と一緒に Context として覚える仕方もある。一寸
聞きますが、
斯う云ふ新しい字が出ると字引きで引いて、何度となく繰り
返して覚えて居るもの……

Artificial に特別の仕方に由って覚える様にして居る人
は……

自分の最も感ずる考への Context として覚えることに勉め
て居る人は……

自分の考への材料とするのは Unit of language の方法であ
ります。然るに日本語を介して見ると云ふことが、どーして
も頭が断片的になる本です。

夫れで第一の Principle は、日本語を以て翻訳しないと云
ふ仕方を以て研究して貰ひたい。

今言ふ Context で、決して一つの詞では意味はないもので
あると云ふことのわかった人は……全体

私の言った意味で、成るべく日本語を介せずに英語で読め
ば、直に其の意味がわかって来ると云ふ経験のある人は……
…なし

未だ中間の方法をとって居る人は……多数

之を委しく聞きたいけれども、時がないから秋になって聞
きますが、之を夏中経験して貰ひたいと思ひます。

[Lesson の準備及び Meditate するときには必ず英語を以てす
べきこと]

夫れから第二には之に関連したことで、英語の下調べする
時に、又英語の本を読む時に、いろいろ頭の中に考へが起っ
て来る。或は明日の Lesson を用意する時に、いろいろ日本語
で考へることがある。之も間違ひであるから、之を改めねば
ならぬ。故に英語の本を読む時に、又は明日の課業を準備す
る時に、及び Christian であるならば Meditate する時に、成
るべく英語を以てして居る人は……

之を一つして見なければならぬ。

[興味と観念連合と云ふこと]

第三には Interest and association 興味と観念連合と云ふ
こと。之が前にどなたかの仰やった靈知の欠乏、又不熱心と
云ふことに関係があるので、此のやり方が非常に大事である。
つまり、学問をするにも精神的にしなければならぬと云ふこ
とが必要である。前に言った Vivid idea と云ふことが非常に
大切である。つまり私共の態度が飢え渴く如くに或る物を非
常に熱望して居る、必要からして奮闘して居ると云ふことが
此の語学を Master する上に非常に大切なことである。之は私
が非常に忙しい間に英語を始めまして、どーして覚えられた
か。どーして語学が自分の物の様に Master せらるゝ様になっ
たかと言ひますと、其の頃自分が一番興味を持って居った宗
教問題の為に Bible を読んだと云ふことである。そこで最も
深い興味を持って研究する中に、其の Style、其の味ひ、其
の生命が自分のものゝ様になって来ました。其れは只 Bible
の深い意味を解すると云ふだけではなく、之は最も深い自分
の Prayer である。生命である。自分の最も尊び、生命を捧げ
て居るものゝ為に賛美する、誓ひをする、祈りをすると言
ふことになって来る。其の頃、も一つ読んだのは小説であ
るが、之は今では余り人の読まないものとなりました
Pilgrim's progress、天路歷程と訳してある Bunyan の小説で
ある。之が又非常に深い印象を与へて、いろいろ Vivid に働
いて、いろいろと Imagination、Meditation を養ひました。
其の次は必要に応じて化学、数学、物理学と云ふ様に、実際
自分が教へるものを悉く英語の本で調べたと云ふことが大層
力となりました。

私は、も一つ自動的に、も一つ生命ある様に英語を研究す
るには、是から精神的生活を初めよーとして居る其の修養と
研究とを一緒にすると云ふことが必要である。そこで私が
Spiritual food と云ふ処で今日の読み方にすれば、Bible は
決して古びては居らない。其の誠にやさしい、そして又有効
な読み方が書いてあるのである。Bible は誠に安く買はれる。
斯う云ふ皮の表装をつけて金縁であっても三十銭位で買はれ
る。もつと表紙が粗末で飾りのないのなら、十四、五銭も出
せばすぐ求めらるゝのです。夫れでそー云ふ精神の糧を与へ
らるゝ様な本を自分で工夫して最も深い感動を以て読むなら
ば、同時に此の Vocal training が出来る。例へば Song など
でも斯う云ふ風に読むことは、も一自分の生命になって出る。
此に至っては語学と云ふことではなく、非常に深い考へが湧
いて出て、心から神と一つになる仕方である。例へば新約全
書にある処の Prayer、其の中には非常に深い意味があります。

Our Father which art in heaven, Hallowed be thy name.
Thy kingdom come, Thy will be done in earth, as it is in
heaven.
Give us this day our daily bread.
And forgive us our debts, as we forgive our debtors.
And lead us not into temptation, but deliver us from evil.
For thine is the kingdom, and the power, and the glory,
for ever. Amen.

斯う口に祈りをして、心に感じて、真に神と一つになる。其の経験をする時に其の発表を詞に顕すと云ふことは、自分の腸の中に何時迄も消えない印象を与へるのである。此の Interest と云ふことが実に大事である。そ一云ふ感じはないが只詞で覚えて置かうとするならば、一向役には立たないのです。又、私は The Gospel of Buddha と云ふ題目をおいた、又 Confucianism を読むのである。之を私共が修養の為に共に読むと云ふことが、誠に大切であると思ふ。

Oh our father in heaven. と読むと直ぐ神と云ふことが思ひ起され、同時に其の神を愛すると云ふ念が油然として起るのです。Spinoza も Leibnitz も読みました。我々の修養と語学は、斯くの如く相伴って始めて力となるのであります。

そこで Meditate するにはど一云ふ仕方をすべきであらうか。英語で考へると云ふことはど一云ふ様にすればよいか。今あなた方と一緒に英語と云ふことを考へて居る。そ一云ふ時には外国へでも行った様な考へになって、日本語と云ふものは全くないと云ふ考へを以て、考へるにも話をするにも英語の外はしないと云ふ様にすることが必要である。私思ふに、之は学生の方で自動的に、そ一云ふ会を起して見る必要があると考へます。一つ読んで見ましょ一。皆さん Spiritual food の中の The Gospel of Buddha と云ふ処を明けて御覧なさい。

Buddha said; "What my friends, is evil? Killing, my friends, is evil; stealing is evil; yielding to passion is evil; slandering is evil; abuse is evil; gossip is evil; envy is evil; hatred is evil; to cling to false doctrine is evil; and all these things, my friends are evil.

"What, however, is good?" Abstaining from theft is good; abstaining from sensuality is good; abstaining from slander is good; suppression of unkindness is good; abandoning from gossip is good; letting go all envy is good; dismissing hatred is good; obedience to the truth is good; all these things are good.

"Freedom from desire is the root of good; freedom from hatred and freedom from illusion; these things are the root of the good.

"What, however, O brethren is suffering? What is the origin of suffering? What is the annihilation of suffering?

"Birth is suffering; old age is suffering; disease is suffering; sorrow and misery are suffering; affliction and despair are suffering; to be united with loathsome things is suffering; loss of that which we love and the failure in attaining that which is longed for are suffering; all these things, O brethren, are suffering.

"And what, O brethren, is the origin of suffering? It is lust, passion, and the thirst for existence that yearns for pleasure everywhere, leading to a continual rebirth! It is sensuality, desire, selfishness; all these things, O brethren, are the origin of suffering.

"And what is the annihilation of suffering. The radical and total annihilation of this thirst and the abandonment, the liberation, the deliverance from passion;

that, O brethren, is the annihilation of suffering.

"And what, O brethren, is the path that leads to the annihilation of suffering? It is the holy eightfold path that leads to the annihilation of suffering, which consists of right views, right decision, right speech, right action, right living, right struggling, right thoughts, and right meditation.

"In so far, O friends, as a noble youth thus recognizes suffering, and the origin of suffering, as he recognizes the annihilation of suffering, and walks on the path that leads to the annihilation of suffering, radically forsaking passion, subduing wrath, annihilating the vain conceit of the "I am," leaving ignorance, and attaining to enlightenment, he will make an end of all suffering even in this life.

Shut the book. Please answer me!

What is evil?
Killing is evil.
Stealing is evil.
Yielding to passion is evil.
Lying is evil.
Slandering is evil.
Abuse is evil.
Gossip is evil.
Envy is evil.
Hatred is evil.
To cling to false doctrine is evil.

What is the root of evil?
Desire is the root of evil.
Hatred is the root of evil.
Illusion is the root of evil.

What is good?
Abstaining from theft is good.
Abstaining from sensuality is good.
Abstaining from falsehood is good.
Abstaining from slander is good.
Suppression of unkindness is good.
Abstaining from gossip is good.
Letting go all envy is good.
Dismissing hatred is good.
Obedience to the truth is good.

What is the root of good?
Freedom from desire is the root of good.
Freedom from hatred and freedom from illusion is the root of good.

What is suffering?
Birth is suffering.
Old age is suffering.
Disease is suffering.
Sorrow and misery are suffering.
Affliction and despair are suffering.
To be united with loathsome things is suffering.
Loss of that which we love and the failure in attaining that which is longed for are suffering.

What is the origin of suffering?
Lust is the origin of suffering, and passion, sensuality,
desire, selfishness are the origin of suffering.

What is the annihilation of suffering?
The abandonment, the liberation, the deliverance from
passion is the annihilation of suffering.

What is the path that leads to the annihilation of
suffering?
Right views,
right decision,
right speech,
right action,
right living,
right struggling,
right thoughts,
and right meditation are the path that leads to the
annihilation of suffering.

終りに一つ音楽をして、此の会を結びましょー。

The Rainy day

1. The day is cold, and dark, and dreary;
It rains, and the wind is never weary;
The vine still clings to the mouldering wall,
But at every gust the dead leaves fall,
And the day is dark and dreary.
2. My life is cold, and dark, and dreary;
It rains, and the wind is never weary;
My thoughts still cling to the mouldering past,
But the hopes of youth fall thick in the blast,
And the days are dark and dreary.
3. Be still sad heart! and cease repining;
Behind the clouds is the sun still shining;
Thy fate is the common fate of all,
Into each life some rain must fall,
Some days must be dark and dreary.

— Longfellow

私は大分皆さんの態度が出度た、気合が一つになって来た
と思って喜んで居た。けれども私が希望して居た様には、
未だ出来て居なかつたのである。例へば明日音楽会をするに
ついて、其の為に欠席が多いとか、根本のことを忽せにする
様ならば、之は軽重を失したものと云はねばならぬ。そこで
初めから申しておきます。そー云ふことについては、此の校
は初めから主義を持って居ります。故に其の主義に反するこ
とがあるならば、私は何時でも中止します。故に範囲を拡げ
るにはよく注意してしなければならぬ。そこで音楽会の係の
方は早速相談をなさって、今晚にも其の Program をお出しに
なることを望みます。我々は長い間苦心して漸う此の頃夫れ
があらはれかけたので、先日大来大切に育て居た処の
空気があります。夫れをこはそーとするものは決して許さな
い。我々の音楽は其の精神にふれる様な音楽会が行はるこ
とを希望します。今日も続いて、そー云ふ深い感じの現れる
ことが大切です。そーなれば銘々の感情に由って全体を動か
す処の空気が出るのであります。私はどーしても根本から

しよーと思つて居りますから、どーか皆さんが出来るだけの
事を十分に尽して、出来るだけの好結果を挙げる様に万事に
互つて御注意をなさることが必要であります。

[中表紙]
大学部全体の御話
明治四十三年七月五日

明治四十三年七月五日
大学部全体の為に

此の前、Life のことについて申しましたが、今度の企ては
本校の語学の為めには一の試金石ともなるべきものであろ
と云ふ考へでありまして、少しく其の前日の事につきまして
心配を致したのでありますが、私の心配を致した程のもので
もなく、一時の報告の間違ひや時間の不十分な為に起つたこ
とでありました。無論あなた方は、現実の楽みに計りに動か
されて居るものではない。我々が感じたよーな訳ではなかつ
たよーであります。然るにあなた方三年の方から、此の夏の
間出来るだけ実際に応用して見よーと思ひますから、猶委
しくお話を伺ひたい。又其の説を聞くについて、我々で用意
することがあるならば出来るだけしよーから仰やつて下さる
よーにと云ふよーなお話もござりましたので、いろいろ忙しい
中で沢山をすることも六かしいであろーから、社説の処だけ
了解することの出来るよーにしておいでなさいと申しました
れば、或る学部では指導者の方に頼んで其の意味をもお聞き
になつたと云ふことである。そこで今日は成る可く、よくあ
なた方に其の真意がおわかりになるよーに致したいと思ふて
居る。故に成る可くあなた方の考へを聞いて見るとよろしい
けれども、時を取りますから、必要な処だけ聞くことにして
私から申しましょー。

[或高等学校教授の説]

此の前の土曜日に知らず識らずに三時間余りも暑いことを
忘れて、お互に此の問題について討究致しました。其の前に、
私を尋ねて来た西洋人があると云ふ通知があつて逢ふて見ま
したら、夫れは或る高等学校の教授であつた。其の教授の言
はるゝには、或る本屋で此の Life を見た。私は今、高等学校
の三年級を担当して居るが、其の高等学校の三年生が未だほ
んと一に英語を Master することが出来ぬけれども、私は学生
の頭がそのよーに Stupid になつたと云ふことを決して信ぜ
られない。之れは我が国の英語の教授法などの間違つて居る
根本の弊である、と言ひました。私は、何故にそーお考へな
さるかと思へたら、其の教授は十数年の経験を引いて、
反復丁寧の説明し、且つ其の改良の必要を論じて居られまし
た。之れを聞いて私は一層、此の教育について、我国の前途
について、どーしたらよかるーかと云ふことを深く考へざる
を得なかつたのであります。

其の翌晩、三年生が来られて、私は再び勇気を回復したの

である。私は此の問題について再び、あなた方と話しを続けねばならぬ。Life について申すならば、私は外国語を学ぶことについて先づ之れを論題として論ずるならば、其の根本となること三点ばかりを列挙して、今後どししなければならぬかと云ふことを書き連ねたのである。

之れを先づ一言で言ふならば、之れは独り外国語ばかりではなく、国語、漢文、其の他の学問をする上にも、凡ての伝説的宿弊となつて居ると思ふ。

Word Thought Action

[我国教育の宿弊]

我が国の学生及び国人の習慣がよろしくないと思ふ。夫れはど一云ふことかと云ふと、我々の詞と、頭にある考へと、耳に聞く音声とが一つに Combine することが不完全であり、不敏捷であり、不正確である。斯くの如き頭の働きをさして鸚鵡的と云ふ。之れは何処から起因したかと云ふと、私共は一番先きに漢学をしたのである。七、八つの時から素読と云ふことをする。其の時には意味は少しも知らぬ。夫れから、少し大きくなって講義を聞く。そ一すると講義と素読を二様に覚えるのです。夫れから少し経って小学読本が出来て、先づ読み方をし、夫れから講釈を聞く。そ一云ふ教授を受けたお方が先生になる。夫れから外国語が入った。処が之れは漢学よりもっと六かしい。福澤先生でも新島先生でも、あゝ云ふ先輩方の壮年時代には甚だ不便利の研究をせられたのです。其の上へもって行って、外国人が教へたのである。夫れで、我が国の先輩方がそ一云ふ勉強をなさつたのである。

そこで前大学総長 山川博士が、我が国では英語の教師がほとんど一の英語がわからないから困ると云ふことを言はれた。私はど一かして之れを改めたい思ふて居る。今の外国人の言つたよ一に、我国では教育の仕方がわるい為めに消化して居ない。之れが又頭を悪くする。此の断片的に混雑して居る消化しない知識は脳力を害するものであると云ふことを、我々は信ずるのであります。

故に先づ第一に、此の詞と考へとが一致しなければならぬ。物を見る、声を聞く、直ぐ其の通り考へが頭の中に起らねばならぬ。又、頭で考へること、詞で考へることが行ひに伴はない。之れは甚だ、いけないことです。

あなた方は英語で言つても、国語であつても一つの詞を読むならば、只だ耳に夫れを聞く計りではなく、必ず心が読まねばならぬ。心がつかねばならぬ。つまり其の詞の要領を得なければならぬ。真意がとれねばならぬ。夫れで、其の意味がわからずに素読をすると云ふことがいけない。之を根本から改めよ一と云ふのです。例へば、

It is a book.

It と云ふことがわからねば、先きへ行ってはいけない。It は It とわからねばならぬ。It と云ふことがわかつて後、is a book. book と云ふことがわからずに、book と言つてはいけない。It や is は我々の詞の Unity ではない。此の間申した Context が大切である。ど一しても部分的ではいけない。全体の関係を弁へて要領がとれねばならぬ。若しわるい習慣がついて居るならば、夫れから改めて行かねばなりません。

Context と云ふことのわかつた人は……全体も一一つ私は夫れに關係して、ど一しても直訳してはいけないと云ふことの例を申して置きましょう。

或る本を読んで居つたら、Baby がこ一云ふことを言つた。

Red - pencil - write - papa - book.
ad. obj. v. obj. obj.

之れはど一云ふ意味ですか。Red とはど一云ふことですか。

What is this color?

之れはちゃんと意味をなしたものではありません。けれども Baby には之れが、意味があるのです。

此の家を建てるに一番大切なものは何であるか。セメントである。

夫れと同じよ一に、きちんとはまつて一つの Idea となるに必要なものは何ですか。

Conjunction
Preposition
Relative adverb
Relative pronoun

斯う云ふものゝ大切なことは、気付かぬことが多いと思ふ。つまり文典で余り解剖して丁うと意味がとれないから、私の論じ方によると文典を排斥したよ一であるけれども、半は Logical、半は Grammatical、半は Idiomatical である。夫れで、文典と云ふことで束縛しないのである。つまり此の四つの品詞をよく心得て使はねばならぬ。

此の子供の意味は斯うです。

I want the red pencil to write, in papa's book.

も一一つ注意しなければならぬ事は、初めに文典を習ふて、其の規則にあてはまるよ一に訳して行こ一と云ふ仕方もある。けれども、之れは勞して効なきものである。

What is this ?

It is a looking glass case.

(以下、会話を略す)

今、不知不識の間に、It と云ふこと、Is と云ふこと、又複数には Are を用ふるとか、s をつけると云ふことが出て来ました。

What is myself ?

You are man.

What is yourself ?

I am woman.

そこで、疑問が起つて来る。其の時に、単数の時と複数の場合との違ひも自然会得せらるゝのです。夫れで私共は、Empirical から進んで Proceed, Rational に行くのである。そ一しないと、大変に損をするのであります。

夫れから今の Meditation, Thinking, English の此の三つを一緒にすることが大切であります。

今の主義で直訳をせずにやつて行こ一とすると、必要上考へることを English にして行かなければならなくなる。之れについて此の間一つのことを申して置きましたが、も一一つ添へて申しておきたい。此の夏の間、力をつけるには只沢山

読むのが能ではない。Thinking と云ふことが大切である。一つ読むと必ず考へが起る。深く考へて読んだのであるから、問題が起り、想像が起る。其の度毎に、英語がふいふいと頭に浮んで来るのです。夫れをよく味はうて、確に了解して同化することが必要である。然るに Assimilate せずに To commit ではだめである。Assimilateは何であるか。To unified knowledge である。

之れについて一つ決心をしたと云ふ時には、ちゃんと Note に書くのである。そーして御覧なさい。必ずはっきりして来るのである。私は此の夏、出来るだけあなたの考へたことを英語で書いて貰ひたい。之れを研究の材料とするのです。

も一つ、あなた方の忘れたことがある。Spencer の言つた詞に、Emotions are master. Interest is servant.

興味は、今は主意説である。昔は主知説であつたけれども、そーではない。故に Spencer は斯う言つたのである。一番、私共の Emotion を深くするのは宗教的である。Religious emotion. 其の次は、小説とか抒情詩とか云ふよ一なものであります。故に、我々が進歩しよ一と思ふならば、何事でも Self-expression を非常に強くし、其の次は Necessity に応用すると云ふことです。

昔から Necessity is invention. と云つて、必要は発明の本であると言つて居る。

其の次は、Spiritual food と云ふ処に On Bible reading と云ふことを論じておきました。私の英語の勉強はど一云ふ風にしたかと云ふと、其の頃は最も熱烈な Christian であつたから、Bible を読む為に英語で研究したのである。夫れと同時に又之れで語学の力を養ふことになりました。

も一つは、Confucianism をも読むのであります。これも英語で The Four Chinese Classics と云ふものがあるから、論語でも孟子でも大学、中庸、皆之れで調べると宜しい。仏教については、The Gospel of Buddha と云ふ本が出来て居ります。

斯う云ふものを Devotional attitude, Critical attitude, 及び Literal attitude を以て研究することが大切であります。

次に十二頁の A Decalogue of canons for practical life. 其の主義を以て共同生活をして居る者の間に、是非守る可き十戒と云ふよ一なものが挙げてあります。

The increasing purpose

The life come from that which is unknown, all present what shall we call it? It were better without a name, this nameless source of life for the word God is mixed with the ideas of personality and limitation very foreign to their thoughts.

之れは名をつけない方がよい。名をつけると云ふことは、既に出来ないものである。之なども読むならば、必ず一つの Suggestion を受けるのである。

其の次は、Education of the will. 意志と修養とが一つになることが必要である。

其の次の頁が Art and literature. 之れはあなた方がお調べになつたか知りませんが、大切なことであります。昨日も

或る教育の Office を掌る人が、何に女は高い教育を施すこともいらず、英語などは必要はないと言つて居るが、私はそ一は思はない。

Language と云ふものは何から起つたかと云ふと、声である。音である。故に一番始めの人間の詞は何かと云ふと、泣くのである。痛いとか、物が欲しいとか云ふと泣くのである。其の次には笑ふのである。夫れでど一しても詞の発達が一番本は音である。故に発音学と云ふことからやつて行かねばならぬ。之れが土台である。そして詞の特色は Grammatical 或は Logical ではなく、Style である。自分の色、自分の味を一番余計に表すものは音である。故に一番特色のあるものは Poem である。其の音律韻をふむとか云ふことは其の Emotion を表はしたものである。其の特色をも少し艶をつけたものは音楽である。故にど一しても発音学からして行かねばならぬ。然るに我が国では、之れが一番後れて居る。殊に演説をすると云ふこと、音楽をする、歌を唱ふと云ふよ一なことも我國民が一番下手である。故に私は Phonetics を奨励したい。之れから大に口の教育をしたいのです。あなた方ばかりでなく、一体我が國民は此の声の教育がない、耳の教育がないと云ふことは、我が国の人が外国語をしてもほんとの一ことが出来ぬ。物は出来ても重要な地位に置かれなくて、不利益な境遇に陥つた原因であると思ふ。夫れで読書力を養ふには只だ目で見ればよい、考へてのみ居ればよいと云ふものではない。其の声の一番大切な本は何であるかと云ふと、我々の呼吸である。今私があなた方に話をして居る。其の話をするには自分の肺臓の中から大きな声として、あなた方の方へ送つて居る。只だ出すばかりではいけないから、時々一寸息を吸ふのである。そ一云ふ Art である。故に誠によい声を出して話す。其の話すことが誠に快く聞こえると云ふよ一に仕向けられてあるのは、先づ先づ此の校の教育である。

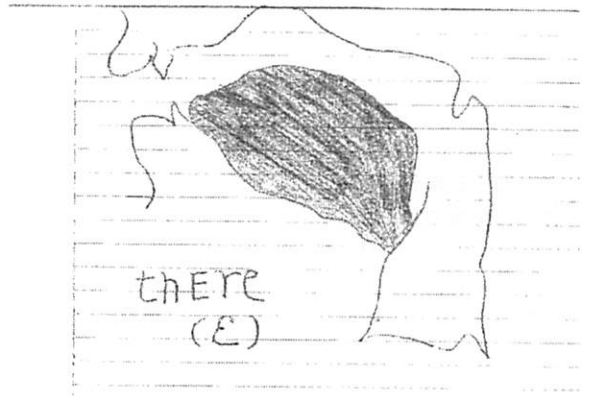
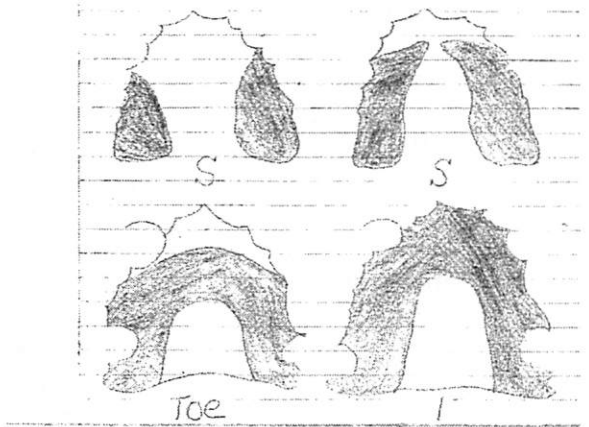
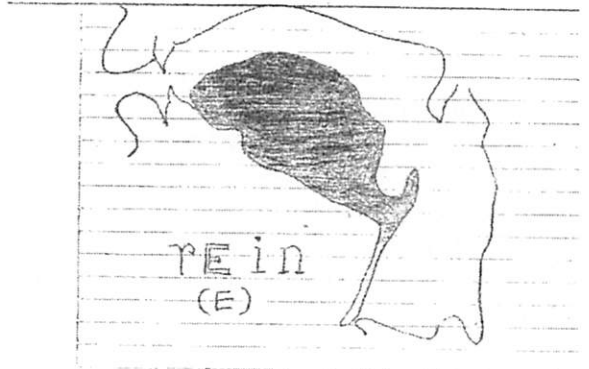
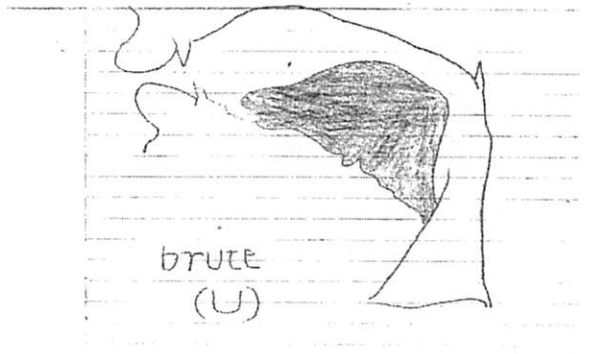
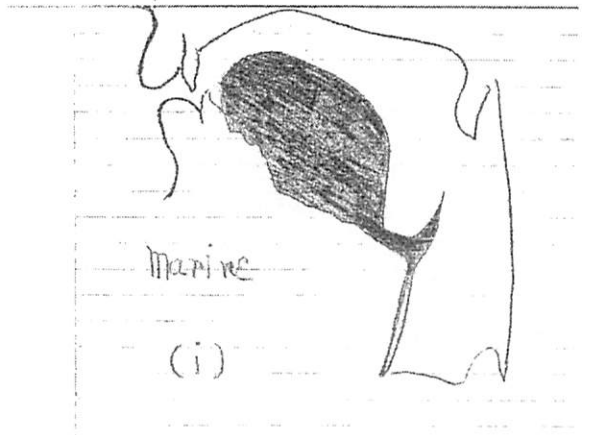
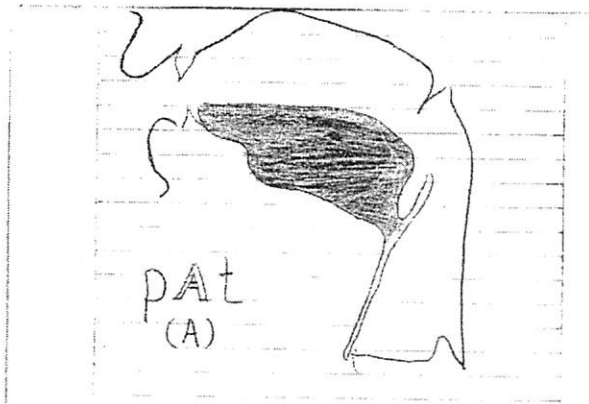
其の教育をするに一番大切なことは深呼吸である。深呼吸をするに必要なこと、又演説をするに、唱歌をするに最も肝要なことは、腹に力を入れて送り出すと云ふことであります。

此に言ふ Pure tone、人の耳に障らず、最も遠方まで、又最も経済的に声を出すに大切なることは、母音である。我々の声が空気に反響して震動して、Regulate して出るものが無益にならぬよ一にせねばならぬ。そして自分が此の Phonetics の Principle を知つて此の教育を受けておくならば、独りで出来るのです。故に先づ Phonetics の Principle を覚え、其の Exercise をしなければならぬ。そこで此の夏に仲間を作つてなさる前に、斯う云ふことを心得て置かねばならぬ。

話をするとき、或は音楽をする時に一番大切なことは、此の Pure tone で妨げないと云ふことである。

The most important organ of speech is the tongue.

舌が自由自在に動くよ一に、練習しなければならぬ。之れをやはり、指導者を頼んで教へて戴くとか、或は English teaching society と云ふよ一なもの、或は名をつけなくてもよいが、兎に角、仲間をつくつて練習なさることが誠に必要であります。



[Reading]

今一つは Reading である。自分で読んで見ることが大切である。之れは私が西洋で演説をやった処が初めには失敗したのであるが、後には音読の結果、上手になることが出来ました。

之れは全く、自分が声を出して読んだからである。夫れであなた方も Bible、或は Confucius なり Buddha なり、そ一云ふものを機会を設けて読むことが誠に必要である。も一つは、我が国では声を出して自分の意見を發表することをしないのですが、之れがお互に意見を發表しない、調和を欠き易い所以であると思ふ。

夫れで私はど一しても Vocal training からしよ一と思ふ。そ一して夫れに伴ふべきものは歌である。之れはあなた方、自分で研究し、自分で練習する為めに材料も集めたのであるから、よく銘々で研究なさって、其の真意を解して、も一つ自分の修養と考へと詞と云ふものが一つになるよ一にやつて見ると云ふよ一にしたい。そ一して自分で考へたことは、なる可く英語で書きとめるよ一にして貰ひたいのです。前にも申したよ一に、我が国では誠に此の語学と云ふものが後れて居る。又世間でも夫れだけ英語の力が発達しない。又青年がそ一云ふ修養の興味を持たないと云ふことは実に憂ふべきことであるから、斯う云ふ雑誌を月刊にしたいのですが、夫れには 1000 名の予約者がなければ出来ぬ。もし之れが出来たならば、大に我が国の英語の力を進めることが出来、精神修養の糧を与へることが出来ると思ふ。又 Correspondence もあるから、我が国の学生が世界の事情に通じて、後れないよ一にするにも便利であります。故に之れが発達するか、せぬかと云ふことは、私は日本の学生の上に非常に影響すると思ふ。ど一か此の学校で行はるよ一にしたい。そ一して、あなた方の知って居るものなどに紹介するならば夫れから夫れへと広まって、夫れから起るいろいろなる影響は我が国の教育の上に多大の貢献をすることとなるのです。之れがど一なるかと云ふことは、此の夏のあなた方の態度、仕方に由つてきまるのであります。夫れで猶必要であるならば、組々から其の指導者をお出しになって、御相談なさることが必要でありましょ一。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十三年七月六日

明治四十三年七月六日
大学部全体の為に

昨日、皆さんに一寸申しておきましたよ一に、之れは余程長い間、宿題として此の研究をして進んで来まして、少しでも道を開いて行きたいと云ふ考へであつたが、皆其の必要は感じて夫れを実行するに至らない。今度之れを実行してよ

いかど一かと云ふことについては、随分考へて居りました。此の土曜日には其の事情はよく察して居りました。けれども余り欠席が多かつたので、或は現実のこののみ楽しむと云ふ傾向が出来たではあるまいか。私は大に自分を励ますと云ふ必要も感じて居り、且つ再び行き難んで居りまして、ど一しても此の際全体を醒ますことが必要であると考へましたから、却つて事情は察しながらも強い詞を以て御批評をし、又奨励したのである。処が其の遅れたとか、欠席の多かつたとか云ふことは、そ一云ふ原因ではなくして、別に原因のあつたことがわかりました。夫れで夫れはまあよいこととして、さて、全体について云つても、も一層力を入れることが不十分であると云ふことは私共も感じて居つたが、之れは英文科とか三年とかあたりで充分骨を折つて用意をなさつて答へも沢山出まして、私は満足しましたのみならず、先き程からいろいろ熱心なお話が出まして私も喜ばしく感じます。そして学校の制度を變へることは出来なくても、学ぶ者が自分の態度を改めたらよい訳であると云ふお説は、私も至極同感でありますけれども、学校の方、教師の方からも充分注意して同情を以て改めて行かうと云ふことは皆同感である。けれども、こ一云ふことは他の学校とも凡ての方面の教育制度とも関係のあることであるから、此の学校計りで直ぐ様自分の考へを実行すると云ふことは出来ぬ。けれども決して等閑にして居る訳ではない。充分注意をして、今猶ほ研究中であります。猶ほ其の他の事に就いても申さねばならぬことが沢山あります。且つ、此の間の第一回音楽会の批評も今日申す筈でしたが、時間がありませんから止むを得ず省くことと致します。

今日は猶ほ、無論、今から二時間の中に斯う云ふ深い問題を解決すること、又之れが銘々のパンにかへるよ一に進むると云ふことは六かしいことではありますが、併し、此の間から大分態度も出来て居りますから、直ぐ前の続きに入ろ一と思ひます。けれども、此の前の話は私自身にはよくわかつて居りますけれども、大きい問題であるから続きがつき難いかと思ひますから、始めに補ひをして置いて、夫れから前回の続きに入ろ一と思ひます。

前回の補ひ

[唯心論と唯物論]

あなた方からお母ねの問題は……

唯物論と唯心論、之れが何時も問題となる。近世哲学の争ひの掃する処は何時も其処になる。又我々が人生問題、天職問題などについて疑問を持つ時に、根本問題は何時も其処に来るのである。つまり宇宙は物質であるか、只だ形体であるか、或は我々は精神とか靈魂とか云ふよ一なものであるか。只だ物質であるかと云ふことが、ど一しても問題になって来る。そこで之れを解決しないと本気になれない。又充分な希望が出て来ないので。故に我々は学問としても追求して来たのである。又確信を拵へると云ふ要求からしても、長い間研究して来たのである。

夫れで先づ、こ一で私共は結論をつけるに當つて、其の实体は Spirit であると決定致したのである。そこで Spirit は神である。神と云ふものは精神であると云ふよ一にも言はれ

るのであります。そ—して或る者はOneと言ひ、或る者はManyと言ひ、機械的方面を見る者は物質と言ひ、或る者はSpiritと言ふ。其のいろいろ見る処のあるものに対して我々がSpiritであると言ふと、余り制限を加へ過ぎる。又神と言へば人格と云ふよ—な考へが伴ふて来る。夫れで名をつけないがよいと云ふことが、The increasing purposeと云ふ題目の中にある。之れは尤もなことである。併し我々が二元論をとるならば、之れは唯心論を取るか唯物論をとるか云ふと、寧ろ唯心論を取るのである。夫れは今日の傾向のみならず、世界の傾向が此の方面に属すると云ふ意味で、其の結論をつけたのであります。

併し夫れだけでは一向Abstractであるから、其の内容をつけねばならぬ。そこで誰れでも信ずることの出来る内容を段々つけて行かうと云ふ考へである。

併し其の本質は何かと云ふことは、盡と云ふ。其の内容は、誰れでも信ずることは力と云ふことで、力は即ち動であつて静ではない。其の動は只Vibrationではなく、信仰である。そ—して信仰と云ふものは只川の流れの様に一直線をなして流るゝものかと云ふと、そ—ではない。Cycleを作つて循環して進むのである。そ—して只Cycleの如きものかと云ふと、そ—ではない。Realityは誠に複雑なものである。例へば、我々の身体の中は何時も循環して居る。そ—して只渦巻きをなす計りではなく、ちゃんと有機体になつて居る。夫れと同じよ—に、宇宙も有機体である。併し其の有機体は常に動いて居るもので、一時も静止して居ないのである。つまり無数の階段がある。其の一番高く進んで居る、進化の一番頂上に達して居る者は何かと云ふと、之れはやっぱり盡である、精神であると云ふことに話を進めて行きました。けれども此の間の関係は、時間がないために充分説明してないのであります。故に、充分Realizeして、おわかりになつたかど—かと云ふことである。

- そ—ではなしに、Materialismでなければ承知が出来ぬと思ふ者は……なし
- 併し、Dualism二元論を信ずるものは……
- 平行論を信ずる者は……

此の間、私はCycleを言ひました。之れは物理学、天文学、科学から云ふと、ど—しても結論は此に来る。つまり我々が科学を研究して宇宙観を作ると、ど—しても目的論が立たなくなる。故にMaterialismを打ち消すことは出来ぬ。故に、我々が此の考へを砕いて了うことは出来ぬ。ど—してもRealityが此にあるのである。併し夫れだけで結論をつけることの出来ないのは、我々の内の生命である。只だ夫れだけでは、ほんとの説明でないと言ふことになつて来るのです。併し乍ら、此の機械的の説明と神靈的研究とが矛盾して居るよ—に見える。けれども決して矛盾すべきものではない。必ず其処に一致する処が出来て来るのであります。之れはLeibnitzの立てたよ—に、各Monadは各々自分と云ふ特色を持って居るにしても、先天的予定、調和と云ふものがある。故に、HarmonyとかNatural lawとか云ふ様な、之れに類する法則が、やはり我々の中に見出だすことが出来るのである。

そして社会とか其の自動的有機体の中に、今云ふLaw of cycle或はCyclical lawと云ふよ—なものが精神界にはないかと云ふと、そ—ではないのである。斯くの如き、物質界、或は天文界における原理を破らなければ成り立たないよ—に考へたけれども、之れはやはり皮相の観であつて、そ—云ふ考へはないのである。つまり今日我々は無限の堺に居るのであつて、上も下も限りなきものである。

Bibleに由ると、神が無いものから有るものを作つたと云ふけれども、今日はそ—でない。限りなきものであるならば、終りもない。夫れと共に、終りもなければ始めもないものである。夫れで、我々の始めなく終りなき考へを画に表すと、ど—しても環となるのである。

私共は死んで何処に行くであろ—かと云ふと、宗教では神から出でて、神にかへると云ひ、哲学の方から云つても、此の有限の身は無限の本にかへると必然的に考へて居る。天文学から云ふと、Nebulaから出て又夫れに帰ると申します。印度哲学の循環説とも、之れを加味してあるのです。つまり、我々の信仰は低い階段から高い階段に進むものであるけれども、其の循環は法則に従つて行くものである。

今、我々は夏に入るのである。夏は昨年もあり、百年前もあつたものである。けれども今年の夏は決して昨年のもではない。明治四十三年の夏と云ふものは今あるばかりで、其の前にも後にもないのです。

故に、此の循環の法則と云ふものに由つて、Darwinの進化の法則が破れると云ふものではない。此の間の解図は天文学の法則を説くのではなく、そ—云ふ考へをかりて脱き明かしたのであります。此の間、私が図解したのは、悉く私の立てたものではないけれども、今夫れを言ふと時を取るから、先きで段々之れをよく申すことに致しましよ—。

- Realityは物理学、天文学で云へば力である、動であると云ふことは、否定す可からざるものであると云ふことを信じ得るものは……
- 其の動は進行であると云ふことを信じ得るゝ者は……
- 其の進行は環になつて行くことと云ふことの考へらるゝ者は……
- 其の進行は有機体になつて行く。つまり宇宙は有機体であると云ふ説に一致する者は……
- 其の全體が有機体の関係をなして居るものであると考へるものは……
- 且つ、夫れは進化するものであると思はるゝものは……
- 盡と盡、物と物が皆違ふ。千差万別の内容を持って居るのであると云ふことの信ぜらるゝものは……

此の間、私はAstral lightと云ふことを申しました。或る人は之れを字引きで引いたら、星と云ふ訳があつたので、星の光りと訳したそ—である。Christ教にも靈体と云ふことがある。けれども私の使ふたAstralと云ふことは其の意味でもなければ、星と云ふことでもない。つまり科学的研究に由つて立てた処の仮説を表すために、其の意味で言ふのであります。宇宙観は何人と雖も完全なものではない。何とならば、有限なる我々が無限なる宇宙を直覚に解し得るものではない。丁度、我々の身体は無数の細胞で出来て居るけれども、其の

細胞は決して此の自我と云ふものを知らず、又、此の自我は細胞と云ふもので組み立てられて居ると云ふことを知らないと同じことでもあります。故に此の凡てを総合して組み立てたものが、我々の宇宙であります。故に、人間の知識の進むに従って其の宇宙観も発達して行くものであるから、決して今日の宇宙観が永久不易のものではない。進化するもの、発達するものである。今科学の解釈によると、宇宙には目的がないと云ふことになる。けれども此の宇宙には目的がある、理想があると云ふことになる。それで、此に我々が考へを統一して、結論をつける所以であります。

つまり、宇宙は精神であると云ふ結論をつけるのは、第二の本論に入る処の我々の信仰の土台であるから、そ一云ふ断案を下すのである。

又 Pragmatism から云ふと、我々が主行主義から意志と云ふことを云ふならば、ど一しても Spirit であると云ふの外はない。又 Kant や其の他、今日迄研究し来た処の認識学から云つても、今日最も多くの進んだ考へから云ふと Spirit と云ふものになる。

Spirit は昔から迷信的に信ずるものではない。科学的基礎の上に立てゝ行くことが必要である。我々が精神界の仮説を立つる上に、Astral light と云ふよ一なものをおかすることが誠に必要であります。

先づ、之だけの傾き、之だけの信仰、之だけの仮説を信じ得らるゝと云ふことが出来て、始めて次の段に進むことが出来るのであります。

・ 此の宇宙は Spirit であると云ふことを信じらるゝものは
……………全体

[目的論]

目的論

第二段の本論に入る繋ぎと致しまして、此に極簡短に目的論を一寸申して置く必要があ一。

今、宇宙は精神、即ち有機体であると申したのであるが、其の有機体の特色は目的と云ふことである。有機体の真相は、又有機体の作用と云ふものは目的を遂げる、目的に順応すると云ふことである。之れが其の Organism の本職であります。

其の一番完全なる Organism は、我々の身体である。我々の身体にある処の有機体は沢山の細胞の關係で出来て居る。即ち、肺臓、心臓、神経系統、音を聞く耳、物を見る眼等、凡て斯う云ふ有機体は何が本体であるかと云ふと、凡て、目的に叶ふよ一に目的を追求して動いて居ると云ふことになります。又、社会と云ふよ一なものについて考へても、宗教団体、教育団体、政治団体、或は国家と云ふよ一ものは、何の爲めに出来て居るかと云ふと、目的を果すと云ふことが、其の Organization 本体である。故に社会の内面を研究して見ると、ど一しても彼のバウルゼンの所謂、目的々活動である。何かしら目的に向つて活動して居る。之れを Motive とか欲望とか原動力とか名を付けるのであるが、夫れは皆小目的であり、其の目的が一緒になって又夫れ以上の大きな目的となつて居るのであります。

そ一云ふことを段々研究して行くと、宇宙には何か目的が

あると云ふことになる。其の目的は、ど一云ふことである一。進化である一か、文化である一かと云へば、そ一も見える。其の進化は何故にするかと云へば Perfected self で、社会の目的は Perfected society を出したいと云ふことである。其の奥には必ず真、善、美と云ふよ一な理想がある。つまり、完全に進まうと云ふよ一な希望があり、要求があり、熱心がある。夫れあるが爲めに人間が進み、社会が進み、全体が動くと云ふよ一になつて居るよ一である。故に、全体は大きな目的を持って居る。故に、部分部分が活動して居るのである。そこで Reality は目的的活動である。目的に行かうとして活動して止まないののである。

之れは我々が客観的に観察し、其の他多くの人類の経験を観察した処の人類の経験であります。併し其の上に、ど一しても信じなければならぬ、自分の中からそ一証明しなければ疑ふことの出来ない光りがある。つまり物質界から進み実理的に進んで、猶ほ夫れ以上に必然的光りがあると云ふことは事実であると云ふことが、科学の進歩した所以である。之れが、私共の人類的に進んだ処の原をなして居るのであります。

其の一番大なる人は Descartes である。此の人は Dualism を信じた人ですが、

以下英語

I think therefore I exist.

I have ideas therefore objects exist.

I think therefore I am becoming.

I think ideal goodness and universal society therefore they exist.

其の大意

我れは理想を懐くものである。理想の社会を我れは必然的に考へる。故に、此の理想及び理想的社会は出来つつあるものである。つまり何故、我は Exist するか。何故、我が精神は存在するか。之れは必然である。何故、此の宇宙に目的があるか。如何となれば、理想がある故に理想の真理を追求してやまない。理想の我れがある。理想の社会がある。之れが人間の本当の価値があり、之あるが故に我れあり、我が理想あり、又我が目的ある所以であります。

内証的に必然的思考、或は必然的理知、靈知に由つて、実在は目的々活動である。目的に進まうとして活動して居る。之れが人間の行為であり、生命であり、精神である。そこで、此の宇宙の Essence は、やはり此の Spirit と云はうか、或は Life と云はうか、つまり此の今迄考へた物質界、即ち外に、Immanent に精神と云ふ靈界が確に実在して居ると云ふ。是はど一しても Reality であると云ふことは、我々が必然的にも内証的にも証明し得る処のものであります。

其の生活に道を開かねばならぬ。其の目的を達しなければならぬ。夫れには其の思想を統一する、内面界を支配する、原理を認めて研究することが最も大切なことである。之れを今迄怠つて居つたのである。是れ迄物質界の法則、原理を考察することに、人間が最も力を尽したのである。之れは大切なことである。之れが共同して進むことであるから、決して怠つてはならない。けれども今後私共の勉めねばならぬことは、比較的研究の進んで居らぬ処の此の内面界であります。

又、外界は決して偶然と云ふことはない。又、出来心でするとか、不動と云ふことはない。凡て此の Order を保つ処の Natural law と云ふものがある。永久の形式と云ふものがある。故に、此の物質界を支配しよと思ふものは、科学に由って其の物質界の秩序、関係を明らかにせねばならぬ。若し其の研究をつめば、空中飛行機を作ることも出来れば、魚のよーに海中を走ることも出来る。

けれども内界面は迷信的である。我々の精神で出来て居る処の社会や我々の内界面は、未だ発見せられて居らぬ。文明の光りに浴することは基だ遅れて居て、まじなひやら祈祷やらで動かされて居る。そー云ふよーなことで、此の生活を聞き得らるゝものではありません。やはり、此の精神界にも Order があって、Immanent principle 内在的原理、或は神聖原理と云ふよーなものがある、必ず靈界の中を指揮、統一する処の原理がある。其の Spiritual law と云ふものがある。我々の学問、我々のほんとの価値を表はし、其の効果を収めよーとするには、どーしても其の内面の世界を支配して居る処の原理を見出さなければならぬ。

斯くの如き学問が、之れから大に起らんければならぬ。そー云ふ学問が、之れから大に観察せられねばならぬ。

研究法

[實在是精神なり]

そこで、之れから其の研究を開始しよーとするには、第一、此の實在是精神であると云ふことを信仰しなければならぬ。其の信仰を便利にするために、私は Astral light と云ふ仮説を Postulate するのである。之れは大体のことを言へば、即ち物質に於ける Ether の原子である Atom よりも微かなものである。夫れに対する Leibnitz の言つた Monad、其の Monad、其の Astral light が此の宇宙に充滿して、之れが振動し、Organize して居る。夫れが処々に渦巻きをなし、個々に表して居るのが、我々の人格である。

そーして、Christ とか Buddha と云ふよーに、中心がある。其の人格と人格、意志と意志、Organism と Organism との間に充滿して居るものが、Astral light である。其の Astral light に変化を起すものは Center である。我々の思想、我々の意志、決心と云ふものは他の人に感化を及ぼして伝へて行くものである、斯う先づ仮定しておくのである。そこで其の意志は、即ち其の目的は何であるかと云ふことが大切なのです。つまり意志が波動を起すものである。宇宙の原動力は意志である。目的々活動である。其の目的が宇宙を支配する処の原理である。

我々の意志は小目的である。其の小目的が大目的、大原理に合体しよー、順応しよーとして働く。其の態度をさして、之れを我々の天職と云ふのである。其の間の関係は、どー云ふよーになって居るものであろーか。夫れを研究しなければならぬ。つまり我々の生涯を支配して居る処の、又此の社会を統一し、支配して居る処の神聖原理と名付くべきものは如何なるものであろーかと云ふことを研究して、先づ第一に、之れを見出ださんければならぬのであります。

先づ、之れに一つの仮説を設けまして、そーして夫れを証

明して見たいのです。そこで、之れが実に真理である、成る程之れが永久不易な我々の精神界を支配して居るものである、と云ふことの納得が出来ることを希望するのであります。

之れは決して新發明ではないのです。其の真理の形式は数千年前からあったのです。恰も大洋は依然として溢へて居るけれども、其の中の水は變つて居るよーに、私共の之れを新に見出したよーに感ずる其の内容は違つて居るので、之れは Christ 教にも仏教にも Stoicism にもあるのです。

併し之れを、今日の研究法に於て私共が到達した真理と生活を以て之れを信ずるのが、真の宗教であります。私共が九年以前に、あなた方と研究した目的は何であるか。どーしても宗教と云ふこと、其の宗教的生活が出来るよーにならねばならぬ。けれども今日では、Christ 教も仏教も精神を失つて居る。併し乍ら、Christ 教の中にも仏教の中にも、一つの Essence はある。どーしても此に、一つの世界的宗教の Essence となるものがある。故に我々は之れを見出ださねばならぬ。そこで私共が始めに立てた考へは、どーしても各宗を通じ、世界各国に亘つた処の Essence がある。之れを見出して、Christ 教信者も仏教信徒も総てが帰一する処を見出ださねばならぬ。そして今云ふ処の Essence は Christ 教の Essence である。仏教にも、儒教にも、亦我が国の神道の Essence にもある。故に私共は、世界的調和、世界的統一を此に於て、此の主義に於て見出さねばなりません。

そこで第一の原理は、Spinoza は Intellectual love of God と申しました。

哲学的の詞で言へば、Infinite、即ち無限と言ひましょーか、或は神と言ひましょーか。有限の我と無限の実体とがあるのである。之れはどーも深い関係があるのである。其の関係を私共は此の間から、いろいろの方面から研究して参りまして、第一の目的々活動は、其の関係を完全に結ばう。つまり我々が理想に憧憬すると云ふのは、其の無限に合体する。我々が其の善を愛する。犠牲になる。真理を探究する。進歩、発展しよーとあがく。之れは、其の神に合体しよー、理想に行かうと云ふ為めであつて、之れは詞には言ひ尽すこと能はざるものである。つまり、我々が内にある処の小我と大我、部分我と全体我とが一つになるよーと云ふことである。之れは自我實現論で云つたり、目的論で稱へたり、いろいろに云ふて居るが、併し其の掃する処は一つになるのです。此のほんとの万世不易なる、真に宇宙を支配する処の、此の内界を指揮、統一して居る処の Reality を見出して、研究することが大切である。

第二は、其の部分と部分との関係、即ち自分の Self と人の Self との関係、又其の Self と Self とのよつた社会、団体、平たく言へば、私共の目的々活動は他に向つて行かねばならぬ。即ち、誰れかを愛しなければ、決して一人では行かれない。又、愛する者と愛する者と心が調和して、共に音楽を奏しなければならぬ。

つまり私共の Life と云ふものは関係である。Organization である。Organization は目的、理想を追求するものである。其の関係を科学の方で云ふと、Kant の所謂 Altruism 他愛と

云ふこと、之れが人間の Essence である。人間には利己と云ふ本能、種族即ち家庭を拵へると云ふ本能、社会的本能と云ふものがある。夫れで、此の自我的本能を無視するのではない。自覚とか人格を発揮するとか云ふことは何時も申すから、之れは今日は申さない。其の終局は他愛である。

[自我拡大は如何にしてせらるゝか]

然らば自我を発表する、自我を拡大すると云ふことはど一したれば出来るであろうか。之れは社会と人と我れとが Identify せられて始めて自我拡大が出来るのである。

故に終局の目的、土台の Principle と云ふものは、やはり人を愛する。人のために尽す。之れを英語で言ふと Love、愛と言ふ。其の愛が活動の方面に現れて、積極的態度になって居る。之れを Serve と言ふ。忠と言ふ。猶ほ之れが進んで社会国家、人道の為に一番大きな目的を為し遂げるために、いろいろの Self-sacrifice、Self-devotion と云ふ、此の愛と Self-devotion と云ふものは、実に人間の精神的生命を与へ、社会国家に文化を与へる処の原理であり、Spiritual law である。精神界に潜在する処の神聖原理であります。之れは、追々と証明をして進むけれども、先づ此の二大原理は、又精神上の二大法則は孰れの宗教も、孰れの哲学、倫理も、孰れの国家の道徳も一致する処のものであると思ふ。之れは即ち我々の言ふ処の、どの宗教にもある処の Essence で、どの宗派でも之れに反対なものはあるまいと思ふ。其の目的を實現し、其の理想を発表することをさして、之れを人間の力、精神の力と申すのであります。其の力が我々人間の一番幸福を与へ、人間の生命を完全に進めてくれる本である。其の力の本源、其の力の掘り抜き井戸は何であるかと云へば、之れが即ち前に言った処の無限、或は之れが宗教で言ふ処の神である。即ち第一原理の神と合体する其の無限、人間の小さい処を超越した処の誰れも妨げることの出来ない処に全身を捧げて、之を愛し、之れに従ひ、之れに捧げると云ふ生活。之れがほんとの人間の力の淵源、真の自由意志の源。之れがほんとの人間の永久の幸福、ほんとの味を味はせる処の根本であると思ふのであります。

夫れで其の Reality は内在的であると云ふこと、之れが今迄と余程違ふ。其の淵源は外からではなくして、内からある。即ち我々に力を与へ、我々に光りを与へ、我々にほんとの幸福を与へるものは、Inner life 内にある命である。故に我々のほんとの価値ある生活は此の Inner life を発揮することであり。然るに今日の学生、只だ物質の文明に酔ふて居る者は、其の Inner life を見出して、之れを立派に発揮することを忘れて居る。之れが今日の我が国民に力なき所以であります。

故に、も——つ我が国民の人格を偉大ならしめよと思ふならば、此の Inner life をもう少し偉大ならしめねば出来ぬのである。夫れであるから、永久不易なる真理の真理と云ふよ一な原理は、先づ斯う云ふものでなければならぬと云ふ仮説を作っておきまして、之れが果して真理であるか、そ一云ふ生活を重んずることが真に人間の内に求めて居る幸福を充実することが出来るか、真に Best と云ふことを発揮することが

出来るか、と云ふことが問題になって来るのであります。

是れ迄数千年間、一番人間の深い要求に応じて、最も人間の目的を向上せしめたものは宗教である。其の宗教の Essence は、つまり其の宗教の与へるもの、又宗教の要求するものは、確にそ一であつたに違ひないと云ふことは言ふ迄もないことであるけれども、迷信的のものや Dogma などがいけないと云ふ考へが、中世紀には殊に盛んになった。其の時、勢力を得たものが Positivism である。そして人間の満足し得る処迄行ったものが Comte の立てた Humanism である。つまり此の Humanism が宗教となつて、真に人間に生命を与へるものとなつたのは、ど一云ふ原理を構成したからであるかと言ひますならば、之れは各宗派を通じて研究して居る処のものであります。

そして先づ Reality は Order and progress 秩序と進歩で、夫れは Live for others つまり Altruism で、人のために生きると云ふことです。此の Principle は、一言で言へば Love 愛と云ふことであります。其の Principle の Foundation、其の土台は Order である。其の目的は何であるかと云ふと、Progress 即ち進歩と云ふことである。進歩の目的は、やはり前に言った Perfection で、其の Heart は Love であります。そ一して Reality の End は Peace、即ち永久の平和である。[犠牲]

そこで之れを客観的に、究竟の人類の経験を考へても、科学の實現から考へても、やっぱり其処に帰するのである。猶ほ之れを今日我々の日常の経験に訴へて見たならば、ど一であるか。我々の Nature、即ち我々の傾きの真の奥深い処の要求は Egoism であるか、Altruism であるか。只自分の権力、自分の名誉、自分の富を得よと云ふだけであるか。公平に考へて見るならば、其の奥の深い処、必然的傾向を考へて見たならば、一番深い処のもの、一番要求してやまない処はやはり犠牲である。何故、心配に駆らるゝか。何故、不平不満であるか。未だ犠牲に捧ぐる処のものがないのである。自分の心を捧げる処の対手がないのである。我々は何かに自分を捧げるものがなければ、ど一しても満足は得られない。自分より以上に、或は自分と同等に捧げる処の対手を見出さずには居られない。故に犠牲と云ふものは、ほんとは、已むを得ずいやいやながらするのではない。実は、我が心の内の要求を満たしたのである。即ち國の為に死し、団体の為に尽すのは、余儀なくされてそ一するのではない。我が内にある処の意志の自由を全うしたのである。故に、己れから出た処の深い要求から出た自動的要求は、人生の要求の最も大なる、最も満足する処の源は犠牲である。故に犠牲なき生活、若くは犠牲にすべき対照物なき生活は無意味、無価値、無勢力である。之れは、目的々活動である。我れの動機から観察したものであるが、之れを結果から観察致しましても、喜んで目的の為に自我を犠牲にせざるものは決して真の満足は得られない。真に拡大せる人格を實現することが出来ないであります。

又、犠牲の精神を欠く家庭は破壊であります。犠牲的精神なき国民の国家は滅亡せざるを得ないのである。故に個人の

幸福も、国家の発展も、一家の安寧、幸福も、悉く犠牲的精神の結果であると言ふことが出来るのであります。

故に國境を超越し、宗派の異同を問はず、國の東西を構はずして、即ち総ての人類が之れを偉人とし、聖人として尊敬する處の偉人は、Christ、釈尊、又はAmericaのWashingtonの如き人は、之れを偉人とするに誰れも不同意は言はないのである。其の動機、其の生活、其の苦戦は何の爲めであつたか。其の生涯は何の目的の爲に費されたのであるかと云ふことは、此に説き明かす必要はない。つまり偉人と云ふ人、聖人と云はれ、君子と云はるゝ人は、やはり人の爲めに Serveしたのである。Christは、我は人に使はれんが爲めに來たのである。皆のしもべである、と仰せられました。次に、此の原理が如何に我々の精神界を支配するものであるか。即ち前に言ふた處の仮説の、其の活動を起す處のAstral lightにど一云ふ影響を起すものであるかと云ふと、先づ此の中心になつて居る處の意志である處の、我々の人格の本性を研究して見たならば、之れを類別すると凡そ二つになります。

[人格の本性]

即ち極低い階級に属するものが我が儘、怒り、憎み、嫉み、争ひ、不調和である。此のにくみ、ねたみ、うらみ、不平、争ひ、不和、此の感情、此の考へ、此の意志が動く時には必ず此の我々の中に充満して居る處のAstral lightにVibrationを起す。其のVibrationに触れて直ちに影響を受けるものは、我々の身体である。此の身体が影響を受けることは誰れも経験する處である。殊に我々の身体を生かして呉れる、発達させてくれる液が此の怒り、此の不平に由つて変ると云ふことは、今日科学の証明する處であります。或る婦人が非常なる猜疑心から忿怒を起した處が、俄に其の乳を悪くして小供が立どころに死んでしまったと云ふ実例がある。斯くの如くに、お互が生活をして居る間に、若しも我々の低い本性がそ一云ふものに支配せられてそ一云ふ風に思ふと、必ず此のAstral lightに震動を起して毒を拵へると仮定する。そ一すると、強い人は決して感染しないけれども、弱い人は必ず夫れに侵されて、空気をわるくするのであります。

之れに反して高尚なる本性は、即ち愛、同情、恩恵、親切、快活、神聖行為。斯う云ふ意志、斯う云ふ考へ、斯う云ふ感情は、つまり人に仕へよ一、ど一かして人を助けよ一と云ふ考へを持って居るときは、仮令詞に発しなくても、そ一云ふ息が必ず外のAstral lightに伝はつて、此の中の空気を清潔にする。そ一して人々に力を与へ、健康を増し、美しい精神を養はしむるのであります。

Christの如く真に人類の爲めに犠牲になり、Washingtonの如く真に公平無私となり、Christの如く病める者には薬を与へ、癩病やみを立どころに治らせ、死せる者をも蘇らせると云ふよ一な一種の魔力、一種の引力、一種のMagnet powerを持って居るものである。不思議なる神力を発揮することも出来るものです。此の愛、此の深切、此の同情程強いものはない。Christが多くの人、多くの迫害者を唯一の弟子に変化せしめた。之は何であるか。同情の力である。

我々は毒を薬に、悪を善に、病を健康に変ずることも出来

れば、又其の反対に人の元気を阻喪し、人の安寧を擾乱することも出来る。つまり己より出でたるものは己に帰ると云ふこともある通り、我が思ふことは決して自分の中だけに止まらずして、必ずAstral lightに伝はつて、我れに帰るのであります。つまり、斯う云ふ証明をするのは、我々のSpiritは實在である、我々の心の態度と云ふものは最も強い勢力あるものであると云ふことを申さんが為である。

(空白)の言つた詞に、

You never can tell what thought will do
In bringing to hate or love
For thoughts are things
And their any wings are swifter than doves
They follow the law of the universe
Each thing must create its kind
And they speed over track to bring you back
Whatever without from you, your mind

あなたの考へ、あなたの中に持つて居る思ひが何を働いて居るか、未だ気がつかんである一。夫れがあなたに愛をへらし、憎みをへらすことを知らないであるけれども、考へは物である。實在である。あなた方は、考へは只空なものであると思ふであらう。けれども其の氣を泳ぐ處の翅は空氣の中を飛んで居る鳩よりももっと早く行くのである。彼れ等は此の宇宙の法則に従つて居る。凡てのものは其の種類を創造しなければならぬ。そ一してあなたが拵へた處の道を通つて、再びあなたに帰つて來るのである。つまりどんなものでも、あなたの心から出たものは必ず同種類のものとなつて、あなたに帰る、と云ふことであります。

そこで、我々は目的の爲めに生活をするものである。そ一して其の目的、活動は、此にお互に相愛し、相繋いで其の大目的を全うしよ一と云ふ處にある。此の原理を、ほんと一に日常生活に応用することが出来て始めて人間らしき人間となり得るのであります。

今日私共の云ふ處は、今日の科学的研究をつんで、今日の世界的人類に及ぼして居る處であります。故に我々の信仰は祭りの前に行かねばならぬ、僧侶を頼んで來て貰はねば得られぬと云ふものではない。私共が直ぐ襟内に発見し得る處のものであります。

此の応用は今日申す暇がないから次に申すことに致しますが、つまり私共はど一して神に仕へらるゝか、精神生活を全うすることが出来るかと云へば、此の日常生活に応用して経験することによつて、此に私共が見出だし得べきものであります。

之れが世界を統一し、満足を以て皆が喜ぶ、皆が生きて、皆が満足することの出来る處の力、皆が希望に満つる處の空氣、關係、調和を計ることの出来る處の原因である。之が、私共の世界的宗教になることの出来る處の原理であると云ふことを信ぜんとする處であります。

こゝが、も一一つ確かな處の真理であります。故に、どの宗教に於ても、亦宗派に入らんでも出来ることである。之れが私共の信仰を強うするのみならず、此に世界的宗教を建設することの出来る所以であります。

[中表紙]
第一学期終業式
明治四十三年七月九日

明治四十三年七月九日
終業式にて

式を始めます前に、此の前に音楽会を本校に於て始めて催しましたので、夫れについての批評を此の間の水曜日に致すつもりでありましたが、其の日も到底時がありませんでしたから、今日一言だけ申します。

本校に於て誠に幼稚な音楽、琴、ピアノ、ヴァイオリン等が漸う音楽会として催さるゝ様になったことを、私は非常に喜ばしく感ずるのであります。殊に場に登られた方が、未だど一も子供であると思つて居た方が何時の間にやら大きうなつて、そ一云ふことが出来る様になる教育の力と云ふものは不思議なものであると思つて、誠に喜ばしく感じました。

[Phonetics の必要]

又、語学の方から云つても英語は勿論、国語でも音楽でも、即ち Vocal exercise、其の語学の Phonetics と云ふことが誠に大切である。けれども我が国では之が発達して居ない為、我が国民は語学の力が乏しいのであります。然るに、あなた方自ら音楽の必要を感じて、遂に第一音楽会を催すと云ふ機運に至りましたことは、私の非常に喜ぶ所であります。我が校でも之が一番幼稚であるから、将来ど一しても此の音楽を発達させねばならぬと日頃考へて居りますから、斯う云ふ催しのあることを私は誠に喜んで居るのであります。無論、人各、特色があるから、其の方に展びると云ふ事も大切であるけれども、一方から言へば、普通のことは誰れも一と通りは出来る様にならねばならぬ。故に、音楽又は語学をする以上は或る程度迄此の力を磨く為、時々斯う云ふ会をすることが甚だ有効であります。私は音楽の教育を受けたでないから、一々批評することは出来ぬ。又、そ一云ふ細かいことを申す暇はありませんが、此の間の会は大体の処を言へば、司会の仕方から Program の組み合せから、凡て満足であります。ど一か猶研究をお続けになつて、次には一層進歩を見ることの出来る様に希望致します。

明治四十三年七月九日
一学期終業式

今、福来博士より、夏の修養については充分お話し下されました。且つ時間もありませんから、私は成るべく省いて簡短にお話したいと思へます。只私は二ヶ月の間皆さんとお別れ致しまして、全国に相散るのでありますから、お別れする前、一寸あなた方に御相談をして見たい。且つ、郷里に於てして戴きたいと思ふことを、少し申して見たいと思ひます。丁度昨年今頃は、我が国の女子教育に対する反動の極度であ

つたと私は考へる。然るに只今は漸く其の機運を挽回して、此に少しづつの上り坂になる勢を作る様に致したのは、実に本校教職員、桜楓会員、寮監諸氏、並びに大学部、高等女学校学生、及び本校に最も関係の深い評議員諸君の熱心なる御協力によることと、深く感謝致すのであります。之迄に至るのに、どれ丈の苦心、どれだけの努力、どれだけの忍耐があつたか、あつたかも知れぬ。其の協同、其の誠心が今日の希望ある機運を開いたのであります。

殊に私の喜ぶのは、今年の大学部一年及び普通予科、並びに英文予科の思想は堅実であり、考へは段々深く進むのである。成績も好良である。初め普通予科入学者は60名計りありましたが、いろいろの事情に由つて来られないものもあり、ほんとい一入学し得たものが四十五、六人であつたと思ふ。其の四十五、六人は殆んど欠席を致さずに非常に真面目なる力を出して、其の間のいろいろなる反対、障害に勝ち、そ一して此の夏を迎へられたのであります。何故に今日、予科について殊に申すかと云ふと、全国反対の中にど一云ふ学生が入るかと思ふことは、我々の最も深く注意して居つたことである。故に、此の傾向はやがて女子教育の将来を卜するに足る、我が国の進歩の程度を計るに足ると考へらるゝからであります。今年の一学期は昨年極度の寒気に堪へたのである。[南極探検者の志につきて]

昨日、南極探検の志を以て再び出かけ様とする人に逢ひました。最初は三十五人であつたものが、僅かに三人になつて帰つて、其の中二人死んで一人になつたのである。夫れにも拘らず、再び勇を鼓して出発すると云ふことでもあります。

此の極寒の無人島に向つて自分の天職の為に万死を恐れず、再び遠征を試みると云ふことは実に感ずるの外ありません。

[極寒にも辟易せざる自信力]

然らば我々も此の終りにおきまして、再び其の極寒に堪へ得ると云ふ自信を以て、如何なる障害にも辟易することなく、此に新元気を鼓し、新活原を発揮して進むと云ふことが大切であります。三年生は此の極度に迄傾いた夫れを挽回し得たのみならず、全校の学生を指導して、此の終りに於て益々私共はよい根拠ある空気を作り得たと云ふことは、我々一同の感謝する処であります。

此の際一番寒気を感じるものは幼稚なるもの、及び老いぼれたる年よりである。

我が校に於ても、中頃、少しくたゆたふ組もあつた。けれども之も漸く此の末期に於て元気を回復し、四圍の境遇から受ける催眠術からさめて、元気を回復することが出来、女学校も四年以上はさめたことと云ふことを聞きまして、私は実に愉快に感ずるのみならず、此処迄諸君がお話し下さつたことに対して、私は感謝に堪へるのである。ど一か此の度は充分健康に注意して、あなた方の任務を全うせらるゝことが必要であります。私思ふに、あなた方の勝利は実に、我が国の進運に関係して居るのである。

其の健康を保ち、精神を健全に養ふ注意につき、方法につきては、既に福来博士から懇々お話し下さつたのであるから、改めて私の申す必要はないと思ふのです。殊に此の頃は其の

精神修養については大に感ずる処あって、一同充分態度を改めて経験しつゝあることである。

[消極的方面の注意]

併し人間は弱いものであり、怠り易いものであるから、ともすれば妨げらるゝ機会も多いのであります。故に今日私は消極的方面を注意して、折角此の築き上げた信仰、確信を失ふことなく、自分の家庭及び郷党に於て、幾分か此の学校で受けた教育、其の機運を成就せられんことを切望するのである。

今、小学校の子供に水を飲むことはど一かかと尋ねたれば、黴菌が居る。夫れを煮て殺して飲めばかまはない、と云ふことをちゃんと心得て居るのみならず、益々よい子供になると云ふことを決心して居るのです。其の心得は皆さん知って居るのであります。果して夫れを皆が実行して居るであらうか。殊に今年にはチフスと云ふ様な悪い病が非常に流行したにも拘らず、本校には一人もそ一云ふ病人を出さなかつたと云ふことは、其の辺の注意がよく届いて居たことを証するに足るのである。

[蠅につきて]

是からは蚊と蚤と蠅とが横行する時節となります。故に、いろいろ彼れ等によって運ばれる危険も多い時機である。此の注意についてあなた方がお心得になる様に、此の間の英文雑誌にも書いておきました。Quarantining the Home against the Disease of Summer と云ふ題を設けておきましたが、あの中にもある様に、此の頃、紐育市(空白)で調査した結果によれば、一匹の蠅の中に十万匹の黴菌を持って居る。又、其の蠅の繁殖する時機に於て又よい加減の光線ある処では、一匹の蠅が五週間に1000万に繁殖するのである。其の主婦は蠅が沢山他所から来たと思ふけれども、彼れ等は我が家に居た一匹から斯く繁殖するものである。此の蠅はMilkや罐の周囲にとまって、いろいろの黴菌を持ち運ぶものであります。夏の恐るべき病は、そ一云ふものゝ媒によって発生するものであると云ふことは、今日では事実であります。故にあなた方台所を掌る者は、一層深い注意を払はねばならぬ。そ一云ふことは皆学んで居るのである。

[学びたる原理をよく実現すべし]

又今、福来博士からお説きになった様に、我々の精神及び其の精神の舍って居る身体は機械の様なものである。此の二つが整って始めて完全になり得るが、其の機械を支配することも、あなた方は既に学んで居るのである。

故に、其の学んだ原理を此の度、家庭に於て、郷党に於てよく応用し、又寮にお残りになる方々は之を共同生活に実現して、猶此の間に充分健康を増進すること。又、そ一云ふ経験を積みつゝは誠に大切である。

[旅行につきて]

又汽車の中で弁当や何かをとる時にも、余程注意をしなければならぬ。私共が折々腸胃をいためることも、多くは汽車の弁当から起ることを此の頃発見したのであります。独り我々の身体を害するもの計りではなく、我々の精神を犯す黴菌を防御して、心身共に健全になって益々元気に満たされて

無事に帰り、又来校する様にあらねばならぬ。そ一云ふことについては、寮監や担任教師、或は指導者から充分お聞きになったことと思ひます。

殊にそ一云ふ知識がない時に、弱点のある様な人には先生から御注意のあったことと思ひますから、ど一か皆さん、心身の障害をよく防いでおいてなることを私は希望するのであります。

[精神上に於て]

夫れからも一つ、精神上に最もよく注意しなければならぬことがある。今日あなた方全体の精神態度、向上心は誠に美しいものであるが、暫く休みになると世間の催眠術にかかつて、直に勇気を失って躊躇、逡巡することもある。之を阻害する交際などすることは固く謹まねばなりません。独り我が心を守るだけではない。あなたの寮舎、あなたの宅に、あなたが入った為に和楽を多くし、幸福を加ふる様でなければなりません。健康、殊に精神の健全を計るには読み物に注意しなければならぬ。ほんといに心盤の糧となる様なものを選ぶと云ふことが大切であると同時に、あなた方は音楽を聞き、演劇を見ることに由つていろいろな影響を受けることがある。故に余程よく注意しなければなりません。

[人間を悪化する三大危険物]

之について山路愛山君の言はれたことがあります。

今の人間を悪化する三大危険物は

- (1) 演劇
- (2) 新聞の三面記事
- (3) 小説

(以下本文を略す)

[蠶の食物の選択]

つまらぬ小説なら捨て、了うけれども、今日は哲学とか宗教とか云ふ詞を使って、しかも人を迷はしむ様な恐れなきにしもあらずであると思ふ。故に我々が頭の中に入れる処の蠶の食物については、余程選択を要するのであります。其の上にも一つ私があなた方にお願ひしたいのは、あなた方の熱心なる働きの結果、昨年来最も大なる反動を受けて居りました女子教育も、漸く此の傾きを挽回しよと云ふ機運に向つたのである。此の夏、あなた方は国へ帰つてど一云ふ心得を以て郷党の人に対するであらうか。之が今日の輿論を喚起する上に最も与つて力あることと思ひます。あなた方の熱心で、Londonへ出したものは位置もよく、頗る好評で、彼処から出る雑誌の中にあの写真などを複写して入れて盛に称揚して居ると云ふ有様で、大に英国人の注意をひいて居る様であります。その他アメリカ、ドイツなどの新聞、雑誌も之を紹介して居るのである。又もとロシヤの貴族の未亡人であつた婦人がなくなると、15000 Rubleを此の大学に寄附すると云ふ様な遺言をしたそ一で、夫れも此の頃紹介があり、我が大学が大に世界の耳目を惹き、之に由つて東洋の女子の地位を高めたと云ふことも事実であります。然らば我々自国のもは国家の上から云つても、婦人全体の運命を開くことから云つても、立たねばならぬ。其の必要からして私は此の夏は東北に、秋は関西に、冬は九州に出かけて、各地方の女子教育状態を視察し、同時になるべく今日の輿論を起したい。そ一して来年の本校創立十年祭迄に予定の基金募集をも遂げよ

一と云ふ考へです。之について、あなた方桜楓会員の協力を俟たねばなりません。そこで其の支部会の如きも、今日は先づ東北即ち信州、新潟に開かうと思ふのであるから、関西、九州の人は一寸残って戴いて御相談をしたいと考へます。夫れと同時に私は又、卒業生と学生の家庭をも観察して、其の實際を調べたいと思ふ。本校の成果は卒業生、本校の信用は本校学生の行ひによって知ることが出来ますから、自分の修養と健康は無論の事、他に対しても充分忠孝の精神を以て父母、家族の人に仕へ、及び郷党の人々に接することが大切である。そ一して私は、あなた方と一緒に研究をして、此に将来の方針を決定し、此に十年祭の結果を上げることが出来、将来女子教育の為に大に貢献したいものと考へます。

そこで此の夏は私共が全国に出かけて、女子教育の方針を示し、之を宣伝しよ一と云ふ考へであります。森村翁、渋澤男並びに大隈伯、西園寺侯の如きも自ら地方に出て、女子教育の為に尽さうと云ふことであります。

兎も角も、此の夏の間に地方の事情をよく見て、一層此の教育を有効にしよ一と云ふのであるから、充分健康に気をつけ、又修養に勉めて、此の女子高等教育の結果を証明して下さることを、お別れに臨んであなた方にお頼みしておくのであります。

[中表紙]

第三学年の為めの御話
明治四十三年七月十日

明治四十三年七月十日
三年生の為めに

此の前に大体を示した通りに、内面界即ち精神的生命を今、人類の一番達したいと私の信じて居ります処の認識学の土台に基づいて、研究的に其の現実を探究して、そ一して我々の品性、及び要求が満足する処の結論に達することが出来たとと思ふ。夫れで猶ほ今後、私共は其の研究を続けて行きたいと思ふ。夫れには学理の研究、及び人類の経験、又宗教、文学、凡ての方面から研究を続けねばならぬ。

併し今我々が、之れを我々の日常生活に施す、応用する、実行して行くと云ふことにつきましては、之れ迄のもの一つ広い哲学及び学理と云ふものも必要であるが、同時に此の人間銘々が Life 中の Life and Philosophy と云ふ第一節にあります様に、Our lives in theory and in practice are an interpretation of reality で、我々が Theory に於ける生活、Theory と云ふものは空なものよ一に思ふけれども、そ一ではない。内面的の要求から起って居るから、Theory と云ふものも確に一つの要素である。故に決して空なものではない。

其の次の Practice are an interpretation of reality. 今、世界にある各派の宗教、及び今將に世界的に起らんとする其の方の経験、及び今社会を動かして居る原動力となつて

居る社会の實際生活と云ふものは如何なるものであるかと云ふ根本問題を研究するに當りまして、私共は其の孰れにも偏することなく、両方面を決して偏しないよ一にして参りました。夫れで今度は其の方に入ることと致しました。実は正会員には此の問題に入る前に一つの小さい会をしたいと思ひましたが、准会員も一緒にした方がよかろ一と云ふことで、夫れには今日よりないから、今日、正会員、准会員共に会することに致しました。

そこで今度は、今日の世界の東西にある宗教の宗派を離れた、原理を本として出来て居る処の Movement がある。其の宗教の如きものがある。夫れを研究して、今後私共の精神生活をど一すべきであるか。そ一して西洋にある Church の如き、寺の如き、宗教の Creed とか祈りとか云ふよ一な儀式も必要である。夫れはど一したらよいかと云ふ具体的の方面に入らねばならぬ。之れを私は此の間から、応用の方面と言つて居る。然るに此の間から非常に忙しい。そして昨日、今日帰る人もあると云ふ時、引き続いて今朝するのは未だ機が熟しないのであるけれども、先きによる程猶ほ揃はなくなるから、いつそ今朝にしたならと云ふことになりました。そ一云ふ訳であるから、今日は正会員、並びに准会員、其の他傍聴において居る皆さんも大分此の間から深く研究なさつたのであるから、ど一云ふ新しい経験があるか、又ど一云ふ要求があるか、或はあなた方が自分の為め、社会の為、今後ど一ならねばならぬと云ふ考へがあるか。つまり、あなた方の此の頃の考へなり経験と云ふものが、私共の今度の研究に非常に大切なことであるから、其の材料を貰つて此に纏めて見ると云ふことが一つ。

第二は、あなた方の此の頃研究して居る宗教、文学、或は社会の Movement、其の傾き、其の Life、其の事実と云ふものを、凡そ確かなる事実を此に集めておいて、一番終りにも一つ具体的にした処の、我々の団体に行ふべき生活をきめて行くことと云ふことが大切である。そ一して此の夏の間に夫れを実行して見て、秋には、も一一つ進んだ処の精神的生活に入りたいと思ふ。之れが今日皆さんと会した所以である。

[人間を苦むるもの]

夫れで凡そ二分間程 Meditate しまして、そ一して銘々の考へを表して貰ひたいのであります。

昔から人の言つて居るよ一に、一番人間を苦めるものは Illusion であると言ひ、又或人は Ignorant であるとも言ふ。併しどちらにしても、之れは一つのものであります。

さて、其の Illusion 又は Ignorant の原因ともなるものに二つある。夫れは一つは心の内、即ち感情から来るものであり、今一つは外から来るのである。此の世界は無限であり、大きいものである。然るに、自分は有限のものであり、誠に小さいものである。夫れが一致しよ一とすると非常な動揺が起つて、内外の苦しみが生ずるのである。そこで皆さんの今迄仰つたことに由つて、非常に求めて居らるゝこと、又謙遜である、真面目であると云ふことはわかりますが、猶ほ其処には Illusion がある。Art is long で、之れは生涯かゝることである。二、三日のものは二、三日のものであり、五十

年のものは五十年のものである。故に、迎も一朝一夕に出来るものではないと云ふ考へもあろ一けれども、そ一云って居れば生涯かゝつても出来る時はありません。此の瞬間に高調に達しなければ何んぼ待っても Religious experience の出来るものではない。我々の生活は Present である。今、神を見る、神を知ると云ふことが出来ねば、何時迄たつても出来はしません。

[何処に人間の価値あるか]

此の間、人から頼まれて私の書いたことは、精力集中の一日は散漫して居る生涯の一年に勝る、と云う意味の詞です。何処に人間の価値があるか。其の時、其の時の決心、努力にある。今の事は今決心する。其の時、其の時にするから、五十年かゝれば五十年のもので出来るのであります。今、私共が修養会をするならば、今、其の決心が出来ねばならぬ。我々の生活は現在である。我々は理想に生きて居るけれども、其の決心、其の集中、其の事実は今である。故に、今あなた方の態度がど一でもよいと云ふことではない。今日のあなたの決心は生涯にわたる非常に有効なものであり、大なる事実である。故に、つまらない詞から Illusion を起さないで、充分、今の時にお考へをお話しになって、其の経験を発表する勇氣を鼓して、出来るだけ皆さんからお話になるよ一にしたいと思ひます。

も一少し聞きたいのでありますが、時が参りました。

そこで皆さんの経験を悉く聞く訳に参りませんから、いろいろ私から問ひを出しまして、皆さんから表して貰って結論と致したいのであります。之れを Clear とすることは出来ぬ。Clear とは Exactness にあるから、Exactness とは我々の目に入るだけのものである。然るに、之れは未だ我々の目に入らない処のものであるから、到底詞に言ひ尽すことは出来ぬ。若し言ひ尽さるゝならば、未だ己を知らないと云ふことになるでしよ一。併し、只だ私共が Absolute に言ふのではない。其の中に内容がなければならぬ。其の内容はいろいろの方面から一部分、一要素としてとって、夫れを一つの物に組み立てねばなりません。

One is many であつて、一つかと思へば多であり、多であるかと思へば一である。個人であるかと思へば全体であり、全体かと思へば個人であるよ一でなければならぬ。故に、ど一しても其の奥の奥迄探究して行つて、ど一しても真理でなければならぬ。真理が命であると云ふ風にならねばならぬ。之れが認識論の起つた所以であります。私共は夫れを研究して、之れでなければならぬと云ふものを信ずることが大切である。そ一して其の真理を推究して、他に及ぼし、内から外へ推理して行くのであるから、之れは必然的のものである。然らば、全く明瞭にすることが出来るかど一かと云ふと、そ一ではない。も一之れでよいかと思へば、又直ぐに問題が起るのである。故に真理は生きて居るのである。私共はど一しても夫れを以て満足しなければならぬ。之れが神である、之れが生活であると思ふて進まなければ、ど一しても満足は得られないのであります。

夫れで宗教からも、社会学からも、比較宗教学からも、凡ての方面から研究してまとめたものは、ど一しても夫れが誠である。

懐疑に陥らずして、知識の方面から夫れを誠として信じ得る者は……全体

[人生の価値]

次には神と言はうか、精神と言はうか、ど一しても修養は神と一致して生きる、真理は斯うであると云ふことを研究して、真理と一つになる。お釈迦様も所謂 Suffering から免れるには功名心を捨てる。幸福もいらぬ。人から何と言はれても構はぬ。其の真理に叶ふ処の生活をするよと云ふこと、其の態度の出来ることが人生の価値であると云ふ。其の Reality に合体すると云ふ意味に於て、満足出来る人は………稍多

夫れでは、も一一つきゝます。

此の Reality と合体すると云ふことは、ど一してもしなればならぬと考へるものは………全体

未だ夫れが出来ぬと云ふことである。先づ、其の精神的生命が出来たとする。丁度子供が生れたよ一に、誠に元気に愉快な生活が出来たと仮定するならば、夫れであなた方は満足することが出来るであろ一か、ど一か。

Christ が、疲れたる者、重荷を負ひたる者は我れに來れ。我れ息ません、と仰やつた。ほんとに其の重荷がおりた、真に心の中に慰みが出来たかど一か。出来たとすれば、夫れであなた方は満足することが出来るかど一か。之れは理屈ではない。Experience である。真に満足することが出来るよと云ふ者は………極少数

[人に仕ふ]

ど一も満足が出来ない。夫れは何故であろ一か。私共はどんなにえらくなつても、神様のよ一になつても、夫れだけではど一しても満足は出来ない。此処へ出て來ても、何か皆さんの為めに尽すことが出来よ一か。皆が満足し、皆が愉快を感じずる様に、何かを貢献することが出来るか知らと、斯う人の為めに考へて居ると誠に楽しいのである。ど一したらお母さんがよくなるであろ一か。ど一したら彼の子がよくなるであろ一か。つまり人に仕へる態度。そ一なると誠に楽しくなるのである。

軽井沢に行くにしても、ど一したら己れの力がつくかしらん。ど一したらえらくなるか知ら。人が話をしても、なに彼奴がと云ふ考へを持って居ると苦しいのである。けれども、ど一したら人の為めに仕へることが出来るであろ一かと云ふ態度が必要である。昔から神を愛して兄弟を憎むものはおそであると云ふ。社会の為にしもべとなつて、國の為に尽すのである。此の人の為めに尽すと云ふ心がなければ、幾ら大悟徹底してもおそである。ほんと一の満足は得られないのである。つまり宇宙の Essence は調和であるから、ど一したら其の調和が出来るか。実は人生美であるから、其処に美を感じないと幾ら努力しても只競争であり、無味乾燥であつたならば、ど一してもほんと一のものではないと思ふ。そこに一つの生命があり、愛する人の為めに神の為に生きると云

ふ、其処に慰めがある。其の生活が出来ねばならぬ。其の点が未だ欠けて居ると思ふ者は………全体

夫れでは其の第三の点について、全く其の生活が出来て居ると言はるゝ者は………少数

其の温まりが出来ねば、あなた方の将来はど一しても展びないのである。其処を見出ださねばならぬ。私は、実は之れを今日申すつもりでありましたが、時も遅くなりましたし、揃ふても居りませんから、此の夏、充分皆で研究して、秋には一つ銘々で具体的に研究を積んで、実行に着手してもらひたいと考へます。

[中表紙]

夏期講習会修了式

明治四十三年七月三十一日

明治四十三年七月三十一日

夏期講習修了式

今、麻生学監から此の場合に必要な点を充分お話がありましたから、此の上私が繰り返して申す必要もなく、時も大分遅くなって居ります。

併し、北は樺太から北海道、南は九州のはてから、此の暑中に遥々皆さんが此の講習にお出かけになって、そ一して汗を拭ふて少しも疲れたよ一な様子をなさらず、熱心に御勉強なさったこと。及び、今休む必要があるにも拘らず、講師方が熱心に此の講習の爲めにお働きなり、又桜楓館の会員の方も非常に骨を折って此の事の爲めにお戻しになったことに対して、私が只一言、御挨拶をし、又た其の働きの効果につきまして、実は此の間から北の方に行つて居りまして帰つたばかりでありますから、一度講習の有様も見よ一と思ひながら、心にまかせませんでした。此にあなた方と一緒に目にかゝつて、此に満ちて居ります処の空気に感じて居ります私の感じを申すことも、或は必要であろ一かと考へます。

誠に短かい時日、即ち二週間、一番長いものが三週間足らずである。其の短い時日の割合には、結果は充分であつた。(無論、これで、も一完全であると云ふ訳ではないが) 講師のお方も学生のお方も最善を尽して、其の時日の割合には完全に近かつたと言ふことが出来るでありますよ一。之れが、私の今日、此校に戻つて皆さんと喜ぶ処以であり、又今昔の感に打たれざるを得ないのであります。之れを二十年前のことに比較致しまして、非常に私の感ずる点である。其の要点は何であるか。又今日、北の方の教育の有様を視察して見まして、二十年の間に我が國が著しく進んで居る其の間、時に悲観もしましたけれども、よく氣をつけて見るならば、私共の喜ぶべき結果を現しつゝあると云ふことは何によつて見ると云ふと、之れが人間の知力を計るはかりである。又人間の力を計るはかりであると思ふ。夫れはど一云ふことを申すかと云ふと、注意力の発達である。

[注意力]

注意力と云へば、今学監も述べられたよ一に、知力の統一である。之れを英語で云へば Concentration である。此の力が出来て来た。之れによつて、自分の総ての力を統一する、感情を融和する、総ての人と一致協力すると云ふ力が出来るのである。此の夏期講習の間に、講師も学生も、最も忠実に熱心に最善を遂げられたと云ふことは、私の深く感謝する処であります。且つ精神修養の方も、此の中においでになつた方は深い経験を味はうとする処の活動が働いて居ると云ふことは、確に信ぜらるゝのであります。

之れが即ち、我國の教育が段々と進みつゝあるところの徴候である。私も随分夏は弱る方であるが、今年は幸ひ夏まけもせず、信州も越後も非常に暑かつたけれども、さ程に疲れなかつたのであります。此の校へ帰つて不思議に思ふ。皆さん暑いに違ひない。汗を拭ふておいでになる。けれども此に疲れた顔がない。此に人間の不思議な力がある。私が高等女学校などずっと回りまして、新潟に入ったのは二十五日、も一明日から学校もお休みになると云ふ時であつた。然るに私が非常に喜んだことは、婦人であるが非常に元氣がある。進んで事をしよ一と云ふ活気に満ちて居る。そ一して、老人から子供に至る迄、多くの人が集まりましたが、一人として態度を崩すと云ふことはない。そこらの学生は少しく粗暴に見えるけれども、一堂に会すると全く人間が變るのである。柏崎と云ふ処などでは皆筒袖に切つて居るから、風は粗野に見えるけれども、会して見ると完く一變して、身体が別になつたよ一に感じました。殊に私が三條町で小学校と工芸学校との生徒、凡そ千二百名ばかりに話をしましたが、誠に注意を鋭くして、よく聞いて居る。今から二十年程前、私が外国に参りました頃、其の時分の学生は物のわかりが鈍いよ一であつたが、外国の高等学校の学生などが代数などの問題を解して居る処を見、又小学校あたりで小供が分数などを解して居る処は、実に敏捷なものであると云ふことを著しく感じましたが、其の二十年後の今日、新潟あたりに行つて学生の有様を見ると、大層進んで居る。頭の働きが誠に敏捷になつて居ると云ふことを感ずることが出来ました。

[新潟に於ける小學生徒の思想]

其の時、私は子供に対して、いろいろ問ひを出しましたが、丁度はずきりと間違はない答へを致しました。そ一して一番終りに、世界の大勢について、又外国と日本との關係について尋ねましたが、大抵そ一云ふことも教へられて、其の知識が消化して居るのである。

夫れから國の元氣の一番もとであることについて、きゝました。最後に、男女の教育と云ふことについて聞きましたが、殊に新潟あたりでは、実科を教ふことが必要であると云ふよ一にむいて居るから、其の事について聞いて見ました。謂は違ふけれども其の意味は、男子は高等教育が必要であるとして教育せられて居るが、女には、そ一云ふ教育はいらないものであろ一かと尋ねましたら、千幾百と云ふ小供は一人として手を挙げるものはない。然らば、男子に必要として認められて居ると同じよ一に、女子にも高等の教育が必要である

と思ふ者はと聞いた処が、其の娘、皆が誠に喜ばしい勇気ある顔を以て、手を挙げたのである。三條と云ふ処は、昔から新潟の商売の中心であつて、生き馬の目を抜くと云ふよ一な、利にさとい処であるが、今日では教育と云ふことについて、誠に熱心になつて居ります。

夫れから、親達の為めに演説を致しましたのは十一時で、非常に暑くはあり、十二時、一時ともなつたのに、八十程のお婆さんもあり、子供を負ふて来た人もある。私は誠に感心しました。併し夫れよりも兎も角も、そ一云ふ小さい小学校の子供が、よく注意して人の話をきく。夫れから、よく了解して自ら判断して、直ぐ様手を挙げて立ちどころに自分の意見を表すと云ふよ一な、小供の注意力の発達したこと。之れに由つても、我が国の教育が如何に進んだかと云ふことがわかります。夫れで之れに由つても、講習会のあなた方の結果を見ても、やはり注意力を最もよく用ひた、又之れ迄の教育の結果が今日に至らしめたのであると云ふこともわかるのであります。此の頃、私は或る人から頼まれて、書いて上げました。其の詞は、

「精力集中の一日は不統一生活の一年に勝る」

夫れで、此の講習会は僅に二週間、或は三週間の短日月であるけれども、其の一日は精力集中の一日である。故に、不統一な生活の一年にも勝るのである。決して早道ではない。最もあなた方の精力集中の結果である。此の経験をあなた方は確に夏期寮で経験なされたことと思ふ。此の経験は、あなた方生涯の知識の蔵の鍵である。之れは実に尊い経験であると思ふ。夫れからも一つ、皆さんが見出したことであると思ふ。夫れは知識と實際と並行しなければならぬ。理想と実践躬行と一緒にせねばならぬと云ふことがおわかりでありましたよ。

今縫ひ物、編み物、及びミシンの使ひ方など、いろいろの手工の二週間の結果を見て、私共は一向そ一云ふことは不得手であるが、聞く処と又實際見る処に由ると、又實際其の指導をなされた講師の説に由ると、高等の教育を受けた者、即ち頭の出来た人は無教育の者よりも早く覚えらるゝ、上達が著しいと云ふことである。先年、最も進んだ工業の教育をする America の学校長も、そ一云ふ意見を述べられて、人間の発達には先づ二十五才を限りとするもので、二十三、四迄が一番物の進む時であると言つて居られます。之れは私共は外国に於て屢々例を見る処であるが、手の働きも頭の働きを要し、又之れが一致するものであると云ふことは、皆さんの経験なされたことであると思ひます。又英語の講習に於ては、凡ての講師が英語研究の原理をお示しになつたと云ふことである。凡ての Art には其の原理を見出すことが大切である。物をするときには原理を応用せねばならぬ。又、其の原理を応用して、事實に現すことが一番肝心なことでもあります。

つまり原理を拵へると云ふこと、夫れを応用すると云ふことが充分に出来なければ、ほんとの幸福は得られない。即ち、学問と実地と云ふことが一致しなければ、ほんとの力は得られないと云ふことがわかつたでありますよ。

即ち、教育のほんとの意味を此の夏の僅な間に経験なさ

つたと云ふことは、確な事實である。之れが、此の暑さの間に汗を拭うて皆さんが精力集中をなされた報いである。此の二つのこと、即ち一つは精力集中と、一つは一方に学び、一方に行ふと云ふ、此の二つがおわかりになれば何事も出来るのである。是れ迄長野あたりで、只だ感情を刺激する小説の如きものが売れて居つた。けれども今日では実業、工業と云ふよ一なものが読まれるよ一になり、教育も夜の学校、其の他昼の学校を開いて、家事、料理と云ふよ一なものが盛んに行はれて、其処には老若男女の分ちなく、誰れも彼れも通つて居る。

私は、之れは即ち我國民が凡ての人に学問が必要であると云ふことがわかつて来たからであると思つて、非常に喜んで居るのであります。夫れでど一か、僅かな間に経験なされた凡てのことに最善を尽すと云ふことと、学んだことを實際に行ふて行くことと云ふこととお考へになつて、お続けになつて、猶ほ此の経験を協同して広く及ぼして行きたいと云ふことを希望致します。

終りに臨んで私は、講師諸君並びに皆さんが終り迄忠実に、熱心に其の事をお勉めなされたことに対して、最も深い感謝の意を表するのであります。

[中表紙]

第二学期始業式

明治四十三年九月十二日

明治四十三年九月十二日

第二学期始業式

[多事なりし休暇]

此の夏は連日の雨の後に大洪水などがありまして、誠に事の多い休みでありました。

然るに、多数が斯く早速にお帰りになることの出来たのは、一同が誠に喜ばしく感ずるのであります。

[大洪水]

洪水の時に、あなた方からお見舞の手紙を戴きましたが、一々お返事を出す訳に参りません。又、各地方に洪水がありましたから、お見舞を出したいのでありますが、各地共にそ一であるから、多分出来ませんでしたでしよ一。皆さんの中に障りはありませんでしたでしよ一か。夫れを一番先きに聞いて見たいのであります。

今年は大そ一雨が降りましたが、其の為に大水が出ました。其の大水を見たものは………大多数

・家を流したり、田地を流したり、道がこはれたり、あなた方のお宅が今度の水の損害を蒙つた方は……五、六十人位
・あなたの親類のうちが困難を蒙つて居るものは………過半

此の学校の評議員の渋沢男爵は、今年の夏一番暑い時には女子教育の為に、殊に此の女子大学の為に凡そ二週間丁度十三日の間、森村さん、幹事の塘さん、私と共に信州及び越

後迄出かけられました。其の帰り、蕨崎と云ふ甲府の向ふの所まで来て、丁度水害の為に又諏訪へ帰って講演会を開かれました。そして御帰京間もなく、水害を蒙った人々を助けよ一として奔走をなさるのみならず、静岡からずっと関西の方へ、此の水害で困って居る人を救ふ道を開く為に御旅行になり、やうやう昨夜遅く御帰りになったのである。多分あなた方も御親類が水害を受けて居り、親友などが困って居るゝ為に相当の寄附金をなさるとか、自分の持って居るものを分けるとか云ふことをなさったであらうと思ひます。

併し我々の極く近い関係のある範囲ばかりに止まらずして、斯う云ふ人のために同情を起し、又出来るならば何か同情の意を表することをもしたいと云ふ考へを、皆さんお持ちになつて居ることと考へます。之れは、ど一致したならよいか。皆さんの御相談にお任せした方がよいと考へる。兎も角も、我が国は多事である。之れに対して我國民たるものは、如何なる態度を持つべきであるか、此の秋に於て如何なることを為す可きかと云ふことを考へねばなりません。之れは夏、起つた処の一つの出来事でありませぬ。此の夏、我が国家にとつて重大なる出来事が起りました。夫れを知つて居るものは、小学校から言つて御覽。

・朝鮮が日本の國になりました。

・朝鮮人を見たことのあるものは……

・朝鮮人は日本人と似て居りますか、ど一ですか……

之れから日本の人口が六千万人となり、日本人によく似て居る朝鮮人の千万人と云ふものも、やはり日本國民となつたのである。そ一すると我々はど一云ふ考へで朝鮮人に対すればよいであらうか。今迄外國の人と云へば、夷狄などと言つて厭か何かのよ一に思つて、日本人ばかりが神様のよ一なものと思つて居りましたが、そ一云ふ考へは間違つて居ないでしよ一か。

そ一。それならば、ど一すればよいであらうか。親切な心を持たねばならぬと思ふ者は……全体

そ一ですね。そ一ならねばならぬ。今日から学校が始まりますが、是れ迄、夏と言つて居りました。けれども是れからは何と言ひますか。

・秋です。

・秋のすきな者は…… 何故好きか言つて御覽。

・秋の花がきれいです。

・暑くも寒くもなく、丁度よい時です。

・運動会もあります。

・木が実を結ぶ時です。

秋は大変よい時であるから、大に勉強しなければならぬ。又遊ぶにも、是れから外へ出て遊ぶに大変よろしい。身体も大きくなって、面白く遊ぶことが大切であります。

此の夏は、本校の評議員も教職員も桜楓会員も暑中と云ふよ一な考へを持たずに母校の為に非常にお尽しになり、且つ三年生始め其の以下、輕井沢に行き、又此の寮内に止まって、夏前におきめになつた目的を成就することに全力をお注ぎになり、又各地にいろいろの講習会をお開きになつて大学拡張の目的を実現することにお尽しになり、故郷に御帰りになつ

た方も同じ目的を実現することにお勉めになつて、夫れ夫れ有益な働きを遂げて、同時に衛生にも注意なさつて充分心身共に強健に、且つ将来に計画を持つてお帰りになつたことと考へるのであります。

之れは、あなた方が丁度、此の我國の女子教育の機運に対して銘々深く感ずる所あつて、其の必要に応じてお働きになつた結果と思ひます。其の暑さにも構はずにお働きになつた割合に、皆さんが元気に満ちて充分静養もなさつて、此の秋と云ふ即ち一年中の実を結ばねばならぬ時機を迎へることは、私共の感謝に堪へない処であります。

夫れで我々は此の夏の間にいろいろ不意に起りました災害に遭遇し、又我國建国以來の問題であつた処の韓國の問題が決定致し、此の一年中最も私共に大切な第二学期を始むると云ふ場合に、我々は何を考へねばならぬか、又何を計画しなければならぬかと云ふことは、今此に申す必要はない。又いろいろ奨励的の詞を以て、奮起せしむる必要はない。一同が銘々深く感じて居る処と考へます。余り責任が加はつて、寧ろ集中することが困難であるかと思ふ。私も此の夏、一日として忘れたことはない。けれども今に問題である。今に研究を続けて居る。今に充分結論をつけることは出来ない。故に今朝は申さねばならぬことが沢山あります。

[我國使命]

第一に、我が國の使命、夫れに対する我が國婦人の責任、殊に我國に合併せられました一千二百万の國民。之れを如何にすべきか。夫れについては、我國婦人は如何にすべきであるか。そ一云ふ大きな問題もいろいろ考へんければ、我々の生涯、否、我々の今日の態度をきめることでも六かしいのである。併し、そ一云ふ複雑な大問題を僅かなる時間に申すことは出来ませぬ。夫れよりも、我々が此の秋の仕事を開始するに適切な問題を考へんければならぬ。

そこで私は今朝、我々は此の秋、一番健康にもよく、日も長い、一番労働にも堪へ得る此の秋に、我々が四月に開始しました仕事の実を結ぶよ一に、そして母校が過去十年間耕しました其の收穫を収める、其の實を充實すると云ふことが、是非我々の勉めんとすることであり、是非我々が集中しなければならぬ点であらうと思ふのであります。

[二百二十日の天候]

今日は二百二十日、一年中の第二の厄日である。然るに、今年の農作は二割か三割か正確なことはわからぬが、兎も角も洪水の為に收穫を減ぜられたと云ふ厄日に遭遇したのである。けれども第一、第二の厄日には無事である。殊に此の二百二十日は近頃、珍らしい好天気であります。我々も過去十年間の農作は如何なる實を結んで居るであらうか。又、將に結ばんとする實は、果して我々は無事に之れを我が物とし、永久自分の物にすることが出来よ一かと云ふことは問題であると私は考へる。私は寧ろ我が國に於ける女子の高等教育と云ふこと、女子高等教育とは只だ此の大學を意味するのみではなく、高等女学校専攻科と云ふよ一なものをも加へて、兎も角も女子を高めよ一として教育して居る処の機關全体を申すのであります。

茲に秋の時候が到来したのである。昨年頃から第一期の実を結ばんとし、少しく秋冷なる時候が来まして厄日にも遭遇して、今や収穫すべき収穫は幾何なりやと云ふことを我々は考へんければならぬ時機が到来しました。

然るに之れは、我が国に取って始めての経験である。初陣である。故に之れを培養した農夫は経験に乏しく、致しまして半は成功致し、半は失敗である。之れは如何なることを云ふかと云ふことは、大に考究しなければならぬ。其の考へには間違ひはないけれども、方法には誤りがあったかも知れぬ。そこで又、大に論証を挙げて充分に考へんければなりません。併し其の結果はど一かと云ふと、私は寧ろ此の十年間の我が国の高等教育の結果は余り枝や葉が繁り過ぎて、稲で云へば莖が高く花は咲いたが、しひらが多い。人をして喜ばしめたが、驚かしめたが、感心せしめたが、其の割合に堅実な実が少ない。花は多いが、実が充実したとは言ひ難い。一つは、余りに枝や葉が繁り過ぎて、実の方へまはらないと云ふこともある。今一つは、洪水や嵐に逢ふて、其の發育を妨げられたと云ふこともあります。

[桂総理訪問]

私は、今年はどう一か我が国十年間の女子教育の実が如何に実つて居るか云ふことを観察する為めに、第一回に信州地方を回り、第二回には渋沢さんと森村さんと回って見ました。第二回に出かけました時に一夜、輕井沢に泊りまして、渋沢さんと彼の地に滞在して居られました桂総理大臣を訪問致しました。其の時、いろいろ誤解も伝はって居りまして、よく説明しておきましたが、併し総理は、十年間女子大学を経営したが、其の結果はど一であるかと尋ねられました。私は先づ其の結果は直しいと申して、信州と越後との校視会員の持つて居る家庭及び一生の事についての判断など、誠に其の当を得たものが多いと云ふことをお話致しましたが、女子教育については今の総理大臣すらも疑問を懐いて居る、躊躇して居ると云ふことである。同じく父兄が、女子の高等教育は有益なものか、無益なものかと躊躇して居るのである。私は女子高等教育の反動時代と思つて居るのである。私は各地について、いろいろ観察して見ましたが、此の問題に答へる人は余りありませんでした。

[鳥井氏の説]

併し新潟県会で有名な鳥井と云ふ弁護士、此の人は有力な人である。私は、私が居った頃から二十年間に是れだけの進歩を見ることは祝すべきことである。新潟からは大分知名な人物も出て居るから不満足には思はない。けれども一般に、女子高等教育は振はない。之れは何故であるか。局外の方から、あなたのお考へを聞きたい、と申しましたところが、鳥井君の言はるゝのに、私の考へでは其の原因は高等女学校にあると思ふ。高等女学校の教育が不完全である為に、夫れ以上の教育を欲しないよ一な傾きがある。如何となれば、高等女学校を卒業致しましても、何一つ充分に出来ない。何一つほんといに物がわかつて居ない。そして十七、八で生意気である。私は高等女学校を卒業しましたと云ふ風で、なまはんじゃくである。凡て物がほんといに熟しないで大きくなると、

しいらになる。高等女学校の教育の結果はしひらである。或はからずになる。そこで父兄が思ふに、うちの娘は高等女学校へやったら、こんなものになった。此の上に女子大学へやったら、どんなお転婆になるかも知れぬと思ふ。折角発達しかけたものゝ、進歩をとめるとなまはんじゃくになる。半熟の教育である。之れが、今日我が国の女子教育をしひらにした一原因ではないかと思ふ。之れは本校に於ても、高等女学校を卒業したばかりでもよい人もありますが、未だど一も不十分と云ふ点のあることは、我々の氣のつくことである。身体の成熟から言つても、知識から言つても、徳と云ふことから言つても、満二十になる迄、教育を受けなければほんといの者には出来上らないのです。故に、私は其の鳥居君にも、女子大学の卒業生はど一かと問ひましたが、鳥居君の言はるゝのに、自分は多くは知らないけれども、新潟に居る者は大概知つて居るが、皆よくやつて居る、と言はれました。

鳥居君は決して人にべんちゃらと言ふとか、軽率な答へをする人ではない。誠実な人であります。そこで、大学の卒業生は高等女学校卒業生よりは進んで居るけれども、未だ大学の卒業生と雖も、我々が望んで居るよ一なしっかりした、充実した者は少ない。又、其の収穫については考へて見なければならぬと思ふ。あなた方は、ど一も実力が足りませぬ、ど一も品性が低い、確信が足りない、と言ふて居るゝ。けれども、此の頃の社会が余り消極になり過ぎて、善い方は言はぬのである。丁度此の夏、秋冷の氣候が来たよ一に、成熟すべき時に夫れを止めるのは宜しくない。私は、余り消極に過ぎた態度をかへさせよ一と思ふから、決してあなた方にわるい暗示を与へるのではないけれども、此の秋にほんといのみのりのあるよ一に、確実な発達を遂げさせよ一と思ふから申すのである。鳥井君の言はるゝよ一に、収穫の量が少ないのである。

つまり十年間に我々の此に立てました主義、方針、我々のとりました仕方は、大体に於て間違ひはないと思ふ。此の中の寮舎を家族制度にしたこと。自治機関をおいたこと。設備を完全に近からしめたこと。よいことは沢山あるけれども、亦一方には、余りに大きくなった為めに届かなかつた点もある。之れは農夫の経験の足りない処、蒔いた種の不十分なこともあり、又其の培養の仕方の足りない為めに、我々が思ふ程の収穫を得ることが六かしいと私は思ふのである。夫れで、此の秋に我々が努力しなければならぬとか、集中しなければならぬとか云ふことは何であるか。

[此の秋に於ける集注点]

先づ期の始めに於て私が御注意することは、態度である。此の我々が持つた家族制度、自治機関、其の他總ての精神的活動、斯う云ふことが段々地方に拡がって居る。案外盛んに行はれて居りますが、も一一つ、あなた方自身が自分で力を磨くよ一に、自分で運命を開拓するよ一にならねばならぬ。此の夏期講習会で講師方の叫ばれた事も同じよ一に思はれる。之れについては教授の方でもいろいろ研究して居られるよ一であるが、私は一番もとは学生であると思ふ。心の中にある態度の力である。

其の他、家政学部に於ても教育学部、文学部に於ても、ど一しても私共は自ら奮闘しなければならぬ。あなた方は遺伝的に自ら弱点もある。其の上に非常な重荷をかるはされて、あたりからはあげあしをとられて、あなた方を励ますのは気の毒なよ一にも思ふ。其の上に我が国家は多事である。経済の不振かと思へば、洪水はある。中々事が多いのでありますが、此の間ウイスコンシンの教授が来られて、大学総長の所で私共も一緒に話を居られた。ど一しても我が国の学生は、欧米の学生に比べて確に二年程遅れて来る。夫れは漢学と云ふ六かしいものをせねばならぬのみならず、一方には古文学をせねばならぬ。故にあなたの学生は首にひき日をつけて居るのと同じよ一なものである、と言って居られました。

女子教育は丁度、片方の足におもりをつけて居る。故に、思ふよ一には動かれない。私思ふに、今日は我が国家は火事場の如きものである。地震はゆれる、洪水は出る、貧乏には賈められる。此の時に於て、私共は将来の運命を如何に生み出す可きであらうか。けれども私、此の夏非常に喜ばしく感じました。毎日二度、三度の講演会に臨み、朝は四時にでも三時にでも起き、夜は十二時に寝て、女子教育の爲めに働いて居る。斯くの如き青年の、元気ある老人がある。夫れは二人で出来るものではない。けれども二人あれば、必ず多くの人を起たせることが出来ます。

新潟でも北越学館で教育を受けた当年の青年達が、今日では皆重きをなして居るのである。之れでなければならぬ。年より若い人、死なゝいと云ふ元気を持って、如何なる圧迫にも障害にも堪へ得ると云ふ力を養はねばなりません。

願はくは、此の元気が婦人、女子にも現はれる、斯う云ふ実が出来た。之れです。此の実が、我が身を救ふことが出来る。ど一しても、此の困難に遭遇しなければならぬと云ふことは避く可からざる運命です。

昔から白哲人種以外に、色の変った東洋人が世界に勢力を致したことはない。之れは誰れもの怪む所である。夫れと同じよ一に、我国の女子教育は総理大臣でさへも猶、躊躇して居られる。此の時に当りまして我々青年、御婦人の態度が改まって、一つの大なる力を現さねばならぬ。故に、私が此の秋に当りまして全校に望むことは、我々は今斯う云ふ困難に取り囲まれて居るのであります。此の時に於て、充分態度を改めて進まねばならぬと云ふことです。夫れで此の水曜日には森村さん、渋沢さんが来られて、此の夏の旅行についての感想をお話なさる筈でありますから、皆さん、斯う云ふ方々の元気に触れて、大切なる二期を迎へるよ一に致したいと考へるのであります。

渋澤男爵、森村翁両評議員慰勞会席上にての御話
明治四十三年九月十四日

明治四十三年九月十四日

渋澤、森村両評議員慰勞会席上に於て

渋澤男爵、森村翁に比べますと、私は未だ青年でありまして、此の両翁に対して私が少しでも疲れたと申すことは相すまぬよ一に思ふのであります。又今日は我々に言ふ可からざる深い感情がござりまして、私は最も高調して此の御両翁に謝す可きでござります。然るに今度の第二の旅行に、即ち連日の演説会に臨みまして、其の中頃から、丁度長岡の演説会の時から非常に声を傷めまして、引続いてわるくなりまして、ど一しても声が出なくなりました。其の出ないのを無理に続けて居りました。それで口中に白いものが出来ました。

併し二十年前に長岡の劇場で、私が演説をしたことがあります。丁度此の頃で、声が出ないのに無理をして居りましたら咯血を致しまして、今も病院の院長をして居らるゝ池原君にかゝって、長い間わづらったことがある。其の経験があるから今度も池原君に相談致しました所が、其の二十年前と同じよ一になって居るから当分声を使つてはならぬと云ふことで、夫れから東京に戻つて見ました所が、昨日あなた方にお目にかゝって三時間程話を居る中、声が出なくなって、何だか変だと思つて鏡を見ると、之れは前と同じ状態になって居るので医師の所に参りましたら、医者は薬を飲めと言つて、之れから無理をすと血を吐くよ一になるから充分謹まねばならぬと言はれました。

私は渋澤男爵、森村翁、此の両雄である処の老将に対して心から深き感謝の意を表す筈であります。そ一云ふ訳からして今日は私は謹んで御断りをすると同時に、当分声を儉約することを申しておきます。

只私が今度深く感じ、其の氣に触れなければならぬと思ふことを只一言だけ申しておきます。十六日の朝、東京を立つて、七月下旬暑い盛りに新潟に居りました。そ一して八月の四日、先づ一年中で最も暑い時に、此の両君のお供をして東京を出ました。当日は森村さんは其の前から少しく頭をわらくせられて、頭に氷を乗せて居られたので私は驚きましたが、何、驚れる所迄行くと云ふお元気であります。そ一して、一行が軽井沢へ着いたのは五時頃であつたが、森村さんはお先きへ御免なさいと言ふてお休みになりました。夫れだけ疲れてお出になつたが、驚るゝ所迄尽すと云ふ御決心であると伺つて居りました一同は、非常に喜んだのであります。兎も角も驚るゝ所迄行くと云ふ御決心、之れは誠に尊いことです。

又渋澤男爵は昨年実業団を率いて、二、三ヶ月昼夜兼行で米國へお出でになつたことがある。其の時の渋沢男爵の御決心を伺ひますのに、我々は未だ兵營の生活をしない。國民として必ず一度は兵役に服す可きであるから、我々はAmericaの野に戦死する覚悟で行くのである、とのお話でありました。此の二事を以ても、此の夏又お働きの下されたこと、及び水害

救済の為に再び関西に御旅行になって、一日も休暇をおとりにならなかったことを見ても、此の両翁は如何に立派なる勇将であるかと云ふことがわかります。

[両翁に対する所感]

私は此の一行に加はって二週間の間、私が親しくお交りをして目撃したことに由って感ずることが沢山あります。

此の両翁は実業家でござりますが、やはり昔の武士気質、国家の為に討死すると云ふ勇気を持って居らるゝ勇将であることと云ふことを感じないでは居られません。私が今から十七年前に America の Boston で、友人の沢山保羅と云ふ人の伝記を書きました。之れが再版になって、近頃、警醒社から出ました。此の沢山と云ふ人は始終、病床に親しんで居られました。けれども畳の上に死ぬることを好まない。自分は戦野に於て討死する覚悟であると云ふことをよく聞きましたが、実に十年間病床にあって一日も肉体に安き日はなかったが、精神には一日一刻も苦痛を感ずるとか、病気にとらはれると云ふことはなかったのです。今の曾孫子爵の如く、家族も終りを待つばかりの時に於て猶、国家の為にいろいろと考へを回らし、祈をして、我々の如き他国に居る者に迄も、いろいろの伝言をするに忙はしかった。つまり無意識になる迄、働いて居った。祈って居った。努力して居った。実に此の沢山と云ふ人は、戦野に討死した人と言つてよいのであります。然るに、我々の共同者の中に、斯くの如き決心を以て奮闘せらるゝ勇士のあると云ふことは、実に我々の士気を励ますものであると云ふことは誰れも感ずる処であらうと思ふのです。殊に私の喜んだことは、今回は実業家たる両君が女子高等教育の為に、我国教育の改善を叫ぶるゝに最も旗色を明らかにし、態度を明瞭にして叫ばれた。最も利を争ふ実業家であつて、利己、私と云ふものを捨てゝ国家に尽すと云ふ国旗を翻し、主義を翻して、今日の利己主義に戦ひを挑まれたと云ふ勇氣及び実に、感ず可き同情と愛の剣を手に提げ、謙遜、柔和、忍耐の楯を持って勇ましく全力を注いで戦ひ、真先きに立って進んで呉られたと云ふことは、実に今日、我々の我が国家に必要な処の愛国者である。我が国家の為に戦ふ処の勇将であると云ふことは申す迄もありません。殊に此の弱いもの、長い間いろいろな障害に圧迫せられて居る女子教育の為に、斯く迄尽してくれられたと云ふことは、飽く迄感謝に堪へないのであります。之れに答ふるには、我々は此の氣に触れて、此の同じ決心を以て我々が国家の為、人道の為に尽さねばならぬと云ふことであらうと思ふ。斯く自分の事業に成功なさつた年寄りが、夏休みもせずと斃るゝ迄進むと云ふ覚悟を決めて、お尽し下さるのは何故であらうか。国家に夫れだけの必要があるからである。我が帝国の地位に懸念す可き弱点を有して居るからである。我々青年は斯くの如き意気に接し、斯くの如き元氣に触れ、国家の必要を目前に見まして、斯くの如き我が国家の現状を見まして、ど一しても我々は安閑として居ることは出来ない。否、我々は只だ勇と云ふことは剣を持つ、銃を担ふと云ふことではない。此の夏、両翁がなされたよ一に、愛、同情の剣と柔和、謙遜の楯とを以て進まねばなりません。ど一か私共は充分なる決心を顕し

て、ど一しても国家の急に応ぜんければならぬと云ふことを感ずるのであります。沢山と云ふ人は宗教家であつたが、独立教会の基礎を立つる為に討死したのである。

新島襄君は、教育を改善する為に斃られたのである。私は今日も国家の為に殉ずる人、目的の為に死する人が起らんければ、国家の強敵に勝つことは出来ないと思ふのであります。

私が此の夏感じましたことを充分、意は尽しませんが、一言だけ申しまして、他は教職員を代表して麻生学監に、及び桜楓会を代表して井上さんから、感謝の意を表して貰ふことと致しましよ。

今両君からいろいろ有益なお話を伺ひまして、皆さんも多大の教訓を受けられたことと存じますが、兎も角も、我々は弱いものである。此の弱いものが多くの強敵に対して何で勝つかと云ふと、力である。勢力である。America のよ一に活動主義の國は何故に強いかと云ふと、ルーズベルトの如き Energetic な、戦つて屈しないと云ふ勇将があるからである。我が國にも、斯くの如き勇将が必要である。

今、両翁のお話をお聞きになって、あなた方の最も深くお感じになる処は、其の元氣と云ふことであらうと思ひますが、此の力、此の勢力、此の勇氣と云ふものが必要である。此の勇氣を以て勉強する、活動すると云ふこと、此の力が犠牲の精神、己を忘れて尽すと云ふことになります。今度の旅行中に、いろいろ面白い話もありますが、私の驚いたことは、恰も皇族でもおいでになつたかのよ一な有様で、発着に花火を打ち揚げて歓迎すると云ふ有様であつた。之れは桜楓会員の働きもあるけれども、一つは渋沢男爵の勢力である。私心を離れて公共の為に尽す、弱い者を助けると云ふ精神。又一つは森村翁の至誠、熱心であります。

私共も私を離れて、未だ未だ足らんと思つて如何に微力でも宜しい、國の為に尽さねばならぬ。弱い人の為に捧げねばならぬ。此の態度程、力を増すものはありません。

此の勇氣、此の精力主義、此の活動主義、奮闘主義、勉強して止まない、力ある活動の出来る、勢力ある人間となつて目的を貫くと云ふ此の主義。夫れから、我々が我が儘を捨てゝ如何なることにも堪へる。微力であっても、真に世の為に我が身を忘れて捧ぐると云ふ此の力＝勢力と愛＝此の二つの力を以てすれば、何事でも出来ないことはありません。

我々は弱いけれども、我々は欠点が多くて悲しいけれども、我々の敵は多いけれども、茲に確信をおいて、人間に出来ぬと云ふことはないと思つて、真心と愛とを以て世の為に尽さねばなりません。実に今日は、いろいろなる圧迫を受け、私共を恐怖せしめ、萎靡せしむる敵が多いのである。けれども此の時に於て、内に力を得んければならぬ。私共の勢力を挽回するのは此の時であります。故に、ど一か此の点について考へて、我々個人の中に、団体の中に此の大勢力を得んければならぬと云ふことを、之れは皆さんのお話の中に自然に現れましたけれども、茲に私は詞を改めて一言、此のことを申すのであります。

〔中表紙〕
第一学年にての御話
明治四十三年九月十七日

明治四十三年九月十七日
第一学年にて

只今、銘々がど一云ふ態度を以て第二期を迎へるかと思ふこと、又ど一云ふ新しい有益な経験を持って帰ったか、今ど一云ふ考へを胸に貯へて居るか、又健康其の外、精神が健全に働いて居るかど一かと云ふことを聞くことを、皆さん希望して居り、私自身も亦、此の夏は何か新しい希望を持ってお帰りになるであろうと思ふことを予期して居りました。夫れで私は、今日は成る可くあなた方の経験を聞くよ一に致したいと思へます。

生徒の答へを省く

今日は、僅の時間に各部から報告なさったのでありまして、其の内容を充分に表はす時がないから、実質を充分にきき取ることが六かしかつたことと思ひますが、私は、此の夏、校内に残つておいでになつた方と、軽井沢の一期、二期においでになつた方と、家庭にお帰りになつた方と総てを通じて考へても、決してあなた方の考へ、あなた方の行ひ、あなた方の種々の経験と云ふものは空なものではない。必ず実質が伴ふて居ると云ふことを信ずることが出来るのであります。之れは、銘々の経験を具体的に話しになるときになつて始めてわかるであらうと思ふ。私は成る可く具体的に銘々の経験となつて居るものを聞きたいと思へます。

〔経験分類〕

此の夏、あなた方の経験なさつたことを分類して見ると、凡そ三つになるであらう。

- 1 実際生活 家事の手伝ひをすとか、縫ひ物をするとか、所謂実務をおとりになつた方が多いかと思ふ。
- 2 Meditate 無論、実務もとつたけれども、一番重きをおいたのは深く考へる。英語で言へば Meditate する。そ一云ふ精神界に入ることと勉めたと思ふ。
- 3 読書 本を読んだ。又は勉強をした。論文を書くとか、後れて居る課業をさらへるとか、又調べ物をするとか、平生読むことの出来ない本を読んだとか云ふことがありましょ一。

- 第一の種類に属する人は 殆んど全体
・第二の種類に属する人は 二十二人
・第三の種類に属する人は 五人
・働くことと、考へることと、本を読むことと、此の三つを最もよく調和、平均して此の夏を過したと思ひになる方は………
・次に聞きますのは、今あなた方が夏二ヶ月間おとりになつ

た処の生活は満足であつたでしよ一か。又、今も満足することが出来る、有効であつたと言ふことが出来ましょ一か。満足したならば、何か新しい希望がある。非常に喜びがある。そ一云ふお方が幾人あるか聞きたいのです。 二十二、三人・次には、此の夏ばかりではなく、あなた方の今迄の生涯を総合してお考へになつて、今申した処の實際生活、社会に立ち、或は家庭に入って煮焼きをし、或は機を織つて實際生活をするに由つて満足が得られるであらう一か。又は、今の現実の不満な点は忘れて、心の中に喜びを持ち、力を持って居る、所謂、精神生活が一番満足を与へるものであらう一か。第三は、学問の生活が一番愉快な処であり、一番我々の満足する処であらう一か。つまり熱心に働く、実行をして行くことが一番愉快な経験であると思ふ者は……… 17人

精神と云ふ目に見えないものゝ、其の生活が出来たことが一番楽しい、愉快なことである。又、夫れが出来れば生涯満足であらうと思ふ者は 過半

勉強して研究して生活することが、一番楽しいものであると考へる人は……… 一人

そ一して見ると、あなた方の實際生活が一番楽しいものではない。縫ひ物をする、料理をする、計算をする、家の雑事凡てを引き受けてすと思ふことが、未だ今日の御婦人に満足の出来るものでないと思ふことの訳のわかる人は………

一番多いのは精神的な生活である。之れを最も満足せらるゝものであると考へる人は、確に一度か二度か、長いか短いかの経験を持ったことがあるに相違ない。此の夏、其の生活に由つて満足の出来たと言はるゝ者は………

誠に少数である。して見ると、あなた方が心に求めたものは、未だ満足する程に得られないと思ふことになる。茲に於て未だ、ど一も力が足りない、精神の糧が乏しいと思ふことになる。そこで此の秋は、ど一しても其の希望する所に達したい、其の願ひを満したいと思ふことは、皆さん感じて居らるゝに相違ない。之は誠に大切なものであります。之れが人間の向上心の本である。之れは強い人程、進歩発展するのである。夫れなら、ど一でござりましょ一か。あなた方が卒業後限りなく発展して、満足の出来るよ一な生活を営むには、ど一したればよいでしよ一か。

皆さんの呼吸する空気、其の時候が今年のように甚だ宜しくない。外から干渉せられたり、人から助けられて、ど一してもほんとの成長の出来るものではない。然るにあなた方はど一も傍から圧迫せられる空気が甚だ冷たい、つまらんと言はれると、ほんとの自分とはつまらんものとして了つて、びくびくして居る。御婦人程、物を恐るものはない。盗賊も怖い。雷も怖い。病氣も怖い。夫れよりも猶ほ怖いものは社会である。人から何とか言はれはすまいかと思ふことが大變氣にかゝる。之れを臆病と言ふのである。夫れよりも、もっと怖いものがある。夫れは、自分の中にある良心の責めと思ふものである。自分の愚と思ふことが怖い。何故、真理に従ふことが出来ぬか。是れ程怖いものはない。之れがほんとのである。然るに、そ一云ふことは恐ろしからずして、只臆病になる。余りいろいろな物に怖がつて、其の空気が士氣を阻

喪してう。臆病な兵隊を率いて居る程困ることはない。そんな友達は何人もあっても、何の頼りにもならないのである。之れを我々は一番心配するのであります。

どーでしょー。余りあなた方が物を怖がり、つまらん暗示を受けて、其の為に萎縮してうと云ふことはないでしょーか。も一つ満足出来ないのは、其の訳がいろいろあるけれども其の一原因は、余り今日の空気が陰鬱であること、及び臆病神に誘はれて余り物を怖がり過ぎる為めではありますまいか。そーではない。夫れだけの意志はちゃんと出来たと云はるゝものは……

そーではない。いろいろな暗示を受けて、其の方に傾くのが我々の弱点であると思ふ者は……殆んど全体

之れはやはり修養して行かねばなりません。

夫れから私は、も一つ、こー云ふことがありはせぬかと思ふ。之れは今迄始終言つて居ることでありますが、修養をして精神生活を完全にして行くには、Meditate する、深く考へると云ふことが大変必要になって来ます。

Meditate と云ふ語は日本の詞で瞑想と訳する。瞑想とは、無我になる処の集中であり、意を誠にする処の働きである。故に之れを深くすれば祈りである。祈りと云つても、手を拍つとか木魚をたゝくとか云ふことではなくして、非常なる集中であります。精神力の発揮は此処から起るのである。是れ迄は極単純な Christ 教、極単純な仏教を信仰して、私共の精神生活が出来たものである。然るに今日は大変世の中が複雑になりました。夫れには、単純なことでは意志を作ること出来ぬ。意志を作ることが出来ねば、到底精神力の発揮は出来ないのである。故に今日はどーしても思考力、考へる力を養はねばならぬ。之れを英語では Reasoning power 或は Reason と言ふのである。実力を作るにも人格を展ばすにも、之なくしては出来ないのである。即ち驕の頭も信心からと言つて、訳を考へてはいけなかつた。婦人を教育しても依らしむべし、知らしむ可からずであつた。昔は教育をするにもおしつけで、思考力を発達せしめなかつたのであるが、今日はどーしても此の思考力を養はねばならぬ。ところが、之れがどーも満足が得られない。今日の生活の大なる欠点であると思ふ。

皆さんは英語が六かしいと仰やる。どーも語学の力が展びないと仰やるのは他の原因ではない。やはり思考力が乏しいと云ふことになるのです。故に之れからはどーしても、只だ先生の講義を聞いて居つてもだめである。どーしても思考力が発達しなければならぬと思ふ。

夫れからも一つ大切なことは、知識である。常識も大切であるけれども、どーしても科学的の知識を持たねばならぬ。其の知識の蔵を開く処の鍵を自分のものにすると云ふことが大切である。あなた方は中等の家庭の人が多から、必ずお父さんから遺産を貰つて居るであらうと思ふ。まあ千円はある。お嫁に行く時は夫れを衣服にする人もあれば、持参金にして行く人もある。或る人は一万円あるかも知れぬ。けれども之れは何の役にも立たぬ。貰つた時はよいよーであるが、使つて了へば直ぐなくなつて了うものです。併し其の娘

さんは例へば文章が上手であつて、一寸ものを頼まれて書いても直ぐ沢山の収入が得られる。偉大なる想像力を持って居る為めに筆をとるならば、此に五百円の金を自分の働きで以て得ることが出来るとすると、どちらが嬉しいでしょーか。親から貰つた一万円と、仮令百円でも五十円でも自分の腕で働くことが出来る。親から貰つたものは一文もないけれども、自分で自分の必要な働きを起すことが出来るならば、どちらが嬉しいであらうか。夫れと同じよーに、私共も唯だ人から教へられ、人から貰つて物を注ぎ込んで行くよりも、自分で自分の原野を開いて行くことが出来ねば、高等教育を受けたとは言はれまい。私は、仮令小さいことでも自分で自分の知識の蔵を開く鍵を得なければ、真に満足なる生活は出来まいと思ふ。只だ先生から貰つた丈の独立のない学問をして試験を通つた処で、夫れで家を持つことが出来るであらうか。まあ私は、あなた方の学問を親から貰つた一万円位には思ふ。けれども気の毒である。貧乏である。も一万円位では、世界と競争することは出来ぬ。私はあなた方の知識の独立を希望するのである。

[根本の力]

あなた方がほんといに婦人の責任を全うするには、どーしても根本からせねばならぬ。修養でも何でも自分でする、自分でやれると云ふ其の力、英語でも自分ですると云ふ其の態度が未だ改まらない。其の経験が出来れば不平はなくなつて了うのである。どーしても、あなた方が自分で仕出ださんければだめであると思ふ。故に私は、此の期からは成る可くあなた方が自分で物をなさると云ふ結果を現したい。仮令貧乏であつても構はない。之れから富を作ること出来る其の力、其の修養を積みたと思ふ。ほんといに物を統一する処の力が出来て、其の生活の味を経験しないと、やはり世の中から動かされて了うであらうと考へる。夫れで私は、分量は之れからは少しも申しません。自然、分量をまかまう様になつて来るが、夫れは言はなくても宜しい。どーか今後は、ほんといに自分で物をなさると云ふ経験をする為めに、本を読むにしても、英語をするにも、国文をするにも、漢書を読むにも、訳書を読むにも、あなた方自分ですると云ふ経験が出来なければ、ほんといに力とは言はれない。夫れで私は、此の四月からあなた方が参考書を使つて自分で勉強なさらねばならぬ。故に今迄参考書として、及び修養の為に読んだ書物の名と、是れから読まうとするものを書いて、一週間内に出して貰ひたいのです。

夫れから此の夏、Life と云ふ雑誌を上げておきましたが、之れは丁度、実践倫理に使はふと思ふ材料を入れておきましたが、之れをあなた方はどーお使ひになるか、夫れを見たいのである。一年と予科とに聞きますが、此の意志の教育と云ふことと、美術と文学と云ふ題目の中から読みたいと思ふ所を選んで貰ひたい。Meditation and Action、夫れだけでもよい。Meditation と云ふ詞を知らなかつたら、どー云ふ字引きを使つて、どー云ふ風に覚えるか。そーして、どー云ふ考へを与へられて、どー云ふ確信を作つたかと云ふよーなこと。夫れから段々新しい経験があれば、猶よいのである。私思

ふに、これからあなた方が国文をするにしても、国文ばかりして或は漢学ばかりして到底満足は得られない。夫れだけでは第一、間に合はない。若しそ一するならば、甚だまつい生活をしなければならぬ。ど一しても、一つ二つの外国語は使へなければならぬ。私はあなた方の思考力を見るのである。之れがわかるよ一になれば、他の語学も出来るよ一になるのである。

兎も角も英語と云ふもの、独逸語、仏蘭西語と云ふものにも Modern language がある。夫れから希臘、羅典と云ふものがある。此の間も桂総理の処へ外国人が来て、独逸語で立派に話をして行くのである。私はど一しても立派な国民のお母さんになるにしても、大学生と云ふ名に対しても、之れ位のものわかるよ一にならねばならぬと思ひます。

夫れでたった一とくだりでもよいから、実践倫理に使ふだけの時間を以て、ど一云ふ点が六かしかつたか、ど一云ふ点に困つたかと云ふことを根本的に研究して行かうではないか。昔から、問ふは一時の恥、問はざるは一生の恥である。私は分量は問はない。あなたの力を見たいのである。あなたの力にど一云ふ点が六つかしいか。六かしければ、ど一したらよいか。之れを成る可く書いて、其の書いたものを発表して、皆さんお互にも経験を交換なさつたらよいであらうと考へる。日本の書物にもよいものが少しはあるけれども、ど一も理論ばかりで適切でない。又翻訳したものを読むと、ど一も後れると云ふことがある。之れは前からの事であるから、なる可くあなたの力を出して一つやってみたいと思ひます。

三年と二年も、序に申しておきましょう。

Social department と Home department, National morality, Gregarious morality 或は Altruistic morality、之れも私が家庭問題、結婚問題と云ふことについて申したいと思ふて居りましたことを書いたのでありますから、之れは誠に大切なことであるから、一つ自分で出来るだけ研究して貰ひましょ一。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十三年九月二十一日

明治四十三年九月二十一日
二、三学年にて

此の夏、お読みになつた書籍を一部分調べまして、又暫く相別れて居りました間の経験を調べて見まして種々の感じが起り、いろいろ複雑な問題が起らざるを得ないのです。実に今日程、思想の混乱して統一のない、又統一のつかない時代はあるまいと思ふ。斯う云ふ時代に於て意志を顕現して行かう、又実力を養ふて行かうと云ふあなた方は、種々の事情、種々の困難と戦はねばならぬと云ふことはよくわかつて居ります。併し此の時に於て、如何にして此の困難を切り抜ける

ことを得るか、又我が国の青年である危険を防いで行くことが出来るかと云ふことは、当局者もいろいろ心配して居らるゝと云ふことがわかる。一方から言へば、今日の教育は知識に走り過ぎて、其の知識も只だ広いと云ふだけである。覚えると云ふだけである。此の弊は既に先進国も気付いて防衛して居ることであるが、我が国では、ど一も其の弊が深くして陥り易いのである。

そ一してど一人格が出来ずして、意志薄弱なものしか出来ない。昔は武士は武士として集中することが出来たけれども、今日は其の集中が出来ない。又昔は宗教なら宗教で単純な信仰を保つこともあつたが、今日は夫れでは事が足りないのである。文学と云へば自然主義などで、未だ目的が立たない、人生の主義がわからない者に刺激物を与えることは危険である。そして社会主義。之れを極端に言へば、社会学の知識を与えることだけでも困難であるから、そ一云ふ書物を読まさないよ一にと内訓などをして、総てが今日は消極になつて居る。つまり今日は我が国の国民、我が国の学生と云ふものが未だ小供であると云ふ域を脱しないから誠に危険であります。併しまだ小供であるからと云つて親が始終束縛をしなければならぬ、ど一も枯れそ一であるから室の外へは一步も出すことが出来ないと云ふ風に、只だ保護をする、監督をすると云ふ消極に由つてのみ教育が出来るかと云ふと、そ一ではあるまい。之れは誤解して貰つてはならぬ。益々圧迫し、益々内から発展すると云ふ気がなくなつて行きよと思ふ。高等教育と云ふものは男子にでも危険であるから、況して女子に対して之れを施すのは非常に危険であると云ふ傾向が非常に多い。独り教育ばかりではなく、非常に儉約せねばならぬ。財をねかして置く、成る可く貯蓄すると云ふ風であるから勇気が出ない。何処へも冒険的に進んで出よと云ふ意気がなくなる。我々の意気が消沈すると元気がない。元気がないから病気に罹り易い。討死しやすいのである。そ一云ふ風に社会が沈衰して来ると萎靡して来る。故に社会が勝たんければならぬことが出来ぬ。或る程度迄は人間が自然界を支配することが出来る。然るに斯う云ふ風に意気が消沈して来ますと、天然を征服する力も誠に乏しくなるのである。

私共は成る可くかう云ふ時に於て士気を阻害しないよ一にせねばならぬと思つて、此の夏前から少々健康は疲れて居るにも拘らず、充分勇気を出して、殆んど寧日なく暮しました。

此においてになつた方も、大体はそ一云ふ六かしい時に於て勝利を得てお帰りになつたと思ひますが、斯う云ふ際に我々が最も悲むべきことの起りましたのは、此の夏討死する者の出たことでもあります。之れは免れないことである。ど一か我々は勇気を以て、全軍の士気を鼓舞することが必要であります。

其の斃れたお方は家政三年の長津八千代さん、教育部三年笠石貴園さん、それから、やはり大学部で来られなかつた小野澤辰江さん、高女四年佐々木ときさん、此の四人である。此の方々には実際におきまして、私共は卒業生と見ることが出来ると思ひます。

略伝を省く

此の夏の様には四人も我々の中から失ったと云ふことは、団体の為めからも惜む可きことであり、御本人の為にも志を遂げずして黜れられたのは誠に残念なことであるが、併し本校の主義である、終り迄 Best を尽して永久不朽の世界に入ったのであるから、我々の精神を養ふ処の空気をなして居ると云ふことは、一同深く信ずる処であります。夫れで皆さん、一緒に斯ふ云ふ時に適ったものを一つ歌ひましょ。Psalm of life、合唱。

此の前、一年と一緒に此の夏の経験と所感を御報告になりましたが、時間の都合で充分其の意を貫徹することも出来なかつたし、又時間の都合で出られなかつた組もあるから、始めに夫れを述べて、後で私の意見を洩らして貰ひたいと云ふ三年生からの希望がござりました。故に、今日は夫れに従つて致しましょ。

多分皆さんは同様に感じになるであらうと思ふ。決心した所、要求する所、目的とする所が大抵一致するであらうと思ふ。も少し丁度、自分自分の所を仰ることを希望致しますが、時を取りますから、あなた方の希望を遂げるには如何にすればよいか。其の方法として、或は寮舎生活を少し改善せねばならぬとか、勉強の仕方をもっと適実にせねばならぬとか、いろいろ考へがある。夫れに対しては多分方法もお考へになつてあるかと思ひますが、一々聞く時間がありませんから、夫れについて私から皆さんに最も必要であると思ふことを申して、相談の様にして、最も急ぐことから直ぐ手をつけねばならぬと考へます。

つまり皆さんの経験を纏めると、真面目に考へた、着実に責任を尽したと云ふことになりましょ。然るに世は益々消極に傾いて行き、女子の高等教育を妨げると云ふ様な出来事が続々起つて来る様であります。夫れにも拘らず、あなた方は自ら決心をして大に勇氣を持って居ると云ふ態度、自分で深く考へておいでになること、又人生に対する深い経験を持つておいでになるとか、読書に対する経験と云ふよなものもあるのであるが、つまり私の最も知りたいのは、自分で自分の力をどれだけお注ぎになつたかと云ふことである。多分皆さん、出来た丈の事をしたと云ふことであらう。之れがあなた方の進歩の為に誠に大切なことでもあります。我が國が未だ充分に発達して居らるのであるから、幾ら氣を揉んでも一朝で物が出来る筈はない。併し前に申した様に、我々が立てた教育の方針が間違つて居るとは思はない。今後益々我が國の責任が重くなると云ふこと、總ての國が益々進歩して行くことと云ふことは確かであらう。夫れで、其の時勢に応じて行かざる所の教育をすると云ふことは間違はないものであらうと思ふ。

時には克己、忍耐も必要である。けれども只消極ばかりではいけない。も一つ積極的に、自分にも動かねばならぬ。意志を自分で働かせねば、ど一しても展びないと思ふ。も一つは世界の発達が急である。其の急流に我々が掉さして行くのであるから、経済の事から云つても、ど一も動きがつかない。時も足らず、健康も不十分であると云ふことになる。そこでつまり、我々の方針、我々の希望と云ふものは間違つて

居ないけれども、力が薄弱である。進歩が幼稚であると云ふことになる。故に、只口説いて居るだけで仕方がない。出来る丈の事をして、力を合せて其の困難に勝つて行くことと云ふよ一にするより他に道はないと思ふ。

私思ふに、今迄事を急にやりかけて来たけれども、ど一も思ふ程に我々の力が展びない為に不十分な点が多い。故に出来る丈に勉めて行くことと云ふこと、及びほんど一に力が養はれる様にして行かねばならぬと思ふ。夫れには、いろいろ改めたいことがある。其の中の一番大切なことは、あなた方銘々の中にある力を展ばす様に致したい。つまり一言で言へば、も少し自分で物が出来る様にならねばならぬ。余り外から物をおしつけるゝ為めに、自分で物をすると云ふ余地が少ない。其の経験が乏しい。も一つは、銘々自分の傾きがあるから夫れを育てねばならぬけれども、日本ではど一しても夫れを抑へる、妨げると云ふ傾きが多い。そして夫れに慣れた為に始終人に指揮せられ、干渉せられて、受動的に物をして行くことが多い。従つて卒業後、永久的にあなたの人格が展びないと云ふことがある。夫れで此の秋は、之れを実行して貰ひたい。其の第一着手として、銘々の態度を改めて欲しいと思ふのであります。其の態度とは、ど一云ふことであるか。之れは時を改めて申さねばなりません。今一寸申し尽す訳には行かぬ。そ一して此の學校の方針に叶ふ様にあらねばならぬと考へる。

いろいろ考へて居ることがありますが、之れからは一々皆さんにやつて行つて貰ひたいと思ひます。之れ迄は凡ての方針も立たないし、むきむきも異つて居るから、程度以上にやさしいこともし、力量以上に仕事を展ばすこともあつた。之れは十年の基礎を立つる為にも已むを得ないこともありました。併し今日は略ぼ備はつて来ましたから、内を養ふことが大切である。夫れで皆さん、銘々の力を出して一つ実行して貰ひたいと思ふ。夫れにはいろいろござります。つまり世の中が非常な勢ひで進んで居る。従つて世の中が非常に明るくなって行くから、其の世の中に応ずる様にするには非常なる知識を要するのである。詞をかへて言へば、毎日毎日新しい事実が起り、新しい考へ、新しい発明、新しい仕方が見出だされつゝある。夫れで、毎日毎日新しい考へが構成せられねばならぬ。所が之れが御婦人には誠に六かしいのである。故に、其の新しい知識を自分の物に刈り入れるだけでも誠に六かしい。其の上に其の考へが自分の意志となり、力となる迄に組み立つことは、一層困難であります。故に、只武士道に由るとか、仏教により、只 Christ 教により、只 Dogma の様なものに集中して、統一することは出来ぬ。
[知識の統一]

そこで如何に複雑であつても、知識を求めねばならぬ。そ一して夫れを統一して行かねばならぬ。

此に於て、ど一しても複雑なる知識を求めねばならぬ。そ一して夫れを咀嚼して行かねばならぬ。之れは只耳に聞いて居るとか、我が手で扱ふて居るだけで、広い世界を学ぼうと云ふことは不可能である。故に、ど一しても私共は此の新しい知識を養ふのに、読書の力に由らねばならぬ。目の力に

より、頭の力に由って、自分の物とするより外に道はない。之れが我が國に於ては誠に出来にくい。我が國の文学は困難である上に、詞に現れて居る範圍が狹隘である。其の爲めかど一か、我が國民と云ふ者は誠に読書の興味に乏しい。そして其の習慣がない。そこであなた方がうちへ御帰りになっても、自分は興味を持って居るけれども、あたりが之れを許さないとか、事業を持って居る家ならば其の手に本を持って居るならば、事業に不忠実であるかの如くに思はれて、主人が喜ばないと云ふことがある。夫れで、ど一しても自分の選択力、判断力を用ひて知識を広めて行くには、是非とも読書力を養はねば學問の獨立は六かしい。永久展びて行かると所の力を得ることは六かしいと思ふ。夫れで、ほんといに思考力を養ひ、永久展びて行かうとするには、只だ我が國の漢学、国文だけでは足りないと思へる。ど一しても、も一いつ進んだ所の國語を自分の物とする必要があると思ふ。そこで私は、女子の高等教育を進むる上にど一しても必要なものは英語であると考へて、英語を入れました。けれども總ての時間を其の爲めに用ふる英文科の如きも、未だ充分役に立つ迄には其の力が養はれて居ない。之れは此の校の学生ばかりかと思ひましたが、そ一ではない。世間一般の何処の学校でも同じことであります。

夫れで私はど一かして其の力を得らるゝ道を講じて見たいと思ひまして、私には一つの経験がございますが、之れを先づ全校でして見たならばど一であらう。そ一して、ほんといの英語を學ぶ経験を得て貰ひたいと思ふのです。此の間も申したよ一に、実践倫理の如きものも其の考へを組み立つるには、英語によるのが一番便利であらうと思ふ。然らば其の本を何処から得るかと思ふと、中々無いのである。夫れで此の夏私は、未だ充分考へも練れて居ないものを早急の場合、拵へて見ましたが、夫れがどれだけの役に立つか、実地経験して見なければ効能がわからない。故に此の次迄に、此の間申した様な方法で一つ研究して見て貰ひたいのです。夫れで、あなた方が之れを読む上に、ど一云ふ困難があるか、ど一云ふ経験があるかと思ふことを私は見たいのです。そ一すると、ど一云ふ所に間違いがあるかと思ふことがわかる。其の時に於て始めて誤りを正すことが出来るのであります。

[中表紙]

故 雛田教諭三周年記念会にて
明治四十三年九月二十三日

明治四十三年九月二十三日

故 雛田教諭三周年の記念会にて

今學監及び井上さんから、いろいろ懐旧談がありました上に、私は咽喉をいためて居りますから長いお話は致しませんが、只簡短に私の感じを申すならば、此の夏、雛田さんの生地、加茂と云ふ処へ参りまして、心の中で墓参りをして参

りました。加茂と云ふ処は加茂川と云ふ川が流れて居って、誠に山高く、水清き処である。

其の町も其の後非常に開けて、山林学校も出来て誠に盛んな処であります。只残念なことは、雛田さんの家は前から先生で多くの人に尊敬されて居つたにも拘らず、不幸が続いて絶えて了つたのです。

新潟へ行きますと、如何に新潟女学校に尽されたかと云ふことを偲びました。

長岡へ行つて、私は其処で血を吐いて、も一いかぬと迄決心したことがある。私の妻も殆んど其処で斃れたが、足へ注射をして漸う救はれた。其の時に看病してくれられたのは雛田さんであります。

そして雛田さんが女子大学へ来てからも、苦しい処を今お話のよ一に Cheerful の処はあつたが、非常に困難な生涯を送つた人である。けれども、ちつとも不平を言はない。つまり我々がそ一云ふ様に喜んで人の爲めにも尽す、困難にも喜んで忍ぶと云ふことは、自分の爲めにも幸福であり、人の爲めにもよいことであると思ふ。

私は雛田さんの郷里へも度々行きましたから、丁度三年忌に私の感じたことを申します。夫れから雛田さんの後は絶えたから、誰れも弔ふて上げる人がない。けれども寮舎が殆んど家のよ一なもので、あなた方は子供のよ一なものであるから、かうして記念会をしてあげることは雛田さんにも嘸、喜ばしくお思ひになることであらうと思ひます。

[中表紙]

櫻楓館創立第六回記念式上にての御話

明治四十三年九月二十五日

櫻楓館創立第六回記念式にて

今日は記念日の上に秋季の始めの例会であるから色々お話しもし、又あなた方に御相談もしたいことがあるのであるが、丁度今日は、先頃山口県先の井上子爵が倫敦で客死せられた、其の葬式がある。此の井上子爵は私の従兄と同じく職を奉じ、又鉄道事業の爲めに大層働かれた人である。

今日は私共は喜びの会であるが、一方は幾らか残つた方を慰めると云ふよ一な厭である。それで三井様は言はば内輪の人、即ち家族のよ一な間柄であり、あちらは儀式を以て行かなければならないのであるから、いろいろと考へた末、先づ私が其の方へ出た方がよ一かと思ひました。夫れで甚だ遺憾であります、只一言だけ、今日の感を述べておかうと思ひます。

今から二年前、三井男爵御一家は世界漫遊にお出かけになり、昨年御差支へがあつて御出席下さることが出来ませんでした、久しぶりで今日は三井さんが御臨席下さつたことは一同の深く喜ぶ所であります。殊に三井家では御旅行後、皆様少し御不快でお出になりましたが、此の頃は最早御全快

になり、且つ桜楓会には関係の深いたつをさんが御安産がありました。即ち三井さんには御孫が御産れになったのである。其の御喜びの時に際して、我々が此の櫻楓館の記念式をする

と云ふことは、此の上もなく喜ばしいことであります。

[命名]
殊に三井さんは其の御孫さんに英語で言ふ Smile、笑と云ふ名をお付けになりました。私が御喜びに参りました時に、三井家には実に悦びが満ちて、言ふ可からざる感に打たれたのであります。人間は真に愉快でなければ、ほんとうに笑ふことは出来ないであります。此の笑と云ふ名をお付けになったことを見ても、如何に悦びに満ちて居らるゝかが分かるのであります。

三井さんは愉快な方である。物は仰やらないけれども、実に愉快な方であります。

[父]

夫れから其の時に、私が感じたことがある。今に一番私が思ひ出すものは何かと云ふと、父親である。

私の父は平常は無言であるが、公衆の爲めに我れを忘れる人である。何か土地に出来事があれば、親父が出ると直に平和になると云ふよ一な風であった。丁度、私と同年で亡くなったのであります。も一其の時、頭が禿げて居りました。そして其の頭の禿げ具合が、誠によく三井さんに似て居りました。夫れで私は三井さんを見ると、ど一も親父に逢ふたよ一な気がするのであります。

今日、あなた方も此の様なお方に御目に掛ると、親に逢ふたよ一に思はるゝである。殊に今日は、祖父になって御出になった、御老人になって来られたのであります。

[Attain old age]

人に由ると老人になると云ふことを嫌ふが、夫れは誤りである。私の言ふ老人は英語で言ふ Attain old age で、即ち理想に達した、成功した、研究を遂げた、生涯の実を結んだ、其の人の結果の光が発揮した、長命であると云ふ意味で、此の Attain と云ふ字は誠によく Express された詞である。

[Dote age]

夫れと反対に、Dote age と云ふ詞がある。老衰する、老耄すると云ふ意味で、Attain の反対である。

Attain は実に心がきれいになったものである。其の御祖父様が来て下さったと云ふことは、誠に喜ばしいことと私は思ふ。夫れで、私共が非常に心に悦び、心に深い印象を受けて此の記念日を祝ふ。此の記念と云ふのは、何を記念するのである一か。

此の櫻楓館は三井の奥さんが建てゝ下さった。又、三井さんは此の学校の土台となりました地面を寄附せられた。即ち地の利を与へられた。東京で外にあるまいと思ふ、教育に最も適当した土地を学校へ与へて下さったのであります。此の事は決して忘れてはならぬ。又、学校に最も大切な櫻楓館に力を入れて下さったことは、忘れよ一として忘れることの出来ないことである。確に非常に価値のあるもので、此の土地や家は欠く可からざるものであります。

併し只だ此の家や土地に就いてのことを記念するのみでは、

誠に無意味なものである。又それだけなれば、誠に其の意味は浅薄なものである。実に卑いものである。そして長く記念する価値のないものである。此の記念は、そ一云ふ物質的なものではないのであります。

[永久の記念]

然らば永久忘るゝことの出来ない、深い印象を受けた記念は何であるか。之れは只だ式をした、碑を建てたと云ふよ一なことではなく、自然に起る記念でなければならぬ。今言ふた処の自分のお父さんのこと、ど一しても忘るゝことの出来ないものは、之れである。何かの折に、直に其の人を思ひ出す。夫れは何か其の人が生きて居る、忘れられぬものがあるからである。それはど一云ふものであるかと云ふと、其の人の Motive である。Attitude が生きて居る。或は意志、精神がある。其の Attitude は西洋の詞で Self-forgetfulness、全く自分を忘れる態度である。

此の忘れて行つたことは、自分を離れて行つたこと、考へたことは永久滅せず記憶せらるゝものである。之れに反して自己の功を思ひ、其の名誉を願ふて為たことは、直に消えて行くのであります。

例へば、親が子を思ふよ一に、実に子の爲めには我れを忘れてするよ一に、其の Self-forgetfulness の態度を以て、こゝを起して下さったと云ふお方のその行為に、非常に永久不朽の精力がある。威厳があるのである。そして私共が今日記念するものは、其の忘る可からざる態度である。人間の尊いのは金でもなく、能弁でもなければ、学問でもない。其の己を忘れて、人の爲に捧げる所の美しい態度である。

仮令、口に多くを言はずとも、心に誠あり、愛あらば、必ず人を悦ばせ、感化を与へ、支配する所の大精力はあるのである。我々は、此の尊い行為、意志に対して記念するのである。仮令、我々は外国の人と雖も、其の態度に於ての感は同一である。私共が彼の America の Washington を思ふならば、自分の親のよ一に敬慕の念が起るのである。Washington の名の記念式は此の世の終り迄、絶ゆることはないのであります。何がかく Washington を思はせるのである一かと云ふならば、夫れは彼れが同胞の爲めに自分を忘れ、名誉を思はず、私心を起さず、終り迄専心国の爲めに尽されたことであります。此の精神は実に尊いものであります。我々は今日の記念日に於て、其の態度に深く感じ、其の精神に動いて其の態度を作ることが重要であり、其の意に叶った記念式をすることが肝要であります。そして今後、桜楓会の精神を作る上に於て、此の Self-forgetfulness の態度を以て人に同情し、人の過ちを忘れる位に人に尽すのが、最も大切なことである一と考へます。

〔中表紙〕
第三学年にての御話
明治四十三年九月二十八日

明治四十三年九月二十八日
第三学年にて

英語の研究について、あなた方が自分の最上の方法と信ずる仕方では銘々 Best を尽して、其の経験の有る儘に包まず書いて下さったことは私の満足することでありませう。これに由つて大分あなた方の英語の力がわかり、又あなた方の困難がわかるのみならず、あなた方がどう云ふ態度を以て、どう云ふ風に研究しておいでになるかと云ふことを知ることが出来ました。独り英語のみならず、他の学科の勉強の仕方とも此の答案に由つて察することが出来ました。これに由つて、どう云ふことを知ることが出来たかと云ふことを申し上げますと、これに由つて成るべく分類して、あなた方のお使ひになつた詞を使ふて申すならば、あなた方も極 Frank に仰つたから、私も成る可く Frank に此の事を申した方がよいと思ふ。

〔英語の力の不足〕

余りよい報告ではないけれども、其の事実がわかつて始めて改良が出来るのであるから、申した方がよいと思ふ。併し誤解し易い点を申しておきますが、英語の力が乏しいと云つても、つまらないとして尊敬しないと云ふ訳ではない。

私が考へて居つたよりも、未だ大分程度が低かつたと言はねばならぬ。夫れからは迄私は、只抽象的に仕方がわるい、態度を改めなさいと云ふことを申しました。どうも、あなた方の英語の研究法が間違つて居る。わかつて居らぬ。或人は五時間かゝつて一頁を読んだとか、八十字引いたとか云ふことがある。忍耐は嘉すべきであるけれども、これでは勞多くして功少しと云ふ訳で、語学の力を進めると云ふ方から言へば、役に立たない。又そこで今の急務は、学問はどうするか、頭はどうして拵へるかと云ふことを知ることが大切である。

〔知識整理〕

そして、あなた方の知識が足らないと云ふことよりも、其の知識が整理して居らぬ。混沌たる有様である。つまり Digest して居らぬ。ちゃんと Organize して居ない。あなた方の真に必要な知識となつて居らぬと云ふことであります。故に、新知識を入れると云ふことよりも、整理しなければならぬ。形は出来て居るから、命を与へなければならぬ。これが急務であると思ひます。此の中に別科を卒業した人もある。年限から言へば十年した人もある。故にこれでは、どうもならぬ。初めからやりなほさねばならぬと決心なさつたお方もある様ですが、真にやり直す決心でかゝつたならば、今迄しなかつた人よりも早く進むのであるから、損にはならぬ。夫れで、皆さんが是れからやり直すと言ふ決心をなさつたら、どうであらうか。私は是れから、Concrete に申して見よと思ふ。

〔Bible〕

夫れで私は Life について申して見よと思ふ。第一に Bible が必要である。Bible とは The book と云ふことから起つて居る。人に命を与へる処の力ある、なくてはならぬ書物と云ふことである。通常 Bible と言へば、Christ 教の聖書のよーに人は思ふ。けれども私の申す意味では、決して夫れに限られたものではないのであります。

夫れに由つて、自分の全身が動くと言ふよーな深い感動を起し、強い印象を受けるよーな本で、之れを必要とするのである。深い Meditate するとか Communication をするとか云ふ上に、之れを云つても欠く可からざるものであります。

学校を出てからも、どう云ふ僻地に居りましても、私共は Bible を欠いて出来るものではない。此の間中、あなた方の読み物を尋ねましたのも、実は、そー云ふ読み物を持って居るかどうかと云ふことを知りたいからであつたのです。夫れで、其の雛形ともなる可きものを拵へて、夫れを読む仕方を導きたいと云ふことが、之れを拵へた動機であります。

も一つは、実践倫理の方でいろいろ材料を使ひますけれども、古いものではだめであるから、成るべく新しいものを用ひたい。夫れで斯う云ふものを上げておいたなら、使ふことを覚えるであらうと考へて、之れを作つたのである。無論、あなたの方で私の言ふ方法を以てすることは六ヶしいであらう。けれども、あなたの方の今迄の仕方、あなたの方の先生から教はつた仕方、どれ位読まれるかを聞いたのであります。

これは始め、売るつもりではなかつた。印刷もしよーとも思はなかつたから、広告も何もしませんでした。只丸善と教文館と警醒社とだけへ、少し出して見たのであるが、大分学問をした人、殊に外国人達に読まれて、大分 Appreciate した手紙などもよこされたのであります。一頁に八十字も引いたと云ふよーでは、夫れは無理である。六かしいから、あなたの方、自分でお読みになることはよして、私が度々材料に使ひます。

第二号に対する希望を聞きましたが、英文三年からは、此の中にある Technical terms をやさしくして貰ひたいと云ふことであるが、此の中にあることは皆、名高い人の説であるから、之れをやさしく書き直すとは意味を失うて了ふのです。詞がわからぬのではなく、思想がないのである。何時も申す様に、詞は思想で、思想は生命である。故に、命を失ふと云ふことは出来ない。故に、詞が六かしかければ思想を下げるより外はないのであります。

- ・ 思想をやさしく書きかへてほしいと思ふ者は、
- ・ Amusement の部分を多くしてもらひたいと思ふ者は、
- ・ 英語にて読者通信を出されんこと。
- ・ 外国の書籍、雑誌中の新らしき事柄及び發明、発見等の事を成る可く多く入れられたきこと。

英語が読めないと、どうしても時勢に後れると云ふことになる。夫れで、英語を読むことを続かせよーと云ふ考へもあつて、此の Life を出したのであるが、余りやさしくすると、そー云ふ目的が達せられなくなるのであります。故に、此の読み方では六かしいから、当分指導者の方から導いて貰ふことにしましよー。

・やっぱり六かしいけれども、猶ほ続いてお出しになるならば、我々の為にもなって宜しかろーと考へる人は……大多数
夫れで先づ、此の使ひ方はそーしておいて、英語の学び方について研究することが必要であると思ふ。

[英語につきて苦むこと]

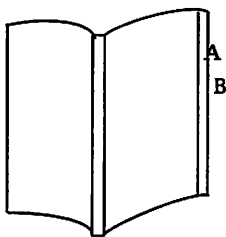
先づ、英語を読むのにあなたの苦むことは、此に書いてあるものに由れば、ほんとの意味を解すること。之れを理解力とも読書力とも言ひますが、読書の力をつけること、理解することが六かしいのである。夫れから字を引いたならば夫れを忘れないよーにする、我が物にすると云ふことが大切である。引いた字を覚えるのに、あなた方の時間を非常にとるのである。

そこで成る可く Category を拵へて、其の応用を自由すると云ふことも宜しい。けれども未だ夫れだけでは出来ないのである。夫れならばどーしたらよいかと云ふと、一番よく覚えて必要なる時に活用することの出来る様にするには、Digest する、消化することが必要である。さて Digest するには思考力がある。又思考の仕方を要するのであります。夫れが出来ないから、私は混沌たる有様であると申すのです。

之れが Organize されないから、片々たる知識となる。つまり知識の整理が出来て居ないから、役に立たないのであります。

今日は凡て、此の社会が実業とか商業とか国家とか云ふ処のものは、其の最も高尚なる位地に達したものと居る。即ち文明と称するものは、ちゃんと統一せられて秩序が立つて居るもので、夫れで生命があるのであります。我々の知識と云ふものも、ちゃんと秩序が立たねばならぬ。夫れを科学と言ふ。故に、我々の頭も科学の法則に従って秩序が立ち、整頓せられねばならぬ。所が、夫れが出来て居ないのである。

先づ私は、此に一つの新しい字引を拵へると云ふことである。斯う云ふ Card system の様なものも出来て居るのであるが、之れに由って、ちゃんと自分の知識を整理すると云ふことが必要であります。



例へば Knowledge と云ふ字を引くと、斯う云ふ字が出る。之れは、あなた方が知識と云ふ意味でお引きになると是迄度々出た字であるけれども、其の他にどー云ふ意味があるかと云ふことをも覚えるには、整理しなければならぬ。知識とは概念になったものである。之れを簡短に縮めたものが語である。故に語は概念であるが、其の概念を最も簡短に縮めたものが Category である。故に其の語を Category にすること

が大切であります。そこで知ると云ふ詞を一つの働の種類にする。其の働にいろいろ種類があるから、夫れを分類して Systematic knowledge にするのである。知るとは私共が事実を知るのも知識であり、其の関係、法則を知ること、いろいろある。

夫れであるから、其の知ると云ふ働きの Group に入るものは皆入れておくのであります。

其の関係に二つある。一つは同意義のものであり、一つは其の裏がある。同意義の字と云ふことを英語では Synonymous と言ひ、反対の意味の字と云ふことを Antonymous と言ふ。そして詞と詞の間には関係がある。丁度家を建てるにも、煉瓦と煉瓦との間を結び付ける処のセメントと云ふものがある。夫れと同じよーに、Synonymous に必要なものを Preposition、Conjunction とするのである。

[知識の二種類]

今、Knowledge と云ふことの Synonymous を挙げて見ましょー。あなた方はどれだけ知って居らるゝであろーか。私共の凡ての知識を分類すると二種類がある。つまり、一つは具体的知識(或は直覚の知識)と、夫れから抽象した処の知識とで、言ひかへれば Art の知識と学理の知識とであります。つまり五官で実感してわかるものと、Spiritual のものとの二つである。其の一つの直感的知識を何と言ひますか。Knowledge に関係する Synonymous を挙げて御覧。

直覚になるもの		反対のもの	
Intuitional knowledge		Intellectual knowledge	
Imaginative	//	Logical	//
Individual	//	Universal	//
Image	//	Concept	//
Expression	//	Theory	//

此に二つの知識がある。Intuition と云ふのは、直感的である。故に、Concrete で Picture である。之れがあれば、必ず Express するので、此の実感があつて始めて、其処に Intellectual knowledge と云ふものが出来て来る。故に我々の直感と云ふものは未成品であるが、夫れから Intellectual knowledge が出来て来るから、どーしても此の二つの働きがなければならぬ。殊に語学には、此の二つの働きがなければ発達しないのである。故に最初に於て、此の直感と云ふものを唱導しました。此の二つが一緒にならぬから語学の力が進まぬと言ひました。

第二に、分解的に切り離したものを汲々として学ぶから力にならぬ。故に、ちゃんと一つの身体になって、生命あるものとして研究しなければならぬ。そーかと云つて字引を用ひないと云ふことではない。字引を用ふるとか文典を学ぶとか云ふことは、分解することである。故に、之れを Analysis と言ふ。片方を Symphysis と言ふ。

夫れで私共が語学をするには、先づ総合して後、分解して始めて概念が出来るのである。

1. Information	事実を知る
2. Learning	も——つ深い智
3. Erudition	も——つ高い智
4. Lore	時代、社会に関する智
5. Perception	五官が認識する知識
6. Apprehension	道理の知識
7. Comprehension	理解する
8. Cognition	Object を関係に於て認める知識
9. Recognition	今迄知って居たことを、あゝそであるとする知識
10. Cognizance	公に承認する知識
11. Acknowledge	承認に一致する
12. Experience	Life に直接に来る知識
13. Science	組織だった知識
14. Wisdom	Practical k. を云ふ

是れ等は皆同じ部類に入るのであるが、皆違ふのである。故に、之れがわかると文章の真意がわかるのみならず、其の中の味がわかるのであります。斯う云ふ風に、皆少しづつの違ひはある。けれども夫れは関係を持って出来たものであるから、一つの Category としておいて、ど一云ふ特色があるかと云ふことを覚えておくと、ほんとの意味がわかるのであります。こ一云ふ意味を覚えると Digest すると云ふこともわかつて来るのであります。物のよくわかる人、よく覚えて居る、大変文章が上手であると云ふ人は要点をとる人である。之れは皆 Analysis である。

Analysis	解剖、分解
Digest	消化すること
Abstract	抽象すること
Summary	結論、要領を云ふこと
Abridgment	大切な部分を抽出す
Compendium	subject を短縮す
Synopsis	計画及図を縮図すること

斯う云ふよ一な Association をつけて覚えることを Digest すると言ひ、斯う云ふ知識の働きを Intuitive knowledge、或は Art、又は実感と言ふのである。

是れから、字引きの引き方をおかへになることが必要である。Webster でも Standard でも Century でもよいが、Synonymous と Antonymous とは、どれでもついて居る。

そ一云ふ字引きを使ふと、英語で考へるよ一になる。故に各教室、或は各寮舎に Standard か Webster かの字引きを買ふことが誠に必要である。之れは二十五円であるけれども、二十五人で買へば一円づつですみましょ一。けれども、こ一云ふ字引きの備へてあることは一円だけの価値ではないのです。

此の間、別科の先生には頼んでおきましたが、夫れは、一つの詞を教ふる時に同意語及び反対の詞を、なる可く教へてもらふことです。夫れで此の他にもいろいろ仕方はあるけれども、今日は先づ字引きの使ひ方、及び選び方を申したのであります。

[中表紙]
第一学年にての御話
明治四十三年十月一日

明治四十三年十月一日
第一学年にて

[Life の答案について]

先日の Life の宿題について、英文一年、文科一年、家政一年、英文予科、普通予科迄、力の能ふ限り真面目に経験して、それを腹蔵なく書き出されたる事は感謝する所である。是により種々なる事が判然して、将来の方針について研究する事が出来る。

色々これにより発見したる事があるが、その中、我国の普通教育を終り高等教育にうつる際、心理状態に如何なる変化があるか、その力は如何なるものか、その毎日受けつゝある事が如何に消化しつゝあるかを調べよ一と思ひ、その材料に用ふる為、又この点につき書物を読みし経験、及び Life が如何に読まれたるか。Life は三年生も猶困難を感ずる。夫れは主に卒業生の為に作ったのみならず、又実践倫理の材料にかはんとして編んだからである。

只今大学部に属する最下級の予科には如何かと、調べた次第である。

実はこれを問答にして多数の答へを集めたいと思ふが、力の懸隔があり、又時間の許す所でないから、先づ英文予科から一つ、普通予科から二つ程選し、大体の所を報告しよ一。実は経験の分類が大切であるが、これは困難である。英文予科の一人の経験を参考としてあげよ一。

これを如何に読みしか。

始めに一通り読みしも、知らざる字あり。故に英語辞典により調べ、後幾度も読み、意を解せり。

かよ一な事について書いた人も、他に沢山あった。

詩については、

詩は幾度も読む中に自然に興味を覚え、後に詩は殆んど暗記するに至つて、実に愉快であつた。それで或物を得た。

所々誤りはあるが、大体はとれて居る様である。

大事と小事……これは割合に安い詩である。

だから読まれた人も多いであろ一。殊にこの中にはよき教訓があるから、成るべく読まれたらばよかろ一。

普通予科の一人の報告は、

一句をノートに記し、辞書によりて読む。二句も試みたが、前句と後句との連絡がつかぬ為到大変困つたが、確かに何かの Impression を受けた。

[Genius]

一番妹の感じが、かくの如く発達したるを見て、私は一年又は予科全体の答案を満足して読んだ。これは何故か。今こゝに出て居る答へは我国女子中に潜める Genius が表はれて居る。かくの如き感じの起るは、人間の人間たる本性である。私は前から女子には信仰を有して居る。然るに、私も時々女

子に対しては嘆声をもらす。あなた方も、かくの如き事がある一。あなた方が将来に於て何か大事を成し遂げるのを私は望む。Geniusは言ふ迄もなく、国家に対し又自身に対し、立派な人格を造るべきこのGeniusは、あなた方が持つて居る。これが只今こゝに於て、あなた方の心に兆して居る。

而して大学教育は共に大発展を促さんとし、我々もこれを成功させんとして日夜心を勞して居るのである。故に実力なしとか、修養の実のあがらない道理なく、この答案により、こゝに大なる意志を表はされん事を発見したのである。然るに生徒が卒業と共に、かくの如く望みし力は中途にて挫折し、永続しないのは何故か。これは大なる問題である。然し、これは余り六つかしい問題ではなく、今日にては、その原因すら判然して居るのである。

今日希望する事は、このGeniusの兆しを発達させてもらひたい。妨げを受けず、障害物に打ち勝って行く事は、進歩の上に大切な事である。

[意志教育の必要]

斯様に深く偉大なる力を我々に与へられて居る事は事実で、人間は不思議に偉大なる力を表はし得るもので、しかもこれには男女の区別がない。故に女子は決して男子より劣るべき事はないのである。

然るに此後、女子がこの力を発展し得るや否やは、実に大問題である。如何となれば、我国社会の境遇上、又我等が内部から受ける所の沢山の妨げがあって、これを実際に働かせるのは困難な事である。故に、こゝに於て意志の教育が最も必要である。殊に我国婦人の欠点は意志の力で、脳力の乏しき、英語の力の少なき事は皆帰する所、この一点である。即ち、熱心の源が今一つ発達しない。故に、こゝに於ける根本の改革は意志の教育で、これを行はざれば困難に処して事を行ふことが出来ないのである。

[人類的自殺]

然るに、今日の教育は意志の発達を妨害して居る。故に、今日の世界の教育の状態を評して、社会学者のグロース氏が人類的自殺と称へ初め、米国のルーズベルト氏が演説に用ひてより大評判となった。

[心靈的殺人罪]

又、デンマークの婦人、テレンキー氏が心靈的殺人罪といつて居る。

而して、この両殺人罪は世界の今日の教育上に行はれ、即ち国家に対し、人類に対し、最も大切なるものが皆学校に於て殺されつゝあるのである。

それ故に、我国今日の女子教育の大欠点なる暗記的教育は、日本の人類のGeniusを殺す大なる罪悪である。今の世は自由を尚び、奴隷を開放して、人の魂を開放しない。即ちGeniusの発達を許さないのである。故に、我国婦人は殊にこれに囚はれ安く、呻吟し悶えたる結果は真の女徳は行はれない。所謂弱い女となるのである。

又、教育大家フレーベル氏は、人類が子供を虐待して真の教育法を行はないのを嘆じ、その反省を促さんとして……吾人をして子供の為に生活せしめよ……と言った。然れど

も、今日に於ては……子供をして自由に活動する事を得しめよ……と云ふ事が必要で、実に今日は、社会や学校が自動を許さないのである。今日は何を勉強しても暗記的で、自由を束縛せられて萎縮してしまうのである。

ヨーロッパの自由の国においてすら、かくの如く叫んで居る今日、況んや我国に於てをやである。

殊に我国学生がこの重荷を負はされつゝある今日、この束縛よりののがれざれば、真にGeniusを発展させる事は不可能である。

故に、意志教育の第一は、心の自由を得なければならぬ。今日の教育はGeniusの殺傷で、教育者はこれを改め、被教育者はこれを脱しなければならぬ。

あなた方にこのGenius発展の兆しあるは私は愉快であるが、又直ちに束縛せらるゝ事を思つて、私は悲しみに堪へぬ。実に本大学創立以来、声を噎らして叫んで居るにもかゝらず、これが出来ないのは実に残念の至りである。

故に、あなた方がこの兆しを発展せしむる事に集中すれば、英語の力もつき、実力もつくので、成功は疑ひなしである。

実はLifeが種々なる材料を有するのこゝに注目したからで、このLife全体の中には一貫した目的を有して居る。而して、この中には意志の自由を得る仕方とか、又これに対する食物も備へてある筈だから、充分取つてもらひたい。Lifeの中のNational moralityの所のMany adaptationsの一句を、三年生は百遍読んで意味を解し得なかつた。普通予科の人はWill and meditationの一筋を、辞書によって殆んど解し得たとの事である。

[我々を殺すものは我々の中にあり]

我々にはMany adaptationsを与へられて居る。我々が意志の自由を得ると云ふことは、即ち善と思へばこれを断行する。これを妨ぐるものは社会の境遇であるから、自由意志は境遇にも大に心を用ひなければならぬが、最も注意すべきは、我々のGeniusを壊すべきものは我々の中にある、この一事である。即ち感情の不調和、心配、迷想などである。

あなた方を殺すものは、あなた方の中にある。これを除かなければ真の学問は出来ない。如何に立派なる天才でも発揮する事は出来ない。

次は身体の不健康で、眠いとか、勞れたとか云ふのは、これ又我々の精神力を殺害する力を有して居るのである。我身の中より起る障害物を除かなければ、只徒に記憶しても真の実力はつかない。これが婦人の進歩を妨げる一大原因である。
[清潔]

而して、こゝに大切な事は第一……純潔で、声の純潔は意志の自由に関係する事で、声を純潔にするには身体の中の血を清潔にすることが必要である。これは只、滋養物を食し、又働くのみで得べきものでない。

[私の経験]

私は自分の健康のすぐれない所から、血を清潔にしなければならぬ事を悟つた。……これは講義録に書いた筈である。先づ全身にほろしが出る。足が腫れる。脳細胞の新陳代謝が出来ない為に眠りを催す。これ皆不消化が原因である

から、消化を助け、運動をし、熟睡をしなければならぬ。

故に、あなた方は、

- 1………血を純潔にし、
- 2………血を強くし、
- 3………血を豊富にして、先づ身体を健康にし、

今一つ注意すべき事は、建設作用を安眠中にして、血の清潔を保たなければならぬ。

即ち Life の中の意志と健康は、この必要を認めて書いたもので、15page にある筈である。

[明日の用意]

而して先づ意志を強くするには目的を定め、これを達するには寝る時に明日の用意をするのが大切である。即ち今日から明日の思想、感情を統一し、よき暗示を心に与へ、安心して眠らなければならぬ。若しも悪しき事を考へて寝た時には悪夢に襲はれ、身体を害し、意志をも害するのである。即ち血を悪くするのである。

我々が偉人を見るに、彼等は皆意志の自由を得る事に力めると共に、彼等自身を統一する事に力めて居る。これ即ち血を清潔にするのである。

次は、我々の感情、観念を清くし、自由を得ねばならぬ。この方法は、

- 1………Meditation
- 2………Action である。

そしてこの初めに、言葉、即ち感じをまとめる事が必要で、これは英語研究も意志の教育も同一で、これは健康を得られぬと同様に意志が欠乏して居るのである。意志の開放に必要な事は、我々は Science を知らなければならぬ。あなた方の勉強の方法には勞して効なき事を見る事がある。ロングフェロー、テニソンの詩集を讀む人で、今日の思想の入ったこの Life を讀み得ないものがある。その故は、今日の総ての方法は意志の自由を得る方法でないからである。たとひ Life は困難であるとも、Genius の兆しある者は非常に理解し易いのである。故にあなた方の態度が必要である。而して食欲のない者が食物を食して、その美味を感じないのと同様に、意志に要求がなければ、これを讀むとも其甲斐はないのである。この Life の中には、この食物を沢山に蓄へてあるから、己の心の眞の要求の叫びを以て詭まれたいのである。故にあなた方は、こゝに於て根本より態度をあらため、眞の勉強をし、決して心の殺傷罪にかゝってはならぬ。而して Synonymous、Antonymous、Preposition の三語の意を指導者よりきき、Life の理解に力めなければならぬ。

[中表紙]

第三学年にての御話
明治四十三年十月五日

明治四十三年十月五日

二、三学年にて

此の頃、私の音声が少し前よりもよくなりました。併し医者と言ふには、猶暫らく治療せんと、慢性であるから健康の状態に復することが六かしいと云ふことでありますから、成る可く詞を省きます。之れが又、皆さんの為めには自動的になさることになって、双方共に必要なことである。故に、今日も私は申したいことが沢山ありますが、出来るだけ私の言ふ所をあなた方で発表して戴きたい。

過去を考へれば、九年半ばかり声をからしまして、何日も講義の後では少し咽喉を苦める位に、同じ根本の考へをあなた方に訴へるよ一に、又導くよ一に続けて来たのであります。然るに、も一つ其の心意が徹底しないよ一に感ずるのであります。其の訳は、も一つ我々の主張する所が行はれ難い、其の我々の期待して居る処の結果が充分に顯はれにくいと云ふよ一に感じられるのである。是れ迄、凡ての能ふだけの手段は尽して見た。又、凡ての方面から説き明かしても見た。時には家政学を中心とし、時には文学を中心とし、時には教育学部を起しても見、時には英文科を中心としても見たのである。時には宗教を中心としても見、時には実力と云ふことを説いても見、時には教育と云ふことから改めよ一ともして見ました。けれどもやはり形式に流れて、冷たい知識をつめ込むこととなり、私共がやろ一としたことが負けたことがある。夫れにはいろいろ原因があるけれども、私は、ど一しても此の目的を達するには、あなた方自身が進まねばならぬ。自分でお達しにならねばならぬと考へる。けれども、ど一も一つの命となる所迄行きかねて居る。之れはど一云ふ訳であるか。お互に考究しなければならぬ問題であると思ふ。あなた方も一生懸命其処に達しよ一と勉めて居らるゝにも拘らず、ど一も力が得られない。夫れはど一云ふ原因によると、あなた方はお考へでしよ一か。

ど一も思ふよ一に進まれないと感じて居る者は………全体 [千里眼]

此の頃、千里眼と云ふことが新聞にもよく出て居る。之れは我が国では珍らしいよ一に思ふが、昔から外国にも我が国にもあることであるから、事實はさほど珍らしいとする程のことではないが、只説明が出来ないのである。

生理学上のものであろ一か。心理学上のものであろ一か。何れであろ一か。此の前申した Subconsciousness と云ふものもある。凡てのものに通じて最も微妙なる働きをするものは Ether であるが、夫れよりも一層希薄なるものを Astral light と言ふ。夫れを感じずるものと、感じないものとありますが、此の力の発達したものは不思議なる力が出るのである。然るに、此の統覚を作るには非常なる働きを要するのである。之れをすると非常に疲労するのであります。即ち Concentrate

するからであります。

我々が力を顕はし、其の Genius を発揮しよとするには、やはり此の Concentrate が必要なのであります。之れは千里眼と其の意味、其の精神はかはらないのである。

私は此の頃、実に驚くのである。常識がない。判断が出来ない。Insight が見えない。どーして是れだけのことがわからないであろ一か。之は余程集中しなければわからぬのである。之れが見えるよ一にならねば、ほんとの意義はわかって居ないのである。昔から孔子も仰やった。心不在焉視而不見と。論語読みの論語知らずと云ふことがある。Christ 教にも同じ様なことがあります。万卷の書物を読んだとて、わかるものではない。も一つは精神力である。どーしても、ほんとの生きた Spiritual life と云ふものが現れて来ないのである。ほんとの意志の力が出来ない。統覚が出来ない。ほんとの統覚、ほんとの Enthusiasm、ほんとの無私の境涯、ほんとの自分に自分を忘れた大きな我れと云ふものが出来て居ないと思ふ。私が Note を見ても、どーも考へが足りない。ほんとの一に考へてない。ほんとの一に目が明く迄に行かない。之れはどー云ふ訳であろ一か。

一寸聞きますが、其処に到る一として勉めて見たものは手を挙げて御覧。

其処に達したと云ふ経験のあるものは……なし

私も九年間、咽喉をたぐらして叫びました。卒業生も毎年毎年決心をして出るけれども、ほんとの一に其処に達した者は皆無とは言はないが、甚だ乏しいのである。そこで私は Frank に申しますが、殆んど熟しよ一としては挫かるゝのは、Self-suggestion を受け易い。其の運動を Check せらるゝのである。あなた方女性は非常に感じ易い性を持って居る。之れは解剖して見ねばならぬ。是れ迄、其の運動を Check せられた原因は種々あるのである。之れは余程よく考へて見ねばならぬ。

仮令ば宗教に行かうとすると、之れは雷同ある、不可能であると言われる。其処でほんとの力が出ないで、中途に於て挫折して丁うのである。もっと實際をして貰ねばならぬ。理想を築かうとしてもだめである。女の心に哲学などのわかるものではない。もっと修身とか云ふよ一な実践的なことからせねばならぬ、と言はるゝである。

今日の教育は天才、魂と云ふものゝ殺人罪をして居ると云ふ。之れは半ば事実である。夫れでほんとの教育をするには人がいる。故に、活きた人を作ろ一と思つて骨を折つて居るけれども、教育と云へば資格がなければならぬと云ふよ一に心が向くのである。そして只だ暗記的の学問になってしまうのである。

[婦人は暗示を受け易し]

今後の世界に我が国が順応して行くには、どーしても停滞ではいけない。進歩しなければならぬ。さあ行かう、と斯う出かけると、まあ、待つて下さい。おちついて行けばよいではないか、と云ふ風で、今日の学校は養老院である。けれども我々の学校はそ一ではない。我々は青年である。何処迄も進撃しなければならぬ。そ一すると、そんなに云つても出来るものではないと暗示を受ける。

又、実力をつけよ一と云ふことでも、読書力がない。故に外国語の一つ、二つ位は是非しなければならぬと云つて、幾度かしかけて見る。けれども、そ一云ふ實際のことよりも理想的のこをしなければならぬと云ふ様になる。研究の仕方でも又、信仰の事、教育の事、自動的の運動の事、いろいろ仕かけましたけれども、あなた方が不知不識の間に暗示を受け易い。之れが、私はどーしても其処に到られない原因ではないかと思ふ。挫かれると云ふこと、誤解と云ふ詞を度々使ひました。之れが、も一つ忍耐しない、も一つ事を仕遂げないと云ふ原因ではないかと思ふ。私は、どーしても日本の国を進めるには教育から改めねばならぬ。教育は学生の態度から改めて行くより外はないと信じて居る。けれども、ど一も水をさゝれ易いと思ふことは、其の効果が顕はれないことである。故に改めて聞くのでありますが、婦人はど一も、そ一云ふ暗示を受け易い。水をさゝれ易いと考へるものは……全体

一年中で一番よい時機である。又一方から言へば、危機とも言ふべき時である。故に此の時に當つて、大に態度を改めて仕事にとりかゝらねばならぬと思ふ。夫れから此の間、うちの報告を聞きますと、八回生は十年祭を迎へるに當つて大に責任を感じて、何かを捧げねばならぬと云ふ考へを持って居らるゝそ一である。我々は此の時に當つて、心を一つにして我々の仕事に着手しなければならぬ。夫れはいろいろありましょ一が、何に集中することが大切でありましょ一か……

1. 精神的の方面で、直ぐとは世間には見えぬかも知れぬけれども、日本の婦人たる可き人格を養ひ、力を作らねばならぬと云ふことすな。婦人は力がないと云ふけれども、私は出来ると思ふ。其の出し所がわかれば、大に顕れると思ふ。そして校風も益々立派になると云ふこと。
2. 物質的の方面で、多少に拘らず、何とか力を合せて資金を捧げよ一と云ふ考へであるかと思ふ。

信仰があれば出来ぬと云ふことはない。私は之れを信ずると共に、斯う云ふことはあなた方にとっては非常なる大任である。故に非常なる集中をしなければ出来るものではないのです。斯う云ふ十年祭を迎へると云ふ大切な時、殊に秋と云ふ一番よい時機に於て、運動会、参考館、講演会と云ふよ一なものをするのは、ど一であろ一か。平年は確によいことであるが、夫れよりも今年はその云ふことをせず、集中して深く入つた方がよいとお考へでしよ一か。ど一でしよ一。又大学部はそ一としても女学校もあり、小学校も幼稚園もあることであるから、大に力を入れてした方がよいとお考へでしよ一か。私は成る可く、あなた方の判断力を養はせたい。之れは目に見えぬものであるけれども、此に一つ力がある。其の時の Need が見えねばならぬ。之れを Insight と言ふ。此の時の Need の見える人ならば、人の心がよめるのみならず自分の見える人であるのです。

- 運動会と講演会、及び参考館などの一緒になった運動会をしたがよいと思ふ者は………大多数
- 今年はよしたがよいと思ふ人は………四、五人位
- どちらとも考へのつかぬ人は………1/3位

兎も角も之れは早く確定して、するならばする、よくする
ときめねばならぬ問題であります。

夫れから期日のことですが、十月は雨が多い。夫れでど
も天気が定まりにくいし、十一月になると大演習で楽隊など
の差支へがあるかも知れぬと云ふことである。そこで中を取
って、今月の三十日位にしたらよかろーと考へる者は……
…大多数

私は今月下旬から出かねばならぬ。今度は募集であるが、
之れは母校の爲めであつて、図書館をよくするにも設備をよく
するにも、やはり Better adaptation と云ふことをせねば
ならぬ。あなた方がよくして居ると思へば、私も其の方に集
中することが出来る。そこでどーか皆さん、内願の憂ひのな
いよーに、自動的によく勉強して貰ひたいと思ひます。

[読書の効]

も一つは、皆さんが自分で物をする。どー云ふ山奥へ入
つても病床にあつても、決して力を失はないのみならず、世
に後れないで積極的に進んで行くにはどーすればよいであろ
ーか。私共は田舎へ行って居つても、病氣で軽井沢へ行って
居つても、少しも寂寥を感じないで多くの友に面会の出来る
のは読書であると思ふ。あなた方はそー感じないでありまし
よーか。

・此の書物だけは、どーしても離すことは出来ないと思ふ物
を持って居る人は……

世界の思想は日々夜々に進んで居ります。之れに触れるの
に訳書等待てば遅れるから原書の儘で味ふには、どーしても
そー云ふ書物が読めるよーにならねばならぬ。此の間、私の
申した大体の主意はとれて、英語に限らず其他の学問もそ
ー云ふ風に勉強して居ると言はれる方は……少数

・どーでありましょーか。学問にしても修養にしても、ど
ーも語学の力が不充分であると思ふものは……

・英語がわからん為に、とれにくかつたと思ふ者は……

Synonymous	⎧	Intuition	知覚に関係した直接のはたらき
		Logical	
		Instinct	感情と行為とに関係した直接の はたらき

[成功の道は一也]

精力集中が出来なければ、英語も出来ぬ。他の学問も出来
ないのである。修養すると云ふことも研究すると云ふことも、
力の出し処、成功の道は一つであるのです。私は夫れを悟ら
せよーと思つて、例に引いて申したのであります。夫れで自
動的にするには、自分で力を出すことを覚えねばならぬ。又
其の力の出し方、及び自分で自分の養ひとなるものを取り得
ることを心得ねばならぬ。無論私は此処で英語を教へるの
ではありませんが、自動的態度を養はせる為、幾度之れを申
したかも知れぬ。英語をするにしても、Match の箱位は読め
る、Reader の第一の質問位は答へることが出来るから、知ら
ないよりはましであると思ふ位の考へでなされるなら別の事
であるが、もう少し役に立つよーに自分のものになる迄にする
には、どーしても今迄の様ではだめである。

夫れで、も一度尋ねますが、自動的態度を作るにはど
ーすればよいでしよーか。

Christ 教の人は Bible を読もうし、仏教の人は経文を読む
であろー。其の他儒教には漢学が必要であろー。そこで第一
着に、そー云ふ必要な書物を読んで語学の力から養つて行か
うと思ふ人は……大多数

夫れが出来得る。直ちに始めて見よーと思ふ人は……1/3 位

夫れでは、早く今残つて居る問題をおきめになつて、きめ
た以上は全力を注いですることにし、も一つは、今のあな
たの根本の修養、根本の学問と云ふことについては、成る可
く自動的に自ら考へ、自ら読書する、工夫すると云ふ風にし
て、もう少し有効に英語も学ぶ。宗教も、も少し深く入ると
云ふことが大切でありますから、全力を尽して働くと思ふこ
とに致したい。そして課業の勉強をすると云ふことも、家事
の手伝ひをすると云ふことも、亦論文を書くと思ふことも、
総てが統一せられて始めて大なる力となるであろーと思ひま
す。どーか、其の経験の出来ることを希望致すのであります。

終りにも一つ聞きますが、あなた方がお書きになつたも
のを見まして、どーもまだ考へが足りない、思ふ処迄行かない
と思ふ感じが致しますが、之れはまだ考へが足りないの
でしよーか。又考へることは充分考へても、夫れを筆に現すこ
とが出来ないのでしよーか。又は時間が足りないでしよーか。

・時間が足りないと思ふ者は……

・筆に現すことが下手である、又不慣れである為、心なら
ずも未だ尽して居りませんと思ふ者は……

・黙思とか精神集中の足りない為めと思ふ者は……大多数
夫れでは、そー云ふ事をもよくお勉めになることを希望致
します。

[中表紙]

第一学年にての御話
明治四十三年十月八日

明治四十三年十月八日

第一学年にて

前週の土曜日に話した三語、即ち Synonymous と Antonymous、
Preposition をよく調べて、其上に新しき言葉を覚えるには
如何なる方法がよろしいか。これを大抵解し得たものは……
……少数

Will and Meditation を解し得たものは……少数

常識で言ふ意志の意義は最早知つて居られるであらう。こ
の意志教育の大切なる事は此前、十分に説明する事が出来な
かつたが、此後、意志教育をするについて欠くべからざる条
件は何か。即ち、思考…Meditation と、行為…Action である。

この働きの今の人に欠けたる事は此間も話したが、人間の
根本の力を出すには、この二つに就いてよく考へて、知情意
を円満に発達させねばならぬ。而して、これを考へる道

具は言葉である。これを自分のものとして、自由によく使ひ得る様にならねばならぬ。これに就いては前の三語、即ち Synonymous、Antonymous と今一つ Preposition とを、よく注意して消化せねばならぬ。

[同意義語と反意義語]

Synonymous は同意義語、Antonymous は反意義語、Preposition は前置詞又は関係語とも言ふのである。即ち我々が知識を構成するは新しき関係をつける事で、これには同意義語が必要で、又反意義語もよく知らねばならぬ。

意義と意義とが関係して真理を発見し得るので、新知識を学ぶのは國語、漢文、英語共に同じ方法である。先づ英語を勉強するには、一番に心の働きに注意せねば必ず鸚鵡的になるのである。それ故に一年又は予科の人々は、この大切な事に注意してもらひたい。而して我々の心の働き、即ち意志をよく知るにはこれを分類し、同意義の語を作る必要があるのである。

[意志と同意義の語]

意志と同意義の語は……精神我(高尚なるもの)…欲望…良心(これは少し広がる)…選択…命令…希望(欲望とよく似て居る)…忍耐(意志の状態を云ふ)…克己…自我(少し広い)などである。

[意志の力]

意志とは我々の行為、人格の中の如何なる部分をなすものか。心理学上で言へば、自我意識の根本になるものは何か。若しも我々の自我から意志をとり去るか、又は我々の意志が弱く微なるものか、又病的となった時は如何に、即ち我々は行為を誤り、又人格をも失ふのである。

人間は活動、奮闘するもので、この原動力は即ち意志である。即ち強い人、偉大なる人を成すものは意志である。意志は総ての力の根本であるが、智も亦、同一である。人間が動く、忍耐する、目的を立てるのは皆、意志の力で、人間の病氣及び墮落などは皆、意志が弱いから起るのである。故に、意志は人間を造り、社会を造るのである。

而して、人間の動く種類は下等から高等迄あって、皆意志の働きて、この要求は意志と同じきものより出るのである。意志を表はすには色々な言葉がある。

最下級は身体で、食す、飲むなどは身体の動作で、この根本は理由も何ものなき所の衝動である。

而して、今少し衝動が統一せられ、やゝ高き目的を有するのを欲望と言ふのである。又動機とも言ふ。而して、我々がこの動機通りに行ふには多くの矛盾を生ずるから、これをよく考へて、計り、行ふのが意志である。これは自我のみならず団体、即ち社会、國家を対象とする時に至れば大なる意志となり、今一つ大きくなれば即ち宇宙的意志となる。而して、これ迄には種々階級があり、名があるが、この総てを統一して Will と言ふのである。

衝動が今少し高尚になれば性質、傾向となり、これがその場合に從つて働くのを選択と言ふ。又、決心、決意と言ふ。この傾きを決定するのが欲望となり、又この上が興味となる。而して、理想に達せんとする意志を向上と言ふ。

衝動の中には愛と憎とがある。これは人間の傾きで、即ち本性である。傾きを言ふ語とその場合を言ふ語とは、共に意志の働きてである。

意志の傾向には幾種もあつて、相互に喧嘩をする。これが即ち煩悶の状態で、所謂迷つて居るのである。

只行ひたいと云ふ意志の働いたのみでは不可能である。故にこゝに於て、その傾向、性質を整理し、有機的に統一せられたる大なる、完全なる意志としなければならぬ。こゝに至るには、その決心、行為を定めるにあたり、即ち知の働きを要するのである。この知の働きの深きを指して冥想と言ふ。思考とも言ふ。Meditation が出来ねば衝動を統一する事も出来ない。煩悶を破る事も出来ない。Meditation 及び Thinking は Ideal を構成するに働きを以て居る。而して、Thinking 一つについても沢山なる同意義の語がある。これにもより関係をつけて蓄へて置かなければならぬ。

[冥想]

思考には冥想、沈思、反省、熟考などがある。冥想及び沈思は独り幽静なる所に居て、辺りの物を見ず、音を聞かず、無我の状態に入つて、而して深く考へるのである。而して、これには冥想の目的があるのである。

[反省]

又、反省は主に自身の衝動と衝動、動機と動機との関係を考へる。要するに自己の中にある自己の経験について、過去の事、又心の状態を考へるのである。

[小なる Self]

即ち、我々の Self の中には感情や意志がある。故に、種々の衝動、種々の傾き、種々の煩悶がある。これを如何にすれば宜しきを得られるかを過去の経験からよく考へて計るのである。

[大なる Self]

又此外に大なる Self がある。例せば、今年の運動会には参考館を作るべきか否や、これが社会の為に如何なる影響があるか、世の進歩、発展を促すには如何なる方法が宜しきか、などと考へる時には、前よりも大なる Self で動機を考へねばならぬ。即ちこれは、大なる社会我を実現する為に考へるのである。この上の大なるものを God、大我、或は宇宙我と言ひ、即ち大なる調和、統一を造り、大なる我に達せんと考へ、又は真の安心立命を得んと考へる。これが Meditation…冥想である。

反省、沈思、熟考などは皆自分独りで考へるので、相談とは大勢の人と共に計り考へるのである。

討論とは、反対説が互に信ずる考へを勝たせんとして戦はせるのである。

[思考の目的]

扱て、前に言ひかけた所の思考の目的は何か。

一番の終局の目的は行ふ、又は成ると云ふ事で、即ち自己の人格、品性を造る為に行ふと云ふ事であるが、こゝに至る迄に今一つ大なる目的は、我々の理想、観念、信仰、主義、計画を作る事である。

これが即ち Ideal と Sentiment とを作る為で、思想の働きて

により作り出されたるものは確信、理想、目的である。これがなければ意志を遂げ行ふ事は出来ない。

信仰、概念、意匠、想像、理想、像、印象、判断、模型、主義、型、計画、目的、思想、思慮などは皆、Ideal の中に入るのである。

Opinion は知的判断から出たのである。

Sentiment は意的の上に情の加はったものである。而して Sentiment、Opinion、Ideal を作る為に思考をする。信仰は Meditation より出る。これが命あり、熱ある真の要求より出たものが組織せられたもので、これがなければ真の知識は得られない。この生きたる知識を入れなければ何の効もないのである。故に、Life を読むとも何の効もないのである。

[Action]

次は Action である。

あなた方は只読んで知るのみならず、真の修養の為につくさねばならない。故に、Action をよく研究してもらひたい。今日、真の実力のつかないのは、一般の学生が心靈的殺人罪に犯されて居るからである。然し、これは学生自身が自殺して居るのかも知れない。これを脱しなれば尊き Genius は破壊せられて、将来浮ぶ事の出来ない最後の墮落に陥つてしまふのである。これは何に原因するか、よく考へてもらひたい。これには深い意味がある。これがあなた方に発見し得られたならば、あなた方の希望が実現して、真の経験が出来るのである。而して、これは順序を経なければならぬから、確かなる目的をたて、これに達せん事を自分で考へて、この問題の為に尽してもらひたい。

あなた方には確かに今、この力が出かけつゝある事を私は信ずるのである。故に根本を開いて、決して挫かぬ様な、あなた方の力を出し得る人になるには、先づ第一に、小なる我に縛られつゝあるこの罫みを敗るに、即ち、Selfish で所謂 Genius を發揮するのである。而して、これはやゝもすると利己的になるが、これは大なる誤りである。大なる社会我を造る事を考へ、これを理想的に發揮しなければならない。あなた方の将来の為であるから、忙しいではあるが、来週の日曜日には前の三語、即ち Synonymous、Antonymous、Preposition をよく自分で研究し、又指導者よりも聞き、Meditation の所をよく研究して来てもらひたい。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十三年十月十二日

明治四十三年十月十二日
第二、三学年にて

此の前に、我々が十年間日夜努力して達しよと思ふ目的に未だ到達し能はないが、是れは如何なる原因に由ることであるかと思ふ問題を出しまして、其の一、二の原因を少し

考へて見たのであります。其の一は外から来る原因であつて、之れを極強い詞で Soul murder と言ふ。我々の外に、我々の心靈を殺害する処の殺人罪を遂行するものと云ふことを申したのであります。も一つは我々の内から迫害するもの、我々の内から自殺すること、言はゞ Soul suicide とでも申しましょか、精神的自殺と云ふことを申したのであります。之れはもう少し深く我々が反省して見まして、ど一か其の二原因を自覚して、ど一か此の自分の態度を改めるよに致したいと云ふ考へであります。

夫れについて猶ほ、もう少し自分のことにあてはめて見る、又丁度目下の状況に照らして見て、もう少し具体的に言つて見ると猶ほよくわかるのであります。夫れであなた方がど一か考へになつたか。あなた方の一週間の経験なり考へなりを聞いて見ると皆の参考になり、活きた経験を得ることと思ひますから、あるならば成る可く簡短に且つ速かに言つて戴きたいと思ひます。

生徒の答を省く

此の前に、National morality 国民道徳と云ふことについて読んでお置きになるよに申しておきましたが、英文科の方で、あの Many adaptation are striving for power と云ふ処を百遍読んだけれども、充分意味がわからなかつたと云ふことでありますが、Adaptations と云ふことは何と訳すればよいでしよか。植物学で応化と云ふことを申しましょ。此の Synonymous を調べた人は言つて御覽。

Fitness、 Suitability、 Accommodation、
Harmony、 Adjust、 Proper、

Adaptation と云ふ詞は植物学から段々人間の心理学に及ぼし、ひいて社会心理学にも使ふよになりました。併し、此の Adapt と云ふことは丁度境遇に適ふ様にして行くこと、夫れが応化である。故に Adapt とか adjust とか云ふことは、Means と End である。目的と方法である。我々の身体にも機能と機関とがあるのと同じことです。夫れで、我々が境遇に適応することです。

National morality で言へば、ど一云ふことであるかと言へば、国家にとって大切なものは人口である。人口が少なくて困る。又余り殖え過ぎてもいけない。故に、之れを Regulate しなければならぬ。此に於て、其の目的に叶つた処の結婚法と云ふものが出来ねばならぬ。

[本能]

我々の本能の中には Self-instinct 利己的のもの、Racial instinct 種族的のものがあるから、人と人が仲間を作ることが出来るのである。

此の Social instinct があるから Social end を全うすることが出来るのであります。斯くの如く、個人が National instinct があるから我々の応化を助けるのであるが、夫ればかりではいけない。此に人知を加へねばならぬ。道徳と云ふものゝ必要も其処から起つて来るのである。

そこで Instinct と National morality、又 Adaptation と云ふ詞は大層関係の深いものとなるのであります。

此の間から皆さんが、実力が足りないと言ふことを仰やる。之れは何故であるかと言へば、Ability が足りない。詞をかへれば、Aptitude が足りない。其の適合性、個人性と云ふものは、皆さんが境遇に由って之れに応化する力が乏しいと云ふことで、之れを嘆くのであります。其の応化と云ふものは、変ってやまない境遇に順化する処の力で、之れが人間の力の出来て来る一原因であります。

人間の力は何処から出来るかと云ふと、此の前にも申したように、一つは遺伝、即ち我々の潜勢力である。つまり天才の芽生へであって、之れが境遇に順応することの出来るもので、此の順応に由って力が出来る。之れを応化と言ふ。さて、応化と類化とは同じよなものゝ二方面であるが、之れに由って我々の適性、可能力と云ふものが出来るのである。Adaptation と云ふのは、我々が其の境遇に丁度適ふよな働きをすることで、之れは我々が境遇に応ずることであるが、之れをおし拡げて言ふと、国家の進歩、国力発展の原因となるのである。之れを説くと時間がとれますが、一言で言ふと、今後我が国家の四囲の境遇と云ふものは、是れ迄の歴史に比べて見ると非常に迅速なる、又非常に激変なる進化を来すと言はねばならぬ。之れからは万事が非常に變るのである。然らば夫れに順応する処の国家の運動、国民性と云ふものが變らねばならぬ。寧ろ非常なる進化をしなければ、逆も必要なる応化をして行くことが出来ない。其の Adaptation の為めに、其の応化の為に我が国の婦人の知識、婦人の適性、婦人の責任、其の領分である家庭の組織、其の土台になる結婚法等が根本的に變らねばならぬと云ふことが多々あるのである。之れを一言で言へば、ど一しても婦人の教育を高めて、そ一して、ほんとの婦人の美德、婦人の能力を發展せねばならぬと云ふことになるのです。其の力を實現しよ一、其の實現に必要な境遇を開拓して行かうと云ふことが目的である。之れが、我々が十年間努力をして、幾らか実を挙げよ一として苦んで居る処である。其の Adaptation が人に由って幾らか違ふのである。之れが、あなた方の集中する上に困難を感じる訳であります。

其の応化と応化との間に矛盾、衝突があつて、何時でも戦つて居る。其の双方が何時も勝たう勝たうとして、自分の方に力あらしめよ一として奮闘して居るのであります。夫れであなた方は、何処に暗闘があるか、又どの Adaptation が勝つべきものであるか、又勝利を得なければならぬかと云ふ判断が下らねばならぬ。其の Insight が出来なければなりません。

そこで私は、あなた方に最も必要な Adaptation が出来ねばならぬ、其の実相を見出だして、あなた方の態度を確定しなければならぬ。夫れで私は具体的に之れを示して聞きますから、あなた方は充分考へて見なければならぬ。

今の社会では、あなた方、否、あなた方と同様に我が国の青年が皆得よ一としてあがいて居るものがあるのです。只形式の知識だけでは、ど一しても満足が得られないよ一になったのである。そこで確信が欲しい。宇内を支配する処の意志の如きものを要求するよ一になったのです。そこで、夫れに応化せねばならぬ宗教の如きものが必要となった。所が、宗

教は千差万別である故に、如何なる宗教をとる可きであるか、如何なる宗教が最もよいものであろ一かと云ふ問題であります。

[世界の宗教]

英国では Protestantism、Spanish は Catholic、印度では Brahma 教、日本では神道、野蛮国では神靈教、或は自然教である。然るに今日では、Protestant とか Brahma 教とか云ふものではない。そ一云ふものではないけなくなつたのです。

今、大分頭を擡げて来ましたのは、Spiritualism、まあ、精神教とでも言ふべきものであつて、少し頭をあげかけて来た。之れがど一なるかと云ふことは、世界の人皆が見て居るのであります。今何百万と云ふ信徒を持つて居る、America のエチ一と云ふ人の立てた Christian Science と云ふものがある。夫れから此の間の千里眼、御船千鶴子。あの人も病氣を治すことが出来るのです。又催眠術と云ふものもある。之れ等は、宗教が心理学に重きをおいてきたと云ふことは世界の事実であります。

人間の此の身体の裏には必ず精神力がある。五官以上に感性と云ふものがあると云ふよ一なことが段々証明せられて、之れが診察に応用せられ、医術に使はるゝよ一になりました。そこで禪宗に行かうか、催眠術に行かうかと云ふことになる。

此の傾向をさして私は催眠術と言ふのである。衛生に、修養に、宗教に、教育に催眠術を応用する。催眠術に由つて飢えたる意志を養はうか、催眠術に由つて人格を建設しよ一か、之れに由つて出来るものであろ一と云ふ考へが、中々勢を逞しくして居るのである。

けれども催眠術は奇しく Soul murder である。人間の心を殺害するものである。我々は之れに勝たねばならぬ。如何となれば、今日は珍らしくもあり又奇を好む心もあつて、之れを濫用しよ一として居る。夫れであるから私は、此の傾向は必ず迷信を伴ひ、道徳を弱め、人間の意志をも薄弱にすると云ふよ一な事実を沢山収集することが出来る。殊に御婦人に危険である。暗示に由つて品性を嬌めよ一と云ふことは、學問に、事業に依頼して發達しよ一とするのと同じことで、独立心を弱めると云ふ弊害があります。

之れでは未だ承知の出来ぬ処があろ一と思ふ。も一一つはそ一云ふと、催眠術でよい感化を与へるも、よい暗示を与へるのである。然るに夫れをも認めず、Self-suggestion を与へることをも私が否定するかのよ一に聞かならば非常なる誤りでありますが、之れを申すのは、あなた方の發展を妨げらるゝのは暗示に由ることが多いと思ふ。又自分にもいろいろ実験を積んだからであります。自分の意志、信念と云ふものと催眠術で受ける暗示と云ふものと非常な違ひがあるのです。

例へば病氣と云ふものも、心理状態に由つて余程違ふ。又催眠術に由つて非常に違ふものである。故に催眠術に由り、又非常に意志の強い人の暗示を受けると非常な力を得るものであるから、教育上有力なことに違ひない。けれども之れは人の意志に由つて動くのであるから、催眠術で受けた意志の力がそ一長持ちをするものではない。のみならず、自分の意志で働くと云ふ上に非常な欠損を生ずるのであります。私共

は自分の力で山を動かす様な意志を作ることが出来る。けれども催眠術による時は人の意志を受けて、人の力をもらって学問すると同じこと。非常な弊害を残すことになり、病気になるのに、お前は病気ではないと言はれると、そーかと思ふ。又社会が腐敗して居るにも拘らず、暗示者が天国であると言ふと、事実は大層繁雑になって居るにも関わらず、そーではないと云ふ風に考へて来る。之れは大変な Illusion であるから、真理を追求すると云ふ様な考へを弱めると同時に、其の暗示は直きにさめて来るから後の悶えを免れない。故に、お前は此処が病気であると云つても、夫れに勝つ道がある。社会は腐敗して居ても、夫れを直す力がある。夫れが出来て居るならば其の力は幾年経つてもさめることはない。故に、心配するのは宜しくないに相違ないけれども、自分の意志に由つて之れに打ち勝つ、真理を認めて向上すると云ふ力を養はねばならぬ。

夫れから催眠術をかけたたり、之れに由つて意志を教育しようとして云ふよーな人は、我々が今迄見て居る処では利益を得よーとか、之れに由つて名を揚げよーとか云ふ利己的な処からいろいろ弊害を免れないのである。のみならず、又其の反対の力に由つて苦めらるゝことがあるのです。之れを昔は悪魔と天の使などと言つて、之れが互に戦ふとか、悪魔にとりつかれて斃れるとか言つたのである。確に精神的の力があつて、其の二つがどちらが勝つかと戦つて居ると云ふ有様であるから、利益を得ることもあれば苦むこともあるのです。故に、之れが意志を阻害し、人格を破壊することになるのである。そこで今日、催眠術の流行が学生の心なり、天才の力なりを破壊して居るから、之れはどーしても人才を作る道ではない。然るに、或る中学校の校長が自分の学生を一級残らず催眠術をかけたると云ふことは、此の頃聞いて驚いたのであります。斯様なことは人間の心を殺すのであるから、実に大なる殺人罪であります。之れは我国では珍らしいことであるが、決してそーではない。英国などでは Black art 或は Black magic と云ふことがある。印度では円い水晶の玉を見つめて居ると、ちやんと夫れが現れて来ると云ふことです。之れを日本の海軍でも応用して、船の沈んだ処がわかつたと云ふことであります。

併し英国でも其の魔法が国民を害すると云ふ処から、法律を設けて Black magic を行ふ者は死刑に処すると云ふことにしたと云ふ話があります。夫れで、座禅を組むとか隻手の声を聞くと云ふことは、私は始めから不賛成である。ほんとうに真理を悟つて其処に達すればよいであらうが、そー云ふことなしに何か人から貰つて力をつけよーとするならば、大なる間違ひである。どーしても Natural law, Mental law, Spiritual law の道に由つて其の源から根本の力を養はねば、棚からぼた餅のよーな修養法のあるものではない。

此の間私は、人から水をさゝられたり、暗示を受けたりすることはないかと申しました。斯う云ふことがあるために、どーしても先きへ行かれない。ぢやない、あなた方が先きへ行かないのである。斯う云ふ暗闇が何時でも我々の中にある。団体にあるのである。故に、どーしても先づ夫れに打ち勝た

ねば、折角よい力が発達しかけても破され易いのであります。私は決して此の催眠的の教育又は宗教が、之れから先きの国民を救ふものではないと思ふ。

夫れで、どー云ふ Adaptation が正しいものであるか、どー云ふものを取るべきかと云ふことをよく考へて、我々の態度をきめねばならぬ。

夫れから、も——つの暗闇がある。之れは形式的、保守的の Adaptation がある。例へば只だ Christ 教の Bible を読めばよい。只儒教の孝經、論語を読めばよいと云ふ考へがある。併し世界の進歩と云ふものは非常なる動的のものである。非常な進歩的のものである。故に、夫れに應ずるものでなければならぬ。

然るに只だ形式の宗教、形式の学問、形式の道徳で行かうと云ふ Adaptation がある。之れを委しく申すと時を取るから、自分でよくお考へになることを希望致します。

[近來の傾向]

夫れから此の頃の主義、傾向と云ふもの、之れを一言で言へば狭い意味の個人主義とも物質主義とも、或は狭い意味の快樂主義とも言ふ。又利己主義と言ふことも出来る。此の主義で國民道徳を立つるならば國家を救ふことが出来るかと云ふと、そーではない。

之れと反対のものを極端なる社会主義、又極端なる帝国主義と言ふ。之れで行けばよいかと云ふと、夫れもいけな。之れだけでは、どーしてもいけなのであります。

つまり極端なる二つの主義の暗闇があつた。之れで今後の富國強兵を生み出すことが出来るかと云ふと、決してそーではない。之れは私が詞を費す必要はないのです。

併し此に一つの暗闇がある。自分が立派に修養し学問が出来たなら、人格が出来たなら、人のために國家のために尽すと云ふのは当然である。けれども其処に達する迄に修養をするとか、学問をするとか云ふことは個人的にしなければならぬ。会をするとか人と共にする必要はないと考へるならば、非常なる限りである。無論之れは一方に偏した考へでしよーが、我々が Meditate する、Consider する、実験する、自分で書く、自分で考へる、自分で発表すると云ふことは根本であらう。けれども之れ等のことをするには、人と共にする必要はない。社会に接することはいらぬ。大きい人の感化を受けることも不必要であると考へるならば、大なる間違ひである。之れは心理学から、人間の本性、本能と云ふものを研究してもわかることである。

人間は知的動物である。如何となれば詞を構成することが出来ると云ふが、併し他の動物も知的の物であつて、現に西洋では動物の詞と云ふものを研究して居る人もあるのであります。

又、人間は Social being であると言ふけれども、之れは蟻、蜂の如き下等動物にもなきにしもあらずで、只だ発達して居ない迄のことです。所が此の Social tendency と云ふものが、も——つ発達したものが Religious animal で、之れは人間より他にないものである。ほんとうに神と云ふものを認め、未來を思ふて祈禱する。此の Religious animal と云

ふ点が、人間の特徴でなければならぬ。此の Instinct を没却することは出来ぬ。又此の傾向を全うしなければ人生の価値、人生の意義と云ふものを現すことは出来ぬ。故に之れが一番の本であり、根をなして居るものである。そ一して此の宗教と云ふものは、ど一しても関係から出来たものであり、其の関係は社会との関係から出来て居るものであります。故に、ど一しても社会と関係を持った処の大きな Self とならねばならぬ。そこで人と共に会するとか、大きな精神に触れて深い Meditate すると云ふことが必要である。そ一云ふ訳から、ど一しても社会と関係し、人と共にしなければならぬ。

然るに政治家となり、宗教家となり、教育家となるには、成る程必要であるが、文学者になる、美術家になる、一つの Profession を取るものには不必要である。寧ろ我々は個人的にしなければならぬと云ふ職論が立ち易い。私は今日、之れを具体的にいろいろ申したいと思ひましたが、時がありませんから、次に致しましよ一。つまり、今日のほんとの Adaptation と云ふものは如何にすべきであらうか。

夫れを全うする事は、即ち我々の Ability, Quality, Aptitude と云ふものになるのであります。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十三年十月十九日

明治四十三年十月十九日
第二、三学年にて

此の前に私共が非常に要求して居る力、をりにあなた方が夫れを實力と言ひ、又は人格、或は徳力と言つて居らるゝ其の根本の力は、ど一して出来るものであらうか。此の National morality の処にも、第一 Scheme の処に The virtue と云ふことがある。此の徳と云ふものを大きく言へば国民道徳で、力と云ふのは徳力で、之れが国民の武器であるのみならず、之れは殊に其の国民の母である、あなた方の徳力に俟つの外はないのである。国家と云ふことから考へても、あなた方個人から云つても、最も大切なる此の徳を如何にして養ふ可きであるか。之れを養ふに最もよく適ふた道を取らねばならぬ。之れが、先日申した Adaptation である。我々は如何なる Adaptation を取る可きであらうか。夫れについても少し皆さんで考へておいでになることを希望しておきます。そこで、いろいろ手を尽して見たけれども、思ふ様にいかぬから、何か不思議な方法を以てすることは出来まいかと云ふことで、いろいろな方法を講じたものもある。一言で言へば、催眠術と云ふのです。又、自分は個人として弱い所を持って居るから、催眠術を覚えて卒業後にも之れで力を養はうと思つて居るが、先生の御話を伺つて、夫れも疑問になつて来たと云ふお方もありますが、私の申したことは、そ一云ふ細かいことについて申したのではなく、無論催眠術と云ふものを研究し

たのではなく、只だ一つの極端な例を挙げたに外ならぬのです。兎も角も、あなた方は考へが纏まりにくいと云ふ様なことも、其の他、何かの経験なり疑問があるであらうか。私共はどの Scheme を取つたならよいであらうか。時がないから、成る可く簡短に、且つ明瞭に仰ることを希望致します。

(生徒の答へを省く)

今のは、英語の研究に就いて英文科の三年から仰つたのである。之れは少くとも七、八年英語の研究に苦しんで、初めて英語を Master する経験をお積みになつてお話になつたのであるから、確なるものであらうと思ふ。之れは私の尋ねた問題の答へではないけれども、此の経験を積んで全体にお分ちになるならば、確に全体に貢献することが出来るでありましよ一。兎に角、態度を改めて改善しよ一と決心なさつたのは、誠に喜ぶべきことであると考へます。

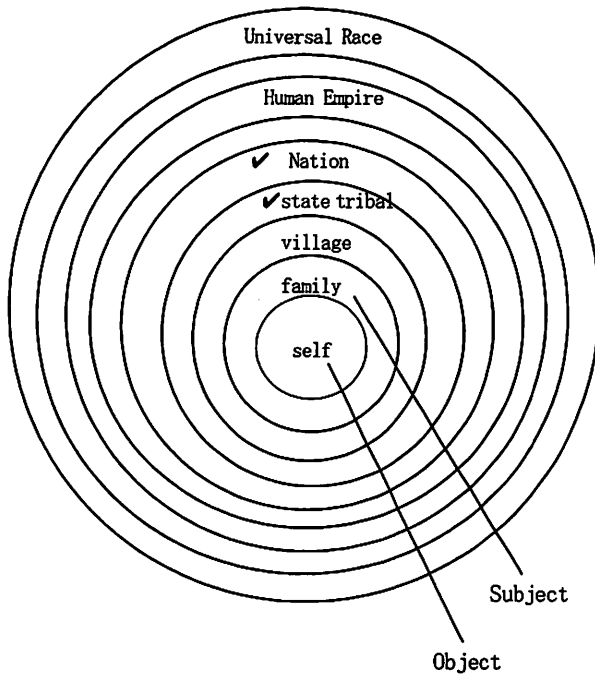
家政科あたりの人の経験を聞きますのに、課業を除いて自由の時間の半分以上は英語に使つて居ると云ふことである。之れは非常に勢力の消失であります。又、国家の損耗であります。外国語は六かしいに違ひない。けれども英語と云ふものがそんなに六かしいものではない。そんなに日本人の頭が鈍いのではない。婦人の力が弱いものではない。私思ふに、つまり教育の間違ひであつて、之れが物のわかりにくい本であります。つまり物がわからないのは当時の思想に触れて居ないで、只だ古い事しかわからないと云ふことになるのです。故に兎も角も、之れに書いてある位のことはわかるよ一にならねばならぬ。

夫れで此の間は、一番先きにありました国民道徳、国民の力を研究する材料を供する為めに、Adaptation と云ふことを例にひいて申しました。兎も角も、Adaptation と云ふことの大体はわかつたものは……

今朝、英文科からのお尋ねに、Sub-instinct と云ふことがわからないと云ふことであつた。其の前に National と云ふ詞をつけて、National sub-instinct と書いて、其の下に Scheme I と云ふことがあるけれども、Sub-instinct と云ふことがわからねば Scheme も何もわからないのである。併し、此の前、Subconsciousness と云ふことは申してあるから、Sub-instinct と云ふこともわからないでしよ一か。

Instinct を分けて、是れ迄幾つに致しましたか。Instinct は凡ての事の本である。あらゆる Environment の貯蓄されたものであるから、之れを Stored environment と言つてもよいのである。

Instinct { Self-preservational instinct
Racial instinct
Social preservational instinct



[本能]

家族と云ふものは既に一つの社会をなして居るのであるから、一方の Social の方に入れてもよい。そーすると二大別することが出来る。

- 第一が個人的本能。
- 第二が社会的本能。

家族主義、国家主義、人類主義と云ふよーに称へますと、是れ等の Instinct は皆あるのであるが、宗教的の Instinct は人間に限るのである。そこで大別して、Self-instinct と Gregarious instinct との二つある。此の Gregarious instinct に幾つもの階段があつてわかれるのです。故に Sub と云ふのは Under 或は Next と云ふ様な意味があるから、Gregarious 以下のものをさして言ふのです。即ち大綱は沢山あるが、其の又小綱をさして Sub-instinct と言ふ。夫れで階段的本能も凡てが一つになったものを宗教で言へば、Gregarious instinct と言つても宜しい。

此の前申しました Subconsciousness とは潜在とも訳して意識以下のものをさしましたが、此処では小綱を云ふのであります。

[Scheme とは如何]

も一一つは、図解に Scheme I、Scheme II、Scheme III と云ふことがあります。其の Scheme とはどんなものでしょーか。これは宿題にしておきましょーから、此の表について、ど一云ふことが此の間からの問題に大切なことでありましょーか。も少し考へておいでになることを希望致します。

此の前に、我々は個人主義をとるか、社会主義をとるか、其の個人主義がど一云ふ意味になって居るかと云ふことを申しました。我々は、そ一云ふ狭い意味で国家の Adaptation をとることは出来ぬと思ひます。併し其の方法として、即ち教

育法としては個人主義でなければならぬ。余り形式的になったり、型にはめたり、又習俗的になつては、ほんど一に個人を發揮することは出来ぬと申しました。けれども本を讀むとか黙想するとか云ふ其の修養法は、只だ山に籠るとか仙人の様にしないで、成る可く孤独の生活を営んで出来るものであると云ふ様に考へられ易いけれども、夫れではほんど一の適性は發揮しないと申しました。私共はど一しても社会的に天才を發揮しよーと思ふならば、天才に接しなければならぬ。能力を得よーとならば、能力ある人と共にしなければならぬ。又、個人的会合の外に宗教と言ふべきものも必要であると云ふことについて、いろいろ申しました。是れについては大家の意見を聞き、如何に天才の現れたものかと云ふことを、歴史上の事実に母ねて見るのが大切であると思ふのであります。

夫れについて極簡単に、先づ考へておおきにならねばならぬことは Heredity 遺伝法則、も一一つは Environment 境遇と云ふことです。そーして、そ一云ふもの凡てを容るゝ処の宗教とも言ふべきものが大切である。我れと云ふものは何処から来て居るかと言ふと、Heredity である。つまり、我々の中には Genius となる処の一つの種が植えてある。猶ほ夫れは植物等と違ふて、種の性質を改善することが出来る。夫れは何に由つて出来るかと云ふと、Environment に由るのである。此の私が種と申すものは Stored environment である。

其の遺伝が今私共の生活する境遇と、此の二つの要素が一つに結びついたもの、之れを即ち人格と言ふ。或は品格、又は我々の人となりと言ふのであります。之れは非常に Nature を研究しました Burbank の飼をかりて言ふならば、凡て過去の境遇の総和は遺伝である。言を換へて言へば、境遇は遺伝の建築者である。

Heredity is only the sum of all past environment, in other words, environment is architect of heredity.

つまり我々の品格は、応化と類化とに由つて出来るものである。又我々の力と云ふものは、此の間言つた様に、Adaptation であり、境遇を開拓する所の Ability である。目的に方法を適はせる処の才知である。

故に私共はど一しても、此の境遇の中に泳がねばならぬ。墨水練ではいけない。ほんど一に水の中へ入つて、夫れに適応することの出来る様に泳がねばならぬ。

例へば我々の愛、同情と云ふものも、人と交際をせず、親孝行をせず、親友なき人で、ど一して愛、同情が養はれましょーか。私共は、ほんど一に人と相愛し、相助け、共同一致して、其処に氣が通ふて居つて始めて徳が出来るのである。境遇の中に生活し、其の中に泳ぎ、其の中に Adapt して始めて我々の徳力と云ふものが出来るのです。人と事を共にし、人と力を合すことに由つて、人と同情することの機会を得て始めて我々の徳は發揮するのであります。之れは多くの事実、多くの経験に由つて証明することが出来るのであります。

私の申す世界的の天才、世界的の偉人と云ふものを歴史に由つて調べて見ると、Genius と云ふものは必ず師弟の關係の厚い人である。Genius は親孝行の人である。Genius は国家を

愛する人である。Genius は人と同情を深くして居った人であり、斯う申すと、成る程宗教家、政治家、教育家などには夫れが必要であらうけれども、専門を目的とする人、美術家、文芸家、科学者と云ふものは、人と人との関係をおろそかにして居ったものであろうかとお考へになるかも知れぬ。けれども決してそ一ではない。Genius は一方から言へば、時代、即ち社会の産物である。時と遺伝の Concentrate したものである。又国家が一つの場所に集中したのものであると云ふ様にも考へらるゝ。又、其の時代の潮流と云ふものが流れて、非常に動いた時に世界第一流の偉人、たとへば Christ、孔子、釈迦、Moses と云ふよ一な人は出たのである。之れ等の人は Palestine とか Greece とか、或は印度と云ふ様な、其の時の最も交通の盛んな文明の中心とも云ふべき処に生れられたのである。故に、Genius の發生するには Epoch と云ふもの、及び世界文明の中心と云ふ様な場所と云ふ関係がある。

[Dramatist]

今度の Life に私は The Drama と云ふものを掲げます。Drama と云ふものゝ起りは神聖なもので、やはり宗教から来たものである。悲劇小説の元祖とも言ふべき大家 Aeschylus の現はれたのは、Greece の Athens である。夫れと同時にやはり大家が Athens に現れて、天才と天才とが相感化し、相助け合ふ処の接触に由つて輩出したことがわかります。其の第一を Aeschylus、Sophocles、Euripides と致します。

[歴史家]

次に Greece で、歴史家が又同所に同時に生れたことがある。夫れは Herodotus、Thucydides、次に Xenophon です。

[哲学者]

又、哲学の大家は、やはり Greece に生れて居ります。Plato は Socrates の弟子である。次に起つた Aristotle は Plato の弟子である。故に斯くの如き偉人が現れると、又其処に偉人が續いて起ると言ふことが出来る。Christ には十二使徒と云ふものがありました。斯う云ふ風であるから、Genius は Genius に由つて現れると云ふ跡を、我々は沢山見出だすことが出来ます。

[Rome の文学者]

Rome の文学の發生したことは、同時代に非常に有名な人が続々現れました。夫れはポーラス、Ovid、Lucretius、Cicero、Caesar、Livy、Seneca、Pliny 二人、Tacitus の如く、殆んど同じ時代に沢山のものが出来居る。

[美術家]

美術で最も名高いのは伊太利であるが、其の一番始めに擧ぐべき人が Cimabue、Giotto。夫れが大に發達して、大家の続々現れたのが即ち Florence の三天王とも言ふべき人は、Leonardo、Michelangelo、Raphael である。

[伊太利文学者]

伊太利の文学界で世界に著しくなりましたが、第一に Dante、Petrarch、Boccaccio。

[英の文学者]

近世になって、今度は欧州に於ては交通が開けて航海術が盛んに研究せらるゝと共に、Elizabeth 時代に Shakespeare、

Johnson、Wordsworth、Scott、Byron、Moore。

[独、米]

独乙では Goethe、Schiller。米国では Emerson、アオーゾ、フオーロー。

[我國の Genius]

我が國の近代に於ては、少し世界的な大人物の起つた Epoch がある。そ一してお互に似て居る処があり、相互の関係からして大きくなつたと言ふことも出来る。夫れは織田信長、豊臣秀吉、及び徳川家康である。織田の時には耶蘇教などが来て、世界的関係が出来、豊臣は外国迄も遠征を企図し、家康は日本を統一すると云ふ風に、世界的、又国家的に此の三人は随分大きくのびることが出来たのであります。

其の他、あなた方の敬服し、尊敬するよ一な Genius、えらい人、えらい力の現れた人の伝をよく研究して御覧になると、そ一云ふ人は必ず孤立的な生活をしたものではない。人から全く離別した、人と共同することの出来ない、又そ一云ふ偏見に制せられて居つたものではないと云ふことを、確に証明することが出来よ一と思ふ。

夫れで、私共の人格を修養しよ一と思ふ、又銘々の適性をのぼす、育てると思ふならば、決して自ら狹隘にし、只だ此の個人的本能、即ち利己主義計りで自分の学問、自分の声譽、自分の利益と云ふことばかりを目的として、其の自分の中心に凡てを引きつけると云ふ個人的本能に由つて、其の動機だけで動いて根本の力が出来来るか。永久如何なる境遇にも堪へて行くことの出来る、如何なる敵も亡ぼすことの出来ぬ力と云ふものは、斯くの如き只個人主義と云ふ様な動機で出来るものではないと云ふ証明をすることが出来、又確かにそ一ではないと云ふ判断を下すことが出来る。

又、私共の本能は初めに申した Gregarious instinct と云ふものがあり、又其の Sub-instinct、National instinct、階級的 Instinct と云ふものがある。及び其の傾向、其の態度に由つて全人格を統一するにあらざれば、ほんといに我々の力を養ひ、天才を発揮することは出来ぬ。

そこで我々が力をふやす、根本の命の本源に達すると云ふ処の其の修養の第一着として我々が手をつけなければならぬことは、此の個人的本能と此の Gregarious instinct との間に起る戦ひと、戦ふ勇気がなければならぬ。其の戦ひに勝つて始めて我々にほんといの自由が得られる。其の自由を得て人間らしい行ひをして始めて人間の力が出来る。其の働きの、我々の修養につとめる所であります。

つまり此の小さい Self と次の Instinct との間に戦ひがある。此の手枷、足枷があるのである。此の境のもの、卵で言ふならばからである。此のからを破つてしまはねばならぬ。之れを破ることが出来て始めて私共は之だけ拡張することが出来るのであります。つまり私共が力を養ふと云ふことは、此の小さいものから之だけの大きなものになると云ふことで、之れは教育でも文学でも宗教でも同じことであります。

今、あなた方が非常な勢ひで居るけれども、家を持って家族を持つと、直ぐ停滞して了うのである。進歩と保守との争ひは此から起るのである。National を本とすることを

Nationalism と言ふ。夫れが二つに分れて、Internationalism と Imperialism との戦ひが起るのです。其の健全なる者は国家の安寧、進歩を計る。けれども不健全なるものは、外国は劣等なるものとして卑屈な考へを持って居る。

我が国民は誠に愛国心の強いものである。国の為なら何時でも命を捨てると云ふ覚悟はよいけれども、世界と云ふものを認めて進む Internationalism と云ふ観念は未だ発達して居ないのであります。

そこで、米国なら米国に行って、しっかり金儲けをしよ一。そして其の富を日本へ持って帰ろ一。国の為めには是非、救はねばならぬと云ふ考へはある。けれども行きつく先で其処をよくしよ一、其の国をよくしよ一と云ふ考へがない。故に、日本人と交際するのは不愉快であると言って居たことを此の間、聞いたのであります。

今 Nationalism と Internationalism が戦ひをして居るけれども、夫れに勝つて此の二つが一緒になつた様なものになつて世界を經營する、世界の宗教は如何にならねばならぬかと云ふ考へを以て進むならば、始めて我が国は世界に雄飛することが出来るのである。何千年の後かは知らないけれども、ほんといに世界の文明を支配する様な大きい力を發揮する様になるのである。故に、我々の力を養ふと云ふことは、私共が段々に小さな殻を破つて、大きな関係をつくることであります。今申したよ一に、人格とは遺伝と境遇との総和である。大きな境遇と我々が関係をつけることが出来たならば、始めて大きな人格と云ふものが出来るのであります。

未だ之れは我々の學問と云ふことと我々の働きの範圍を言ふのであるが、併し之れから段々大きな範圍に進んだならば、如何なることをせねばならぬかと云ふ問題にも到達しなければなりません。今日は我々の學問、修養と云ふものも只孤立的では出来ないと云ふことを、歴史の上から例を挙げて申したのであります。猶ほ、此の次には Scheme、Altruism、Gregarious instinct と云ふことを研究しておいでになつて、もう少し大きい範圍に進まれんことを希望致します。

[中表紙]

第一学年にての御話

明治四十三年十月二十二日

第一学年にて

意志、思考、及び行為の三つの關係に就いて考へておいでになる様に、又少しでも意志を養ふ事について銘々經驗をしておいでになる様に申しておきました。夫れについて組で調べるなり、或は銘々で考へておいでになつたことと思ひますが、三者の關係について、大体おわかりになつた方は………少数

意志と云ふ事について、わかつた方は………少数

此の前、意志の要素を聞きましたが、意志と云ふと一つの

纏まつたものであります。其の意志となるべき一番の本、所謂土台となるべき、未だ野生の状態にあるものは何でしよ一か。

・本能、衝動、欲望、動機、選択、決心、希望、命令、忍耐、克己、品性等。

品性、克己、忍耐、決心と、斯う言ふと、大分意志を教育して出来たものであるから、も一野生とは言はれない。

[意志の野生なるもの]

今、私の申しました野生の状態にあるものは、本能、衝動、欲望の如きものにて、性質とか望みとか言へば、まだ夫れに属するのであります。

選択と言へば智を加へたもので、克己は耐へて行く事。其の他、命令にしても、品性にしても、余程我々の意志を教育してから言ふ事であるが、兎も角も私共の中には、そ一なりたいたいか、そ一したいとか、好ましいとか、望ましいとか云ふ事があります。そ一云ふ傾きを生れながらに、内に持つて居る。之れが意志の一番の根となるもので、子供が生れると、一番先きに母の乳を吸ふ。之れは知らずにするけれども、自分の方に取りうと云ふ働きから起るのである。之れを衝動と申します。

私共は毎日身体の中にも欲望がある。知りたい。なりたいたい。色々のたいがある。例へば、あなた方は一方には今日は深く修養をする為に必要な問題を考へて、どうしても自分の満足の出来る様に考へて見たいと、そ一云ふ様な欲望、即ち内に要求がある。けれども一方には、も一雨が上つた、此の間中降り続いて居つたが、運動会も近い事だから練習をしたい。又、美術の趣味もあるから、此の頃美術展覧会に行つて見たいと云ふ要求もありましょ一。又、明日は日曜日であるからお友達の家を訪問して見たいと云ふ人もあれば、家に手紙を書きたいと云ふ事もある。又、寮の人々と大磯なり鎌倉なり何処でもよいが、一日だけでも行つて見たいと云ふ事もありましょ一。併し明日一日の事にしても、そ一皆出来るものではないら、何れか一つ選ばねばならぬと云ふ事も起る。

[正反對の欲望]

又、我々は正反對な欲望もある。今年水害もあつたから、そ一云ふ憐れな人の為には着物をぬいででもあげたい。又、来年は母校の十年祭でもあるから、何か全体の為にしたたいと云ふ誠に高尚な考へもあれば、又、あの人の時計が欲しいから、時計を盗まうと云ふ様な考へ、つまり、人にあげよ一と云ふ事と、人の物を盗まうと云ふ様な相反した欲望と欲望とが衝突して、どちらにしたらよいかわからぬ事がある。斯う云ふ風に種々様々なる欲望、動機が時々刻々に起つて来る。此の欲望のままに勝はれて行く時は不正の行ひを敢てする事も起るので、つまり、人間の禍福と云ふものは悉く人間の欲望である。之れを脱しない中は、人間に自由が得られない。

そこで釈迦もキリストも孔子も、ど一かして此の苦しみから人間を救はうとなされた。之れが宗教の起りであります。

欲望は悪いものではないが、其の間に起る矛盾、衝突からして誠に救ふべからざる事となるのであります。故に我々は数ある欲望を一つに調和しなければ力が出ない。其の力が一

つに纏まって一つの方向に向はんければ、意志と名づくべきものとはならぬ。

そこで人間の意志、或は決心、色々なる欲望を捨て、今少し高尚なる情操、情緒によって、今少し高尚なるものを選択する事によって始めて意志と云ふものが出来ます。

[思考]

それで人間の意志を作るには、ど一しても知識と云ふものが必要である。其知識を構成する為に必要な働きが即ち思考力であります。

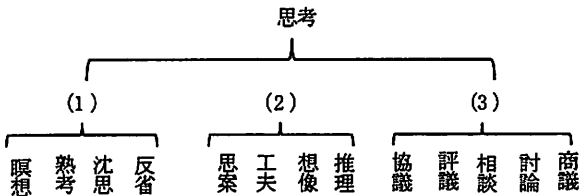
[思考と同意義の語]

思考と云ふ事について、此の前に、其の思考と云ふ考へを構成するについて詞を使用しなければならぬ。其の意志を作る為に、又語学をする為に同意義の語を調べてお置きになる様に申しておきましたが、其の思考と云ふ事について、つまり自分で考へると云ふ事と、又組で一緒に考へると云ふ事も色々ありましょー。先づ自分で考へる方の詞を英語でも日本語でも言つて御覧。

Reflection……反省 Thinking……沈思
Consider……熟考 Meditation……冥想
Reasoning……推理 などである。

斯う云ふのは多くは修養の時に、今の衝突する感情を調和し、又矛盾する感情を統一し、自分の思想と行為とを照し合せて、よいとかわるいとか判断するのを沈思とか冥想とか言ふのであります。

推理とはど一云ふ事を言ひますか。



(1)の働くと(2)の働くととは余程よく似て居るが、ど一違ひますか。

我々の本能とか衝動とか欲望とか云ふものに知の働きの加はったものを思考と云ふ。其の思考の中の、此の二つの働きのど一違ひますか。

(1)の方は主に情の方に傾き、(2)の方は智、即ち客観的の方に働いて居ります。(3)に入れたのは、私共が多くの人と共に考へると云ふ時は相談、商議、討論、評議、協議などであります。

相談とはど一云ふ意味ですか。幾らか先輩の人に就いて意見を聞くとか、忠告を受けるとか云ふ事であるから、書物について識者の考へを聞く時にも使ひます。(3)の方は、私共が人と一緒に相談をして何か一つの結果を挙げよーとして働く事である。

(1)も(2)も一つの目的を以てする事であるが、其の各の働いた時にはど一云ふ結果を起しますか……理想を作ります。

Idea and Sentiment と云ふ事がある。Idea と云へば日本語

では理想、観念、主義、情操で、此の Idea と云へば観念、Sentiment と云へば情操、寧ろ主義と言つた方がよい。これに似た詞には、説 Opinion、意見 Notion と云ふ詞があります。Opinion と Sentiment とは、ど一違ひますか。Opinion とは主に知の働きのより出来たもので、Sentiment とは夫れに感情の加はったもの。そこで、(2)の結果は Opinion を作るのである。これはグリーキ語の画とか像とか云ふ詞から出て居ります。故に、やはり客観的の働きのである。けれども、私の Sentiment と云へば審美的、道德的の判断で情操的の考へである。故に Sentiment には知と情との要素があります。夫れで(1)の結果は寧ろ Sentiment が出来て、(3)は Public opinion と云ふものが出来るのであります。団体的の主義、団体的の考へ、これが即ち Public opinion である。

そ一して、Sentiment に属する他の言葉に Ideal、又は Postulate と云ふものがあります。夫れから意匠、計画と云ふ様なものも、皆我々の頭の働きの結果である。

故に、意志を造るには、ど一しても之が出来ねばならぬ。即ち主義、目的、信仰。即ち要求仮定が必要である。これが我々に非常なる力、雄大なる力を与へて、非常なる事を成し遂げさせるものである。

故に富士山の様な大きな山を引つ抱へて、琵琶湖の様な処へ沈める事も出来る。昔から今日迄、偉人と言はれる様な人々が偉大な事を成し遂げたのは、皆信仰の力によるのであります。

此の Postulate、Opinion、Public opinion と云ふ様なものが出来たならば、その結果は何になりますか……行為になります。

即ち、非常なる活動となつて来る。そ一して行為となるのであります。

[目的的活動]

先づ行為とする行為とは活動であります。これは即ち、運動、戦ふ、震動するのであります。

宇宙は活動である。人世は活動である。これを目的的活動と言ふ。之は目的、計画、理想に由つて動いて居るもので、必ず調和統一ある、意味ある活動であります。我々の活動には目的ある活動と、只断片的なものとあつて、こゝで始めて我々人間の行為が色々に分れて来るのであります。それでは行為の同意義語を言つて御覧なさい。

[行為と同意義の語]

行為、反射運動、動作、挙動、遂行、成就、運動、労働。私は英語で思ひ出した言葉から、ならべて見ませう。

Accomplishment……完成	Work ……………動作
Achievement ………作成	
Action……………行為	Movement ………運動
Deed……………所行	Exsection…………切断
Doing ……………行為	Operation…………作業
Effect……………結果	Transaction………処理
Conduct ……………挙動	
Execution ………遂行	
Exercise……………練習	

私共の力が出来ると云ふのは、つまり、力の集中である。其集中が出来ないと力を相消して、互に相離るるのである。

其れ故に、ど一しても Meditation、或は Consider、Reasoning 等総てを考へて、色々矛盾して、自然に任せておけば互に相消し、相離るゝ処の、動機と動機、欲望と欲望を統一しなければならぬ。夫れは恰も小流を集めて大河を築く様なものである。天龍川、信濃川の様な大河も其の本は無数の小さな流れが集まって出来たもので、我々の心の中にも無数の小流がある。夫れを大きくしめすものが、私共の知力の働きである。

此の働きを Association、Combination 又は Idea and Sentiment と申します。観念と観念との間に連合を拵へ、主義と主義との間に連絡をする。之れが即ち知識の構成である。これが即ち知識の Association である。そ一して高尚なる思想、健全なる目的を養ひ育てるのである。

之れを妨げ止める低い考へ、卑猥なる観念を排斥し、其の傾向を支配するその働きが、即ち我々の Meditation である。

然るに、今日の教育の仕方が只其の観念、其の知識を只其儘に畜へて蔵の中にしまつて置く様な工合に、只断片的に物を覚えてさへ居ればよい様に考へて居るのは大間違ひである。其観念、主義が一つの信仰とならねばならぬ。そ一して夫れが立派なる行ひになる迄、努むる事が最も必要であります。

[ウイルソン教授の説]

ウイルソン教授は、大学教育は知識の生ける類化、活発なる知識の同化、吾人の個人的、及び団体的生活の様式より成る。而して、吾人の知識の消化の九分通り迄はこの様式によりて行はるゝものなり、と言つて居られる。それ故に、大学教育は只習ふ、只教はると云ふばかりではなく、同化すると云ふ事に由る。

これは只話を聞く、書物を読むと云ふのみでは出来ない。日常の生活により、空気により、団体的の活動によって、其九分通りが出来るのである。其の同化が出来なければ決して意志は出来ない。立派なる行為は出来ないであります。そこで私共が私共の学ぶ知識、及び日常生活から受ける経験、観察によりまして、私共はこゝに其の主義を作り、理想、信仰と云ふ様なものを養ひ、育てて行かねばならぬ。其の信仰を養ひ、主義を育てて行くには、これに必要な養ひを取らねばならぬ。そ一して、夫れが最もよく消化する様に勉めて行かなければならぬ。そこで Meditation が必要になります。

其の Meditation は如何にすべきか、如何にすれば有効になるかと云ふ事を、Life には凡そ五つばかりの階段に分けて書いてあります。

其意味の大体わかつた人は………少数

幾らか自分でその実験をして見た人は………殆んど無し
第一に挙げたる大切な事は、ど一云ふ仕方でしたら一か。

此頃なくなりました私の尊敬し、私共の直接交際して居りました、ハーヴァード大学のウィリアム・ゼームス教授。これは心理学者としては世界に聞えて居つた方である。心理学者としてはヴント、ヘッディングなどと並び称せられて居つ

た人である。彼の人の世界に貢献せられた事は、精神界の研究の効果をあげて、精神界の一発展を試みられたのである。晩年になつて称へられたのは Pragmatism で、これはハーヴァード大学の職も辞して、之れから大いに尽そうと思つて居られたのに、中途にして斃れられたのは誠に惜しむべき事である。

又、Subconsciousness の研究なども氏に負ふ処が多いのみならず、宗教の方にも非常なる生命を与へられたのは、この Pragmatism に負ふ処が多いのであります。

[真理は生きてをるものなり]

其のゼームス教授が、真理と云ふものは生きて居るものである。故に始終発達して止まないものである、と言はれた。

[主知説]

其の前はヘーゲルの哲学が土台となつて居て、主知説、即ち人間の心の働きは知と云ふものが一番根になつて居る。故に一番間違ひのないものは真理であると云ふ所から、世間では幾らか Absolute にとられて、即ち主知説に傾いて居つた。これが近世の傾向でありましたが、ゼームスは、真理は生きたものである。故に只絶対的に骨もなく、血もなく、情もなく、少しも捕ふる事も味ふる事も出来ない只乾燥な形式の様なものではない、と言つて居られる。其所に誠に面白い点、吾人の人生に於て事を営む力を開拓するに非常な関係ある真理を含んで居ります。今少しゼームスの説を引き延ばして話したいと考へて始めかけましたが、時間が参りましたので止むを得ませんが、私のあなた方に望む所は、画や像と云ふものは只一つの形の現はれに過ぎない。想像と云へば頭の中に像を形造るにすぎない。故に只形式をとつて、頭の中に色々な想像を拵へて居るばかりでは何の役にも立たぬ。ほんといに Realize する。只知るばかりではない、ほんといに味つて貰ひたい。夫れで私は瞑想の実相を解き明かして置きたいと思ひましたが、今あなた方は、ほんといにそ一かしらんと云ふ Sentiment が起りかけて居る。之れを中途で置くのは誠に残念です。

[機会]

ニュートンは林檎がパタツと音して地に落ちるのを見て引力を発見し、ガリレオはランプの光つて居るのを見て、ワットは鉄瓶の湯が沸騰して蓋を持ちあげたのを見て、孰れも大發明をしたのである。

昔から機会を逃すと云ふ事があります。又、機会は無頭であると云ふ。我々の Sentiment の起つた時に、其の機をはづさず發明する所がなければ、どこまでたつてもほんといの事は出来ませぬ。

夫れでよくお考へになつて、瞑想と云ふ事を実際にしなければならぬ。それを実行しなければ、ほんといの力は養はれないのです。

次迄に先づ第一箇条を実行して、其の信仰の命は何であるか。真に其の命に生きると云ふ事、又それが真に実行とならねばならぬと云ふ事は如何にすればよいか。及び五箇条の事はど一云ふ風にすべきかと云ふ事のお答へが出来る様にして、お出でなさい。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十三年十月二十六日

明治四十三年十月二十六日
第二、三年にて

[伊藤公爵]

昨年の今月今日、伊藤公爵ははるびんに於て薨去せられました。故に公爵の知人は今日、恩賜館に於て、公の一周年の記念祭を営まれるのであります。

私も郷里の関係及びこの学校との関係から、今日は墓参りに出るのが適當であるかも考へましたが、今日は実践倫理の日でありますから、此にあなた方と会して一言の辞を述べて、あなた方と共に公爵を追弔し、墓参は明日に致さうと考へます。

誠に過去一年を顧みれば夢の如く過ぎまして、殊にこの伊藤公爵の遭難を聞いた感じは今猶、眼前に見る様であります。其の後満一年を経ざる間に、日露協約、及び日韓合邦の如き事業が段々と事実になって顕れて、今日益々公が如何に国家に貢献せられたかと云ふ事は、今日益々、知人及び国民をして偲ばしむる事であらうと思ひます。

[外国人の論じたる伊藤公爵]

そ一云ふ事をいろいろ考へて居りました時に、丁度、或る外国人が伊藤公の遭難について感ずる処をいろいろ論じてあるのを見まして、誠に感慨に堪へないのであります。之れに由ても、故伊藤公が、今我々の説いて居る Gregarious instinct、即ち犠牲の精神に長じて居られた事がわかります。其の記事の大体を訳しますならば、初めに伊藤公爵と云ふ人は殆んど士の仲間にもはいれない位の微賤から起つて、非常なる権貴の地位に昇つた人である。

公は 天皇陛下の輔導であつたのみならず、実に親友であつた。彼れは国民の寵児であつた。公は実際における朝鮮の國王であつた。内外において、公爵は東洋における最も有名な政治家であつた。彼れは 皇帝陛下及び国民の尊敬と信用とを勝ち得られたのみならず、列強の最上の尊敬と信用とを広くした人である。

彼れの死は実に世界の愁ひを震動した。殊に彼れの死は、日本にとっては実に計る事の出来ない損害であると云ふ事があります。

これは簡明にして意を尽してをるのみならず、決して過賞ではない事実である。

[伊藤公の性格]

伊藤公爵はど一云ふ秘訣によって、斯くの如き微賤なるものが夫れ位な地位に達せられたのであらうか。公が存命であつた時は随分攻撃せられた事もあつたのである。然るに一度其の計の伝へらるゝや、世界挙つて其の横死を悼みました。私は、この伊藤公爵の生涯こそは、実に今研究せんとして居る Gregarious instinct を説き明かす処のよい材料となると考へるのであります。之れは、私が殊更に時を使ふて説き明

かしをする迄もない事と思ひます。

又伊藤公爵が如何に国家に貢献せられたものであるか、又公がこの女子教育の為に、此の女子大学を起す時に如何なる態度であられたかと云ふ事は、昨年薨去の際に申した通りであります。

私共も伊藤公爵が生涯を全く国家に捧げて命を軽く思ひ、子孫の為に計ると云ふ事がない。あれだけの地位に居つて少しも私する所がないのみならず、日頃国家の事を思つて、外には何もなかつたのである。そ一して狭い愛国心ではない。夫れは、朝鮮のクリスト教が今日ど一なつて居るかと思ふ事でもわかるのです。夫れで今日、伊藤公爵が真に国家に捧ぐる処があつた、犠牲のよい手本を示された、政治家として実に立派な性格を持って居られたと云ふ事は、誰れも知つて居る事と思ひます。そ一云ふ考へを以て、私が今出て来る途中で皆さんに理想の人物を尋ねると云ふ事。我が国には伊藤公爵の如き人物がある。其の他歴史上、いろいろの人物に決して乏しくはないのである。そ一して伊藤公は狭い人ではない。広い人である。然らば、我が国で理想の政治家と云へば伊藤公をあげるかと云ふと、之れは甚だ六つかしいのであります。伊藤公には政治家として他に例を見ない処の特徴を持って居られたと同時に、又或る方面に於ては甚だ大なる欠点をも持つて居られたのであります。

夫れで一人の人を挙げて、之れこそ全く我が理想の人であると云ふ事は誠に六つかしい事であります。けれども我々は公のよい処をとつて、私共もそ一云ふ行ひにならふ、斯くの如き態度を作らねばならぬと云ふ事を、こ一云ふ際に充分考へるべき事であらうと思ひます。夫れで一言感じを述べて、伊藤公の一周年忌の詞として申すのであります。

実践倫理

[Scheme]

此の前に第一、第二、第三の国民道徳についての Scheme と云ふ事がある。及び Altruistic or Gregarious morality と云ふ事がある。之れについて、よく考へておいでになる様に申しておきましたが、言へる方は……

この Scheme と云ふのは、あなた方が毎年、其の年の目的及び方針をきめるのである。

校風を充実し、実力を養ふ。そ一云ふ目的を立てて、夫れに叶ふ処の方法を講ずる。それをあなた方は計画を立てると言ふ。そ一云ふ計画を立て、之れを機関とする。即ち係を設けて、すっかり活動となさる。其の機関、方法は目的に叶ふ様にする。故に、その計画は Adaptation であると言ってもよく、又其の目的を達する Means であると言ってもよい。

[Scheme I]

Scheme と云ふのは Plan, Design などと同じものであります。

故に、第一の Scheme は傾向係である。

夫れが、いろいろ分れて居りますが、

English virtue と Spanish virtue とは英文学部。
Hindu virtue と Japanese virtue とは文学部。
Savage virtue は家政学部、教育学部であります。

これは世界を大学と見て、其の大学の傾向係と見ても宜しい。

Second scheme はあなた方の衛生係。つまり国民の健康を増進し、人口の繁殖を計るのであります。

夫れで、こゝに注意して読むべき事は、生れる割合と死する割合との統計の比較であります。

[人口問題]

今後の世界の一大問題は世界の平和である。

その世界の平和を破る一大原因になるべきものは人口問題である。

之れ迄は、南北アメリカ、及び南洋諸島と云ふ様な広い地面が善へて残してあつた。処が今日では殆んど世界の各人種によって分配せられて、余り大きな余地はなくなったのである。故に今後は、人口の不平均から調和を破る事のない様にせぬと、世界で戦争が起つて来る事になる。

夫れからよく注意せぬと、支那の如く朝鮮の如く、徒らに人口が殖えて教育の普及、改善が出来ませぬと弱い国民が殖えて、其の結果は貧乏人が多くなり、低能児が出来て、遂には国の滅亡を来すのである。

即ち土地と其の地の財力に不相当なる繁殖は、国民を貧弱にする。これは自滅の原因となるのであります。

若し強き国民が繁殖する時には益々強くなって、弱小なる隣国を併呑すると云ふ事になる。故に今後は、大に人口問題と云ふ事に注意しなければならなくなる。そこで只むやみに人口を殖やすと云ふ事はかりが愛国心であると思ふて、女子高等教育に反対するのである。この女子高等教育に反対するのは人口問題である。教育を高める時は、結婚が遅くなる。従つて繁殖と云ふ事が衰へるであらうと云ふ杞憂に過ぎないのでありますけれども、之れは大なる間違ひであつて、高等教育とは、つまり充分健康なる、又充分頭の力の発達した処の国民を作る。即ち、自ら境遇を開く事の出来る、自ら守る事の出来る善良なる国民を作る。つまり国民の品質を高むると云ふ事が、最も国家を強盛ならしむる根元である。故に、之れに応ずる事の出来る国民でなければ不健全である。其の国家を進むる仕方は、益々教育を高むる、殊に国民の母たる女子を教育する事に俟つの外はない。

そこで冗多なる繁殖を制限すると云ふ事は自然の配剤であるのみならず、是迄の国民道徳に不知不識行はれて居る。之れは動物学をなさつた方はおわかりでしよ。

[Scheme II]

人間でも、子の生れる程悉く繁殖して行つたならば、逆も種族を保存して行く事は出来ないものであります。

英国などはこれを防ぐ為に結婚を遅くするのである。そこで其の死亡率の如きも、以前迄は千人に対して四十人死んだのであるが、今日では千人に対して十五人に迄下つたのである。

之れは科学の応用、衛生思想の普及によるのであります。

第二の Life には、我が国の人口の殖える割合と、我が国の土地の割合とを出しておきました。

支那では子供が沢山生れると、或る女兒を殺すと云ふ事が

ある。

我が国でもこれがあつて、そゝする事をまびくと云つたのです。我が国においては、最近五十年間に 2500 万人殖えて居る。之れは、一つは衛生が普及して死する子供が育つ様になり、人口の制限がとけたからである。之れ迄は第一に家族制度と云ふものがあつて、長男しか妻帯して家を持つ事は出来ず、二男、三男は子のない家について後を継ぐのであるが、養子に行かないものはお寺について坊さんになると云ふ風で、女子も尼になつたりなどしたのである。夫れで経済状態に伴はない人口の殖え方は出来ない事になつて居りますが、今日では法律が子供を殺すと云ふ様な事は許さないから、二男でも三男でも幾らでも家を立てる事が出来る。夫れで貧乏人が沢山出来て、教育も行き渡らない事になる。故に我が国では粗雑なる子供を濫雑に育てると云ふ事になつて居ります。

十七、八歳で婚礼した処で未だ身体も出来て居らず、人の親となる徳も知識もないのに、子供を育てる。そゝすれば、ほんとの意義のある教育の出来ないのも当然の事で、勢ひ弱き国民を作ると云ふ事になります。

或る処では老人を殺す。之れは日本では不道徳な事となつて居るが、彼れ等の間には、決して不道徳とはしない。如何となれば、彼れ等は未来を信ずるから、血氣盛んで天国へ行けば天国で又勢力ある地位を占める事が出来ると云ふ考へを持って居ります。

又、赤ん坊を殺すと云ふ事を平気でする処もある。夫れは一度殺されても、其の赤ん坊の精神と云ふものは其の母、又は同種族の婦人によって再び生れて来ると信じて居るからです。

[Scheme III]

Scheme III は讀んだ通りで、すぐわかるでしよ。

[Scheme IV]

Scheme IV は英、独、仏、米と四つに分けて見ると、万国的奮闘は英国は人格により、独逸は団体により、仏蘭西は才能により、米国は精力によつて居る活動主義であります。

Strenuousness は Energetic と同じ事であるが、精力と云ふ事の他に、勇氣とか不撓の精神とか云ふものも籠つて居るのである。

English は教育部、独逸は実業部、仏国は商業部としました。

日本はど一云ふものをとつて行くべきであるかと云ふと、ど一しても斯う云ふ四つの要素を具へなければ、今後の国家の目的を果す事が六つかしいと言はねばならぬ。斯う云ふ様な National Sub-instinct があるから、そこで陸海軍の必要が起り、国と国との通商が生まれ、日露協約とか日米の関係とか云ふものが出来て来る所以であります。

夫れで斯う云ふ様に私共が段々深く考へて行きますと、人生と云ふものは如何に複雑なものであるか。又其の関係が如何に広いものであるか。其の関係の拡がって行く事が我々の人格が拡がり、即ち自我の拡大である。故に我々の力を増す、人格を築く、知識を拡めると云ふ事は、ど一しても孤独生活では出来ぬ。狭い個人主義では出来ぬものであると云ふ事を

見る事が出来よ一と思ひます。

夫れでこの National morality 迄でも大分広くなつたと云ふ事が出来るけれども、之れがも一いつ広くなつたものが Gregarious morality 或は Altruistic morality と云ふものであります。

此の中で一寸考へる要点をあげて、第一、第二、第三と分けてありましたが、大分わかつて居る人は……

此の間から申した事は二大別致しました。

第一は自己的本能、第二は Sub-instinct と分けた。其の小さい國民的本能、或は種族的本能とか云ふものを説いて来まして、凡てのものの一せられた大体の潮流をさして、Gregarious instinct と云ふのである。

故に之れを三つに分けて、次の様に考へると其の関係がわかり易いのです。

- (1) 自己的本能 = 有限的本能
- (2) 集合的本能 = 相対的本能
- (3) 宗教的本能 = 絶対的本能

集合的本能と云へば、ど一云ふ事ですか……

此の本能が最もよく発達したものが偉人でありましょ一。夫れで其の例に孔子とか孟子とか老子とか、或はクリストとか云ふ人をあげて、其の人々の Sentiment があげてあります。そ一して一番小さい有限的の自己的本能しかない人を小人と言ふのであります。

夫れから段々この界がとれて、大きくなって集合的本能となつたものが大人、即ち偉人であるが、其の最も進んだものが具体的例証で言へば、自我的欲望を人の為、或は國家の為、小さく言へば學校の為、或は家の為に犠牲になる精神である。之に非常に生涯の価値が認められて、是の生活をした者程幸福なるものはない。伊藤公爵などは此の精神があつたから非常に価値ある生涯を送り、又彼の方が死ぬる時に安心して瞑する事が出来たのは、此の精神があつたからであります。

此の學校の一番活気あり、生命の現れた時は、此の精神の最も發揮した時であつたと思ふ。此の頃、力が出ないと云ふ、元氣が出ないと云ふのは何故であるか。

我々は人の為に犠牲になる、人の為に我が儘は抑へると云ふ主義であるが、ど一かと云ふ事でござります。

今あなた方が理想の人をあぐるならば、此の精神に富んで居つた人であろ一と思ふ。又将来も、我々の理想的社會も、其の精神なき人を要求する事が、決して今後の社會であるとは誰れも思はないであろ一。之れが、此の集合的本能と云ふ事を思ふ時に誰れでも感ずる事であろ一と思ふ。

然るに、此の節はど一も利己的になつて、母校の為とか、卒業後も真に母校の為に働かうと云ふ様な事を考へる者も少なくなつたと云ふ事は、度々あなた方から聞く事であります。教育も個人主義でなければならぬ。自分が少し読める様になつた、出来るよ一になつたけれども、人の為に尽す、人に教へると云ふ様な事が出来るものではないと云ふ考へ、之れは正しきものであろ一か。我々は今日、如何なる Adaptation をとるべきものであるか。私は一寸尋ねて見たいと思ひます。個人的が今日の Need であると思ふものは……

個人主義と云ふものが今日の勢力を占めて居ると思ふものは……少数

そ一ではない。団体的の精神と云ふものが、やはり根底には動いて居ると思ふものは……

此の集合的と云ふ事は絶対でもなく、又 Nominal でもない。実体である。併し Impulse があつて Gregarious morality と云ふ Action を行ふのではないが、人類に共通の要素であつて、斯う云ふ行為をなす要素に皆關係ある要素である。けれども之れが Absolute のものではない。普遍的要素ではあるが、絶対的ではなく相対的である。相対的とは人と人、人と階級、人と國民、人と人類、人と動物と云ふ風に、相対した相互の關係である。けれども宗教的と云ふと絶対的になる。之れが大問題であるのです。絶対と云ふと無限である。絶対的本能と云ふと、本能とは何か詞がわるい様であるが、シュライエールマヘルの言つた意味で感情と言つてもよければ、カントの意味で直感と言つてもよいのです。

絶対的此に神となるのである。之れは無限であるが、無限と云へば有限と云ふ事は必ず起つて来る。

此の絶対を感ずる直感と云ふものは、個人に連らなつて居る。全体は必ず一部から成つて居るもので、この全体と一部とは離るべからざるものである。夫れと同じよ一に、絶対と有限、神と云ふものと我とは離るべからざるもの故に、我れと云ふ事と同様に神と云ふものがあると云ふ感じは必ず起つて来る。

[宗教的本能]

併し Gregarious instinct は Thing in itself ではない。絶対ではない。之れは相対的である。自愛と云ふ事があれば必ず他愛と云ふ事がある。人と關係を求め、益々複雑なる關係を結ばう、益々完全なる關係を結ばう、益々其の關係を広めて行かう、無限、絶対と調和して行かうと云ふ心、之れが宗教的本能であります。夫れで私共は限りなく進まう、無限に完全に近づかう、つまり神と一つになろ一、神と相交通しよ一、無限、絶対此の關係を広めて行かう、無限に美を發揮しよ一と云ふ、此に宗教があるのである。

深い感情、即ち満足、幸福を得られない、其処に人間の価値がある。

然るに、其の大我を知らずして、只小さな我を作らんが為に個人的になるのは誤りである。

此に於て、私共は人間の目的を達するにはど一云ふ Adaptation をすべきであるか、ど一云ふ宗教を信すべきであるか、ど一云ふ考へが勢力を占めねばならぬかと云ふ事を研究しなければなりません。

[中表紙]

第二、三学年にての御話

明治四十三年十一月二日

明治四十三年十一月二日

二、三学年に於て

過日の運動会、講演会、及び参考館に就いての其の批評は、明日の式後に於て致すことに決めましたから、皆さん、其のつもりでお出でになるよに致したい。

これで第八回生は最終の責任の一つを果したので少々安心を得ることが出来、之れと同時に第九回生は其の後を嗣ぐ決心をなさったことと思ふのであります。此の上は尚ほ残つて居る大切な仕事を充分に果すよにしなければならぬと云ふ態度を以て、今日から業におかゝりになるであらうと思ふ。夫れにつきまして、始めに少し、あなた方に相談をして置きたいと思ふ。孰れ今学年のあなたの活動については、明日私が少し申す筈であるが、大体に就いて、大分秩序が立ち、共同の働きが以前より敏活になったかと思ふ。

運動会の前夜は雨が非常に降つて居りました。其の時私は一寸参考館を見に行きましたが、余程皆、分業的に、忠実に、熱心に働いてお出になることを見受けました。之れを見まして、私はひそかに喜んで居つたのである。之れは従来女子に出来難い事であった。そして忍耐力が誠に乏しいものであったが、あなた方には其の意志の力も大分出来て、困難な場合にも落ち付いて、狼狽せずに進んで行くことの出来るよになったのは、余程進んだのである。併し、今年卒業する迄には、も一つ拵へ上げたい、我々の目的地に至りたいと云ふことがある。夫れは申す迄もない。直にお分りでしょ。

[内面的生活]

夫れは、も一つ隠れたる所、内面的の生活に於て不十分なる所がある。即ち、あなた方の頭の考へが動くよになりたと思ふ。之れが自動的にならなければならないと思ふ。

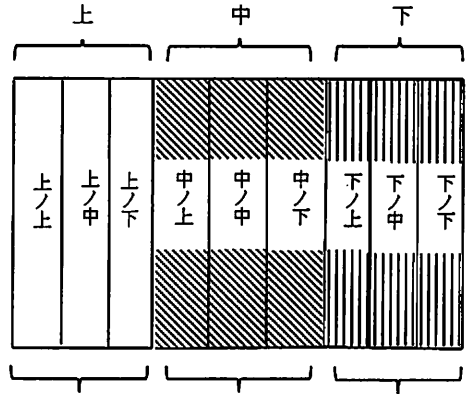
其の意味は大抵おわかりになるでしょ。之れは銘々が経験しなければ、ほんとうに分つたと云ふ処に到らないのである。第八回生が成就なさらなければならないことは其処にあるのである。

それで私は今、あなた方の頭の働きのについて少し批評をしておきますから、其の生活をして経験を積んでもらひたい。

[Note に就いて]

此の頃、私はあなたのお出しになった Note を調べて居りますが、此の Note を調べて最も注意をするのは、思想の発達の順序であります。それからも一つは、毎年、其の卒業生の頭の程度を比較するのである。

之れをするには水平線を引いて、之れを上中下として、夫れを又三つに分けるのである。



そ一して程度を量り、毎年、此の Level をど一云ふ様に昇つて行くかを見るのである。第一回生の中には、此の下の人が多かつた。此の下の下になると、進級が六けしいのである。即ち問題になる人である。併し其の代りに又、非常に飛び脱けた人が多かつた。此の上の部に入る人が多かつたのである。然るに今年は何の部分があるかと云ふと、此の下の下と云ふのは全くない。中と云ふ処に揃ふて来たのである。注意人物が殆んど無くなって来たのである。Level が上つて来たと言へるでありましょ。併しまだ此の上の部に入る者が少ないのである。夫れは何に由つて標準を立てるか云ふと、其の思想の動き方を見るのである。頭の纏まつて居る人の Note を見ると、そ一そ一と首肯することが出来る。そして非常に面白く見ることが出来るのであるが、分らない人のは見る者が苦まなければならないのである。

之れに一番気を付けて見るのは所感である。所感は幾らか確信ともなり、又経験となつたものであるから、余程気を付けて見るのである。如何に真意を取つて、之れを同化し、融合して居るかを見るのである。所が今年の三年が大多数、何故に中に入るかと云ふと、其の感じが少ない。之れを表はす部分が少ないのである。夫れから私は、最も最近のものを見るのである。夫れに此の最近の所を出さないののである。今学期は余程あなたの態度を改めて自動的に進まうとしたのであるから、夫れについてど一云ふ風であるかを知りたいのである。然るに、此の最近の所を出さないのによく分らない。故に最近の頭の活動を表す Expression がないといけな。

こ一云ふことに頭を使い、時間を使ふことは余計なことのやうに思ふかも知らぬが、夫れは大なる誤りである。之れが出来なければ其の力が出来ない。Moody は忙しい程よく Meditate をする。或は Prayer を要すと言つて居る。思想が矛盾して居り、内に心配があつては、決して充分なる働きの出来ないのである。其処が、あなた方の内面的の力が足りないと思ふ処である。故に、も少し内面的の生活が敏捷に、有効に出来るよに、其の結果を表はして貰ひたいと思ふ。

夫れから分量、即ち実質。之れも秤に掛けるのである。其の中の統一の程度も量るのである。然し夫れは私丈けが、其の卒業生の品性、人格、実力がどれだけになつて居るか評

価するのであって、誰れにも見せないのである。

[論文]

夫れから此の次に頭の働きに関係あるものは、論文である。之れも余程注意をなさないと、労して功なきものとなるのである。

此の論文を作ると云ふ様な頭を作ることが、又あなた方にとっては誠に出来難いことであるから、ど一か充分力を入れて空文にならないよ一に、力ある、命ある論文を書くよ一にして貰ひたい。此の大論文は日頃、小論文を書く習慣を養ひ、他の仕事と一致して出来なければならない。夫れで深い処の活動をする事が、今年の学生に大に望む処である。

[小論文]

今年は本校の歴史から、又我国の現状からも我々に非常な時であり、且つ明年は一段落を告げ、第二の発展をなさなければならぬから、今からあなた方に要求して置きますが、今年の暮迄に小論文を出して貰ひたい。

二年生も三年生も今から書いて、夫れを明治四十三年の暮に、其の感とか決心とか最も深く考へた処をつづつて、始業式に出して貰ひたいのである。夫れから二年生は今から三年生の仕事を受け次ぐ考へて、引き受けらるゝ丈は引き受けて、三年生が充分に活動の出来るよ一にやつて下さる必要がある。

三年生は実に、十年期に於ける我国女子高等教育の結果として出なければならないのである。夫れから其の十年期の引き受け人となって、最も利益あるよ一に其の十年期の式を挙げると云ふよ一に、重になるのは九回生、即ち二年生である。夫れで今、二ヶ月の後、正月後は試験等の時を取りますれば、あなた方が卒業迄にする時間が中々縮まって来るのである。故に今日から決心して、取かゝらねばならぬ。

兎も角も、来年の四月二十日が本校の満十年の第一期を終った記念日であるから、今申しただけの記念はしなければならない。

夫れで此の一つの問題は、其の十年の誕生日を祝ふべきである一か。学校の関係者を招き、十年の結果を報道し、将来のことに關して協議を凝らす可きかど一かと云ふことである。

まだまだ何も出来て居ないのであるから、今度は学校の内丈で一付式をして、関係者を招くと云ふよ一なことはよしたがよいであろう一か。早稲田は此の間二十五年を祝ひ、慶應は五十年の記念祭をしたのである。

私はこ一云ふ沈衰した時であるから、そしてまだ漸く半分出来た処であるから、ど一すればよいかと思ひまして、会計監督の波澤男爵に此の事を相談致しました処が、男爵は此の期に関係者を呼んで色々協議をもする方がよいと云ふお考へで御座りました。

此の事は教授会でも相談をし、又近々評議員会を開く筈であります、之れは学校も学生も桜楓会も共に母校の爲めに相談をした方がよいと思ふ。夫れで三年、二年の意向を聞いて置いて、夫れから用意した方がよいと思ふて相談するのである。之れは十年記念式をする方がよいか、よした方がよいかと云ふ問題になるが、

第一の考へがよかろ一と思ふ者は………大多数

第二の考へがよいと思ふ者は………

夫れでは多分、そ一なるである一と思ふ。夫れに就いて、其の方法を考へて置いてもらひたい。

夫れには只だ懐古ばかりではいけない。過去を振り向くと同時に、又将来を思はなければならない。桜楓会の如きも、五十年の計画を立てたのである。

今後、少くとも次の十年の計画は立たなければならない。其の母校が如何に今後発達すべきかと云ふことを知る爲めには、日本が如何になるかを見る必要がある。夫れには世界の大勢を知らなければならぬ。まだ早いよ一であるが、何か研究したものを作ろ一と思ふならば、少しづつ余裕のある間にしなければならない。

[外部の働き]

も一つ相談をしたいことは、之れは私自分の働きについてであります、少しあなた方の協力を願はなければならぬ。此の前に先月の下旬頃には信州の方へ出掛ける筈であったが、今度石油の値が下つたために新潟の方にも非常に狂ひが起つたので、今私が行くのは時機が宜しくないと思ふので、信州や越後の方へ行くのは先づ見合すことに致しました。併し、まだ関西地方には四百人程の会員があるが、之れ等には未だ募集をしたことがないのであるが、此の頃、関西の有志者の方から関西に女子大学を起して呉れないかと云ふ要求が起つたのであります。

もと東京に此の女子大学を建てる時の約束には、第二に時機到来したならば女子大学を大阪に起そ一と言つたのである。果して今起すべきや否やは問題であるが、そ一すると東京の爲めにして呉れとは言はれない。寧ろ東京の方から之れを助けなければならないのである。夫れで大阪は先づ問題として、岡山とか九州とかもあるが、やはり之れも時機を計らなければならぬ。十一月二十五日以後から四月頃迄は到底駄目である。併し其の四月迄には用意をしなければならぬ。そこで私は、今度は余程決心をして外に働かねばならぬと思ふ。故に十一月、十二月は外に力を用ひよ一と思ふ。そ一するに就いては、内の事をど一すればよいかと云ふことになる。

此の実践倫理に一週二度出ることになつて居りますが、そ一なると到底時が足りないから、之れを一週に一度出ること致しまして、一年も三年に一緒にして六つかしい処は指導者に導いてもらつて、私が外に出たらよいであろう一と思ふ。それでよかろ一と思ふ者は………大多数

実は、水曜日だけこゝへ来ますが、出来るだけ、も一少し自動的になることを希望致します。

[Life]

私が四月頃病氣に罹つた時、再び演壇に立つことが出来な一と思ひ、又真に力を得るには語学の力をつけなければならないと思つて、此の二つの目的を以て私はLifeを作つたのであります。処が程度が高過ぎて之れを解することが出来ないと云ふことでありますので、今度、第二号は少し低くしたのであります。故に、夫れを中心にして英語の力を養ひ、自分で考へて、お互に経験して行くことが出来たならば、至

極よいことと思ふのである。

そして相談に預ることは預り、尚ほ又指導者の方にも骨を折って貰って行くよ一に致したい。

[第一案]

夫れで皆が最も注意をして指導者が導いて、お互に経験を交換して研究会のよ一に、修養会のよ一にして、私は傍聴すると云ふよ一にしたがよかろ一か。

[第二案]

又、私が此のLifeの材料を使ふて、英語の分らないものは分る人から学んで、水曜日に私が其の質問に応じて導いて行くかと云ふことであるが、

第一案がよいと思ふ者は……

第二案がよいと思ふ者は……多数

夫れで、時機と云ふものを失はんよ一にすることが肝要である。其の時機に応じて働かなければならない。故に、どんなにそがしくても、其の時に依じて事を為さなければならぬ。実は天長節の時に、Lifeを天長節号として出しました。Editorialには新渡戸博士のLong live the Emperorと私のThe attitude of self-cultureと云ふのがありますし、明日は式の時に、其の中のOur countryと云ふ歌を唱ひたいと思つて居りますから、明日迄に出来るだけ夫れだけのものを読んで来て戴きたい。

夫れで英語を読むにも、亦君が代を唄ふにも、只鸚鵡的の事をしないよ一にしてもらひたい。之れは即ちExpressionである。故に明日の歌でも、真に感じて唄つてもらひたいと思ひます。

[中表紙]

天長節祝賀式

明治四十三年十一月三日

明治四十三年十一月三日

天長節祝賀式

[礼儀]

我が日本帝国、即ち二千五百何十年の間の国風も、其の他の世界の一番進みました強国も、人間として人として最も重んずべきものは礼儀である。其の礼儀の中で一番大切なものは、国家に対する愛国心から出る所の今日の如き三大節と云ふよ一な時に国民が挙つて、殊に学生は一年中の最も記念すべき日として野に遊びに行くのも楽しい事であるけれども、夫れよりも先づ人間の最も重んずべき処の儀式を守る様に致すと云ふ事は、誠に大切であります。

我々があなた方、此に居る幼稚園の小供のよ一な時には、一年の中で一番嬉しい、一番お祝いする日はお正月でありました。其の元日の朝一番に神様に向つて礼拝をする。次に先祖に向つてお礼をする。其の次には学校に出て、先生にお祝ひを申す。それがすまんければ、どんな面白い事があつても

少しも心を傾けないよ一にして居らなければならぬ。けれども子供はその云ふ嬉しい時には遊びたいものである。

私が七、八つの頃、お母さんの法事があつて、墓参りを致さなければならぬ。ところが竹馬に乗つて遊びたくて墓参りを致しませんでした。そ一して竹馬に乗つて遊んで居つた処が竹馬から落ちて、其の竹で歯をついて折れました。そ一して其のあとに生へたのがこの歯で、誠に不秩序なものが生へた。私は、あゝ悪かつた、何故あの時にお母さんのお墓参りをしなかつたであろ一かと云ふ事は、今に忘れる事が出来ませぬ。行かねばならぬけれども、遊びたい。斯う云ふ試みがあなた方にも起るであろ一。併し若しその義務の心、儀式に列ると云ふ公の心を破つたならば、神に対して、自分の心に対して誠にすまないと云ふ羞恥心が今の子供の心にも起るであろ一か。国家に対して、宗教に対して、人間のHeart、良心が如何に働きつゝあるかと云ふ事を観察してもらひたい。

[西洋の礼儀]

西洋では斯う云ふ大切な日が、一週間に一度は必ずあるのである。

故に、あちらではSundayには必ずお母さんと斯う云ふChapelに行つて、其の日を守るのであります。

我が国では斯う云ふ日は誠に少ないのであるから、今日の様なお目出度い日には私共は最も心を清潔に保つて、意義ある儀式を守る事が大切であります。

外国の子供はお母さんと教会へ行きまして、其の説教はわからぬ、お祈りはわからないけれども、大切な時であると云ふ事はわかつて居る。高貴なお方程、お行儀がちゃんと出来るのであるが、つまらない者程、お行儀が出来ないのであります。

私共、歯を抜かれてお墓参りをしなかつた、是れはすまないと云ふ印象は、生涯抜けない。此の羞恥心が大切であります。

是れ迄は子供だけは別に式をして出しましたが、小学校の五年生はも一夫大分大きいからして、今日は一緒にこの式を致して、其あとを運動会の批評会に致したいと存じます。

[天長節]

今日は我が国のお父さんである 天皇陛下のお誕生の日でありまして、其の 陛下の御健康、御長寿を祈る為、我々がお祝ひをするのであります。夫れで誠に 陛下は段々お年を召すのに、御健康は益々勝れさせられて 陛下の治め給ふ処の御代も日増に栄えて行く事は、国民一同の喜びに堪へない処であります。

陛下の御年は今年、お幾つでありますか。知つて居る人は……五十九におなりになります。

今日は五十九回目の御誕生日であります。我が 天皇陛下は誠に御運の御強い方でありまして、天長節の前には国民挙つて喜ぶと云ふ様な、国家にとって重大な御芽出たい事が引き続き、引き続き起つて居ります。

[日韓合邦]

この第五十九回の御誕生日の前にはど一云ふ事が、我が二千五百六十年の歴史にも曾てない処の事が起つて、益々 陛

下の御威徳が輝いて参るのでありますが、夫れはど一云ふ事でありましたら一か。言つて御覧……朝鮮は我が国のものとなりました。

左様。朝鮮は三韓とも申しましたが、昔から我が国についたり、はなれたりして、言はば日清戦争も朝鮮の事から起つたのである。斯う云ふ様に長い間の問題でありましたが、其の朝鮮が我が国と一緒に、夫れだけ我が国の土地が広くなり、人も多くなつたと云ふ訳であります。

我が国の人口は幾何ですか。

・五千二百万です。

朝鮮の人口は。

・凡そ千二百万。

千二百万人あるとすれば、我が国の人口が俄かに殖えて、六千四、五百万となるのであります。

朝鮮の面積は。

・十四万七千哩。

大きさは。

・我が国の本州と同じ位。

朝鮮が我が国と一緒になりましたのは今より凡そ二ヶ月ばかり前の事ですが、其の後、又お芽出たい出来事がありました。夫れは何でしよ一か。

・大きな軍艦が出来ました。

[河内の進水式]

左様。河内と云ふ大きな軍艦が出来て、海に入る式が先月の二十五日にありまして、陛下が横須賀へ御臨幸になりました。其の軍艦はどれほど大きなものでしよ一か。我が国の今迄の軍艦は大抵十二吋砲と云ふ大きい大砲が四門位しかなかったのですが、今度の河内は十二吋のものが十二門備へつけられるのである。これは我が国の軍艦中では一番大きいものであるが、アメリカやイギリスの軍艦に比べたならば、ど一でありましよ一か。世界の大きな軍艦に比べて見るならば未だ誇るべきものではない。これは余り好ましい事ではないけれども、万一、十年か十五年の後に何処かの国と衝突して戦争を開かねばならぬと云ふ事があるとすれば、ど一でしよ一か。外国の戦闘艦は十二吋以上の大砲が十三門以上緘装せらるゝのである。今後、我が国が世界の列強国と対立して進むには、ど一しても斯う云ふ軍艦が沢山出来なければならぬ。

其の第一着手として河内の出来た事は国民一同の喜びであり、殊に 大元帥陛下には非常に御満悦であつたと云ふ事があります。私は予て横須賀へ参りたいと思つて居りましたが、何時も忙しくて其の機会を得ませんでした。今より数ヶ月前、横須賀鎮守府司令長官 瓜生中將から、一度学生を連れて見に来る様にと云ふ手紙が参りました。引き続き此度の進水式についての招待状を受けましたから、即ち十五日に出かけて参りましたが、今年は雨の多い年であるが、あの十五日は格別の大雨でありましたが、夫れにも拘らず其の当日の横須賀の有様は名状すべからざるものでありました。

雨がどンドン降る中で、幾万の老若男女が人山を築いて身動きもせず、囁く者もなき其の瞬間、礼砲の轟く中を陛下

の御通聲がありまして、実に陛下の御威徳が一層輝いて押せられました。軍楽隊は大降りに少しも外套を着ず、銘々の職分を守つて首尾よく奏楽の役を勤める時に、二万八千噸の陸に座つて居つた軍艦が忽ち動き出して海中に出たのは、実に壯観極まつたものであります。其の軍艦がこの運動場へでも来よ一ものならば、動く事も出来ぬ。斯う云ふ建物も小さくなつて了います。幅一尺程の鋼鉄で船体が張つてある。重りは排水二万八千噸である。斯う云ふ大きな軍艦が我が国で出来る様になつたと云ふ事は、非常な進歩である。又斯う云ふものを忽ち沈没せしむると云ふ様な破壊力もあるのである。

斯くの如き大きな軍艦が我が国で拵へらるゝ様になつたのは、我が国の前途に何を予言せらるゝものでありましよ一か。我々は此に、深く考へねばならぬ。

そ一して、も一一つ私の感じました事は、そ一云ふ時に接待の任にあたつたのは大抵海軍の軍人で、誠に丁寧、親切にもてなされたが、其の御馳走の質素であつた事は誠に感じを深く致しました。之れは其の時銘々の御馳走に添へて立てゝあつた軍旗で、之れには絵葉書が三枚入つて居りますが、一つは 大元帥陛下の御眞影と軍艦河内、今一枚は河内が進水した所である。

其の時、盃をあげて祝したのが、即ちこの杯であります。之れには錨と菊水の御紋とがあります。皆さん、何故菊水の紋があるかわかりでしよ一。

[名誉大賞受領について]

それから一同に、も一一つ喜ばしい事を御報告致しましよ一。

昨年此の春へかけて、大学部から高等女学校、小学校、幼稚園に至るまで、皆さん一致協力なさつて製作なさつた所の、我が校の日英博覧会への出品は、あちらに参りましても甚だ好評であり、女子大学の仕組については有力な賛成者が現はれたと云ふ事は其の後度々聞いて居りましたが、此の度、東京府内務部よりの通知によりますと、博覧会から賞与を授けられたと云ふ事で、其の賞与は名誉大賞と云ふ事であり、これも全校の為に誠に賀すべき事であり、皆さんお芽出たう。

運動批評会

これから暫く第十回運動会、並びに其他展覧会、講話会について、先生方の御批評なり今後の注意等について伺ふ事に致したいと存じます。

(諸教授の批評を省く)

いろいろ御注意もあつた様ですが、斯う云ふ場合にお引き受けになつた方は内の用意が忙しい上に、あれだけの来賓を満足な様に接待しなければならぬ。私も、斯う云ふ場合に見ておいて貰ふ事が必要であると思ひまして、前に逢ふた時に話をしておいた人が、後で聞くと大分来られた様であるけれども、大勢の事であるから一々挨拶もよ一致さなかつたので、誠に不都合であると思ひますが、致し方がありません。併し、なるべくお客に満足を与へる様に、余り失礼にならぬ様にもてなすと云ふ事も必要であります。これはあなたの方が家を持つても、大切な事である。併しまあ、係のお方、

生徒の方も多年研究がつんで、以前に比べては余程よくなりましたが、多くの人を招いた折にはど一すればよいかと云ふ事は、斯う云ふ折によく研究しておいてもらひたい。

大体から批評すれば、私は満足しなければなるまいと思ふ。斯う云ふ時に一番困るのは天気であるが、前日の様な天気であったならば殆んどする事は出来ない。そ一すると経済の上にも、時間の上にも大変な損失となる。毎年十一月十日過ぎになると大抵天気が定まる様である。少し寒くはなるけれども、夫れより天気の方が困るから、斯う云ふ大きな運動会は天気が定まってからした方がよいと思ふ。

私が今年喜んだ事は、運動会について、参考館について、其の他の準備について、あなた方の判断が余り見当が違はない様になったと思ふが、も一少し大学生が研究して陳列した展覧会なら、よい事はいろいろあるけれども、それは申さない。も一少し有益なものが出来そ一なものと思ふ。併し段々分業して活動する様になったと思ふ。

これは過日の運動会計りを見るならば、批評すべき点が沢山にあります。けれども之れを十年間の運動会に比較すれば、余程の進歩と言はねばならぬ。初めの頃にすると、此度はど一云ふ事をしよ一かと云ふ事は我々迄も相談に預かる。自転車などは私が教へたのである。

然るに今年は、予習の時にも私は少しも見なかった。けれども安心して任せておかるゝ様になったのです。今は私が Program を見ないでも、亦自ら見て私が批評しないでも先生方の手も大分省けて、あなた方が自治的に大抵の事が出来る様になったと思ひまして、十年たてば毎年幾らかづつ進歩したものであると云ふ事を感じました。

運動会計りではなく、あなた方の修養も学問も、も一少し自動的に出来る様に、あなた方の選択、判断も、も一少し自分の考へで出来る様に、此の学期の始めに申しました。

あなた方学生の態度をも少し改めてもらひたいと云ふ事を切に希望するのであります。

[学校経営について]

夫れから私の担当して居る実践倫理の講義と高等女学校の修身講話会の方にも、月に一回出席しなければならぬ様になって居りますが、此の九月に全校に申しておきました様に、私の責任は内の教育と云ふ事も一方にあれば、又一方には学校全体の経営と云ふ事もあるので、十年の記念日を迎へるについて、又今後十年の第二年の計画を定めるについて、又本校と外部との関係をも少し強くする為にも、少し全体経営に時を使はねばならぬ様になって居ります。其の仕事は十一月、十二月の間に致しませんと、正月が来る。又議会、其の他の事が始まると云ふ様になるから、自分はこの関係者の関係をよくつける事、及び前から申しました基金を募集する為に、十一月、十二月は他に出る様に致さねばならぬ。そこでこの天長節を限りとして、成るべく外に向ふ様に致したいと思ひます。

其の他の事については申す暇もありませんが、兎に角、今日は大切な時であるから、少し時間を省く必要があります。夫れで次の週からは、一年、二年、三年を一同水曜日に集めて、

講義をする様に致したい。且つ其の講義も成るべく銘々で充分に用意をなさる様にして貰ひたい。これは私の時間を省く為と、又あなた方の為にもなる。幾ら分量は少なくともよいが、真にあなた方自身で物が出来る様になれば、あなた方の前途に有力な準備となるであろうと云ふ事を信ずるのであります。

夫れで私が今日、総ての仕事が段々自分で出来る様になった事を認めると共に、猶、も一方の内面の生活が一層深くなる様に勉めて貰ひたいと思ふ。夫れについて一言申しておく必要があります。校長は生徒の薫陶の為に日夜、力も心も尽す筈である。然るに、基金募集等の学校経営の為に力を使ふのは教育に不忠実な仕方であると思ふ人があるかも知れぬ。其のやり方はアメリカ式である。アメリカの大学の総長と云ふものは、學術の研究よりも学校の経営に忙殺されて居る。故に、校長は学問、教育と云ふ事よりも、寧ろ経営の事務に長じた人を推薦すると云ふ人もあるのである。けれども、私も先年米国で大学と云ふものを沢山調べて参りましたが、決してそ一ではない。

[アメリカの大学総長]

クラーク University の総長 スタンレー・ホールと云ふ様な人は、直接私のついて学んだ人ですが、其の方の言はれるのに、

私の時間と力との 2/3 は學術研究の為に使い、其の他の 1/3 を学校経営の為に用ふるのである。

と言つてをられました。夫れで、何時行ってもスタンレー・ホール氏は學術研究に力を注いで居られる。此の頃出ました Adolescence と云ふものは殆んど二十年からの研究の結果を報告したもので、セミナーの如きも氏の力によって出来て居ると言はねばならぬ。

[私の考へ]

それでアメリカの大学総長と云へども、決して学校経営にのみ苦心して、學術をおろそかにしては居りません。我々も我国の女子教育、我が国の国風を改善すると云ふ事が目的である。故に、何時も研究と云ふ事が目的である。けれども、微力であつて、今將に十年期を迎へるけれども、基金と云ふものを蓄へる事は出来ない。設備と云ふものも我々が十年前に計画した通りに出来たと云ふ訳ではない。甚だ頼頭の至りである。誠に微力を感じざるを得ないのである。けれども、斃れて後已むと云ふ決心を以て、全力を尽す外はないのです。如何なる困難が前に横たはつて居つても、如何なる障害が起らうとも、只自分の信仰を貫いて行くだけである。

其の結果はど一なる事やらわからない。只信ずる所を一貫するのみである。

あなた方も力が足らぬと云ふ事を言はれるけれども、此の大学と云ふ法人も等しく微力を感じざるを得ない。然し我々も、この困難に逢うて挫折するものではない。内外の多事の為に辟易するものではないのである。飽く迄信ずる所を行つて、充分将来に希望を持って、今日の総ての我々の進みを妨げる敵に戦つて、最後の勝利を得よ一。即ち、斃れて後已むと云ふ決心を以て奮闘するより外に道はないのであります。

そこで我々は益々相助け、相同情し、相率いて助けあふて進むと云ふ必要があるのです。そ一云ふ余儀ない事情に於て、経営するのです。

世間では、成瀬は金が好きであると批評するのである。けれども私を知って居るものは、果して私が金を好むものであるか、私が安樂の為に、財を子孫に残す為に、或は名誉心の為に経営するものであるかど一であるかと云ふ事は、わかつて居る事と思ふ。我が母校の為に、今は危機である。否な、今日は我が国家の危機であります。

ど一かあなた方も其の事情を諒せられて、真に全体と一致共同する処の精神を以て、真に相助け、相率いて進む事が必要である。故に其の信仰、其の態度を以て進みたいのです。

故に、来年の十年期については如何にすべきかと云ふ事は、本校の学生、教員、母校の評議員、桜楓会と云ふものが一緒になって、それ迄に如何なる用意をなすべきであるかと云ふ事を充分御研究なさって、我々銘々がその立派なる実となる事を期したいものと考へます。

[中表紙]

第一学年にての御話
明治四十三年十一月五日

明治四十三年十一月五日
第一学年にて

此の前に、内部の生活を如何にしたならばよかろ一か。即ち、私共の心霊の働きを敏活に、猶ほ豊穰にするには、ど一云ふ精神的活動が必要であるか。之れを平たく言へば、思考力、瞑想力と云ふ様な込み入った働きを充分に進めて行くには、ど一云ふ様な研究が必要であるかと云ふ事について、お考へになる様に申して置きました。夫れについて、おわかりになった事、感じておいでになる事、且つ自ら行ふて経験になって居る事、猶ほ其の上に疑問になって居る事があるならば、お尋ねになつても宜しい。

其の順序が凡そ五段ばかりに分けてあるかと思ひますが、大体其の意味だけはおわかりになつた方は………全体

夫れについておわかりにならぬ方は、殊に是非尋ねて、わかる様になりたいと云ふ疑問を持って居る人は………なし

毎日の日常生活に応用して、そ一云ふ精神生活の新しい経験が出来た方があるならば、一寸言つて御覧なさい………(生徒の答へを省く)

[人生の価値]

人生の価値と云ふ詞がありますが、其の詞を知つて居るものは………多数

意味のわかつて居る者は………なし

価値と云ふ事のわかつて居る者は………大多数

価値に二つあって、一つを市価と言ひ、一つを真価と言ふ。

我々の今日呼吸して居る空気と云ふものは、御飯よりも、コ

ップよりも、衣服よりも、何よりも大切なるものである。けれども、誰れも金を出して空気を買ふ人はないのである。昔は人身売買と云ふ事がありました。今でも花柳社会などには、五百円で人に身を売ると云ふ事があります。

又、月給と云ふ事もある。私にも幾らかのねうちがある、尊いものがあると同じよ一に、あなた方にもあるのである。此の世に生きて居るかひがある。即ち人間と云ふ尊い所、人も尊敬し、自分も尊敬し或は慕ふ所のねうちがあります。

あなた方が教育を受ける、修養をすると云ふのも、皆我が内にある価値をあげよ一と云ふ目的の爲めにして居るので、そ一云ふ様に言へば、此の価値と云ふ事は誰れも常識的にわかる事であろ一と思ふ。

そこであなた方にお尋ねする事は、人生の価値、人間の価値を認めると云ふ事。これは哲学的に言ふのではなく、直感的に実感的に尋ねるのであります。

此の世に生れて来て、誠に尊い事をして居る、生れて来たかひが有ると云ふ事を認めらるゝ人は………

・前には生れて来たかひがないと思つて居りましたが、此の頃は段々それが少なくなつて参りました。けれども亦、時には之れでは生れたかひがないと思つては、夫れによつて進んで居ります。

未だ価値がない。品性が磨かれない。ど一も満足が得られないと思ふ人は………多数

すると、未だあなた方が満足な人間の価に適當する程の生活が見出だされないと云ふ事になりますな。

併し、其の価値を見出だそ一、理想を実現しよ一として実現に努めて居る、修養をして居ると云ふ事になる。そこで、満足せらるゝ様な生活が見出だされたらよいけれども、そ一一遍に進まれるものではないから、今日の処に満足して、其の中に今日も夜が明けた。誠に大切な事をして居ると云ふ事を感じる事は出来ませぬ。私思ふに、あなた方の内に満足を求める事が出来たなら、たとひ不完全であつても人世の価値を見出だす事が出来よ一と思ふ。

今、私の言つた意味で価値を認めらるゝものは………少数

そ一すると、未だ価値は認められないが、万一理想を実現する事が出来たならば、価値を認めらるゝものであろ一と思ふ人は………

・人生の価値と言へば、人間の美しい精神力であると云ふ事だけはわかつた様です。けれども、未だ実際に認める事が出来ませぬ。

人生の価値と云ふ事は、果してそ一云ふ実在があるであろ一か。私共の価値と云ふのは果して何処にあるであろ一か。何を言ふのであろ一か。あなた方は何が人生の価値であるとお考へですか。

此の間の運動会は多少の欠点はあつたとしても、大体から言へば、よく出来た、してよかつたと思ふ者は………大多数
運動会と云ふものは、まあ、遊びであるが、只の遊びばかりでもない。一昨日は天長節で、日頃よりもおいしい御馳走をあがつたでしよ一。冬休みになつたならば郷里へ帰つて、両親の許で元旦の御祝ひを述べる。そ一してお母さんが新し

い着物を買って下さる。之れも中々楽しい事である。

そ一云ふ着たり、食べたり、愛する人に逢ったりする。斯う云ふ事が人世の価値である一か。どんな甘い物でも、食べてしまへばそれつきりである。

きれいな衣服でも、毎日着て居れば古くなる。

どんなに慕ふて居る御方でも、死んでしまへばも一逢はれない。

そ一すると、そ一云ふ事も人世の価値ではない様である。只絵の様な、打ち上げた煙火のよ一な、只一寸其処に現れたものでは余り頼みにならぬ。も一少し確実な物として、しっかりと捕へて、自分の物としてしまふよ一なものでないはいけない。ど一しても、しっかりとした、確実な、動かない、永久の物でなくてはいけないと云ふ事になるのです。夫れで今日迄の私共の幼稚な観念、今私共は此の間から観念を養ふと云ふ事を言つて居る。

主義とか目的、又は情操と云ふよ一なもの、即ち Sentiment と云ふ詞で表はす其のものを養はうとして居りますが、我々はど一云ふ所で確かなる実在と云ふものを、何処に於て見出だす事が出来るかと云ふ事ではありますが、是れ迄幼稚な時に、又は国民の開けない時には、一番大切なものは先づ物体、即ち身体に近い客観的対象物でありました。然るに、も一少し進んで見ると、之れは只だ現はれであると云ふ事になったのである。それで其の物質と云ふものはど一云ふものを言ふかと云ふと、之れが Chalk。之れが手です。確かに自分の手に触る。又、家と云ふものが確かに目に入る。又、今鐘がなった。確かに耳に入るのである。そこで私は、此に Chalk がある、家がある、鐘がなったと云ふ事をきめる。確かに物がある、音が聞こえて居ると云ふ事は、その本を追求して行くと、其の一番の本は何かと云ふと、これは物体である。重りがある。形がある。力がある。併し其の Chalk がある、重りがあるときめる、其のきめる物は何かと云ふと、やはり自分の中にあるのである。夫れは何できめるかと云ふと、手の触覚、目の視覚、及び耳の聴覚である。此の見るとか、触るとか、聞くとか云ふ事をわかるものは、やはり内に属して居る。そ一して、これを物体としてきめるものも内にあるので、之れを総称して感覚と言ふのであります。

[Appearance]

夫れであるから、此の Matter と云ふ事は感覚である。今日の説明で言へば Appearance、みえである。現象である。其の要素は何かと言ふと、感覚である。

感覚がある為に、之れは Chalk である、家であると云ふ事がきまって来る。其の働きをさして知覚と言ふ。

其の知覚が出来てから Idea 観念と云ふものが出来る。夫れから思想と云ふものが出来る。これを概念と言ひ、概念からまた段々深い方へ進んで参りまして、人間の頭にわかるものを判断と言ひ、判断から推理と云ふものが出来ます。尚ほ其の上にあるのを靈知と申します。其の感覚から靈知に至る迄の種々なる要素がありますが、是れ等が有機的に統一せられた生活を精神と申します。故に、之れは実在の影、現象である。其の一番初めのものを感覚と言ひ、一番多くの要素から

統一せられた力、所謂完成せられたものを靈知と言ひます。之れは其の実在と一つになり、其の実在を感じる所の力であつて、人間の中でも最も進んだものに現る所のものである。

故に、人世と云ふものは複雑極まったものであります。そこで、今迄は客観的の物質と云ふものが一番尊いものと思はれて居りましたが、今日では、これは実在の現はれであると云ふ事になりました。

[人生の価値を現はすもの]

そこで人生の実質、即ち人世の価値を現はす所の確かなる又最も永久なるものは、やはり精神である、内面的の要素がよく同化した所の精神的生活であると云ふ事が言へるのであります。

それで私共の人生の実質、又人生の眞の価値を現はす処の実質は、やはり精神である。精神的活動であります。之れが私共の Life を発揮する所のものである。其の生活がほんとい出来る様になり、其の生活がほんとい Realize する事が出来て始めて、我々は人世の価値を認める事が出来る。自分にはこれだけの Duty がある。

此の Duty を全うするには、之れだけの働きをせねばならぬと云ふ事がわかつて、自覚と云ふものが出来る。そ一して、誰れにも与へられてある処の天才と云ふものが現はれて来る。之れが、最も確実な実体を築くと云ふ働きをするのであります。

故に瞑想すると云ふ事は、只空空寂寂なるもの、只一時の現はれである、只夢を見て居るのであると云ふ様に考へるならば、非常に間違つて居る。

凡ての社会、凡ての歴史に表はれて居る事柄は、凡て人間の心霊の働き、即ち内部の精神力から出来て来るのである。故に、自分は是れだけの尊い処を持つて居るのであると云ふ事を自ら発見する事が出来るのであります。

[物質界の法則]

夫れで、あなた方は化学の実験をなさる。水素と酸素とを合せて夫れに熱を与へると、直ぐ様化合して水が出来る。故に水素と酸素とを合せると、物理界の法則に従つて、きっと水が出来る。之れを応用して、又他の物を実験すると云ふ事、之れは誰れも疑ふ人はない。

又自分達がよく食物を食するならば、之れは必ず胃の中へ入つて、夫れをよくこなす処の胃液と云ふものが必ず出て来る。そ一して、こなれたものは血液に入り、養ひとなるものが身体に回つて不必要なるものが排泄される。故に、身体をよくするには食物にも気をつけねばならぬと云ふ事がわかる。これによって私共は又四圍の境遇を支配する事が必要であると云ふ様に、物理界の事は誠に確実である。

[心霊上の法則]

所が、私共が此の頃、漸う心理の研究が出来て、そこで Sentiment と云ふものはど一云ふ要素から出来て居るか、又ど一して夫れが養はれて行くものかと云ふ様な心霊上の法則に就いては、何だか不確かな様な気がして、信じにくい様な気がする。これは習慣であります。

思想と思想との親和力と云ふ様なものが誠に大切である。

これから人世が進められて来たと云ふ様な事が信じにくい。故に思想界の進歩が行はれにくい。宗教と云ふ様な事は只 Dogma によって信じられて居たと云ふ様な事がある。けれども私共の様な仕方は今迄なかったのであるが、今漸く研究し初むる様になったのです。之れが確信せられないと、そー云ふ風に頭を向けて行かれぬと云ふ様な困難があります。

夫れで極少数であったけれども、そー云ふ Sentiment が出来かけて来たならば、之れを枯らさない様に充分養って根を深くし、枝葉を拓がる様に勉めたと云ふ事である。これは、どなたにも必要な事でありませうから、銘々其の経験をなさる事が大切であります。

[今日の学生]

今、思想…Sentiment と云ふものの要素について申しましたが、此れに深い意味がある。

今日の学生には何故、確信が出来ぬか。実感が伴はないか。理屈ではわかって居るけれども、之れは只冷めたいものである。然るに、感情の伴ふ時は熱心である。主義である。信仰である。

今日の学生には何故この熱心、非常なる精神の活動が出来ないかと云ふと、今言ふ精神的生命にならないのである。これは如何云ふ訳であるか。之れが、今非常に大切な問題であります。

[主意説]

十七世紀の始め頃、ヘーゲルなどの主知説が盛んでありますが、此の頃ヂューエーとかゼームス、或はヴントと云ふ様な心理学者によって非常に態度が變つて参りました。其の主義を主意説と言ふ。前のは其の真髓が主知説であつて、冷めたいものであるが、此の確信を重んずる方は主意説と言つて、其の本は意志である。これを主行説とも言ふのです。この説によれば、真理と云ふものは只頭で知ると云ふばかりではなく、意志と行ひになると云ふ土台がある。其の Sentiment が行ひにならねば役には立たぬのである。其の意志の働きの少なくなつて、行ひに表はれぬ時は其の意志は逃げてしまふ。只影になり、無能になつてしまふ。故に行ひになれば賞鑑と云ふ事が起り、態度が變つて来るのである。

今日の学生に何故にこの Sentiment が育たないかと云ふと、只主知説に傾いて意志がない。活動を欠いて居ると云ふ事に帰する。私共の心の根底に意志があるならば、必ず活動となつて高尚なる行為となり、立派なる人格が形成せられて益々 Sentiment が高まつて来る。そーして益々深遠なる思想、高尚なる生活が味ははれて来る。其処に達しなければ、どーしても人生の価値は認められないのであります。

若し思想が枯れるとか、つまらない考へが起るとか云ふ時には、成るだけそれにかまはないで捨て置く。それでも尚ほ強くなつて困る時は、出来るだけ強い批評を試みて、よい観念を育て行かぬばならぬ。

これが婦人には六つかしいと云ふ事は、どーしても意志が弱い、そーして知が足りないと云ふ事になる。故に、どーしても意志を養はねばならぬ。そーして、ほんとの行為になる迄、ほんとの精神的生活の出来る様にしたいと云ふ事が、

私の望みである。

そーすると、ほんとの人生の生活が認められ、ほんとの天職もわかる様になり、ほんとの幸福が味ははれる様になります。

これについては靈知と云ふものがわからねばならぬ。そーして、之れはどーして養ふべきものであるかと云ふ事について申さねばなりません、之れは今日申す暇がありませんから、他日申す事に致しませう。

終りに一寸御相談申す事がありますが、此の間の天長節の時に申した様に、此の秋、全校に対して申さねばならぬ事がある。

これは少し洩らしておきました Attitude と云ふ様な事がありますが、当分は水曜と土曜とをあけておいて、必要があれば別々にする事にして、大体は一緒にしてはどーであるか。三年、二年にもはかりましたが、そーしてもらひたいと云ふ事でありました。あなた方にも御相談するから、打ち明けて言つて戴きたい。

夫れでは、土曜日のかまりに水曜日に一緒にして貰つてもよいと云ふ事ならば、当分そー一致しましよー。

[中表紙]

大学部及び予科全体の御話

明治四十三年十一月九日

明治四十三年十一月九日

大学部及び予科全体

此の学期の始めに申しておきましたよーに、先づ一番先に此の学年に最も必要と思ふ態度を作る。即ち、も少し之れをしっかりと永久的の力あるものとする必要がある。少し夫れに取かゝりましたが、尚ほ此の際、一層此の点に力を集めて見たい。即ち全校の強固な傾きを此の際に建設したいと云ふ必要から、及び其の外の事情からして、今日から大学部及び予科全体共に会することに致しました。

一番始めに三年及び二年に計つた処が、喜んで歓迎すると云ふことでありました。夫れで此の前の土曜日に一年及び予科に計りました処が、少々三年と一緒に歩を進めることは困難であることは無論であるが、非常に勇気を出しまして其の通りに願ひたいと云ふことでありましたから、今日此に会したのであります。

そこで今私が一番始めに知りたいのは、此の前から申して居る自動的態度がどの程度迄出来て居るものであるか。又、其の実行力が果して着実に働いて居る者であるか。其の實際を明らかにしておきたいと思ふのであります。今日は各学級から其の模様を聞きたいのでありますが、到底時がありませんから、先づ全体の代表者たる三年各部から極簡短に始めに現況を一寸御話になつたならば私もよくわかり、二年、一年、予科、指導者及び卒業生にも、大学部の程度及び態度がわか

るであろうと思ひます。故に、どの部からでも、お感じになつた方から早く仰つて戴きたい。

(生徒の答を省く)

時を取りますから尋ねて参りますから、銘々成るべく其の意志を明らかに表はして戴きたい。始めに態度と云ふ意義を明らかにして置きたい。英語で言ふ The attitude、日本語の態度と云ふ詞は余程以前から使つて参りました。又あなたの方の中でも始終使はれて居る詞であるから、多分意義は分つて居るであろうと思ひますが、過日或る処へ参りまして大学生と中学生に此の Attitude の意義を尋ねた処が、はっきり分らないのであります。そ一云ふことを私は此の間見出だしましたから、之れをあなた方に聞くのであります。

態度と云ふ字の意義が、人に分るよ一に言はれるでありますよ一か。答への出来る者は手を挙げて貰ひたい……

言はれないけれども、意味はわかつて居ると云ふ者は……
……多数

[態度]

態度には二様あるのです。身体にも態度があり、又心にも態度がある。併し之れは身体から来たものである。皆あなた方に態度がある。身構へですね。あの人は傲慢である、あの人は阿呆である、あの人は賢い、あの人は実に丁寧な人であると云ふのは、其の人の身体の位置、身体を持ち様、構へ、座つて居るにも寝て居るにも態度がある。構へ様、仕へ様、身体の平均と云ふ処に Mode がある。夫れが即ち Attitude である。其の Attitude は何処から出ると云ふと、之れは必ず心の態度から表はれるのである。心の態度の根底は何かと云ふと、其の一番の根本となつて働いて居るものは Will 意志である。Will は其の Will の対象物に由つて起る者である。即ち主観と客観との間に起る所の心理状態である。

我が主観が客観の対象物に向ふ所の其の様子が即ち態度である。そして、其の対象物は親友、或は社会、国家に対する、即ち人と云ふもので出来て居るものもあり、又我々の主義、学説、信仰、理想、目的に向つて居る処の対象物もあるのである。夫れで先づ我々の態度と云ふならば、我が意志が、我が境遇である処の客観に対する其の Mode である。之れを、も一一つ碎いて言ふならば、我々が対象物に対して賞賛する、感心する、敬嘆する、或は反対に輕蔑する、嫌悪すると云ふことである。つまり我々が人、友達、国家社会に対して尊敬する、Admire をする、Appreciate すると云ふことであります。

此の前、二、三年生に Adaptation と云ふことを申しましたが、其の選択は態度である。即ち、今自分が進まうか退かうかと云ふ二つの潮流があると仮定するならば、其の選択は之れを態度と言ふ。其の主義に対する態度と言ふのである。

夫れで我々の Will が働く時に於て、其の Will が行ひとなつて活動する時に、必ず我々に態度が表はれるのである。首鼠兩端、逡巡決せずと云ふ、二つの心を持って途中で迷ふて居ると云ふのは、態度を明らかにしないのである。

[態度の必要]

此の態度と云ふものは我々個人の行ひ、我々の品性、個人の Duty と云ふことにも必ずあるべきものである。そして人間

の人格の土台となるべきものであつて、其の人間の力の本源たる可き大切な心理状態である。

同時に団体の關係、団体の態度、又は国家の態度と云ふこともあるのである。夫れで我々が今態度を改めると云ふのも、個人的にも考へ、又全体的にも考へて申して居るのである。夫れで今茲に態度をきめると云ふことが起つて居る。八回生及び全校の態度をきめなければならない。第一に、我々の態度及び主義、方針に対する態度をきめることが必要となる。

[自動的態度]

夫れはど一云ふことかと云ふと、先づ自修の態度、自治の態度、自奮の態度である。所が此の態度をつゞける、実現すると云ふことは非常に困難である。女子の身の上、境遇に於ては殊に一層困難なことである。之れは茲に説明を要しないことである。此の困難が私の言ふ Soul murder である。此の Soul murder が我々の精神を殺すものである。

夫れから其の困難に我々が服従してしまうならば、其の困難に勝つことが出来ないならば、自分から言へば之れは Mental suicide 心靈的自殺である。

そこで態度を改めるには外部の圧迫の爲めに妨げられ、又内部の催眠術に由つて自ら弱くなつて了ふのである。併し、そ一云ふことでは自動的とは言へない。自動的になるには外部から来る困難に反抗する。そ一云ふものに屈せず、之れを排斥して毅然として立つ。自ら勵んで之れに当ると云ふ心理状態を作ると云ふのが、即ち此の自動的態度に改めることになるのである。

あなた方が此の学年には入つてから自動的態度に改めることをきめて先づ始めに試みたのは、此の前から引きつゞいて来て居る所の思想の建設の爲めに、即ち今の世界の思潮に接する爲めに少しく必要のある処を遡り、少しばかり哲学の方に入つて Leibnitz、Spinoza を紹介して、こ一云ふ人の人となり、思想、経験、信仰と云ふものは我國の書物に訳された参考書がないのでもないから、之れを出来得るだけ調べよ一と約束したのである。

処が翻訳書を読んでも、其意を充分に解することが出来ないと云ふことであります。其所で私も之れを読んで見ましたが、成る程之れではわからないと思ひましたので、其の Expression が表れるよ一なものを示したい。英語は骨が折れるけれども、何か印象することを版にして、之れをあなた方に示し、一つは之れも第八回生に由つて書物を使ひ得るよ一になり、複雑なことをも自分で解することが出来るよ一に致したいと考へたのであります。

夫れでいろいろ考へて、雑誌 Life を作ったのである。併し第一号を出した時に、無論、私は此の通りにやれと言ふたのではなかつた。併し幾らか私の真意を解することが出来なかつたのである。夫れに又、私が考へたよりも尚ほ一層力が足りなかつたのである爲めに、ど一も思ふ所に達することが出来なかつたが、此の前にも言つたよ一に、此の学校は Woman University と云ふて日英博覧会にも出したのである。それに外国語が一國語も充分に出来ないならば誠に程度が低いので、とても夫れで高等教育と言ふことは出来ないのである。

外国では英、独、仏、希の四ヶ国の語をやらねば大学生と言ふことは出来ないのである。然るに、我が日本女子大学校では外国語一つも出来ないと言ふことで、将来、我が校の体面を保ち、又社会に後れず進むことが出来るでありましょか。責任に応ずることが出来ましょか。之れでは到底、不可能であります。

今や、二ヶ月前に一千万の朝鮮人を我が国に合し、此の他、台湾人等を併せて二千万人の人口を増加して、之れ等に我が国語を普及し命命を發せねばならないのであるが、之れに我が国語を教へ、我國の片仮名交りの文章を教ふことが出来ましょか。到底、之れは出来ないのである。此に是非とも Rome 字の必要が起るのである。ど一か此に考へ及ぼして、今一つ態度を改めてほしいのである。私が Life を作ったことについて社会ではいろいろ誤解をし、批評をするものがあるが、私は全く、之れはあなたに捧げる為めにしたのである。それで内の為めにのみしたいのであるが、そ一すれば自然あなた方の負担が重くもなるしする所から、外にも応用したのである。それで第二号からは、全くあなたの方になるものばかりにすることは出来ないのであるが、兎に角、之れで外国語の力を養ひ、自動的態度を作りたいのである。

六かしい六かしいと言ふ処に屈伏するのは Soul murder である。精神的自殺である。夫れでは、あなた方の要求する力はあらはれないのであります。そこであなた方に要求するのは、六かしいと言ふことに対する態度を改めることである。自分の前にある迫害を退け、勇氣を持って進む。我れの前にはアルプスなし、と言ふ態度が出来なければ、到底自動的態度は出来ないのである。併し之れを破壊するものに二つある。
[自動的態度を破壊するもの]

一つは外部から来る圧迫。今一つは内から起る暗示である。

此の二つが態度を崩して来るのである。夫れで私は、此の態度でなければど一しても或は成功しない、我々が要求する精神力、知力と言ふ根本の力は出て来ないと信ずるのである。
[我が生涯の旅立ち]

自分はたしかに之れを経験したのである。あなた方には度度お話したよ一に、自分は十三の時に独立、自由と言ふ主義を取って生涯の旅路を始めたのであるが、私が語学の研究をしよ一と決心して、英語を始めよ一と思った其の時に先生に此の事を言ふと、先生は、十五にもなってからとても六かしいである一、と言つて止められたのである。併し私は先生が言つても、父が言つても、叔父が言つても、止めて仕舞ふことは出来ないので試みて居た。

其の時に私は、親戚で一番成功して居る人の所へ行つて、私の主義を話したのである。所が非常にしかられて、其の晩は下男と同じ処に寝かされて、翌日からは水汲みもさせられたのである。そして従兄は私に大学へは入るよ一にすゝめたのであります。けれども私は之れに従ふことが出来なかつた。夫れから七年位は絶交のすがたとなつて、同志者をすゝめて独立主義を立て、頑固なことを言ったのである。併し今から思ふても、人の言つた処に従へばよかつたとは思はない。夫れから自分が アンドーバー でチブスに罹つた時も、も一自分

は斃れる、自分の目的を達することは六つかしいと言ふよ一になつた時にも、自分は決して目的を捨てることが出来なかつた。

けれども金がない。国へも送らなければならぬ。友達にもいろいろ相談をして見たが、ど一も思ふよ一にならない。そこで自分は友人、澤山の伝を書かうと決心した。夫れで自分の先生とも言ふ友に之れを話した所が大反対で、今立派な著書でも中々出版するものがなくて困つて居る時に、そんなものを誰れが出版して呉れるか、と頭から跳ね付けられましたけれども、よろしい、自分には決心があると言つて、二週間一室に閉ぢ籠つて、すっかり之れを書き上げた。之れを外国人に直して貰つて、Modern Paul in Japan として出したのである。処が中々評判がよく、売れたのであります。

夫れから又、自分は或る処で Lecture をして見たのである。処が聴衆には一向わからないと言ふことで、之れではいけないと思つて、書物を声を出して熱心に読んだ処が、夫れを聞いて居た友人は私を呼んで、お前は非常に上手になつた。今度やつたら必ず出来るからやれ、とすゝめられた。そこで或る State で演説をしたのである。所が満堂大に激して、非常に賞賛をして呉れた。夫れから二ヶ月の間に、二、三千ドルの金を得たのである。そ一云ふ時には思想も自然に出るのである。或る時は Boston から急に呼ばれて、演説をして呉れと言ふことである。自分には何の考へもない。併し出来る所迄やつて見よ一と思つてしたのである。所が案外にも、此時も非常に好結果を得たのである。

私は、非常に六かしいことが出来る此の時が忍耐、勝利であると思ひました。又、私が大学を建てると言ふことを相談致しました時に、友人はまだ十五年早いと申しました。来年で十年になりますが、こゝ五年後に之れを主張したら出来るでしよ一か。私の年は六十近くなるのである。我々が企てをして、やろ一と言ふことは、皆人が賛成しないのである。けれども其の困難に挫折しないで、困難に戦ふと言ふ決心に由つて勝利を得、あく迄努力することに由つて外からの圧迫、内の誘惑に勝つて、真理、我が責任、我が理想とする処を貫いて、何物にも妨げられず、我生命、財産を抛ちて只だ信ずる所に向ふ、充分なる決心をして動かないと言ふ、其処に力が出るのである。其の力を得ると数倍の力を得ることが出来、数倍の結果を見ることが出来るのである。そこで我个人、此の女子大学校の歴史を考へて見ましても、如何なるときに最も力が出、人心を動かしたかと云ふと、たしかに精神的生命に由つて困難に戦ひ、自己の力を信じた時であつた。そして態度が凡て一致して、全校が同じ目的に向つて熱中した時である。

今、我々が自動的に進むには、我が信仰を貫くと云ふ決心をするのが何よりも大切なることである。之れが出来たならば、全校は何物も妨げ得ざる力を發揮することが出来るのである。此の力を得なければ、我々は十年期に於て真に満足して人々に証明することは出来まいと思ふのであります。

之れは只、困難に対する態度と言ふことだけを申したのである。実は其の他の事に対する態度をも申すつもりでありま

したが時がありませんから、Life の第二号に、自修の態度、宗教に対する態度、日本が外国に対する態度、及び外国が日本に対する態度、国家が計画に対する態度を主にして、之れから態度を明らかにする、態度を確立する材料を示してあります。尚此の外、外国語に対する態度、教育に対する態度、高等教育に対する態度と云ふよ一なものをもお調べなることを希望致します。

私の真意を解して下さい、今度は六かしいと云ふことに勝って真の大学生活をして下さることを切望するのであります。

今日は夫れだけのことを申しておきますが、分らないこと、又は要求があるならば腹藏なく言ふて下さることを希望致します。

[我儘と盲従せざることとの區別]

我儘と盲従しないと云ふことを混じないよ一にして貰はなければならない。私は従兄の家で水汲み迄もしたが、決して不平は言はなかつた。其処を混じないよ一に。我國の婦人が自らを苦めるものは、此の我儘である。私は沢山の婦人を知って居るが、ど一も自分が分らない。実に氣の毒である。此の人は大分聰明な人であると思ふて居るが、一度困難に遭ふと實に分らなくなる。そして勝手なことばかり考へるのである。之れは社会が狭くて知識が足りないのである。小我を捨て、犠牲の精神に由ると云ふ其処が分らない為めに、御婦人は誠に Insight が分らない。之れを退治しなければ、到底役に立つ人となることは出来ないのである。私がそ一言ふと、女を生意氣にすると云ふ人があるが、夫れは間違である。夫れはあなた方、既におわかりの事と考へます。

ど一か此の一週間に充分御考へになつて、研究なさることを希望するのであります。

[中表紙]

桜楓会例会にての御話
明治四十三年十一月十三日

明治四十三年十一月十三日
桜楓会例会にて

今朝、いろいろ深く感ずる所があつて出かけて来ますと、その旧理科室の前で一人の若い女の人が娘を懐いて来られるのに逢ひました。見たところ、ど一も卒業生でもないよ一であると思ふて居りますと、其の人が私に一寸逢ひたいと云ふことであります。夫れで引き返して帰りました所が、其の子供は故 雑田千尋さんの弟の忘れがたみであつて、年は五つになるそ一であるが、其の連れて来た人は其の奥さんではないのである。奥さんは私に逢ふことがつらいと言つて、其人に頼んで子供を連れて来て貰はれたのである。

所が其の子供がど一しても私に顔を見せないのである。いろいろ言ふけれども、少しも見せない。それでは帰ろ一と言

つて立つても、其の人に顔を押し付けて居てど一しても顔を見せないで、と一と一車夫に懐かれて、やうやく車に乗せられたのである。夫れでよく聞いて見ると、其の子は男子の人には誰れにも顔を見せないで隠れてしまうと云ふことである。之れは英語で言う Shyness 恥かしいと云ふことである。

私は其の子供を見まして、いろいろ人生の事について考へずに居られなかつたのであります。

此の子供に就いて、其のお母さんの事を思ひました。此の子のお母さんは必ず人にもあまり顔を合はさず、常に引っ込み勝ちにして日を送られるのである。此の子供の Shame なことは其のお母さんの写真である。其の子供を見て、非常に悲しく思ひました。それからこゝへ来まして、いろいろあなた方のお話を伺ひまして、我國の前途を思ひ、今日は私の心にいろいろの感じがあるのであります。

[泰西の子供と日本の子供との比較]

我國の娘の子が Shame であることは、America あたりの小供と其の性質が余程ちがうのである。あの小公子などを御覧になつても、小さい子供が御祖父さんの側へ行って無邪氣に物を言ひ、非常に開けた態度がある。夫れに引きかへて、我國の子供は極めて Shame である。又夫れでなければ、西洋の子供のよ一に無邪氣でなく、度を失つたよ一な処がある。

之れは小さい子供であるが、我國の社会を写して居る。夫れでつまり、之れはど一云ふことの表はれであるかと云ふと、何か内に患へを持って来る、悲しくなる、あゝ氣の毒な、哀れな何か人生の無情を感ずるのである。

なぜ子供が恥かしいか、人の前へ顔を出すことが出来ないかと云ふと、之れは、そ一云ふ氣分の起る源はお母さんの心から来て居るのである。お母さんの心には頼りないと云ふ風で、夫を失つて人生のより所を失ふて、勇氣を失ひ、望みもないと云ふ所がある。之れが其の子供に反影して居るのである。

自分が満足するものがなく、味氣ないと云ふ風になれば、其の結果は恐れを懐くのである。社会に対し、人に対し、運命に対し、死に対して恐れを懐く。不安になつて實に弱いものとなるのである。こ一なると考へも出来ず、意志も出来ず、其の日、其の日の生活に追はれて、夢の様に日を送つて行くのである。其の結果は狼狽するのである。事に當つて人間がうろたへると、まるで度をはづしたり反抗心を起したりなどして、氣が荒ら立つて来るのである。

狼狽は内に根本なより所のない処から来るのである。夫れで大小の差異はあれ、あなた方が幾らか夫れを受けて居ると思ふ。

何か心配を持ち、事に逢つてびく付く様な処がありはしまいかと思ふ。あなた方がそ一すれば、之れが次代に伝染するのである。私は今迄、あまり理想的の人に逢ふことが出来ない。何か御婦人に逢へば悲しくなる。あゝ氣の毒であると云ふよ一な感じがするのである。

夫れでど一か、あなた方は人生無情なものであると云ふよ一な恐れから遁れて、自由を得て、永久動くことのない処に我が力を見出し、不安もなく、恐れもないと云ふ丈夫な氣象

を持って、千差万別の境遇に向って動かされないよーになって、大きな心を以て一緒に共同して行くと言ふ、人らしい行ひをしてほしいのであります。

今後あなた方、社会に出てからのことを考へるならば、恐怖の念が出るのは尤もなことであると思ふ。そーしたなら、どーすれば満足な希望ある生活をする事が出来るでありませよーか。夫れは自覚とか独立とか云ふことである。此の自覚と云ふことは最も六かしいことである。之れは又、孤独とはちがう。又、無情になり、冷酷になるのはちがうのである。どーしたならば、ほんといに自覚を得るかと言ふ実を、自分の中に経験なさることが必要であると思ひます。

つまり皆心に無情を感じる、恐怖を感じるのは、夫を失ふた、或は父母を亡くした。夫れから又は仲間なり、親友なり、団体から人望を無くし、批評を受けて同情を失ふたと云ふ時である。実は人間が偉そーに言ふが、夫、父母、仲間、社会から離れ、たった一人孤独であると云ふときには、実に其の人は恐怖を感じるのである。

[人間の本性]

人間の眞の満足を感じずることは団体の生活である。一人より二人がよい。共同する人がある方がよい。出来るだけ心の合つた人が多いのがよい。自分を捧げるものゝ多い方が満足であると云ふことである。

人間と云ふものは、そー云ふものである。其処で其の夫、父母、親友を失ふと云ふことがなかつたならば、人間は不足がなくなるのである。其の道はそれではなかつたかと云ふと、あるのである。私は、そー云ふ無情を感じる処の変化に關はらず、永久の満足とする類る所がなければならぬと思ふ。夫れを得た人が、ほんといの人間たる価値を表はした、又、人間として進んだ人であると思ふ。

夫れは何であるかと云ふと、即ち神である。

Christの力のもとは何であるか。Christの心の中には、いつも神がある。あなたの御心のまゝにと云ふのが、Christの意であった。そして彼れの同情者は天の父であった。Christの力の起りは神である。

全く神と一つになつて生きると云ふ処に彼れの力はあつた。又釈尊、Socrates、Washingtonなどにしても、皆何か信仰を持って居つたのであつた。眞如、Absolute Godと云ふ力、永久の満足する眞理と云ふ処にある。

西洋の婦人が何故、力があるかと云ふと、神を信ずるからである。Christを信じ、之れが我が仲間であると思ひ、之れを朝夕信じて居る。之れが、自分の心をほんといに捧ぐるものである。之れを哲学で説けば六つかしいが、宗教で説けばこーである。

之れを退けて只自覚と言つた所で、眞の力ではない。眞の力の表はれるのは、其の深い力ある命につながつて、其の關係が出来て後である。

夫れが永久の力である。つまり私は、どーしても我国婦人が力が出ないよーにせられる所のものから脱して、眞の信仰を得て、ほんといに自分に人生の幸福を得られんことを希望するのであります。

私共は夫れを Realize することによつて、満足が出来ると思ふ。

あなた方が眞面目に熱心であることは分つて居る。十年期に実を結んで、社会に対しても之れを証明しなければならぬとお考へになることは感謝するのである。

婦人にも男子を超越した人間たる力があるのであるから、其の根本の力を得て、眞に力を得て希望に満ちて行くよーになつて戴きたいと考へるのであります。

之れは根本の非常に六かしいことではありますが、今朝来るときに子供に逢ひ、又あなたのお話を伺つて、人生の事を深く考へた所であります。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十三年十一月十六日

明治四十三年十一月十六日

大学部全体

此の前に自修の態度と云ふことについて、少し端緒を開いておきました。今取つて居る題が、The attitude of self-cultureで、此のCultureと云ふことは誠によい詞である。併し、之れを修養と訳するのも物足りないし、Selfがあるから自修と訳しても、我国で自修と言へば先生から教はつたことをおさらへすることに使はれて居るから、やはり適当な訳ではない。故に、斯う云ふ時には英語で覚えておくのが一番宜しいのです。

[学問のSelf-culture]

其のSelf-cultureと云ふ事は広くも狭くもとられますが、私の此で申すのは広い意味で、学問研究と修養、即ち自修と云ふことで、両方面の意味が其の中に入つて居るのである。

先づ始めに、学問のSelf-cultureと云ふ態度が充分あなた方に出来ましたでせよーか。或は今日は未だ足りない為めに、甚だ危険な態度であるか。其の態度は何に由つて損はるゝものであるかと言ふことを考へねばならぬ。第一、此の態度を損ふものは我が国の教育制度と、之れに伴ふ試験制度である。之れが私の殺人罪と云ふ、きつい詞を使ふた所以である。此の試験制度と東洋の遺伝である社会の傾きとに打ち勝つて、此の反対の力を制して、此の修養をし、此の態度を作ると云ふことは容易なことではない。先づ第一着手として、非常なる覚悟をしなければならぬ。そこで母校第一回生は非常なる覚悟をして大奮闘を試みたのである。夫れは此の一事でもわかると思ふ。

先づ衣食に必要な資格などはどーでもよい。学問の根本とも思はれて居る検定試験などは受けないと云ふことを、いろいろ研究の結果、決意をしたのであります。

然るに此の頃に至つて、母校は教育部家事技芸科、及び文学部と云ふものに対して、無試験検定の資格を要求したので

ある。これは文部省側の意見も聞いて、改めて願書を出したのでありますが、多分通過するでありましょー。

そーすると其の結果、どーしても試験に重きをおかねばならぬ。点数をやかましく言はねばならぬ。そーなると、母校は十年前の主義をかへたではあるまいかと考へらるゝかも知れぬ。又、今日の官報を見ますと、教育部一回生の四人が検定試験に合格した。母校はそー云ふものに対して出来得るだけ補助を与へる。又そー云ふ奨励をするのである。して見ると、母校と云ふものも、やはり社会の風を負けたのである。時代の風習に余儀なく降参したのではあるまいかと考へらるゝかも知れぬ。けれども、これは皮相の観である。母校は決して最初からの主義を一步も譲らないのである。斯う云ふことは説明する時を要しますから、皆さんの判断に任せておきます。

来年から無試験検定の資格を得て、直ぐ様中等教員の免状を文部大臣から貰ふとなると、其の卒業試験には試験官が文部省から立ち合つてすることになります。

そーすると、自ら此の学校が改めんとする処の暗記的學問をして、消化しない知識を沢山集めねばならぬと云ふことになると、折角の校風を害することはあるまいかと云ふ心配がおこるかも知れぬ。我々は如何なることがあつても、十年間養ひ來つた処の根本の主義を傷つけられ、我々の生命とする処の主義を変更せねばならぬと云ふよーなことがあつてはならぬと云ふことを、警戒せねばならぬ。もし万一、其の特権を貰はんが為めに、我々の生命とする処の傾きを損ふよーなことがあるならば、直ぐ様願ひを変更して、死を決して戦ふのである。第一回生が決心したよーに、死を決して飽く迄も戦ふつもりである。又、不知不識の間に、そー云ふ風に傾くことは一步も許さない覚悟であるから、予め之を申しておくのであります。

又、母校が受験者を奨励すると云ふことについては、女子大学もやはり鸚鵡的學問に傾いて來たのではないかと云ふことに対しては、立派に答へることが出来る。之れも、説明をすると時をとりますが、今日あなたのお説みになつた、Self-culture と云ふことに由つて、明らかになるでありましょー。今日迄、試験を受けて通過した人もあり、又失敗した人もありますが、其の人々の主義も動機も、亦其の勉強の仕方についても、一致する処があると云ふことが言はるゝと思ひます。之れは大に注意す可きことであるのみならず、今後受験に志ある人の為、又来年卒業試験に合格すると云ふ覚悟で勉強する人の為、一言申しておくことが必要であると考へます。

此の資格を得よー、又は其の検定試験を受けよーと考へてする試験學問の弊はいろいろあるが、其の中最も甚だしい傾きは利己的の考へで、パンを得よー、己の職業を得よーと云ふこと。次には名誉の為、即ち名利と云ふものに傾き易いのであるが、教育部二部の人の考へを聞くに、母校の為に此の主義を広むる為に微力ではあるが、どーしても之れは受けおかねばならぬと云ふ動機から受けたと云ふことである。之れが、やはり今度力の出た大切な点であると云ふことである。

[検定試験に対する態度]

第二に試験學問に伴ふて起る弊は競争心で、親友のやり損ひでも喜ぶのである。自分だけ名誉を得たい。願はくは自分だけ合格したいと云ふよーな考へになり易いのである。故に試験を受くる者の多くはこっそりと勉強して、人の前では遊んで居るよーな風をするのであります。然るに今度の四人はどーも誠によく共同して、又互によく励まし合ふて、自分もよく出来ねばならぬが仲間も一緒によく出来るよーにと助け合ふたのである。独り受験者が助け合ふたのみならず、同級生が又助けたのであります。

そこで此の仲間は弊が起らなかつたのみならず、互に助け合ふて共同したのである。夏の間は一緒に勉強し、標本をとりに行くにも一緒に旅行をして居つたよーであります。又、試験學問をするには大抵暗記的知識を集め易いのであるが、一年位準備をする、初めから此の事のために義務を欠かないこと、会なども出来るだけ出席する、又動物学を調べるにも原書ですると云ふことを誓ふたのである。文部省で始め試験を受けたのは八十三人。夫れが半分位落されて最後の試験に合格した人は二十人ばかりで、皆男である。婦人は母校の四人ばかりである。何がよく出来たかと云ふと、暗記的でない。そーして判断力を養ふたこと、及び試験官の前へ出てもうろたへない、ちやんと意志で感情を制して、意を誠にして問題に対したから出来たと云ふことである。

即ち、修養と學問とを一致したのである。

之れは第一回生が長い間養ふて、今日、そー云ふ態度が出来たのであります。やはり母校の Self-culture の Attitude を以て勉強したのである。夫れが一番実力がつくのである。

之れは近來の出来事であるが、一例になると思ふから一寸申すのである。之れから段々試験を受けるものが出来、無試験検定の資格を与へらるゝと云ふよーな時に際しては、最もよく其の辺に注意なさることをあなた方に警告しておき、又母校の主義なり校風なりが漸々世の風潮に傾いたのではないと云ふことを申しておくのであります。

我々は一方には、どーか我々の教育制度を改善しよーと思つて居るが、又一方には、先づ Self-culture の Attitude を養はねばならぬと信ずるのであります。之れは皆さんおわかりのことと思ひますが、一層深く研究なさつて、益々健全にならねばならぬと考へます。

[修養の Attitude]

其の次は、我々の修養の方面の Attitude であります。之れを具体的に言へば、宗教或は信仰に対する Attitude と云ふことになるのです。此の 5 頁の左側の一番下の角の Paragraph の処に、我々は何か生きた原理を渴望して居るものである。併し乍ら、私共は只だ Christ 教とか仏教とか又は神道とか云ふよーな極単純なわかり易い信仰で満足が出来にくい。又哲学で言へば、唯物論とか唯心論とか云ふ、只だ学説でも満足することが出来ない。夫れで我々はかう云ふ複雑な思想の中に生活して居るから、又変遷の非常に烈しい時代に順応して居るものであるから、此に何か其の複雑なものを単純にすることが出来る其の矛盾、衝突を除いて、此に統一した処の確

信、或は信仰、目的と云ふものを拵へる力がなければならぬ。夫れはど一したらよいかと云ふと、いろいろの学説、いろいろの信仰を纏める所の力がなくてはならないと云ふことを申したのである。先づ私共が宗教に対して、我が信仰に対する態度をきめねばならぬ。夫れには二つあって

1. Simple faith 独断的の単純なる信仰
2. (空白) 成る可く今日の科学及び哲学等の学理的、科学的に研究した所の真理と一致することの出来る、其の確信を得よーと云ふ態度である。

そこでSimple faithで行かうと思ふと、自ら心が狭隘になつて来る。例へばOrthodoxのChrist教を信ずると、Christ教と云ふ宗教の外は皆外道であるとする。そ一なると仏教は異端である。私だけはChrist教を信ずるから、神の子である。けれども他の信者は皆悪魔であるとする。そ一して迷信に陥る。其の迷信から来る弊害はいろいろあって、大きな宗教にも見ることが出来る。故に、狭隘になること、及び迷信に陥る恐れがあります。ど一でありましょーか、其のSimple faithと云ふ態度で行かれると云ふ人がありましょーか。夫れで行かなければ外に確信の道はないと考へるものは………1

夫れでは到底衝突を免れないし、又ど一しても矛盾を免れないから真理に従ふより外はないと云ふと研究的になるから、ど一しても複雑になるのである。そこで困難は纏まりがつかなくなる。そ一して確信が出来にくくなる。斯う云ふ時には、ど一したらよかろー。此に於て懐疑を生ずる。結論をつけることが出来ないから、始終疑問を持って居る。之れではならぬから解決しよーとすると、批判的になる。其の結果、破壊的になる。其の反対に、建設的態度になると総合的になる。之れを英語でSyntheticと言ふ。

試みに問ひますが、懐疑的態度であるものは………
破壊的態度に属するものは………
然らば、建設的態度であると言はるゝものは………
宜しい。其の態度が一番多い。

此の中にChrist教信者があると思ふ。其の人達でも、仏教は異端である、外道であると思ふことは出来ないであらう。又、仏教信者もありましょーが、耶蘇教は外道であると言ふことは出来ないでしよー。

私共は総合的態度を以て自分の確信とすると云ふことは、誠に困難である。私共は此の複雑なる社会に居つて、如何に総合すればよいか、ど一したら動かない確信が得らるゝかと云ふことが問題であります。そこで、ど一も之れは不可能ではあるまいか。我々が昔Simple faithで、耶蘇教なら耶蘇教によって温かいHeartを養ふことが出来た。然るにそ一云ふ態度で、ど一したならば確信を養ふことが出来るであろーか。之れは大なる問題であります。

是れ迄の科学及び哲学等の学理的に研究したものを統一して、此に単純なる信仰を得たい、其の信仰から生命を發現したいと云ふ訳であります。之れは二年、三年はよくおわかりになったと思ふ。

私は今から十七、八年前、Americaのアンダーヴァーの

Seminaryに於て此の仮説を作つて以来、之れは出来るものである。此の光りに由つて見ることの出来る神より外に神はない。之が一番永久不朽なるものであると云ふことを信ずることが出来ます。併し、只信ずる計りではいけない。夫れが生活の上に行つて生命を發現したい。其の土台を以て此の共同生活の上を実現したいと云ふことが年来の希望でありましたが、近来、一部に夫れが出来かけたかと思ふ。

学問研究の方には幾らか其の態度が出来かけたのであるが、他の一部、即ち修養の方面に於ては、ど一でありましょーか。

今日、私があなた方に発表したいと思ふ事実がある。私は年来、之れを発表する時機を待って居りましたが、今日は多分、其の時機であろーかと思ひますから、ど一か虚心平氣でお聞きになることを希望致します。

そこで私は、あなた方に発表したいことがある。之れは新しい発表ではない。又、あなた方も夫れは不可能であると思はないであろーけれども、夫れは先生の独断ではなかろーかと云ふ考へもある。故に真理であっても、そ一云ふ懸念があるから一言申すのでありますが、之れはあり得ることである。否、少しづつ、も一行はれつゝある真理であると云ふことを発表したいと思ふ。

今から八、九年前は皆、奇異に感じたのである。又、之れは多分空想であろー、又言ふべくして行はれないことであろーと云ふよ一に考へたのである。けれども今日では大分わかりかけたかと思ふ。

夫れは我々の信ずる処の宗教。宗教と云ふ詞を使ふだけでも非難がある。此に耶蘇教でもなく、Christ教でもない新しい宗教を起さうと云ふ訳でもないから、宗教と云ふ詞の取り違へをしないよ一にして貰ひたいのです。私は全体とか団体とか或は精神的な生活とか、いろいろな詞を以て現しました。其の学説の建設は大分試みて居り、あなたの性質はそ一云ふ風に来て居るから、其の要求に適ふ所の境遇を作らねばならぬ。そこで先づ桜楓会と云ふと、或る人は之れを宗教と言ふた人もあるが、そ一軽々しく言ふと却つて輕蔑を受ける虞れがある。併し之れは只の会、組合ではないのである。我々は之れを精神的の結合であると思つて居ります。そこで之れを幾らかあなた方にわかるよ一な組織にしたいと思つて居りますが、一年及び予科にはわかりにくいと思ひますが、通信の四十二年七月二十八日に出したのを御覧になると、よくわかるであろーと考へます。

我々の宗教、音楽もDramaも科学も哲学も、皆我々の祈りとなるのである。凡て、生活に於て現るゝ所のものが、我々の精神的な生活である。夫れで我々はど一しても此に一つの教会の如きもの、寺院の代りになる所のものが出来ねばならぬ。

夫れで私は斯う云ふ未来の宗教、未来の教会と云ふものゝOut lineだけを、一寸あなた方に見せたのである。私の話も甚だまづいのであるが、其のSketchを書いたのは柴田さんであるけれども、未だ拙いものであるが、兎に角一寸洩らしたのです。

[未来の宗教]

之れを話したのは何時の事であつたか。其の時には私の見

聞が狭い為めに、全く自分で発明したものと思つて居りましたが、此の頃に至つて丁度同じことをして居る人がある。時機も殆んど同じことで、丁度十年の経験である。そこで私は非常に興味を持ったのであります。

私は之れを、あなた方がすなほにお聞きになるよ一に紹介したいと思ふ。我々と同じ考へを行ふて居る人が世界にあるならば、之れは実に我々の兄弟姉妹である。

[世界の宗教は一つとなる]

夫れは第一、我々の考へは、世界の宗教は一つになると云ふことである。世界の宗教を東西にして大きく分けると、仏教と Christ 教との二つとなります。此の Christ 教と仏教とは将来、其の根底が一つになるべきもので、将来は此の世界が大きなる潮流に於て、其の根底に於て其の信仰が一つになるであらうと思はれる。其の予想は立つのであるけれども、之れを今説明する暇はありませんが、多分、皆さんにそ一不同意なことはあるまいと思ふ。そ一して、あなた方は科学、哲学、社会学の開けた西洋に於て、東洋の宗教が一つになると云ふことは出来にくいことと考へらるゝであらう。夫れに反して、西洋の文学、美術、科学、哲学と云ふものが東洋の文明に貢献して居ると云ふことは、容易に首肯せらるゝでありますよ一。

第一に、此の仏教と耶蘇教とを一つにした処の、丁度我々が理想にして居りました、今我々が Sketch に書いて居りました両宗教の土台に於て、Synthetic attitude を以て具体的宗教となつて、しかも宗派の儀式を用ひず、迷信を除いて信仰を養つて居る処のものがある。そ一して仏教の要素が西洋に入らないと思ふのは誤りである。今日の哲学の流れは唯心論に行きつゝあるが、其の唯心論の考へは仏教に負ふ所が多いのである。其の重なるものを挙げれば、Schopenhauer、Hartmann が主意論を書いたのが本であると言つても宜しい。今日の総ての学問の中心は心理学であるが、其の本となるものも、亦 Telepathy の本も、やはり仏教で言ふ大我とか真我とか云ふもので、今日、神通力とか天眼とか、いろいろの詞を使つて居るが、是れ等の真理の本は皆、仏教の要素である。

[Campbell]

今耶蘇教会で最も勢力ある、殆んど スポイドン の後継ぎでもしそ一人はキャンベルであるが、此の人が New Theology と云ふものを著して、其の第一を Immanence of God とし、其の次を Universal Peace であるとして居る。又 Boston の有名な牧師、ゴルドン の著書を研究して見ると、確かに仏教から入つた所のものがある。故に、いろいろ形は異つて居るけれども、其の根底に至つては確かに一つに帰する所があると云はねばなりません。

仏教と耶蘇教を始めとして、あらゆる世界の宗教を統一して一つにしたものを Theosophy と言ふ。此の Theosophy には既に十数万の信者があり、其の建てゝ居る学校に財産が一千万円ある。其の金は誰れが出したかと云ふと、全く名前を出さずに出して居る。其の信者の人格、其の仲間の共同に由つて出来たものであります。此の Theosophy と云ふ詞は英語でもなく、独逸語でもない。Theos=God、Sophy=Wise と云ふ

ことで、訳すると神智、若くは神智学と云ふこととなります。

此の Theosophy と云ふ詞は Greece の詞で、数千年前に世界に出来たもので、哲学と同時に生れて居る。つまり、Alexandrian の時代に アモニヤス、又の名は サカス と云ふ非常に人格の高い哲学者がいました。此の人は Christian family に生れて、其の時の Christ 教に反対して、凡ての宗教から真髓をとつて夫れを総合して Theosophy と云ふものを立てた。

哲学と云ふことは真理を愛すると云ふことから出たものであるが、此の Theosophy と云ふことも同じよ一な意味で、神智を愛すると云ふ根底の上に立つて居るのであります。之れが一つの宗教となり、十数万の信者を以て非常に効果を表はして居ると云ふことであります。

我々は殆んど同時に理想を立てゝ努めて参りましたが、Theosophy は着々実効を挙げて居る。夫れから、私が申しました Astral light と云ふことなども、Theosophy に於ては大に重んじて居るのであります。

私は之れは大に注意すべきものであると思つて氣をつけて居りました。

The world-center of Theosophy、之れは、其の Theosophy の Society に居る Professor に手紙を送つて、其の人から 熊々 Life の為めによこされた論文であります。

[H. P. Blavatsky]

も一つ、あなた方に紹介したいと思ふことは、此の Theosophy に土台をおいた人は婦人である。夫れは、パラバスキー と云ふ Russia の婦人で、禪宗に入つて七年間、印度の山中で研究をして、Sanskrit を深く修めて、総ての宗教を総合して其の結果を英語で書いた書物が此に二冊あります。此の人は遂に迫害に逢ふて殉死した人であるが、此の書物を書いたのは今から二十三年前であるが、其の時に之れは二十年早いと言つて居りますが、其の通りで、今から十年前に此の Theosophy が発生したのである。此の書物と今の キャンベル と ゴルドン との著書を読むと、符節を合すよ一であります。

も一つ注意しておきたいことは、Theosophy に二通りある。其の一つは英國にあつて ベザン と云ふ人であるが、私不審に思ふことは、此の人は金を拵へて居る。けれども パラバスキー を中心として World Center Point Loma のやつて居るのは、真に己を捨てゝやつて居るのである。パラバスキーの後を チャヂヌキング (* 注) と云ふ人が継いだのを申すのである。我々は決して Theosophy の信者にならうと云ふのではない。Pragmatism も一つである。皆同じよ一な考へから成りたつたものであります。私はあなた方の御参考までに之れを申すのであります。故に、よく夫れを研究なさることが大切である。

私は、ど一かあなた方の立てた計画をも一つ再考して貰ひたい。我々は十年の星霜を積んで養ひ來つた考へを本として、此に其団体的運動を起さねばならぬ。夫れに大変参考になるから申すのであります。

* 注： Judge, William Quan と思われる。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十三年十一月三十日

明治四十三年十一月三十日

大学部全体

愈々明日から十二月で師走の月には入りまして、今年の中にも一つ、是非あなたが新しい経験をして貰ひたいと思ふのであります。夫れで、此の前に申しました続きに入る前に、自修的態度と云ふことについて、も一つ申しておきたい。之れも時を省く為めに極簡短に申しますから、其の要点を取って貰ひたい。私も近々一寸、関西の方へ出て来なければならぬ。多分、次の水曜日と其の次位は指導者の助けを受けてしなければならぬから、其の仕事をも併せて申しておきたい。本校の最初からの発起人であり評議員である三井男爵並びに奥さんとお嬢さんが、今度世界を回ってお帰りになりましたから、三日の午後一時から一時半頃から此の講堂で、些か歓迎の意を表して、何かお話をしてお戴くことにしたいと考へます。

此の前に自修の態度と云ふことを申して、段々修養の方にも勉強の方にも、段々其の態度を拵へるよーにお勉めになった事は、私の誠に満足する処であります。

[自発]

自修の態度と云ふと、自分で独立して学問をする、成るべく自分の力で物をして行くことと云ふことにとれる。夫れも大切であるが、も一つの方面がある。夫れは人と共同してすると云ふ要素で、之れは此の学校で始めから申して居る自動的態度である。自動と云へば Self-expression であつて、自分の力を他に向つて発射する、即ち自分から他の目的に対して働きかけることで、目的的活動である。故に、之れを欠くと、どーしても自動的態度は出来ないであります。自発と云へば我々の詞に表はれること、筋肉に表はれること、行ひに表はれることである。之れを言ひかへれば、人に教へることであり、導くことであり、人に力を与へて行くことであり、人に同情することであり、人に尊敬を払ふことである。之れが自発であります。

故に、我々は自ら修める、自ら学ぶ、自ら勉めると云ふことは、決して他に対して城壁を設け、人と交通を遮断し、自分と人との範囲を狭くして孤獨的の生活をし、我欲を擅にして居ると云ふことではないのである。故に、自修の態度と云ふことは最もよく我が胸襟を開き、よく人の感化を受け、人の教へを受け、他の刺激を印象すると同時に、我が内に動き、我が内に決し、我が内に思ふたことを、他に向つて之れをわから、之れを行ひ、之れを与へると云ふ態度でなければならぬのである。夫れで我々の主義は、我が学生の態度は、及び我が校の教授並びに寮監指導者の態度は、我々は一方には書生である。一方には先生である、教授である。夫れで本校には学生が一千人あれば同時に先生が一千人あると、斯う言ふのである。今日、殊に私があなた方の態度を注意するのは、

あなた方が Student である、受けるものである、学ぶ者であると云ふ態度は先日来大分出来たよーであるが、も一つ出来ねばならぬことは、教授の態度である。一方には学生として学ぶと同時に、一方には教授たり指導者たる処の態度が出来ねばならぬ。又之れは東西共に、修養と学問とを一致して進む所の人々の最も必要な態度としてとつた所であります。

[理想の師]

東洋で最も我々の理想の先生とする方は孔子であります。孔子はど一言はれましたか。

子曰、三人行、必有我師焉。扱其善者而從之、其不善者而改之。

孔子さんの意味は、わるい人も善い人も、自分の師になるのである。自分の先輩の人も後輩の人も、何か我が学ぶ処がある。我が国にも人のふり見て我がふり直せと云ふ諺があります。何か優れた所があれば人にも教へ、又何か学ぶべき処があれば受けても行くことと云ふ風に致しましたならば、又三人同行者があつたならば、必ず先生があります。私は是れ迄度々他の級では申しましたが、私は子供の時から事を考へて見ると、誠に小さい時から氣をつけて養ふた処の善い品性がある。併し又一方には、大変自ら苦む処の欠点もある。其の善いことはどーして得たかと云ふと、親や先生の教訓もあるけれども、之れにも劣らない力あるものは、友達である。私共も子供の時から寄宿舎に入りまして共同生活を致しましたが、善いことも悪いことも友達から得たことが沢山あります。

急流を泳ぐとか、馬に乗るとか云ふよーな、幾らか自分の身について居る芸がある。数学などは、私共は皆遊ぶ間に友達から教はつたのであります。夫れで今日、万一兵役に徴されて戦場に出ることがあつても、兵士と一所になつたとして、力は無論及ばないかも知れぬが、射的の如きはそー負けないと思ふ。又相撲の如きも私は小さい男であるけれども、随分大きな男と組み合つても負けないのであるが、そー云ふことはどーして学んだかと云ふと、皆友達から教はつたのであります。と云ふのは、皆 Expression で友達と心から面白くするからであります。之れは学問の上にも、修養の上にも応用せらるゝことと考へます。あなた方が此の学校に入つて、品性も学力も大分進んだと云ふことは、教授のおかげもある。けれども、半ば以上は友達からでありましょー。又、人のために尽すと云ふことからであると思ひます。之れは不知不識の間に出来て居ることである。けれども、も一層秩序的に有効に出来るよーにならねばならぬ。

人から受ける、教へると云ふことは、誰れもいやには思ひますまい。けれども、人に教へる、人を導く、人を直すことと云ふことの為めに時を使ふのは損であると云ふよーに感ずるかも知れない。併し決して損ではないので、人に表す、人に発表すると云ふことをせずして、我が力を貯へると云ふことは、如何にしても出来ぬことである。故に、之れがどの位あなた方に出来て居るか云ふことを見たいと思ひます。之れを見るのは複雑であつて調べにくいし、又お互が無意識の間にはして居つても、有効である様に感ずることが六つかしいかと思ひます。夫れで、此の風を充実する為めに見たいと思

ふことがあります。夫れは、此の頃始めました語学を此の方法に由ってして見たいと云ふことであります。

私共が外国語をして、ほんといに外国人と話の出来るよーに、又人の言うことのわかるよーになると云ふことは誠に困難であります。外国へ行って見ると、どーしても外国語を使はねばならぬ。そーすると、凡そ六ヶ月も居ればと通りのことは話せるよーになる。之れは、我れながら驚く可きものである。夫れは何に由って出来るかと云ふと、只だ Expression である。人に向って話しかけるのである。自分の考へを発表すること、之れが一番であります。あなた方が英語を学ぶと云ふことは、唯だ先生に教はるだけでは出来ぬ。自分の調べたことを人に発表すると云ふこと、之れ程力をつけるものはありません。どーしても人に教へる、人に伝へる、話すと云ふことをしなければ、自分のものにはならないのである。之れは独り英語ばかりではなく、修養のことにしても其の他研究にしても同じことであります。どーしても私共が自分の頭だけに閉ち籠って居っては、自力を發揮すると云ふことは出来ないのです。

例へば寮舎の人であるならば、必ず高等女学校の生徒がある。夫れで、今自分の読んだものを寮に帰って下級生に教へる。そーして寮舎の風儀を直さうと云ふ態度になったならば、必ず力が進むのである。又、英文科の人であるならば、他の部の人の為に分つ。寮舎で熱心な人があるならば、何曜日何時ならば私は喜んでと言へば、必ず聞く人は喜んであなたを師として学ぶのであります。

私は、あの夏期学校で各部から講義をなさる、研究の発表をなさるのは、私共は大学者の講義を聞くのと、あなたの講義を聞くのと決して等差はないのである。そー云ふ風に、私共は謙遜なる態度を以て聞きたい人があるならば、知りたい人があるならば喜んで御話をする、出来るだけお助けすると云ふことにならねばならぬ。そーすると三人一緒に行き帰る間にも、確に人に学ぶことも教へることも出来るのであります。之れが若し Selfish があるならば、傲慢があるならば、嫉妬心があるならば、非常な妨げとなるのである。此の利己心と傲慢と嫉妬心と云ふものがあつたならば、人の進歩をも妨ぐるのみならず、自分も常に苦しむのであります。

此の知識の交換、経験の交換、同情の交換、尊敬の交換が行はれなかつたならば、決して進歩は出来ないのです。若しも此の交換が出来たならば、二十四時間の中にどれだけの進歩が出来るかも知れぬ。夫れで私は、どーしても人に教へると云ふこと、自発的の態度がよく行はれねばならぬと思ふ。そこで先づ、之れを英語の研究と云ふことに、よく応用して貰ひたいと思ひます。之れは力に皆、等差がありますから、少しでも長者は其の次の者に伝へて行き、少しでも遅れて居るものは、其の上のものから受けると云ふやうにしてもらひたい。之れが組に於て、寮舎に於て少しでも行はれたならば、私は著しく効果が頭れるかと思ひます。

〔女子高等教育〕

さて、女子の高等教育と云ふことについて今問題となつて居るのは、女子も高等教育を受けねばならぬ。我が国の存在

して行く以上はどーしても必要なことであるから、今日は誰れも問題とする者はないが、併し之れをどー云ふ風にせねばならぬかと云ふことは、識者の間の問題であります。

第一は、Liberal education 特殊教育。立派なる学識ある婦人を作らねばならぬと云ふ問題と、今一つは Professional education 専門教育。

男子と同じよーに大学で、或は国庫の補助に由つても専門高等教育と云ふものを、男子と同じよーに職業を得ることの出来るよーに女子にも授けねばならぬ、せねばならぬと云ふ説がある。併し未だ国状は之れを許さないであります。

我が女子大学は創立十年にして漸くこゝに至つたのでありますが、果して其の孰れをとつて居るであらうか。又、外国に於ける此の教育の問題はどーでありませうか。シカゴ大学の Dean M. Talbot の書いたものが、Life の二号の 107 頁に出て居りますから――

夫れで、そこから材料を求めて此の問題を研究して貰ひたいのである。一日に二時間あるから其の時間を用ひて研究し、猶ほ改良すべき大切な要点があるから、あなた方に由つて之が見出だされたいと思ふのであります。故に、あなた方に読んでおいて貰ひたい所を申しておきませう。

38. Samsara and Nirvana — Selected from "the Gospel of Buddha"
46. A New Light on Forgiveness — By C. F. Dole
104. Environment the Architect of Heredity — By Luther Burbank
107. Educational Needs of College Women

又此の中に、小供の為に寮舎の風儀を直すとか、身体の訓練を導くとか云ふよーなことがあります。寮舎の人も少し部下の人をよくする為に、先づ自分で勉強して後輩の人に教へて見る、導いて見ると云ふことを実行して貰ひたいと思つて入れておきました。若し私が此の次の水曜日に居りませんことになりましたら、是れ等の所をお調べになつて、も一つ之れがお互同志の間に相交換せらるよーになさることを、私の留守になる間の仕事としてやつて貰ひたい。そーして自分で学ぶと云ふことと同時に、人に教へることがどれだけ出来るか、其のなさつたことを此の暮の所感として、お書きになるものゝ中に加へて戴きたいと思ひます。本校の Student として経験なさつたことを報告して貰ひたいのであります。

0

〔Theosophy〕

此の前の続きにかへりまして、Theosophy について私が殊更に之れを紹介したと云ふ理由について、少し此の間申しかけておきましたが、未だ充分おとりになることの出来ん処があると思ふ。

第一に、之れをお読みになつて、余り自分の教へること又は学校のことをほめ過ぎる様に、我田引水の説ではないかと云ふよーに思はれるであらう。そーして其の学説とか教義とか説明とか云ふものが少ないと云ふ感じが起るであらう。

之れは一寸、弁解しておく必要があらうと思ふ。私は此のことについては、いろいろの書物に由つて研究は致しました

が、其の現状を出来るだけ明瞭に書いて貰ひたいと云ふことを頼んでやりました。其の返事として Morris と云ふ人が此の論文を書いてよこしましたが、長いから半分位を之れに掲げて、後は又次のに出すことと致しました。先づ初めの半分は、誠に其の Point Loma の天然が秀麗であつて、一種の仙境の様である。故に、一度此に来るとすっかり俗事を忘れて了つて、靈感に打たれると云ふことを人も言ふのであるから、我々も時に歌ひ、文に作りして居る。其処の建築、美術の如きも殆んど名状す可からざるものであると書いてあります。私は行ったことはありませんが、学習院教授の神田男爵又は渋澤男爵などが先年 Point Loma に行った話を聞くと、其の通りであります。之れは私の問いに答へて書いたのであるから、さ程我田引水ではないのであります。

此の学説なり主義なりは他に書物があつて充分に書いてありますが、此にはないから他の書物に由らねばならぬ。只だあなたの参考として 12 頁の Point Loma—The world center of Theosophy から 16 頁の Katherine Tingley's Raja Yoga system, Educational Ideals made Actualities などの、極 Practical に現れて居る処だけを読んでおいて戴けばよいのである。夫れから起る問題は、此の Theosophy と云ふものは、

- 1) 迷信的ではないか
- 2) 詐欺的ではないか
- 3) 魔術又は催眠術ではないか
- 4) Christ 教の変体ではないか
- 5) 仏教の変体ではないか
- 6) 此の Leader は Tingley と云ふ婦人である。英国ではベザンと云ふ婦人である。之れを起した人は Blavatsky と云ふ婦人である。そ一云ふ婦人から、そ一云ふ精神の起るものであるかと云ふ問題が起ると云ふことがあるかと思ひますが、其の人たちの功業、事跡を調べて見るならば明らかになることであります。

も一つは、其の Theosophy の精神は我が女子大学の精神的な生活と同じものであるかと云ふ問題でありませう。ど一か暫らくは研究的態度をとつて、速断をなさらぬよ一に願ひたい。

先づ第一は Theosophy の目的は何であるかと云ふと、其の根本の問題は真理の追究である。其の元祖の Ammonius 及び其の一派の哲学者を名づけて、Philalethea と言つて居ります。

Phil=Loving
alethea=truth

即ち Lover of Truth、真理の追究者である。

夫れで神智学の土台は Love of truth である。其の要素を分解すれば、凡そ三つに分けることが出来る。

[Theosophy の要素]

1. 第一、一つの絶対的人智の及ぶ可からざる最至尊の神で、万有の根本である。即ち見えるもの、見えざるもの総ての根本となつて居る処の Essence である。

Palestine, Rome にも仏教でも Christ 教でも哲学でも、いろいろの宗派があつたが、其の凡ての宗教、凡ての人生、凡ての哲学の Essence を信ずる。此が我々と一致する処である。

其の真髓は哲学で言ふ實在。仏教で言ふ処の無限絶対。Christ 教の神。猶太教のエホバ。我國の神。支那の天帝。名前が皆違つて居るけれども、実は一つのものであります。

第二、人間の永久不滅の性あることを信ずること。人間の中には永久不滅の Essence がある。死なない、限りなく続く所の Essence がある。其の Essence は Universal soul から発射するものである。故に根本に於ては、人間の Essence と宇宙の Essence とは同一物である。故に我々人間の一番の骨髓には神がある。夫れで Immanence of God と云ふことは、是れから起つて居るのであります。

3. 人間は Divine work 神の働きをすることが出来る。Greece 語では Theology と云ふ。

Theo=God

ology=to work

と云ふことである。人間の中には一種神聖の力が潜在して居るのである。そこで此の三つが Theosophy の信ずる処の要素であります。

1st

Believe in an absolute complete supreme Deity or infinite essence which in the root of all nature of all that is visible and invisible.

2nd

Believe in man's eternal immortal nature universal soul absolute Deity.

3rd

Man can do divine work.

そこで Theosophy には一つの不思議なる力があるのですが、之れを魔術とか催眠術とか云ふ不思議なる力に濫用することを禁じて居るのであります。寧ろ今日行はれて居る催眠術、或は濫用されて居る処の神通力などには反対して、其の弊を防ぐ処の態度を保つて居るのであります。

今日は、此の Theosophy の奥儀迄、之れを起した処の Ammonius Saccas と云ふ、一番神代の有力なる Philosopher、有力なる人格を有し知識をも兼備して居った人々の事、其の頃の哲学などについて申さうと思つて居りましたが、時もなく日が暗くなりましたから、Theosophy の今日の理想を実現した処の實際を少し批評して見るならば、此の前にあげました処の疑問は、Theosophy の実行に由つて半ば氷解することが出来ると思ひます。

迷信とか確実な信仰とか云ふことは、其の結果に由つてわかるのです。實に由つて其の木の性質がわかると云ふことがある。迷信から偉大なる結果は現れることは出来ない。

其の次に、詐欺的行為であるかと云ふことは、其の人の動機に由つて知ることが出来るのであります。此の前に申したよ一に、人間は随分何かの目的で非常なる勇氣、非常なる決心をする者であります。支那人は金を拵へる為に如何なる冒険でも敢て辞せんのです。私が十七年前に America から帰る途中に一人の支那人が居りまして、約千円程貯蓄して居ったのです。併しどんな苦しい時でも仕事をやめずに、と一と一船の中で斃れたのであります。支那人が金を拵へると云ふこ

とは、我が国の勇者 廣瀬中佐が戦死するのと変りはないのである。夫れから学生が一生懸命に勉強する。夫れにはいろいろあるけれども、多くは名誉の為であります。名誉か、利欲か、情欲か、何かの欲の為に働くのである。併し金を拵へると云ふことでなしに死ぬる迄働く人は多くは、至誠の人であります。澤山の如きは、百五十円の月給を以て招かれた。けれども之れを辞して月僅かに七円の月給を貰って死ぬる迄、其の大なる目的の為に献身的に働いて居られました。人間は目的に由つて非常なる勇氣、決心を為すものであります。此の Point Loma に於ける十数万人の働きは、実に己れを忘れて Pioneers work の為めに、功名心、又利己的の目的なく働いて居るのであります。ど一云ふ風に働いて居るかは、此に多分あなた方がお読みになつたらと思ひますが、

A visitor notes with surprise that the cooking, the carpentering, the road making as well as the teaching and the music are done freely ; that the doctor, the dentist and plumber, the lion type operator in the printing shop, and the engineer in the power plant, were all working without wages, working hard, and as far as I could see, very at their tasks ;

此の中に料理をする人、大工をする人、煙管を作る人、機械工業をする人、音楽をする人、教授となる人、裁縫をする人、いろいろある。斯う云ふ人が少しも人にたよることなく、賃金を貰ふことなく、先生は少しも月給などたらずに、誠に幸福に喜んで人を助けて居る。之れは此の事業を助くる為に千萬元の基金があるが、大工、左官、道造りをする人から精神的事業をする先生、宗教家に至る迄、少しも報酬を貰ふことなく、ど一してそ一云ふことが出来るかと云ふと、音楽をする人も裁縫をする人もあるのですけれども、其の仕事をして天職を全うすることを喜び、其の仕事を愛してするのである。彼れ等は之れを Prayer と云ふ。其の仕事、夫れ自身が祈りであり、宗教である。故に其処に学ぶもの、其処で働くものは、一種の精神が発揮すると云ふことであります。

此の Theosophy を開いたお方は博学な、又非常に活動力のある婦人で、語学から言つても六かしい Sanskrit を使ひ、英語も達者で Greece, Hebraic に達し、哲学もかみこなして、之れだけのことをしたのである。此の人にいろいろな悪名をきせる人もあるが、決してそ一ではない。

Missis エヂーと云ふ人は沢山な金を拵へ、人をなほした。又ベザンと云ふ人も沢山な金を拵へて居る。けれども、Blavatsky と云ふ人は少しも金を拵へて居ない。其の終りはと一と一迫害に斃れたのである。私は、婦人であつて是れ程の集中をした人が他にあるであろ一か、実に珍らしい人であると感心して居ります。

又之れをついだ Judge と云ふ人を調べても、亦今の Tingley と云ふ人にしても、ちやんとした財産を持って居る人で、決して金の為にするのではない。兎も角も十数万人の人が共同して、America の如き拜金宗の国に於て彼れ等は全く利益と云ふこと、名誉と云ふものを離れて、何の為に働くであろ一か。そ一かと云つて、自分は何もない、家も成さずと云つて居るのではない。ちやんと家を為して居る人であります。

之れは決して不思議ではない。やゝ我々も是れに似た経験を十年間にしたのであります。

此の桜楓会を起した卒業生、寮監、教授、評議員達の精神は如何に美しいものであるか。我れと云ふものは殆んどないのである。

[村井氏]

森村組の村井と云ふ人が第二の寄附を募つた時、五千円の金に手紙を添へて、ど一言つて来ましたか。此の金は私の血と汗とで拵へたものである、と云つてよこしました。こ一云ふ金を、あなた方の為に出したのであります。此の校に表はれて居る精神と、Point Loma にやつて居ることと違ふかど一か。こ一云ふことが迷信や詐欺で出来るものであろ一か。他の国に於ても實際斯う云ふことが行はれて居ると云ふことは、確かに私共の有力なる研究の材料であると思ふ。又私共の名誉心、利己心、功名心と云ふものを除き去る処のものであります。

之れは実は Occult、宗教で言へば秘密教、仏教で言へば大乘で、私共の心眼を開いて見なければならぬことであります。人類が数千年待ち望んで居つた処の精神が、近代に於て Theosophy となつて実現して居ると云ふことを私は大層喜ぶのであります。

私の浅学の為めに、斯う云ふものゝあることを昨年迄知らなかつたのでありますが、之れは充分研究する必要があると思ひます。ど一かお互に助け合ふて、其処に真理のあると云ふことを研究して貰ひたいのです。

斯く申しても、我々が直ちに其の信者となると云ふ訳ではないから、誤解をなさらぬよ一に。併しど一云ふ国のものであろ一が、又古いものであろ一が、新らしいものであろ一が、男が言はうが、女が言はうが、真理であるならば我々は何処からでも謙つて其の真理をとるのであります。もはや年の暮にもなつて誠に時が少ないのでありますから、皆さんが充分本氣になつて、心眼を開いて研究なさることを望みます。

[中表紙]

三井男爵一行歓迎会にて
明治四十三年十二月六日

三井男爵一行歓迎会

三井男爵御一行が此の頃世界を一周して無事に御帰朝になりまして、本校の発起人からずつと御尽力下さつて、只今、本校の評議員としてお尽し下さる關係からして歓迎の意を表し、且つ御見聞になつたお土産の御話を承りたいと云ふ考へでお招きを致しました所、非常に御多忙の中であるにも拘らず御都合をおつけ下さりまして、男爵御夫婦並びにお嬢さんも御一緒にお出で下さりましたことは、我々の光榮とする所であります。

男爵は創立当時は時々学校へお出でになつたのであります

が、其の後、御病氣におかゝりになったので、其の後お見えにならなかつたのでありますから、只今の生徒の中には今日始めてお目にかゝる方が多かると思ひますから、一応御紹介致しますしよ。

御承知の人も大分あらうと思ひますが、今から十三、四年前に愈々此の女子大学を東京におくと云ふ事を東京の委員会で定めまして、其地を卜するに當りまして、此の目白台に最も適当なる土地のあることをきゝまして、男爵に御相談致しました處、三井家に於て喜んで此の地を女子大学にお捧げ下さつたのであります。

此の女子大学が過去十年間に是れ迄に発達致しましたことは、其地利宜しきを得たと云ふことが第一要件でありました。男爵家並びに小石川の三井さん、も一人三井高保さん、即ち男爵の御兄弟であります、此の御三人が本校の評議員となつて御尽力下さつて居るのであります。

そ一云ふ御縁故もありますから、男爵は此の女子大学のことを深く思ふて下さり、我々々は男爵の御旅行につきましては其の御成功を祈つて居りましたが、今日久し振りでお目にかゝらることは、一同の深く喜ぶ所であります。

此の前の日曜日に、女子教育に関して毎月会と云ふものを開きました。其の時に海軍中将 肝付男爵が始めて毎月会に出席せられまして、其の時に男爵は、此の女子大学の女子教育界に成功することを祈られ、且つ女子高等教育に対していろいろ希望を述べて居らる。其の中に、日本はど一しても海国であるから、今後はど一しても海に雄飛するよ一にならねばならぬ。海を家と思ふ様な人を作り、海に於ける事業を企図する様にならねばならぬ。然るに、陸戦に於ては充分奮戦するけれども、海に向つてはも一つ満足することが出来ないと言ふことを話されて、今から十四、五年前のことであるが、五人の有為の青年を選ぶ時に、坂本中将とかゞ其任に當たりして五人とも事に當つて来たが、其後悉く違約して来た。其原因はお母さんが海を好まない為めに、有為の青年が志をかへて来たと言ふことである。夫れに反して、志を貫いたものは皆、其の母が賛成したからである。

[女子に海事思想を養成すべし]

夫れで我国を海国にする、日本国民を海に雄飛するよ一に導くには、ど一しても、もっとしっかりしたお母さんを育てねばならぬ。殊に海を恐れぬ、海を喜んで渡るよ一な婦人を作らねばならぬ、と言はれた。其の例として、不忍の池の蓮をとり去つて帆走船を浮べて、子供や婦人が帆走船を操つるよ一な練習をさせて、夫れから段々品川沖なり何処へなり出かける様にしたならば、婦人も海に親むよ一になるであらうと思ふが、ど一であらうか、と云ふお話がありました。私は至極賛成である。日本は天然、海の便を与へられてを。故に、之れを利用して教育することが大切である。此の頃いろいろの学校がある。そ一云ふ諸種の学校の中で一番発達すると思ふのは Ship school、即ち船の学校である。

今後、我が国の男子教育にも女子教育にも船の学校を作つて、船の中で生活させ、一年の一部を海の上に教育する。殊に、今後入用になつて来る處の地理学とか外国語とか云ふも

のは、船の上で世界を歩いて見学させる様にしたならば、大に効果がある一と云ふ意見を加へて、私がお話ししたのである。然るに今日、我が国に於て斯くの如く海の上で世界の旅行を試み、見聞をつみ、健康を養ふと云ふ様な研究が盛んになりました。此の前には三井三郎助君御夫婦、及び御一族が遠く海外へ御出でになり、又今度、男爵御夫婦が世界を一周なさつたと云ふことは、國家の爲めにも、亦そ一云ふ方々の爲めにも大に喜ぶ處であります。

今後、國家の勢力を増進する、即ち富國強兵のもととする國民の頭を大きくする、知識を練磨すると云ふことは、斯くの如き旅行、斯くの如き見學に勝るものはない様になるであらう。之れは近來、交通機關が開くるに従ひ、世界が一家のよ一になり、世界の交通機關が益々発達するのである。そこで此の修學旅行、渋沢男爵は此の夏、越後に行かれたことを修學旅行と言はれたから、今此の三井男爵も御同感であらうと思ひますが、その修學旅行を卒へていろいろ御見聞になつたことを伺ひたい。最も此の進んで居る處の世界の知識を我々にわけて戴くことは、誠に仕合せである。私は段々そ一云ふ御話を伺ひたいと思ひますが、今日も少しでも話して戴かれるならば、一同の爲めに誠に仕合せであると思ひます。確かに私は、斯かる修學的御旅行をなさつたことは、皆さんの爲めに有益であつたと信じます。

[若き気分]

男爵御夫婦とも以前とは大にお変りになつて居る處があると言ふことが、お話やら御交際やらでわかると思ふ。簡短に申すならば、今度お帰りになつてから一番初めに私が感じましたことは、お嬢さんは無論お若いのであるが、御夫婦とも大層若くおなりなさつたことである。

此の若いと云ふ氣を作るには要素がいろいろありますが、私は確にお二人の御健康がお勝れになつたと考へます。

此の若い氣分を作る第二の要素は活動である。活動にはいろいろあるが、目に見えない處の頭が大層よく働くよ一におなりなすつたことであります。即ち、年寄と云ふ氣分をつくる頭の停滞と云ふことがお抜けになつて、前でも無論そ一であるが、前よりも一層活動的におなりなさつたと云ふことが、お話などの間に現れて居ります。

第三の要素は、年よになつた印は氣が短くなることです。私は大分長い間御交際をして居りますが、一向氣が短いと云ふ様なこともお見受け致しませんが、お帰りになつてからは、猶広量におなりなさつた。英語で言へば Tolerance と云ふ様な、寛大なる世界大の態度がお出来になつた様である。之れは修養であるから、斯う申すと書生に言ふよ一であるが、決して休んで居つてはならぬ。愈々活動しよ一と云ふ様なお元氣が盛んになられた様であります。

第二の点は、ど一ゆ一時に見出だしたかと云ふと、お帰りになる日は十二時すぎになると云ふことであるから、翌朝私はグランドホテルに行つて、下の方で待つて居りました。取次に頼まうかと思つても忙しそ一であるし、あまり早いから男爵は未だお起きになるまいと思つて居りますと、後の方から誰れやら私の肩に手をかける人があつて、や一ど一である

かと言ふ声でした。之れはと思つて振り向いて見ると、夫れが男爵でありました。万事斯う云ふ風で、極めてお気軽に相接せらるゝよ一におなりなされたのである。奥さんも中々活発におあるきなさるよ一になりました。御承知の方もありませんが、奥さんは前田侯爵と云ふ大名華族の御姫さんでありなされる。中々今度は社交的と言ひましょーか、よい意味で言ふ平民的におなりなされた。三井家も三百年來続いた旧い家柄でありなされるが、今度御洋行なされてからは何やらおっくーでなく、まことに具合がよくなされたのです。

又、第三に御学問をなされたのである。明治の初めに男爵及び三井三郎助君、其他の方々、御兄弟五人連で御洋行なすつて、アメリカのニュージョーゼと云ふ処で学問をなされた。其の時の御話もあるが、今度は一層生きた学問をなされたと云ふことであります。故に、何か一つお土産話を伺はれるならば、一同の爲めに誠に有益であらうと思へます。

(男爵の旅行談を省く)

誠に大切な所をよく御視察になりまして、殊に教育に関する部分を簡短にお述べ下さったのは、是れ迄の我々の主義と一致するのでありますから、西洋の近來の傾きをお述べ下さったのは誠に有益であると思ひます。

我々が、我が国の從來のよ一に表面から監督して居ると知らせるでなく、わからぬ処について居て、生徒は監督者に保護せられて居ると云ふ教育法、之れは誠によいことである。気がつかないで居る位にして依頼心を起さぬ様に、自分で自分の事をする様に育て居ると云ふのはまことによいことであるのみならず、此の学校の仕方と一致する所であります。故に、予て我々がそ一云ふ風にならねばならぬと注意して居りますこととお話し戴きましたのは、確かに皆さんの参考になると思ひます。

第二に、家庭と学校との連絡についての御意見は誠によいことで、大切なことであります。

終りに、西洋の事を何もかも丸呑みにして、すぐ様入れるのはよろしくない。けれども何も彼も日本がよいと思つて、自惚心を以て他を入れられない様にするのはよろしくない。そこで例へば、住居とか衣服のよ一なものも外見のこの様ではあるけれども、大に気分に関係することであるから、よいと思つたことはとるがよろしいと云ふお話、是れも誠に我々の考へと一致する所であります。

西洋はど一して駿々と進むが、東洋は二千年來同じことを墨守して、余り改まらないかと云ふことを考へて見ると、西洋では英國の如く保守と言はれて居る国にても、決して現状に安んじない。此の頃、田所と云ふ参事官が英國から帰つての話に、彼れ等は Great Britain と云ふ書物を著して、Great Britain はど一しても東洋の日本に学ばねばならぬと云ふことを論じて居るそ一である。これを聞いて我々の自惚心を起してはならぬが、殊に宗教、哲学と云ふ様なことは東洋に学ばんとして居るのであります。又、流行と云ふ様なことは東洋に於てはよろしくないこととしてありますが、今、御一行が御帰りになつて、我が校の人々が如何にも質素であると云ふ

ことは非常にお驚きになるであらうと思ふ。又夫れに反対に田舎の学校長達が此校に来らると、女子大学は非常に華美であると云ふ風に見られるかも知れぬ。併し、教員であるから、学生であるからと云つて、黒い色ばかりつけて喪服の様なものばかり着て、身体に纏ふて居りさへすればよいと云ふ風に極端になるのはど一であらうか。我が国では常盤木を愛する。此のかはらない木を愛するのは確かに保守の氣風を作るのである。保守はやがてとしよりの氣分を作るのであります。西洋では決して女から先きにとしよりになりはせぬ。妻でも友達でもとしよりに居ないのがよい。余りとしよりにさいのは嫌ひであるにも拘らず、年よりの稽古をする。日本の様に余り極端に陰氣におさへつけて了うのは、よろしくない。

今朝、私は車の上で小学校の前を通つた時感じましたが、小学生達は如何にも寒さうななりをして、とぼとぼ歩いて居る。あゝ云ふ恰好では寒いはずである。第二の國民と云ふものが斯う云ふ元氣のないことでど一なるものかと、私はつくづく考へました。

西洋では流行と云ふことにも、始終進歩が見えて居る。流行にも、宗教にも、哲学、農業にも、菓物にも Burbank の作つたものなどには東洋風の趣味が入つて居ると云ふことが言へるのである。ともかくも西洋では、どしどし東洋の要素を加へて、又彼方のよい味を出すのである。之れは、私共も大に考ふべきものであらう。

男爵の仰やつたよ一に、只、墨の上にかしこまると云ふことばかりでなく、西洋のよい所は出来る丈入れて行くと云ふことが必要である。今日は、いろいろよい御話を伺つて、我が国は今後ど一ならねばならぬかと云ふことが皆さんにおわかりになつたであらうと思ひまして、心から感謝致すのであります。

一言、私は其のお話につけ加へて、あなた方の参考に供したいと思へます。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十三年十二月七日

明治四十三年十二月七日
第二、三学年にて

此の前に、Theosophy を研究するについて、いろいろ疑問が起るであらうと云ふ事を予想して、是れ迄誤解を受けて居る点を挙げて、少し説明を試みました。未だ時間が足らなかった為、夫れを皆説く事は出来ませんでした。今日も亦夫れに余り時間を使ふと、大切な処に進む事が出来ない。故に、進む途中に於て自ら必要な点を申す方が便利であらうと思ひます。併し Theosophy については此の前に言つた様に、二千年も前から立てた教へがありますが、之を秘密教とも名

づけた様に、公に Christ 教の如く伝道した事がないので、公になって居らぬ。Encyclopedia などに少しある。それから覚醒してから十年にしかならぬから、余り人が知りませぬ。

さて、之を再興しよーとして殉死した Pioneer 即ち先駆者が称へた時には、未だ学説が物質論に傾いて居ったから、余り注意せられて居らぬ。

[千里眼]

今日は千里眼と云ふ事を大学の教授達が研究する様になりましたが、十年前には一種の迷信として、精神病者として、とりあぐる人はなかつたのであろう。夫れと同じよーに、Blavatsky と云ふ人の言つた教へも、或は迷信ではないかと疑はるゝ様な点もあります。併し我々は決して Theosophy の信者と云ふ訳ではない。之れは前に申しました事によつてもおわかりでしょー。故に公平なる態度を以て、とるべき点をとりたいと云ふのである。

[学者間に評せられた Theosophy]

も一つ、学者の間に頭から馬鹿にせられた様な処がある。夫れは Theosophy の Pioneer, Leaders が女性である。女の頭より何の先見出でんやと云ふ偏見があるのです。

丁度昔、Christ が Nazareth と云ふ百姓村から、其の百姓村の貧乏な大工の家から出たので、Nazareth の村から何の預言者が出るものかと、頭から信じなかつたのです。

今日でも女子と云ふと人が馬鹿にする。

私共でも今から十七、八年前迄は書物を読んでも、之は女の書いたものと思つて輕蔑した気味がある。

然し Theosophy の元祖 Ammonius Saccas は男であります。其の後、長く埋没して居つた Theosophy を再興しよーとした其の Pioneer は、Blavatsky である。併しその Blavatsky の先生は男であるけれども、今日猶、Tingley であらうが誰れであらうが、陰から動かして居るのは男である。Blavatsky が死にまして直ぐ其のあとをついだのは、Judge と言つて、やはり男である。

[Theosophy の信者]

そーして、その信者には婦人の教育ある進んだ人も多いが、又男子も決して少くはない。其の中には随分有名な人も公然入つて居る人もあり、又公には入つて居ないが、隠然、其の主義に仲間入りして居る人がある。

Eddy と云ふ Christian science の仲間には識者には少ない様であるが、Theosophy には識者の Followers が多いのである。

夫れで Theosophy が女であると云ふ偏見に対しては、男であると云ふ事が出来る。

今日 Theosophy の信者中には精神界の識者、又平和の唱導者としての有力なる婦人が多い。私は今日、勢力を失つた宗教界の革進は婦人に由つて出来ると信じて居る。又婦人の頭より何の善きもの出でんやと云ふ考への正否は、この二十世紀に於て確定せらるゝ事と思ふ。私はこの二十世紀は婦人の世紀であると確信する。又そー云ふ事が婦人に由つて導かれて居ると云ふ事について、今日は偏見は持たないつもりである。又 Theosophy の元祖である処の Pioneer は男子であると云ふ事は事実であるから、申しておく必要があると思ふ。

[Ammonius]

此の前に、Ammonius Saccas と云ふ人の事は一寸申しておいたから、之れはど一云ふ人であつたかと云ふ事を考へておくのが大切である。其の木と其の種を研究すると云ふ事、又其の木に由つて実を知ると云ふ事は、両方共に大切な事でありませぬ。

Ammonius Saccas、此の人は生れは Christian の家から出まして、其の宗派はネオプラトニスト即ち新プラト一派の学者であり、其の血統は Christian の両親から生れた人である。

[Ammonius の目的]

其の Philosophy が土台となつて出来ました処のこの Theosophy は、その学説については此れから追々申すのでありますが、その Ammonius の一身を捧げて尽しました処の目的は、

To reconcile every system of religion by demonstrating their identical origin to establish one universal creed based on ethics.

総ての宗教制度を統一する事で、彼れは総ての宗教の起りは皆同じであると云ふ事を、倫理、道德の基礎に立ちました処の普遍的教条によつて証拠立てる事によつて、統一を企てたのであります。之れは今の英語を写しておいて、よくお考へになるとわかります。例へば Pragmatism などと言へば、仏教と言へば真如と云ふ様な永久不朽の真理がある。真理は目的であり、やはり意志がある。意志は即ち目的的活動であつて、実行的のものである。故に真理は常に進化し、活動して進む所の實際的のものであると云ふ事が Pragmatism の説であります。要するに宗教も、道德も、哲学も、帰する所は生命である。

[生命]

其の生命と云ふのは Ethical activity 道德的行為、又は目的的活動と言ふべきものである。其の真理の土台に立つた処の普遍的、即ち総ての宗教の基となつて居る Essence を証拠立てる事によつて、総ての宗教は一つであると云ふ事を論証して、総ての宗教を調和、一致させると云ふ事が、此の Ammonius の畢生の目的でありました。

[Ammonius の人格]

此の人の人格はど一かと云ふと、

His life was so blameless and pure. His learning so profound and vast; that several Church Fathers were his secret disciples.

彼れは欠点なく、且つ非常に純潔であつた。又学識はと云ふと、非常に広くて深くあつた。そーして彼れは Christ 教の迷信を排斥した人であつたけれども、其の時代の人々が最も尊敬した所の牧師、祭司と云ふやうな人の多くは、此の Ammonius の隠れたるお弟子であつたと云ふことは、其の時の有名な Christian の書いたものによつてわかります。

[Ammonius の事業]

Clemens とか、Alexandros とか云ふ様な人々も、大層彼れを賞揚し、St. John of Ammonius と言ひ、又 Ammonius の使徒である処の Plotinus は汎く総ての人から尊敬せられた人で

あり、又非常に深い学者であつて、完全なる人格を持って居つた人であると云ふことを言つて居る。

夫れから猶ほ、此の Ammonius は Yoga と名づくる大学の如きものを起し、又 Christian の教会に代る可き処の之れには、System of education と書いてある。

又 Philaleanth (注: Philaletheian と思われる) と云ふ Meditation の System、即ち宗教の組織を組み立てた人である。そ一して彼れは大に総ての宗教、宗派、又総ての国民を此の普遍的教条の下に調和、統一する事を勉めたのである。併し彼れは他の特色ある Christianity、又は仏教、其の他當時に生存して居つた宗派を破壊し全滅すると云ふことはしなかつた。寧ろ彼れは各宗派、各宗教を最も完全に、最も繁盛に育てる、展ばす、欠点を補ふと云ふ事に骨を折つたのであります。此の Movement を評すれば、To purify, to vivify every religion である。総ての宗教を清め、生命を与へ活気を帯びさせ、迷信を除くと云ふ事をしたのであります。そこで Christian は教会を立て、自分の信仰を守り、自分の信徒を生かし、其の迷信を改めさせると云ふ風に、つまり其の教会を益々よく発達させ、衰へたるを再興せしむると云ふよ一な影響を与へ、又仏教にも同じよ一にそ一云ふ態度を以て其の信徒を助け、其の間に広い態度を養ふて、各宗教の間に、各国民の間に、四海兄弟の關係を結びつけて行くと云ふ様な働きをしたのです。

此の Ammonius の働き、及び功業、且つ其の感化力は、中世紀即ち十字軍の起る頃迄、大に此の西洋各国の宗教間の軋轢を減少する所の根底を築くものであると言つても、決して過言ではないであらうと思ふのです。

[我等の希望と一致する点]

其の各宗教、各国民間の調和を増進する様な感化力を發揮した事、及び各宗派の Origin が一つである、各信徒の生命が基をする処の流源は一つである。故に世界各国民、及び其の特色ある各宗教、各信徒は結局同じ兄弟であり、同じ神の子であり、同じく神聖なる本性を持って居るものであると其処へ帰着せしめて、その実行を期したと云ふ点が、私共が日頃希望して居る処のもの一致した一つの点であります。

独り彼れは斯かる仮説を作り、夫れを Demonstration する為に、深い該博なる知識を積んだと云ふ計りでなく、其の理想を我が部落に、我が国民に実行を試みたと云ふ計りでなく、其の当時の交通の出来る範囲の広い世界に於て、其の理想を行ひ、又其の真理を世界の宗教、世界の哲学、世界の學問に照らして、これが証明を試みたのである。

彼れが其の時のローマ帝の援助を受けて 皇帝、及び其の近衛兵に保護せられて遠く東洋の地、即ち印度地方に渡りまして、印度の哲学、印度の Brahma 教、及び仏教等を研究致したのは、實に此の Ammonius が三十九才の時であつた。

[東西の宗教、相通ず]

此の歴史を考へて見ると、此の時の Theosophy に最早この印度の Occultism、秘密教が確かに Ammonius の頭に入つて、西洋の Theosophy の中に要素をなして居るものと云ふ事を推察する事が出来る。又、印度の秘密教の中に西洋の Theosophy

が入つて、東西の間に氣脈が相通じ、東西の魂が相反応したものであると云ふ事を推し測るのは六つかしくはない。

猶、溯つて當時の哲学と哲学、国民と国民との關係などを考へて見ると、最早東西の要素を交へて居るものがあると云ふ事を証明する事は、難からぬ事であらうと思ふ。

そこで Christianity は印度の仏教から本をとつたものであると云ふ説をなす学者が出来たり、又印度の仏教は埃及、及び Hebrew あたりの流れを汲んで居るものではないかと云ふ考へも起るのであります。そ一云ふよ一なことが、少しも跡形のない独断の考へでもないのであらう。無論、Christ 教が仏教から出たものでもなく、仏教が Christ 教から生れたものでもない。併し其の根は、其の流れの本になるものは同じ生命の流れから、同じ真理から、同じ神から出たものであると云ふことは、間違ひないことであらう。夫れから段々其の教義に入つて研究して見ると、其の教義の立て方に相似たるものがある。

[Ammonius の教義]

Ammonius の Doctrine を大別して、Exoteric, Esoteric とする。

Exe=外で、Eso=内と云ふことである。そして教義が二つになります。即ち Exe は外とか、表面とか、公とか云ふことで、常識を以て、人智を以て知ることの出来るもの。Eso とは内、即ち神智、靈智、或は神秘的の教義で、之れを Greater 又は (Secret) と名づけ、Exoteric の方を Lesser 又は (Public) と名づけました。埃及や Greece あたりの教義にも斯う云ふ風にわけてあり、又 Christ 教にも大乘と小乗とに分かれて居る。[馬加伝第四章十一節抜]

Secret は訳すると奥儀となる。Bible のマカ伝の四章の十一節に、Christ が斯う云ふことを言つて居らつしやいます。

And he said unto them, unto you it is given to know the mystery of the kingdom of God: but unto them that are without, all these things are done in parables:

之れを訳すると、イエス、彼れ等に宣はく、神の国の奥儀を爾曹には知ることを賜へど、他の者には総て譬へを以てす、と云ふことになる。夫れで此の奥儀を知ることの出来るものは弟子だけで、他の者には Symbol、譬へしかわからない。故に Christ の教へにも、やはり奥儀と云ふものと、浅い処の表面の真理と云ふものと、此の二つの区別があるのです。

Theosophy で汝等と云ふのは、仏教、Christ 教で言ふ処の大きな字で書いた処の Self であつて、小さな字で書いた self と二通りあるのです。

小さい我れは Finite 又は Final、即ち有限のものである。夫れから無限と云ふ方が大我であります。此の有限なる我れは到底此の無限を悟ることが出来ない。即ち宇宙の秘密、宇宙の大乘を知ることが出来ないのである。併し乍ら、ど一して此の秘密がわかるか、即ち Christ 教で言ふ奥儀が悟られるかと云ふと、

The divine essence could be communicated to the higher spiritual self in a state of ecstasy.

即ち、我々の根底に横たはつて居る処の神性原理が如何に

発現するか、其の発現が即ち光りである、力である。即ち、如何にして宇宙の真理がわかる処の光りが輝き、如何にして我々が神性意志を実現することが出来るか、ほんといに我々の心の内にある要求を満たし得るものであるかと云ふことが其の問題である。

其の発現は此の小さい self と大きな Self、即ち無限なる普遍なる神性原理と、有限なる我れとの交通の際に現れるものである。其の交通の際に現るゝ心の状態を Inecstasy と言ふ。此の詞は Greece 語から来て居るので、其の意味は Stand 或は Being a party である。Ecstasy と云ふことは、我々人間が身体と魂と云ふものと二つあると仮定する。そ一すると身体と心と両方の働いて居るのが我々人間の状態であるが、Ecstasy と云ふことは身体あることを忘れて全く無我となる。即ち、身体と云ふ感覚の支配を離れた、即ち、精神一到、渾身皆魂と云ふ状態。之れを有頂天など云ふ詞も使ふ。或は妙処に達する、或は佳境に入るとか言ひますが、兎も角も、我々の行為に、我々の力に、又我々の悟りを開くに、確に形式の理屈、只だ五官の感覚ばかりではない。人間には一種不可思議なる力を持って居る。電気の如き、Magnet の如き不可思議なる潜勢力がある。其の潜勢力が発揮して身体が邪魔になると云ふ境界を離れて、Inspiration を受けたと云ふよ一なことがある。只だ五官では、只だ計算では計られない処の神秘がある。夫れを見抜く処の眼光が備はり、山をも抜くと云ふよ一な力を発することがある。其の奥儀を悟り、其の力を発すること、之れを Christ 教の方では奥儀と言ひ、仏教では大悟徹底と言ひ、Theosophy の方では之れを Occult 神秘教とも言ふべき Esoteric teaching と云ふ名前を付するのである。

[Life 5 頁 上より二十一行目より二十四行目まで抜]

We can never forget the joy and pleasure, we experience when first we realize our object at the moment of attaining perfection.

夫れから一番終りの処と前の意志の教育と云ふ処に Enthusiasm と云ふことがある。宗教の信仰力と云ふものは、Christ が、熱心、我れをくらへり、と言はれた。此の状態になると、活眼よく活書を読み、眼光紙背に徹すと云ふことになる。

[Life 6 頁 右上より十行目より十五行目まで抜]

Nothing can prevent you from your enthusiastic exploitation. Fear and anxiety have already fled; for have you not awakened to the fullness of the power of the omnipotent, which is even within you?

之れを日本語に訳しますならば、之れ蓋し諸君が常に胸臆には全能力の潜めるあるを自覚せざるが故ならずや、と云ふことであります。

此の一番終りに書いたのは、其の力の発揮であります。

此に深い真理があるのですね。私は今、之れは、Theosophy の奥儀と云ふことは何を言ふのであるかと云ふことを説き明かして居ったのでありますが、仏教などでは大悟徹底と云ふよ一なことである。之れは、少しそ一云ふ経験を持って居る人には分りましょ一が、併し普通予科とか一年とかにはわかりにくいと思ひます。けれども、何かの宗教とか信仰とか

を持って居るならば、そ一わかりにくいことではないでしょう。いろいろ譬へを以て表面だけのことを説くならば、誰れにもよくわかるのであるが、其の奥儀に達して其の経験を自ら味って、所謂、佳境に入ると云ふ処に達しなければならぬ。夫れで私は、も一少し其の学説を紹介することが必要であると思ひます。併し今は Theosophy の教義は何であるかと云ふことを了解し、其の上に Christ 教で言ふ Parables、比喩を以て説明するならば、一層よくおわかりになることと考へます。此の Doctor Wilder と云ふ人は此の状態を斯う言っています。

The soul is camera in which facts and events of future and past, in present alike fixed.

一言で言ふと、我々人間の心は、Spiritual photography 精神的写真であると言っています。其の意味は、我々の魂は写真の Camera である。総ての過去、現在、未来の出来事、即ち宇宙の万象が表現して居る事実が悉く写って来る。夫れを我々の Mind は意識するのである。夫れであるから、此の日常生活の制限ある世界を超えて、此の過去と未来とが現在いまと云ふ我々の心理状態に悉く包含することが出来る。之れを Munsterberg と云ふ Harvard の心理学者は、The past and the future are giving to me only by my present thinking of them. I do not know the past. I know only that I at present think of the past. The present is then only the absolute reality.

此の過去と未来とは、我が現在の考への中に意識するに過ぎない。私は過去の事は知らない。只、現在の考へに由って過去と云ふものを知るだけである。故に只此に現在考へると云ふ意識だけが絶対の実在である。故によく考へて見ると、未来、過去と云ふものは絶対にはないものである。現在、今我々が考へて居ると云ふ中に実在して居るのみである。夫れであるから、此の自分と云ふ Camera の中に宇宙の実在、神の表現が我々の心の中に写ると云ふに過ぎないのである、と言っています。

夫れから Apollonius は、I can see the present and future as in a clear mirror.

只、我々は現在、未来を見ることは、恰も曇りなき鏡に映じて見るが如くに見ることの出来るものである。

The deity sees the future; Common men, only the present; Sage that which is about take place.

神は未来を見ることが出来る。凡人は現在を見ることが出来る、聖人は起らんとすることを見る事が出来ると言っています。夫れで我々の知識、我々の神、我々の大悟徹底とか云ふものは、我々の心に現出する処の鏡なり凸鏡なりに凝点を作ったものに過ぎない。故に、Concentration、Prayer と云ひ、Meditate と云ふのは、我々が其の Camera をよく節度し、よく心理状態を統一して其の統覚を作って、力の本源に達するを申すのであります。

そこで、Theosophy は小さい自我と大きい真我、即ち大我と交通して、無我の境に入る。其の修養として Meditation 或は Prayer 或は Concentration 精神集中と、そ一して大悟徹底し、我々の心に潜在して居る処の神性原理を発見して、我々

の要求する処の力を發揮して理想を実現すると云ふ処に、其の Esoteric teaching 奥儀と云ふものがあるのであります。併し此の Theosophy は只だ夫れだけでは満足しないのである。つまり Ammonius から今日に至る迄、決して個人が無限絶対、或は神と一致して、無我になると云ふ状態になることには止まらないのである。其の本当の意味は、総ての宗教、総ての國民を統一しよ一、即ち我々が先に兄弟姉妹となろ一、そ一して一致和合して宇宙の理想を実現し、世界的、団体的に調和する処の其の Ecstasy に達しよ一と云ふことである。故に Theosophy の目的は、我々の心と心とが真に融合しなければならぬ。二つのものが合ふて一つにならんければならぬ。そこで斯う言ふて居る。

They have entered the inner group and pledged themselves to carry out, as strictly as they can, the rules of the occult body. と云ふことがある。

外部の集まりとか、組織とか、又人々の心と心、感情と感情との集まり、Occult は、秘密 Pledged と云ふことは、我が國に於ては血判をする、君臣の誓ひ、兄弟の契りを結ぶとか、國と國と同盟するとか云ふ時には血判をする。又 Christ 教では Baptism を受ける。我々の卒業式には、又は其の桜楓会の會員となるには Pledge するのである。何を誓ふのであるか。我が儘を捨て、生涯を捧げて、目的の為に兄弟姉妹となつて一つ身体となり、一つ魂となつて、生涯変らない Member となると云ふ誓ひを立て、仲間となるのである。Theosophy の主意が其処にあるのです。夫れがど一云ふ誓ひをするかと云ふと、The pledged member hast become a thorough altruist never to think of himself, and to forget his own vanity and pride, in the thought of the good of his fellow creatures, besides that of his fellow brothers in the esoteric circle.

誓ひを立つるものは全く博愛主義で、人の為に尽すと云ふ態度を作らねばならぬ。善をなし、人の為に尽して、之れを跨るとか、自分の虚栄を食るとか云ふ様な自己的の考へを全く忘れる。又兄弟の為、全体の為に働いて、夫れから虚栄を得よ一とか、高慢なる態度を以てえらばるとか云ふよ一な利己心を去つて、大きな目的の為に、神の為、全体の為に全身、全力を捧げると云ふ誓ひをしなければならぬ。之れが此の Theosophy に入る血判である。

夫れから、ど一云ふ訳で Theosophy は只、小我と大我とが融合しただけではいけないのであるか。其の理由が段々掲げてあります。其の理由を説き明かする時間がありませんが、只私は一言を述べて今日の講義を終ります。

【何故に宗教を研究するか】

私は何故に、あなた方にわかりにくい此の神秘教を説き明かすのであるか。何故に、我々は宗教の研究を實踐倫理に於て致すのでありますか。一言で言へば、是れより他にあなた方の内の要求に應ずることが出来ないからであります。も一一つは、此の道を辿るの外、我々の実力を養ふ、我々の大責任を全うするに適當なる原動力を与ふるものがないからであります。何故に、我々は Pragmatism を説き、Altruism を説き、Spinoza や Leibnitz を研究し、又 Theosophy を紹介するのでありましよ一か。

これは宗教を妨げ、宗教を腐敗せしむる処の迷信を除き、其の情夢を覚まさんが為である。今後、多くの規則を改善し教義を述べるだけで我が國を救ふことは出来ない。青年の精神的要求を満たすことは出来ないのである。故に、ど一しても其の内に潜在して居る、永久尽くことのない其の力の本源を開拓するにあらざれば、到底我々の内なる希望を満たすことは出来ないのであります。然るに夫れは確かなるものである一か、夫れは間違はぬと云ふ証明が出来るであろう一かと云ふ疑ひが又確かに起つて来るが、私は其の疑問に答へることが出来ると思ふ。又あなたの疑ひをはらすに足る程の証拠をあげて、今日では Demonstrate することが出来ると思ふのであります。夫れで実は材料を少し集めまして、あなた方がそ一云ふ問題をお考へになる参考に供したいと思ふたのでありますが、も一時がない。次の会には多分私は居ないであろう一と思ふから、まあ通学のお方はお帰りになつて続けよ一かと思ひましたが、併しも一節季で、あなた方は忙しい、財源が乏しいと云ふのである。併し忙しいから、責任が重いから、力が乏しいから原動力を得なければ、精神一到しなければ、其の責任を全うすることは出来ないのである。併し到底充分おわかりになる様に証明する暇がありません。夫れで私は証明をやめまして、只あなた方が此の Ecstasy と云ふことを御研究なさることをお勧めすると同時に、真の Occult group が出来て、も一一つ心の結合が出来ねばならぬ。此の頃 America の婦人が Ballot なしに、ど一して今日の勢力を得たかと云ふと、In union is strength and harmony と言つて居ります。

これを心理学で言ふと、科学の Center は心理学であるが、其の心理学の中でも十九世紀は無機体の研究でありますし、二十世紀は有機体の研究である。In organic の研究に移つたよ一に、今日は心理学の Center に於て研究せんとする処は、社会心理学である。今後の婦人の力は何処に現れるか。In union occult body に現れる。社会的心理に現れる。宗教も、只だ其の宗派のみに止まらずして、人間と人間との心靈的結合に由つて偉大なる力を感じるのである。今後の研究は In organic の研究に進んで、今迄発見することの出来なかつた種々なる力を見出だすことが出来るよ一になるであろう一。此の女子大学が誠に微力ながらも今日に迄進んだことは、非常なるいろいろの原因要素があるからで、一言には言ふことが出来ませんが、併し此の Union、Corporation の力、我を忘れて全体の為に思ふと云ふ熱誠、其の深い感情の融和、結合にある。此に、も一一つ深い淵源を持つて居ると云ふことを見出だして貰ひたい。ど一しても此の年の中に、己れを捨てると云ふ Baptism を受けて、真に我々の達しよ一と思つて居る其の Ecstasy の頂点に達し、真に精神一到すると云ふ社会心理の發現せんことを希望する。之れを Revival 即ち精神復興と言ひ、之れを宗教の再現と言つて、歴史にも其の説明をすることは出来ないけれども、科学的、哲学的に研究を積んで行くと思ふこともない。けれども、確に斯う云ふ偉大なる力を持つて居るものであると云ふことは誰れも疑ふ人はない迄に、兎も角も私自身には材料を持つて居りますが、あなた方も充分研究なさることを希望致します。

[中表紙]

四十三年まとめ会にての御話

大学部全体 (十二月十四日)

同二年以下予科 (十二月十八日)

文学部一年 (十二月二十四日)

桜楓会例会の御話

明治四十三年十二月十八日

明治四十三年十二月十四日

大学部まとめ会にて

私は今日は東京に居ない筈でありましたが、評議員方の中に段々御病氣の人が多かったために、其の評議員会が来る二十二日迄延びた為に、今日も出席することが出来たのであります。然るに、最も大切な時機に於てあなた方の経験を聞くことが出来まして、私の為にも有益であり、あなた方の為にも大層有益なことで考へます。

今各係からの報告を聞きまして、いろいろ心の中に起りました感じを、斯う云ふ機会に申しておくことが適當であると思ひますが、併し一々委しく申す時間はありませんが、唯だ其の一つ二つを申しませよ。

[厄年]

今日は此の明治四十三年と云ふ年が我が国家にとって、又母校にとってど一云ふものか。私には厄年であったと感ぜられて、最も困難の多い、最も圧迫を感じる年であった。其の年のあなた方の仕事と云ふものは如何なるものであったかと云ふことを考へねばならぬ。殊に此の末は我が母校の第十年に当り、創立の第一期の終りを告げるのであります。私には過去十年のことが、いろいろ思ひ起されるのであります。之れを一言で言ふと、誠にど一も力の薄弱なと云ふことを感ずる。自分の力を考へても、我が国家と云ふことを考へても、我が国御婦人と云ふことを考へても、誠に薄弱と言はねばならぬ。如何にも瘦せ馬に鞭を加へて来たが、如何にも足腰が立たない、未だ弱いと云ふことを感ずるのである。之れはあなた方自らも感じなさることでありませよ。

私は三十年来一日の如く戦ふて参りました。殊に此の大学を起すに当っては非常なる苦痛、非常なる重荷を感じざるを得なかつたのである。併し乍ら、幸にも困難なる時々におきまして我々の希望の達するが如くに見え、我々の要求する力が発現するが如くに見えて、非常に其の希望が高まつたと云ふ経験があった。此の経験は果して夢であったか、空想であったかと云ふと、決してそ一ではない。確に事實であった。確に勝利を得たと云ふ実験は証拠立てられるのである。

併し乍ら、其の力、其の精神が今日迄消長なくして続いたかど一か、夫れがずっと Stately に成長して、今日、充分土台ある力となって居るかど一かと言ひますと、之れは深く考へなければ証拠立つことは出来ない。併し我々は親鳥が日々苦心をして育てて来た処の雛を奪はれた、力を散らされたと云ふことは確かに感ずるのである。今に大なる力が発現

するであらうと思ふ時、最早熟せんとする時に當つて、誠に巧みにちぎられたと云ふことも幾度もある。此の明治四十三年と云ふ年は最も沈衰した時であつたらう。内に貯へんとする力を度々散ぜられたのみならず、社会に向つて及ぼさんとする力を挫かれたのである。我々の力、我々の団体は誠に力弱いものである。

併し之れは常に思ふことであるが、我々は誠に微弱なるものである、力の乏しいものであるが、併し我が国を思へば、斃れて後已むと云ふ外はないのである。此の勇氣を鼓舞し、此の散らされんとする力を集めて、再び興こして行かんければならぬと云ふことは、ど一してもやめることは出来ない。

も一之れで力が尽きたと思ふ時に、再び力を得て今日に至つたのである。猶ほ我々は将来苦戦であるが、之れに打ち勝つて行かうと云ふ確信は續いて居るのである。

斯う言ふと、真相のわからぬ方は亡国論でも稱へるよ一に感ずるかも知れないが、国家の現状を考へて見ると、決して杞憂ではない。国の亡びたと云ふことも歴史にある。世界の強国が衰へたと云ふ活劇も沢山存して居る。故に決して幻想ではないと思ふのである。只私はあなた方の今年の仕事の終りを告げるに當つて、此の困難の中を切り抜けて為す可きことをなさるあなた方が、よく其の難に堪へて忍耐して、此処まで尽して下さつたと云ふことを満足するのであります。

此の年を送ると共に、ど一しても私共が共同して此の勢を挽回しなければならぬ、一発展を促がさんければならぬと考へる。是非私共がこゝに、ど一しても一発展をしなければならぬ、新しい経験を味はねばならぬと云ふことは何であらうか。大分整ふて来た、機関も出来て来たよ一であるけれども、其の機関を動かす処の原動力、熱が足りないよ一であると云ふ今の御話は、私も同感であります。

今日国家の一番欠けて居ることは其の原動力の乏しいこと、力の涸れて居ると云ふことではあるまいか。私共が毎日の生存にも必要である力はど一して出来るか。此の頃の社会学の眼光を以て研究して居る歴史家が国家の興亡を論じて、Romeの興つた時に評して居る詞は、In union there is strength. [Union]

Americaの婦人が政權なして多くの仕事をして居る力は、其の原因は此のUnionである。此の力に由つてFrenchに勝つたと云ふことがRomeの強い所以であると。Athensの亡びたのもこゝである。

我々も常にそ一感じて居る。熱と云ふもの、力と云ふもの、化合と云ふものも皆一つのUnionである。此のUnionに由つて展びるの外はない。我々の知力と云ふもの、意力と云ふもの、將た健康の力から云つても、富みの力から云つても、實に弱いものであるが、ど一して強くなるか、負けんとするかを挽回する所の力は何であるかと云ふと、此のUnionの外にはないのである。人心の一致和合を妨げるものは何であるかと云ふと、つまらない考へである。

我々の狭い考へは、此の一致和合を妨げる処の一大強敵である。我国婦人の欠点は此に在る。何故も——つ立派なる品性が出来ないかと云ふと、此の一致結合を破ると云ふことか

ら起ると思ふ。故にど一しても、あなた方がいろいろの批評を受け、妨げがあり、陰謀があり、する中に於て信ずる所を行ひ、事を成就するには、此に主義があり、確信をおいて一致結合し、充分なる団結力を養ふて、大きなUnionを作ると云ふことにあらざれば、湧くが如き力を養ふことは出来ないと思ふのであります。

多分私は、これには余り疑ひがないであらうと思ふのでありますが、併し此の真意を見出だすと云ふことは誠に六かしいのである。けれども自ら真相を看破し、自ら其の経験を味はうて、十年間私共が祈つて居る所の目的を成就しなければなりません。若し此の力を得たならば、若し此の団結する所の品性が出来たならば、若し此の深い同情が銘々の間に通ずることが出来たならば、私共の責任を全うすることは敢て難いことではあるまいと思ふ。ど一か此の年を終はる迄に充分其の潜勢力を養ふて、私共の行かねばならぬ処に達したいと思ひます。

明治四十三年十二月十八日

大学部二年及一年、予科まとめ会にて

皆さんが熱心に思つてお尽しになつたあなた方の経験、或は決心、態度、及び希望等を聞きまして、誠に愉快に思ひました。又参考になることが沢山あります。猶ほ今日は、あなた方から出来るだけ聞きたいのでありますが、十一時から例會の方へ出る筈でありますから、今日は是れでおくより仕方がないから、一寸終りに私の希望を述べたい。其の前に御注意したいことがあります。到底皆申す暇はありませんから、一つ二つを言ふならば、予科の方からは、今理想と云ふことを研究して居る。理想と云ふものが自分の修養になり、研究になり、誠に大切なものである。又、是れはど一したならば出来るか、如何にすれば理想が確立するかと云ふことを研究しておいでになるそ一であるが、そ一云ふ問題は他の組にもいろいろあるであらうから、夫れを聞きたいと思ひました。又そ一云ふ問題があるならば参考になることを申したいと思ひましたが、今日は時がありませんから別の機会に申しませう。

始めに誰れかが仰つたよ一に、いろいろ六かしい詞を聞き、大きな問題を聞いて驚いたことがある。理想も其の一つであつて、理想とか修養とか云ふことは此の校で始めて聞いたと云ふこと。之れは小さい経験ではあるが、初めて此の学校へ入つた人をお導きになる先輩で氣をつけて戴きたい。私は全校を導くのであるから、そ一云ふことまで一々細かく申すことは出来ませんが、指導者とか上級生とかに由つて夫れがよくわかるよ一に導いて戴きたい。

そ一云ふ時に余程注意せねばならぬことは、使ふ詞である。も一一つは、そ一云ふ詞を聞いて味はうて、あなた方の物になつて夫れを使ふとか、又文章に書いた時に、或は国へ帰つて父母に話す時に、覚えがらず出るのである。そ一云ふ時

によく氣をつけて貰はないと誤解を起すのである。例へば理想と云ふよ一なことは、此の学校で言ふのと世間で使つて居るのと違ふのであります。世間では理想と言へば、氏なくして玉の輿に乗る、と云ふ風に、高位高官の人、或は富裕なる家に嫁ぐ為に高尚なる教育を受けると云ふ意味に使つて居るのである。所が我々の使つて居るのは大に違ふので、そ一云ふことは少しも理想ではなく、甚だ俗なこととして居る。故に同じ理想と云ふ詞でも、使ふ所の意味が違つて居るのであります。故に、詞と云ふものは余程氣をつけねばならぬ。も一一つ御注意をしておきますが、夫れならばそ一云ふ六かしい詞は少しも使ふてはならぬかと云ふと、そ一ではない。詞は命であつて、決して機械ではない。命があるならば始終、成長、発達して居るものであるから、私共の思想が進歩し、発達し、私共の人格及び人格の集まりである所の社会が進むならば、詞も亦必ず進歩、発達するのである。故に私共が思想を発達させよ一と思ふならば、必ず言葉をも発達させねばならぬ。ど一しても私共の頭が其の時代の思想と共に進んで居なければ、其の思想に触れて居らずして只文字を知つて居たからとて、決して書物や雑誌の読めるものではない。そして、思想の進むと共に詞は始終進んで行きよるから、ど一しても新しい詞は使はねばならぬ。今此の中で、又普通予科で理想と云ふ詞を使つて居るならば、其の時の意味がある。他の組には一寸わからぬかも知れぬ。夫れで此の時の詞を知ると云ふことは誠に大切なことであります。故に詞がわからぬと云ふのは、只詞がわからぬのではなく、其の時代の思想に触れて居ないと云ふことである。例へば、Pragmatismと云ふ詞の起りはGrecianであるが、夫れをとつてJamesが使つたのは近來である。

併し、今日 Pragmatism と云ふ詞は新しいものとなつて居るのであります。故に新しい詞、又 Technical term と云ふものは知つて居なければならぬから、使つてゐると云ふのではないが、注意して使はねばなりません。

又、十年祭と云ふことを仰つた。之れは前に私が十年祭の祭壇に捧ぐべき実と云ふことを詩的に申したのである。故に、場合に由つては、そ一云ふ詞を使つてもよい。又記念会の如きは、此の学校では最も精神的に致します。又宗教的にするのであります。宗教と言つても世間で言ふのとは違ひますが、併し十年祭と言ふと、批評する人はお祭り騒ぎをすると思ふかも知れぬ。も一あなた方が国へ御帰りになることも、も一直であるから、一寸初めに御注意をしておくのであります。

いろいろ二年及び一年と予科に対して、別々に少し私の希望を述べておきたいと思ひますが、時間がない為に充分おわかりになるよ一に申すことが出来ませんが、極簡単に申しておきますから、夫れについて銘々よく考へて戴きたい。二年生は皆さんが自覚しておいでになるよ一に、丁度本校の十一年、即ち第二の発展を起して行く所の責任を負つておいでになると云ふ。あなた方は今も仰つたよ一に、余り責任が重すぎて氣が弱つたと云ふよ一に、非常に重大なる責任を、未だそこ迄発達して居ない、か弱い双肩に担はねばならぬと

云ふ位置にあなた方があり得るであらう。そして、あなた方は過去十一年間に於て一番沈衰した時代に生れた級であります。故に、其の生徒の数も一回から十一回は未だ出来ないが、十一回迄を予想して見て、一番小さい組である。故に、我が国の近来に一番沈んだ極度に生れた組でありますから、幾分か其の空気を呼吸し、其の影響を蒙らんと云ふことは出来ないことであらうと思ひます。

此の沈衰、停滞の空気は、ど一云ふ原因で出来たかと云ふと、いろいろありますけれども、其の一番有力なる原因は經濟の不振と云ふことである。其の經濟の不振とは貿易の不振で、即ち一番関係のある支那との貿易の不振、又、亜米利加との貿易の不振で、亜米利加の經濟界も振はないと云ふことで、いろいろある。そ一云ふ外からの原因もあるが、一番近い原因は我が国と云ふものが非常に幼稚である時代に於て、二度迄も外国と大戦争を開いた為めに、戦時税を課したことである。戦時税は非常税であつて、まあ、我々の家で言へば火事に逢ふたとか、破産をしたとか云ふことで、衣服を拵へることもやめ、食物もへし、教育も何も彼もやめて了うたと云ふ状態である。斯う云ふ場合に猶ほ戦時税を續けて居ると云ふ訳で、非常に重い事である。此の際、之を弛めることが出来るかと云ふと、出来ない。然らば事業を縮小するかと云ふと、先づ我が国で一番他に誇るべきものは海軍であるが、其の海軍と雖も世界で五番にしかならぬ。故に強い国の 1/5 にも足らぬと云ふ有様であります。そして America の經濟も直りかけた、支那も大分よくなりかけた、外の事情は大分變つて来たけれども、内の有様は依然として改まらない。其の結果、何も彼も消極的にすると云ふ保守的傾向と云ふものが盛んになって、夫れが商業にも工業にも、乃至學問教育に迄及んだのであります。之れが政治のことにも、お医者事にも総てかかる。此の經濟界の不振から保守的傾向になつたので、あなた方は其の極度に達した時に生れた子供である故に、其の為に幾らか元氣を失ふた、萎縮したと云ふ様に感じて居りました。然るに、皆奮起した。英文科も文科も、之れではならぬと皆さんが心づいたのである。夫れで仮令級は小さくても、此に大に之れから勝利を得んければならぬと云ふことにお気づきになって、將に起らんとする元氣を見る事が出来るであらうと思つて居りましたが、今日、直接あなた方から之れを聞きまして、大に意を強うするに足るのである。其の元氣は誠に喜みすべきものである。夫れで其の元氣を益々お続けになって、其の元氣は、も——つ熱を起さねばならぬ。

意志は Fire である。も——つ大きな精神力とならねばならぬ。丁度、二〇三高地を占領した乃木軍の如きものである。沢山戦死するものはあるけれども、士氣は益々振ふたのである。夫れと同じよ一に、二年生がも——つ精神を發揮せねばならぬ。ど一したら斯くの如き精神力が發揮するものであらか、ど一したら其の Fire が起るかと云ふと、女子大学でとつて居る方針は間違はないと思ふ。ど一しても積極的態度をとらねばならぬ。消極、守旧ではいけない。夫れから一致共同、熱心、犠牲の精神である。今、我が国の困難は何である

か。經濟の不振、貧乏と云ふことである。斯う云ふ戦時税を何時迄もかけて居つては、商売の發達は何時迄も出来ない。故に、ど一しても之れを弛めて休養させねばならぬ。

[America の態度]

然らば、ど一したならばよいか。あなた方、Taft の教書を新聞で見ましたらう。Monroe 主義をとつて居つた U.S. は Philippine に於ける軍隊制度も守成的ではない、構成的である。斯くの如き America は、何れの国と戦はんとするのであるか。彼れ等は今後の海戦に間に合ふものを造つて居る。我が国はど一かと云ふと、是れ迄の戦争に間にあふものしか持つて居ない。此の間、進水式を行ふた軍艦一つ造るにも二千万円からいるのであつて、其の上に搭載する軍器だけでも莫大なる金を要するのである。是れ迄軍馬を改良する為に、馬匹改良と云ふよ一なことを頻りに行ひましたが、も一之れからは馬では間に合はない。自動車の競争となるのです。欧米に於ける自動車の数は何十万と云ふのである。此の自動車一つでも何千円と云ふ金を要し、よ一のになると何万円と云ふ価であります。夫れから更に進んでは飛行機の世となるのである。

[飛行機隊]

今、America の飛行機の Record はど一であるか。九千何百呎の高さであるが、我が国のは三十メートルである。此の間 America の人は 1550 哩を試乗したのです。汽車では迂回するから遅くなるのであるけれども、飛行機は直行であるから非常に早い。のみならず、亜米利加では飛行機隊が出来て居る。

そ一云ふ隊が Dynamite や何かを持つて空中を飛んで来て、ぽつと落せばど一することも出来ぬのではないか。是れ等は皆科學を応用して發明につとめた結果である。そして、發明の最も盛んなる處は何処かと言へば America で、發明の Patent は殆んど皆 U.S. で行はれて居る。故に、今日はど一しても科學の研究を盛んにして、Nature の Force を利用するの外はない。然るに、只今日迄のよ一な教育をして、互にこせりあひをして嫉みあつたり、つつきあつたりして居つてよいでしよ一か。独り軍の事ばかりではない。實業にしても何にしても、其の本は家庭である。其の家庭を掌るべき主婦、其の子供の母親となる可き婦人の頭が古くなって、進まなくてもよ一か。だめでであると云ふことは、わかりきつた話である。故に、ど一云ふ方面のことを考へても、我が国を思ふならば、國の前途を思ふならば、ど一しても進むより他はないのである。然るに只經濟の事、目前の事ばかりを思ふて、甚だ近眼である此の時に當つて躊躇する様では、國家全体の上から言つても、あなた方銘々の行末を考へても、非常なる不幸であります。故に、婦人も進まねばならぬと云ふ考へで、進歩的態度を益々固くなさるより外はない。其の次には、どんな事があつても我が國民が共同的に事が出来るよ一にならねばならぬ。一致協同すると云ふ事程、大なる力を生ずるものはありません。實業の事にしても America は非常に大なる Trust を以て當る。故に今後は共同の出来る國が一番強くなるのである。日本は凡ての事に弱く、小さいのである。こ一云ふ國民が垣にせめぐよ一では、ど一しても國家が保たれな

い。其の国民を教育する、母となるあなた方から先づ覚醒しなければならぬ。殊に九回生は、此一云ふ時代にお生れになって、身体から言っても小さいのである。故に、余程よく共同してお働きのならねばならぬ。そこで、どーしてもこゝに大なる熱を起さねばならぬ。九回生の責任は非常に重いのであるから、皆さん、心を協せて互に相助け合ふて、夫れを全うすることが必要であります。

夫れから英文科も、教育部も、文学部も、自分の学部の使命を深く感じてお出でになる様で、之れは誠に結構なことあります。殊に英文二年は身体を弱くした為に元気を失ふたと云ふこともあるが、今日の報告を聞きますと、皆さん身体も強くなり、元氣も盛んになって大分態度が出来たよ一である。之れは今後の高等教育の事を思ふても、國家の必要から考へても、どーしても外国語と云ふものが高等教育を受けたものに使用せられねばならぬ。又あなた方が自修の態度を養ふて、知識の鍵を得るにも欠く可からざるものである。英文科は一、二回には一番元氣があつて、英文科の弊も亦、此の時代にあつたのであるが、三回生に至つて大に其の改む可き所を改め、英氣を貯へて殆んど全体を支配する程のものとなりました。然るに其の後、余り振はないよ一であるが、昨日英文三年の決心を聞いて誠に喜びに堪へないのであります。

そして文科のお話をも聞きましたが、も——つ本校に文学、趣味が発揮しなければならぬと云ふことを私共は非常に切実に感じて居るのであります。

文科一、二回出身の人々の中には、文科と云ふものをどーしても改めねばならぬ、斯う云ふ有様では自滅するより外に仕方がないと迄考へて居る方もあります。夫れは、ど一も文科の命が育たないと云ふことと、古い方に傾いて元氣がないと云ふこともあつて、私共は非常に心配して居りますが、二年の方々も此に氣がおつきになったよ一である。夫れで、ど一しても改善しなければならぬ所があるが、之れがあなた方によつて出来ることを希望するのである。教育部も非常なる必要があつて之れを起したのであるが、冷たい空気に触れて数が少なくなり、夫れが為に幾らか元氣の阻喪したと云ふこともあつたよ一である。けれども皆さんは責任の重大なることを充分自覚なさつたのであるから、其の使命を此の九回生に於て充分果して貰ひたい。之れは、あなた方が自動的態度になれば出来ることと思ふ。

家政学部と云ふものは此の十年間、非常によく発達しました。そ一して最もよく女子大学の主義を天下に顕しました。家政学部の主義と云ふものは、外に向つてもよく拡張したと思ふ。今から十年前、創立の時、一番希望者の多かつたのは国文科であり、其の次は家政部であつた。然るに二回からは家政科が一番多くなり、文科は九回生に至つて一番小さいものとなつた。一年生からは少しもり返して来たよ一であるが、家政科は依然として盛んである。けれども一番勢も強く、人数も多いからして、統一すると云ふことは余程骨を折らねばならぬ。夫れで英文科も、文科も、教育部も非常なる打撃を受けたから、大に奮起して来たよ一である。困難と云ふものは基だ面白くないよ一であるけれども、意志を作るには必要

なものである。故に、此の困難に逢ふて確に意志を発揮したと思ふが、家政科には外からの困難がなく、勢も非常に強いから、余程よく氣をつけないと油断を生ずる。深く醒めて進むと云ふことが六かしいと云ふ心配がないでもない。故に、此の点に御注意なさることが肝要であります。

文科でも英文科でも、亦教育部でも共通のものがあります。又夫れが今後、家庭を作るに必要な要素があります。けれども今後、一番直接必要なものは家政科の上にかゝつて居る。又、直接必要なものゝみを研究しておいでになるから、家政学部の効果を充分あげてもらはねばならぬと云ふことは、國家の急務である。又今後、後進を引き立てゝ行くと云ふことは、家政科の特に力を注ぐべきことであると云ふことも、皆さんおわかりでありませよ一。幸に家政学部と云ふものは我が國で最も歓迎せられたのであるのみならず、合衆國に於ても、英國に於ても、我が校の主義が賛成せられて、家政学部の Course をおかるゝよ一になりました。夫れで私は第九回の家政学部に対して、も——つ自動的態度を作り、我が國の家庭に必要なものであると云ふことを自認して、十年期には何か一つ新らしくすると云ふ意氣を作つて貰ひたい。そこで我々は此の十年期を画して、過去の經驗を参照して大に改善したいと思ふ所があります。

けれども教育と云ふものが、学校ばかりで出来るものではない。学校で行ふて居ることだけでも、直ぐ様実行すると云ふことは基だ六かしい。故にあなた方は、校長は学校の全体について責任を負ふて居るものである。同時に全体に対する權威もあるものである。故に、如何なる改善を計る一とも、教授達の大更迭を計る一とも、校長の考へ——つにある。故に着々改善を計つて貰ひたいと考へるかも知れぬ。之れは一理あることですけれども、帝王と雖も一々御心のまゝに行ひ給ふと云ふことは中々困難である。宗教も同じことで、Christのお出でになった時でも、神の御旨を其の儘行ふと云ふことは困難でありました。如何なるお方と雖も、之れは出来ないことである。殊に学校と云ふ様なものは、一人考へを以てすることは出来ぬ。夫れで之れは凡ての一致共同によらねばならぬ。衆力によつてせねばならぬ。全体の輿論を喚起せねばならぬ。又、此に輿論が起り、凡ての熱望する処のものが出来たなら、始めて改善することが出来るのである。

[学生の意氣]

夫れに一番大切なものは学生であります。國家の消長は國民の元氣によつてきまる様に、学校の空氣を改める、意氣を改める、總てのことの改善をするのは学生の態度、即ち銘々の意氣にあるのである。故に、私の各部に希望することは、ど一か三つの泉とか、講演集とか、其の他の小冊子、会報とか、通信とか、いろいろのものにある。そこで皆さんが手分けをしてお調べになって戴きたい。学校を改善しよ一と思ふならば、ど一しても学校の性質、歴史を知らねばならぬ。丁度、あなた方を教育するには、遺伝からわからねばほんとの事は出来ないよ一に、学校、社会と云ふものを改善しよ一と思ふならば、其の歴史、及び他に対する關係がわからねばならぬ。私は今日の学校を見ても改善すべき所があり、主義、方針の

行はれて居ない処がいろいろある。故に十年を期して、是非改善したいと思ふことがいろいろある。其の實行は何処からするかと云ふと、ど一しても学生からしなければならない。

私共も経験があります。師範学校の学生であつて、師範教育はど一しても斯う云ふことではいかぬと云ふことから、私共は学生であつて改善を計りました。其の爲に出来たこともあり、又今日迄三十年、一日の如く教育に従事するよ一になつた動機も、其処から発して居るのであります。

英文科などもど一するかと云ふと、第一、学生の態度を改めてしたら出来ぬことはないと思つてして参りました。家政科も教育部も其の通りである。文学部の復興も同じことである。故に、あなた方学生の中にそ一云ふ計画が出来て、全体が一致協同してなされるならば、如何なることも為し能はぬことはないと思ふ。之れは余り重い責任を九回生に負はす様であるけれども、仕方はない。あなた方は此の重い責任を負ふてお出でになるのであるから。一年も予科も、今二年に申したことをお含みになつて、よく一致共同して、二年も、も一三年生になるのであるから、よく助けて此の使命を果して戴きたいと思ひます。猶ほ申したいことは次の水曜日に申しましょ一。私はあちらへ参りますが、ど一か皆さん、其の議をまとめて、全体の意志が一つになつて皆が呼吸し、相感するよ一な暖かい空気を作る、そ一云ふ境遇も拵へねばならぬ。ど一か目的を明らかにして、年内に一つの大なる力となつて、年をお迎へになることを希望致します。

明治四十三年十二月二十四日

文学部一年まとめ会にて

極真面目に打ち明けて話して下さつたので、今の傾向がよく分つて誠に喜ばしく感ずるのであります。

其の御話の中に、いろいろ疑問となつて居ること、問題となつて居ることがあるよ一である。私も其の事に対して充分私の意見を言ひたいのであるが、二時に芝へ行く約束があるから、止むを得ない。兎に角、も一つ積極的に進まうと云ふ態度が出来て居ると思ふから、其の態度をつづけてお出でになつたならばよいと思ふ。文科の責任は重いのである。今後思想の方から、いろいろ我が長い間養ふて来た長所を世界的に進めて行く上に、いろいろと Mission を持て居る文学の方には、長い間伝説的に実になつて居ることがあるのを精神界に適当にして行くことは余程六かしいのである。

実は文学部に前から願望する処があつたのであるが、今度は教育と云ふ責任が加はつたのである。我が国の教育に対して此の教育部に大層な望みがあり、責任がある。夫れに対して目的に進みつゝあるかと云ふことは問題である。文学部の改制は時勢の変遷につれて止むを得ない処であります。あなた方一年がど一云ふ根を持ち、ど一云ふ本を持って、ど一云ふ校風が表はれるである一かと、私は大に注意を払ふて居りましたが、今日あなた方の経験を聞いて満足に感ずるので

あります。

[うわつきたる経験ならず]

其の経験は決して上つては居らぬ。皆さんが実が出来て、一つ銘々重い価値を持って居て、大きい責任に向つて進まうと云ふ積極的な処がある。命がないよ一ではない。此の組に臨んで居る間、愉快に過ごすことが出来た内に修養し、又見出だす所があつたと思ふ。文学部は根本の命に入り、又味はうとする所がある。併し又、謙遜な所がある。年と共に改まる一とする処があるから、此の際、願はくば共同してお互に助け合つて進むことが出来たならば誠によいことと思ふ。

それから今、あなた方が問題としてお出しになつたことは、皆大切なことであります。夫れがきまらなければならない。夫れをど一でもよいとして、只だ試験にばかり左右されてはいけぬ。修養と勉強とが一致することが非常に大切なことである。夫れを考へずに無暗みに本を読んでも仕方がない。充分考へて、実行するに易いよ一に束縛を取つて行けば興味も出て、満足して行くことが出来ると思ふ。

尚ほ一層根本の処に進んで、あなたの希望を満し、満足の出来るよ一に、も一つお考へになつて、今度の所感にお書きになるなり、又春になつて逢ひまして聞くことにしてもよろしいのであります。

明治四十三年十二月十八日

桜楓会例会にて

私は八回生に少し申して置くことがあります。今朝、あちらの二年以下の結論会に出まして、いろいろ感ずる処がありまして少し計りあなた方に申したいことがある。夫れは、第一は、母校の元気を回復すること、積極的に進むこと。第二は、改善である。

文科の方でも、いろいろ改善しなければならないと思ふ処がある。英文科の方も、此の頃大分元気が出て参りましたが、尚ほも一少し力を出さなければならぬ。其の他、教育部、家政学部、皆そ一である。実に今のあなたの後継者は極度に達して居るのである。故に十年期を迎ふるに際し、充分覚醒して改善し、進歩せしむるよ一に互に助け合つて進んで戴きたいのである。

此の改善と云ふものは中々困難であつて、容易に出来難いものである。併し、昔から国家社会の改善、教育の改善を計つたものは、皆意気の盛な青年からであつた。学校の改善についても、生徒自身から感じて之れを補はうとしなければならない。

それで丁度十年祭が来るから、あなた方から始めて後継者を導いて行つて戴きたい。それから又、幾らあなた方が感じても、亦先輩が心を協せて呉れなければならないから、お互によく関係をつけて行つて貰ひたい。

今度の大切な時機にあなた方は出るのであるから、後継者をよく助けて、其の意気を回復して、其の実を挙げて貰ひ

たいのであります。よし、卒業はしても、やはり心はこゝを離れず、此に意気を挽回するよーにつとめて戴きたいのであります。二年も人数が少ないのであるが、余程意気が揃うて来ましたから、あなたの方からも充分導いて、全校を動かす処の意気を作るよーにして戴きたいと切に望むのであります。

[中表紙]

豊明寮第七回記念会の御話
明治四十三年十二月十七日

明治四十三年十二月十七日
豊明寮第七回記念会にて

皆さん大概由来は御承知でありましょーが、今から七年前、未だ晚香寮も華山寮も出来ない頃、寮舎が狹隘で多数の希望を満たすことが出来ませんで、是非とも増築の必要が起りました。其時、森村さんは日本銀行の理事をしておいでになりましたが、私は日本銀行の応接所でお目にかゝって、寮舎の大層必要なことを申しました。所が森村さんは、そー云ふ事なら寮舎のことは豊明会の方で何とかしよーと仰やつて、愈々其運びになりました。そーして今の豊明寮の地は、寺田さんの御所有で孟宗の竹林で木もありましたが、寺田さんに御話しすると、学校の為めなら夫れを皆切り開いて、すぐ様おかししてもよいと云ふことで、彼所へ豊明寮を建てることになりました。そして豊明寮の出来たのは、此の学校の第二の発展の上に大なる導きとなつて、遂に此の講堂及び図書館なども出来るよーになりました。そこで森村さん並びに寺田さんをお招きして、毎年此処で記念会を致すことになりました。今年も皆さん非常に御多忙の中を態々おいで下さったことは誠に感謝する所ですが、殊に寺田さんは明朝早々、静岡へお出かけになる筈で、早くお帰りにならねばなりません。故に、先きに御話を願ひたいと存じますから、一寸御紹介致します。

今日の記念会、即ち明治四十三年の十二月十七日と云ふ時機を、私は非常に深く考へて待ち望んで居りましたのは、此の明治四十三年の一月一日、即ち今年の新年の朝を迎へた時から今日迄、殆んど私は今日のあることを忘るゝことが出来なかつたのであります。夫れは、いろいろそこに理由があつて、今年殊にそー深い感じを起す処の理由が私にはあるのである。私が此の十二月十七日を格別に深い感じを持って待つて居りまして、今朝起きまして愈々此の十七日が到来したと云ふことを非常に喜びましたと共に、過去を思ひ、現在を考へ、将来を感つたと共に、私には誠に深い印象をうけて、万感交々起ると云ふ様な時であるのである。夫れで初めに其の理由を一寸お話しして、私の今晚の所感を表したいと考へ

るのであります。

[我国の将来につきて]

今日一時間計り食事を待つて居る間に、寺田さん並びに森村さんと、いろいろ我が国の将来についてお話を致しましたが、寺田さんは今其の所感をおのべになりました。之れを根本的に正すのは、如何しても教育の根本から改めねばならぬ。総ての教育のもとである、即ち国民の母である所の其の女子を作ることからせねばならぬ。之れをするには、何か宗教、即ち信念がなければならぬと云ふこと。之れは森村さんも同感である。我国の昔には仏教とか神道とか云ふものがあつて、人心をひきまどめて居りましたが、そー云ふものも今は殆んど力を失ひました。

然らば、世界の宗教が今、我が国に行はれて居るかと云ふと、夫れも今はないのである。我々の此の頃感じて居ることと皆さん御同感である。只物質の知識のみで国民を養ふと云ふことは出来能はぬことである。

そこで、今日の青年を養ひ、今日の学問、今日の其の境遇に適する所の宗教の如きものです。人間の確信の土台になる処の信念を与へることが、どうしても必要であると云ふ事は、誰れも感じて居ることには相違ないのです。殊に私自身も極く幼い頃から宗教の必要を感じ、そー云ふ問題が始終自分の頭を動かして来まして、今日迄いろいろ変遷して参りましたが、併し其の間一日も宗教の生活、即ち精神的生活を忘れて了つて、そー云ふ修養を怠つて、ものが出来るかと云ふと、決して出来ない。時に仏教を信じ、時に儒教に凝り、時にクリス教に深く入りました。けれども一つ処に止まるのではないから、時にいろいろの問題が起るのである。そー云ふ時には職務をさしおき、小問題はよしておいて、深く考へる。そー云ふ根本の事がきまらないうちは、何も出来るものではありません。之れは凡ての人間の根本問題で、誰れでもそーであると思ふのである。然るに、我國民はどーも、そー云ふ方の興味が働かないのです。そー云ふ問題に余り熱心になる人が少ない様に見えるのです。併しそー云ふ処が出来ませんと、ほんとーに安心し、全力を注いで一つの目的に熱心になる、私共が満足する程の働きを遂げて行く所の力が乏しいのであるのみならず、私共が一つの信念を持つことが出来ませんと、自ら安心して居ることが出来ない。丁度、身体が毎日食物をとらねばならぬと同じ様に、私共の心の本、即ち本性から起る所の其の願ひを満たさず、其の渴をいやさず、其の満足なる生活をして行くことと云ふことは、私は誰れにも出来ないことであらうと思ふのです。夫れで、我々が実際に於て宗教の生活をして居る時に、仏教を信じ、又クリス教教会に入り、いろいろの宗教の儀式を行ふと云ふことも致したのですけれども、今日はいろいろ私共の知識の進んだ所から、子供の時代の迷信的儀式とか形式とか云ふものを皆打ち捨てて了つたのです。然らば、我々の毎日の生活には、そー云ふ宗教の儀式と云ふものは全くなくなつて了つて、そー云ふ発表は少しも用ひずに、そー云ふ機会は少しも与へずに満足出来るものであるかと云ふと、満足が出来ないのである。やはり、子供の時代に於ての子供らしい仕方を捨てましたな

らば、大人になりましたならば又大人に適當する様な方法に於て、我々の道理にも叶ふ様な考へを何かに現して行く、そ一云ふ信念を何かに現して行くと云ふことは、ど一しても必要である。又之れが人間社会に必ずあるべき処の、又人間社会に確かに生きて居る所の實在であると、私は信じて居るのであります。夫れで私は初めに、形ある所の宗教を此の教育に交へることはしないけれども、精神的教育の意味で言ふ宗教の根本と云ふものは加へると云ふことを、初めから出来るだけ世に公言しておきました。

[校風の淵源]

夫れから此の学校を起してから十年間、其校風の淵源として其の精神を養ふことは、一日として怠つて居ないのである。其の深い奥儀を段々と話すことが出来、其の深い心の交通におきまして、こゝで私の行ふ所の迷信を除いた深い宗教の儀式の如きものが、斯う云ふ集會に於て行はるることがほんとおわかりになって、心の満足を得よと思ふものが段々出来たよ一に見える。又、毎年此の記念會に来て下さる森村さん、寺田さん、寮監方の間には、私共が口に言ふことは出来ない処の深い關係がおわかりになって、こゝで宗教に代るべき總ての宗教を支配して居る所の其の宗教に感じまして、いろいろ形式を用ひずに、ほんとおの宗教的敬虔を持ちまして、其の深い心の願ひを達して行くことが出来ると云ふことは、私は心に信ずることが出来るのであります。私は宗教には子供の時から熱心に入つて居りまして、いろいろの經驗を致して居りますが、其の時代と今日と靈的の感じは少しも違はないのみならず、段々深く達せらるると云ふことを私は感ずるのであります。之れは仏教で言へば大乘である。印度教で言へば秘密教である。目に見ることは出来ぬ、手に触れることは出来ぬけれども、実体である。之れは目に見える神様よりも確に深いものであり、生きた經驗であると云ふことを私は信ずることが出来る。又あなたの方の中にも、ど一か此の宗教の儀式を守りたいと云ふ考へを持っておいでの方が少なくはないと思ひます。夫れで斯う云ふ記念の日は、私共のほんとおの意味で言ふ所の宗教の儀式の如きものと思ふ。

私は先祖の法事は致さない。実は、本年の今月今日は、私を教育してくれた処の父親の命日である。も一いつ私が今日を思ふたことは、私の父が此の十二月の十七日になくなりましたのと、私の今の年とが同じである。私は今迄随分、冒險的の生活を致しました。夫れでは是れ迄、も一死ぬるか知らと思ふたことは幾度もあつた。私は多分、自分の父親の年迄は生きないであらう。もし同じ位迄生きられたら満足であらうと思つて居りました。そして私は、自分の身体は微弱なるものである。夫れはも一お話ししたこともありますが、二つの時、池に落ちて死んで居たのが蘇つたのである。故に、自分の命は拾ひ物であると思つて居る。

して、私は若い時から頭痛のしない日はなかつたのである。故に、弱いと思つて居つたが、そ一ではない。私は非常に強かつたのである。夫れは私は非常に無理なことをして居る。十三の時から医師の家の書生となり、毎日米を搗きながら夜更けて後勉強を始め、眠くなると沢庵をかじつて目をさまし、

そ一して、曉に達したこともあります。十六の時には二島と云ふ処の小学校長となり、土曜日の午後から日曜へかけて、五、六里もある先生の所へ勉強に行きました。夫れを、あの校長は官島へ行つて遊んだと評判を立てられたこともある位ですが、自分は遊んだのではなく、そ一云ふわけであつたのです。夫れで、性来弱いのではないが、弱いと思つて居た。父の年迄生きたら満足だと思つて居つた。そ一して、今年父のなくなった年であるから、何かの困難が起るかも知れない、厄年であるかも知れぬと、迷信のよ一ではあるが、或は病氣に罹るかも知れぬ。又、私の關係して居る事業も是れきりになるかも知れぬと、今年の元旦から何やら心にはかゝりながら、又十二月十七日迄忍耐して居つたならば、何か一新、機運が開かれるであらうと云ふ考へを持って居りました。所が、病氣もした上に医師が心配のよ一にも言ふから、さては来たか知らんと思つて居りましたが、却つて洗ひ清められて平生少々弱かつた所もよくなつて、元氣に十二月十七日を迎へることの出来たのは、天が又、私に命をかすのかと思つた。私の父は數へ年五十三、即ち満五十二でなくなりました。父は頭が禿げて居つたから、私も其の頃には禿げるかと思つて居たけれども、未だ斯う云ふ風であります。故に頭も禿げず、死にもせず、未だ天が私に命をおかしになるかと思ふ。

[第二の仕事]

夫れで私の生涯を二つに分けると、其の前半生は今日で終つたのである。二つの時に死んで蘇つてからは儲けものだと思つて居つたけれども、其上に父の年になつても未だ命があるから、是れからは是非、第二の仕事をしなければならぬと思ふ。

今日は、実は私の法事である。さて親類でも呼ぼうかと思ふと、親類と云へば森村さんとか、寺田さんとか、寮舎より。子孫はと云ふと、実は之は父にもすまないと思つて居りますが、私の叔父は大反対で私の洋行中にも手紙を送つて、お前がそ一云ふ考へなら廢嫡して別に養子を貰ひ、成瀬の家を立てさせると迄言つて来ました。叔父は私の家から他家に出たものである。其の家を思ふてくれた叔父の事も思ひ出し、母の事も思ひ出し、又十二月十七日より二十日前に私の舎弟がなくなりました。私が弟の危篤なことを父に申しましたら、父は大病の頃であつたが、無言の儘で一寸布団を顔にあてました。

其の深い親子の感情に打たれて、あゝ、お父さんは何も仰しやらないけれども、心配なさると見えると思つて、さて父の代りに出かけると、途中で頻りに鳥がなくて、も一だめだろ一と思ひながら行つて見ると、弟はこときれて居りました。斯う云ふよ一な、いろいろの事を思ひ集めて、今日は実は法事をするのである。夫れで今日、私は此の記念會を開くに當つて、親兄弟や親戚、朋友、又は先輩など、そ一云ふお方の事をいろいろ思ひ出すのである。夫れで、そ一云ふ宗教的の深い思ひを述べて、あなた方と共に法事を営むのであります。之れは直接お目にかゝりませんが、森村さんを通じて思ひ出すことが出来る。

[記念すべき日]

森村さんは御子さんの明六さん、及び御弟の豊さん、此の両君を記念なさるために、又其の組織によって出来て居る豊明会に対して、私と同じ様に此の日をお守りになる事と思ひます。此の十七日を定めたことは偶然であるが、お互に其の宗教の必要を感じて居るものであるから、之れがほんとの法事である、之れがほんとのお祭りである、之れがほんとの儀式であると思ふて居ります。夫れで今日は其の意味の法事をするつもりで記念会を開くに当って、私が自分の兄弟と思ふて居り、親類と思ふて居り、子孫と思ふて居る豊明寮、其他の皆さんと共に、私が親の事を思ふて居るから記念したい。又私を感化して下さった所の先輩、友人がある。之れを神と言つても仏と言つてもよい。其の霊に対して大なる感謝がある。又我々の過去を省みて甚だ及ばない処、甚だ不行届であった処を、何かに向つて謝する処がありたいのみならず、猶将来に向つての何かを決心し、自分の本心を訴へる処がありたい。之れは私共の信念に現れるわけであります。只私は之れが自分の属する処の教会があり、家族の者があつたならば之れだけのことを申したいけれども、私には家族がない、子孫がない、親類もないから、親類と思ひ、子孫と思ふて居るあなた方に之れを表したい。もし御同感ならば共に、共に此の日を守りたいと思ひますから、此の豊明寮の記念日に交へて、一言之れを申したいのです。

今日は、私の多分一生涯と思ふ其の日に達しました。そ一して天が猶、命をおかしになるから大に若返つて、大に奮発を致したい。年で云へば、も一終りの時である。西洋で云へばクリスマスの日である。此の日には一年中の借りて居るものを返し、総ての人にお詫びをして、Good will を以て新しい同情を以て、総ての人に対して是迄の恩を謝し、之れ迄の過ちを謝し、赦すべきものは赦して、是れから新しい人になって将来の計画を立てたいと思ふのであります。不肖な身であり、殊に薄弱な身体を持つて居るものが今日迄生きながらへて、今日迄事に堪へて来ましたのは、私の父母のおかげであり、沢山と云ふ先輩の感化であり、又今日存命して居られ、私の殆んど親と思ひ、先輩沢山の如くに思ふのみならず、此の事業を助けて下さった、いろいろの方の感化に対して、非常に感謝に堪へないのであります。同時に甚だ慚愧に堪へないのであります。

今申した前原の叔父の如きも、確かに私の家の事を心配してくれたに相違ない。私は年五十になって、家を持つことは出来ない。先祖はど一でもよい、子孫はど一でもよいと云ふことはないけれども、如何にせん微力である。私が力があれば、家を持つて是れだけの事業をするのは何でもない。けれども微力である。此の暮れも未だ借金がある。貸して下さいと言つて借りたことはないが、証文なしに貸して上げよと云つて借りたものは沢山あります。又家を持つて居るではない。経済から言つても、本を買ふのがやうやうである。斯う云ふことを見たならば叔父などは、つまらぬ奴、何にも出来ぬ奴、と言ふかも知れぬ。父はそ一云ふことは何も言はないであらうが、其の他の同情者諸君に対しても、夫れだけの功績をあ

げることが出来ぬ。夫れで甚だ申訳がない。けれども怠つたのではない。出来るだけの事はしたのであるけれども、微力である。も一一つ知恵が足りないのである。夫れで私は過去のことを反省して、私の尊敬する所の霊に対し、先輩に対し、又今、御存命の友人、先輩及び諸君にお詫びをして、足りない処は補ひ、誤つた処は改むる様に致したい。夫れで出来るだけ深く反省して、表白を致すのであります。其の表白を致すのは、古い我れを捨て、新しい我れになる境涯に入りたいと思ふのであります。

夫れから、今日では殆んど親の如くに尊敬し、兄弟の如く思ふて居る森村翁、及び此の豊明会に意志を継ぐ様に託せられた両君の霊に対して、一言お詫びを致すのであります。此の間、一寸森村さんのお宅へ伺ひましたが、雑誌に悪口をかゝれて居ると云ふお話でありました。私は帰りに本屋へよりましたら、其の雑誌がありましたから、とつて読んで見ますと、森村さんと云ふ題目で多くの人が森村さんを評して居ります。そ一して森村さんと云ふことと、女子大学と云ふものを悉く同一にして居る。七十の御高齢で、しかも八月の真夏に氷を頭に載せて、女子教育の爲めに出馬せらるゝのは実に熱心であるに違ひないが、女子大学の爲めにせらるゝのは惜むべきことであると云ふ風に書いてある。そ一云ふ悪口は十年間飽きる程聞いて居るから、敢て珍らしいとは思はないのであるが、森村さんは是れ程熱心に尽して下さるにも拘らず、甚だ微力である私共が十年日夜尽して、も一効果を挙げることが出来ない、も一命が足りないと思ふことは、甚だ頼頭の至りである。甚だ私が申訳がない。故に、大に奮起しなければならぬと思ふて居ります。

併し、私が今あなた方を根本に導かうとして居ることは、野心であるや否やと云ふことについては、一言申しておく必要があるかと思ふ。

私が此の女子大学を起して、財を貯へよ一として居ると思ふ人はあるまい。又此の大学を起して後、何か大に地位を作らう、大臣にでもならうとして居ると思ふ人はないであらう。

併し、女子を育て、置いて、女軍を率いて何か事を起さう、例へば Suffrage movement の如きものを起さうとして居るのではないかと思ふかも知れぬ。夫れは、私は只当り前の教育家の如く知識を授くるのみではなく、いつも第一義を説いて居る。そ一して今後は、只個人個人が物を覚えて居る計りではいけない。協同と云ふことに力がある。修養にしても深い所に達しなければならぬと云ふ風に、いつも根本の事を申し居る。又、賢母良妻と言へば嫁入支度をすればよい、教育と言へばパンを得る爲めにするものと云ふ様に考へられて居るが、私はそんなことではいけないと言ふて居るから、私には、何故そ一言はれるかと云ふ原因はわかつて居る。多分、皆さんには誤解はないと思ふが、第一義を行ふことは誠に六かしい。本校の評議員 西園寺侯爵が政治について、教育について、いろいろ改革案を持って居らるゝ。あの地位に上られて伊藤公爵の後援があるにも拘らず、到底出来ないのである。併し、私共を妨ぐる人があり、足腰の立たない様にせらるゝことがありまして、其主義はかへないつもりである。それ

をかへる様ならば、も一男子として、そ一云ふことはして居ないのである。故に、誤解を恐るゝでもない。そ一云ふことから迫害をうくるならば、私共は喜んで受けねばならぬ。あなた方はそ一云ふことを聞いて、いろいろ惑ふかも知れぬが、決して歯牙にかくるに足りないといふことを断言しておきたい。

此の大学で教育することが、お転婆にしたり女子の天賦を破壊するものではない。昨夜も八人の卒業生にあひましたが、其の他、毎日面会して居る此の中の人、皆其の経験を持って居らるることと思ひますが、其の入学当時のことを聞いて見ると、地方ではいろいろの噂をする。又親類も校長も悉く反対を称へる。けれども多分そ一ではないと思ふて来たのは、此の校の卒業生を見てからである。然るに、お転婆とかはいからとか言はるゝ様な、そ一云ふ卒業生を出したなら、十年続くものではない。曾て文部省がそ一云ふことを聞いて調べるために、先の局長は二日来られて夜迄見て行かれた。参事官、視学官、文部大臣も態々此校に来られたのであるが、評判と實際との違ふことに驚いて、斯う云ふ風に教育するならば誠に結構である、斯うあらねばならぬ、と言はれました。然るに大倉喜八郎君、他の人々はほんとに思ったかど一か知らないが、そ一云ふ人は一ぺんも此校へ来たことはないのである。もう一つは、本校の卒業生と云へども第一回、第二回迄は玉石混淆であつたけれども、千人の中、一人でも出来損ひのものがあれば皆私の責任にかゝるのである。夫れで我々はど一しても一致協力して、そ一云ふ間違つた者を此校から出さぬ様にせねばなりません。

兎も角も私が微力である故に、今晚そ一云ふこともお詫びをして、今夜は心から感謝し、人を赦し、お互に助けあつて、新らしき望みと新しい厚意を以て、新しい計画を立てて、一致協力して進まねばならぬ。私は、此の明治四十三年十二月十七日と云ふ日は長く待つて居た記念会であり、今晚は殆んど宗教的の感想を以て、又今晚は私の第一生涯を終る日であるから、言はゞ葬式である。其の葬式の日に於て、此の宗教的の深い感想をお話し致して、皆さんと共に此の日を守りたいと存じます。是れから森村さんに何かお話しを願ひます。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十三年十二月二十一日

明治四十三年十二月二十一日

大学部全体

此の頃あなた方の間に一番多く用ひられて居る詞が三つある。其の一つは結論、第二は十年祭、第三は理想と云ふことである。

[結論につきて]

此の節は年の暮で、一年間の結論をつけ、又母校から云ふ

と、十年の一番末期に到着致したから、其の十年間の結論をつけなければならぬ。夫れで、此の結論と云ふ詞を多く用ひられて居るのであります。

然し之れを知らぬ人が聞くと、女子大学では妙な詞を使つて居ると言つて、いろいろな批評をするであります。こんな詞を始めて使ひ出したのは私でありますから、其の様な事を言はれることに対して、一言弁解しておきたいと思ひます。

昨年、我々が女子教育に力を致して、一つの仮説を持ち、十年間之れが証明を致して、今や十年の終りに際して我々の一大論文の結論をつけなければならぬ、と私は申したのである。夫れは丁度今頃で、三年生が論文に力を注いで居られる時であつて、論文と言ふのが一番意味が分り易く、其の結果をまとめることを結論と云ふ詞で言ひ表はしたならばよくわかるであらうと思ふて、こんな詞を使つたのであります。夫れから、そ一云ふ場合に、あなた方が結論と言ふよ一になつたかと思ふ。

其の結論会と云ふのは結局を結ぶ、又は実を結ぶ、其の Value を表はすと云ふ意味で用ひるのであるが、何事にも終りを告げることに之れを用ひるのは、今あなた方が今日最もよく纏まつた意味ある結論をつけ、終りを全くすると云ふ望みがあるから、夫れで此の詞が用ひられるのであると思ふ。

[十年祭と云ふことにつきて]

第二、十年祭。

之れも、十年祭又は祭壇など云ふ詞を使ふと、之れを知らない人が聞いて、今度の十年祭はお祭騒ぎをするのであるかと誤られるかも知れない。決して、そ一ではない。最も静粛に、意味あるよ一に挙行したいのである。併し、我々の記念式は殆んど宗教の儀式とも云ふ迷信の部分を除いた真髓を取つた処のものであります。

之れも昨年、第八回生は我が母校の十年祭の祭壇に其の實を捧ぐべき責任があると説明を致しました。其の意味は、お祭騒ぎではないと云ふことは分つて居るが、其の意味を知らぬ人は、或は誤解するのである。

[理想につきて]

第三、理想。

之れは普通予科、或是一年では大に研究して居らると云ふことであるが、二、三年の人は今迄よくおきゝになつたことと思ふ。

先づ此の三つの詞が最も多く用ひられて居ることは、今日如何なる思想が動いて居るかを大凡、察知することが出来る。つまり今日一番全校が興味を以て、銘々が力を注ぐ問題は、三つに帰するのであります。即ち思想の構成と、第二は之れを達するに必要な実力、第三は其の結果を挙げたい、Value を得たい、Value を増したいと云ふことである。

私は一年の過去を思ふて将来を思ひ、又十年の過去を顧みて将来を思へば、前に挙げたよ一になるのであるが、併し我々各自の方から考へると、此の順序が反対になる。先づ理想が出来て先づ進むことが出来るから、順序として理想と云ふ問題から遡入つて行かうと思ふ。

理想と実現、目的と実行と云ふことは密接なる関係があつて、決して矛盾するものでないにも関はず、本校が設立されて以来、長く学生間の問題となつて居りましたが、やうやく今日では皆さんに分つて来たやうであるが、尚、普通予科一年の間に問題となつたのは尤もである。二年生、三年生の頭には解釈されたでありましょーが、其れが如何に実現さるゝかに就いては未だ充分 Realize しない、生きた確実なる経験を得ない人があるかと思ひますから、我々の生活に取つて此の理想、即ち Thinking と云ふことが如何なる要素をなし、如何なる力であるかと云ふことを、も少し明らかに説明して置く必要があると思ふ。

[理想の本体]

私は、理想、人間の原動力である思想は凡ての活動の土台である、Idea は総ての事実の母である、と申したいのである。其の思想、理想の本体は何であるかと云ふと、Will である、又は Desire である、又は Aspiration である。宗教で云へば Prayer である。宇宙の実体、其の真髄は実に此の動力である。即ち目的々活動である。理想に向つて進も一とする処の、其の湧き出づる、其の無限の活動である。進化である。之れは今日の哲学、心理学、社会学、科学、宗教、倫理、教育等の学問も悉く一致する所であります。

又、Positively に証明し得る真理である。夫れで私は、Body は欲望のかたまりである。其の人間の霊は、心霊の実体は理想の集注したものであると言ふことが出来る。此の Desire は、Aspiration は階段の差で、種類の差ではないのである。

我々の人格は此の Will と Desire とで出来て居るものであります。それ故に理想は空なもの、虚なものではない。理想は Reality で万有の根源である。理想、或は思考は実在である。夫れで私は、Thought are things と言ひたいのである。此の身体、此の家は Things である。夫れはたしかであるが、も一つたしかなのは Thought である。其の Thought が Manifest したものが我々である。其の Desire が表はれたのが目や口である。

理想があつて宇宙は進化し、成長、発達するのである。動植物はどーして出来たかと云ふと、宇宙が欲望を持って、それで作られたのである。

例へば、麒麟は大変首が長い。あの首はなぜあんなに長く出来て居るか云ふと、木にある処の果実を食べる為で、其の Environment に適応したのである。尚ほ此の事は、も一つは実験心理学に由つて知ることが出来るのです。最も最近に発見された研究を御紹介したい。之れは France の Doctor Baraduck の研究であつて、此の人は実験心理学から遂に科学界に一つの新紀元を開いたと言つてもよいのである。

物理、化学の研究され、其の結果として得た仮説は、Atom、Ether である。之れは尚ほ仮説としてありますが、寧ろ確実なる物の様に信じられて居る。たしかに天地間に Ether の如きものがあつて、其の媒で光線が来るのは誰れしも信じ、又我々も之れを思ふことであります。

所が、今日の実験心理の発明する処は、決して宇宙の微は Ether ではなく、も一つ深い処の力があるとして、夫れは

Divine principle などと言つてあるが、そ一云ふよ一にしていろいろの階段となつて居る。Ether の下に、前に言つた Astral light と云ふものがある。此の Astral light は今の千里眼の説明にも極めて容易である。

此の Doctor Baraduck の研究は大分明らかである。之れはつまり Thought form、思想の形を描くことを見出したのである。も一つは Thought の Colour、怒り、愛する時の心の色分を写し出すことを発見したと云ふことである。其の研究で得たことは、

1. Quality of thought Determine colour
2. Nature of thought Determine form
3. Diviniteness of thought Determine clearness of outline

思想の性質は、色をきめることである。

思想の品質は、形を定めることである。

思想をきめることは、形の外形を定めること。

此の三つの原理を見出したのである。此の前に、Subconsciousness から進んで Astral light の仮説を紹介し、此の間から我々は、此の Divine essence、人間の根本になる本性を研究し、今日は其の本当の人間の根本の力は何であるかを研究して居るのである。今此の Baraduck の研究を報告したいのであります。

(書物の説明を省く)

理想を明らかにし、目的を判然として進んだならば、決して出来ないと言ふことはない。あなた方は第八回生として、又我が国、今日の女子高等教育を受くるものゝ責任として、此の来らんとする十年期に於て満足なる実を結ばなければならぬ。又此の十年間の結果を実にあらはして、世に女子教育の必要を証明せねばならぬ。其の来らんとする国民を教育し、来らんとする処の国民を発達させる処のものを養ふて行かんければならぬ、何か大切な重い責任を負はせられて居る。之れを果すには、ど一かこゝに一層深い、強い、盛んなる力を得たいと云ふよ一に、何かの欲望、希望、向上心、何かの祈りがある。之れがよつて、あなたの理想となり、之れが調和、統一されて、あなたの目的となるのである。其の目的を大別して二つとするのである。大目的と小目的である。其の関係をこゝに再び説き明かしをする必要はないのであります。

十年期の為めに、又今後十年、二十年の理想を作り、又桜楓会員となつて現状を思ひ、将来を慮る所のこともある。それで様々の動機、欲望が沢山動いて来る。此に大目的を確立するのは、各団体、各級の欲望が調和、統一されて出来たものに相違ないと思ふ。これ等は孤立して、殊に互に衝突して力を空費されて進むことは出来ない。ど一しても此に Organization が出来、総ての目的が一つになつて、大目的、大理想が立たなければならぬ。十年祭迄にど一しても力をこしらへよ一と、皆が望む処のことである。之れが個人主義に矛盾するとか、衝突するとか云ふよ一な迷ひはなくなつたと思ふ。凡ての傾きを合せる大目的、大理想が描かれなければならぬ。夫れはど一云ふものであるかと云ふことを説き明かしたいのであります。時がありませんから、其の Outline だけを申しておきますから、よくお考へになつて凡

ての傾き、目的、欲望、願ひを入れた処の大なる一つの目的、理想がきまるよーにして戴きたい。死する迄も戦ふ、背水の陣を張り、命にかへて此の目的を達すると云ふ覚悟が出来なければならぬ。

先づ其の目的になる要素が二つある。

- 一は経済的要素。
- 二は精神的要素。

一は Desire であつて、二は信仰、向上、又は祈りと言ひ、又は愛と言ふ。人間を動かすものは、此の同情、欲望である。

[世界の要求]

今、世界の人々が望んで居る処のものは何であるかと云ふならば、即ち Universal ideal である、Organization である。宗教では Devotion と言ひ、社会学では Society と言ふものである。宗教で神の国を来す、神の御心が天の如く地に行はるゝよーにと云ふことである。理想は只自己のみ得よーとするものではない。我が喜びと人の喜びとを共通にしたいと望むのであります。之れが即ち Life の The combine work と書いた処であります。

之れが即ち桜楓会の目的である。互に弱きを助けると云ふ、こゝにあるのである。そこで私は一番分り易い詞で此の關係を言ひ表はした方がよいと思ふ。

[Interest]

今言ふた通り、Element が二つあるけれども、極単純なる所から申すと、Interest であると思ふ。

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 第一は、Simple interest | 單純なる利益 |
| 第二は、Reciprocal interest | 相互的利益 |
| 第三、Incorporation of interest | 組合、仲間 |
| 第四、Fraternity of interest | 兄弟の關係 |
| 第五、Universal system of interest | 凡ての Interest の Organize |

此の目的、此の理想をお立てになつた方が、此の中にも大分あるのである。併し、之れを成就する原動力が乏しいのである。今少しは全体の空氣に感じて大に元氣が発揮しましたが、又郷里に帰り、四月卒業後、果して此の力を持ちつづけることが出来るであらうか。或は一時的的感情ではないか、外から受けた処の刺激ではないかと云ふ心配があると思ふ。此の理想、目的を判然たらしめることが大層必要であると同時に、之れを如何に實現し、外部の圧迫に対して勝利を得る所の力を作るべきか大に大切な問題である。

先づ第一は目的、理想の確立で、第二は之れを達する実力、之れを達するに必要な徳性 Virtue を涵養すること。之れはあなた方が其の力に由つて銘々の中に実を結ぶ、価値を表はすと云ふことをしなければならぬ。之れを為すに、三つの要素がある。

第一、Intelligence 知力。目的にあこがれ、又新しい經驗を貰ふて喜ぶと共に、言ふ可からざる感情的勢力が必要である。此の時につゝしまなければならぬことがある。此の經驗を得ない人は失望、落胆する。此の時に火を吹き消すのである。そして盲目になる。そ一なれば必ずつづき、敵の謀計に陥るものである。

此の時に當つて物の真相が分らんければならぬ。充分に判

断の力を養ふて、明瞭なる Intelligence が働かんければならぬ、Insight が見えなければならぬのである。人生の価値ある処をあらはすものは Satisfaction 満足である。之れは目的を達する上に必要なものである。

第二は思慮深きこと、つゝしみ深きこと。

こ一云ふ場合に氣をつけないと、知らず知らず高慢になり、軌道をはづすことがある。即ち将来の目的の爲めに現在を犠牲にする、又全体の幸福の爲めに一部の感情を支配する、全体の目的、大理想の爲めに個人の目的を犠牲にする。即ち Incorporation は、此の Prudence に由つて成り立つのである。決して我儘、放埒、無制限な生活は我々に精神的勢力を与へるものではない。無限なる力を導くよーに助けるものではないのである。

此の第二の徳は成功と云ふ価値を与ふる。つまり目的を成就する、実を結ばしめるものである。

第三、Justice 公平。

公平は総てを同様に扱ふと云ふこと、己を尊敬するが如く人の人格を尊敬するのであります。我が利益を保護するが如く、他人の利益をも保護するのである。人を扱ふこと我が如く、つまり公平にする、偏見、愛憎の念と云ふ弱点を捨てることです。我々は理想の國家を作り、完全なる社會を建設せんと欲するのである。夫れには出来るだけ完全な人、勢力ある人を以て仲間にしたいと思ふ。そこで、こ一云ふ時に益々内を清め、なるべく志の合ひ、主義の合ふものが一所になりたいのである。そして足並みの揃はない人は輕蔑したくなる。併し、此の中に誰れか完全な人があるか。罪を犯さない純潔な人があるか。我々はさるにも関はず、人の足らざるを関はないと云ふよ一なことは、偏見である。もしも、こ一云ふ時に人の欠点を探がし、弱きものを輕蔑するよ一では立派な結合を結ぶことは不可能である。

[寛大なる態度を作れ]

先づ寛大なる態度を作り、大に人を許し、人の罪過を許さなければならぬ。私共は皆を覺醒し、皆を立たせたいと思ふ。併し我々は悪きを殺さうとは思はない。皆を役に立たせたいのである。

我々は石を以て弱きものを打たうとは思はない。我々は弱いものであると云ふことを知るのである。然らば同じく人を許さなければならぬ。人の Vision を卑み、人の計画を破るものは Spiritual fire を消すものである。お互に人の善を破る勿れ。此の Justice が行はれて始めて合理的、団体的結合が行はれるのです。

第四は Good will 善意。

之れが宗教である。之れが私の言ふて置きたい、あなた方に最後に申したいこととありますが、実は五時から他へ出なければならぬことがありますから、其の骨丈け、Good will と云ふことを申しておきます。其の力の Value を總稱して宗教と申します。之れが此の頃、私共の得よ一とする処でありますから、充分研究し、深く考へて益々価値を表はして、ど一か熱望する目的に進み、お互に助け合つて、ど一か今度は消えない永久の力を得たいと切に望むのであります。

[中表紙]
終業式の御話

明治四十三年十二月二十四日

明治四十三年十二月二十四日
終業式にて

[十年記念式につきて]

来年四月二十日には愈々十年の記念祝賀式を挙げ、卒業式は其の前日位に行ふことに、此の間の評議員会でまきました。

[大学の意見]

夫れについて大学部から出た案は、当日は文芸会、或は学芸会、又は体操の一部を交へること、又は此の図書館を公開することにして、其の書物を買入れる為に財源を作るとか、其の他参考館を建てるとか、又は母校の基金の中に幾分かでも寄附するよ一にしよ一かと云ふよ一な、色々な方法がありまして、何か母校の爲めに、此の機に當って貢献したいと云ふことでありました。

[評議員の意見]

夫れは皆適當なことでありますが、評議員の方からの意見は、夫れは至極賛成ではあるが、学芸会や文芸会をし、又講義をすると云ふことは時を取るから、夫れよりも先づ展覽会を開いて、生徒がいろいろ研究し工夫して考へ出した結果を示し、過去十年間の発展及び現状、又は今後の理想を一目して分るよ一に示して、来賓に是れを見せたならばど一か。そしてお客は本校の関係者、父兄、保証人、桜楓会員と致しまして、其の饗応は簡單なる生徒の手に成った立食を饗したらど一かと云ふことでありました。

尚ほ之れについては全校から各代表者を出して、愈々ど一するかを成る可く早くきめて、今日から準備をすることが必要であります。饗応も立食がよいか、或は又所々に売店をこしらへて、いろいろなものを作るよ一にしたがよいか。其の辺も充分研究し、又展覽会をするにしても、ど一云ふものならべるか。例へば桜楓会は八回迄あり、大学の方は十一回迄あるから、其の各回から其の年の特徴、及び集注した処のものを示し、例へば運動を盛んにした時もあり、文芸の盛んであった時もある。勉強に傾いたとか、其の年の特徴を示し、又九回、十回、十一回の人達は後の理想を表はすことも面白い。ど一すれば一番有益で、校風を感化し、又よい影響があるかをよく考へ、研究して意味ある展覽会を開きたいと思ひます。来らんとする明治四十四年を迎ふるに當って、先づ凡て全校を通じて考へることは、十年記念祝賀式である。夫れで全校揃ふて居る処で、之れの確定したことを報告して置きます。

此の年の暮に際して、私は一年中のあなたの借金を今日は皆済ませ、一年中の大掃除を致し、又不足を補ひ、欠点を改むることを出来得る限り致したいと思ひます。

殊に今年は高等女学校の修身講話会の方は多忙の爲に出ることが出来ず、只だ間接に其の傾きを聞き、いろいろ御注意

したいこともありました。日頃の長い借りを払ひたいと云ふことを、殊に高等女学校に持つて居るのであります。併し、も一既に一時間も時が経ちましたから、とても今日私が思ふ丈けの事を皆さんに申すことは出来ませぬから、至極大切と思ふことを簡単に申すことに致したいと思ひます。

此の暮になりまして、大学部各部からいろいろ御報告を伺ひ、又結論会に御案内を受けまして、出来得る限り出席し、又今年は各寮を回りまして、其の間にいろいろ私が見出した処がある、気がついた処がある。夫れで此の一ヶ月間は、最も多くあなた方個人に、又は組に接し、又報告を受けたのであります。其の Impression は全体から言へば誠によろしい、悦ばしい方のことが多かつたと思ふのであります。

いろいろ参考になる可きもの、又全校に、各寮に普及させたいことが私に発見されました。其の外、文芸会(英文科)及び家政二年の実験も一寸半分計り出席致しましたから、そ一云ふことに於て私の見た処を批評して欲しいと云ふ御望みもあると思ふ。又私も是非御注意をして置きたいと思ふ箇条があるが、僅かな時間に申し尽すことは出来ません。

先づ始めに、形式に関する極細かいことについて少し申して、夫れから修養、学問に関して、も一一つ皆さんが集注なさる所を申して置きたいと思ひます。

私が Appreciate した方を申すのは無益ではありませんが、それは言ひません。物には必ずよい方と悪い方とある。よい方ばかりを見れば凡てよいと定めることも出来、悪い方ばかりを見れば凡てが悪く見えるのである。

然るに人間社会は全くよいもの、全く悪いものはない。夫れで私はよい方は之れを取り、悪い方は之れを退けるのである。夫れで今日は善い方は申さないのである。も一一つ進まう、改善しよ一と云ふのであるから、猶ほ足りないと思ふ処を申しますから、皆さん其のつもりでおきよ一になつて戴きたい。

[Fashion の魁]

細かいことであるが、之れはやはり世の中の風潮の研究にもなるから、一寸申しておきたい。之れは高等女学校の方に、主にこ一云ふ評を受けるかと思ひます。

今迄は Fashion は女子大学から起つて来る。目白が流行を起すとよく言はれましたが、實際はど一でありませよ一か。其の衣服などの美しいことなどはお茶の水、虎の門、学習院などにはとても及ばない。うちは皆、夫れ等に比べると粗暴であると思ふ。或時代には審美の Harmony は大分発達した時があつた。其の時には或は流行の魁をした事があつたかも知れない。併し、ど一でしよ一。此頃でも果してそ一でありませよ一か。私には分りませんが、大学の方にはあまり粗暴ではないかと思ふやうな処があるが、此頃私がきよ一ましたことには、今、袖を長くすると云ふことが非常に流行しかけた。あれは女子大学からはやつて来たのであると云ふことを言つて居る。夫れで、果して事実であるよ一かと、今朝私はあちらから皆さんがおいでになるのを見て居りました。小学校の方ではないかと思つて見ましたが、小学校の方は皆、大抵、筒袖であります。大学部の方ではあまり袖の長い人もないよ

一である。そ一すれば、やはり女学校の方であらう。

出来るだけ衛生に叶ひ、経済で審美に叶った流行を出すことは、高等な教育を受けて居るあなた方の責任であります。今、地方に帰って、あなた方がど一云ふ態度を取るかに就いては、何かの感化を社会に与へて居る。之れは妹を教育し、其の土地の婦人を教育して居るから、誠に大切なことである。私共は、粗野に傾くことはよいと云ふのではない。只一時の華美に追はれて、一方に偏してはならないと云ふのである。

自ら顧みて、之れでよいと思ふことは夫れでよいのである。こゝの学風は、なる可く自分に適當なる風をすると云ふことである。人の真似をするのはよろしくない。此の間、或る県の学校から、女子の制服に就いて学校の意見を尋ねて来ましたから、私は只だ其の意味で返答をして置きました。

此の袖の長くなったと云ふことは、一体に東京の女学校が皆、袖が長くなったのかも知れぬ。

地方の女学校は大抵、筒袖である。夫れに反して東京では長い袖である。夫れは、よい流行であるかど一か。振り袖は美の上から言つてよいかも知れぬが、経済上、あまりよいことではないかと考へますからして、もし東京にそんな流行があるならば、之れをあまり助長しないよ一にして行くことが肝要であります。

夫れから此の暮になりまして各寮舎、並びに各学部に起りました傾向につき、色々悦ぶべきものがあるが、其中、最も私が満足に思ひ、将来に希望を囁くことを得ると思ふものは、皆さんの態度が大に改まって来た、大に全体が引き締って来た。即ち積極的、自動的に傾いて来たと云ふことであります。

此の一番終りの寮監会議に、正月三ヶ日の間、外出を致さぬことにきめました。夫れは冬休みの時を最も自分の為めに、又寮舎の為に有益に用ひたい。殊に暮れからして三ヶ日にかけては最も銘々を反省し、又将来の計画を考へ、人生の根本の問題を解決すると云ふよ一な深い修養に用ひ、夫れから一方に、婦人は内にあつて訪問者を迎へるのが、旧来、我が国婦人の職務である。又、婦人が浮れた空気に感じ、美しい装飾を見ることは、あまりよいことでないのである。我々の教育は教場ばかりではない。只自分の判断でして行く家庭に於て、如何に順応して行くかと云ふことが、教育に重大なる問題であると云ふことから、こ一したのであります。

それで寧ろ家へ帰るよりは、深く経験を省みる為に寮に残ると云ふ人が多くなって来た。之れが我が校の校風である、寮の寮風であると私は思つて居りました。然るに、寮監の報告を此の頃聞きますと、そ一ではない。やはり三ヶ日にも外出がしたい、東京の正月をも見たい、三ヶ日出ることの出来ぬのは束縛を感じると云ふことであります。私は之れを聞いて、大に驚きました。果して之れが事実でありましょ一か。之れに束縛を感じずでありましょ一か。我が校の校風は自治である。生徒自身に之れを定めて行ふのである。然るに、之れに束縛を感じるのでありましょ一か。夫れではまだ幼稚であります。幼稚なれば、親が監督をしなければならない。こゝでして居ることを束縛と言ふならば、決して自治の民ではな

いのであります。斯くの如き傾向が学校に出来たのでしょ一か。之れは大に悲しむ可き傾向であります。然るに、あなた方の報告を聞きますと、帰ろ一と思ふた者迄も止まることにしたと云ふことである。私はそんな空気であると云ふことは多分間違ひであらうと信じますが、私はど一かして進みたい、よくなりたと思ふから、一言此の事を申して置くのであります。此の大切な時期に於て、あなた方がそ一云ふことをよくお顧みになつて、固い決心をなさることが必要であります。私の詞が足りませんから、御分りになりにくい処も多いでしょ一が、よく其の真相をお考へになれば、分るかと思ひます。

兎も角も、全校の傾きは年末に際して深く考へて、過去を顧み、来らんとする十年、二十年の方針を定むることに集注すると云ふことになって居ると思ふ。

高等女学校の五年生は、来年は女学校を卒業するのであるが、之れで教育を終つたと思ふ人は此の中にありますまい。教育は一つの Process である。そしてあなた方の今日の教育は今日の家庭、社会に適合し、応化せんとするのである一。それも無論、必要である。併しあなた方の教育は前途を思ひ、第二の国民の母となり、今後の日本婦人として立つに必要な力を作らんが為であります。

併し十年、二十年の間には如何なる変化を来すでありましょ一か。其の辺もよく考へなければならぬ処である。私は今度の Life に、二十年後の予想を書いて編集致しましたから、之れを見て、そしてど一云ふ教育を受けなければならないかをお考へになることを希望致します。

[力の調和]

併し、ものは一方に偏することは宜しくない。凡ての点に於て調和、統一し、隈らざる法を取ることが必要であります。此の頃私が見出したことがあるが、此の間、家政学部の実験、及び英文科の文芸を見て尚ほ適切に感ずるから一言言つておきます。之れが、此の休みに読書をなさる上にも大に大切なことと思ひます。

此の間の実験を見まして、大層よく出来たと思ひますが、之れが一方に偏しないよ一にしたいのです。又、英文科の方も、そ一である。両方共注意しなければならぬことは、一部だけの発達をさせることはいけぬ。之れは訳を話せば長くなるから、事実だけを申しておきます。

之れは、此の間 Osborn さんの所へ参りました処が Osborn さんが、此の間の文芸会を見てど一思つたかと云ふ問ひでありました。そこで私は、よく出来たけれども、も一少し自然に Expression が出来なければならぬ。あれでは只だ暗喩的であつて、眞の自分の感じを Express して居ない。只人形のよ一になってしまう、と批評致しました。も一少し Original な処が出来なければならぬと申しますと、Osborn さんが言はれるのには、併し日本の方は実に感心である。其の暗記力の強いことはとても外国の人の真似ることの出来ないことである、と言はれました。然し私は之れが気に入らない。暗記力が勝つて居ても、大切な力を發揮することが出来ません。

日本は発明とか、発見とか云ふことが非常に少ない。今世界で一番之れの多いのは A. U. S であります。そして日本は其

の1/100にも当らないのであります。これは Science の発達の結果として見る可きものであります。我が国では暗記力ばかりが発達して、一向に創作が出来ない。私は、どーしても之れが改められなければ、いつ迄も我国の発達は覚束ないと思ひます。

今度の英文科の会も大に感心であるが、まだ暗記的で小供らしいと云ふ処がある。之れを、も一少し改めて行くことが必要である。

そして文学をなさる人も、科学をなさる人も、あまり頭が一方に傾くのはよろしくないのであります。

あんまり私の詞が強過ぎたかも知れないが、私はあなた方を自分と思って、好意を以て言ったのである。尚ほ油断をせず進むよ一に。足らぬと思ふ処を申したのでありますから、ど一か真面目に態度を定めて、熱心にお進みになることを深く切望するのであります。つまり、私は根本のことを考へて居るから、全体としても少し進むよ一に致したいと思ふから、互に一致して進まれんことを切望致します。

[中表紙]

新年祝賀式の御話
明治四十四年一月一日

明治四十四年一月一日
新年祝賀式にて

近来稀なる此の長閑な朝におきまして、教職員はじめ生徒一同、嬉しい喜ばしい顔色を以て、此の新年の祝賀式を挙げることは、お互に言ふ可からざる喜びがあると思ふのであります。

今日は元旦で、銘々、之れから心の内にも、家の内にも、亦外にも今日の中に、いろいろ済せたいと思ひ、又成る可く多くの友達にも直接に逢ふて新年の喜びを言ひたいでありますよ一から、成る可く簡単に今日の式を終りたいと思ふのであります。

[少年界]

昨夜、除夜の鐘の聞こゆる頃一番終りに、私の所に届きました小冊子を読んだのであります。夫れが昨年の読み取めであるが、其の本は少年界と云ふ子供の読むものでありますから、夫れに私の国の先輩の三浦中将が十九の時に友人と争ひをして、しまひに仲直りをしたと云ふことや、其の他、子供の喜ぶよ一なことの書いたものを読みました。

近来、そ一云ふ暇がなかったが、一番年の終りにそ一云ふ子供の読むものを読んで、私は自分が十二、三の子供であった時の記憶を喚び起して、寝に就きました。

それから今朝起きまして、一番始めに読みましたものは、Soul and environment 心と境遇と云ふもので、是れを読みまして最も注意を引いた詞は、Live and let live 生きよ、而して人をも生かしめよ、と云ふことである。此の Life とか

Live とか命とか云ふ考へは、元旦に於て非常に注意を引く詞であるが、第二の Let be live 人の命を全くさせよ一と云ふ、こ一云ふ諺は我が国では聞かないが、英國では小供の時から深く人の心に銘してある詞である。之れは元旦に我々が本年の気分を捧へる Sentiment として、第一に大切なる詞であります。其の次、私が今朝、社会に如何なる出来事が表はれるかと云ふことを待つて居りましたが、第一に私の手に入ったのは、Japan times と云ふ英語の新聞であります。

其の中で、最も私の心を引いたものがあります。夫れは、此の明治四十四年を歌ふに最も適當なる歌と思ひましたから、切り抜いて参りました。之れは Rome 字で書いてありました。

“Toshi = no = Hajime” (New year song)

Toshi no Hajime no Tameshi tote
Owari naki yo no Medetasa wo
Matsu take tate te Kado goto ni
Iwa-u kyō koso Tanoshi kere
Hatsuhi no Hikari Akira keku
Osamaru Miyo no Kesa no Sora
Kimi ga Mikage ni Tague tsutsu
O-ogi miru koso Tōto ke re

英語で訳してあります。

This is the long expected day
Comrades, greet it merrily
In the old time-honoured way
Merrily and cheerily
With pines and bamboos by the door
Let us greet the young New Year
As the morn greeteth it
And the Sun so bright and clear
Let us bless the Emperor
Whose happiness to all is dear
And let us wish him many times
A happy and glad New Year

之れが天皇陛下に捧ぐるに、最も適當な詞であると思ふ。此の明治四十四年は、実に幸なる年である。且つ、非常に、之れから繁栄に挽回する年であるよ一に深く感じましたる時に、丁度適當なる詞を読みまして、一層感を深くしました。

[明治四十四年一月一日]

実に、此の明治四十四年の一月一日と、一の重なる年であります。此の一は始まる、生れると云ふのである。即ち、今年は神武天皇即位 2571 年、西暦 1911 年で、又、我が日本女子大学校は 11 年目で、矢張り、一、一である。即ち、我々が永く待つて居りました母校の第十一年目、即ち第二期の十年の始めに入る、其の元旦を迎へる朝である。

我々は十年の経験を顧みて、足らざるを補ひ過ちを改め、長所を保存して、此に第二の生活を始めよ一とする。新に生れたる心持ちを持って、之れから大に、将来に來らんとする我々の責任を全うせよ一と云ふ考へ多き朝で、私共の如く、先づ生涯の半分を終りました。寧ろ人生の一期を終りまして、ど一やら今日から再び生れ代つて、別世界に入るよ一な心持ちを以て、此の朝を迎へるのであります。

[今年の Mood]

此の朝に当りまして、今年の Mood、気分はど一であるかと申すならば、誠に健康な、柔和な、穏かな、深い潜勢力を充実して居るよ一な感じが致すのである。空は一点の曇りなく、地は歩行に最も適当に固められて、近来に稀に見る好天気であるのであります。之れは今年に我々の作らんとする一年間、精神界に呼吸する、清潔なる温き酸素に富んで居る所の空気を表はして居るものではないかと感ずるのである。之れが、今朝の皆さんの態度である。気分である。之れが、皆さんが昨暮以来用意した所の仕事を行はせる空気である。願はくば、此の空気を一年間持続し、否、益益私共は清潔に、温かな、うららかなる空気を養成致したい。そして其の空気に触れて、欠点は願はくば元旦より注意して、空気を悪くする情は制御して、今年に己も幸に、人にも亦幸を与へるよ一に、よい命を益々養ふに足る其の空気を作りたいと感ずるのである。

私共は進歩的な、豊富な生活が致したい。夫れと共に、我が級、我が同胞、人類に対して、ど一か真に好意を持ち、人の幸福を祈り、人の困難を救ひ、憂ひを癒すよ一に、立派なる熱心なる心と、強健なる行ひをつづけたいと云ふことを、此の元旦に於て私共は深く感じたいと思ふ。多分私は、此の年は、母校の第二期に入る此の一年は、私共の十年間望みました又決心致しました其の働きの結果が表はれて、私共の喜ばしく感ずる校風が実現するであらうと信じます。

併し乍ら、只だ穏かである、温かである、幸であると云ふ意味は、無事であり無意味であると云ふのでは決してない。或は今年に亥の年であると云ふから、進むことを知って、退くことを知らないと云ふ非常に猛進する猪の如く、強烈なる世界の進歩に競争して、一步も譲らないと云ふよ一な年かとも思はれるのである。そこで今年に誠に穏かに礼譲あり謙遜なる態度を作ると共に、一方には進歩的でなければならぬ。夫れには勇氣と元気がなければならぬ。夫れについては十年、二十年の前途を見る所の先見の明を覚醒して、深く考へることが必要である。

夫れには第一着に、深く考へ、固く決して、深く強い確信と、強い考への力を要するのである。此の強い決心は我々に強い人格を作り、強い意志を作らせるものである。私共は子供の時から戦をして、危険に臨んで、腹をきめさせるために、強い意志を練らされました。

[猪狩]

今から約四十年前、十三才の時に、私の国で雪は真白に一尺余も積って居る朝山に、猪狩に出掛けると云ふことがきました。其の時に、私も此の行に加はりたいたと云ふことを願ひました。其の一行の人々は皆三十以上の人達で、僅に私のよ一な十二、三の小供は一人もなかったが、友達などから無理に願って貰うて、其の中に加はりました。そして、まだ銃を空に持つことの出来ないのを木に持たせ掛けて、険しい処と云はず谷と云はず、猛進する処の猪を二日かゝって射止めました。其の愉快さは、実に非常なものであります。

私は思ふに、小供の時にそ一云ふ危険を犯して、決心を以て危きに臨んで屈しない、どんな敵にも勝たんければならぬ

と云ふ強い決心は、勇氣を出して雪にも嵐にもまけない、猪にも恐れないと云ふ一つの強い考へを心に起し、活発なる活動を起し、強固なる意志を鍛練するものであると考へました。

昨夜、三浦五郎君の十九の時に友達に侮辱を与へられて、二つ、三つ上の友をたふしたと云ふ話を読みまして、我國民は斯くの如き魂に由って出来たものと思つて、矢張、自分の子供の時の記憶を喚び起したのであります。大に沈勇を養ふと共に世界の進歩に遅れず、昨年来、計画致しました事を為し遂げたいのである。進撃には多くの敵と戦はねばならぬ。人格の原動力を養ふ上に、六けしいことに勝つ処の元気がなければならぬ。

故に、あなた方も充分自分のこと、又我が国の前途のことを思ひ、深く強く考へて、充分覚悟して今年の計画をなし、又今年の我々の致すことは身を粉にしても命のあらん限り、我々は之れを全うせんければならぬと云ふことを以て、事を始めて戴きたいと思ふ。只一言丈け、私の今朝の感を述べて、共に共に助け、ど一か今年と云ふ年は充分に走る可き道を進みたいと思ひます。

[中表紙]

第三学期始業式の御話
明治四十四年一月九日

明治四十四年一月九日 始業式に於て

今年母校の十年期を迎へよ一とする、其の用意に就いては、今、学監からお話になりました。其の十年期を迎へる心の持ち方は、学監からお話になったのと私の考へとは同じで有るから、も一時も余程経ちましたから、実は今日の式は之れで終ろ一かとも思ひますが、昨年から申して居りました関西の旅行を、愈々此の水曜の実践倫理を済ませてから致したい。そ一すれば、二週間程こゝであなた方に逢ふことが出来ませんから、一言私の感じを御話しておきたいと思ひます。

記念の祝とか、誕生の祝とか、古稀の祝とか云ふよ一に、其の事が重なる程、其の意味が深くなるのである。其の年を数へる、之れを祝ふと云ふことは、考へよ一に由つては無意味であり、又心の持ち方に由つては人間の進歩に害があるものである。我々は年を迎へると云ふことには、日頃、主義を持つのである。さて如何なる意義を以て年を迎へるか。

2571年とか、1911年とか、11年とか云ふよ一に年を数へ、又は70とか、80とか、100とか云ふよ一に高年を喜ぶと云ふならば、無意味である。我々は決して只だ時を長く経たと云ふことを喜ぶと云ふのではない。此の満堂の若い方、殊に高等女学校、小学校などの方は年が重ったと云ふことを喜ぶのは、之れは大分大きくなった、智恵が増した、経験が増した、益々役に立つよ一になったと云ふことを喜ぶのである。つまり何を喜ぶか。進む、進歩、成長、発達を喜ぶのである。之れ

は時をかけんければ出来ない。之れ迄出来たと云ふことを喜び祝ふのである。其の意味に於てお正月を祝い、記念日を祝するのであります。

併し、一休和尚の言ふたよな意味では、此のお正月は忌はしいことである。死と云ふ、墓と云ふ処に行く一里塚である。勢力が下り坂になって行くことと云ふことである。墓原に行く道程が近くなって来たことと云ふ意味に言ふならば、此の正月、又は記念式は忌むべきもの、嫌ふべきもので、我々は歓迎しないのであると云ふことは誰れも同じことである。我々は只だ無意味に自分の年の増したことを祝し、正月と云ふ一里塚に達して年齢を数へるばかりでは、国家、社会の発達のためによりよからぬことである。

故に、我々は我年を計算する勿れと云ふ教訓を守ることが大切である。我々は先づ生れた以上は進歩、発達を計らんければならぬ。我々は年寄になる、老いと云ふことは決して望んではいけぬ、思ふてはいけぬと云ふことを私は今日申したい。今後、我が国の運命を開くには、賢母を作つて、我が日本が壮年の気分となつて、益々進歩する元気ある国民とならんければならぬ。今後の母たる婦人は年をとつてはならない。いつまでも盛なる所の氣に満ちて居る賢母良妻とならなければならぬ。

此の頃ど一も、あまり喜ばしくない流行がある。学問が盛になって来て、男子が結婚をする時期が遅れるのである。30才、或は40才になる。亜米利加のカーネギーの如きは55才で始めて妻を迎へたのであるが、其の年を取つた人がど一云ふ妻を求めると云ふと、50才位の人が二十二、三の人を求め、三十才位の人十七か八の人を迎へると云ふのが此の頃の流行である。

何故こんなに若いものを求めるかと云ふと、男子は老朽を欲しないのである。女は早く老耄する。夫れで三十と云ふと、も一お婆さんであると思ふのである。併し、三十迄、又は二十五迄の人は、まだ一家を調和することが出来ないのである。それであるから、ど一しても此の弊を改善しなければ幸福なる家庭を作ることが出来ないのである。之れを改めるには、女が老耄しないよ一にならなければならぬ。女子の高等教育を受けたものは真に世人に対して其の価値を示し、妻となつては良妻、母となつては賢母となつて、子供が尊敬するよ一にならねばならぬ。処が十七位で既に生涯の仕度が出来たよ一に思ふのはよろしくない。卒業後は進歩が止まるならば、あなたの生涯は夫れで終りである。

夫れで私は新年に於てあなた方に希望するのは、此の社会の悪風を清めて、健全なる風を作ることです。之れが出来なければ、真に満足する家庭を作る事は出来ない。其の空氣を作つて、あなた方が生涯年を取らない人とならんければならぬ。其の修養が出来なければ、あなた方の目的を達することが出来ないであります。

婦人に年を取らせるものが三つある。

[老耄せしむるもの、第一]

其の一つは心配である。婦人程、心配をするものはない。之れを取り除いて行かなければならぬ。此の心配はど一し

て出来るかと云ふと、之れは我儘です。利己心です。婦人の Egoism と云ふことから来るのです。此の態度を変へなければ、心配を取り除くことは出来ません。

[本心より出づる事]

彼の Christ は十字架にかゝり、身に害を加へられても、決して苦痛とは思はない。其処にも大なる喜びがあるのである。決して不平はない。真に人のため、国のため、God の為に捧げたことと云ふことがあれば、どんなに苦められても心に苦痛を感じない。心配はないのである。私共が長命をしよ一と思ふならば、同情を持ち、犠牲人に仕へると云ふ態度、私のない心から出る同情の行為をしなければならぬ。本心から出る愛国心、之れあれば我々は何時でも愉快であり、幸である。此の同情心は私共の一致団結である。今後、私共の充実せんとする処は、此の空氣であります。

[第二]

第二に私共の年を取らせるものは、落胆、失望です。失敗を恐れると云ふことです。

此の反対の希望、理想、信仰、確信があれば、幾年が重なつても年寄りにならない。然るに我国婦人は学校を出ると、も一之れが無くなるのである。此の目的は何に由つて出来るかと云ふと、之れは時代の精神から起るのであります。故に今日の趨勢と云ふものを、よく観察することが大切である。そ一して何時も止まらず、進歩して行くことが必要である。

我々の記念式と云ふものも、過ぎ去つた日を繰り返す計りではない。今後を見ることである。之れから十年、二十年、五十年後の日本の将来を数ふると云ふことである。為すべき本務をきめる処の記念式でなければならぬ。希望あり、進歩あるものでなければならぬ。

Solon が何時迄も元氣で年を取らなかつたのは、其の秘訣は毎日毎日必ず何か新しいことを学ぶからであると云ふことである。何か学ぶ、進むと云ふことが、私共の頭を動かして萎縮しないことである。之れ迄は、ど一云ふ人が長生きをしようと見て居られたかと云ふと、夫れは田舎の人であるとされて居ました。田舎の清い空氣を吸ふて生活するのは健康上非常にいいことであるが、田舎の婦人は早く年を取り、都会生活をする婦人は年を取ることが遅いのである。夫れは田舎の婦人は Monotonous である。何時も同じことを繰り返して居るからで、都会の婦人は始終、新しいことを聞いて進むから、長生きをするのである。

第三は寛容。之れを、此の態度を養はなければならぬ。寛容と云ふ態度にいろいろあるが、先づ第一は、人を容るゝ態度である。夫れにも一一つは、我れに対して寛容なることである。いつも年を取らないよ一にしよ一と思ふならば、日時計の格言を御守りなさい。

[日時計]

I record none but the hours of sunshine, never the mind the dark or shadowed hours.

夜の暗黒な苦しい経験があるが、只、日の照る時丈を記憶すると云ふことである。私共は違ひ損ひをとがめ、心を賣めることばかりしてはならない。自分は過去に過ちをしたと

云ふことを攻めるよりか、過ぎたことは深く之れを改めて、自分を許して行かなければならぬ。真に改めたならば、我が心も許さなければならぬ。故に、我々は過去の経験は許して、友のよきこと、自己のよきことを喚び起して、悪いことを成る可く思はないのが必要である。

夫れから人の信仰をけなし、人を容れないと云ふのはよろしくない。之れは Intolerance と云ふので、こゝ云ふことは宗教家に多いのである。私共は宗教に対しても寛容でなければならぬ。其のよい所には、どこまでも尊敬の念をはらわなければならぬ。

James の Pragmatism を紹介したり、又、近頃 Theosophy を紹介したのも、其の主義に感じたからであります。Tolerance の態度は私共を進歩させ、年寄りにさせないものである。此の三つの主義を以て今年を迎へて、教職員、生徒一同、桜楓会員が共に協同して進みたいと云ふのが、私の切なる希望であります。

つまり私共の同情と云ふ、犠牲と云ふ精神が集まって出来た態度が、即ち宗教の Essence である。精神教育である。お互の間に起る空気である。之れが出来なければならぬ。之れは独り女子教育にばかり必要であると云ふのではない。男子の教育にも非常に大切なことである。夫れで、私は先年、菊池京都大学総長に此のことを話したのである。其の時に総長が言はれるには、不可能である。只だ此の空気は女子に待つ外はない、と。併し之れは、ど一しても出来ないのです。Christ 教でも仏教でも之れは出来ないが、我々は此の学校の校風として、之れを作り上げよ一として居るのである。我々は之れを宗教的として、文部大臣にも言ふてある。之れが、出来よ一として出来ないのである。之れが出来なければならぬのである。之れが私の日夜苦心する処であります。之れが出来て後、始めて已むのであります。我々の主義、我々の捧ぐる所は之れである。之れが出来なければ十年期を迎ふことが出来ない。之れが出来んが為めに、私は皆さんの協同を願ふのであります。ど一しても我が国の御婦人が自分の手で、自分の手でなされることを切に希望するのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十四年一月十一日

明治四十四年一月十一日

大学部全体

今から四月迄に、いろいろ為すべき事が沢山ある。之れを大体、形付けたいのであるが、其の戦ひの初陣に於て、あなた方が如何なる働きをなさるか。之れは、私が誠に属望して見たいと思ふて居る処であります。

それで、あなた方が真に私の要求して居る処を為し遂げることは、非常に六かしいと思ひになるであらう。之れは容

易ではない、六かしいことであると云ふことは知つて居るが、私はあなた方には物の興儀を知つて貰ひたい。第一義を知らせたいと思ふ。夫れで私は、申すことが根本的になる。此の根本的の根迄、掘り当て行くことをしよ一とする。故に、時に狭き門より入らんければならぬから、我々の力では出来ないと感ずることがあるかと思ふ。併し私は、如何に六かしい誤解がある一とも其処迄行かなければ、あなた方の為めによくないと思ふのである。今、之れが六かしいよ一であるが、卒業後に於て、あなた方が将来に於て、必ず母校に感謝なさることがあると信ずるのであります。

此の頃、海外に居る卒業生などからも、始終其の感謝の詞を耳にするのである。学校に居るときは、時には不平に思ふた事もあつたけれども、卒業して始めて之れを知つたと云ふことを聞くのである。私は決して、之れをあやしまないものである。自分自身に此の経験を持つて居るからであります。私が今日に至る迄、一日として忘るゝことの出来ないものは、父の恩であります。父親の教育は実に厳格で、時に私は苦痛に思ふたこともありましたが。私を最も可愛がつて呉れたのは、母方の祖母である。併し今日になって考へて見ると、ど一しても忘れることの出来ないものは父の恩である。母の愛、祖母の愛も決して忘れはしませんが、今日から見ると感服の出来ない処がある。やはり厳格であつた父の愛に感謝するのであります。

夫れで一義を行うて行くのは苦しいよ一であるが、実は苦しくないのである。そ一云ふ経験はよく聞くのである。夫れ故に、斯く厳寒の時に於て、いろいろあなた方に要求するのは無理であると思ふが、之れを申すのである。一昨日、私が終りに於て、今年に対して決心して居るもの、又あなた方を促したものが三つある。私の此の考へは、決して失望、落胆の声ではない。私には大に信ずる所があつて、あなた方に促したのである。訴へたのである。又、あなた方の内に夫れだけの種はあると思つて、訴へたのである。多分、其の意味があなた方に貫徹したと思つて居たのである。然るに昨日になって、或る部分に其の意味を取ることが出来なかつたと云ふよ一なことを、私は耳に致しました。之れは風説であるから今朝直接に之れをたゞして見た処が、全く夫れは誤聞であつて、杞憂であつたと分りまして、只今は安心して居りますが、一言、一昨日申した意味をよく明らかになるよ一にして置きまして、留守中の仕事なども御話して置く必要があるかと思ひます。

つまり一番終りに申したことは、我々が学校を起したのは、我が国の教育の根本を改めたい、其の動機として国民教育の基礎を作り上げたいと云ふことであります。夫れには日々新にして行かなければならぬ。始終、若い氣に満ちた処のものを作ろ一と思ひました。夫れに、今年十年期を迎ふるに當つて我々は、各学科に根本の改善を計らんければならぬと云ふことを深く心に感じて居る。夫ればかりでなく、尚ほいろいろ決心した処があるから、あなたに其の決心を促したのである。夫れについて英文科の事を例に引いて申したのである。其の時も申したよ一に、昨年来、英語の研究法につい

ていろいろ申しまして、近頃は余程皆が其の態度になって来て、今年は大に希望を持って居るのであるが、根底に於て、も一少し力を作りたいと思ふて居りますが、私は只だ之れを口で言ふばかりでなく、心に大に満足して居ることもあるのである。英語の雑誌を卒業生の人に少し手伝つて貰ひますが、之れに対しても大に望みを持って居る。確に、思ふたより以上の力がある。物が出来ると云ふことを見出したのです。夫れで決して、嘆声を發したのではないのである。然るに、英文科が退歩して来たよ一に取つたと云ふことが聞こえて来たのであります。決して私は、そ一云ふつもりで言ふたのではない。

も一一つの点は、本校が如何に其の責任を負ふて居るか、私が如何に英文科に重きをおいて居るか、如何に貴い価値を払ふて居るかと云ふことを申したのであるが、さすれば人数の少ない英文科は、人数の多い家政科などから補助せられて居るのである一かと云ふよ一に取られたかも知れないが、決してそ一ではない。其の補助をしなければならぬ一万五、六千円の金は、全く学校の基金の中から出て居るのである。

なぜ、そ一云ふことを言ふか。如何に英文科に対して苦心をして居るかと云ふことを申したい為めである。英文科と云ふものゝSelf-preservationが我國の発達に力あるかと云ふことを思ふて、之れに重きをおいて居るのであります。夫れにも関はず、社会の沈衰は学校にも影響を蒙つて、昨年の春、遂に或一部、暫らく廢することになった。其の時に多くの人々は、英文科を一時よしてはと云ふ説でありましたが、私は、ど一しても英文科をよすことは出来ないと云つて、遂に教育部の一部、二部を中止すると云ふことになりました。そして英文科の人数の少なくなったと云ふのは、決して実力がなくなったと云ふのではない。眞のUniversityは少数の学生に多くの書物を与へて、教授が之れを導くのが理想である。

此の学校でも教授は出来るだけ選択を致し、大学以上の教育を受けられた人を聘して居るのである。Osbornさんもそ一である。時にはヒューズさんを頼んだこともある。松浦さんと云つても十八年間同志社に居られて、教育に深い経験を持って居られる方である。島田さんは十一年間米國に居て、ウェスレアン大学を卒業して、神戸の商業学校の校長をもされた方である。岸本さんはハーバート大学の御出身であり、村田さんと云つても同志社を卒業されてエール大学に入り、殊に歴史を専門に研究されたのである。高橋君と云つても日本に二人とない方である。

其の学校の価値は、一つは教授に由つて定まるものなのである。其の外に凡て、他の部にある処の共通の学科を悉く修めて居るのである。然るに、此の学校の英文科は力のないものであると云ふよ一に取るのは、間違ひなのである。如何に我々が高いぬうちを払つて居るかと云ふことは、之れだけ英文科の大切であると云ふことを示さん為に言つたことである。

もし之れでも元氣を回復し得ないならば、實に英文科の将来が氣遣はしい。併し私は出来るると云ふ信仰があるが、只夫れは私一人の信仰ばかりでは及ばないことである。之れには生徒の態度が大切である。ど一しても、あなた方に由つて為

されることであるから、私は之れを訴へたのである。生徒の少なくなったと云ふのは衰へたと云ふやうに感じたりするのは誤りである。決して誤解のないよ一にして戴きたい。公平に、本氣になって聞くならば、そんなよ一には取れないのである。なぜならば、私の心にそんなことを少しも思ふて居ないからであります。

多分私が此の間言ふたことの少し分り兼ねた処は、今述べた処のことであろ一と思ひます。夫れ等に誤解があるならば打ち明けて、尋ねてもらひたいと思ふ。尚ほ疑ひのある処は充分おきよ一になるならば、私は喜んで答へたいと思ふ。

大抵、其の眞意のわかつた人は……

此の暮から新年にかけて、あなた方がど一云ふことを感じ、ど一云ふ計画をお立てになり、夫れに対するど一云ふ決心をなさつたかと云ふことは、此の所感に由つて之れを知ることが出来るのである。私は、之れを見るのを非常に楽しみにして居るのであります。まだ悉く集まりませんから、後に一所にして見ることにして開かず、後の楽しみとして持つて居るのであります。まだの方は至急お出しになるよ一に願ひたい。

只だ、其の精神とかAspirationとかInspirationは、空に浮んで来るものではないのである。其の人間の動力たる信仰、向上心、目的、主義、理想と云ふものが、ど一して出来るかと云ふに、之れ等は心理学、社会学、宗教等のいろいろの方面から研究して来なければ、本当の解釈はつきにくいのである。

私共の今年の目的を達し、活動を盛んにする動機を作るには、其の材料たる可きものが必要である。それで、あなた方が暮から新年にかけて前途をお考へになり、予科及び高等女学校の方々が科の選択をなさる為めに、又、三年生が卒業後の方針を御定めになること、又、結婚問題等に対してど一するかと云ふことにつきまして、ど一かして、あなた方に材料を与へたいと思ふ。今日迄の材料は、多くは過去の経験である。是れ迄の事実である。処が我が日本國は、之れから昔に立ちもどるのではなく、先へ進まうとして非常なる変化を来そ一として居るのである。之れに順応することが出来なければ、我が國家は成り立たないのである。故に過去の事、目前の事ばかり見て居ては駄目である。十年、二十年の先を見る明が開けなければならぬ。それで、先見の明を得る材料を私はあなたにあげたいと云ふ考へからして、二十年後の日本、世界の形勢を三号のLifeに書いて置きましたから、私の留守中に出来るだけ之れを調べて戴きたい。そのやり方は、やはり前の経験に由りまして、互に交換し合つて、先づ三号を使って此の二週間に修養の方法を考へ、又前途の計画を立てる用意をしてもらひたい。

[Life 第三号]

第一、全体の修養には、一頁の

The Coming World

1

Don't Let The Years Count

37

此の二章を皆で一緒にして、其の本意を取つてもらひたい。英文科は御自分でよくお調べになり、外の方は指導者の方か

ら教へて貰って、御研究なさるよ一に致したい。も一つ調べて貰ひたいのは、

Educational Resources of the Community 62

之れを共通に、修養の爲めにお調べになることが必要である。夫れを一日やっつて、互に経験を交換し、も一つは部に由つて問題を変へて見たい。

始めに家政科と教育部の方を申します。

ページ 6

The Progress of the World and International Peace —
By K. Ukita, Ph. D.

ページ 9

A Japanese Invasion — Is It Probable? — By
Rev. H. Loomis, Agent of the America Bible Society in
Japan

ページ 14

The Forecast of Increase of Population in 1930

ページ 15

Diagram Showing the Comparative Naval Strength of the
Powers 10 Years from Now

ページ 16

Means Applicable for National Enrichment — By
Vice-Admiral Baron K. Kimotsuki

ページ 18

Foreign Trade and Universal Peace — By J. Morimura

ページ 20

The Present Wealth of the Various Nations — Forecast
of the Wealth of Various Nations

ページ 21

The World Center of Theosophy — By Kenneth Mowis

ページ 24

The Tendency of Women's Education in England — By
Tadokoro Yoshiharu

ページ 25

What Made the Netherlands Great and What Made Them
Weak — By J. E. Barker

文学部は、

ページ 27

Why Should a Nation Fail

ページ 29

Patents of the World — Earning Per Inhabitant of
Various Nations

ページ 30

The Society of Tomorrow (Summary and Conclusion)

ページ 34

Railway Mileage of the Nations — 1907

ページ 37

American Trade and Commerce

之れを人文史の方から研究なさるとよかる一と思ひます。

英文科は、

ページ 42

Moments With a Great Soul

ページ 42

The World Language — By Hugo Munsterberg

ページ 45

How the World's Story was First Told (Illustrated)

ページ 47

The Japanese Training Ships

其の次は歌ですが、歌は皆必要ですが、先づ英文科の中に入れて置きましょう。

ページ 50

Causes of Race Superiority (Continued) by
E. A. Ross, Ph. D.

ページ 53

The Woman in the Family (Continued) by Helen
Bosanquet

ページ 67

To Put the Right Man in the Right Place

ページ 77

What Women Have Accomplished Without the Ballot

ページ 79

A Word About the Business and Financial Outlook —
By Frank A. Munsey

之れだけが英文科でなさる処である。

之れを読んで、銘々が自分の Note になさることが大切である。まだ一号も二号も残つて居る処が沢山あると思ふが、之れ等も皆、自分の論文に結び付けてやれば出来ぬと云ふことはないと思ふ。

ど一か、充分に其の経験を交換して、其の結果を表すよ一につとむることを切に希望するのであります。

又、十年期の事も、私の戻つた早々に会の出来るよ一にして置いて貰ひたい。故に、始めに於て充分分り合ふて、寛容な態度を以て是非仕遂げなければならぬ処迄行きたいと思ひます。

[中表紙]

第二、三学年にての御話
明治四十四年一月二十五日

明治四十一年一月二十五日 *

第二、三学年にて

* 注： 明治四十四年一月二十五日の誤記と思われる。

Life3 号の Coming World に就きての疑問に答へて

[今日の教育の傾向]

今日、我国で一般に感じて居るのは、学生が智に傾き才の人になつて、ど一も意志が乏しい、人格が出来にくいと云ふことである。口には大きいことを言ふが、行ひが之れに伴はないと云つて、教育家も宗教家も之れを繰り返して悲嘆して居るのである。

今の学問も政治も、皆 Game である、遊びである。なぜ我国民は目を醒さんか、なげかはいいことであると云ふのである。之れを救済せんければ、到底我国を世界の列強国の中へ加へ

て行くことは出来ないと言ふのは、明らかなことである。私が大阪へ行って聞いて見るのに、ど一も今の女学校に自分の娘を任せておくことは出来ないと言ふて、自分の家に先生を呼んで教育をして居ると言ふことであります。之れは実に、我國の教育に力が無いと言ふことである。之れをど一すればよいかと言ふと、之れはあまりに女子に物を教へ過ぎるのである。夫れ故、裁縫とか編物とか言ふ実科の教育をすることが必要である。又、今日の学生は哲学の囃りかけになって、悟り損つて、華嚴の瀧に行くよ一なことをする。あれはつまり、消化せん頃に六かしい哲学を教へるからであると言つて、此の節では当局者間では、実践倫理などと言つてはいけぬ。修身と言はなければならぬと言ひ、倫理学ではなく二宮尊徳の事を話し、釈迦、孔子、其の外、卑近なる例に由つて、実践道徳を学ばしめなければならぬと言ふて居る。之れが今日の社会の傾きであり、空気である。果して、之れでよいものでありましょ一か。此の前にも私が申したよ一に、我々の生きて居る此の社会は、一時も停止して居ない。常に活動して居る。常に戦つて居るのである。我々は之れと共に戦つて居るのである。又、多くの反対を受けて居るのである。我々の前途にはいつも二つの潮流がある。そして互に相反して居るのである。何時も我々は、何れを選ぶか曖昧な態度をして、始終ぐら付いて居る。迷ひの状態、二心の状態で居るならば、到底真理を探究することは出来ないのである。此の目に見えん処の凡てを支配して居る処の、其の力を感じなければならぬ。始終、真理に向つて忠実でなければならぬ。

私は空想は嫌ひである。併し、今日世間に流行して居る処の實際、現実世界と言ふ詞には、誠に似て非なる俗論がある。我々はど一しても之れを破壊して、死を以て之れに向つて、戦ひを起して行かんければならぬのである。

今日の青年の腐敗は理想がなく、文学がなく、哲学がないからである。そして精神が鈍つて来たからである。理想のない人、精神の乏しい人、哲学を解しない人が力があるであらう一か。決してないのである。今日の行ひの伴はない、學問に實際の伴はないと言ふことは、人々が考へて居るよ一に皮相なことではない。根本は無知と言ふことである。全体が分らない、先見の明が暗いと云ふことである。今日の宗教の腐敗は、宗教に統一がない。其の土台に統一がないのである。昔から統一のない理想、信仰のない人で、人生、社会を統一する実行家は、嘗てないのである。然るに其の本を養はずして、只だ実行、只だ為す可からず、為す可しと言ふ簡短なることを教へて、果して社会を改善し、女子の無能を覚醒されるよ一になりましょ一か。到底出来ないのである。

私は、今日の無能力、今日の腐敗、紊亂は哲学がないから、理屈が分らんから、今日の此のいろいろなる変化に適することの出来ないのは、眞の倫理学の土台がないからであると思ふ。

つまり、こゝにある (Life 3 Coming World) ことは、遠方の事である。我國民に適せないと云ふのは、今日の空気に感染したと云ふことである。夫れから、あの中に東西宗教の二大潮流が一つに合はんければならぬと言ふたのは、之

れは不可能なことであるとお感じになるかも知れない。小さい伝説を持つ我國民が之れを為すことは不可能である。宗教は個人的、感情的であるから、耶蘇教の如き、仏教の如き人格的のものでなければならぬとお感じになるかも知れない。否、今日の学者、識者の等しく見る処である。併し之れは余程大問題であつて、僅かなる時間に説明することは六かしいのである。

此の宗教と言ふたのも、決して仏教、Christ 教を言つたのではないが、東西を言ふ為に、之れを用ひたのである。過去三十年来、私と宗教上、學問上に於て友誼となつて居る、今日我國に於いて地位あり學識ある有力なる宗教家と一夜逢ふて、二時間余り深い話を致しました。

[友の説]

其の人の言ふには、Christ も神の表現であり、又釈迦も孔子も神の表現である。そして Christ は神の表現の最大なるもの、傑出したものである。お前も此の考へに同意することが出来るであらう一、と云ふことであります。

私は一時、其れと同様 Christ を信じ、其の価値感化に感じて居たが、此の頃は又等しく仏教、釈迦に対しても、そ一云ふ信仰を持つて居ると申しました。又、其の人は、いろいろの方面から寺攻撃を致しました。併し私は、Christ 教にも仏教にも表はれた神を尊敬するのである。

釈迦に表はれた神は Immanence of God であり、Christ に表はれた神は Love of God である。

仏教は、智、真理、真如と云ふものを Manifest したものである。そして無限である。故に今日の Christ 教も、其の光りを受けて、こゝにも一層の發展を來すことが出来たもので、今日の Christ 教と雖も、宇宙の大關係を離れて、Rome、Anglo-Saxon のみに由つて出来て居るものではないと私は思ふ。故に、Christ が神の Manifestation であるよ一に、仏教も神の Manifestation である。

第三に其の人の打つたのは、Christ 教は樂天的の宗教であり、仏教は悲觀的のものであると云ふことであります。

今日 Christ 教と仏教とが到底、其のよ一に一つになる、根本に於て相離れざるものであると云ふ信仰に対しては、尚ほ充分な深い考へが必要であると思ふが、之れは空なことであると思ふのは誤りである。私は今日、現に之れを実現して居る。此の御國を來さんとして居ると云ふことを信じて居るのである。

夫れ丈の Unity、Philosophy がなければ、到底満足することが出来ません。

夫れから大國民になれないと言ふのは、理想がないからである。只だ部分的な狭い關係、個人的興味に満足して、団体とか全体とかの興味を感じることが出来ないからであります。私は今度関西へ参りまして、大阪、名古屋などの実業家に逢つて來ましたが、誰れでも皆、此の嘆聲を發して居るのであります。そこで今の世界の前途を考へることは、一向論拠のないことではない。皆、此に輿論のあることであります。

來る可き宗教と云ふことについても、多くの説を先づ参照して、而して後に案を立てたので、決して獨断的な架空的な

議論ではない。

[人間社会は人間の理想、信仰に由りて出来せり]

夫れから我が国民の Mission、東西の宗教を統一する、此一云ふ Mission が我國民に果して成し遂ぐる事が出来るかと云ふことは問題となるのであるが、併し今迄の伝説、遺伝で将来を律することは出来ない。否、我々の希望に由って作るのである。人間社会は人間の理想、信仰に由って出来たものである。もし我々が出来たならば、能はざると云ふことはない。信ぜざるものには何事も出来ないのである。自暴自棄の者は、自殺するより外はないのである。我々は如何に微力なりとは云へ、小国民たりとは云へ、我が Mission を感じ、国民、一致統一して集注したならば、成し遂ぐる能はざることではないのである。出来ない、及ばないと言ふこと程、あなただに悪い暗示を与へるものはないのである。

時は来れるのである。田は熟せるのである。仮令貧弱でも Mission と思ふならば、止めを刺される迄、咽喉を破る迄やるのです。己の爲めではない。我々は己を離れ、狭い空気を離れた処に理想を置かんければ駄目である。今日の停滞は大局が見えんからである。

私は幾度か此の事をあなた方に訴へたか知れない。其処に気がつかなければならぬ。駄目である。幾ら人が邪魔をしても立つ可き処に立つて、熱心を以て為さなければならぬ。

私はど一しても、未だ今の疑問に対して其処の処が分つて居ないよ一に思ふ。尚ほ疑問があり弁解があるならば、皆さんから、成る可く多くお出しになることを希望するのであります。

今日は、も一時間が遅くなりましたから、之れでよすことに致しますが、尚ほ皆さん、銘々でよくお考へになることを、切に希望致します。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十四年二月一日

明治四十四年二月一日

大学部全体

まだ、いろいろ皆さんから聞きたいのでありますが、も一時間ありませんから、今日は之れでよすことに致しましよ一。皆さん自身で深い問題を研究するよ一にお約束をしまして、最も複雑な、又最も根本な問題を銘々でお考へになり、又組としてもお考へになった処を、私共は尊敬の念を以て、又恰かも折りのよ一に聞くことが出来ました。又、今御話にならない人も極めて真面目な態度で、満堂の人々が熱心に満ちて居ります。此一云ふことは未だ嘗て経験のないことで、大に満足に思ふ処であります。

[今日の空気]

又、お考へになるばかりでなく、熱烈な飢え渴く如き高い

向上心、追求心を持ってお出でになることは、自ら表はれて居るのみならず、只だ口で言ふばかりでなく、生きた経験を真心から発表なさることが出来るよ一になったことは、近頃の確かな進歩であると思ふ。そして全講堂に満つる神聖な空気をお作りになるよ一になったことは、感謝に堪へないのであります。

多分、私は詞に言ひ表はすことは出来ないが、いろいろ確に其の生活をお試しになって、其の命に接することが出来、何かの感動を起して、いろいろ深い問題を興して居ると思ふ。其れでありますから、此処に深い説明は要しないかと思ふが、一言こゝに付けて申して置きたいと思ふ。

此の社会的、宇内的、或は世界的宗教の命と言ふならば、各宗教の真髓を取ると云ふよ一に、詞を御用ひになったのであります。無論、客観的に言ふ時は Abstract になるのである。

併し今迄、東洋には仏教の流れ、儒教の流れを受けて、東洋に発達した処の命を持って居た。夫れに西洋の物質文明を入るゝばかりでなく、Christ 教の真髓をも入れて完全なる宗教を作ると云へば、従来 Christ 教の精神が東洋になかった、夫れで之れが加はつて此に新生命が開けると云ふよ一に解するならば間違ひである。

此の頃、ほんといに其の宗教の真髓を味ふて居る識者の間には、Christ 教の本源と仏教の本源と云ふものは二つではなくて、其の大原因は同じのものであると云ふよ一に考へるのである。夫れで其の実を言ひますならば、今日始めて我国に Christ 教が伝はつて、其の命が入つて来たのではない。我国古来、既に Christ 教と云ふ宗教は生存して居たものである。我々は Christ 教の流れを汲んで居たものである。我が国民の血には、Christ 教の血が矢張、我々国民の命には入つて居るのである。もしも此の命がなかったならば、我國民が Christ 教を信ずることは出来ないのである。然るに、我々の経験に由つて、我が國民も本当の Christian になる、我々の中に Christ 教があると思ふて居てよろしいのである。そして又、西洋人の血の中には、東洋にある我々の特性であると思ふて居たものがあるのである。

[世界人類の祖先は同一なり]

夫れで本当は両國民の先祖は、世界人類を生んだ親は、実は同じである。そ一して始めて木に竹をついだやうにしたのではない。抽象して、人間が勝手にそ一云ふ宗教を作ると云ふのではない。

我々の間に矢張、Christ の盞はある。三百年前に之れが植え付けられたのではない。二千五百年前、神武天皇の時に既にあったのであると思ふ。

[宗教とは何ぞや]

夫れはど一云ふ訳でそ一言ふかと、皆さんはお母ねになるでしょ一。一体、宗教と云ふものゝ本当の命は何であるか。宗教は命があると言ふが、宗教は一体何であるか。今言ふ処の宗教は Bible がない。Christ 教は Bible でしょ一か。Christ 教は只だ Bible ではありません。何となれば Christ は Bible を書いたのではない。Bible は Christ が死んで二百年もしてから書かれたのである。仏教はお経文でしょ一か。経文は

Buddha が書いたのではない。仏教は經文以前に、既に行はれたのである。Prayer、神に祈りを捧げる、又は Christ 教の儀式が宗教であるかと云ふと、そーではない。其の儀式は後世に於て出来たもので、夫れが此の宗教の真髓ではない。

今私は、西洋と交通を始めて、我国に Christ 教が入ったものではないと云ふことを申しました。然らば、我国の道德に Christ 教の道德が行はれて居るかど一かをお尋ねになるであらう。我国の道德、習慣、風俗に、Christ 教の夫れに劣ったものがある一、一致しないものがある一と思ふ。併し夫れを以て、少しも Christ の命がないと言ふことは出来ないと思ふ。仮令 2000 年間に於ける Christ 教の国民政治に於ても、Christ の御心に反したものが多々ある。其の欧州の道德が Christ 教に反した処のあるのを以て、之れが Christ に叛いたものであると言ふことは出来得ない。又、我々は真に Christ の命に生き、神の御心に叶ふ行ひをして居るものでありと信仰するもの、又そーして其の信仰の真理、教義に於て、又は日常生活に於て完全無欠であると云ふものは、世界中、未だ嘗てないのである。我々の悟りに於て欠点があるから、其の人には神がない、其の人には神の子たる光がないと言ふことは出来まいと思ふ。之れと同様、国家、団体に於ても完全無欠でなければ、其の中に宗教の命がないと言ふことは出来まいと思ふ。矢張、今日のあなた方の態度のよーに、真理を追求して止まない、ど一か不完全な処は戦つて社会を完全にし、調和し、共同したいと云ふ向上心、熱情の中に、神性の神の命はあらはれると思ふ。

そー云ふ風に論じて来たならば、我国の歴史の中に昔から西洋の影響を受けずして、我國民の中に之れがあつたと私は信ずることが出来る。そーして今日の國民の活動の中にも、之れが表はれて居ると信じなければならぬと思ふ。世界的の宗教は今日、我が國を始め皆人々の中に表はれて居ると思ふ。其の例としては近來、暹米利加のカーネギーが百万弗を我國の早稲田大學へ寄附すると云ふことを申し込んで来ました。夫れに対して大隈伯は、千字ばかりの返電を打たれたのである。

之れを果して行ふかど一かは分らんが、彼れは初め、彼れの得た金は Christian か Anglo - Saxon の為めの外は使はないと言つて居たのであります。然るに其の後、独逸、羅典等の為にも多くの金を出し、今度は又、東洋の一番果ての國家に出金をしよと云ふのである。其の動機は何であるかと言へば、世界の平和、人類の安寧と云ふことである。

何か Christ 教の爲め、ほんとの Humanity の爲めにしたいと思つて動く。其の行爲、之れが我々の實現せんとする理想である。世界的宗教である。

[桂、西園寺 二侯の提擧]

又今度、桂侯と西園寺侯と手を握つた。今迄、互に相反目して居たものが何の条件なしに、國家の爲めに一致結合して、國の爲めに尽しましよと云ふ其の中に、何の罅りもあらう一筋はない。實に國家の爲めに有難いことである。

之れは政治であると言ふかも知れぬが、之れが人の心にある宗教であると言ふことが出来ると思はれる。又、我國が

日露戦争に大捷を得ても、天皇陛下は之れを祖先の靈に感謝せらるゝのである。先祖の靈、神の御心に由つて成つたと云ふ謙遜な御徳は宗教である。又、東郷大将は之れを陛下の御稜威に帰し、又天佑であると云つて其の榮えを神に帰せらるゝ処は、Christ 教徒が神に感謝するのと同じである。此の國民の中に神の命があると信ずる。又、今日の如く真心から真理を考へ、真面目に発表する処に宗教がある。過日も一年生の會に臨んで、深く其処に神の靈が動いて居ると云ふことを感じました。

政府と國民との間に今迄は争ふて居たが、世界の大勢を見て毅然として、解けて争はない。其のよーに我が校に於ても、ど一か、お互に心を協せて助け合つて、お互に婦人の爲めに尽しましよと云ふ決心をして戴きたいのである。

世界的宗教は決して空なものではない。此の社会の中にならなく、最早我國にも、否、此の講堂にもあります。お互に心を一つにして、私共が理想を實現して行ければ宗教の生きた經驗を得ると、私は信ずるのであります。ど一か皆さん、お互におつとめになつて、其の目的を達するよーにおつとめになることを切に希望致します。

[中表紙]

大學部全体の御話
明治四十四年二月八日

明治四十四年二月八日
大學部全体

女子大學校の大体論については今迄様々でありまして、女子大學校は果して我國民を教育する母を作る、即ち賢母良妻を作るに、其の方針、方法は適切なるものであらうか。或は其の法に叶はない主義を取つて居るのではなからうか。之れを高等女學校の教育として採用したならば、ど一も婦人として面白くないよーな結果を来しはすまいかと云ふ誤解を受けて居た。又甚だしきは、女子大學校は我が國體の根本を變へよと云ふ野心を抱いて居る。又、我が國體に合はない。外國の宗教を拵めよとする。羊頭を懸けて狗肉を売つものであると云ふよーなことを言ふ。識者の間にも尚ほ、かゝる説をなすものがあつた。夫れから、理想が高いのは只だ高い暮しをするものを理想とするのであると云ふよーに、女子高等教育の先駆者はいろいろの誤解、迫害を受けて、一時は其の發展を妨げられないでもなかつたが、其の後、文部大臣及び次官、局長、參事官が自ら學校を見て、女子大學の大体の方針又は結果について、我國の女子教育上、大に害がないのみならず、女子教育に効果があるとして、此に資格を與へられたと云ふことは、我々大に満足してよいと思ふ。併し必ず出来ると思ふた文學部が出来ないのは、實に遺憾である。併し其の規定なれば、今更ど一も仕方がない。我々は此に善後策を考究するより外はないのである。其の方針としては學監か

ら申しましたよ一に、文学部の学生及び卒業生が充分によい成績を表はして下さることと、又教育家に選定するに適當なる人が試験を受けることであります。又試験を受ける用意の出来ない者は自分から控えることにし、又自分の力の分らないものは、先輩及び教授等の日頃から最も其の人をよく知り育てた人の認める処に由ってしなければならぬ。只だ自分は場馴れがしてよいと云ふよ一なことがあるかも知れないが、夫れは只だ自分の為ばかりではなく、全体の為めと云ふことを考へてすることが大切であります。

又文学に志して、文学と云ふ専門を以て将来國語、漢文の教師となろ一と云ふ人、又は物理、化学、数学を以て立ちたいと云ふ人がある。又は英文学を専門として、教育に従事したいと云ふ人がある。然るに、高等師範と云ふよ一な官立の特権ある処は、不充分な人でも資格を得ることが出来るのに、我々、人も認め自分も認める処を得ることが出来ないと言ふのは不公平であると云ふ不平を稱へる、嘆声を洩らすと云ふこともあろ一が、我々は今の場合、其の様なことを言ふのはつゝしむべきことであると思ふ。試験の弊、試験の暗記力に由る弊、及び官立と云ふものが便利で、こ一云ふ学校の不便宜であることも事實である。そ一云ふことは、委員及び教授の口から度々聞くことであります。

[無上の特権]

教育家たらんとするものは、其の深い知識と品性とを養ふことが必要である。特権は入らない。充分支度をして専門の学力を養ひ、人格を作ることが出来たならば、夫れが何よりも尊い特権である。此の中に、教育家たらんとする人があるであろ一。其の人は充分に此の覚悟をなさることが大切である。よい勉強の仕方にて勉強なされば、決して無駄なことではない。特権とか云ふことを忘れ、真に自分の教育に熱心に用意なされたならば、あなた方は将来に成功なさることが出来る。故に、外の部に得られて文学部に得られなかったことを失望することはないと思ふ。其の決心を以て、大に私共は銘々の志を定めて、其の道に進みたいと思ふ。

夫れから実は、家事裁縫、物理化学、國語漢文、夫れだけ無試験検定の特権を得られるよ一と希望して居りました。当局者の方にも同意されたことであるから、許可されることは疑ひないと思つて其の許可を望んで居りましたが、又一方、同時にあまり多く変化を来し、又課業の時間を大に殖し、國語漢文の如きは30時間と云ふ課業を為して、之れをよくこなして卒業試験に立派なる成績を得よ一と思ふならば、其の課業の為めに力をそがれ、選択の自由もなく、個性の特色を發揮することも減じて来る。自分で考へる、其の知識を日常の生活に應用して見ると云ふよ一な点について、段々不足を来して来る。又、今の検定試験は知識の試験である。故に、教育が知と云ふ、知ると云ふ暗記力に重きを置き過ぎて、此の身体の教育をおろそかにし、徳育、修養と云ふことを大に失ふて、知育に傾いて来ると云ふ恐れがある。夫れで同時に、特権を貰つて折角十年間築き上げて来た処の校風を傷けはしまいかと云ふことについて、心配を持って居りました。併し之れは銘々の心の態度に由つて、努力に由つて、此の弊を矯

めることは出来ると思ふて居たが、併し僅に家政学部の一部が其の制度の一部に入ったのである。我々は小部分に於て変化を来したのである。之れは、却つて幸福であつたかも知れない。我々がよく導いたならば、立派なる、人格ある、品性ある教育家を養成することが出来るであろ一。夫れから徐々に増して行くならば、健全なる発達を遂げることが出来るでありましょ一。一方に甚だ失望したよ一であるが、学校の為めには却つてよいことであります。夫れ故に、我々は之れに満足して、之れを完成し、発展して行くよ一に尽さんければならぬと思ふのである。

夫れから其の結果として、甚だ遺憾に思ふことが一つある。夫れも併せて今日、全体に報告して置く方がよいと思ふ。夫れは昨年一寸申したよ一に、教育は高等に進める程、益々経済の力の必要を増して来る。然るに本校は、篤志家の共同に由つて出来て居つて、一文も校費とか官費とか云ふ国庫の補助を受けて居ないのであります。そこで今日に於て経済の整理をよくしないと、今後の発展を充分にすることが出来ない。只だ精神ばかりではいけない。やはり物質の力も保存して行かなければならぬのである。

今日では校舍、器具は揃ふたのであるが、此の現状を維持するには、三十万円の基金がなければならぬ。そこで今の処、十五万円は出来たのであるが、あと十五万円は今年中に出来る見込みであるが、五年の年賦であるから、こゝから一万五千円の利息を生み出すのであるが、今少しでも基金の方に手をつけると、又之れが出なくなるのである。今のまゝでも一万四、五千円の補助がある。夫れで今の経済では、大に節約をしなければならぬことになって来た。夫れについては、どこかの部分を暫く休めて置くより外に道がないのである。一番経済に困るのが、教育部、文学部、英文学部の三学部である。昨年、教育部は休めて置いたのであるが、英文学部、文学部も其の儘に維持することが出来ないので、ど一すればよいかと昨年、評議員会でいろいろ相談を致しました。併し今後、日新の國家社会を進める上に、外國語を暫くも休めることは出来ない。國文は我國の文学である。我國の魂である。殊に文学は婦人の學問として最も適當なるものである。此の長所であるものを止めることは出来ないと言ふのは、誰れも同感である。併し此の國文と云ふものは、図書館から云つても、あたりの空気から云つても、其の精神を養ふ上に欠けて居ないのである。夫れから、之れを英文科に要素を加へて行きますならば、或は独学で行くかも知れないのである。夫れ故、暫くの間、此の高等教育が発展する迄、之れを中止することしなければ仕方がないと思ふ。之れから文学部に入ろ一と思ふ人は其の事を考へて、先きの方針をおきめになるよ一に致したいと思ひます。

併し今の卒業生のお方で、猶ほ教育に従事しよ一と思ひになる方は、大に勉強して試験をお受けになつて、文部省の比例が取れるよ一になれば、直に特権を得ることが出来るのであります。あなた方は真に自分の目的の為めに、よい成績をお挙げになることを希望致します。

又、今の文学を希望するものは、何かの道に由つて、其の

志を遂げるよーになさることが必要である。そーすれば学校の方では、出来るだけの便宜を与へたいと思ふのであります。

大体については、そー云ふことであるから、銘々今後、積極の態度を取って、今後の各方面にお進みになることを切に希望するのであります。

[中表紙]
紀元節祝賀式の御話
明治四十四年二月十一日

明治四十四年二月十一日
紀元節祝賀式の御話

昨日は小学校と幼稚園が一つになりまして、お母さんの会を致しました。夫れについて皆がよって、いろいろと其支度をなさって、面白い会が出来ましたそーであります。私も是非あなた方のなさる事を見に参りたいと思ふて居りましたが、昨日は亜米利加から不意にお客がありまして、どーしても私が其のお客さんの行く所へ行かねばならんので、あなた方の会へは、よー参りませんでした。けれども私思ふに、多分あなた方はお行儀もよく、身体もしっかりとする事が出来るよーになり、又皆よく心を合せて、お母さん達がおわかりになるよーに、又お喜びになるよーに親切にお迎へになる事が出来たらーと思ふのは、今日あなた方が此の講堂へ入って、紀元節と云ふ一年に一度ある式に出て、お礼をするにも君が代を奏する時にも、ちゃんとして居なさる。あなた方は兵隊さんを知って居りませよー。兵隊は余り身体を動かさない。そー云ふ事が出来るよーになったから、昨日もよく出来たであろーと思ふ。

昨日はよく出来ましたでせよーか。又面白かったでせよーか。どんな会でしたろーか。

- ・ 面白う御座りました。
- ・ よく出来たと思ひます。
- ・ お父さまやお母様にお目にかゝって嬉しう御座りました。

夫れはよかった。どーでせよー、そー云ふ時だけ、ちゃんとして居ればよいのですか。

- ・ 何時でも、よくしなければなりません。

今日は我が国の紀元節であります。紀元節と云へば、どーした日でありますか。

- ・ 神武天皇の位におつきになった日であります。

何年ですか。

- ・ 紀元二千五百七十一年であります。

そー、随分長いお祝ひですね。夫れでは、あなた方は其のお祝ひの歌をうたつてお別れにしましよー。

今日は祝賀式を簡短に挙行しまして、寮外生と寮舎との関係、及び寮舎生活について注意を致し、又引き続いて、あな

た方自身の間に寮舎の事に関する問題を研究致すよーにしたと云ふことを、寮監会の相談でおきめになったと云ふことで、今朝は何かそー云ふ事について話をしてくれる様にと云ふ事でありました。

私は此の間、大坂から帰って風を引いて、直りかけて居りますが、未だぬけ切らない様であるから、成るべく声を使はない様に簡短に申さうと思ひます。

我が日本国民は二千五百有余年間、世界の競争場裏に立って、其の勝者たることを得、殊に二千年間多くの犠牲を払ふて屢々国防上衝突を致しました。韓国が我が版図に帰しました、即ち我が歴史有つて未曾有の帝国の位地を自覚致しまして、我が国民は此に世界的の責任を荷ふて居ると云ふ前途の責任を感じる時に当りまして、即ち今から六十日と一週間、即ち二ヶ月と一週間の後に、其の紀元節の後をうけて、此の東洋に於ける女子高等教育の先驅の任を負ひました母校の、十年記念式を迎へよーと云ふ時機に際しまして、我々は男女の区別を忘れまして、兎に角、多くの危難を切りぬけて生存競争の勝者たり。猶今日此の複雑なる社会に立って、希望を負ふて進まうと云ふ銘々には随分深い感じに満たされて、個性と云ふか天賦の力と云ふか、何か我々銘々の内には学ぶべき、又将来、発達すべき一種の力を備へて居ると云ふ事をどーしても自覚せざるを得ないと同時に、銘々の責任の重大なる事を感じざるを得ないであろーと思ひます。

就きましては、今日は帝国の過去二千五百有余年の歴史、近くは母校の過去十年の歴史を思ひ起しまして、我々は此に将来、発展すべき素地を作らんければならぬと思ひます。其の時に於て、本校創立以来校風の最も重んずべき要素として、力を尽しました寮舎について、其の寮舎の経験につきまして深く考へて見て、足らぬ所を補ひ、改む可き処を改め、保存すべき処の特徴を充分に纏めておく様にすることは、有益な事であろーと思ふのであります。

[寮舎生活の必要]

我が国の男女の青年教育について根本な力を養ひ、其の徳性を涵養するについては、寄宿舎の生活、及び学生の日常生活について注意しなければならぬと云ふことは、我々が教育に従事した初めから深く注意して居ることではありますが、私が之を痛切に感じましたのは、昔の漢学塾の塾舎生活、其の後十五の時に入りました師範学校の寄宿舎生活で、自分の品性の善悪の習慣、自分の力の土台となつて居るものは実に此の寄宿舎生活であつた。寄宿舎生活と云ふのは、つまり自分の友達、子供の時に喧嘩をしたり、又は組合を作つたり遠征を企てたり、子供の時に最も愉快地感じて居る総ての働きは、皆竹馬の友、寝起きを一緒にしました書生であります。時には先生や父母の感化よりも一層有力なものである。自分に残つて居る悪癖は生れつきもあり、遺伝もあるであろー。併し其の大部分は友達からである。又、今日持つて居る処の勇氣、冒険的な事を喜ぶ様な善い処のもの、子供の時から隊を組んで隣の村まで襲ふて行った事や、猪狩や水泳ぎ、茸狩りの如きものも、確に友達の感化であつた事を経験するのである。其の後から来て、経験の少い者が女子教育と云ふことを企て

て、少くも四、五十人の学生を育て、自分の主義を行ふて見て、寮舎生活、寄宿舎生活と云ふものは大切なものであると云ふこと、そ一して私の心には、善い事よりも悪い事が重に感じられたのであります。官立学校、宣教師の学校なども随分批難が多かったが、其の多くの部分は寄宿舎で養はれて居る様に思はれました。之は独り寄宿舎制度がわるいのみではない。我が国婦人の欠点もあるのであるから、之は至難なる業であると云ふことを、つくづく感じました。

そこで明治二十三年に女子教育の問題を調べるために外国へ参ります時も、機会さへあれば、あちらの女子大学の寄宿舎に入って、日常生活を共にして観察し、又進んだ所の家庭に入つては彼の国の女子高等教育の實際を調査致しまして、明治二十七年に帰朝致しました。そして第一に、高等師範、及び府下の各女学校、其他、関西地方に参りまして、当時の女学校寄宿舎の不完全であり、無味乾燥であり、家庭社会より非常に懸隔して居ると云ふことを感じました。まるで兵營の様であり、わるく言えば外国で見て参りました監獄のよ一である。夫れから其処を見ると、女学生である、学校の生徒であると云ふことがわかる。偶々洋服を着て居る者もあるが、先づ布哇あたりへ上りまして Indian か土人を見た時のよ一な心持が致しました。

そこで私は、寄宿舎生活と云ふものに重きをおきまして、余り家庭、社会と懸隔して孤立して居る様では、ほんとの教育は出来ぬ。故に是非とも家庭、社会と連絡をして、教育の実を挙げたいと考へました。そ一して此の設立に関係しました少数の同志の人々と相談致しまして、充分とは行かないが経済のゆるす限り考へて、行ふて見たいと思ひまして、先づ、内寮だけを開きましたが、之れは渾沌たるものであります。併し寮監、殊に第一回生の熱心なる働きと教職員の指導とに由つて、寮舎と云ふものが追ひ追ひと成形する様になつて参りました。併し其頃には種が揃ふて居ないから、本校の主義、方針のわからぬものもあり、玉石混淆で誠に意志薄弱なものもあり、社会の誘惑に負けるものもあつた。けれども段々に淘汰せられて、今日の寮風を築くことが出来たのであります。そ一して年を経ると共に、女子大学の命は實に此の女子大学の寮舎生活にあると云ふことが、文部省を始めとして全国高等女学校長の注意をひいて、段々我々の考へと同じ様な寄宿舎が開かれる様になり、之に伴ふて実業部、桜楓会の開かれたことも、段々範をひいて拡がって居ります。

又、父兄の間にも、ほんとの学問、ほんとの品性を作ると云ふことは、ど一しても此の寄宿舎に入れねばならぬと云ふことがわかつた為めに、東京に家のある人迄も段々寮舎に入れらるる様になりました。

そこで、家庭と社会と学校とが一つに Organize されて、学理で学んだことを日常生活に応用すると云ふことは、誠に大切なことである。欠点を言へば幾らでもあろ一けれども、社会は何時迄たつても完全と言ふことは出来ないから、奮闘しつゝ進まねばならぬ。其の意味で、此の寮舎の過去十年の経験と云ふものは誠に尊いものである。學術的の語で言へば、潜在意識となつて一種の力が含まれて居ると云ふことを感ぜ

ざるを得ない。夫れを自識して進むと云ふことが、今後の発達に誠に必要なことであろ一と思ふ。

夫れで新しく入つた方も、其の生命の泉源となつて居る処を研究し、保存して、益々發展せしむる様に皆さんが協同なさらんければならぬと思ふ。然るに此の頃に至つて、寮舎生活は勉強をする為には、学問の為には、時をよく使ふ点に於ては却つて不利益である。夫れよりも猶、自分の家庭に居るか、或は親類、保証人の家庭に居る方が、ためになりはせぬかと云ふ説があると云ふことである。甚だしきは、一人の学生の為に四、五人の家庭教師を聘して、親の膝下に於て教育するがよいと云ふことが、我が国に於ても流行する様になつた。我々の知つて居る者の中にも、そ一云ふ人があると云ふことである。之は果して健全なる流行であろ一か。少しく道理ある様に研究して見るのが大切であると思ふ。

之は少し話が横道に入るよ一であるが、皆さんは年も若いし、先生とお母さんの命令の通りにしておいでになるであろ一。私は十三の時から自分の考へて何をもして、命令によらなかつた。私のお母さんは継お母さんであつた。私は軍人になろ一と思つて兵になることを願つたけれども、お父さんは幾日たつても返事をして下さらなかつた。故に、之はよくないことであろ一、お父さんがお返事のないのはお好みにならぬからであろ一と考へて、思ひとまりました。夫れから十三の時に家を出たのは、医者所の書生になつたのである。親は私を医師にしよ一としたのであります。私は兎に角、家を出たかつたから、夫れで、まあ何でも出さへすればよいと思つて、医師の所へ行つたのです。其の後、漢学をすることも、和蘭学、独逸学をすることも、クリスト教を信じよ一と云ふことも、いろいろ学問の變遷を持つて居るが、之れ等は皆自分の考へてきめました。其の時一番力あるものは、其の時の風潮である。私共の若い時に、西洋の学問が我が国を風靡して入つて来まして、漢学や国語は顧みる者もなかつた。帯刀をやめる、大名鬻を切ると云ふ者が段々多くなると云ふ有様で、私の藩に憲章館と云ふ学校があり、其処には図書館もありましたが、漢学の書物は二足三文で売り飛ばすと云ふ始末であるから、反古に使つたことも大分ある。そ一かと思へば、漢学復興と云ふことがあり、国粹保存と云ふことがあり、排外思想が盛んになつて来ると、又忽ち洋学を捨てゝ其方に行く。我が国の国民は、そ一云ふ時にむやみに其の風潮に捲かれて了つて、右往左往して一向定見がない。明治十五、六年から二十年迄そ一であつた。女子を学校へ出すよりは、うちで縫ひ物をさせるがよいと云ふ風であつた。私共が外国から帰つた頃も、そ一でありました。華族女学校などでも、卒業するものはない。女学校を卒業するものは嫁に貰ひ人もない、何か欠点のあるものであろ一、と言ふ位であつた。

其の後、教育が盛んになると日露戦争の頃などは、本校の家政科の如きも二百人の志願者がある。入れても入れても、入り切らない。寄宿舎がよいと云ふ評判が立つと、よいかわるいか調べもせず、ど一つと入る。夫れから、女子を東京などへ出すことは宜しくないと言ふ声を聞くと、又、そ一かと考へて、俄かに挫けて了う。

今から二、三十年前に比べると、いろいろ進んだ様であるけれども、未だ一云ふ事については一向進歩が見えないのです。我々は誠に不完全なものである。併し尊ぶべき所は、理想に向って志を立て進む。其処である。人間の価値は夫れである。然るに今日は、お母さんと父兄が大学へ入ってもよいと許すにも拘らず、まあうちでお針でもして、一して早く嫁げばよいではないかと、学生自ら退くものがあると云ふことである。

私思ふに、社会から受ける困難、圧迫は幾らあつてもよいけれども、青年自らとしよりの様になって退歩すると云ふことは、誠に嘆かましいことである。夫れで寮舎がどんなものであるかと云ふことは、よく調べて戴きたい。ど一も今日の若い人が勇氣に乏しいと云ふことは、誠に嘆かましいことである。夫れで今日の弱点ではないかと気づく点をあげて、少しあなた方に御注意する訳であります。そして今の問いに答へたいと思ふ。今話しましたことの順序をさかさまにして言ふならば、今日の学校教育は不完全であるから、親が選定した家庭教師によって出来るかど一か。昔は先生があり、学ぶ学校があれば出来ると思ふて居りました。けれども今日では、決して書物があり学校があるばかりでは出来るものではない。夫れは一方に偏り、生活が誠に乏しくなりました。決してほんとの事の出来るものではありません。此校に居ります小供のよ一に、友達がよつてお遊びをしたり唱歌をうたつたり、昨日の様な会をしたり、お母さんも来れば先生も居る。斯う云ふ、いろいろな感化力があつて始めて出来るのである。前にも申しました様に、親と先生と云ふものは非常なる感化力のあるものである。けれども最も尊い力と云ふものは、友達と共に話しあつて、共に感じ、共に力を合す事によって得るのであります。世間では記念式などをする為に力を合せる様な事は、お祭りさわざでもするかの様に思ふ人があるけれども、之れは物がわからないのである。仕方のない事は、教育制度である。世間では只資格、資格を得る為に試験、試験には点数と云ふこととなつて、其の弊害は甚しいものであります。

私は此の間、熱海によりました其のお方は、此の小学校、幼稚園に接近して力を尽された方であるが、ど一しても、あなたの様な学校へ入れてしなければなりません、と言つて居らる。又私の知つて居る処に一人娘がある。ど一かして学校へ出したいけれども親が手離さないと云う。けれども大きくなれば他家へやらねばならぬ。夫れを室咲きの花見たよ一にしておいて、嵐の中に出せば、夫れつきりである。其の奥さんが言はるるに、私が今日だけの者になりましたのは、親が骨を折つてくれました。教育、御殿奉公の賜であると言つて居られました。

寮舎生活と云ふものが果して勉強の出来ないもの、個性を没却するものである一か。卒業生の入つて居らるゝ家庭は大抵しっかりした所であるが、其の経験を聞くと、も一ヶ月になるが、一度でも新聞、雑誌などは読んだことがない。又寝る時間、起きる時間も不規則であり、其の他いろいろ家族の人にも遠慮があつて、中々思ふ様に出来ないと言ふことで

ある。一云ふ風で、我が国、社会の進むものではありません。其の外、衣服の事にしても履物のことにしても、あなた方、此の学校で改良が出来なかつたら何処で出来ましょ一か。私は六かしいと思ふ。故に、よく研究なさつて着手すれば、此校なら出来ぬことはないと思ふ。

あなた方が勉強するには、第一に身体の力、第二に時間がなければならぬ。第三に、自由に発表して行く所の境遇がなければならぬと思ふ。之は誠に大切なことである。ど一か其処を得させたいと思ふて居る。併し世間で、食べ物にしても何にしても、成るべく個人的にさせよ一と勉めて居る処がありましょ一か。

例へば、井上侯爵が寮舎を拵へられる。一するると此処へ来るものは、誰れも彼れも冷水浴をしなければならぬと云ふことになる。夫れから此の頃はやる深呼吸をすれば、どんな病でもよくなると云ふ。併し、只冷水浴や深呼吸だけで誰れでも健康を得らるるかと云ふに、そんな単純なものではない。

私、いろいろやつて見るけれども、ど一もいけな一い。此の頃見出したことは、私の身体中に三ヶ所ばかり凝つて仕方がない故に、又いろいろ工夫して居ります。私が今年五十二になりますが、十二、三の頃から消化の事や血の循環、其の他の事をずっと研究して居るけれども、生理学をした、心理学をしたと云つて、直ぐ様身体を強くすることの出来るものではない。あなた方は今身体が強いから、えら一にして居らるけれども、まあ婦人の健康と云ふものを考へて御覧なさい。私は小さい時、母を失ひました。麻生君はお父さんを失ひ、妻君に先だたれた。松浦君も早くからお父さんをなくせられ、塘君は又あの通り、大塚博士、嶋田君も一でありましょ一。今朝も土倉庄三郎君から手紙が来ましたが、土倉さんの御息の辰次郎さんのお母さんは七人の子供を残して世を去られたのである。夫れで我が国婦人と云ふものは、未だ未だ健康が足りないのである。私は、ど一かして皆さんを心身共に強健にならせたいと考へます。

夫れについても猶、今後此の寮舎生活を改善しなければならぬと思ふ。ど一しても夫れが出来なければならぬ。誰れも妨げる人はないのである。然るに之れが出来ぬのは、未だ我々の力の足りないからではあるまいか。

寮外生と云ふものを作つたのは、此の家庭と寮舎との連絡をつける為に始めたのであるが、未だ充分に其の關係が出来ない様であるが、何事でも、一たやすく出来るものではないから、充分骨を折つて戴きたい。

も一十年もたつ事であるから、銘々でよくお考へになる様に。又わからん所はよくお聞きになつて、来年からはもっと改善することの出来る様に致したい。そして今度拵へる参考館の如きものも、寮の歴史から現在、将来をもこめて現す様に致したいのであります。猶、寮生、其他の事については、個人的にしなければならぬと云ふことが、未だ二、三点申し残してあります。

第一は、平和でなければならぬ。

第二には、自由と云ふことが必要である。

其他、委しく申す暇がありませんが、ど一か皆さん、銘々

に工夫なさって、丁度自分に適した方法をおとりになることを望みます。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年二月十五日

明治四十四年二月十五日
大学部全体

私はよく夢を見て、其の夢物語を致しますが、愚者夢を語る、と言って、あまり賢いことはいないと思ふが、夢も人生の一部分であつて、又、或る部分は確に当ることもあり、本当になることもある。夫れで近来あまり夢を語らなかつたが、又近頃、面白い夢を見たから、之れを例に引くと面白いこともあるから、少し申そーと思ふ。

[夢判じ]

夢も時に由つていろいろあるが、此の頃の夢は余程、将来の希望に関するものが多いのである。そして私は今迄よく馬の夢を見ましたが、此の頃見た夢も亦、馬の夢でありました。二、三年前迄の馬は痩せ馬であつたが、此の頃の馬は非常に肥えて体が長いのである。そして昨夜の馬は足が六本ありました。昨夜の夢は余程、愉快な夢であつた。其の夢はど一云ふことの前兆を告げる夢かと考へて、判断を下したのである。尚ほ意識して居る夢も、未来に関する予想を総合して考へたのである。之れは、今迄の馬は何時も痩せて居て、此の痩せ馬に鞭を打つて進みましたが、此の頃の馬は余程希望が出来て来た。此の肥えた馬は、高い崖の上から私を振り落し、又馬自身其上へ落ちて来たのであつた。之れは一つは、ど一しても気をいらつて狂的に突進することは扣へると云ふことを示して、あまり急ぎ過ぎると云ふことを戒めたものと私は考へて、こ一云ふことをきめました。之れは、私が誠に重い責任を持って居る故に、事をきめるに自分勝手ばかりにきめるはよいことではないから、自分一人の考へできめることは出来ない。又、自分の事業について考へました。私は目的の為に凡ての全力を集注し、無益の事は何事も省いて、目的の為に少しの時間でも集めて仕舞ひたい、Mission の為に注いで行こーと、今日迄つとめて来た。処が、夫れにはど一云ふ力が一番大切であるかと云ふと、頭の力である。そこで、殆んど時と力を頭に偏重して居るのである。食物や住居にも注意して、別に時を娯樂の為に取らずして娯樂も取り、運動も取ることが出来るよ一にして、三十年間娯樂の為に他の時間を取らなかつた。之れは、余りに急ぐからであります。処が此の間から私は、之れではいけない。自分も既に五十の坂を越えたのである。幾らか時をさいて、ほんといに腹から笑ひ、ほんといに面白いと云ふ時を持たなければならぬと思ふた。今後の馬は肥えた馬と雖も、急劇に走つてはいけないと云ふことに解した。之れは、醒めた夢と夢とを総合して

考へたのである。

之れは一つの例に過ぎないが、夫れから此の大学の事も、之れ迄は過去十年間は急劇に進まうとした。又、其の事情は今日と雖も異なる。併し余り猪的に、あまり四圍の境遇を顧ず、無暗に先きへ突進して進むと云ふことは考へて見なければならぬと云ふ時が来たのである。私は有志者と一緒に計画した学校を三十年ばかり持つて来た。一番最初に出来たのが大阪の梅花女学校である。此の学校は、盛んな時は五百人以上、六百人にもなつたことがあつた。併し夫れになる迄には、非常な苦しみをしたのである。他の Mission school の如く外国からの補助を受けず、独立的にしたのである。

処が私の留守中に、他から補助を受けなければならなくなつて、独立の体面を保つことが出来なくなつた。そしてよい境遇を保つことが出来ないから、少しの発展も出来ない。之れは始めて経営した経験である。そこで盛んに起る一とする時に、経済を充分にして置かんければならぬと考へました。此の大学も十年間の拡張は少し度が過ぎたのであるが、之れを縮小せず、如何にもして之れを保ち、尚ほ始めの計画の四学部、家政学部、教育学部、文学部、英文学部は出来たが、此の外にまだ美術、音楽、Science、医術、実業部、商業部の如きものを入れて五つ、六つ残つて居るのである。此の企ては半ば出来て、あとは計画だけ出来て実行が出来ない。そして十年期は来たのである。此の中に何か一部を増したい。其の外に関西に一つ、九州に一つと云ふ希望であつたが、昨年来関西に熱心なる唱導者が出来て、二万坪ばかりの敷地は出来、且つ寄宿舎と本館だけは遣ろ一と云ふ風に運びつゝあるのである。故に此の十年期に於て、第二の十年に於て関西に女子大学を起し、東京に於ては残る一部をも置きたいと思つて居た。然るに、かゝる場合に於て経済上の都合からして、教育部は暫時、事実上於て一時中止したのである。今度形を変へて家政学部についたが、事実上於ては中止である。其の時、文学部も同じ事を決議したのであるが、如何にも之れを中止することは残念である云つて、百方手を尽して一年間続けて来ましたが、ど一も、も一仕方がないと云ふ事で、此の間から此の問題について考へました。まだ現金で四、五万円はあるし、十五万円の基金はあるから、之れを続けたからとて借金が出来ると云ふのではない。併し私のからだの如く、又日本政府の如くに誠に困難であるから、中々心配である。痩せ馬に鞭打つて、無理に突進すれば出来なくはない。又、之れを自分は好むのであるが、此の間、夢に示されたよ一に、將に十年の経験を踏んで大学の前途を定むる時に於て、あまりに先きをあせらず、少しく落付いて前後左右を顧て事をしなければならぬ。一言で言へば、あまりに先きに進むに急いで、其のものを弱くするよ一なことがあつてはならぬと思ふから、ど一も今日、我が国の避く可からざる現状である故に、大に決心して其の道を取らんければならぬ。

[今後の方針]

此の困難をあなた方に申すならば、財政とばかり取るである。併し只だ財政ばかりでない。外の事が出来れば、出来ないことはない。少し此の学校を縮めても第二は起るかも知

れぬ。此処迄来て、も一つの発展が出来ないのは金の力が足りないばかりでなく、我々の精神が足りない。婦人の進む程度がそれ迄に発展して居ないと云ふことを示すのである。夫れで止むを得ず私は、進みにくい処を盲進するよりは土台を固めて命の根を養ひ、分量の多きを望むよりは其の内容を充実することに全力を集注して、眞の発展の出来る春を待つにしくはないと思ふ。恰度、私は私個人の習慣を変へたよ一に、大学も暫く縮めて経済を整へ、又教育の実質を固め、少数にても実質を固めることに力を致そ一と云ふ方針を此に取ったのである。

[文学部の将来につきて]

そこで始めに、此の前からいろいろ心配して考へて、二、三日前に文科の教授会を開き、又昨日評議員会を開いて、いろいろ出来得る丈け考へを交換して、こ一きめるより外はなかりと云ふことにきめたのである。

文科一年は今度の改正の出ることは知らずにおは入りになったので、二十六人中十六人はもとの文学部で二年をやつて行きたいと云ふことである。其のあとの十人は無試験検定の特権を得ればもとの儘で行きたいが、夫れが出来なければもとの方で行きたいと云ふことでありましたが、夫れで間違ひませんか。

併し教授会でできたことは、十人の方が卒業後教育事業に従事して之れが出来よ一に、新旧を折衷して文学概論、人文史などを加へ、十六人は之れを選択して行くことが出来るよ一にして行こ一と云ふことにきめました。成る可くあなた方の為めになるよ一に編みたい、出来得る丈け斯うしよ一と云ふことになりましたが、夫れであなた方は満足が出来ますか。尚ほ夫れよりも、こ一と云ふ考へがあるならば、お述べになつてよろしい。

予科の十五人の為めには、合併の組を作ろ一と云ふことである。夫れは三年、二年を一つにするか、二年、一年を合併して、二学級を作ろ一と云ふのである。三年になるとど一するか、又一組にするかが問題であるが、兎に角、三年の過程を履んで卒業するよ一にしよ一と思ふ。只だ、こ一すれば三年目の費用がちがうのであるが、ど一とか都合をつけてやろ一と云ふ考へである。

そして、之れを委員会に提出しました。委員に於ても、無論続けたいのであるが、経済がど一も六かしいから、今年から募集を止めると云ふことになったのである。併し未だ精確な予算が出来て居ない為めに、其の儘になったのであるが、尚ほ予算の計算をして余地があるならば、今年だけ募集して置きたいと思ふが、先づ委員会でできたことは、こんなことである。十年期にこ一云ふことは遺憾であるが、止むを得ないことである。

ど一しても基金を拵へてかゝらんければ、六かしいと考へる。誠に遺憾であるが、十年間に於て女子高等教育が必要であることに気付いて来、又文部省も非常に認めるよ一になったことに満足しなければならぬ。我々は親石を据えたのである。之れから創業すると思ふて大に奮発して、将来に望みを以て進んで行く。其のもと丈けは、四月迄に築き上げると

云ふ決心を以て行つて戴きたいと、私はあなた方に訴へたいのである。

今きまつて居る今年の予科の十五人の方と高等女学校の二人の方は、よく考へて行く処を定め、文学のやりたい方は家政の一部を以て之れを為し、英文科へ行く人は英文科で日本文学の一部をして、ど一しても大学生活の経験をなさることを希望致します。まだ一縷の望みを持って居りますが、決議がそ一なったから、次の水曜日を待たずに発表しなければならぬと思つて、あなた方に予め申して置きました。まだ望みがある。又、尋ねたいことがあるならば、時もなしするから、此で腹藏なく仰やつて戴きたい。

三月の二十四日か五日が学年の終りである。水曜日はも一五日よりないのである。此の間に昨年、もっと前一昨年夏頃から始めて来ました問題を、此の間にきめて仕舞はんければならぬ。記念式の参考館等も大体しなければならぬ。私共は十年の終りの結果を予想して居りましたが、今や熟さんとして居ります。此の間に刈り入れをせんければならぬ。忙しい秋が来ました。余程仕度をしてかゝらねばならぬ。

私は三月下旬に、又関西に出掛けなければならぬから、五日の間に片付けなければならぬことがある。私が実践倫理として今年の卒業生に説かんければならぬことも残つて居るし、又あなた方が皆で纏めることも残つて居る。夫れを仕上げなければならぬ。

今私が出る時に一寸考へて、書き付けて置いただけを申して見ますならば、次のよ一なことである。

修養と学問の如きも、結論を付けなければならぬ。之れを歴史に徹して決議し、方針を立つこと。自動的に調べて結論をつけること。そして、あなた方の経験を集めるのである。こゝに仮りに題を上げて置きますから、之れを参考にして、五つの日に割り当てゝ行くよ一にして行きたい。

[第一、空気]

第一は Atmosphere である。私共が四月二十日迄に高潮に達したいと思ふのは、之れである。校風の高潮を来させたいと思ふのである。夫れについては、疑問を持ち反対を持たないものもないのである。

Atmosphere は、個人に由つて出来るものではない。外に關係があつて、外に人があつて、其の間に生ずるものである。相互の間に出来るもの、全校、お互、凡ての団体の間に発生した空気である。之れが国体であり、社会であり、団体である。此の力に由つて国家は維持せられ、国民は教育され、此の力に由つて家庭の一致団結は出来るのである。然るに、教育は Individual、個人のものである。決して団体の力を要するものでない、と言ふ人がある。そ一云ふ空気に由つて養はれたものは団体を離るれば力を失ふものである、と云ふ反対の意見がある。又、宗教は迷信時代には入ったかも知れないが、もはや昼の日中になった今日に於ては入らない。銘々の中から出るもので、個立で眞の力は出来るから、人との關係の為めに時を取るの不利であると云ふ。併し實力は、本の上で出来るものでなく、先生、親子の關係に由つて出来、友達の人格感化に由つて出来るのである。尚ほ夫れよりも大切

なのは、其の間に出来た Atmosphere である。校風は誠に人間の命を作る処の根本である。之れを離るれば、魚が水から離れ、人が空気から離れたよ一なものであると感じ、開校以来今日迄此の校風を養ふて来たのである。十年期に於て此の空気がなければ、家が出来、器械が揃ふても駄目であると思ふ。

之れを一つ取りたい。之れを養ふことが如何に大切であるか、此の Atmosphere が本校と学生に如何なる効果を与へたかを考へて、解決をつけることが大切である。

[第二、宗教問題]

其の次に大切なのは、宗教問題、精神的生命に関する問題である。此の校風の土台、Essence には、之れがもとになって居る。然るに、到底宗教と云ふものは、之れは Essence では駄目である。仏教、Christ 教、神道と云ふ形がなければならぬ。果して此の学校は仏教、Christ 教、神道をもととするか。之れは、十年前から始終形を変へて議論のある処であるが、尚ほ解決しない。併し我々は、之れがもとである。根本である。之れがなく、之れが濁れたならば、死んだのも同然である。只だ学校ならば我々は苦しみはしないが、社会に出れば実に困難である。我々はそ一云ふ信仰を抱いて居るが、猶ほ之れに疑問を起して来るものがある。果して此の宗教と云ふものは、本校が取り来たものがよいか。もし、いけないならば、新に此に他の道を求めて、研究する必要があると思ふ。

[第三、会]

第三は、之れに連関する問題であるが、会の問題である。此の学校に言ふ所の自治制、又は修養が、本校で言ふよ一な風に迄行くには、又、団体の空気を養ふには、会と云ふものがいる。感情を融和し、意見を交換し、輿論を起し、同情し合ふと云ふ大調和を実現するには、本校の会を廃して出来得るか。会に反対な空気がある、之れを完全にすることが出来よ一か。会に反対な空気があるのである。併し、之れを全廃することが出来よ一か。此の弊を除くには、ど一一致したらよいかと云ふ問題が解決されずにあると私は思ふ。

[第四、修養と学問]

第四は、修養と勉強との関係である。

之れは前にも申しましたから、皆さん、お分りであると思ひます。

[第五、自治制度]

第五は自治制度。

各係を置いて自治制度を取ることは、学生の為めによいものであるか。もし之れで不完全ならば、ど一云ふ解決をつけ、ど一云ふ改善を加へなければならぬか。

[第六]

其の次は、寮舎生活、及び寮外生との連絡。

[第七]

其の次は、実業部のことである。之れ等について二年前から、いろいろ考へて居りますが、尚ほ充分、研究をする必要があると思ふ。

[第八、桜楓会]

其の次は、桜楓会に関する問題である。

- a. 目的と使命
- b. 桜楓会と学校との関係
- c. 桜楓会の事業、及び其の他に対する疑問、及び改良
- d. 桜楓会と世界婦人との関係
- e. 桜楓会と我国、及び社会との関係

[第九]

其の次は、此の前に一年生がお取りになった Progressive attitude である。此の学校は、少し進み過ぎると云ふよ一であるが、又、決して停滞はしないのである。

[第十]

之れは前には入るのかも知れないが、個人と団体との関係。まあ、私が思ひ付いたものが、之れだけである。之れを一つにまとめて、残る五つの、水曜日に充分各組で調査、研究し、ちやんと議決をするよ一に用意をして、其の結果を着々挙げて行きたいと思ひます。

明治四十四年二月二十日

第七回父母招待会にての御話

[Richard 博士の紹介]

今日は皆さんお集まりで、丁度よいをりでありますから、珍客を御紹介致しますよ一。背の高い御男子の方は、アメリカの Wesleyan 大学の出身の Richard 博士で御座ります。博士は布哇のアメリカ国民を代表し、日米の平和を維持し両国の関係を厚うしたいと云ふ目的を以て、其の方法を講ずる為、此の度、我が日本へおいでになったのであります。

御婦人は、もと本校の教授であつた Missis Griffin、Miss Greene などのお友達でありまして、Miss Loomis と言はれ、スミス大学の御出身であります。日本にある中で一番古い女学校、即ち今から四十年前に出来ました横浜の 212 番館の共立女学校の校長であります。今日、横浜から態々此校へおいでになったのであります。

[博士の主義]

Richard 博士は、私の古い友人であります。此の学校へも一度来られた Scudder 博士、此のお方は実に日本最良の方で、非常に此の日本を愛して、日本の土になりたいと言はれたのであります。又、此の Loomis さんのお父さん、及び山台に居らるるダクター デフォレスト、こ一云ふ方々は皆、日本最良の方であります。Richard 博士はスコラシップ ヲブ ファンド、奨学金を募集して、日米の関係を融和し、世界の平和を来さんが為、大隈伯爵、小松原文部大臣、神田男爵、新渡戸博士等を委員に頼んで、其の方法を講じ、来る二十二日に相談会を開かるゝとのことであります。又、日米間の平和と云ふ論文を書かせて、五人を選ぶと共に、博士が主宰して居らるるフレンドと云ふ四十年から続いて居る新聞にも、そ一云ふ輿論を喚起したいと云ふお考へであります。

[博士の本校に対する希望]

今日は偶然、此の学校の技術を表したる絵画などを見て、

ど一か此の大学の為に、美術部の人に絵を書かせて欲しい。夫れは、博士の兄弟に詩人があるのです。其の方の詩の中の一節を今、此の黒板に書きます。其の詩の意味について画をかいたなら、其の中のよいものを選んで兄弟への土産にしたい。其のプライズとして、十円を寄附すると云ふことである。此の学校では是れ迄、懸賞と云ふことはしない。其の訳はわかって居る。併し今度の事は其の主意も貫徹して居るから誤解することはない、弊はあるまいと信じますから、有志の方は此の募りに応じて、お書きなされることを希望致します。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十四年二月二十二日

明治四十四年二月二十二日

大学部全体の為の御話

一昨日、高等女学校の父母の会がありましたが、其の時、お出になって居った方は一寸手を挙げて御覧なさい。半分程御出になって居った様であります、其の事について、一寸申しておきましょー。

[Richard 博士、及び詩について]

Richard 博士は、布哇に居るアメリカ合衆国の国民、悉くでもあるまいが、ロッキー山以西の一番古い新聞でフレンドと云って、夫れには布哇の主なクリスト教会の人々が入って居る、そ一云ふものを代表して日米の関係を親密にしたいと云ふ考へで此の学校へ来て、一寸思ひついて美術部の奨励をしたいと云ふことで、将来又出来るだけの力を尽そ一と云ふ考へである。今度の事は小さいことであるけれども、斯う云ふ人の利害を離れた厚意は Appreciate すべきものであると思ふ。故に、興味のある方は一つして御覧なさらだ一かと考へます。

Autumn

When the sap runs back
And the summer dies
All the grass turns brown
To express surprise,
And the berry bush
That was black with fruit
Wears fiery red fit a mourning suit,
While the corn feels sorry in yellow hues
And the old oak redden in a quiet muse
And the sky uneludes to forget the blues,
While it covers all with a golden glow
As much as to say, "It was ever so."
Let us sing a song
Of a spring sunrise,
When the sap runs back
And the summer dies.

詩の意味は平野さんに訳して貰ひましょー。

[詩の意味]

秋の精神を歌ったものであります。

木の汁が幹の方から下へ入って夏が過ぎました時、草は驚きをあらはす様に茶色に変わります。

実の為に黒くあった所の木いちごも、既に火のよな赤い喪服をつけます。

と一もろこしは黄ろい色に悲みをあらはし、年老いたかしはの木は静かな沈黙の中に赤くなります時に、空は其の碧さ(心の悲しみ憂鬱)を忘れる様にきめます。

斯くの如く、「いつでも斯うで御座います」と云ふよ一に、総てのものが金色の輝きを以て被はれる間に、私共は春の曙の歌を歌ひましょー。其の時は木の汁は下に帰り、夏はすぎ行く時でありましょー。

(過ぎ行くもの、悲しい時で御座います。)

天然が段々もの枯れて来て、困難な悲しみの時に、天然は、はでやかな輝きを表して居ると云ふ、天然の精神を歌ってあるかの様であります。

問題 個人と団体との関係
修養と学問との関係

[普通予科]

・団体と個人とは互に密接な関係を有し、個人は団体をはなれて生活することの出来ぬものであります。家庭で例せば、家の為に働くことを忘れて、自分のために自分の為にと思ふてするものがないと同じであります。かゝる家庭が集って社会をなすもの故、ど一しても、そこに責任あり希望もあるのであります。この密接な関係のある二つの間に衝突、矛盾があると云ふのは、個人が自分の為に働くときは其の働きが目に見えるが、団体に働く目に見えない故、遂に団体に重きを置かなくなつて、個人に重きをおくよ一になるのであります。大海に一滴の血を流したととも、其の色は変りませぬが、諸所の川から流れ込むと、遂に一つの色を呈して赤くなるよ一に、個人が集まって、大きなあらはれとなるのであります。個人をつくるに団体へ入るのは、つまり全体にあらはれる事が即ち自分のものとなるからであります。

本校は人の為に働くことと云ふ風に導いて下さるので、私共は皆感謝して居るのであります。それ故今後は本校ばかりでなく社会上にも此の良風を伝へたいと思つて居ります。

学問と修養とは車の両輪、鳥の翼の如く、相一致すべきものであります。然し、修養が出来ると学問が出来ぬと思ふのは知識が足りない為と思ひますが、また何か外に訳があるのかど一か、わかりませぬ。

疑問もいろいろありましたが、先生方の指導によってわかつて来て、今はたいした問題はありませぬが、ど一しても団体と個人とが衝突するのは何故かと云ふことが、一般にわからぬと云ふ事であります。

[英文予科]

・修養と学問とは一致すると云ふことはわかつて居りますが、我儘の為に趣味のある方に向ひやすいのであります。

学問すると修養が怠りがちになるよ一に思はれ、人の為にするると自分に満足が出来るのでありますが、自分の興味ある方に向ひ易いので、実際に於て困難もありますけれど、出来る丈つとめ、完全に近いものに進みたいと思つて居ります。

[家政一年]

・団体と個人とに関しては、判断する時はよいと思つても、実行する時に困難があるのであります。組全体として、まだ団体の仕事を痛切に感じてすると云ふ所迄参りません。凡て時間が足りなくて、準備が出来ませんでした。

[文科一年]

・修養と学問とは、はなすことの出来ぬもの、個人と団体ともはなす事が出来ぬと云ふこともわかつて居りますが、其の矛盾、衝突の原因は、

1. 時間の足りない事。

団体の問題と個人の問題とが五分五分のとき、目前のことに心を引かされ、内心濟まないと思ひつゝ、個人の仕事を先きにするよ一になります。

2. 力の足りない事。

一定の時間内に多くの学課をする故、団体の為働く時が足りないのであります。私の誤解かも知れませぬが、こゝに試験のある組があるとすると、其の組のものが一生懸命にその準備をして居ると、他のおもしろく遊んで居る人がこれを見て、個人主義だと言はれます。其の時は何れにつくべきかがわかりませぬ。

も一少し全体に通じての問題をきめる様に発表したがよいと思ふ。

個人主義に傾いて居る人と、団体に傾いて居る人とがあつて、根本が動かないのか、校風が個人重視に傾いて居るのかど一かと云ふ、実際の問題を研究しなければならぬ。

今一つは、修養と学問と云ふことが衝突するとか、又、二者は両輪の如く両立すべきものであるか、それが如何なる関係に於て結びつく可きかをも、よくほんとのこと、真意が解せられぬと問題が出ないから、問題がも一一つ皆の頭によく考へさせられるよ一にすることが必要であると思ふのであります。それではじめに、個人と団体とについて、其の道理、又は、こゝ迄よりわからぬと云ふ組があれば出さねばならぬが、道理がわかつて実際に於て困難を感じると云ふ所が多ければ、それを出すと云ふことにすれば問題の中心が定まる事かと思ふ。

夫れで、も一一つ、この大問題についての根本が明瞭にならぬと、問題が発達しない。修養と学問、個人と団体と云ふ関係と、其の根底原理はどの所に置いておけばよいかと云ふことを、先づきめなければならぬかと思ふのである。それで、すべて初めに仮設、目的地をきめて置いて、それから其所に到達するよ一に行く方が、早く纏まるではないかと思ふ。

それで修養と学問にしても、修養は品性を養ひ、人格を拡大するので、学問は重に知識、技能を覚えて行く、新しい知識を拵らへる、技術が出来るよ一に力を磨くと云ふわけであるが、それを行ふに矛盾、衝突がある。それは、ど一して

起こるかと思ふことも問題である。

又、一体並行すべきものであるか。又、必ず一つであるか。其の関係は如何なる道理の上に立つて居るものかと云ふことをきめて置くると便利である。

先づ、其の今出て居る両者の関係はど一考へて、如何なる主義で行つて居るかと思ふ目的が、原理が先に定まると、後の問題が解し易い。

困難はど一して出るか。其の困難が勝つ可きか。調和して従来方法よりも進んだものを取るべきかと思ふ事をのべ、これに対する實際生活をして居るか、之れを今後ど一して矯めなければならぬかと思ふことを言ひ出したらよいと思ふ。

しかし此の事は時を要するから、其の注意を以て其の点を明らかになされたならば、修養と云ふことは何である、学問は何である、其の間には如何なる相互の関係を含んで居るか、之れが、我々の経験が、人生の實際から正しく解決が出来るよ一にならなければならぬまい。今一つは、発表なすつた事について、我々の考はこ一である、異なる点はこ一である、又、前の説に対して漸々一つになつて、一つのまとまつた根本問題が二つ、三つになるよ一に発表したらよいと思ふ。

[英文一年]

・個人と団体とは、親子の関係のよ一に密接な関係であること。及び、如何にすべきかと思ふ道理はわかつて居りますが、実感になつて居ないから、いろいろ問題や困難が起こるのだと思ひます。

修養と学問は、もとより分つ可きものではない。大なる理想がないから、わかるよ一になるので、勉強することが修養で、それが出来ないと云ふのは、理想、目的がないと思ふことを示すのだと思ひます。

[実感と思ふことにつきて]

個人主義と思ふことは、利己主義とか快樂主義とか云ふものとは違ふ。我が利益は感情となつて居る。学問が進めば愉快である。名誉がわるくなれば感ずる。誰にもSelf-interestがある。

然しながら、社会の為、人の為、団体の為働くことは理屈ではわかつて居るが、感情にならぬ。他人の為にすることはむづかしい。他人の為に働くことは、自分の為に働く事と同じに感ずる人…………少数

夫れ迄に、他人の為にすることを思はない人…………多数

他人の為にすると云ふても、健康でなければ出来ぬ。品性、智力にも自信の出来る程でなければならぬ。皆さんの中に自分は健康、品性、智力に十分だと思ふ人はありますか。

団体から忘れられた個人、斯う云ふ個人は実際に幸福でありましょ一か。人と云ふものは他の同情を求め、人と共にならうと思ふことを求めてくるものではないでしょ一か。

此の世の中に、心の合ふ人がない人ほど憐れな者はなかる一。他人に憎まるゝ人、猜忌心のみちみちた寮舎、暗闇の絶ゆる事のない人間が、いつも満足が出来るでしょ一か。

人間は利己心だけで、自分の快樂より外にないと云ふよ一に一寸は見えるよ一であるが、實際、父子、朋友、国家、組などの関係、人情のないものであるならば、これは社会心なく

団体心のないものであるが、人に全くこの心のないものはないのである。

人は、家をはなれ孤立して常に暗闇して満足が出来るならば、それは社会心がないのである。それ等がなくて満足が出来なくても、大なる宇宙と合致することが出来るのである。

あなた方は、社会と個人との関係の人間の性情中に数万年間植えつけられてあることを、よく解しないのである。それで、団体心に弊害がのこると思ふのである。団体と個人とはなす事が出来、それをはなれて個人が発揮せられると考へる人間はないであると思ふ。人は利己心の強きよ一に、又、他愛心がある。同心して調和しよ一、共同しよ一と云ふことは、心の中にある。本能、感情で毎日経験することで、其の満足なしに自分に十分な満足は出来ないものである。根本に於て、二者決して、はなれるものではない。

[家政二年]

・女学校ではつめ込み主義であった。故、入学以来、団体と個人と云ふことを聞いて、初めの中は衝突もありましたが、今日では根本がわかって来まして、さしたる問題、困難もございません。

只、日常苦しむ事は、会と日課との衝突であります。これも、大なる目的に向つて日を送るならば衝突はないのでありますが、試験と会とが同時に来る場合に、会よりも先づ試験の準備をしたいと云ふ考へが起こるのであります。これは日常の時の使い方がわるいので、一分間でも集注するならば、会の為に勉強が出来ないと云ふことはないのであります。要するに根本はわかって居ても、小さい所に時々衝突するのであります。此の経験から一つ考へました事は、各部で日課が何時間、会に取らるゝ時間何程、自分で研究する時間何程と云ふことを調べて、後から入る方のために、私共と同じ困難を感じしめないよ一にしたらばよいと思ひます。

[文科二年]

直ぐに困難、疑問として居る所を申し上げます。

1. 団体に於ける個人を認める事が、今日足りない。各々の個性を顧みずに、誰でも一律に育てよ一とする傾きがあると思ひます。そこが私共の苦しむ所であります。
2. 個人が団体に働く時に、長所を以て働いてよいかど一かと云ふことであります。事実、に於て、人数の都合上、長所を以て働く事が出来ず、好まない時、好まぬ所でも、止むを得ず入れさせらるゝ時に困難を感じます。
3. 団体に害を及ぼす個人のある時、如何してよいかと云ふことで、団体は個人によって出来て居るので、団体の力に依つて個人を矯正するのがあたりまへであります。が、団体の力で感化することの出来ない場合は、如何してよろしいのでしょ一か。
4. 団体と団体とが、相敬し同情することが欠けて居ると思ひます。校内の小団体に此の欠点があるから、互に進歩を遅くせしめるよ一に思ひますから、これは全校に向つて改めてほしいと思ふ組の意見であります。
5. 今一つ、校内に個人を以て団体を推す弊があると思ひま

す。之れも進歩を遅くする一つの原因であると思ひます。

修養と勉強は、私共の組では苦みません。人格完成の為に勉強することが出来るのですから、今更新らしく問題とする要はありません。

[団体に於ける個性発揮と云ふことについて]

団体を重んじ共同して行く為に、すべてに共通の所をこしらへて行く時に、個性を団体で圧迫するとか、同じ型に器械の如く入れて、同じ大きさ、同じ種類のものにする傾きがあると云ふことは度々起る問題であるが、夫れは誤った考へで、個人に与へられた傾きを妨ぐることは大に異なる。我々はそれは初めに、今日の教育は各自の自発的の活動を妨げて、切角人間だけでも居る性を妨げることは今日の弊害だと思つて、其の弊を矯めたいと思つて、自奮、自治と云ふことをやかましく言ひ、自分の力にある各自の考へを述べるよ一にすると云ふ方法を取つたのである。団体、校風に重きを置き、共同一致、宗教、精神教育を重んずることは、個人を団体で妨げるとか、万人一様の型にするよ一と云ふことは全く異なる。出来る丈、其の校風をし来たが、それが出来ないよ一と云ふのは、これは外部から余儀なくさるゝよ一になつたことと、自動、自発にしたいと云ふことが出来ないのは、今日、日本の社会、風俗が妨げをして出来にくいのである。夫れを我儘をしたり、只動物的傾向を恣にする、快樂主義、物質主義と見るのは、大なる間違ひである。人間が欲を制することが出来なかつたならば、苦しみが生ずることは必然である。

如何しても、我々の内にある欲は道理を以て、理性により意志を以て、之れをよく支配して行かなければ、人間の本当の欲望を制しなければ進歩しないのである。進歩も止める所がなければ、永久の進歩は出来ないのである。それ故に、そこに必ず犠牲、忍耐することが必要なのである。自由と我儘と混じ、個性発揮と欲望と感情と混同してはならぬ。

学校には必ず制度あり、社会には秩序あり。それによつて個性を妨げると言ふては、大なる間違ひである。あなた方はそれを言ふのではなから一。しかし茲に、統一のうちに其の部分忘れ、個人を忘れる弊が社会にはまゝ起り、其の調和はむづかしいもので、団体が個人をきざづけないよ一にならなければ、立派な団体を作ることが出来ぬ。団体秩序を設けるのは、各自の心力を達し発揮させる、希望を満足せしむると云ふ所にあるので、それが全体の目的と一つになつて居るのであるから、も一つ、団体に重きを置いて個人を軽んずるのではないかと云ふことは考ふべき問題である。

個人が充分に発揮しないことも事実であると思ふ。それは相互の関係が出来ぬからである。全き個人が出来るには、全き団体が必要である。此の両者の関係がよく出来なければ、個性を充分発達せしむることは出来ぬ。

[人間の力をわけると二つになる]

それで寮舎生活でも、組でも、時が足らぬ、力が足らぬと言ふが、それは、も一つ個人と社会がよくわからないから起る弊と思ふ。私共の根本にある人間の力は一つなれど、分けて見ると、二つになる。

即ち、之れを通用性と特有性となす。

人間は互に一つになるものである。之れは何故かと云ふに、通有性があるからである。併し人間は面の異なる如く、性を異にする。同じ人間と云ふものは、一つもないのである。双子があつても小さいときは其の長幼がわからぬが、交際すると、二人の人格、傾向が全く異なる。故に、決して人間は同じものではない。故、それを同一の型に入れよ一とするのは、大なる誤りである。相互に各自の特徴が働いて、はじめて社会が出来るのである。そこで天職、専門があるのである。それ故、確かに人間社会、家庭、学校は個性を発達すると云ふことをしなければならぬ。それをよくするのが、此の団体である。それには各自の分を忘れぬ様に、本分を尽すよ一に、自己の人格を発揮するよ一に、他を尊敬して行かなければならぬ。然るに今日の学校、家庭、社会は、まだそこに行かないのである。寮舎に高等女学校のもの、大学部のものを入れてある。此の年齢の差によつても、生活が異らなければならぬ。安眠時間でも、十九歳、二十歳の人は八時半であるが、十二、三のものは十一時半を要するのである。然るに女学校のもの、一時間早く寝る事になって居る。又、年が同じでも、決して同じにはならぬ。

朝起きて同じ仕事をし、運動をし、勉強をするが、夫れも人によつて頭脳の働きの時が異なる。それをゆるさずに、九時に寝て七時に起きよ、同じ飯を食べよと言ふては、とても善良な進歩は出来ぬのである。此の形に見える眠り、食物、運動のことすら、そ一である。まして、人間の銘々の人格を拵らへる心盤の食物なる学問を同一にすると云ふことで、実は本當の人格は出来るものではない。併し家庭、寮舎では、それは許されぬのである。

我儘と混同してはならぬ。自己を本當のばし、真に社会及び家庭の為に尽さうとならば、人の力を充分に伸ばさなければならぬ。然るに、これを団体で規則を以て、万人一様にする。それを守るのが道徳、従順だと思ふのは誤りである。

我々の主義は、銘々の力を発達しなければならぬ。銘々の頭が働かなければならぬ。十分強く、十分大きく、十分立派になるには、各自に適した方法をしなければならぬ。

併し他人を害しないで、而かも自分を発達せしむるよ一にしなければ、社会が出来ぬのである。それで寮舎でも家庭でも学校でも、それが出来るよ一にして行きたいと思つて居る。ど一しても私はこゝに、個人の発達と団体が、まだほん一に命が Organism になって居ないと思ふから、何れも考へ、改善して進む方針を取らなければならぬ。

此の学校は、同型に入れる、長所を折ると云ふことに大反対である。故、そこを混雑しないよ一に。又、我儘と個性発揮とは混雑してはならぬ。

我儘せよと云ふのではない。団体は個人が自由の恩沢をうけるものにならなければならぬ。それ故よく考へて、足らぬ所を直して、実行の点迄も考へて行かなければならぬと思ふ。

[英文二年]

・私共の傾向は、かたより易く学問に傾き易い故、困難を感じるので、其の感ずるときは極端に走つて居る時であると思ひます。やはり理はわかつて居て、実行がむづ

かしいのであります。

[教育部二年]

・学問には、数学とか物理とか頭脳をねる方の形式学問（修養の方面をも含む）と、技術を覚える実質学問とあると思ひます。近頃、校内の傾向も実質を得よ一として居るよ一に思はれます。勿論、実質も必要であります。練られた頭脳を以て事に当れば、実質はいつでも得られると思ひます。自分達は精神さへあれば、如何なる難事でも切り抜くことが出来ると思ふが、限りある力の範囲に於ては、適当な方法がなければならぬと思ひます。本校もはじめは形式に傾き、今は実質に傾いて居るのでありますから、それに適したよ一に会の数も少くして、価値あるものにするよ一にしたいと思ひます。

[家政三年]

・疑問としてはありませんが、纏めた所だけ一言申し上げます。

真の人格を磨くときは、社会全体と云ふことに目をつけて行かなければならませぬ。そ一すれば、決して間違はないのであります。

限りある力で、いろいろのこをするのであるから、なほ日常、学課に対して忠実であるか否かについて困難も生ずるのであるから、深く考へたいと思ひます。団体の空気をつくるには、個人個人、努力を要することと思ひます。

[文科三年]

・1. 個人と団体とが衝突するとか、問題になるとか云ふのは、私共の入学当時、周囲から此の二つが衝突するものよ一に吹き込まれたことが、原因の一つであると思ひます。

2. 理解は出来ても、品性になって居ない。各自の努力によつて矛盾をのけよ一として居るが、或る一部分のものは其の衝突を知らないと思ふのは、個人に重きを置いて居る人があるからであります。

それは、個人の目的、文学を研究することを目的として入った人は、其の目的と学校の制度とが一つにならぬので不平を起こして来る。そ一云ふものは団体を去るか、さなくば個人主義に傾くのであります。従来、団体内の個人があまりに軽んぜられて居たと思ひます。故、此の後は重くして行きたいと思ひます。

[英文三年]

・時々、二者の矛盾するよ一に思はるるが、それは目前の小事を考ふる時に起こるのであります。真の自愛は、即ち他愛であると思ふ事です。実際に當つて矛盾を思ふ時は、自己を反省して行きたいと思ひます。

私共が入学以来、二者衝突するものよ一に吹き込まれたことによつて、進歩を妨げられたと思ひますから、此の後は、その様なことのないよ一にしたいと思ひます。

[教育部三年]

・実際に於て矛盾したことがあります。

それは力の足りないのと、時の不足から来たのである

と思ひます。本校現在の機関について過去を考ふる、両々極端に考へたからであつて、会がよく出来なかつたと云ふのも、個人の熱心が足りなかつたからであると思ひます。

団体で出来ないものは個人でも出来ないと思ふことは経験した所であります。今後は、只方法を改良して行きたいと希望するのであります。

[学問する目的は何か]

今、私は一つの問題を出します。一体、あなた方が学問をなさる目的は、ど一云ふことでありますか。文学をする人は、文学についての知識を求めにおいでになるか、或は、夫れについて教員をする資格を得る為か、又立派なる産物を作る為であるか。之れは丁度、商売をする人が富みを作ることを目的とすると同じ様に、文学をする人は無形の富みを作ると云ふことであるか。猶太人、支那人には、金をためよ、沢山に富みを作ると云ふことが目的で働いて居る。そ一云ふ人格が沢山あります。

芸術を覚えよと云ふ人には、もっと根本なことがありますまいか。只夫れだけでありましょ一か。詞をかへて言へば、学問が出来れば、仮令不幸でも良心の責め苦をうけてもよいと云ふのであるか。金を設ければ、しわん坊と言はれても、鬼権と言はれても、人から何と言はれても構はない。人に嫌はれても、人に悪い感覚を与へても少しも構はない。只、文学だけ出来ればよいと言ふことが出来よ一か。

[学問の目的を誤れる人]

例へば、此に斯う云ふ人がある。其の人は学問に於ては、衆に擻んで居る。又、他人もそ一言ふのかもしれない、自分も誇つて居るかも知れない。けれども其の人は孤立である。故に友を持たない。そ一して何時も競争心がある。故に、何か自分の利益を得るよ一にしたい。斯う云ふ人は今の世にも歴史の上にも、たくさんあるけれども、あなた方はそ一云ふ人と友になることを好むでしよ一か。斯くの如き人は高慢である。冷淡である。公共心のない人である。そ一云ふ人を、人が好むでしよ一か。多分は人が好まないであろ一。尊敬もせられないであろ一。親にも余り孝行ではあるまい。斯くの如く、友もなく、仲間もなく、社会から尊敬せられない人が満足することが出来ましょ一か。果して人生の価値があるでしよ一か。

斯う云ふ人は、遂に狂人になることがある。之れは、高慢狂人である。そ一云ふ様に芸術を授けるのが学問の目的であると思へば、此の学校で教育をうけるのは間違つて居る。

[教育の目的]

教育の目的は、人生の価値を發現するにある。自分の人格と云ふものを持たなければ、何処に価値があるであろ一か。私共は、そ一云ふ人を尊敬しないのである。誰れもが好まない人が、ほんといに満足があるであろ一か。勢力があるであろ一か。

[真に価値ある人]

人生の味を味ひ、自ら満足し、皆が好む人は、確に孤立的ではない。社会を思ひ、友を思ひ、全体を思ふ人である。

故に、人と共にするとか、人との関係とか云ふことは思はない。我々は、之れを生命と思ふて育て居る。之れが出来て始めて其の人の天才が発揮し得ると信じて居る。之れは他の学校に欠けて居るが、此の生命を育てるから芸術が発達しないと考へるならば、之れは今、皆の中で発表なされたから、皆が其の暗示を受けるのである。故に皆の問題であるから、之れを解決せずにはおかない。

人生通有の満足がなくてもよいであろ一か。人生の価値と云ふことがなくてもよいであろ一か。そ一云ふことの為に不幸になる。親にも捨てられ、家も持たれず孤独生活をするものが沢山ある。そ一云ふことが解決せられないでよいでしよ一か。

そ一云ふ考へるの出るのは、余り団体になり過ぎるからであろ一か。未だ根本の一致が出来ないからではあるまいか。

兎も角も之れは重要な問題で、之れ迄度々起こる問題であるが、今は十年であるから、各組から委員をお出しになって、よく研究なされて解決をつけることが必要であります。

兎も角も、根本の満足と云ふことは、我々の根本の価値を見出だそ一とするのである。科学は其の間の事実を説明するに過ぎない。

醜美と云ふよ一なことは、親子の愛、夫婦の愛、兄弟の愛、其の他、凡ての愛と云ふことを行ふて感ずる所の満足、幸福である。夫れを構はないと云ふことは言はれない。ど一しても此に人格の価値を求めて、立派なる行為を表そ一と云ふのが目的である。此の満足、幸福を構はないと云ふことはない。ど一しても人間は理想を持って居る。之れが修養であり、目的である。故に、之れがはっきりと皆さんにわかるよ一に、其の土台が出来ないでは、ほんといの学問、修養と云ふものが出来るものではない。之れは根本の事で、之れがわからねば枝葉の事はきまらないのであります。

夫れで、今日は時が足りませんから、皆さんでよく研究なされて、夫れをはっきりと文章に書いて、私も一度拝見して、夫れを又皆に発表して、是れ等の問題を解決することと致しましよ一。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年三月一日

明治四十四年三月一日

大学部全体

本校自治制度に就きて生徒よりの答へ

[英文学部]

第一に、自治自修を以て本校の主義とすると云ふことは、入学当時から規則書や其の他先輩の皆様から伺つて、分つて居りました。此の主義の本に統一せらるゝ為めに、係及び会の種々なる機関がある。夫れに向つて自修して行くことであ

ると思ふ。

[文学部]

本校の自治制度は、大学生生活を完全に為にする為に置かれたのであると思ふ。自動自修して、他人の制裁を受けずにするを自治制度と思ひます。

此の自治制度は、皆個人が責任を持たなければなりません。時々個人が無責任なる事をする為めに、此の自治と云ふことが行はれなくなる。私共は此処を努めて行きたいと思ひます。

[家政学部]

自治制度は個人が命令されたり、自分の行為を他から支配せられずに目的に向つて活動することで、真の自由である自動自発と云ふことが養はれます。そして団体心を養ふことが出来、個人の人格及び団体の人格を認めること。自治制は規則と云ふ一つの形に支配せられず、個性が発揮される。けれども我々は自由の為に我儘の本能が出て、全体の徳義を乱し、命令がない為めに統一を欠くことがある。然し、真の自治制度は此の様なことはない。

[教育学部]

自治制度は、我々凡ての団体の事を自分から治めて行くことと思ひます。本校の自治制度は第一の方法として、旧来の日本の教育に於ける弊習を矯める為めに、教育の理想を実現する為に置かれたものと思ふ。これに由つて得たことは、

1. 依頼心を取り、独立心を養ふことを得たこと、
2. 思考力、判断力を養ふことを得たこと、

でございます。

明治四十四年三月一日
大学部全体の為に

此の学校では、評議員の方が世界を回つて来られた時には学校へ招いて、其の土産話をして貰ふことにして居ります。今度、村井吉兵衛君夫婦が令嬢をつれて世界を回つて帰られました。故に、明後日の金曜の正午十二時から一時の間に、此の講堂で歓迎会をして、話をして貰ふことに致しました。

此の教育の主義、目的を立て、夫れを実現する為めに、自治制度と云ふものを行ふて来たのであります。之れは、此の学校の発明ではないのです。今日の教育、又社会の組織、生活の状態が、やはりそ一云ふ自治機関になつて動かんければ、目的を達することが出来ぬと云ふことになつて居ります。

之れが今日、世界の最も進んだ教育の方法として、最も進んだ社会に行はれて居りますが、只だ之れが流行して居るから採用したと云ふ訳でもありません。私も長い間、青年の教育を試み、いろいろ経験を積んで見て、最も之れがよいと確信して行つて見たのであります。

私共が若い時に、寄宿舎生活をして見たのでありますが、其の生活は不平不満に堪へなかつた。そ一して学校騒動を起し、我々は最も熱心に主唱して、校長、学監を追い出だし、と一と一知事が出来た。県庁までも動き出したけれども、

学生の勝利に帰したのである。其の前に賄征伐をし、幹事とも衝突しました。官の勢ひを以て圧迫せらるゝのは、実に不快極まるものであります。夫れから、ど一も教育と云ふものは斯う云ふことでは出来ないと考へて、夫れからいろいろ自治制度と云ふことを考へる様になりました。

此の寮舎で、時には借金の出来ることもあり、余る事もある。けれども今迄賄征伐の起つたことはない。皆喜んで食べて居る。まづければ自分達がわるいのであるから、其の寮に居る者、皆が満足することの出来るよ一にしようと思ふて、工夫をする。之れが、一番改良することの出来易い方法であります。之れは我々が目に見えて行ふた一例であるが、賄の事にしても、確に自治制にした方がよい。夫れから、多くの力を集めて分業にして、皆の利益になる様にすることは誠に必要である。そ一云ふ風にするがよいか、又私共のした様に賄をおいて食事するのがよいか。比べて見れば直ぐわかるのであります。

さて自治制を行ふには、ど一しても規則を立てねばならぬ。国を治めるには法律を定めねばならぬ。若し国に法律がなかつたならば、何時生命を失ひ、産を奪はれるかも知れぬ。併し、昔の宗教の社会の如く、或は専制政治の如く、一人の主権者の考へを以て万民に令して行くことが出来よ一か。其の独断、其の感じて律して行けば、其の結果、奴隷となるので、夫れは堪へ得ぬ所である。そこで、成る可く国民の利益、幸福、社会の安寧、秩序の得らるゝ様にすることは、凡ての人の渴望する所である。そ一云ふ法律を立てよ一と思ふならば、凡ての人の要求、希望を入れて、凡ての人が幸福、利益、安心を得るよ一な法律を立てる事が大切である。こ一云ふ様にして秩序を保つことが一番よいのである。故に、今日では代議政体になつて居るのであります。そ一して其の間には討論して、最も全体によいことを議定することになつて居る。

そこで今日の教育には、斯くの如き代議政体の教育をすることが必要となつて居る。最も自由に各自の活動が最も敏活に働く様に、銘々の天才が最もよく発揮する様な境遇を与へねばならぬ。

之れが即ち、自治制度であります。之れが一番各個人の満足をすることが出来、一番全体が秩序を保ち得ること、又各自が最もよく Self-knowledge を得る方法であると信じます。之れが十年間取り来た自治制度であつて、あなた方の必要を最もよく察知することの出来るものである。教育家には今日の学生の現実がわからねばならないのである。故に、生徒の方から言つても、教育家の方から言つても、最も適当な制度であります。そ一して教育の方から言つても只だ印象する計りでなく、發表して実際の生活に応用して行くと云ふよ一な働きも、最もよく此の制度が適当して居ると考へます。そこで過去十年の経験に鑑みまして、又社会が今日の実際の活動を致して見まして、今日の教育には此の制度が必要であると云ふことを考へて来ると、此の結論に到達することが出来るであら一と思ひます。

猶ほ、おわかりにならぬことは充分意見をお出しになつて、充分明らかにしておくことが大切であると思ひます。之れは

以前私が寄宿舎生活をして見て、此の学校では斯う云ふ制度を立て、十年間行つて見て、ど一しても之れが必要であると信じて、経験の方から証明して申したのであります。

も一つ、一寸申しておきたいのは、修養と学問、個人と団体、及び自治制度と各係との関係は、ど一云ふ風になって居るものであるか。又、銘々係りを設けて責任を処理して行くことと云ふことの根本の精神は、ど一云ふ所にあるか、ど一云ふ原理の上に立って居るものであるかと云ふことを、一言申しておきたいのである。

我々の目的、此の学校の目的、あなた方が此の学校にお出でになって学ぶと云ふ目的、も一つ大きく考へると、社会が斯う云ふ学校と云ふよ一な大きな関係を設けて、教育を普及して益々其の程度を高めて行くと云ふことは、ど一云ふ処に目的を持って居るかと云ふと、目的と云ふことを人生の目的と云ふか、又人生、行為の標準と云ふよ一な、つまり倫理学上の事からも調べて行かねばならぬ。之れは十年間あなた方も経験なさったことであるから、充分おわかりになって居ると思ふ。お互が学問すること、共同的に働くことと云ふことは、其の目的の何たるを言はなくても、皆わかち居ることあります。夫れで其の目的に達するとか、理想を実現すると云ふことは、詞をかへて言へば、進歩する、改善すると云ふことになる。我々銘々から言へば、自分を Modify する、改善する、立派にすると云ふことになる。又、社会から言へば、社会を改善する、進歩せしむると云ふことになる。又、之れを自治制度から言へば、私共の境遇である社会を進歩、改善せたいと云ふことあります。

そこで其の進むと云ふ中には、何か変らねばならぬ。我々個人にしても、社会にしても、何か之れが変らんければ一向目的を達しないのである。故に其の変ると云ふことによつて、も少しよくなる、進むと云ふことが出来るのであつて、以前は主に宗教と云ふものに由つて、して来たのであります。其の宗教が救ふと云ふのは、銘々が変る、生れかはると云ふことである。Christ 教で言ふ Convert とか、仏教の大悟徹底、孔子の教への悔い改めると云ふことあります。其の悔い改めるとは、人性は悪であると思つて居つた。Christ 教の如きは、既に原罪と云ふものがある。之れが贖はれて、我々の生れながらに持つて来た罪が救はれねば、ど一しても我々は救はれないと云ふ考へてありました。今日でも、我々の困難、社会の不健全と云ふものは遺傳的の悪疾である。此の遺傳の力をかへることが出来ねばならぬと考へて居りました。

【何人も天才なり】

併し今日の Eugenic biology などの学問が盛んになり、又心理学の研究が盛んになって、段々闡明して見ると、昔の如き悲観の生活ではない。却つて人間の性は善である。此の天才、潜勢力と云ふものは人間の活動力であり、之れが普遍的のもの、常態である。罪惡と云ふよ一なものではなくて、人性は善、誰れも天才であつて、社会は実に可能なものと云ふことになりました。

今日此の堂に数百の人が居りますが、此処に非常な天才がある。私は之れを信ずるのである。是れ迄、日本の女はつま

らぬとか言ふけれども、今日の解釈によれば、そ一ではない。皆何かになつて、何かの価値を發揮しよ一と勉めて居るのである。

【四圍の境遇】

然るに何故、夫れを發揮することが出来ぬかと云ふと、一言で言へば、教育がわるい。四圍の境遇がわるいのであります。数千年前、地に埋つた豆がある。夫れが今日掘り出だされて、最もよい境遇に蒔いた処が、之れに芽が出、葉が出来、実がのつたと云ふこと。之れと同じ様に、此の中には皆種を持って居る。けれども之れを展ばすことの出来ないのは、境遇がわるい。其の天才の發達することの出来ないよ一にして居る。之れが事實である。故に只だ、私共が神を信ずると生れかはる、只一人で天才を發揮する、とは言はれない。私共は奇蹟を行ふことは出来ぬ。之れに境遇を与へねばならぬ。

然るに今日の境遇は、ど一してもよろしくない。之れによい境遇を与へねばならぬ。故に私共は、唯自分を生れかはらせるばかりではいけない。此の境遇を、生れかはらせねばならぬ。昔は只だ一人決心をすれば、努力すればよ一と思つて居つたが、今日は此の境遇をかへる様に、其の事情をかへねばならぬ。其の機会をつかまへて、最もよい境遇とするより外はないのであります。之れを委しく申す時間はありません。卒業生がど一も力が展びないと言ふけれども、卒業生だけで出来るものではない。ど一しても社会の事情をかへねばならぬ。

此の学校で、ど一も思ふよ一に展びられないと云ふのは、何であるか。此の境遇はお互が作つて居る。故にお互がわるいのである。故に、ど一しても大きな展びる処の境遇を与へねばならぬ。之れは何かと云ふと、団体である。そこでお互が修養会をしたり、相談会を開いたりするのは何故であるか。我々の自分をかへると共に、境遇をかへよ一と云ふのである。今日、我が国の学校、御婦人の生活する家庭は、之れを發達させる様に出来て居ない。之れをもう少し Normal な境遇に發達させよ一と云ふのである。昔のよ一に、只だ神の聖靈に由つて立派なる人間が出来、又、極少数なる天才が天才をかへることによつて出来るものではないと云ふことがわかち参りました。つまり、此の目的を全うする為めに団体を結んだり、自治制度を置いたりするのは、つまり個人を立派に發達させよ一、又、お互の作つて居る四圍の境遇を改善しよ一と云ふ目的に外ならぬのであります。然るに此の自治制度がある為めに勉強が出来ないとか、能力を發揮することが出来ないと云ふことは大きな間違ひで、ほんとの意味で言ふ Adjustment, Adaptation が出来なかつたからである。

今日の我が国の家庭、社会は、ど一しても大きなものは育だたない。故に、ど一してもあなた方は、お互の間に此の境遇を拵へて行かねばならぬ。今日、之れだけのものでも出来たのは、此の境遇のおかげである。此の十年間にも少し立派な実を結ぶことの出来なかつたのは、境遇を作ることを怠つたのである。自覚と云ふことは、只だ自分を省みて主観になると云ふことではなく、ど一しても全体の為めに境遇を作ると云ふことをつとめねばなりません。

[中表紙]

村井評議員歓迎会にての御話
明治四十四年三月三日

明治四十四年三月三日

村井評議員歓迎会に於ての御話

数ヶ月間、世界を漫遊して、此の頃、御帰朝になりました本校の評議員 村井さん御夫婦を、一寸御紹介致します。

本校が今から十二、三年前に創立の議が纏まりまして第一に、東京の貴、衆両院議員を帝国ホテルに招いて、始めて創立発表の式を挙げました。

第二に、大坂に於て同じやうな式を挙げ、第三に、京都に於て其の時の京都府知事 内海忠勝君、及び田中源太郎君や濱岡光哲君、並びに村井君達を招待致して、其の時、席上に於て此の事を発表致しました。其の時から村井君は女子教育に賛成し、同情を持って発起人となられた一人であります。

爾来、此の学校の創立委員、評議員となつて、大に其の発達に貢献せられたお方であります。

其の関係深き君が欧米の文明を視察なさつて、お帰りになつたにつきまして、歓迎の意を表し、且つ直接目撃なさつた処の世界の進歩につきまして、君の目撃なされたことを直接に伺ふことの出来るのは、我々の喜びとし且つ有益であることを信ずる所であります。

[知識を得るには二つの方法あり]

我々の知識に書物から読んだものと、又実際に旅行をし、或は親しく観察、目撃した処の知識と二つに區別して、よく我々が其の知識の源として申す処であります。

[旅行の利]

我々が書物に於て、新聞、雑誌に於て集むる処の材料も無論、有益なものであり、又、読みやうによりましては、最も有益なる材料を収集することが出来るのであります。昔から百聞一見に如かずと言つて、我々が旅行の如き方法によって、直接に自分の目で見、手でさほりました処のものは、最も有効なる、又最も感じの深い処、英語で言ふ処の、極めて Vivid な処の知識を得ることが流行るので、此の頃進んだ世界では、見学と云ふことがあり、我が国にも段々之れが行はれて参りました。

本校の評議員方の中にも先年から、澁澤男爵御夫婦、森村さん御夫婦、三井さん御夫婦、三井男爵御夫婦と云ふよ一に、続々お出かけになりまして、其の都度そ一云ふ方から御話を聞くことの出来たのは誠に有益であつたと、皆さん御記憶のことでありましょ。

[村井さんの御旅行の御主意の大略]

然るに又此に、殊に実業の方面から世界の進歩について御観察になつたので、其の間、始終深い注意を以て、美術、工業品、並びに教育に関する器械の如きものを調べ帰られて、一般、親友間に土産としてお持ち帰りになつて居るものも沢山あります。数日来の御話によって伺ひますと、村井君は欧米の文明国、殊に彼の国に於ける処の社会の出来事、変化

等について見るところがあり、殊に国民を進める処の教育などの根本について着眼する所があつて、有益なる御考へを持ってお出になるのみならず、君の支配して居らるゝ銀行、其の他に実行して居られます。

今日、私共は村井君のお口から、そ一云ふ御観察談を伺ふことは誠に有益な事であると思ひまして、過日ど一かお出になつて、お話を願ひ度いと申しましたれば、先日来非常に忙しく、又明日から旅行をせらるゝ大変忙しい折にも拘らず、御夫婦でおいで下さつたことは、誠に一同の幸であると考えます。之れからお話が御座いますから、皆さん謹聴なさることを希望致します。

○

今度の旅行から御感じになつた教訓的な、誠に有益なお話をして下さつたことは、一同の喜んでお受けする処であると思ひます。又お述べになつた御趣意は、よく一同に貫徹したことと考へます。

村井君のお話は、欧州において御観察なさつたこともありますがけれども、詮ずる所は、自ら之れを身に行ふて、充分に自分の生活に行ふた所の実行談である。

[村井さんの人格]

御承知の通り村井君は、京都出身の古河君の如く、江戸っ子の森村君の如く貧しい家に生れて、天秤棒一本から身を起したお方であります。

古河翁は運、根、鈍と云ふことを基とし、森村翁は至誠と云ふことを楯として進まれました。

村井君の日頃の行ひ、公私に尽されて居ることを考へますと、今お話になつた強固なる意志、温良なる徳、勤勉なる行為を以て、段々と成功せられたものと言はねばならぬ。此の三事が村井君の人物をして、斯く迄に擡へ上げしめたものであると云ふことは、日頃の御趣意、行ひによつてわかります。又、成功して後の行ひは、益々其の趣旨を実行せられ、決して自分の贅沢をしよ一と云ふよ一なことはありません。

先年、私が京都へ旅行する時、ど一か此の頃京都へ建てた別荘へとまる様にと云ふお話でしたから参りましたが、其の書齋から、美術品から、食堂から、寝台から実に立派なものである。最初、此の貴賓室の寝台に休まれたのは公爵伊藤博文君であつたそ一ですが、私にも其の寝台に休めと云ふことであるから拝借して休みました。斯う云ふものも自分の快樂の爲ではない。外国から来られた貴賓の爲に、又天下の志士が奔走する爲に、出来るだけの便宜を与へたいと云ふお考へのそ一で、之れは其の構造又其の扱ひぶりに由つて、よくわかるのであります。

村井君御夫婦は、今日は自動車に乗つて来られたけれども、平生の生活は決して自分の快樂、贅沢をしよ一とお考へではなく、御旅行をなさつても、彼の国の盛大なる原因は国民が勤勉なること、決して油断をしないからであると御考へなさつて、益々若くなり元気になつて、平日はなるべく歩行し、なるべく質素にして、計る所は国家の強大、国民の福利でなければならぬと云ふ志を立て、之れを実行して居らるゝことは、過日来、屢々御交際することによつて明らかであります。

す。此の村井君の今述べられた精神、及び子供の時から行ふて来られた御経験と云ふものは、誠に尊い事柄でありまして、其の主義は我々一同の賛成する処であるが、殊に村井君の行ひは最も学びたいと思ふ。今日の御話につけ加へまして、村井君の御人物、其の行ひを、あなた方に御紹介致します。

[中表紙]

正会員の御話
明治四十四年三月四日

明治四十四年三月四日
正会員にて

今、廣岡さんから、自分は日々反省する様になり、又宗教と云ふことについて考へる様になったと、そ一云ふ御話が出ましたから、私も夫れに類似したよ一な経験もあるから、一寸申しておきたいと思ひます。

[宗教について]

廣岡さんには、今から十五、六年前にお目にかゝりました。私は其の時、キリスト教の中に入りまして、総てキリスト教主義に於て根本の主義を立て居りました。廣岡さんはキリスト教くさいと仰やうて、キリスト教の事を穢多村と言つておいでになった。けれども其の中に真理がある。又、罪と云ふことについても深く見出したことがあると云ふ御話で、そこを御見出しになったと云ふことは、誠に尊い御経験であります。

随分、廣岡さんは事に熱中する性で、極端になり、一方に偏すると云ふ欠点を持つておいでになる。私も、非常に熱中して前後左右を顧みないと云ふ欠点がある。過去十五年間の事を省みて見ると、極端に行く。そ一して、行かれないから頭を打つて血を流したと云ふことが沢山ある。自分の宗教の経験も女子教育についても、そ一云ふ経験を持つて居る。夫れで今日十年の間、此の処に於て試みて見た処、とり来りました処の道は、つまり宗教に於ても、教育に於ても、両極端に頭をうって見出したことを実際に試みて見たのである。其の中に修養と云ふこともあり、進歩と云ふこともあり、学問もあり、個人と云ふこと、団体と云ふこともあり、宗教と云ふこともある。之れは、世間で言ふ宗教とは少しく意味を異にするのであります。

つまり、私が五十年の間いろいろ自分の信ずる処を行つて見て、自分の為に見出しましたことは、極端ではいけない。平均を失つては個人も団体も破壊してしひ、極端に行くなら幾らでも行つて見るがよいけれども、到底いけない。決して真理を見出す事は出来ない。そ一云ふ風に天地の道は出来て居るものではないと云ふことを見出しました。之れは、私が五十年の経験に由つて誤つては居ないと思ふことである。

[悔い改むることは悟道の一歩である 過去の御経験]

そこで今、廣岡さんの御経験に自分の罪人の罪と云ふこと

を深く感じて、「悔い改めよ」と云ふことが悟りの道に入るの間口であると云ふことを、見出されたたと云ふことである。之れは万古不易の真理である。之は、私もやつて来た。実は、私は非常に哲学を好みました。夫れにも拘らず、宗教に頭をつぎ込みましてから、皆さん御承知の名高い智者のソロモンも、知識は憂ひを増すなり、と言つて居りますが、凡ての科学も、凡ての真理も悉く Bible 一卷にあると考へて、最も旧思想を維持するところの神学を好んで、毎日読むものは Bible 一卷と思つて居つた。ところが、科学の光り、哲学の光りが入つて来ると、防ぎきれない。そこで、ど一しても之れではならぬと思ふて、大きな研究を始めたのである。

併し、之れは私の為には大変よかつた。Bible 一卷で行くと云ふよ一な事の出来るものではない。又、人間を救ふには原罪と云ふことを考へて、罪を悔い改めて Convert する。之れをする為に毎日反省する。之れが人間の救はるゝ第一であると思つて、梅花女学校などを導いて居る時は、十三の子供から此の悔い改めをさせました。其の次に新潟女学校を開く時にも、開校式の日から之れを実行しました。其の時には、知事を始めとして官吏も教育家も、あらゆる人の揃つて居る所で之を行つて見たのです。併し私は余り Fanatic で、余り極端になつたと思つて、いろいろ忠告せられた。私は天子さまの為に祈つた。天子様も信者にしよ一と云ふことを考へて、総ての人の為に山へ屈んで祈つた。

[人にはいろいろの性がある]

けれども偽善者も出来る。よくない者も出来る。私は頭をうつたのである。そ一云ふ極端な事の出来るものではありません。我々は動物性もある。物質性もあるのである。故に、段々進んで行くより外仕方がない。夫れを只反省させよ一、悔い改めさせよ一とすれば、殺して了ふのである。

[原罪は個人ばかりの罪ではない]

唯、個人を内に省みさせると云ふことだけでは出来ぬ。そこで、人間の生命の出来る生活と云ふものは、社会が出来て居る。故に、原罪と云ふものは個人の罪ばかりではなく、社会の罪である。其の悪虐を企てる者の中にも善性がある、神の性がある、人道があるのである。けれども四圍の境遇が悪い為に、わるくなるのである。一方は善に進むことを得る。けれども一方は其の境遇がない。之れが善悪の分れ目である。

野蛮時代は自然に由つて左右せらるゝけれども、今日は、人工に出来た処の社会、団体に由るので、其の関係直しきを得ない為に犯罪、衝突が起つて来る。夫れを救ふことの出来るのは、Christ, Socrates, 釈迦と云ふ様な人の力に俟つのであるが、凡人に於ては、個人の力に由つて出来るものではない。社会と一緒にし、連絡をつけて行かぬば出来るものではない。故に、一方には反省をさせて行くけれども、夫れだけで出来るものではない。そこで我々の境遇がわるいならば、我々がわるいのである。之れから段々若い人の生れて来る此の社会の状態、経済の状態、政治の状態をよくしなければ、出来るものではない。私は各個人個人を反省さすれば出来ると思つたが、夫れではいけない。

此の学校では、始めから団体と云ふことを申しましたが、

如何なる団体といへども悉く完全ではない様に、個人にも、我々の関係にも、団体にも、欠点があるのである。今、廣岡さんも仰つた様に、両方を一緒にして行かねば出来るものではない。極端に行くのはよくないと云ふことを見出されたのである。今の宗教と云ふものも、頗る多岐に渡つて居る。決して Dogma で人の頭を縛つて行かれるものではない。昔は Christ 教に入って、其の教条、儀式を守ることより外に救はるゝ道はないと思つて居りました。仏教も、そ一であつた。併し仏教の中にも、Christ 教の中にも、仏教が流れて居るのである。故に、斯くの如く相容れざるものが宇宙にあるのではなく、其の根本に流れて居りますものは、一に帰するのである。故に、他の宗教は相容るゝものではないと云つて、今迄の宗教を捨てゝ了うのではない。之れは必ず其の根本に於ては一つになつて、互に相補ひ、相助けあふて行く可きである。

此の学校の中には確に、仏教信者もあれば Christ 教信者もある。夫れを皆許すのであります。之が他の学校と違ふ所で、他の学校に於ては他の宗教を許さない。此の校では許すのみならず、奨励するのである。

[教育の目的を果すには生命が必要である]

人心は一つの型に入るべきものではない。人間のほんとの価値を發揮すると云ふことが、教育の目的である。故に、ど一しても、そこに生命を持って行くより他に仕方がない。ほんとの人間を作り、ほんとの自覚を得さしむるには、ど一しても此の道をとつて行くより他はない。故に、我々が益々修養し、益々反省して進んで行くならば、決して間違ひではない。我々はこれを信じて行つて来たのである。併し此の学校の卒業生といへども、未だ満足と云ふ迄には行きませんでしよ一。けれども十年期も近づいて参りました。今日、学校としても個人としても多少の経験をしました我々の団体は、ばらばらになつて居るとは言はれない。十年の結果として微々たるものであ一けれども、十年の間、私共が共に働き、共に祈り、共に力を協せて参りました。結果、我々は御婦人の心理と云ふものを少しばかり研究することが出来、婦人の教育を少しばかり経験することが出来たと思ふ。けれども、一方には益々奮勵して、我々は之れから眞の大学を建つるのである。

[今後の希望]

故に、我々は益々共同し、今迄の眞理は益々追求して、其のほんとの光りを見出し、記念式には皆さんが満足し、皆さんが向上して此の日をお迎へになることの出来る様に、之れを以て私共の神に捧げたいと云ふことを希望するのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年三月八日

明治四十四年三月八日
大学部全体
会につきて

文学部

会の内容を改良すること。
会の必要は各自認むる処である。

英文学部

団体生活に必要なものである。
経験の交換をすることが出来る。

教育学部

秩序ある生活をするために必要である。
個人を知り、自治機関を動かすために必要である。
従来会の回数が多いと云ふことであつたけれども、之れで適當であると思ふ。

会について改良すべき点

相談会を全体的にすること。
会をするには、準備を十分にすること。
新入生を導く最初の中の会は、指導者に由つて司会せられたきこと。

・家政学部

学校全体の有機的關係を結ぶ上に必要である。
大学生活の完成に必要なものである。
会に対する態度の改良が肝要である。
學術研究会を起すこと。
本気になりて会をすること。

・桜楓會員

会は、進歩したる社会に生活するに必然的に必要なものである。
団体生活、經濟的生活に必要なものである。
少ない時間に互に知識を交換することが出来る。
会の研究が足りないために、形式に拘泥する処がある。
時代に由つて、会も変化しなければならないから、会係を置いて、会の研究をして行かなければならないと思ふ。

会に対しては、あまり異存がないかと思はれますが、只今のあなた方の問題となる処は、会があまり幼稚で有つて、皆が喜ぶよ一な会が出来ないと云ふことであるよ一である。つまり此の学校で、あなた方のする会が全くまづいものでありましよ一か。又、其のまづいと云ふことは、理想に比べて現実がまづいと云ふことであるか。夫れ等の事を研究して、現存する社会で行はれて居る会の会、集まりなどと較べて見て、甚だまづいものであるかど一かを見るが必要である。そして、もし世間から後れて居るならば、自分達は之れをなほさんければならないのである。

東京と云ふ City で今日、我々以外に行はれて居る会と、

我々のする会とは、どちらが会の精神に叶ふて居るものであるかと云ふことを研究する為めに、衆議院に臨んだ人もあった。又、演劇や音楽会や、又は文芸会と云ふよ一な、多くの聴衆の感情を動かす会、其他祈禱会、修養会、又は寺や宮の信徒の会合などを研究なさったよ一であったが、果して我々の間に行はれて居る会は、外に行はれて居るものよりも誠に幼稚なものでありましょ一か。之れが幼稚なものであるとするならば、其の欠点を見出だして、之れを改める必要があると思ひます。

・此の我々の中に行はれて居る会が、其の形式に於て、精神に於て、外の会より劣つて居ると思ふ者は……なし

・まだ十分と言ふことは出来ないが、其の精神とする処は、決して他より劣つて居ないと思ふ者は……大多数

大体は、そ一悪くは行つて居ない。も一つ力を加へたならば有効になるであろ一から、そ一悲観しなくてもよいと思ふ。故に、此に改良すべき点を挙げて、お互にも一つ共同して行きたいと思ふ。

先づ第一に、会全体が有効に出来るに最も大切なる我々の内の態度は、ど一云ふものが必要でありましょ一か。

[会は神経系統なり]

・会は Organization 中の如何なる職責を全くするものでありましょ一か。

会は Organization の神経系統であると思ふ。Nervous system である。

此の System は物質的の身体、或は物質的世界と精神的世界との関係を結ぶ者である。之れがなければ、Soul が物質の働きに至らない。Nervous は外部の Impression を司つて、Soul に伝へるもので、之れに依つて意志的発表が出来るのである。Inter adjust、お互の適合、お互の応化、お互の同化、働き合ひに由つて、平均、調和を司るものである。

[平均の必要]

人間の罪惡は、一部に滞りを生じて不平均を起すのである。最も健康を保つには、滋養物の消化が平均を失はぬよ一にすることが大切である。

The balance of power 勢力均衡でなければならぬと云ふよ一になつて居る。Open-door 門戸開放主義を以て、皆平均を取り、全体の Interest を平均することである。故に小さくは我が身体、大きくしては我身体の外に国家、世界人類の共同生活、も一つ大きくなって、宗教的生活と其の均度を司るものが、我々の神経系統である。

そこで此の会と云ふものに大切なものは、此の感情を通はせる神経である。之れの疎通がよく出来ないと不平が起る、不公平が起ると云ふことになる。会は本能的に行はれて、感情が融和して一種の Music を生ずると云ふよ一にならなければならない。故に、一番に注意すべきものは感情の融和であつて、批難とか妬みとか恨みなどがあつては、会は出来ないのである。

人に対する同情を厚くして、之れが互に相反射して、此に立派な Music が出来、均一な生活が営まれることが大切である。Music、文学、美術、園芸等の美が交換されることが必要

である。一言で言へば、同情である。之れを養ふ上に必要な我儘を廃して、互に融和して行くと云ふことであります。無味乾燥なものに依つて、事をする事は出来ない。調和ある処に生きなければならぬ。故に、団体生活に於て最も注意しなければならないことは、感情の融和である。

私は此頃、面白い事を考へて、寝る前に歌を唄ふことを始めました。そ一すると、誠に愉快に眠ることが出来て、心の中が楽しくなる。此の間も、一度英語で夢が見たいと思つて、英語の歌を唄ふて眠りに就きました処が、夢に次のよ一な詩を見ました。

In the violent stream I can stand straight and firm.
Yea even in overwhelming wave of trials I can stand
straight and firm.

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年三月十五日

明治四十四年三月十五日
大学部全体の為めに

[文学部の今後について]

文学部の制度について、今の一年の方から希望が二つに分れて居りましたが、成る可く両方の説を入れて行きたいと熟議の結果で、之れ迄の文学部と新に組みました新制度とを折衷した、新しい形式を取ることにになりました。新規則の方では、国語、漢文が多くて、自分で研究をする時間が少かつたのであるが、此の時間を少しく少なくして組み立てられたのであります。多分これで両方の希望が入れられたことと考へます。夫れで予科の方で文科へは入りたい人は、二年の方へ大部分一緒になつて、横一年で共通のものは一年の他の部と一緒に聞くよ一に致し、三年目には専任の教授一人位は置くことに致しまして、其の他は自分で成る可く研究して、他の部の文学の講義のある処へ出ることにして、そして本科生として卒業させることにするよ一にして、今年は文科をつゞけることになりましたから、其のつもりでお出になるよ一に、一言此に申して置きます。

[論文につきて]

夫れから、幾分か今日の問題に関係があると思ふから申して置きたいと思ふのは、二年以下からお出しになった論文の事であります。

大体、思想、文章及び其のお書きになつた文字等も、大に進歩したと云ふことが感ぜらるゝのであります。無論、其の中で御注意しなければならないこともあります。大体各部とも進歩したと思はれます。其の中で、一日も誤解して居てはならぬと思ふことを、一、二申しておきたい。夫れは、一人そ一云ふ人があるのであるから、極少数であろ一と思ふ。

其の一つは、此の前私が英語の勉強法について申した時に、将来朝鮮を教育するには、ど一しても従来用ひて来た文字ではいけない。つまり、Rome 字にしななければならないと云ふことを申しました。国語、言葉を軽んじてはならない。それは、国体を保つ上に憂ふべきことであると云ふ風に取りれたよ一である。之れは少数の間に、そ一云ふ考へが起つたことは、無理はないのである。文部省の当局者、又は其の他の教授達の間にも、此の問題については誤解がないでもない。このよ一に、識者の間にさへ誤解が残つて居るのは事実である。故に、若い人の頭に、こ一云ふことが残るのは当然のことである。併し、非常に国家の為、重大なことである。文字と国語との関係を誤まつて居るものがある。文字を改良するのは、国語を軽んずると云ふことではない。我が国語を沢山な新国民に伝ふるよ一に致し、外国人と互に思想の交換をはかるよ一にするには、朝鮮にはRome字を用ふることにするのがBestな方法であると考へたのである。外国のある大学教授が言ったことに、我が国の学生が漢字を用ふる為、青年の発達の盛んな時期に三年間の遅れを来すと云ふことである。之れから満州、蒙古、支那と世界的關係を付けて行かなければならない我が国が、此の如き不便宜なものを用ひてよいものかと云ふことは、大に考へなければならぬことである。

Rome字にすると云ふことは、国語を廢するのではない。言葉を変へよ一と云ふのではない。其の国の言葉を軽んずるのではないから、其の間違ひをしてはならない。国語を軽んずるのではないから、其処を間違ひはないよ一に。世間にそ一云ふ混同があると思ふから、一言御注意をして置きます。

夫れから、も一言申して置きたいことがある。夫れは、此の学校の精神教育、又は宗教教育と云ふ、其の信仰とか又は其の修養の標準と云ふものが哲学に土台を置かれて居るが、哲学は解釈の六けしいものである。夫れで、今日の我々の頭には到底解し得ない。哲学は理屈である。思想である。夫れで、哲学と云ふ土台に置くことと云ふことは六けしいことではないかと云ふことであります。之れは今日の問題に關係のあることと思ひますから、一言申しておいた方がよかろ一と思ふ。之れは予科と云ふ大学生活に経験のない方から出たことで尤もなことと思ひますが、こ一云ふ問題の出たことについて、一言あなた方に注意しておきたいことは、今日疑惑心とか今日我が立てんとする処のことに、悪い暗示を与へる催眠術をかける人がある。哲学は分ることの出来ない議論である。空想である。つまり宗教も斯くの如きもので、出来るものではない、所謂六かしいことであると云ふ催眠術をかけると云ふ危険を持つて居る。も一つは、あなた方は社会的暗示を受けて居る。私が此処から叫ぶのも、あなた方によい暗示を与へて居るのである。然るに一方からは、之れを消さうとして居る。故に戦ひがあるのである。私共が十や十二、三で論語や孟子を習つたが、中々六かしいが、西洋では夫れと同じく、Bibleを教へるのである。先年一人の教授が、Bibleの一行が六ヶ月かゝつても分らないと言はれた。其の六かしいことを小供に教へるのである。併し之れを解して行くのである。私が哲学を講じて参りましたが、之れも分らんことはない筈

である。つまり分らないと云ふのは、六かしいと云ふ暗示を受けるから分らないのである。

も一つ六けしいことは、英語である。之れも指導者に頼んだが、使ひ方の分らな為めに、も一つ、之れが何故英語で書いたかと云ふことが分らなかつたよ一である。Lifeを英語で書いたのも、思想の機械を広めると云ふことである。時代の精神に反響することが出来るよ一に致しますには、其の代表である時代の詞を使ひて行かんければ、非常に損である。之れを日本の詞になほせば、非常に感じがよくなるのである。夫れで矢張、一番今日の思想を説くには、其の思想で育つた機械を使ひなればよいのである。此の事は前にも申したのであるが、も一度、私は皆さんに申すのである。

矢張、信仰がなければならぬ。催眠術を防ぐ方法を講じなければならぬ。二年以下の論文を見て、私を感じた処を一言、あなた方に御注意しておきます。

今日の会の問題

1. 教育の目的。
2. 教育に宗教は必要なるか。
3. 本校の宗教と吾人の信ずる宗教。
4. 理想の校風。

生徒の答へ、纏めて記す。

1. 人格を高くし価値ある人となす為めに、教育は施さるゝもの。
2. 教育と宗教とは離る可からざる關係を有す。
3. 本校の宗教は各宗教の進化したるものにして、宗派的のものならず。
4. 本校の主義の実現されたるものを、理想の校風とす。

[中表紙]

寮舎改革につきての御話
明治四十四年三月十七日

明治四十四年三月十七日
寮舎改革につきて

寮舎が出来まして十ヶ年に相当するので、此の十年の経験を集めまして、頃日来、あなた方にも相談をなさり、寮監の方々も度々議を凝らし、又学校の方でも調査研究をしまして、来る四月、即ち第十一年目よりの寮舎の關係をど一云ふ風に致したらよ一であるかと云ふことを此処で相談致しまして、一番よ一と考へました案を今日あなた方に発表する為めに、一同こゝに寄つた次第である。此の改良について考へなければならぬことが二つある。

1. 経済

時間及び腦力と云ふよ一なことを、最も經濟的に用ひなければならぬ。

2. 教育

即ち校風、寮風と云ふよ一な、お互の關係から出来る其の

精神の方面を考へて見ると、十年間試みた此の組織は利益でありました。そ一云ふ、よい方の経験も沢山に集まって居る。又、欠点の方についても、凡ての方から材料が集まって居ります。其の利害、得失を考へ、最も勝った処の有効な道を取らんければならぬのである。併し、我々の考へて、之れが最上の方法と思ふても、之れを行ふに経済が伴はない。夫れで先づ、其の経済を立てることを考へなければならぬ。教育は経済を関はんでも出来るものであると考へて、其の様なことを考へるのは教育に不必要であると云ふ伝説がありましたが、夫れは誤りで、学問をし文明の世に生活するには、経済のもとを拵へなければならぬのである。

[身体と精神]

今日では、此の身体と精神とは離るゝことが出来ない。夫れで、我々が身体の健康と云ふことに注意して、十分健康を作ることが大切である。我々の身体は精神に由って出来、精神は又身体に由って出来るのである。故に教育は、智育、体育、徳育、共に一方に偏することは出来ない。殊に青年教育には、身体の教育に重きを置かなければならぬ。夫れには経済力が伴はなければならぬ。之れをかまはずして、教育を行ふことは出来ないのである。少し経済的のことをすると、銘々のために、個人の健康を進めるために不利不便が起る。一番個人の為になり、又銘々の時間を省くには、余計の費用を用ひなければならぬ。

外国の寮舎生活は、家庭に居るよりも個人に適するよ一になって居るが、斯くの如き寮舎生活をするには、一年に千五百弗から二千弗を要するのである。夫れであるから、あなた方の生活が個人個人に適するよ一に、光線、空気、温度の具合、又は勉強するによいよ一な仕方に致し、健康に叶ふよ一にするには、今ある寮舎に、も少し人を減さなければならぬが、そ一するには経済が伴はないのである。然らば寮費をあげたならばと言ふが、今の我が国民の生活の程度は之れ以上に許さないのである。故に之れ以上に許さないのである。も少し我国の経済力をすゝめんければ、我国を進めることは出来ないのである。あなた方が経済の方面にも貢献する力を養ふて来んければ、六かしいと云ふことである。否、我国民は努力して此につとめんければ、其の他に力をのばすことは出来ない。よく経済の方面から凡ての方面の生活状態をしらべ、経済に余裕を作る道を講じ、一致共同して行かなければならぬ。又、体育と云ふこと、又日常の生活を利益あるよ一にするには、も少し経済の道を講じなければならぬ。

此の寮舎で経済の道を講ずるには、先づ第一着に、共同の働きがも少し敏活にならんければならぬ。又、も少し人数を集中して、密着にして少しく寮の数を少なくして、かたまりの数を殖すよ一に致さんければ道がない。併し経済だけではいけないから、銘々の力を消費せんよ一に考へて、きめんければならぬ。其の考への末、先づ今日の場合こ一するより外仕方がないと云ふことになって来たのであります。

学監のお話を省く

今、学監から委しくお話があったから、皆さん、よくお分

りになりましたでしょ一。実は、教育は国家が為すべきもので、其の団体が大国民を作るために、出来得る限りよい境遇を作らなければならぬのである。外国では出来得るだけ国家、団体の金を遣ふて、必要な境遇を与へるのである。国家の為から思ふても必要であるが、我が国の輿論は其所迄に発達しない。夫れで此の志ある処の学生が、自分で費用を満たして行かなければならぬのである。

此の間も報告致しましたよ一に、未だ中々費用がかかるのである。到底、月謝と校費で学校を維持することは出来ず、中々補助せんければならぬと云ふことである。夫れで私共の取りました方法は、寮費を上げることにしたのである。ど一か其の訳をよく了解して貰ひたい。尚ほ分らない処は、寮監からお聞きになることを希望致します。愈々十年期に際し、此の改良案について、益々力を致すよ一に希望致します。

[中表紙]

譲り渡しの会にての御話
明治四十四年三月十九日

明治四十四年三月十九日
譲り渡しの会にて

此の間から、あなた方が少し Overwork ではないかと、大に心配を致して居りましたが、皆決心を持ってお働きになるから一人も倒れる人がなく、昨夜も遅くなった。其の上に、今日は非常に天気が悪い。こ一云ふよ一な時は、人が平常の三分の一も集らないのである。然るに今日は、前からきめた通りこの会を行はれた事は、あなた方の決心がこ一に表はれて居ると言ふことが出来る。こ一云ふ Overwork になった時に、天気が悪くなり皆の気が弱ったときに、元気を失はぬのは非凡な人と言ふことが出来る。こ一云ふ時に態度を崩さない人は余り多くない。之れは昔から、そ一である。此の天気の良いと云ふことは我々に何を思はせるかと云ふと、社会の現状であります。夫れは私が今、言ふ迄もない。あなた方が既に知って居ることである。八回生が入学当時から天気が悪くなり、寒くなって来たのである。其の六かしい時、其の一般が沈んだ中に第八回生はど一云ふ試みにも遭ひ、傾かんとする勢を挽回なさって、又其の間に大責任を全うして、こ一にあなた方が感謝し、之れを第九回生にお譲りになったのである。又、此の沈衰の時に第九回生が十分決心して、之れをお引きつぎになって、将来に來らんとする処の第二期を始めよ一となさるのである。夫れで十分我々は満足であるが、一言申しておきたいことは、此の人生と云ふものは常に浮沈盛衰がある。夫れで今お出になる方も、亦之れをお継ぎになる方も、今後困難の來ることはよくお考へにならなければならぬ。夫れで私があなた方に非常に望むことは、今決心なさった態度を崩さんよ一になさることを希望致します。

之れは我々が、修養が十分につんで十分我々に人格が出来、

知識が出来た暁には、斯くの如き試み、圧迫は来らんものと思ふ。併し私共は古来の人々の経験を聞いて見ますのに、之れは避く可からざることであるよ一である。我々の目的を永遠に達して行かうとするには、我々が其の困難に堪へて打ち勝つと云ふことが大切である。

Christは、我れ世に勝てり、と言はれたが、之れを我々の経験にしないと満足をするに云ふ状態になれない。

ど一か我々は、今朝のよ一な内にも外にも重荷を負ふて居るよ一な時に、しっかりした決心をお持ちになつたと云ふことを何時迄もつづけて行きたいと思ひます。

私は、あなた方が社会に門出して、非常に困難なことが沢山あると思ふ。又、此の学校も今が沈衰の最も甚だしき時と言ふことは出来ないかも知れない。こ一云ふ時に少しも恐るゝことなく戦ふと云ふことは、口には言はれるが中々六かしいことである。殊に御婦人は一層困難であるが、あなた方が女子高等教育の先駆者として、其の指導者となると云ふことが必要であると思ふ。私は一人でも多く、斯くの如き勇者の出ることを切に希望するのであります。

今後、あなた方は今よりも一層困難な試みに遭ふものと思ふ。其の時に九回生、十回生の中から、此の非常なる嵐に堪へて下さることを立て下さい、心をゆるめずに終り迄元氣であつて下さいと云ふことを、切に希望するのである。其の試みに堪へるか堪へないかと云ふことに由つて、我が運命がきまるのである。かゝる場合に決死隊に應ずる人はあるが、最後迄戦ふ人は少ない。今日迄、かくの如き最も美しい決心を表はしたことは、私共は之れを見るのである。孔子さんには、お弟子が三千人あると云ふが、其の三千人の中で選ばれたのが七十人であると思ふ。Christには数千人の信者がある中で、選ばれたものは僅に十二名であつたのである。併し其の十二名も、最も其の試みの極度に達した時分には僅に三名残つたのであるが、最も勇者のベテロスらも遂には疑ひを起し、最後にはChrist一人 ゲッセマネの園で苦痛をして居られた。三年間の修養を積んで後すらも尚ほ、幾分の恐れがあるかのよ一に見える。

「父よ、我れを忘れ給ふか」と云ふことがChristの心に起つたのである。偉大なる人、傷の少ない人と思ふChristすら尚ほ疑はれ、悲観の極に沈まれた。夫れで、どのよ一に人格を築くとも非常なる試みに遭ひ、殆んど自分を疑ふと云ふよ一なことも銘々に味はうことがある。併しChristは神に祈り、暗い時にも心から祈つて、遂に、我れ世に勝てり、と言はれた。

私共は意志は消えないのである。私共は如何に苦しくても、敗北したよ一でも、我々には本当の敗北ではない。尚ほ益々世に勝つたと云ふ信仰を持って、ど一云ふ嵐の中にも愉快なる心を以て、ど一云ふことがあつても迷ふことなく信仰を以て、此の団結を破らるゝことなく、永久に其の意志を持ち、互に益々希望を以て進みたいと思ふ。誠に今、お別れするのは力を失ひ、勢を殺されるよ一に思はれますが、又考へて見れば、社会に此の主義を拡張する責任を以て進まれるのであると云ふことに希望を持ち、喜びを以て、私はあなた方八回生を送り、私共は九回、十回の人々と力を協せて、どんな困

難にも態度を崩さず、信仰を堅くし、銘々の責任を全くしたいと、深く望むのであります。ど一か来る処の種々な困難に堪へて行かれんことを切に希望致します。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十四年三月二十二日

明治四十四年三月二十二日

大学部全体の為に

本校で、精神教育の基礎として居る宗教とは如何なるものなるか。又、其の宗教と本校の教育とは如何なる関係があるかと云ふ事につき過日発表になり、今日はそれに引き続き、桜楓会の精神と学校との関係、使命は如何かと云ふことにつき、皆さんから御発表になった。之れは、只書物の上でなく十年間の経験を基として、今日の社会の現状から割り出し、広い関係を考へたもので、独り考ふるのみならず各自の深い経験の一部、及び将来の希望、団体の運動についての計画と言ふべきものを御発表になったのであります。最後に、全体の関係が如何かを統一しなければならぬ。

それで、私から其結論を言つてくれとの事でありませう。しかし、私がこれを命令的に独断的にするのではなく、皆と共にしたいと思ふ。

個々の経験、各部の意見は此の間から出て居る。これが材料となつて纏めがつけられ、全体に通じた精神が十分に発揮せられなければならぬ。それであなた方自身で、それに御働きになる事を望むのであります。それで私は、それにつき少しづつ問ひを出して、意見を集めては纏めて、進みたいと思ふのであります。

そこで先づ初めに、何処に統一をつけたらよいか。凡ての部分に共通して、凡ての部分を支配するものは何に置いてよいか。實際真髓となる実質は何かと云ふことを鮮明にして置かなければならぬ。それに就いては、凡ての部分に通じて居る統一点を見出さなければならぬ。其の統一と云ふことは絶対となづくるが、それは抽象的のものではなく、十分の内容がある。それは各々の特徴を持って居るのである。故そこに区別があつて、しかも統一しなければならぬのであります。

最初に、凡てに通じて居る目的、或は理想を定めなければならぬ。そして爰に存する特徴、職責が明らかにならなければならぬ。其の間に、共同が完全にならなければならぬと思ふのであります。

先づはじめに、各々の部門の目的を明らかにしなければならぬ。少くとも次の四つに分つことは必要であると思ひます。

1. 教育の目的に関する問題
2. 修養に関する問題
3. 宗教に関する問題
4. 桜楓会の問題

[統一点を何処に置くべきか]

其の目的の統一点は何処におくか。みなのかつ着する所は何処でありましょか。

皆々目的のもとに、一とならなければならぬ。そこに種々の機関があり、各々に働かざれば、各部に特徴とする目的を有して居ることもわかつて居らなければならぬと思ふのであります。

それで第一に、四つの世界の目的とする根本の目的は何であるか、其の統一すべき所は何処なるかを、先づ定めなければならぬのであります。

過日来、皆さんも其の目的を言ふたのであるが、今日は其の全体を考へて、其の關係をはっきりとつけたいのであります。其の問題をはじめに問ふのでありますから、何処からでも、今の尋ねに対して答へてもらひたいのであります。

其の根本の目的は何でありましょか。

斯う云ふ時は、日頃言ふ哲学があるのであります。

・ 愛 人類の幸福 人類の進歩

これをも一つ統一するは、何でありましょか。

・ 善 真善美 完全

これをよせてもよいけれども、これで未だ足りない所がありませぬか。

[教育の目的は何か]

昔は、教育の目的は習ふと云ふ事にあり、習ふと云ふ事は知るといふ事であったが、此所には知ると云ふことがない。

今は、教育の目的はそうではない。先づ教育の目的は、ものを知って知識を得、社会、人類の建設したるものを永い間蓄積した技術、知識をうけつぐ。即ち生涯に必要な用意をするものなりと言ふて居るが、実際、今日の教育の目的は何でありましょか。

習うたことを応用して、世を進歩すると云ふ答もあつたが、それでよいのですか。

人格を完成するには材料がいる。教育は彫刻師が彫刻する如く、建築師が家を建て、又紙に書画をかく如きものであるか。教育に扱ふて行く材料は何であらうか。

各自に潜在して居る天性がある。それを出すのが教育である。人間には芽と云ふものがある。一つの埋つて居る種子がある。これを出すのが教育で、教育のものは力であり、人格である。誠に不思議な力が出る。それを教育と言ふ。

教育をする目的を定めるには、被教育者の中の種子をきめなければならぬ。教育はあるものを出すものとするならば、其の出るものは何かと云ふことが定まらなければ、目的を定める事は出来ぬ。被教育者の実質、天性は如何なるものかと云ふことがわからなければならぬ。それがわかり、又一方では発展して行く方からも見なければならぬ。

先づ教育は人間の凡て活動の起こる芽である。故に、之れを教育問題に第一に考へられなければならぬ。

[宗教の目的は何か]

究極の目的を定めなければならぬ。それを宗教と言ふ。

宗教の目的は何ですか。

・ 意志の要求仮定、即ち善意。

Gladstone の宗教と云ふ所を読んでごらん下さい。宗教の信仰と云ふものは、何に土台を置くかと云ふに、三つの中の一つに置くと言つて居る。

1. Authority

2. Reason

3. Experience

最初の宗教は Church and Bible によると言ふて居る。教会は確信せよと命ずる。故に神を信じ、Christ を信ずと言ふので、Reason は、学説で科学、哲学の道理が証明する故に、信ずると言ひ、Experience 即ち経験、之れは自分が神を見、自分が Christ に遇ふた、Christ と交はりを致した。自分がそ一云ふことを味はひ、そ一感じて居ります故に、自分はそ一信ずるのであると云ふのである。併し、第一の信仰は他の報告に過ぎない。第二のものは道理を以て信ずる。故に確信である。第三は自分の経験によつて信ずるのである。

[我々の宗教]

最後に我々の宗教は Authority でもなく、Reason でもない。やはり経験である。

本当の宗教のものは経験であると Gladstone は信じて居る。兎も角も、今日あなた方が一番先きに考へてほしいことは、Experience、即ち経験と云ふことである。

そこで愛に私共が先づ目的を定めなければならぬことは、被教育者、即ち子どもを定めなければならぬ。けれども、それが大きくなると人となる。其の人間の中に色があるが、色を除き真髓ばかりをとれば、男も女もみな人である。世界とか宇宙とか云ふ人の境遇と、それを支配する God を知らなければならぬ。

世界は何、人は何、神は何、これ等をみな一つにして本体と言ふ。其の本体は如何なるもの、本体の根底は何かと云ふことが定められてはじめて目的がきまるのである。

先づ近世の科学、哲学、心理学、社会学などに於て、きめた真理が漸次、近頃に至つて、階段をふんで進歩するあとが明らかになつたのである。

近世、科学の初めに起つたのは物理。科学が研究して纏めた所の宇宙の解釈は、ど一言ふたらばよいのですか。教育部の方、全体の關係は何ですか。

・ 力であります。

力にはいろいろあるが、力が一つ Organize されて居るのである。それは何ですか。

・ 機械 Machine

たしかに機械と云ふことも言へるので、今日の文明も機械的である。しかし、それのみでは止まないものである。それは生物学である。機械説が進んで、何ですか。

・ 進化

従来、固定したものだと思ふたが、物理学でも違つて居ることを知つた。常に動くもの、目的に向つて進化し、變つて行くのである。

宇宙の実体は何か。

・ 有機体 Organism = Living

之れは機械に命が入つて、宇宙は生きた機械であり、有機

体であると云ふことになって居る。

次に発達したのが心理学で、前のでは十分の説明でないと言ふて居る。

心理学より言ふ宇宙は何か。

Consciousness。生きたかひは意識である。従来は、科学の作用で熱や光が出るよゝに考へて居たが、今日では、実体が精神的なものであると云ふことになった。

Consciousness を見出した時に、個性を見出した。それでは未だ全体の統一をつけた所のものではないと云ふことになって、次に社会学が下した定義によると、実体は Experience である。

Consciousness は、言葉で言ふと意味がわかりかねるが、Consciousness は Social relation である。自他の関係から起こるものである。

[人生は経験である]

そこで、此の段々、人間と云ふものは Experience である。換言すれば、実体は、或は人生は経験である。経験は即ち、行ひである。経験の要素は行ひである。

行ひは Adjustment である。行ひは、社会的関係をつくる事である。

宇宙の実質は経験であり、経験は活動であり、活動は社会的関係を完成する所の仮定であると云ふことになる。

[経験が宗教の目的である]

しからば、経験は何か。人間が中心、要求してやまぬ、必然的に傾く、目的として居る、理想として全力を注ぐ所の熱心に、必死の力を尽して戦ふ所の目的となるものは何か。其の目的が、教育の目的である。それが桜楓会の目的である。凡ての目的の真髓の経験が、宗教の目的である。其の人生の目的、宇宙の目的の Essence は何か。経験の骨髄は何か。宗教の命が何であるか。Gladstone は、Authority にあらず、Church にあらず、Bible にあらず、道理にあらず、経験である、と言った。其の経験は何か。それに答へらるゝ人は言つて御覧なさい。

・ 向上心 私共の生きる事と思ひます。

只生きるだけで、よいでしょーか。

之れは言葉を言つても、語意内容が充実して来たから少しわかりにくい、それを言つて考へを啓かなければならぬ。

[Absolute value]

経験の Essence、即ち実体の Essence は、之れを Absolute value と言ふ。何と訳してよいのですか。価値と訳して、わかりますまいか。

愛、幸福、進歩、善、美、完全、功利、真理、善意、みな Value である。これらを統一したものが、Absolute value である。

これをよく Realize するには多くの時を要しますから、十分言ふ事は出来ぬが、凡そ察する事が出来るであらう。十分、其の所を味はふよゝにしてほしいと思ひのである。

其の前に一寸説明することは、Gladstone の経験は Reason にあらずと。故に、宗教は教会の權威、Bible の歴史によるものではない。又儀式を守つて洗礼をうけたとて、宗教と言へない。精神がなければ、即ち偽善である。何か宗派のもの

でなければ宗教でないよゝに思ふと云ふことが以前にあらはれ、宗派に属したものは他の宗派を悪むと云ふ偏見があった。Gladstone は Reason でないと云ふた事は、Dogma でないと云ふことである。

[経験の要素]

感情、情緒、知識は人間経験の要素となつて居る。感情ばかりが人間の Essence と思ふては、間違ひである。こゝに、Reason でないと云ふてあく迄考へることは宗教でない、とつては誤りである。

Value と云ふと、真も善もある。しかし経験の真髓は、其の本体は Abstract と云ふものではない。Value の特徴は直覚的、即ち経験である。

これを他の言葉を借りて言ふと、美術に言ふ玩味すると云ふことである。Value の価値の感情が賞玩する、又は満足と云ふのが、我々の経験である。又、適合、調和、統一と云ふ其の時の経験、感じ、これは到底言葉を以て言ひあらはせないものである。各々個人的のもので、主観的に其の人、其の人の程度に応じた發揮があるのである。自身で行ひ、自身で味はふと云ふことでない、到底本当のものはわからない。本当の価を Realize することは出来ないのである。之れは言葉では到底ときあかしにくいので、又一部だけを経験しても Absolute value、究極の真髓に達することが出来ないのであるから、そこに行くには銘々が深く考へなければ、明らかになることもむづかしいと思ふ。凡て人生が目的として居り、宇宙が目的として居る実体は、Absolute value に達したいと思ふて進んで居ると言ふことが出来るのである。

勿論、生きることもあり、活動もあり、働か合ふと云ふこともあるが、其の奥には深く求めて居る所の Value があるのである。

価値ある尊い行ひをしたい、共同するならば其の価値ある結合をこしらへたいと思ひて居る。それを耶穌は天国と言ひ、仏教は極楽浄土と言ふ。凡てそこに理想あり、目的あり、要求があると云ふことは、つまりは Value である。

宗教的生命は Value の發揮したものを言ふ。これを真善美、又は幸福と言ひ、Value の感じをさして美と言ふ。

社会的関係の間にあらはれた Value を愛と言ふ。其の向上的、進歩的 Value のあらはれたのが、満足である。教育の目的もこゝである。今日の教育の方法は経験をさせる、Express に重きを置いてしなければならぬ。我々の修養、信仰、桜楓会の目的の統一は、Absolute value に達し、Realize しよと云ふ所にあらなければならぬと思ふのである。

実は、これをよくとくには書物にでもしなければ、一場の演説では出来かねるのである。

生活に、生きた経験にしよとつとめられた事があるからして、凡その所はわかつたと思ふ。勿論十分とは言はれぬが、私の言ふことは何処かと云ふこと、又従来勉強、修養につとめたが、一致すべき点はこゝであると云ふことはわかつただらうと思ふが、もしわからなければ問ひをお出しになると、一層はつきりすることかと思ふ。

第一、こゝに言ふ修養、宗教、教育の統一がわからなければ

ばならぬ。

第二に、生活がわかって、共働事業が其の主義によって満足に活動の出来るよ一にならなければならぬ。

この真髓が十分にわかれば、自ら解釈が出来ると思ふ。教育と修養との統一はわかったが、特別な点を挙げて相互に関係して働く所をとかなければならぬが、到底この時間には出来ませんから、終りにも一つ纏めて置き度いと思ふことは、其の凡ての Value のもとをして居る究竟の Value を追行し、原動力に向って行くには、宗派的宗教と本校の宗教とが一緒になって行くことはむづかしいと思ふ事は、もはやわかったと思ふ。

それで最後に言った宗教、即ち本校の宗教、精神的活動と、本校の教育と云ふもの一つにすることが出来る。そこに矛盾もなく、又各宗派より行くものあつても自由を妨げずに行く事が出来るが、いろいろ宗教の経験のないものが、かゝる信仰を基礎として精神的の深い経験、絶対的価値を経験し得らるものかと云ふと、それは問題である。それが出来るならば、今後我々の信ずる宗教は日常如何にして行はれるか。桜楓会の改良、本校修養会等の集會に、かくの如き宗教をあらはして行く道はないものであろ一か。も一つ具体的にあらはれないと、自分の宗教である Absolute value をあらはして、安心立命の境に達することが出来難いよ一に思ふて、満足しないよ一な点があるが、皆の要求を充たすには如何にすればよいかと云ふ、実地問題を解決したいと思ふのである。

そこで私はめいめいにお考へになりまして、それを出してもらつて、出来るだけ私が纏めるよ一にしたいと思ふ。しかし之れは十年間考へ、研究し、努力奮闘して来て、解決せんとする重要問題である。果して、こゝに広い関係をもつ Value を実現し得らるゝか。努力してみたいと思ふて、も少し皆が深く考へ、注意力を集中なさることを望む。大体の結びをつけたいと思ふから、出来るだけ考へを出して下さるよ一に希望するのであります。

それでは聞きますが、

Christ 教会に属して居て、しかもそれを改善して行き、本校の宗教と相一致するに困難がないと思ふ人……少数

仏教に属して居る人で、前と同じく困難を感じない人……少数

Christ 教、仏教に属して居たが、それでのみ満足が出来ない。やはり本校の宗教によって改善し、相一致せしめて行かれると思ふ人……稍多数

従来、宗教の経験のない人で本校の宗教を信じて、安心立命の出来得ると思ふ人……多数

今一つ聞くことは、私共の信じて居る宗教で、従来の宗教のよ一な力が出るものかど一か。

高尚で複雑なる Experience を論ずると、考へも時も多くを要するから、単純な、極くはじめの階段の所をとき明したならば、最も深い所の経験に達し得らるゝと思ふから、一寸説き明したいと思ふ。

[宗教の起り]

人間はみな幸福を望むのであるが、人間は不幸なもので、

人生は無常である。其の不幸、無常は何かと云ふと、人間の罪業である。宗教で、ど一か救はれ度いと思ふたことは、罪が救はれたいと思ふたのである。これが宗教である。

人間の罪を救ふと必ず幸福の生活が出来、永久の命が得らると思ふた。宗教が目的として信じたのは、不幸のものをぞく、人間を不幸の根から救ふと云ふことである。

先づ直接にわかる不幸は、死と病とである。これは多くは不健康である。それで第一に福音を伝へるのは、病より救ふことと、貧から救ふことである。Christ は人の身にある病を治したのである。Christ がお出になると、数千の癩病患者が出て来る。狂人が来る。その他、熱病、流行病の人、女が来て、Christ の衣に触れると、生涯不治の病が癒え、盲目が目あきとなったと云ふ。宗教は病を治すると云ふことであつた。シヤカは貧人、病人、或は其の他不幸の根をなほした。故に、多衆は救はれ、不幸の根をおさへて、幸福の芽を出し、人格の力を与へられたのである。

我が国の武士道も、釈迦の感化による所がある。

Christ の威權、熟識、一つは Value が發揮し得る力を持つて居た。故に、人は皆、神の力があると信じて居た。

「悪よ出でよ」の言葉が非常に力があつて、強き命令であつた。病人が健康になった。盲目が目あきとなった。之れは何の力か。今日は決して不思議でなく、不可能でなく、出来得ることである。何となれば、こゝに確かに不思議なる力、意志の力、神通力、不思議なる神の力があるのである。しかし、其の盲目を癒したる力は、其の偉大なる力は、其の盲目の中にあつた。皆の中にあつたのである。何故出来ないか。何故之れが不幸になるか。其の力をおさへて居たのであろ一か。各自にこの貴い神の力があるのである。只 Christ を信じた人に感動を与へ、暗示を与へたのである。

愛に非常なる精力集注が出来たならば、Genius を發揮することが出来るのである。宗教の経験は独り Christ 教のみならず、仏教にも、他宗教にも、又 Christ 以前にもあるのである。

Christ の踏んだ土、衣服から力が出たのではない。若し、川や土から力が出るならば、直ちに不幸が取り去られるわけである。今日、哲学、心理学、科学がわかつて居るのに、牧師の言葉で病が癒え、川の水でなほると云ふことは、信じられないのである。

今日の不幸を救ひ、人格を發揮することは、やはり今日に適した方法を用ひなければ救はれないのである。私の言ふ神は、凡ての人の内にあるのである。今日、真理を信じ、光を信ずることが出来るならば、昔と同じ経験を味ふことが出来る確信するのである。

宗教の経験、偉大なる人格の発現、Absolute value の実現は、四圍の境遇、外部の刺激に内より反応する方法である。

今一つは、も一層深い所の経験を味はうに必要な Consciousness は如何なるものか。私の経験から言ふと、それは子どもの時であると思ふ。私の生涯に最も強い動揺を与へ、平和を破つたものは、即ち、母の死である。

今日迄、自分を自覚し、喜びを味はうことは、非常なる苦しみに遇ふたと云ふ事である。非常の衝突、矛盾に出遇ふた

ことである。即ち、多くの事に抵抗したと云ふことである。

人間は誠に自ら矛盾し、小成に安んじ、旧習に捕はれ、無意識状態に甘んぜんとする弱点を持って居る。これに抵抗力を与ふる為に困難、不幸がある。そこで Christ の偉大な人格の發揮され愛の輝ける所は、ゲッセマネの園に祈り、いばらの冠の恥辱にあひ、苦を嘗め、非常なる矛盾、衝突、攻撃を受けた所に、最も深く力を得、深く自覚があらはれ、愛が輝いたのである。我々の宗教はこの困難に戦はなければ、本当の進歩を見、階段に昇る事が出来ないのである。今日我々が是れ迄の習慣を破り、遺伝に動揺を与へ、眠れる女性を醒し、我が国風を刺激して、も一つ根本の宗教の力を發揮しよ一、も一つ大なる力を發揮しよ一、理想を表はさう。桜楓会の目的を達するには、必ず困難がある。それがあって初めて力が出るのである。又、これによって強い自覚を味はう事が出来るのである。此の宗教はむづかしい。之れを達するには奮闘、努力しなければならぬのである。この宗教的意識を發揮するには、むづかしいことがある。それで初めて力が出るので、それに向はなければならぬのである。一方、内より出るには積極に進まなければならぬと云ふのである。

之れを考ふるならば、果して世を救ふに此の宗教を以て出来るかと云ふ考へを、きめることは出来るのである。これに対して具体的にしたいと思うたが、時がないからやめます。

〔中表紙〕

大学部及高等女学校全体の御託
明治四十四年三月二十五日

明治四十四年三月二十五日 終業式並びに修業証書授与式

今日は、第十学年の終業式を兼ねて、高等女学校四年以下の修業証書授与式を挙致しまして、此の学年の終りを告げて、来らんとする第十一学年を迎へるに當って、今年十年の経験を顧みて見、将来の計画を立てよ一、第二の發展をしよ一として居るのであります。平年の春季の休業と、少し今年は趣きを異にして居る。又、せんければなるまいと思ふ。夫れで、つまり丁度一年の終りに於て、一年の仕事の始末をつけまして、そ一して新しい希望を以て、新しい決心を致して新年を迎へると云ふよ一に、此の人類の歴史の一日、或は百年にして居る人もあり、いろいろ有りますが、先づ今日、時勢の有様から考へますれば、十年を一日とし、或は歴史の一年と致しまして、此の年の暮れに於て、此の終りに於てよく考へて、将さに来らんとする新世紀を自分のものになさうと云ふ、其の用意を致すと云ふことは、之れは我々にとって大切なことであると思ふのであります。夫れで其用意を致しますに、私は此の過去十年間に我々は、又我が国家は、如何なる進歩を遂げることが出来たのであるか。即ち、此の十年の間に我国の教育、広い意味に言ふ教育、殊に今日は我々

の最も痛切に感じて居ります女子教育は、十年の間に如何なる実を結ぶことが出来たかと云ふことを考へんければ、此の記念式をする意味がわからない。又、我々の迎へんとする世紀を如何にすべきか、来らんとする發展は如何にすべきかと云ふ、其の問題を決することが出来ないであります。

〔進歩の二義〕

此の進歩と云ふことにつきまして、二つの意義があるかと思ふ。其の一つは、つまり分量の増加と云ふこと、も一つは品質の進歩と云ふことで、其の分量がほんとの意味の進歩、今の學術の詞で言へば進化に、ど一云ふ影響を与へたかと云ふことにならぬと思ふ。つまり英語で言ふと、Quantity の増加と云ふことにならぬと思ふ。先づ、そのよ一な Quantity、分量の増加はど一かと云ふと、此の学校の生徒の数は最初、五百に近かつたと思ふ。高等女学校が二百五十人、大学に二百幾十人、合せて五百人の学生が此の学校に入つて来た。澁澤男爵の如きは大反対で、大きな校舎を建てよど一するか。虎の門の女学校が幾年かよ一つて、七万円の金を使ふても、生徒の数は未だ幾百である。此の女子大学が如何に世間の信用を得ても、店開きをして其の日から意の如くに御客さんが来ると云ふことは不可能である、と言はれ、其の他の評議員の方も、女子教育の門戸を開いた所で到底多数の入学生はあるまいとの説である。そこで五千坪の地面を有し、三百坪の建築を試みた時には、無謀である、大きな校舎を建てよど一するかと云ふ議論であつたが、漸う評議員会を纏めて、原案だけの建築をすることが出来たのであります。然るに、案外にも分量は多かつたのです。先づ二百人も学生があつたならばと思ふ時、五百人近くも一度に入学者があつたと云ふことは、意外なる結果であつたのです。それから年々、段々増加して、800 となり、900 となり、1000 となり、1100 となり、1200 となり、1300 となり、一番多かつたのは 1350 人迄、数があがつたと考へる。今日やはり 1100 名の数を有つて居ることが出来るのです。夫れから其の境遇である所の設備は、ど一云ふ風に發達したかと云ふと、5000 坪の地面が今日は 17000 坪、300 坪の建物が今日は 3000 坪となつて居る。これは、十年間に十倍位大きくなつて居る。これに使ふ金も毎年増加して居る。此の大学が持つて居る財産も、其の時には十二、三万円でありましたが、今日では六十四、五万円。やはり十年間に五十万円と云ふ増加を見ることが出来ました。母校は十年の間に經濟と人口との数の上の増加と云ふものは予期することの出来なかつた程、進歩し發達したと言ふことが出来ると思ふ。無論、この数と云ふものの發達は内部の發展と何等の關係もないよ一であるけれども、やはり内部の發達と相俟つて、内部の進歩に相伴ふて居ると云ふことも言はるゝ。けれども分量の増加は品質の進歩なりと言ふことは出来ないのである。關係はあるけれども、同一事ではない。兎も角も充分とは言へないが、十年間に進まなかつたと言ふことも言へないのである。女子の高等教育を目的として生れました此の本校の分量の進歩は、凡そ主なる点は、そ一云ふ所にありますが、此れに關係のある我が国全般の女子教育の發達はど一であるかと云ふと、是れ亦、數に於ては著しく増加して居ります。高

等女学校の数の如きも、十数から十年間に凡そ二百と云ふ数に増して居る。其の上に、今度文部省で置かれた実科女学校と云ふものは、将さに七十に上らんとして居る。この一年間には多分、百に上るのである。これを合せると、三百になる。これを男子の学校に比ぶれば、数に於て劣って居るけれども、学校の数は約三百を数へることが出来る。学校の数の増加したこと、女学生の数が増加したと云ふ方から見れば、即ち我国女子教育の進歩は、先づ著しきものであると言はねばならぬ。併し乍ら果して、我国の女子教育は進歩して居ると言ふことが出来るか。誠に遅々として進まない、同じ程度に於てくりかへされて居ると言はんければなるまい。其の問題を決するには、即ち、十年間にどれだけ我国の女子教育の品質を高めることが出来たかと云ふことを調べて見なければ、この問題を解決することは出来ぬ。

我が母校は十年間に、是れだけ進めることが出来た。是れ丈け発展することが出来たと云ふことは、決して外形の分量の増加を以て、母校の財産の高を以て、母校の学生の頭の数を以て、母校の設備の整ふて居ることを以て、又地面の広がったことを以て、決して言ふことは出来ぬ。又文部省の試験を通過した者は幾人あった。即ち十年かゝって覚えることが出来た。答へることが出来る、即ち、知って居ることの分量を以て、教育の進歩と言ふことは出来ない。其の知識が如何に学生の品質を進められたか。其の学問が如何に実力を高めたか。この外部の増加の数が、如何にこの内面的の進化を促したかと云ふことを見なければ、其の内面的の進化の価値を見なければ、決してどれだけ進歩したと云ふことは言へないのである。

[近來の女子教育]

然るに、近來女子の教育は甚だ不評判である。昨年、私が北越にいった時も、我が女子大学の価値を論ずる者は少ない。これは風説に過ぎないけれども、地方の高等女学校の識者の間には、いろいろ材料を集めて其の価値を論じて居りますが、其の説をきくと、概して不評判である。又、この頃、関西の方から上京して居る有識者の説に、其の県の高等女学校の教育の結果は甚だ宜しくない。今のよな仕方では教育する位なら、むしろ全廃の方がよいと云ふ極端な議論もあると云ふことであります。それで、今日の説では不評判である。十年の間に分量は増加したけれども、其の品質は余りおもしろくないと云ふ声が聞こえて居る。是れは何故であるか。其の声を以て、内面的の品質を評価することが出来るか。決して出来ない。是れは今、あなた方に説きあかすする必要はない。兎も角も、親達は今日の教育に満足をして居ない。又、学生自身の要求から言つても、これでは満足の出来ないと言ふことは、確かなる事実であります。故に、女子教育に対する今日の輿論を以て、直ちに品質を定める標準にはならないのである。又それが、女子教育の進歩をなしたと云ふ証拠にもならぬのである。これは、大に研究を要すべき問題であると思ひます。そ一云ふ広い問題は、今日私があなた方と論ずるつもりではないが、其の問題に答へるにつきまして、又天下の多くの疑ひを擲いて居る所の人々に対して、我々はこの十

年間の女子教育の結果はど一であるか。

[我が女子教育十年の結果]

十年一日の如く諸君と努力奮闘して、又皆さんも一生懸命にお働きになって、其の働きの報いとして、其の本当の教育をどこ迄、我々は進めることが出来たか。それに対して、私共は返答をしなければならぬ責任がある。あなた方は学芸会をして、答へよ一となさる。併し統計を以て、満足する答へをすることは出来ないであります。今日、高等女学校の御方もまざつて居らるゝ。高等女学校の方も、それについて、やはり皆んなが責任を分担しておいでになる。故に願はくは、全体の方が其の意味をお解しになって、ど一か、この記念式を意味あるよ一に致したい。算盤で数へることの出来る数をあらはすことは、やすいのである。併しながら本当の価値と云ふものは、学風、寮風、校風と云ふよ一なものに存して居る。本当の価値をあらはす、其の本当の命の進歩と云ふものを評定すると云ふことは、決して易いことではない。併し、これは十年間勉め来たことでありますから、多分あなた方に、私の言ふて居る真意はお察しがつくことと思ふ。併し、一番わかりにくいのは、知識の分量が品質の進歩の如く思はれると云ふのは誤解である。今日は、むしろ余り分量を貪り過ぎる、又これを余りに要求せられて、その知識の分量を余り過度にとろ一とする為めに、本当の知力、本当の我々の教育の賜である所の実に必要な所の力、能力、判断力、或は趣味、興味、根本の価値である所の品質の高まり、品質の進むと云ふことは一向わからないで、却つて分量を食つて品質を害して居る、損して居る、圧迫して居ると云ふことには気づかずして、点数を沢山とつたらえら一と思つて居る。これは非常なる誤りである。故に私は、只分量だけでは其の学校の価値はわからない。只知識だけでは、其の人の価値をあらはすことは出来ない。母校が始めから骨を折りましたことは、人格の發揮、品性の進歩であります。即ち、私共の本当の精神的、内面的の進歩が、この十年間にどれだけあらはれたかと云ふこと。私共は婦人として、人類として、我國民として、銘々にどれだけの本當の価値を進めることが出来ましたか。又、其の内面の生命を育つるに必要な校風、私共の呼吸するに必要な所の境遇が如何に進歩、発展したかと云ふことであります。併し、その進歩の尺度として一番大切なことは、若い人の誠実、熱心、向上心である。

[我が國の十年間の教育に於て分量の進みたる割合に品質進まず]

我國の女子教育は分量に於ては進みました。併し昨日、女子高等師範学校長中川君に逢つて、数にあらはれたものを見ましたが、進まうとする向上心は昨年比して、三分の一位減つて居る。一方に、実科学校などにはいらうと云ふものが多くなって、私共の所謂、品質を進めよ一と云ふ方は段々減つて来た。熱心が冷えて来たと言ふことは、我が國の教育が進歩した、高まったと言へないのである。そこで、我が國一般の婦人の教育を考へれば、分量に於ては増加したよ一であるが、品質に於ては、十年間、分量の進んだ割合に品質が進んだかど一かと云ふことを疑はしめるよ一な現象が、大

分多いと思ふ。

[母校教育の品質と分量]

併し、熱望者の数は減ったけれども、其の中に少数の品質は進んで居ると云ふことは、今年的一年生、普通予科によってわかる。故に斯う云ふことについては、容易にはかれないのであります。私は、母校の教育は分量に於ても、品質に於ても進んだものであると言ふことが出来るかと云ふことを考へねばならぬ。之れが十年祭の祭壇に捧ぐべき実である。之れが母校に捧ぐべき結果でありますと言ふことが出来ますかど一か。夫れを最もよく人々にわかるよりに発表する力が必要であると思ふ。私は、これで満足であります、之れは十年の結果としては充分である、と申すことは出来ませんが、又、之れは分量の増加であつて品質の進歩ではない、と言ふことは決して出来んと思ふ。夫れで此の本当の事實は、あなた方銘々の経験に照らして見なければならぬ。併し、近く此の学年末に於て現はれた所のあなた方の至誠、向上心、熱心なる態度によって見ることが出来るのでありますから、是れをよく集中したならば、猶確かなるものを見出すことが出来ると思ふ。そ一して我が国民に、いくら其の衷情を訴へると云ふことも出来んのではあるまいと思ひます。私は、此の学年に於ては文部省の検定試験を首尾よく通過した人があり、卒業論文や高等女学校の成績を見て、其の価値を認めないと思ふならば、まちがひである。併し其の中に、本当でないものも幾分まじつて居ると云ふことも認めざるを得ないのであります。夫れからこの頃、高等女学校に於きましても、教室を清潔にするために、いろいろ心をお用いなさつたことも結果が甚だしいよ一である。

[リチャード氏]

又、アメリカから来ましたリチャード氏の依頼に応じて、銘々の特質を美術にあらはしたものなどによりまして、本校の特質を現したものがまゝある。本校で是れ迄、懸賞に応ずると云ふよ一なことは、曾つて致さなかつたのであります。併し、リチャード氏は尊い使命を帯びて来られた方である。又、日米の関係が、この頃甚だおもしろくない。又、識者の間には、日本国民は信用が出来ないと言ひ、甚だしきは、日本人はお互の間にすら Trust が出来ないから、日本の銀行には支那人を使ふとか、日本国民は動物である、道徳はないと云ふよ一なことをかきたてる。又、是れを信ずる人もあるのである。アメリカの野心家のために、そ一いふことを考へられると、我々国民の爲めにも、国家の爲めにも甚だ不利益である。我々は敢て戦ひを恐れる者ではない。正義の戦ひなら、やるがよい。けれども、そ一云ふ誤解を懐かれて、白人の同盟となり、宗教の同盟となり、日本国民は到底、Assimilate が出来ないと言ふよ一になつてはならぬ。其の間の平和を維持しようと思ふ考へで来られたから、我々は心から歓迎したのである。あなた方が夫れを感じまして子供ながらも、日本にはそ一云ふ女子大学がある、其の高等女学校の子供はこれだけのことが出来る、是れだけの価値がある、これだけの想像力があると云ふことを、余り褒美などには心をかけず、美術のためにおつくしなされた。そこでリチャード氏は非常に

喜んで持つて帰られました。そ一して、そ一云ふことに感じて演説をし、又そ一云ふ考へを以て新聞などにかくから、夫れを読む所の外国人も、いくら日本と云ふものを知ることが出来ると思ふ。又、此所の整理とか掃除など云ふことは、あなた方が自ら責任を以てなさる。この頃、草履をはくことになつたので、奇麗になつた。これは結構なことである。併し草履をはくと云ふことが、果して一番よいことであるか、ど一であるか。丁度あなた方が懸賞に応じて美術に現はしたよ一に、そ一云ふことを皆で考へて、一層いふことを見出したら、それが教育の価値である。序に申しますが、掃除をすると云ふことは、秩序を保ち、清潔を尊ぶと云ふことによつて、其の人の品性が高いか卑しいか、ほんとの一の教育をして居るかど一かと云ふことによつて、わかるのである。この間、大学部の方が学芸会をなさつた。これについては批評もあるけれども、大体に於ては、よく出来たと申しておきました。幾ら背景を奇麗にしても、すみにはごみがある。オルガンの上に塵が積つて居るよ一では、だめである。これは大に事務所の責任である。当事者の責任を問はねばならぬけれども、誰れが当事者である、此所は自分が責任ではないと云ふ風ではいけない。それで記念式などにも一番大切なことは、清潔、整頓である。そ一云ふ風に、この学校の気品があらはれるのであるから、小さいこと、陰の所にも注意をしなければならぬ。

[共同によつて品質をあらはすことが大切なり]

大学部の方に、これだけ品質が加はつたと認める所もありますが、夫れは明日の最後に面会する時があるから、今日は申しません。銘々の共同によつて品質をあらはすことが必要だろ一と思ひます。あなた方が支配なさる式、学芸会、又お客のとりなし、文芸会、運動会など、いろいろに其の価値があらはれることと思ひます。何かにつけて我々の価値と云ふものがあらはれるから、余程よく注意をしなければならぬ。これが又、批評の種ともなるのであります。

[文科に対する世間の誤解]

殊に暫らく募集を見合せました文科に対して世間では、文科と云ふものは全廃したかのよ一に思つて居る。朝日新聞にも先頃かいて居りましたが、この頃、又或る雑誌にも書いて居る。つまり一括すれば、女子大学の悲境と云ふことである。併し、検定試験を通過したものが少いと云ふことで、文科の価値をきめられませうか。其の検定試験に応ぜらるゝ者は、其の級の優等生でなければならぬ。文科の受験者は、先づ是れならばと思ふた者は、試験委員達の説によれば、充分かなふて居る。夫れ以上に受けて居るのである。世間で言ふよ一に、決して劣つたものではない。故に私は、文学部が他の部に比べて力が劣つて居るとは言はれないと思ふ。又、文学部はお転婆があつて、極端な思想を持つて仕方がないから、もて余して居つた所を、いよいよ今度絶縁すると云ふよ一にかきたてゝ居る。これも、とるに足らないことである。それから、この文学部と云ふものは、余り重味がないと云ふよ一に思つて居るが、其の殿後として今、予科からはいった十数名、及び今年的一年生は、大に実力を持つて居るのである。故に、

其の再興の責任を持って居る文科は、其の特徴を發揮することが出来るであらう。又、確かに再興することが出来るものと信ずるのであります。悲境に於て始めて人間は出来るのである。困難にあふて必らず自覚が出来るのである。文学部は、これ迄の卒業生、及び今度おはいりになった若いお方によって、確かに力を發揮するであらう。確かに再興することが出来るであらうと云ふことを信ずるのである。故に、十年期に於て、文学部の品質はどこ迄進むことが出来たかと云ふことの現はれんことを切に希望致します。この我が国女子教育の反動時代に於て、あなた方の品質を發揮することが最も大切であります。故に、この休み中に止まるものも、帰るものも、充分よく打ち合せをなさって、この十年の価値を、ど一かあなた方が現はして下さい。のみならず、第一回生より桜楓会も協同して、充分精神を發揮なさって、あなた方が協同なさって第二の発展を期する動機となつて下さることを、私は切に希望するのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十四年三月二十六日

明治四十四年三月二十六日

大学部全体の為に

今日は、此の前の水曜日に大学部の方で致しました桜楓会に関する纏めと、其の前に残つて居りました本校の教育と宗教との関係について申しかけまして、時間が来た為に中止致しました、其の結びをつけねばならぬ。又、高等女学校五年生に対して深い問題を出しまして、其の答案が出ました。夫れを纏めて御報告しておくことが必要であると思ひます。

そして今年は、十年の記念式と卒業式とを一緒に致しまするので、簡短な儀式を行ふ外、殆んど時がない。故に第八回生にお別れするに當つて、申しておきたい事を申したいと思ひまして、再び今日会したのであります。

そ一云ふ大切な会に、此の学校の教育学部の第一回生の時から、卒業生に逢うてお感じを述べて戴く為に、森村さんに毎年、何時かおいでを願つて居りましたが、此の頃の御多忙なをりに御列席下さつたことは、一同の深く感謝する所であります。

実は今朝、此の会のあることを電話で申して直ぐ、自動車でお出になつたのであるが、日夜私共と一心同体の様にお返し下さつて、あなた方卒業生の事を、少しもお忘れになつたことはないのであります。夫れで私共は決して、よその方とは考へません。極くうちの方と思つて居りますから、先づ始めに、大学部の方で研究して居りました宗教と本校の教育主義と云ふことから始めまして、次に高等女学校に出しました問題の事、最後に、あなた方とお別れの詞を申したいと思ひます。

高等女学校は漸く中等程度の教育を終つただけであるから、平生の実践倫理の続きを聞いて居るでもなく、わかりにくいと思ひますが、よく注意して下されば大体はわかると思ふ。又、私も出来るだけ、あなた方の程度に合はせて進みたいと考へます。

此の間、大抵終局の階段に入りかけたのである。つゞまる処は、本校の教育主義と修養の目的と、私共の意味で使つて居ります所の詞で言へば、宗教の目的である。桜楓会の目的と、其の根本に於ては一つになつて居るものである。其の一番の目的となつて居る共通の目的と云ふものは、大学部にはわかつて居る。又、教育と修養、又は学問とは一致して、其の間に矛盾、衝突はないと云ふことになつたのである。之れについては、全体に於て異存はありませんでした。夫れで残る問題は、此の学校に於て行つて居る其の精神を育て、其の他に行はれて居る宗派的の Christ 教、又は仏教、そ一云ふ信仰とど一云ふ様に一致して行けるものであるか。又其の形式をはなれ、其の教義をはなれまして、其の真髓に一致する所の深い経験の出来るものであるか。其の深い味はひを、日常生活に於て私共は経験することが出来るかと云ふ様な問題も大分研究しましたが、も一一つ具体的に行うて行く問題が残つて居りますから、今日は宗教問題と云ふ処から起こして行くことが順序であらうと考へます。今日は高等女学校と云ふ聴衆が加はつたから、此の間申した要点を申すことが必要であります。

[宗教の階段]

宗教には、いろいろある。極、野蛮時代には、迷信と云ふ宗教もある。其の次に発達したのは種族的のもので、我が国で言ふ保護神 Tutelary god と云ふものもあり、又 Life、Genius 等云ふ形而学上の宗教もある。夫れから段々進んで来て、神秘的宗教、道徳的宗教と、いろいろ階段があります。

此の学校で言ふ宗教は世界のあらゆる宗教の真髓、あらゆる宗教の根本の生命で、木に竹をつぎ合せたよ一なもの、或は思弁的、哲学的のもの、抽象的のものでは、日常生活に経験して行くとか、實際行つて行くことは六かしいではあるまいかとも考へられる。之れは、何と答へればよいのですか。Life の四号に Gladstone の詞も引いておきましたが、宗教は経験である。

其の経験と云ふことは、ど一云ふ意味でありますか。私共の経験と云ふものは、ほんとの永久の本質は何でありますか。Absolute value。其の要素は Logical value 論理的価値、科学的価値、哲学的価値。言ひかへれば、学問と云ふこと。この学問の知識が得たい、真理がわかりたい、此の至誠と云ふことは、人間の欲望である。つまり此の価値と云ふことが、根本の要素である。

[経験はまことを知りたいと云ふことである]

今迄、経験と言へば、行ひと解せられて居つたが、こゝで申すのは、まことを知りたいと云ふことである。私共の感情とか、情操とか、行ひとか云ふものから来たものである。其の原因は行ひである。又其の結果は、必ず行ひになるのである。そ一云ふものでなければならぬ。人間のほんとの一に追求

してやまない処の好奇心が、経験となるのである。其の Value と云ふものが論理的になると、一番の要素である。其の次が Ethical value、Religious value、Aesthetic value、Progressive value、之れが即ち向上心。Religious value、之れが即ち宗教的生命で、之れが即ち Absolute value である。

一寸、高等女学校の方に聞きますが、卒業の前にあなた方は国へ帰る人も、大学へ入る方も、何かの職業に就く人もありますが、併し将来、何をしたいと云ふことが希望でありましょか。是れまで目的とか希望とか志とか云ふことについて、お考へになったであらう。又、修身の方でお聞きになったであらうと思ひますが、其の目的と云ふものが人間の価値、又教育の目的である。其の目的のない人はよく言ひますが、此の世は味気ないものである。生きがひのないものである。いっそ死んだ方がましであると言つて、華嚴の滝へ行くか、然らざれば、しほしほと暮らして居る人もあります。一向意義を持たない、目的を持たない人、斯う云ふ人を厭世家とか悲観の人とか申します。そ一云ふ人は、ほんとの生活をして居ない人、人間の内部の生活を見出だして居ない人である。又、天道是非邪邪と言ふ。天道が非なるものならば、望みを持って本気に物をするには出来ぬ様になって来るのである。人間の本質、実質と云ふものは何であるかと云ふに、価値である。論理的、宗教的、審美的、進歩的等、其の他種々なる価値の総てが含まれて居る、其の価値のわかつかへからざるものを生命と言ふ。其のほんとの Absolute value を発現すると云ふことが宗教であると云ふ意味を、此の間、大学部の方で研究したのであります。

[宗教の経験とは如何なることか]

是れは、其の人間の総ての経験を統一して、人生の一番深い経験について説明をしたのでありますが、其の価値を表して行くと云ふことを昔から一番深く経験致しましたのが、宗教であります。其の宗教の経験とは、ど一云ふことであるか。其の経験を私共の日常生活にすると、ど一云ふことであるか。斯う申した時に、私共の宗教、私共の神と云ふものは、ど一云ふものであるかと云ふと、昔は之れが外にあって、外から上から貰うことであつたが、今日では、之れは内在的のものであって、其の根は銘々の内にあると云ふことである。そ一して個人と云ふものも、前には絶対的のもので、他と離れたものである。我が経験、我が魂と云ふものは、私共の神と離れ、親兄弟と離れ、絶対的独立の出来るものと考へて居た。併しそ一云ふものならば、宗教的経験の起る筈はない。そ一ではなくして、私共と神の間には同じ本質のものがある。銘々の内にあること、及び其の力はど一して出来るかと云ふことを、此の前に申したのであります。

之れを、も一つ宗教的に発展の出来る様に致したい。昨日申した様に、分量的増加のみならず品質的の進歩がある。我々は確かに十年の経験を持って居る。之れについては、母校に対して非常に感謝すると云ふことがあるけれども、悉く満足することの出来る程に品質の進歩が出来たかと云ふと、未だ未だ不充分であるのです。

[Genius について]

此の問題を説く為に Life の四号に、いろいろの材料を集めておきました。此の間説きました内面の事は略ぼわかつて居るのであるけれども、我々人間の価値を發揚するには、いろいろお調べにならねばならぬ。即ち、此に書いたことを申すならば、精神的生活、即ち Absolute value 究極価値の發現、其の結果が人格或は品性、又他の詞で言へば、徳となる。其の Absolute value が万世に傑出したものをさして、私共は偉人と言ふ。又、之れをさして聖人又は君子と言ふのである。英語で言へば Genius、又は Jimnee と言ふ。此の Genius と云ふのは、數世に一人か二人よりは出ないものである。歴史の中に稀に現れるものをさして Genius、或は偉人と言ふ。私が此に申したのは其の意味も含んで居るけれども、大小、男女の區別なく、総ての人間の中にある処の究極価値の發現、即ち人格を Genius と申して居る。故に、天賦性と天稟とか言ふ方が、も少し至当であるかも知れぬ。其の Genius を研究すると云ふことが、一番私共の宗教的経験を研究するに必要なのである。此の Genius を研究するのに両方面から進まねばならぬ。即ち、外面的方面と内面的方面との両方があるのである。内面的要素が、即ち天賦性である。私が前に申した様に、Genius、Tutorial God、或は(空白)Godなどは、みな内面的の要素である。

Genius と云ふものは、其の人を護る守護神である。又、生れた時から其の人と生涯共に住んで居る処の靈である。其の靈が其の人の運命をきめ、又其の人の人格を拵へ、其の人の目的を定めさせる。最後に於て、其の靈が此の人を他の世界に導いて行くのである。故に、其の人が生れ落ちるや否や、命を終る迄、始終ついて居る。Genius と云ふ神様は二つの種類があつて、善いものと、悪いとある。人間が立派になるのは Good genius であるが、悪い行ひをしたり、罪虐に弄ばれたり、煩悶に陥つたり、心配と絶望に陥るのは、悪い Genius が誘ふことによる。故に、人間には二人格あつて、其の間に常に矛盾、衝突があつて、争ふのである。故に善い Genius が勝つとよいけれども、悪い方が勝つと、段々其の人は墮落するのであると、斯う昔の人は考へて居た。之れを神話的に、譬喩的に考へて見るとよい。Genius は他からつけるのではない。教育して拵へるのではない。生れた時からあるのである。母が生んだ、社会が拵へた。大きく言ふと、神が拵へたものである。殊に我々日本人は、三千年の歴史が生んだものである。之れが、我々の神の本質を具へて居る所以である。又 Genius と云ふことは、之れを Nation に用ひます。又、時代の精神に用ひます。其の時、勢力を占めて居る輿論、主義、風俗、法律、或は制度である。此の意味にも Genius と云ふ字を使ふて居るのである。又 Genius と云ふ詞は、前に申した偉人と云ふことにも使ふのみならず、數世の間に稀に出る所の大宗教家、大事業家、大文学者、大哲學家、先覚者にも使ふのである。

[Genius と云ふ詞の意味に三つあり]

つまり Genius と云ふ詞は、三つの意味がある。我々凡人にもある処のものと、時代の精神を現したものと、數世の間に

稀に現はるゝ所のものと、斯う三種類あるのである。

小Genius、大Genius、又は善Genius、悪Geniusと云ふものも、一つは内面的のもので、遺伝的に我々が親から受けついで居る所の種子がGeniusである。

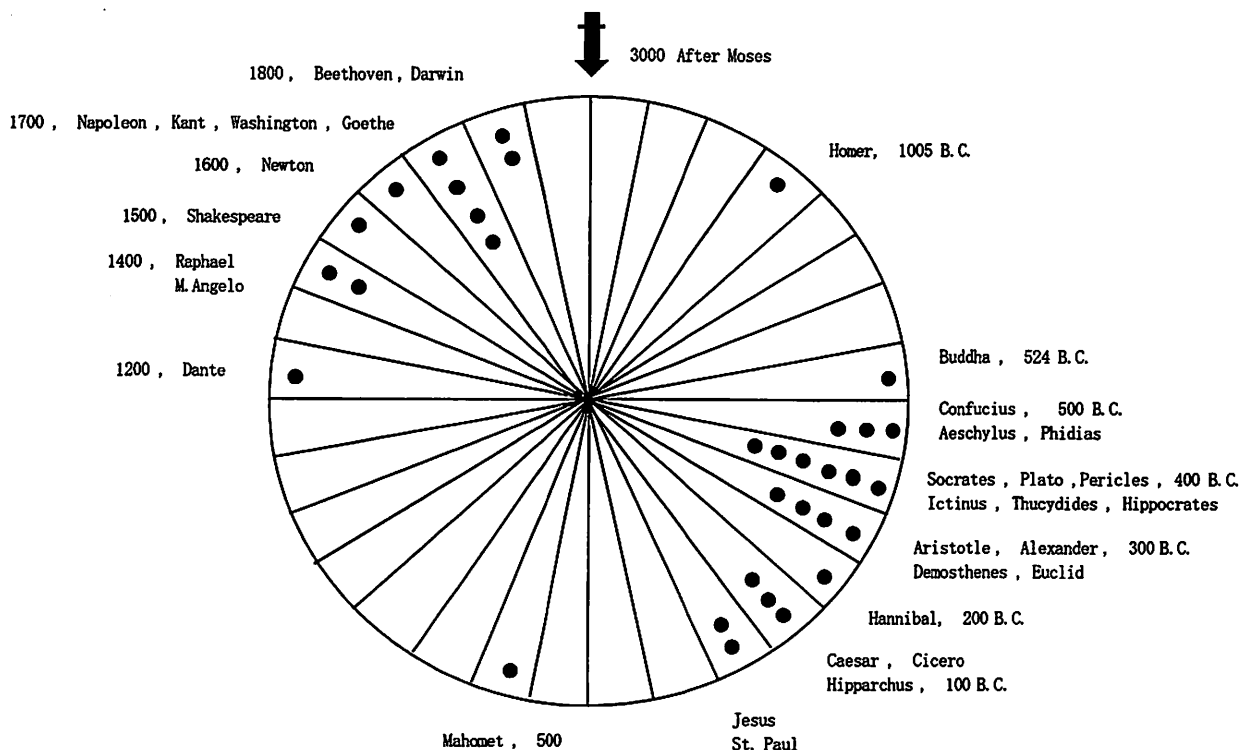
我々が宗教を信じなければ満足が出来ぬと云ふ深い願望、深い満足、深い興味は、Geniusである。之れを殺さうとしても、抑へよーとしても出来ないで、上に表はれよーとして居るものが、我々人生の内面的本質である。併し此のGeniusの種は地味宜しきを得んければ、夫れから、適当に水を与へ、熱と光りとを与へんければならぬ様に、外面的の事情、原因が備はらねば出来ないのである。つまり我々のGeniusは、又数代に時々現れるGeniusは、複雑な広い深い関係に由って出来るものである。つまり此のGeniusは我々の生活、活動する処の外部の関係宜しきを得て、即ち順応、適合と云ふ様な事が出来ねばならぬ。故に、GeniusはGenius自身が独立して拵へたものではなく、其の時代が拵へたもの、Geniusを生んだ社会が拵へたのである。其のGeniusを生ずる四圍の境遇、親がなければ、どんなことがあつても一人では生れないのである。之れがやはり、極端なる個人主義と、極端なる社会主義とが衝突する所以である。けれども今日では、極端なる個人主義、極端なる社会主義は、どーしても満足なる解決を下すことが出来ぬ。

人文学者、心理学者、社会学者などが研究して、今日の宗

教問題をも一つ満足することの出来る様にするには、心理学を研究して、漸く満足なる解決をすることが出来るよーになりました。さてGeniusについて、二つの説がある。其の一つは、やはり極端なる個人主義に傾いた方で、つまりGeniusと云ふものは、之れは天の奇蹟に由って出来たものである。天国の様な処から、或は神の国から、此の世界へ特別に降誕したものである。夫れで昔からGeniusの生れたことは、当り前の人間が生れたよーな道に由って居らない。必ず或る奇蹟によつて出来て居るのであります。

今日の根拠ある説によれば、Representative theory 代表的学説から言へば、Geniusは代表的の産物で、社会と云ふ親が生んだ子供であると云ふことになる。此の人は、三千三百年間に現れた偉人を三十三人、即ち一世紀に一人づつ挙げて、それは悉く社会が生んだと云ふことを証明してある。AthensにSocrates、Demosthenesのよーな偉人が生れた。其の前にAthens人は弁論と論証を好んだ。Athensが美を礼拝した。故に、Ictinus、Parthenon、Phidiasを生み、又、其の後の世紀に於て、Athensは知識を渴望し、真理を熱愛した。故にAristotle、Platoを出だし、Macedoniaは戦心を熱愛してAlexanderが出で、其の他、其の前後の時代の事柄を例証してありますが、其の材料に余程面白い事柄があるのです。

図は次の頁にあり。



[図の説明]

これは、つまり 3300 年。こゝは Moses が生れて三千年後である。夫れから後を 3300 年にわけて、其の後の時代が偉人を生じた結論である。B. C. 1005 年には Homer が出ました。B. C. 524 年に印度に Buddha が生れ、其の次に Confucius、Aeschylus、Phidias が生れ、其の次には Greece に六偉人が生れた。即ち Socrates、Plato、Pericles、Ictinus、Thucydides、Hippocrates で、次には四人、Aristotle、Alexander、Euclid、Demosthenes。次は Hannibal、Christ の生れる前に Caesar、Cicero、Hipparchus。其の次に、Jesus Christ、St. Paul。Christ 後五百年に Mahomet、千二百年に Italy に Dante、千四百年には Raphael、M. Angelo (* 注)、千五百年に Shakespeare、千六百年に Newton、千七百年に Washington、Napoleon、Kant、Goethe、十八、十九両世紀にかけて Beethoven、Darwin が出ました。之れを御覧になると、Moses から千年とぎれて一人でき、又ぐらぐらと出来て居る。之れが、偉人は時代の産物であると云ふことを証明して居ると共に、Rhythm の様になって居ることがわかる。そこで時代の精神に Reason があって、此には非常に時代の精神が発揮し、中頃衰へて、又盛んになって居る。之れを研究した人の証拠をあげてある所を読むと大変面白い。偉人の出たことを見ると、確に偉人を生むだけの社会があります。

(* 注: Michelangelo の略表記と思われる)

[Genius に三種あり]

Genius をわけると三種になって、

- (1) 審美的価値を実現した人。即ち美術家、文学者、彫刻家、そ一云ふ様な審美的価値、大きな調和統一、即ち美を現した人。
- (2) 心理的価値を表した所の哲学者、科学家、発明家と云ふよ一な Genius である。
- (3) は即ち人類の安康を進め、世界文明を導いた所の先覚者、指導者、改革者と云ふよ一な種類に属する。其の中には宗教家、政治家、教育家、そ一云ふ種類の偉人を分類するのであります。

夫れから三世紀と云ふ僅かな時に於て、印度に一人、支那大陸に一人、其の他は四、五人と云ふ比例であるのに、此の Athens、Greece と云ふ様な小さな半島に十四人と云ふ者を生み出したことは、実に不思議である。之れはど一云ふ訳であるかと云ふことを研究すべき、非常に価値がある。

我々の教育は如何にすべきものであるか。我々の信仰、並びに我々の努力して居ることは無益であるかど一かど云ふことを考へねばならぬ。

[偉人は社会の産物である]

偉人は社会の産物である。其の時代の精神が産み、其の四囲の事情が生んだと云ふことに由つて、今後の社会、今後の教育は如何にすべきであるかと云ふことがわかるのである。

[Hegel の言]

此に小さい字で、学者がいろいろ論証したものがあつて、之れをあなた方に申すならば、歴史、哲学を起した Hegel は、
"Greece is the focus of light in history." Greece は

歴史に於て光りの中心である、と云つて居ります。又、Athens は美育の光りである。美術の母である。Athens は Novel の母であると言つて居ります。

[Lecky の言]

又、欧州道徳の歴史を書きました Lecky は、

"It is one of the anomalies of history, within the narrow limits and scanty population of Greece, arose men who in almost every form of genius, philosophy, epic, dramatic, and lyric poetry, eloquence, statesmanship, sculpture, painting, probably also in music, attained almost or altogether, the highest limits of human perfection."

此の Greece と云ふ誠に狭い範囲、誠に僅なる人口を有して居る処の Greek は、此の歴史の舞台に於て、世界の古今に互つて総ての偉人の代表者を産出致しました。即ち哲学、史詩、劇曲、詩、能弁、彫刻、絵画等、殆んど凡ての代表的偉人を出し、又完美の一番高い価値を発揮して居る、と云ふことを言つて居る。Eugenic と云ふ最も新しい学問を組み立てた。即ち、人間の種類を高める処の学問を組み立て、世界に貢献した所のガルトンの Hereditary genius と云ふ中に、Greek の文明の程度、其の Intelligent の進歩の程度は、今の世界の最高点と比べると二度程 Greek の進歩の方が高かつた。其の次に、Greek の制度、宗教、徳育、体育が非常に高かつた。斯くの如き Greek の社会が此の如き偉人を出した。故に、之れを代表的学説と云ふ、此に猶問ひがある。Greek は斯くの如き偉人を生じて、夫れを迫害し、Hebraic の宗教が Christ を生んで、其の親たる Hebraic 人が Christ を殺したのは、ど一云ふ訳であるかと云ふに、斯う云ふ現象が生物学にあるのである。

動物の子を愛することは非常なものであるが、其の子を親が食ふことがある。之れは一種の変態であるが、兎も角も偉人は社会が生んだものである。そして社会が其の偉人に由つて進んで行くことは、Parthenon と云ふ様な美術を研究しなければならぬ。併し其の前後に起りました University の Hall 及び Theater、Consort、斯う云ふものを研究して見まして、ど一して Greek が斯くの如き偉人を出したかと云ふことが、始めて首肯せらるゝのであります。

[偉人は社会、団体によつて大成せらる]

B. C. 469 年のある日、Athens に集まつた大 Consort があつた。其の会に集つた偉人があつた。其の人達は互に肩を比べることの出来る人で、それが八人も打ち揃ふて出席したと云ふ。之れを以ても、ど一して Greek が栄えたかと云ふことが、あなた方にわかると思ふ。私が、ど一云ふ訳で Point Roman を紹介したか。Greek が如何にして最も高い、最も強い、最も大きい価値を発したかと云うと、偉人は決して孤独生活に由つて出来るものではない。社会、団体に由つて大成せらるるものであると云ふことを申さんが為であります。

あなた方は銘々 Genius を具へて居ると云ふことは信ずるが、之れを如何にして育つべきであらうか。此の桜楓会に於て、此の中に於て私共が渴望して居る処の関係が出来なければ、私共が望む処の Genius を生むことは出来ないと思ふ。即

ち、私共の飢え渴く如く望む処の、ほんとの命を得ることは出来ないと思ふのであります。

ど一か皆さん、今日申した事の真意をおとり下さって、銘々其の命を得ることに、お勉めなさることを希望します。

○

今、森村さんから、あなた方の力には余るであらうと思ふ様な、重い責任を御要求になりました。私も、あなた方の力で出来るである一かと云ふ疑ひを起しました。六かしい希望をあなた方に望むのであります。然るにあなた方は、其の真意を真面目にお聞きになり、堅い決心を以て其の希望にお答へになりましたことは、私共言ふ可からざる感じを持って居るのであります。併し、今あなた方はたとへ微力であっても、亦今後如何なる困難に遇ふとも、此の学校で受けた精神は決して失はない、変ることはないと言はれた其の勇氣は、実に私の愉快に感ずる所であります。併し、今迄の我が国の教育と、あなた方のおいでにならねばならぬ境遇とを考へますと、又心配な点もなきにしもあらずである。又、あなた方の力が乏しいと云ふばかりではなくして、又あなた方が微力であると云ふ遺傳的、又社会の暗示が、頭に深く侵入して居るのみならず、又あなた方が社会から嘲弄せらるる、冷笑せらるる時には、今あなた方が仰った様な、決心なさった様なことは無謀であると言はるるのである。私は三十年来、教育に従事して居りますが、真面目に聞いてくれる人はないのである。もし力を尽すならば、男子の教育をするがよい。男子が出来たならば、思ふ様に動かすことが出来る。幾ら骨を折った所で、高の知れた女である。其の女を教育しても何ばかりのことが出来よ一か。之れは一笑の価であると云ふ人が多い。ど一かも——階段上りたいと云って進んで来るが、到底其の以上に進む、あなた方の力を発展させることは、我が国の事情が許さないと云ふことも確に事実であります。

[Goethe の説]

夫れから社会学者の中にも、婦人の発展と云ふことは随分六かしいと感じて居る人が多い。又、児童心理、哲学、人類学等を研究して居らるる Stanley Hall の如き学者は、人間の文明の頂上にあるものは婦人である。今後、人間以上の階段に進化する根を持ち、種を包有して居るものは婦人であると言ひ、Goethe の説によれば、現今、欧米の文明の階段は Greek 人が持へたものよりも、未だ二度以下に居る。其所迄行くには、も一二度迄行かねば達せられないのである。けれども、Stanley Hall の言つた Superhuman 人間以上の頂上に上って居るものは、婦人である。この婦人から、今日の人類をも一階段、今の人間以上に進めることが出来ると言つて居る。之れには深い真理が含んで居ると思ふのです。私共が今の男子に六かしいと思ふこと、京都大学の総長が不可能であると云ふことを、あなた方の真心によって、あなた方を進めることに由つて成し遂げよ一と云ふことを希望して居り、又其の能力を信仰して居るのである。成る程、人が言ふ様に、あなた方の信仰が男子の大学に出来たならば、国家を動かすでありましょ一。併し之れは、我が国婦人でなければ到底望む可

からざることである。私は斯う信じて十年間、努力致しました。あなた方に由つて出来るであらう、又あなた方を作る処の境遇が出来ねばならぬと思つて、今日迄奮闘して参りましたが、其の境遇は与へて居らるるのであります。そこで今あなた方が得て居らるる処の四圍の境遇と云ふものも、容易に外に於ては得られないものであるのみならず、Stanley Hall の言ふ Genius、所謂 Superhuman に至る処の種を持って居るものであるから、今日此の別れに於てお受けになつた種は、今後あなた方の働きに由つて出来ないことはないと思ふ。

今日は、あなた方が其の重大なる責任に対して堅い決心を表して下さつたことは、私は誠に喜びに堪へぬ処であります。森村さんも、同感にお思ひになるであらうと思ひます。そして高等女学校四年、大学部二年以下が其の精神を受け継がうとなさつた意気込みは、無言の中に現れたのであります。終りに、あなた方のおきめになつた唱歌を唱うて、閉会致しますよ一。

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

明治四十三年度ノ部

2015年10月31日発行

編集・制作

加藤きよみ・山本文子
(日本女子大学成瀬記念館)

発行

日本女子大学成瀬記念館

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

印刷

開成出版株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-26-14
